

2021年度

星槎道都大学

授業計画（シラバス）



目 次

1104001	北海道誌 (S) 渡部 斎 3 Q	・ ・ ・	1
5101102	ソーシャルワークの基盤と専門職 (S) 飯浜 浩幸 1 Q	・ ・ ・	3
5102100	ソーシャルワークの基盤と専門職 (専門) 飯浜 浩幸 2 Q	・ ・ ・	5
5103100	社会保障 大倉 司 3 Q	・ ・ ・	7
5104100	社会保障 大倉 司 4 Q	・ ・ ・	9
5105100	社会学と社会システム 松下 守邦 3 Q	・ ・ ・	11
5106100	心理学と心理的支援 吉澤 英里 4 Q	・ ・ ・	13
5107000	低所得者に対する支援と生活保護制度 大倉 司 1 Q	・ ・ ・	15
5108000	権利擁護と成年後見制度 大倉 司 2 Q	・ ・ ・	17
5109000	人体の構造と機能及び疾病 中村 則子 4 Q	・ ・ ・	19
5110000	児童・家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度 飯浜 浩幸 3 Q	・ ・ ・	21
5110100	児童・家庭福祉 飯浜 浩幸 3 Q	・ ・ ・	23
5111000	高齢者に対する支援と介護保険制度 櫻井 美帆子 2 Q	・ ・ ・	25
5112000	高齢者に対する支援と介護保険制度 櫻井 美帆子 4 Q	・ ・ ・	27
5113000	保健医療サービス 中村 則子 1 Q	・ ・ ・	29
5114000	障害者に対する支援と障害者自立支援制度 畠山 明子 1 Q	・ ・ ・	31
5115000	社会調査の基礎 杉本 大輔 4 Q	・ ・ ・	33
5116002	福祉行財政と福祉計画 (S) 小早川 俊哉 1 Q	・ ・ ・	35
5117000	福祉サービスの組織と経営 大島 康雄 1 Q	・ ・ ・	37
5118000	就労支援サービス 畠山 明子 2 Q	・ ・ ・	39
5119000	更生保護制度 大倉 司 2 Q	・ ・ ・	41
7004300	社会福祉の原理と政策 小早川 俊哉 1 Q	・ ・ ・	43
7004400	社会福祉の原理と政策 小早川 俊哉 2 Q	・ ・ ・	45
7006002	相談援助の理論と方法 (S) 畠山 明子 1 Q	・ ・ ・	47
7006100	ソーシャルワークの理論と方法 畠山 明子 1 Q	・ ・ ・	49
7007100	ソーシャルワークの理論と方法 畠山 明子 3 Q	・ ・ ・	51
7008002	相談援助の理論と方法 (S) 畠山 明子 3 Q	・ ・ ・	53
7012200	ソーシャルワーク演習 上原 正希 1 Q	・ ・ ・	55
7014002	相談援助の理論と方法 (S) 大島 康雄 1 Q	・ ・ ・	57
7015002	相談援助の理論と方法 (S) 大島 康雄 3 Q	・ ・ ・	59
7020002	地域福祉の理論と方法 (S) 上原 正希 1 Q	・ ・ ・	61
7021100	現代の精神保健の課題と支援 佐々木 智城 2 Q	・ ・ ・	63
7022002	地域福祉の理論と方法 (S) 上原 正希 4 Q	・ ・ ・	65
7023100	精神保健福祉の原理 西野 克俊 3 Q	・ ・ ・	67
7037000	発達心理学 佐々木 智城 1 Q	・ ・ ・	69
7038000	発達心理学 佐々木 智城 3 Q	・ ・ ・	71
7041000	保育原理 吉江 幸子 1 Q	・ ・ ・	73
7043000	保育者論 吉江 幸子 2 Q	・ ・ ・	75
7044000	精神保健福祉の理論と相談援助の展開 (再) 西野 克俊 3 Q	・ ・ ・	77
7047000	精神保健福祉の理論と相談援助の展開 西野 克俊 3 Q	・ ・ ・	79
7049000	精神保健福祉に関する制度とサービス (再) 大島 康雄 4 Q	・ ・ ・	81
7052002	生涯学習概論 (S再) 藤根 収 1 Q	・ ・ ・	83
7053002	生涯学習概論 (S再) 藤根 収 3 Q	・ ・ ・	85
7055000	特別支援教育総論 堀川 厚志 1 Q	・ ・ ・	87
7056000	肢体不自由者の心理・生理・病理 坂上 俊樹 1 Q	・ ・ ・	89
7058000	知的障害者の心理・生理・病理 堀川 厚志 3 Q	・ ・ ・	91
7059000	肢体不自由教育 坂上 俊樹 3 Q	・ ・ ・	93
7061000	聴覚障害教育総論 荒木 広式 3 Q	・ ・ ・	95
7062000	視覚障害教育総論 酒井 宏三 1 Q	・ ・ ・	97
7064000	相談援助演習 杉本 大輔 1 Q	・ ・ ・	99
7066000	相談援助演習 杉本 大輔 3 Q	・ ・ ・	101
7067000	相談援助実習指導 上原 正希 1 Q	・ ・ ・	103
7068000	相談援助実習指導 上原 正希 3 Q	・ ・ ・	105
7074100	心理学基礎実験 吉澤 英里 3 Q	・ ・ ・	107
7074200	心理学基礎実験 吉澤 英里 1 Q	・ ・ ・	109
7075000	心理学研究法 吉澤 英里 2 Q	・ ・ ・	111
7076001	精神保健福祉相談援助の基盤 (再) 西野 克俊 2 Q	・ ・ ・	113
7077000	精神保健福祉に関する制度とサービス 大島 康雄 1 Q	・ ・ ・	115
7079000	精神保健の課題と支援 佐々木 智城 2 Q	・ ・ ・	117
7081000	精神保健の課題と支援 佐々木 智城 3 Q	・ ・ ・	119
7083000	精神障害者の生活支援システム 大島 康雄 4 Q	・ ・ ・	121
7085000	保育内容総論 佐藤 慶知 3 Q	・ ・ ・	123
7096000	自然地理学 鈴木 正章 前期集中	・ ・ ・	125
7098000	自然地理学 鈴木 正章 後期集中	・ ・ ・	127
7100000	地誌 渡部 斎 2 Q	・ ・ ・	129
7102000	肢体不自由教育 坂上 俊樹 4 Q	・ ・ ・	131
7103000	知的障害教育 藤根 収 2 Q	・ ・ ・	133
7104000	病弱者の心理・生理・病理 高橋 健剛 3 Q	・ ・ ・	135
7105002	民法 (S) 大倉 司 4 Q	・ ・ ・	137
7106000	相談援助実習指導 杉本 大輔 前期	・ ・ ・	139
7108000	相談援助実習指導 杉本 大輔 後期	・ ・ ・	141
7110000	相談援助実習 上原 正希 後期集中	・ ・ ・	143
7116000	精神保健福祉援助演習 西野 克俊 前期	・ ・ ・	145
7118000	精神保健福祉援助演習 大島 康雄 前期	・ ・ ・	147
7120000	精神保健福祉援助実習指導 西野 克俊 後期	・ ・ ・	149

7121000	社会心理学	松下 守邦	4 Q	...	151
7122000	臨床心理学	佐々木 智城	1 Q	...	153
7124000	精神保健福祉の理論と相談援助の展開	西野 克俊	1 Q	...	155
7124002	精神保健福祉の理論と相談援助の展開	(再履修) 西野 克俊	後期集中	...	157
7125000	心理学実験法	吉澤 英里	2 Q	...	159
7127000	精神保健福祉の理論と相談援助の展開	西野 克俊	2 Q	...	161
7130000	精神保健福祉援助実習	西野 克俊	後期集中	...	163
7132000	子どもの食と栄養	湯浅 頼佳	2 Q	...	165
7137000	障害児保育	坂上 俊樹	1 Q	...	167
7140000	保育実習	吉江 幸子	後期集中	...	169
7141000	保育実習指導	吉江 幸子	通年	...	171
7142000	障害児保育	坂上 俊樹	4 Q	...	173
7143002	人文地理学 (S)	渡部 斎	1 Q	...	175
7144002	人文地理学 (S)	渡部 斎	3 Q	...	177
7145000	知的障害教育	藤根 収	4 Q	...	179
7146000	病弱教育	高橋 健剛	2 Q	...	181
7148002	特別支援教育実習(事前指導)	藤根 収	前期	...	183
7152002	加パワグ論(S)	佐々木 智城	1 Q	...	185
7154001	相談援助演習	大島 康雄	後期集中	...	187
7154002	相談援助演習(保育)	飯浜 浩幸	後期集中	...	189
7158000	発達障害等教育総論	堀川 厚志	2 Q	...	191
7160000	相談援助実習	上原 正希	後期集中	...	193
7166000	精神保健福祉援助実習指導	大島 康雄	前期	...	195
7168000	精神保健福祉援助実習指導	大島 康雄	後期	...	197
7169000	精神保健福祉援助実習	大島 康雄	後期集中	...	199
7172000	精神保健福祉援助実習	大島 康雄	後期集中	...	201
7174000	心理療法特論	佐々木 智城	3 Q	...	203
7175000	精神疾患とその治療	伊東 隆雄	1 Q	...	205
7178000	精神疾患とその治療	伊東 隆雄	3 Q	...	207
7179000	保育実習	吉江 幸子	後期集中	...	209
7180000	保育実習	湯浅 頼佳	後期集中	...	211
7181000	保育実習指導	吉江 幸子	通年	...	213
7183000	保育実習指導	湯浅 頼佳	通年	...	215
7184002	社会思想史(S)	金子 敏也	2 Q	...	217
7186002	日本文化史(S)	牧之内 友	2 Q	...	219
7188002	日本政治史(S)	金子 敏也	3 Q	...	221
7190002	国際法(S)	岡島 徳昭	4 Q	...	223
7192000	特別支援教育実習(事後指導)	荒木 広式	後期	...	225
7194000	特別支援教育実習	荒木 広式	後期集中	...	227
7195000	社会福祉特講	大島 康雄	前期	...	229
7197000	社会福祉特講	大島 康雄	後期	...	231
7198000	スクールソーシャルワーカー論	上原 正希	4 Q	...	233
7198001	スクールソーシャルワーカー論(2年生)	上原 正希	4 Q	...	235
7198002	スクールソーシャルワーカー論(3年生)	上原 正希	4 Q	...	237
7210061	専門演習 A	飯浜 浩幸	前期	...	239
7210062	専門演習 A	小早川 俊哉	前期	...	241
7210063	専門演習 A	上原 正希	前期	...	243
7210064	専門演習 A	藤根 収	前期	...	245
7210065	専門演習 A	松下 守邦	前期	...	247
7210066	専門演習 A	杉本 大輔	前期	...	249
7210067	専門演習 A	櫻井 美帆子	前期	...	251
7210068	専門演習 A	大島 康雄	前期	...	253
7210069	専門演習 A	吉江 幸子	前期	...	255
7210070	専門演習 A	西野 克俊	前期	...	257
7210071	専門演習 A	畠山 明子	前期	...	259
7210072	専門演習 A	佐々木 智城	前期	...	261
7211061	専門演習 B	飯浜 浩幸	後期	...	263
7211062	専門演習 B	小早川 俊哉	後期	...	265
7211063	専門演習 B	上原 正希	後期	...	267
7211064	専門演習 B	藤根 収	後期	...	269
7211065	専門演習 B	松下 守邦	後期	...	271
7211066	専門演習 B	杉本 大輔	後期	...	273
7211067	専門演習 B	櫻井 美帆子	後期	...	275
7211068	専門演習 B	大島 康雄	後期	...	277
7211069	専門演習 B	吉江 幸子	後期	...	279
7211070	専門演習 B	西野 克俊	後期	...	281
7211071	専門演習 B	畠山 明子	後期	...	283
7211072	専門演習 B	佐々木 智城	後期	...	285
7212061	専門演習 A	飯浜 浩幸	前期集中	...	287
7212062	専門演習 A	小早川 俊哉	前期集中	...	289
7212063	専門演習 A	上原 正希	前期集中	...	291
7212064	専門演習 A	藤根 収	前期集中	...	293
7212065	専門演習 A	松下 守邦	前期集中	...	295
7212066	専門演習 A	杉本 大輔	前期集中	...	297
7212067	専門演習 A	櫻井 美帆子	前期集中	...	299
7212068	専門演習 A	大島 康雄	前期集中	...	301
7212069	専門演習 A	吉江 幸子	前期集中	...	303
7212070	専門演習 A	西野 克俊	前期集中	...	305
7212071	専門演習 A	畠山 明子	前期集中	...	307
7212072	専門演習 A	佐々木 智城	前期集中	...	309

7213061	専門演習	B 飯浜 浩幸	後期集中	...	311
7213062	専門演習	B 小早川 俊哉	後期集中	...	313
7213063	専門演習	B 上原 正希	後期集中	...	315
7213064	専門演習	B 藤根 収	後期集中	...	317
7213065	専門演習	B 松下 守邦	後期集中	...	319
7213066	専門演習	B 杉本 大輔	後期集中	...	321
7213067	専門演習	B 櫻井 美帆子	後期集中	...	323
7213068	専門演習	B 大島 康雄	後期集中	...	325
7213069	専門演習	B 吉江 幸子	後期集中	...	327
7213070	専門演習	B 西野 克俊	後期集中	...	329
7213071	専門演習	B 畠山 明子	後期集中	...	331
7213072	専門演習	B 佐々木 智城	後期集中	...	333
7214061	卒業論文	飯浜 浩幸	後期集中	...	335
7214062	卒業論文	小早川 俊哉	後期集中	...	337
7214063	卒業論文	上原 正希	後期集中	...	339
7214064	卒業論文	藤根 収	後期集中	...	341
7214065	卒業論文	松下 守邦	後期集中	...	343
7214066	卒業論文	杉本 大輔	後期集中	...	345
7214067	卒業論文	櫻井 美帆子	後期集中	...	347
7214068	卒業論文	大島 康雄	後期集中	...	349
7214069	卒業論文	吉江 幸子	後期集中	...	351
7214070	卒業論文	西野 克俊	後期集中	...	353
7214071	卒業論文	畠山 明子	後期集中	...	355
7278000	子ども家庭支援論	杉本 大輔	3 Q	...	357
7279000	社会的養護	飯浜 浩幸	1 Q	...	359
7280000	子どもの理解と援助	吉江 幸子	4 Q	...	361
7282000	カ-ル-ジャ-ク演習	上原 正希	2 Q	...	363
7288000	身体表現	尾西 則昭	2 Q	...	365
7289000	音楽表現	小黒 万里子	3 Q	...	367
7290000	音楽表現	小黒 万里子	2 Q	...	369
7291000	造形表現	松岡 龍介	4 Q	...	371
7292000	造形表現	松岡 龍介	4 Q	...	373
7293000	言語表現	吉江 幸子	3 Q	...	375
7294000	乳児保育	吉江 幸子		...	377
7295000	乳児保育	吉江 幸子	2 Q	...	379
7296000	子どもの健康と安全	中村 則子	4 Q	...	381
7297000	社会的養護	飯浜 浩幸	3 Q	...	383
7298000	子育て支援	飯浜 浩幸	2 Q	...	385
7481000	子どもの保健	中村 則子	1 Q	...	387
7482000	保育の計画と評価	吉江 幸子	4 Q	...	389
7483000	保育内容演習 (健康)	中村 則子	2 Q	...	391
7484000	保育内容演習 (人間関係)	松下 守邦	4 Q	...	393
7485000	保育内容演習 (環境)	佐藤 慶知	2 Q	...	395
7486000	保育内容演習 (言葉)	吉江 幸子	2 Q	...	397
7487000	保育内容演習 (表現)	吉江 幸子	4 Q	...	399
7711003	経済学概論 (S)	河野 善文	1 Q	...	401
7712002	日本経済史 (S)	小林 大州介	2 Q	...	403
7713002	西洋経済史 (S)	松本 哲人	1 Q	...	405
7730002	国際経済論 (S)	小早川 俊哉	3 Q	...	407
7732002	国際政治論 (S)	金子 敏也	3 Q	...	409
7762002	北海道産業史 (S)	石山 玄幸	2 Q	...	411
7764002	コミュニティ心理学 (S)	吉澤 英里	4 Q	...	413
7765002	産業心理学 (S)	吉澤 英里	3 Q	...	415
9102002	教育原理 (S)	西崎 毅	1 Q	...	417
9106002	教育心理学 (S)	吉澤 英里	4 Q	...	419
9121002	教育方法論 (S・D・A)	坂上 俊樹	2 Q	...	421
9127002	教育相談 (加パワ-を含む) (S)	佐々木 智城	2 Q	...	423

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・3年		
開講時期	3Q	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	北海道誌（S）（科目ナンバリング：HUG122142）				
授業担当者（所属・職名）	渡部 斎（社会福祉学科・教授）	研究室所在	2号館7階		
単位数	2（単位認定責任者：渡部 斎）	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

概要

履修目標																					
地誌学的に「北海道」を人文・社会・自然的背景から、包括的に地域性を導き出し具体的に学修する。																					
授業の位置づけ																					
社会福祉学科のDP「1(2)と(3)と(4)」、「2(2)」に対応する。																					
到達目標																					
「北海道」に関して、人文・社会・自然分野から学び、地誌学的に地域性を考察することができる。																					
授業全体の内容と概要																					
「北海道」を時系列な時間軸の流れだけではなく、人文・社会・自然的な背景を踏まえ、地域性を考察する。また、過去の事象から、北海道の包括的な位置づけを学修する。																					
授業の方法																					
授業形態は講義形式であるが、板書の他に視聴覚メディア等を利用する。テキスト及び配布資料等を中心に講義を行う。また、北海道に関連する課題において、ディスカッションを行う予定である。レポート課題（10本程度）は授業の予習であり、復習でもあるので重要である。なお、レポートにはコメントにてフィードバックする。																					
アクティブラーニングの実施方法																					
<table border="1"> <tr> <td>プレゼンテーション</td> <td></td> <td>グループワーク</td> <td></td> <td>フィールドワーク</td> <td></td> <td>PBL</td> </tr> <tr> <td>模範授業</td> <td></td> <td>ロールプレイ</td> <td></td> <td>調査学習</td> <td></td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td>ディスカッション</td> <td></td> <td>実験・実習・実技</td> <td></td> <td>双方向授業</td> <td></td> <td>その他（授業の方法参照）</td> </tr> </table>	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL	模範授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）
プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL															
模範授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業															
ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）															
履修上の注意事項																					
・レポートは、指示した「レポート作成要領」に準拠したものを提出すること。																					
資格指定科目																					
教職課程（社会・地理歴史）選択科目																					

評価方法・基準

評価前提条件					
・単位認定に必要な最低出席回数は、10回以上である。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	50%	0%	0%	25%	25%

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・理解	レポート課題において、9割以上の得点を取ることができた。	レポート課題において、8割以上の得点を取ることができた。	レポート課題において、7割以上の得点を取ることができた。	レポート課題において、6割以上の得点を取ることができた。	レポート課題において、6割以上の得点を取ることができなかった。
思考力・判断力・表現力	右の記述を高いレベルで実現できた。	ディスカッションの課題などで、論理的に自分の意見をまとめ、たいへんわかりやすく説明ができた。	ディスカッションの課題などで、自分の意見をまとめ、わかりやすく説明ができた。	ディスカッションの課題などで、自分の意見をまとめ、説明ができた。	ディスカッションの課題などで、自分の意見をまとめ、説明ができなかった。
関心・意欲・態度	右の記述を高いレベルで実現できた。	人文・社会・自然的な背景を踏まえ、北海道の地域性をより深く考察することができた。	人文・社会・自然的な背景を踏まえ、北海道の地域性を深く考察することができた。	人文・社会・自然的な背景を踏まえ、北海道の地域性を考察することができた。	人文・社会・自然的な背景を踏まえ、北海道の地域性を考察することができなかった。

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『北海道図鑑』		JTBパブリッシング	2019	9784533133022	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『配布プリント』					
2						
3						
4						
5						

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・3年		
開講時期	3Q	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	北海道誌(S) (科目ナンバリング:HUG122142)				
授業担当者(所属・職名)	渡部 斎(社会福祉学科・教授)	研究室所在	2号館7階		
単位数	2 (単位認定責任者: 渡部 斎)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	シラバスの説明、授業の内容・進め方・評価の仕方 ガイダンス	事前にシラバスを読んでいること。(90分)	今回の授業内容を復習しておくこと。(90分)
2	自然的背景 (気候と地形)	事前にテキストの範囲を読んでいること。(90分)	今回の授業内容を復習しておくこと。(90分)
3	自然的背景 (火山と災害)	前回の授業内容を復習しておくこと。(90分)	レポート課題等を作成すること。(90分)
4	自然的背景 (平地と山地)	事前にテキストの範囲を読んでいること。(90分)	今回の授業内容を復習しておくこと。(90分)
5	北海道誌ディスカッション (自然的背景)	ディスカッションの準備学修。(90分)	レポート課題等を作成すること。(90分)
6	歴史的背景 (古代)	前回の授業内容を復習しておくこと。(90分)	今回の授業内容を復習しておくこと。(90分)
7	歴史的背景 (中世)	前回の授業内容を復習しておくこと。(90分)	レポート課題等を作成すること。(90分)
8	歴史的背景 (松前藩時代・近世)	前回の授業内容を復習しておくこと。(90分)	今回の授業内容を復習しておくこと。(90分)
9	歴史的背景 (開拓使時代・近代)	前回の授業内容を復習しておくこと。(90分)	レポート課題等を作成すること。(90分)
10	歴史的背景 (開拓使時代・近代)	前回の授業内容を復習しておくこと。(90分)	今回の授業内容を復習しておくこと。(90分)
11	歴史的背景 (現代)	前回の授業内容を復習しておくこと。(90分)	今回の授業内容を復習しておくこと。(90分)
12	社会的背景 (人口分布)	ディスカッションの準備学修。(90分)	レポート課題等を作成すること。(90分)
13	社会的背景 (過疎と過密)	前回の授業内容を復習しておくこと。(90分)	今回の授業内容を復習しておくこと。(90分)
14	社会的背景 (産業構造)	前回の授業内容を復習しておくこと。(90分)	レポート課題等を作成すること。(90分)
15	北海道誌ディスカッション (北海道の課題)	ディスカッションの準備学修。(90分)	今回の授業内容を復習しておくこと。(90分)
16	まとめ、課題(レポートなど)の解説	まとめの準備。(90分)	まとめの振り返り。(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・1年		
開講時期	1Q	授業形態	講義	必修・選択	必修
科目名称	ソーシャルワークの基盤と専門 (科目ナンバリング:)				
授業担当者(所属・職名)	飯浜 浩幸(社会福祉学科・教授)	研究室所在	1号館2階		
単位数	2 (単位認定責任者: 飯浜 浩幸)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	児童養護施設児童指導員(ソーシャルワーカー)としての経験を活かし、ソーシャルワークの理念について、事例に基づく講義を行う。		

概要

履修目標	社会福祉士及び精神保健福祉士の法的な位置づけについて理解する。 ソーシャルワークの基盤となる考え方とその形成過程について理解する。 ソーシャルワークの価値規範と倫理について理解する。												
授業の位置づけ	社会福祉学科のDP「1(1)、(7)」、「2(2)、(3)」に対応する。												
到達目標	社会福祉士及び精神保健福祉士の法的な位置づけについて理解することができる。 ソーシャルワークの基盤となる考え方とその形成過程について理解することができる。 ソーシャルワークの価値規範と倫理について理解することができる。												
授業全体の内容と概要	社会福祉士及び精神保健福祉士の法的な位置づけについて学ぶ。 ソーシャルワークの基盤となる考え方とその形成過程について学ぶ。 ソーシャルワークの価値規範と倫理について学ぶ。												
授業の方法	スライドや板書、テキスト、配布資料を活用しながら説明を行う。講義中、テーマを提示し思考・考察、小グループによる意見交換・討論、発表の場面を設定する。毎回、講義開始時に前回の講義に関する質問事項や理解不足に対する点に対してフィードバックを行う。試験・レポートについても解説によるフィードバックを行う。												
アクティブラーニングの実施方法	<table border="1"> <tr> <td>プレゼンテーション</td> <td>グループワーク</td> <td>フィールドワーク</td> <td>PBL</td> </tr> <tr> <td>模擬授業</td> <td>ロールプレイ</td> <td>調査学習</td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td>ディスカッション</td> <td>実験・実習・実技</td> <td>双方向授業</td> <td>その他(授業の方法参照)</td> </tr> </table>	プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL	模擬授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業	ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)
プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL										
模擬授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業										
ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)										
履修上の注意事項	教科書は必ず持参すること。必要な資料等は適宜配布する。 次回の講義でフィードバックを行うので、受講カードにその日の講義の理解についての記述を求める。 レポートについては、授業内で説明する。												
資格指定科目	社会福祉士国家試験受験資格課程、保育士養成課程												

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数は、10回以上。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
50%	35%	0%	0%	15%	0%

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
社会福祉士及び精神保健福祉士の法的な位置づけについて	社会福祉士及び精神保健福祉士の法的な位置づけについて、理解を深めた。	社会福祉士及び精神保健福祉士の法的な位置づけについて、ほぼ理解を深めた。	社会福祉士及び精神保健福祉士の法的な位置づけについて、やや理解を深めた。	社会福祉士及び精神保健福祉士の法的な位置づけについて、理解することができた。	社会福祉士及び精神保健福祉士の法的な位置づけについて、理解することができなかった。
ソーシャルワークの基盤となる考え方について	ソーシャルワークの基盤となる考え方について、理解を深めた。	ソーシャルワークの基盤となる考え方について、ほぼ理解を深めた。	ソーシャルワークの基盤となる考え方について、やや理解を深めた。	ソーシャルワークの基盤となる考え方について、理解することができた。	ソーシャルワークの基盤となる考え方について、理解することができなかった。
ソーシャルワークの形成過程について	ソーシャルワークの形成過程について、理解を深めた。	ソーシャルワークの形成過程について、ほぼ理解を深めた。	ソーシャルワークの形成過程について、やや理解を深めた。	ソーシャルワークの形成過程について、理解することができた。	ソーシャルワークの形成過程について、理解することができなかった。
ソーシャルワークの価値規範と倫理について	ソーシャルワークの価値規範と倫理について、理解を深めた。	ソーシャルワークの価値規範と倫理について、ほぼ理解を深めた。	ソーシャルワークの価値規範と倫理について、やや理解を深めた。	ソーシャルワークの価値規範と倫理について、理解することができた。	ソーシャルワークの価値規範と倫理について、理解することができなかった。

教科書・参考文献・資料等

教科書							
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考	
1	『最新社会福祉士養成講座精神保健福祉士養成講座1-1-1 ソーシャルワークの基盤と専門職』共編	日本ソ・シャルワ・ク教育学校	中央法規出版	2021年	9784805882412		
2							
3							
4							
5							

参考文献・資料等							
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考	
1						授業の中で関連するものを紹介している。	
2							
3							
4							
5							

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・1年		
開講時期	1Q	授業形態	講義	必修・選択	必修
科目名称	ソーシャルワークの基盤と専門 (科目ナンバリング:)				
授業担当者(所属・職名)	飯浜 浩幸(社会福祉学科・教授)	研究室所在	1号館2階		
単位数	2 (単位認定責任者: 飯浜 浩幸)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	児童養護施設児童指導員(ソーシャルワーカー)としての経験を活かし、ソーシャルワークの理念について、事例に基づく講義を行う。		

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	ガイダンス(シラバス確認を含む)、社会福祉士及び精神保健福祉士の法的な位置づけ 社会福祉士及び介護福祉士法	テキスト学習 第1章第1節、第2節(90分)	ノート整理、疑問点の解消(90分)
2	社会福祉士及び精神保健福祉士の法的な位置づけ 精神保健福祉士法	テキスト学習 第1章第3節(90分)	ノート整理、疑問点の解消(90分)
3	社会福祉士及び精神保健福祉士の法的な位置づけ 社会福祉士及び精神保健福祉士の専門性	テキスト学習 第1章第4節(90分)	ノート整理、疑問点の解消(90分)
4	ソーシャルワークの概念 ソーシャルワーク専門職のグローバル定義	テキスト学習 第2章第1節(90分)	ノート整理、疑問点の解消(90分)
5	ソーシャルワークの概念 その他の主だったソーシャルワークの定義	文献学習(90分)	ノート整理、疑問点の解消(90分)
6	ソーシャルワークの基盤となる考え方 ソーシャルワークの原理(社会正義・人権尊重・集団的責任・多様性の尊重)	テキスト学習 第3章第1節(90分)	ノート整理、疑問点の解消(90分)
7	ソーシャルワークの基盤となる考え方 ソーシャルワークの理念(当事者主権・尊厳の保持・権利擁護)	テキスト学習 第3章第2節(90分)	ノート整理、疑問点の解消(90分)
8	ソーシャルワークの基盤となる考え方 ソーシャルワークの理念(自立支援・ソーシャルインクルージョン・ノーマライゼーション)	テキスト学習 第3章第2節(90分)	ノート整理、疑問点の解消(90分)
9	ソーシャルワークの形成過程(慈善組織協会・セツルメント運動)	テキスト学習 第4章第1節(90分)	ノート整理、疑問点の解消(90分)
10	ソーシャルワークの形成過程(医学モデルから生活モデルへ)	テキスト学習 第4章第2節(90分)	ノート整理、疑問点の解消、レポート作成(90分)
11	ソーシャルワークの形成過程(ソーシャルワークの統合化)	テキスト学習 第4章第3節(90分)	ノート整理、疑問点の解消、レポート作成(90分)
12	ソーシャルワークの倫理 専門職倫理の概念	テキスト学習 第5章第1節(90分)	ノート整理、疑問点の解消、レポート作成(90分)
13	ソーシャルワークの倫理 倫理綱領	テキスト学習 第5章第2節(90分)	ノート整理、疑問点の解消(90分)
14	ソーシャルワークの倫理 倫理的ジレンマ	テキスト学習 第5章第3節(90分)	ノート整理、疑問点の解消(90分)
15	まとめ(事例研究)及びレポートに対するフィードバック(解説)を行う	文献学習(90分)	試験に向けた学習(90分)
16	定期試験(60分)、終了後、解説による試験のフィードバック(30分)を行う	試験に向けた学習(90分)	文献学習(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・1年		
開講時期	2Q	授業形態	講義	必修・選択	必修
科目名称	ソーシャルワークの基盤と専門 (科目ナンバリング:)				
授業担当者(所属・職名)	飯浜 浩幸(社会福祉学科・教授)	研究室所在	1号館2階		
単位数	2 (単位認定責任者: 飯浜 浩幸)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	児童養護施設児童指導員(ソーシャルワーカー)としての経験を活かし、ソーシャルワークの理念について、事例に基づく講義を行う。		

概要

履修目標	社会福祉士の職域と求められる役割について理解する。 ソーシャルワークに係る専門職の概念と範囲について理解する。 マイクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークの対象と連関性について理解する。 総合的かつ包括的な支援と多職種連携の意義と内容について理解する。												
授業の位置づけ	社会福祉学科のDP「1(1)、(7)」、「2(2)、(3)」に対応する。												
到達目標	社会福祉士の職域と求められる役割について理解することができる。 ソーシャルワークに係る専門職の概念と範囲について理解することができる。 マイクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークの対象と連関性について理解することができる。 総合的かつ包括的な支援と多職種連携の意義と内容について理解することができる。												
授業全体の内容と概要	社会福祉士の職域と求められる役割について学ぶ。 ソーシャルワークに係る専門職の概念と範囲について学ぶ。 マイクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークの対象と連関性について学ぶ。 総合的かつ包括的な支援と多職種連携の意義と内容について学ぶ。												
授業の方法	スライドや板書、テキスト、配布資料を活用しながら説明を行う。講義中、テーマを提示し思考・考察、小グループによる意見交換・討論、発表の場を設定する。毎回、講義開始時に前回の講義に関する質問事項や理解不足に対する点に対してフィードバックを行う。試験・レポートについても解説によるフィードバックを行う。												
アクティブラーニングの実施方法	<table border="1"> <tr> <td>プレゼンテーション</td> <td>グループワーク</td> <td>フィールドワーク</td> <td>PBL</td> </tr> <tr> <td>模擬授業</td> <td>ロールプレイ</td> <td>調査学習</td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td>ディスカッション</td> <td>実験・実習・実技</td> <td>双方向授業</td> <td>その他(授業の方法参照)</td> </tr> </table>	プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL	模擬授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業	ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)
プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL										
模擬授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業										
ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)										
履修上の注意事項	教科書は必ず持参すること。必要な資料等は適宜配布する。 次回の講義でフィードバックを行うので、受講カードにその日の講義の理解についての記述を求める。 レポートについては、授業内で説明する。												
資格指定科目	社会福祉士国家試験受験資格課程, 保育士養成課程												

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数は、10回以上。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
50%	35%	0%	0%	15%	0%

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
社会福祉士の職域と求められる役割について	社会福祉士の職域と求められる役割について、理解を深めた。	社会福祉士の職域と求められる役割について、ほぼ理解を深めた。	社会福祉士の職域と求められる役割について、やや理解を深めた。	社会福祉士の職域と求められる役割について、理解することができた。	社会福祉士の職域と求められる役割について、理解することができなかった。
ソーシャルワークに係る専門職の概念と範囲について	ソーシャルワークに係る専門職の概念と範囲について、理解を深めた。	ソーシャルワークに係る専門職の概念と範囲について、ほぼ理解を深めた。	ソーシャルワークに係る専門職の概念と範囲について、やや理解を深めた。	ソーシャルワークに係る専門職の概念と範囲について、理解することができた。	ソーシャルワークに係る専門職の概念と範囲について、理解することができなかった。
マイクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークの対象と連関性について	マイクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークの対象と連関性について、理解を深めた。	マイクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークの対象と連関性について、ほぼ理解を深めた。	マイクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークの対象と連関性について、やや理解を深めた。	マイクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークの対象と連関性について、理解することができた。	マイクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークの対象と連関性について、理解することができなかった。
総合的かつ包括的な支援について	総合的かつ包括的な支援について、理解を深めた。	総合的かつ包括的な支援について、ほぼ理解を深めた。	総合的かつ包括的な支援について、やや理解を深めた。	総合的かつ包括的な支援について、理解することができた。	総合的かつ包括的な支援について、理解することができなかった。
多職種連携の意義と内容について	多職種連携の意義と内容について、理解を深めた。	多職種連携の意義と内容について、ほぼ理解を深めた。	多職種連携の意義と内容について、やや理解を深めた。	多職種連携の意義と内容について、理解することができた。	多職種連携の意義と内容について、理解することができなかった。

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『最新社会福祉士養成講座精神保健福祉士養成講座11 ソーシャルワークの基盤と専門職』	日本ソ・シャルワーク教育学校	中央法規出版	2021年	9784805882412	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						授業の中で関連するものを紹介している。
2						
3						
4						
5						

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・1年		
開講時期	2Q	授業形態	講義	必修・選択	必修
科目名称	ソーシャルワークの基盤と専門 (科目ナンバリング:)				
授業担当者(所属・職名)	飯浜 浩幸(社会福祉学科・教授)	研究室所在	1号館2階		
単位数	2 (単位認定責任者: 飯浜 浩幸)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	児童養護施設児童指導員(ソーシャルワーカー)としての経験を活かし、ソーシャルワークの理念について、事例に基づく講義を行う。		

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	ガイダンス(シラバス説明を含む)、ソーシャルワークに係る専門職の概念と範囲、ソーシャルワーク専門職の概念と範囲	テキスト学習 第6章第1節(90分)	ノート整理、疑問点の解消(90分)
2	ソーシャルワークに係る専門職の概念と範囲、社会福祉士の職域及び福祉行政等における専門職	テキスト学習 第6章第2節(90分)	ノート整理、疑問点の解消(90分)
3	ソーシャルワークに係る専門職の概念と範囲、民間の施設・組織における専門職及び諸外国の動向	テキスト学習 第6章第3節、第4節(90分)	ノート整理、疑問点の解消(90分)
4	マイクロ・メゾ・マクロレベルの対象、マイクロ・メゾ・マクロレベルの意味	テキスト学習 第7章第1節(90分)	ノート整理、疑問点の解消(90分)
5	マイクロ・メゾ・マクロレベルの対象、マイクロ・メゾ・マクロレベルの対象	文献学習(90分)	ノート整理、疑問点の解消(90分)
6	マイクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワーク、マイクロ・メゾ・マクロレベルへの介入	テキスト学習 第7章第2節(90分)	ノート整理、疑問点の解消(90分)
7	マイクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワーク、マイクロ・メゾ・マクロレベルの連関性	文献学習(90分)	ノート整理、疑問点の解消(90分)
8	マイクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワーク、マイクロ・メゾ・マクロレベルの支援の実際	文献学習(90分)	ノート整理、疑問点の解消(90分)
9	ジェネラリストの視点に基づく総合的かつ包括的な支援の意義と内容、多機関による包括的支援体制	テキスト学習 第8章第1節(90分)	ノート整理、疑問点の解消(90分)
10	ジェネラリストの視点に基づく総合的かつ包括的な支援の意義と内容、フォーマル・インフォーマルな社会資源との協働体制	テキスト学習 第8章第2節(90分)	ノート整理、疑問点の解消、レポート作成(90分)
11	ジェネラリストの視点に基づく総合的かつ包括的な支援の意義と内容、ソーシャルサポートネットワーク	文献学習(90分)	ノート整理、疑問点の解消、レポート作成(90分)
12	ジェネラリストの視点に基づく多職種連携及びチームアプローチの意義と内容、多職種連携及びチームアプローチの意義	テキスト学習 第8章第3節(90分)	ノート整理、疑問点の解消、レポート作成(90分)
13	ジェネラリストの視点に基づく多職種連携及びチームアプローチの意義と内容、機関・団体間の合意形成と相互関係	文献学習(90分)	ノート整理、疑問点の解消(90分)
14	ジェネラリストの視点に基づく多職種連携及びチームアプローチの意義と内容、利用者、家族の参画	文献学習(90分)	ノート整理、疑問点の解消(90分)
15	まとめ(事例研究)及びレポートに対するフィードバック(解説)を行う	文献学習(90分)	試験に向けた学習(90分)
16	定期試験(60分)、終了後、解説による試験のフィードバック(30分)を行う	試験に向けた学習(90分)	文献学習(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・1年		
開講時期	3Q	授業形態	講義	必修・選択	必修
科目名称	社会保障 (科目ナンバリング:)				
授業担当者(所属・職名)	大倉 司(社会福祉学科・教授)		研究室所在	1号館3階	
単位数	2 (単位認定責任者: 大倉 司)		CAP制		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

概要

履修目標					
<p>社会保障の概念や対象及びその理念について、社会保障制度の展開過程も含めて理解する。現代社会における社会保障制度の役割と意義、取り組むべき課題について理解する。社会保障制度の財政について理解する。諸外国における社会保障制度の概要について理解する。</p>					
授業の位置づけ					
社会福祉学科のDP「1(1)、(2)、(4)、(7)」、「2(3)」に対応する。					
到達目標					
<p>社会保障が生まれた背景と発展過程について理解できる。社会保障の理念の変化について説明することができる。わが国の社会保障が直面している制度的、政策的課題について関心を持つことができる。</p>					
授業全体の内容と概要					
社会保障の理念、機能、歴史的展開、財政問題などを検討しながら、社会保障とは何かについて基礎的理解を深める。					
授業の方法					
授業は、板書及び配布資料を活用しながら、ディスカッションを交えつつ講義形式で行う。適宜、授業内容についてのレポート提出を求める。					
アクティブラーニングの実施方法					
	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業
その他(授業の方法参照)					
履修上の注意事項					
毎回、必ず教科書・配付資料を携行すること。私語等は慎み、授業に集中してノートを取る。					
資格指定科目					
社会福祉士国家試験受験資格課程、精神保健福祉士国家試験受験資格課程					

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な出席回数は10回以上					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
70%	0%	0%	0%	30%	0%

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を越えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・理解	履修目標を越えて少子高齢社会の課題について理解できた。	社会保障がかかえている問題と課題について理解できた。	今日における社会保障の意義を理解できた。	社会保障が生まれた背景や歴史を理解できた。	社会保障が生まれた背景や歴史を理解できなかった。
思考・判断	経済社会の変化を踏まえた今後の社会保障の見直しの是非について考えることができた。	少子高齢社会における社会保障の課題について対応策を考えることができた。	社会保障の理念の変化と社会保障の保障水準の関係について考えることができた。	社会保障の理念の変化について説明することができた。	社会保障の理念の変化について説明することができなかった。
関心・意欲	社会保障が直面する諸課題について諸外国との比較で対応策を考える意欲を示した。	社会保障が直面する諸課題について対応策を考えることができた。	社会保障が直面する諸課題の解決に関心を寄せることができた。	わが国の社会保障が直面している諸課題に関心を示すことができた。	わが国の社会保障が直面している諸課題に関心を示すことができなかった。

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『最新社会福祉士養成講座・精神保健福祉士養成講座7 社会保障』	日本ソーシャルワーク教育学校連盟編	中央法規出版	2021	978-4-8058-8237-5	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・1年		
開講時期	3Q	授業形態	講義	必修・選択	必修
科目名称	社会保障 (科目ナンバリング:)				
授業担当者(所属・職名)	大倉 司(社会福祉学科・教授)	研究室所在	1号館3階		
単位数	2 (単位認定責任者: 大倉 司)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	シラバスの説明 現代社会と社会保障(1) - 私たちの暮らしと社会保障、少子高齢社会と社会保障	教科書を読み授業範囲の予習をする(90分)	授業のまとめをレポートとして提出する準備(90分)
2	現代社会と社会保障(2) - 経済環境の変化と社会保障	教科書を読み授業範囲の予習をする(90分)	授業のまとめをレポートとして提出する準備(90分)
3	現代社会と社会保障(3) - 労働環境の変化と社会保障	教科書を読み授業範囲の予習をする(90分)	授業のまとめをレポートとして提出する準備(90分)
4	社会保障とは何か(1) - 社会保障の概念と範囲	教科書を読み授業範囲の予習をする(90分)	授業のまとめをレポートとして提出する準備(90分)
5	社会保障とは何か(2) - 社会保障の役割と意義、社会保障の理念・目的・対象	教科書を読み授業範囲の予習をする(90分)	授業のまとめをレポートとして提出する準備(90分)
6	社会保障とは何か(3) - 社会保障の機能	教科書を読み授業範囲の予習をする(90分)	授業のまとめをレポートとして提出する準備(90分)
7	社会保険と社会扶助の関係(1) - 社会保険の概念と範囲	教科書を読み授業範囲の予習をする(90分)	授業のまとめをレポートとして提出する準備(90分)
8	社会保険と社会扶助の関係(2) - 社会扶助の概念と範囲	教科書を読み授業範囲の予習をする(90分)	授業のまとめをレポートとして提出する準備(90分)
9	公的保険と民間保険	教科書を読み授業範囲の予習をする(90分)	授業のまとめをレポートとして提出する準備(90分)
10	社会保障と財政(1) - 社会保障の財源調達方法	教科書を読み授業範囲の予習をする(90分)	授業のまとめをレポートとして提出する準備(90分)
11	社会保障と財政(2) - 社会保障給付費、国民医療費	教科書を読み授業範囲の予習をする(90分)	授業のまとめをレポートとして提出する準備(90分)
12	社会保障と財政(3) - 国民負担率、社会保障と経済	教科書を読み授業範囲の予習をする(90分)	授業のまとめをレポートとして提出する準備(90分)
13	諸外国の社会保障制度(1) - 諸外国における社会保障制度の歴史と概要	教科書を読み授業範囲の予習をする(90分)	授業のまとめをレポートとして提出する準備(90分)
14	諸外国の社会保障制度(2) - 社会保障制度の国際比較	教科書を読み授業範囲の予習をする(90分)	授業のまとめをレポートとして提出する準備(90分)
15	まとめ	教科書を読み授業範囲の予習をする(90分)	授業のまとめをレポートとして提出する準備(90分)
16	試験(60分の試験終了後、30分で解説をする)	全授業を振り返り試験に向けた準備(90分)	試験内容をふまえ授業全体を振り返る(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・1年		
開講時期	4Q	授業形態	講義	必修・選択	必修
科目名称	社会保障 (科目ナンバリング:)				
授業担当者(所属・職名)	大倉 司(社会福祉学科・教授)	研究室所在	1号館3階		
単位数	2 (単位認定責任者: 大倉 司)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

概要

履修目標

公的保険制度と民間保険制度の関係について理解する。
社会福祉制度の体系と概要について理解する。

授業の位置づけ

社会福祉学科のDP「1(1)、(2)、(4)、(7)」、「2(3)」に対応する。

到達目標

わが国の社会福祉制度の発展過程について説明できる。
社会福祉制度の具体的な仕組みについて理解できる。
今後の社会福祉制度のあり方について自らの考えを示すことができる。

授業全体の内容と概要

わが国の社会福祉制度の中核をなしている年金保険、医療保険、介護保険等の社会保険のほか、児童扶養手当などの社会手当制度などについても制度の仕組みを理解するとともに、社会保険と民間保険の関係等についても理解を深める。

授業の方法

授業は、板書及び配布資料を活用しながら、ディスカッションを交えつつ講義形式で行う。適宜、授業内容についてのレポート提出を求める。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

毎回、必ず教科書・配付資料を携行すること。私語等は慎み、授業に集中してノートを取る。

資格指定科目

社会福祉士国家試験受験資格課程、精神保健福祉士国家試験受験資格課程

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な出席回数は10回以上					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
70%	0%	0%	0%	30%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を越えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・理解	少子高齢社会における安定的な社会福祉体制構築の方向性について認識できた。	少子高齢社会における社会福祉制度の見直しの必要性について説明できた。	わが国の国民皆保険・皆年金体制確立の経緯を理解できた。	わが国の社会福祉制度の発展過程について説明できた。	わが国の社会福祉制度の発展過程について説明できなかった。
思考・判断	全世代型社会福祉体制の構築について思考することができた。	安定的な社会福祉体制構築の必要性について思考することができた。	国民皆保険・皆年金体制の維持に向けて制度見直しの必要性を考慮することができた。	社会保険の意義について考えることができた。	社会保険の意義について考えることができなかった。
関心・意欲	国際化が求められる日本社会と社会福祉のあり方について関心を示した。	安定的な社会福祉体制の構築に向けて自らの考えを示すことができた。	社会福祉制度のあり方について自らの考えを示す意欲を持った。	今後の社会福祉の方向性について関心を寄せることができた。	今後の社会福祉の方向性について関心を寄せることができなかった。

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『最新社会福祉士養成講座・精神保健福祉士養成講座 7 社会福祉』	日本ソーシャルワーク教育学校連盟編	中央法規出版	2021	978-4-8058-8237-5	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・1年		
開講時期	4Q	授業形態	講義	必修・選択	必修
科目名称	社会保障 (科目ナンバリング:)				
授業担当者(所属・職名)	大倉 司(社会福祉学科・教授)	研究室所在	1号館3階		
単位数	2 (単位認定責任者: 大倉 司)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	シラバスの説明 わが国における社会保障制度の展開(1)-社会保険制度の生成期	教科書を読み授業範囲の予習をする(90分)	授業のまとめをレポートとして提出する準備(90分)
2	わが国における社会保障制度の展開(2)-国民皆保険・皆年金体制の確立と社会保障の発展期	教科書を読み授業範囲の予習をする(90分)	授業のまとめをレポートとして提出する準備(90分)
3	わが国における社会保障制度の展開(3)-低成長期への移行と社会保障制度の改革期	教科書を読み授業範囲の予習をする(90分)	授業のまとめをレポートとして提出する準備(90分)
4	わが国の社会保障制度の体系(年金保険制度)-国民皆年金体制	教科書を読み授業範囲の予習をする(90分)	授業のまとめをレポートとして提出する準備(90分)
5	わが国の社会保障制度の体系(年金保険制度)-国民年金の概要	教科書を読み授業範囲の予習をする(90分)	授業のまとめをレポートとして提出する準備(90分)
6	わが国の社会保障制度の体系(年金保険制度)-厚生年金の概要	教科書を読み授業範囲の予習をする(90分)	授業のまとめをレポートとして提出する準備(90分)
7	わが国の社会保障制度の体系(医療保険制度)-国民皆保険体制	教科書を読み授業範囲の予習をする(90分)	授業のまとめをレポートとして提出する準備(90分)
8	わが国の社会保障制度の体系(医療保険制度)-被用者医療保険の概要	教科書を読み授業範囲の予習をする(90分)	授業のまとめをレポートとして提出する準備(90分)
9	わが国の社会保障制度の体系(医療保険制度)-国民健康保険の概要、後期高齢者医療制度の概要	教科書を読み授業範囲の予習をする(90分)	授業のまとめをレポートとして提出する準備(90分)
10	わが国の社会保障制度の体系-介護保険制度の概要	教科書を読み授業範囲の予習をする(90分)	授業のまとめをレポートとして提出する準備(90分)
11	わが国の社会保障制度の体系-労災保険制度の概要、雇用保険制度の概要	教科書を読み授業範囲の予習をする(90分)	授業のまとめをレポートとして提出する準備(90分)
12	わが国の社会保障制度の体系-生活保護制度の概要	教科書を読み授業範囲の予習をする(90分)	授業のまとめをレポートとして提出する準備(90分)
13	わが国の社会保障制度の体系-社会手当制度の概要	教科書を読み授業範囲の予習をする(90分)	授業のまとめをレポートとして提出する準備(90分)
14	わが国の社会保障制度の体系-社会福祉制度の概要	教科書を読み授業範囲の予習をする(90分)	授業のまとめをレポートとして提出する準備(90分)
15	まとめ	教科書を読み授業範囲の予習をする(90分)	授業のまとめをレポートとして提出する準備(90分)
16	試験(60分の試験終了後、30分で解説をする)	全授業を振り返り試験に向けた準備(90分)	試験内容をふまえ授業全体を振り返る(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・1年		
開講時期	3Q	授業形態	講義	必修・選択	必修
科目名称	社会学と社会システム (科目ナンバリング:)				
授業担当者(所属・職名)	松下 守邦(社会福祉学科・教授)	研究室所在	1号館2階		
単位数	2 (単位認定責任者: 松下 守邦)		CAP制		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

概要

履修目標

授業のねらい(目標)は、社会学の概念を使い、現代社会の特性、生活の多様性、人と社会、社会問題の理解を学修する。授業内容は、つぎの5つの項目を扱うこととなる。社会学の視点、社会構造と変動、市民社会と公共性、生活と人生、自己と他者。本科目では、社会学の学術概念を使い、社会的現象の課題について説明記述ができることを修得する。

授業の位置づけ

社会福祉学科のDP「1(4)と(5)と(6)」、「2(3)」に対応する。

到達目標

社会学の基本になる学術用語の説明ができる、社会学応用領域における社会問題について、社会学の学術概念、理論と社会統計を用いて、課題を把握し考察ができる。評価基準の5指標は、履修目標をこえた(S)、履修目標をほぼ達成できた(A)、履修目標と到達目標の間であった(B)、到達目標をみたく、合格最低レベル(C)、到達目標に達することができなかった不合格(F)の段階的区分がある。成績分布目標は、履修状況により相対性及絶対性が勘案される規定があるので留意する。

授業全体の内容及概要

社会学の扱う対象は広いといえるが、本授業では現代社会論、家族、地域社会の領域に関する基礎的学修する。社会学の学術用語、基礎的理論を確認し、社会的現象の理解を深めていく。

授業の方法

- ・授業の方法は、講義法、PBL、ワークシート作成、学術論文読解により実施する。
- ・授業計画と学習内容の講義は、シラバス準拠法であり、テキストの目次順にすすめる教科書準拠法を採用していない。
- ・知識の外化作業(授業6回、11回、13回、15回)、PBL(問題基礎型学習)は、社会福祉士、公務員採用試験の過去問題の解題作業である。
- ・映像資料視聴は、学術概念を使い説明記述するワークシート作成がある。
- ・課題提出後の授業にて模範回答例を紹介、フィードバック作成がある。
- ・配布資料は欠落することのないようにファイリングする。ノートは、授業の再現ができるよう、取材メモとして作成する。
- ・大学から交付される学生メールアドレスを使い、マイクロソフトTeams科目チャネルを利用する。授業資料のファイルボックス、関連サイト紹介など、コースバケット学修利用をすすめる。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク	○	PBL
	模範授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業	○	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

- ・テキストは、新カリキュラム対応の新刊リストから2021年9月に選書予定である。後期テキスト販売リストを確認する。
- ・質問相談は、随時、対応するので、授業中、研究室来室など、気軽に相談してほしい。学生から教員へのチャット、メール等連絡は、教員が他の授業、面談などでは対応がむずかしい。学校事務扱い時間を確かめ、夜間、休日の連絡は緊急をのぞき、学校登校日に相談してほしい。
- ・社会福祉士新カリキュラム対応テキスト準拠型授業(テキスト目次記載)とシラバス準拠型授業(シラバス授業計画)を併用する。
- ・学修は、高校の学修スキルが基礎になるが、高等教育であるから広く深く学ぶこと、学術的多面的理解が重要である。
- ・飯間浩明氏(国語辞書編集者)資料参照。https://twitter.com/IIMA_Hiroaki/status/586525324088774657 (2021.03.12確認)

資格指定科目

社会福祉士・精神保健福祉士国家試験受験資格課程科目、教職課程(社会・公民)選択科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定のためには、授業第1回から第15回までに計10回以上の出席が必要である。各授業の作業課題を提出することは基本要件になる。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	80%	0%	10%	10%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
テキスト資料により学修した知識を使い、収集した情報を分析し、理解することができる。情報分析力としての知識・技能	テキスト資料の要旨をていねいにまとめてあり、これまでの学修内容との関連づけが適切にふまえていた。新しく学ぶ学術用語について、いくつかの例を複数あげながら、自分の言葉でていねいに説明することができた。	テキスト資料の要旨をまとめてあり、これまでの学修内容のいくつかを関連づけしていた。新しく学ぶ学術用語について、いくつかの例をあげて、自分の言葉で説明することができた。	テキスト資料の要旨をまとめてあり、新しく学ぶ学術用語について、自分の言葉で説明することができた。	テキスト資料の要旨は、改善の余地があるが、まとめの用語について、自分の言葉で説明することができた。	テキスト資料の要旨をまとめる作業は難しかった。新しく学ぶ学術用語について説明することはまったくできなかった。
文献資料の信頼性を保ちながら、学術概念を使って考察すること、客観的立場から社会的現象について論理的に分析表現をすることができ、思考力・判断力・表現力	信頼性のある文献資料を複数選び、適切に引用していた。新しく学ぶ学術概念を、これまでのものと対比しながら、社会的現象の分析表現ができた。	信頼性のある文献資料を選び、適切な手続で引用していた。新しく学ぶ学術概念を、これまでのものと関連づけながら、論理的に社会的現象の分析表現ができた。	信頼性のある文献資料を選び、引用していた。新しく学ぶ学術概念を使い、これまでのものと関連づけながら、社会的現象の分析表現ができた。	文献資料を選び、信頼性について改善の余地はあるが、引用していた。新しく学ぶ学術概念を使い、充分ではないが、社会的現象の分析を試みることができた。	文献資料を選び、引用することについて、信頼性の確保が難しかった。新しく学ぶ学術概念を使い、社会的現象の分析がまったくできなかった。
大学の学修環境を創造するメンバーとして自覚し、自分の意見と異なる意見を統合させながら、学修経験を高めていこうとする、関心・意欲・態度	大学生としての役割と責任を自覚し、積極的、協同的に行動することができた。	大学生として役割は、おおむね理解しており、行動することができた。	大学生として自分の役割は、基本的な行動をすることができた。	大学生として自分の役割は、改善の余地はあるが、行動をすることができた。	大学生として自分の役割は、本人が理解して行動することは難しかった。

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『社会福祉士養成課程 社会学と社会システム』					2021年9月に選書決定します。
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『社会学事典』	日本社会学会	丸善	2010	9784621082546	
2	『社会学用語図鑑』	田中正人編、香月孝史	プレジデント社	2019	9784833423113	
3	『社会福祉士養成課程のカリキュラム社会学と社会システム 教員に含めべき事項(内容)』	厚生労働省 福祉人材確保対策室		2020		https://www.mhlw.go.jp/
4	『大学教育の分野別質保証のための教育課程編成上の参照基準 社会学分野』	日本学術会議		2014		http://210.149.141.38
5						

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・1年		
開講時期	3Q	授業形態	講義	必修・選択	必修
科目名称	社会学と社会システム (科目ナンバリング:)				
授業担当者(所属・職名)	松下 守邦(社会福祉学科・教授)	研究室所在	1号館2階		
単位数	2 (単位認定責任者: 松下 守邦)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	オリエンテーション(シラバス、ルーブリックの説明)をおこないます。授業と授業外の学修、ノートづくり、テキスト、その他の教材(プリント、図)	シラバスをあらかじめ確認する。(90分)	今回の学習内容を復習する。(90分)
2	社会学の考え方-1(社会化、社会的地位、役割)	テキスト1章を予習する。(90分)	今回の学習内容(テキスト、資料)を復習する。(90分)
3	社会学の考え方-2(重要な他者、属性主義、業績主義)	テキスト1章「学習のヒント」を予習する。(90分)	今回の学習内容(テキスト、資料)を復習する。(90分)
4	家族社会-1(家族類型、家族機能)	テキスト2章を予習する。(90分)	今回の学習内容(テキスト、資料)を復習する。(90分)
5	家族社会-2(家族形態、親族関係)	テキスト3章を予習する。(90分)	テキスト第3章「学習のヒント」発展学修する。(90分)
6	社会学の基本的概念、家族社会のまとめ(PBL)	授業1-5回の学習ふりかえり整理を行う。(90分)	今回の学習内容(PBL資料)を復習する。(90分)
7	現代社会の捉え方(ライフコース、ジェンダー、性別役割規範、社会文化的性差)	テキスト4章を予習する。(90分)	今回の学習内容を復習する。(90分)
8	地域社会-1(都市化、都市的生活様式、過疎化)	テキスト8章を予習する。(90分)	今回の学習内容を復習する。(90分)
9	地域社会-2(第一次の関係、パーソナル・ネットワーク、地域社会の人口変動)	テキスト10章を予習する。(90分)	テキスト第10章「学習のヒント」を発展学修する。(90分)
10	少子化と高齢化(人口転換、出生力、死亡率)	テキスト11章を予習する。(90分)	今回の学習内容を復習する。(90分)
11	ライフコース、ジェンダー、地域社会、少子化と高齢化のまとめ(PBL)	授業7-10回学習のふりかえり整理する。(90分)	今回の学習内容(PBL資料)を復習する。(90分)
12	社会階層と格差(平等、公平、衡平、公正、社会的弱者)	テキスト7章を予習する。(90分)	今回の学習内容を復習する。(90分)
13	学術論文読解(三色線引き読み、福祉社会学)	三色線引き読み資料を予習する。(90分)	今回の学習内容を復習する。(90分)
14	人口問題と社会学(人口構成、人口ボーナス、人口オーナス、人口転換)	テキスト12章を予習する。(90分)	今回の学習内容を復習する。(90分)
15	学術論文読解(三色線引き読み、福祉社会学)	三色線引き読み資料を予習する。(90分)	今回の学習内容を復習する。(90分)
16	本科目のまとめ(授業総括と課題シートの教員講評)	全授業のまとめを準備する。(90分)	全体のふりかえりを行う。(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・1年		
開講時期	4 Q	授業形態	講義	必修・選択	必修
科目名称	心理学と心理的支援 (科目ナンバリング:)				
授業担当者(所属・職名)	吉澤 英里 (社会福祉学科・准教授)	研究室所在	1号館3階		
単位数	2 (単位認定責任者: 吉澤 英里)	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

概要

履修目標
人の心の基本的な仕組みと機能を理解し、環境との相互作用の中で生じる心理的応答を理解する。 人の成長・発達段階の各期に特有な心理的課題を理解する。 日常生活と心の健康との関係について理解する。 心理学の理論を基礎としたアセスメントの方法と支援について理解する。

授業の位置づけ
社会福祉学科OP「1(1)と(2)」、「2(3)」に対応する科目

到達目標
人の基本的な心の仕組みと機能、アセスメント等の支援方法を理解する。

授業全体の内容と概要
心理学のテーマは多岐にわたる。そこで、本授業ではソーシャルワークに深く関連する事項に絞り、人の心の仕組みと働きについて学ぶ。さらに、心理学理論を基礎とした支援方法について理解する。

授業の方法
教科書は必ず持参すること。必要な資料等は適宜配布します。

アクティブラーニングの実施方法						
	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク	PBL
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習	反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項
授業の進行を著しく妨害する行為が認められた際は、成績評価から減点することがある。

資格指定科目
社会福祉士、精神保健福祉士

評価方法・基準

評価前提条件					
授業回数の3分の2以上の出席がなければ成績評価の対象としない。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
40%	40%	0%	0%	0%	20%

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
心理学と心理的支援の知識	授業で扱った専門知識について、9割以上理解ができた。	授業で扱った専門知識について、8割以上理解ができた。	授業で扱った専門知識について、7割以上理解ができた。	授業で扱った専門知識について、6割以上理解ができた。	授業で扱った専門知識について理解ができなかった。
表現方法の適切さ	授業で求められる文章表現の基準を9割以上満たすことができた。	授業で求められる文章表現の基準を8割以上満たすことができた。	授業で求められる文章表現の基準を7割以上満たすことができた。	授業で求められる文章表現の基準を6割以上満たすことができた。	授業で求められる文章表現の基準を満たすことができなかった。
議論への積極的参加	議論に積極的に参加し、高い貢献をすることができた。	議論に積極的に参加できた。	議論に参加できた。	議論にやや参加できた。	議論に参加できなかった。

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『心理学と心理的支援(最新社会福祉士養成講座 精神保健福祉士養成講座)』	一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟	中央法規出版	2021	480582328	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・1年		
開講時期	4 Q	授業形態	講義	必修・選択	必修
科目名称	心理学と心理的支援 (科目ナンバリング:)				
授業担当者(所属・職名)	吉澤 英里 (社会福祉学科・准教授)	研究室所在	1号館3階		
単位数	2 (単位認定責任者: 吉澤 英里)	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	心理学の歴史と対象について シラバスの説明	関連図書を熟読する	授業内容を振り返り、疑問点をまとめる(90分)
2	心を探究する方法の発展について	示されたキーワードを調べる(90分)	授業内容を振り返り、疑問点をまとめる(90分)
3	心の生物学的基盤について	示されたキーワードを調べる(90分)	授業内容を振り返り、疑問点をまとめる(90分)
4	感情・動機づけ・欲求について	示されたキーワードを調べる(90分)	授業内容を振り返り、疑問点をまとめる(90分)
5	感覚・知覚について	示されたキーワードを調べる(90分)	授業内容を振り返り、疑問点をまとめる(90分)
6	学習・行動について	示されたキーワードを調べる(90分)	授業内容を振り返り、疑問点をまとめる(90分)
7	認知について	示されたキーワードを調べる(90分)	授業内容を振り返り、疑問点をまとめる(90分)
8	個人差について	示されたキーワードを調べる(90分)	授業内容を振り返り、疑問点をまとめる(90分)
9	人と環境について	示されたキーワードを調べる(90分)	授業内容を振り返り、疑問点をまとめる(90分)
10	生涯発達について	示されたキーワードを調べる(90分)	授業内容を振り返り、疑問点をまとめる(90分)
11	心の発達の基盤について	示されたキーワードを調べる(90分)	授業内容を振り返り、疑問点をまとめる(90分)
12	心の不応について	示されたキーワードを調べる(90分)	授業内容を振り返り、疑問点をまとめる(90分)
13	心理アセスメントについて	示されたキーワードを調べる(90分)	授業内容を振り返り、疑問点をまとめる(90分)
14	心理的支援の基本的技法について	示されたキーワードを調べる(90分)	授業内容を振り返り、疑問点をまとめる(90分)
15	心理療法について	示されたキーワードを調べる(90分)	これまでの内容をまとめる(90分)
16	60分の試験後、残り時間で解説を行う	これまでの内容を整理する(90分)	これまでの内容を振り返る(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・2年		
開講時期	1Q	授業形態	講義	必修・選択	必修
科目名称	低所得者に対する支援 (科目ナンバリング: SWS112009)				
授業担当者(所属・職名)	大倉 司(社会福祉学科・教授)	研究室所在	1号館3階		
単位数	2 (単位認定責任者: 大倉 司)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

概要

履修目標

現代における公的扶助(貧困・低所得者に対する支援制度)の意義を理解するとともに、貧困問題の本質とソーシャルワーカーの役割について知る。

授業の位置づけ

社会福祉学科のDP「1(1)と(2)と(4)と(7)」、「2(3)」に対応する。

到達目標

- ・貧困問題の本質を理解する視点について理解することができる。
- ・現代における貧困原因を分析し、最低生活保障のあり方について考えることができる。
- ・要保護者、低所得者の特性に応じた自立支援の意義について説明することができる。

授業全体の内容と概要

公的扶助の概念、範囲、歴史的展開、現代社会における機能などについて概説したうえで、わが国における公的扶助制度である生活保護制度の仕組みと生活困窮者に対する自立支援のあり方について学び、併せて最近の保護動向から今後の課題について理解を深める。

授業の方法

授業は、板書及び配布資料を活用しながら、ディスカッションを交えつつ講義形式で行う。適宜、授業内容についてのレポート提出を求める。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

毎回、必ず教科書・配付資料を携行すること。私語等は慎み、授業に集中してノートを取る。

資格指定科目

社会福祉士国家試験受験資格課程, 精神保健福祉士国家試験受験資格課程

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な出席回数は10回以上					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
70%	0%	0%	0%	30%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・理解	履修目標を越えて現代における貧困問題の特性について理解できた。	低所得者に対する支援に関わるソーシャルワーカーに必要な知識を理解できた。	貧困問題の本質を捉え公的扶助の必要性を理解できた。	貧困問題の本質について理解できた。	貧困問題の本質について理解できなかった。
思考・判断	現代における新たな貧困問題に対処するために必要な自立支援のあり方について説明できた。	低所得者の特性に応じた自立支援のあり方について説明できた。	低所得者の特性に応じた自立支援のあり方について考えることができた。	低所得者に対する自立支援の意義について説明できた。	低所得者に対する自立支援の意義について説明できなかった。
関心・意欲	具体的な事例に則して最低生活保障のあり方について考えることができた。	現代における貧困原因を分析しソーシャルワーカーの役割を考えることができた。	現代における貧困問題に対するソーシャルワーカーの役割について考える姿勢を示した。	現代における貧困原因について考えることができた。	現代における貧困原因について考えることができなかった。

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『最新社会福祉士養成講座4 貧困に対する支援』	日本ソーシャルワーク教育学校連盟編	中央法規出版	2021	978-4-8058-8247-4	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・2年		
開講時期	1Q	授業形態	講義	必修・選択	必修
科目名称	低所得者に対する支援 (科目ナンバリング: SWS112009)				
授業担当者(所属・職名)	大倉 司(社会福祉学科・教授)	研究室所在	1号館3階		
単位数	2 (単位認定責任者: 大倉 司)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	シラバスの説明 公的扶助の概念・救済制度と公的扶助、各国の公的扶助の特徴、公的扶助の概念と範囲	教科書を読み授業範囲の予習をする(90分)	授業のまとめをレポートとして提出する準備(90分)
2	現代社会における公的扶助の役割と性格(1)・貧困・低所得者層の生活と社会情勢・福祉制度	教科書を読み授業範囲の予習をする(90分)	授業のまとめをレポートとして提出する準備(90分)
3	現代社会における公的扶助の役割と性格(2)・社会保障と公的扶助、私的扶養と公的扶助	教科書を読み授業範囲の予習をする(90分)	授業のまとめをレポートとして提出する準備(90分)
4	欧米における公的扶助の展開・救済法の歴史と公的扶助の確立・展開	教科書を読み授業範囲の予習をする(90分)	授業のまとめをレポートとして提出する準備(90分)
5	わが国における公的扶助の展開(1)・第二次大戦前の動きから旧生活保護法の制定・実施に至る経緯	教科書を読み授業範囲の予習をする(90分)	授業のまとめをレポートとして提出する準備(90分)
6	わが国における公的扶助の展開(2)・新生活保護法の制定から近年の生活保護制度改革に至る経緯	教科書を読み授業範囲の予習をする(90分)	授業のまとめをレポートとして提出する準備(90分)
7	生活保護制度の概要(1)・目的と基本原理	教科書を読み授業範囲の予習をする(90分)	授業のまとめをレポートとして提出する準備(90分)
8	生活保護制度の概要(2)・保護の原則	教科書を読み授業範囲の予習をする(90分)	授業のまとめをレポートとして提出する準備(90分)
9	生活保護制度の概要(3)・保護の種類と内容	教科書を読み授業範囲の予習をする(90分)	授業のまとめをレポートとして提出する準備(90分)
10	生活保護制度の概要(4)・保護の種類と内容	教科書を読み授業範囲の予習をする(90分)	授業のまとめをレポートとして提出する準備(90分)
11	生活保護制度の概要(5)・保護の実施機関、保護施設、被保護者の権利義務、不服申立制度	教科書を読み授業範囲の予習をする(90分)	授業のまとめをレポートとして提出する準備(90分)
12	生活保護制度の概要(6)・生活保護の財源、保護の動向	教科書を読み授業範囲の予習をする(90分)	授業のまとめをレポートとして提出する準備(90分)
13	低所得者、ホームレスに対する支援制度・生活困窮者自立支援法、生活福祉資金貸付制度、等	教科書を読み授業範囲の予習をする(90分)	授業のまとめをレポートとして提出する準備(90分)
14	生活保護の運営・福祉事務所・専門職(現業員・査察指導員)の役割、国・地方公共団体の役割、他職種との連携	教科書を読み授業範囲の予習をする(90分)	授業のまとめをレポートとして提出する準備(90分)
15	貧困・低所得者に対する相談援助活動・相談援助活動のあり方、自立支援プログラムの目的と実際	教科書を読み授業範囲の予習をする(90分)	授業のまとめをレポートとして提出する準備(90分)
16	試験(60分の試験終了後、30分で解説をする)	全授業を振り返り試験に向けた準備(90分)	試験内容をふまえ授業全体を振り返る(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・2年		
開講時期	2Q	授業形態	講義	必修・選択	必修
科目名称	権利擁護と成年後見制 (科目ナンバリング: SWS112010)				
授業担当者(所属・職名)	大倉 司(社会福祉学科・教授)	研究室所在	1号館3階		
単位数	2 (単位認定責任者: 大倉 司)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

概要

履修目標

相談援助と法の関わりについて学ぶとともに、相談援助業務において必要となる成年後見制度等の仕組みと権利擁護活動の実際を理解する。

授業の位置づけ

社会福祉学科のDP「1(1)と(2)と(4)と(7)」、「2(3)」に対応する。

到達目標

- 憲法、行政法、民法など権利擁護と法との関係について理解できる。
- ソーシャルワーカーに必要な成年後見制度、日常生活自立支援事業等の知識について説明できる。
- 権利擁護活動の実際について理解を示すことができる。

授業全体の内容と概要

相談援助業務において必要となる法知識(憲法、民法、行政法など)を学ぶとともに、権利擁護の仕組みとしての成年後見制度や日常生活自立支援事業、成年後見制度利用支援事業についての知識を習得する。

授業の方法

授業は、板書及び配布資料を活用しながら、ディスカッションを交えつつ講義形式で行う。適宜、授業内容についてのレポート提出を求める。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

毎回、必ず教科書・配付資料を携行すること。私語等は慎み、授業に集中してノートを取る。

資格指定科目

社会福祉士国家試験受験資格科目、精神保健福祉士国家試験受験資格科目

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な出席回数は10回以上					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
70%	0%	0%	0%	30%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・理解	現在の成年後見制度と権利擁護の問題点を理解できた。	成年後見制度の内容及権利擁護の仕組みを理解できた。	権利擁護に関わる法律の仕組みについて理解できた。	権利擁護と法との関係について理解できた。	権利擁護と法との関係について理解できなかった。
思考・判断	現状を踏まえわが国の権利擁護制度に内在する課題について考察できた。	成年後見制度の趣旨を権利擁護活動に活かす方法等を考えることができた。	成年後見制度の仕組みから権利擁護活動の実際をイメージすることができた。	成年後見制度、日常生活自立支援事業等について説明できた。	成年後見制度、日常生活自立支援事業等について説明できなかった。
関心・意欲	権利擁護活動におけるソーシャルワーカーの役割について理解を示すことができた。	利用者の能力に応じた権利擁護活動の実際について関心を示すことができた。	利用者の能力に応じた成年後見制度の仕組みについて理解を示すことができた。	権利擁護活動の実際について理解を示すことができた。	成年後見制度の必要性に関心を寄せることができなかった。

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『最新社会福祉士養成講座・精神保健福祉士養成講座② 権利擁護を支える法制度』	日本ソーシャルワーク教育学校連盟編	中央法規出版	2021	978-4-8058-8239-9	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・2年		
開講時期	2Q	授業形態	講義	必修・選択	必修
科目名称	権利擁護と成年後見制 (科目ナンバリング: SWS112010)				
授業担当者(所属・職名)	大倉 司(社会福祉学科・教授)	研究室所在	1号館3階		
単位数	2 (単位認定責任者: 大倉 司)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	シラバスの説明 相談援助活動と法(1) - 相談援助活動において想定される法律問題	教科書を読み授業範囲の予習をする(90分)	授業のまとめをレポートとして提出する準備(90分)
2	相談援助活動と法(2) - 憲法の理解	教科書を読み授業範囲の予習をする(90分)	授業のまとめをレポートとして提出する準備(90分)
3	相談援助活動と法(3) - 行政法の理解	教科書を読み授業範囲の予習をする(90分)	授業のまとめをレポートとして提出する準備(90分)
4	相談援助活動と法(4) - 民法の理解	教科書を読み授業範囲の予習をする(90分)	授業のまとめをレポートとして提出する準備(90分)
5	相談援助活動と法(5) - 社会福祉関連法の理解	教科書を読み授業範囲の予習をする(90分)	授業のまとめをレポートとして提出する準備(90分)
6	成年後見制度(1) - 成年後見・保佐・補助の概要	教科書を読み授業範囲の予習をする(90分)	授業のまとめをレポートとして提出する準備(90分)
7	成年後見制度(2) - 成年後見等の手続き	教科書を読み授業範囲の予習をする(90分)	授業のまとめをレポートとして提出する準備(90分)
8	成年後見制度(3) - 任意後見制度	教科書を読み授業範囲の予習をする(90分)	授業のまとめをレポートとして提出する準備(90分)
9	成年後見制度(4) - 成年後見人等の義務と責任	教科書を読み授業範囲の予習をする(90分)	授業のまとめをレポートとして提出する準備(90分)
10	成年後見制度(5) - 成年後見制度の現状と課題	教科書を読み授業範囲の予習をする(90分)	授業のまとめをレポートとして提出する準備(90分)
11	日常生活自立支援事業・成年後見制度利用支援事業	教科書を読み授業範囲の予習をする(90分)	授業のまとめをレポートとして提出する準備(90分)
12	権利擁護活動にかかわる組織・団体	教科書を読み授業範囲の予習をする(90分)	授業のまとめをレポートとして提出する準備(90分)
13	権利擁護活動にかかわる専門家の役割	教科書を読み授業範囲の予習をする(90分)	授業のまとめをレポートとして提出する準備(90分)
14	成年後見活動の実際	教科書を読み授業範囲の予習をする(90分)	授業のまとめをレポートとして提出する準備(90分)
15	権利擁護活動の実際	教科書を読み授業範囲の予習をする(90分)	授業のまとめをレポートとして提出する準備(90分)
16	試験(60分の試験終了後、30分で解説をする)	全授業を振り返り試験に向けた準備(90分)	試験内容をふまえ授業全体を振り返る(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・2年		
開講時期	4Q	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	人体の構造と機能及び (科目ナンバリング: BAM112011)				
授業担当者(所属・職名)	中村 則子(社会福祉学科・特任准教授)	研究室所在	1号館4階		
単位数	2 (単位認定責任者: 中村 則子)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	看護実践と看護教育の実務経験を踏まえ、人の成長過程と体のしくみ、その破綻(病気・障がいなど)の考え方を生活と関連させ学びます。		

概要

履修目標

人の体の成り立ちやしくみ、さまざまな疾病について、人の成長過程における老化や日常生活との関係を踏まえて理解を深める。

授業の位置づけ

社会福祉学科のDP「1(1)と(2)と(4)と(5)」、「2(1)と(2)と(3)と(4)」に対応する。

到達目標

社会福祉職に求められる人の成長・発達過程を理解し、人体の機能・構造と病的状態を関連させて説明できる。

授業全体の内容と概要

人体の構造と生理機能を臓器と関連させて学習し、正常と病的状態を比較しながら代表的な疾患や障害について理解する。特に将来致命的となる疾患や注目されている疾患については予防対策も含めて講義を行ない、福祉に必要な知識を身につける。また、ICFの基本的な考え方やリハビリテーションの概念についても学習する。

授業の方法

講義形式。テキストの活用を中心とし、板書や配布資料を適宜使い解説を行う。また、確認のため小試験を課題とし、添削後、返却し解答・解説を行いフィードバックする。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業	○	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

遅刻しないこと

資格指定科目

社会福祉士国家試験受験資格課程

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数は10回以上					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
60%	0%	0%	20%	10%	10%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
人の成長・発達過程や体の成り立ち・しくみの理解	人の成長・発達過程や体の成り立ち・しくみについて非常に理解できた。	人の成長・発達過程や体の成り立ち・しくみについて概ね理解できた。	人の成長・発達過程、人体について部分的に理解できた。	人の成長・発達、人体について助言により部分的に理解できた。	助言しても理解できなかった。
各疾病、障がいの概要	各疾病・障がいの概要を人体の機能・構造と関連させて詳しく説明できた。	各疾病・障がいの概要を人体の機能・構造と関連させて概ね説明できた。	各疾病・障がいの概要、人体の機能・構造を部分的に説明できた。	各疾病、障がいの概要を助言により説明できた。	助言しても説明することができなかった。
疾病予防や健康の考え方、ICFの基本的考え方	疾病予防や健康の考え方、ICFの基本的考え方を詳細に説明できた。	疾病予防や健康の考え方、ICFの基本的考え方を概ね説明できた。	疾病予防や健康の考え方、ICFについて部分的に説明できた。	疾病予防や健康の考え方、ICFの基本的考え方を助言により説明できた。	助言しても説明することができなかった。

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『新・社会福祉士養成講座1「人体の構造と機能及び疾病-医学一般」』	社会福祉士養成講座編集委員会	中央法規出版	2019		
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						授業の中で随時案内する
2						
3						
4						
5						

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・2年		
開講時期	4Q	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	人体の構造と機能及び (科目ナンバリング: BAM112011)				
授業担当者(所属・職名)	中村 則子(社会福祉学科・特任准教授)	研究室所在	1号館4階		
単位数	2 (単位認定責任者: 中村 則子)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容 看護実践と看護教育の実務経験を踏まえ、人の成長過程と体のしくみ、その破綻(病気・障がいなど)の考え方を生活と関連させ学びます。			

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	シラバスの説明 医学と福祉について	事前に教科書全体に目をとおしておく(90分)	当日の授業で行ったことをノートにまとめておく(90分)
2	人の成長・発達と老化 心身の成長発達	教科書の「人の成長発達」について事前に読んでおく(90分)	当日の授業で行ったことをノートにまとめておく(90分)
3	人の成長・発達と老化 老化	教科書の「人の成長発達」について事前に読んでおく(90分)	配布資料を見直し理解しておく(90分)
4	人の成長・発達と老化 老年症候群	教科書の「人の老化」について事前に読んでおく(90分)	配布資料を見直し理解しておく(90分)
5	身体構造と心身機能の概要 (骨・筋肉・消化器・循環器)	教科書の「人の心身機能」について事前に読んでおく(90分)	当日の授業で行ったことを復習しておく(90分)
6	身体構造と心身機能の概要 (呼吸器・血液・リンパ・泌尿器・生殖器)	教科書の「人の心身機能」について事前に読んでおく(90分)	当日の授業で行ったことを復習しておく(90分)
7	身体構造と心身機能の概要 (脳・脊髄・神経)	教科書の「人の心身機能」について事前に読んでおく(90分)	前半の授業内容を復習しておく(90分)
8	前半のまとめと学習到達度の確認テスト	前半の授業・資料・ノートを見直しテストに臨むこと(90分)	問題を見直し自己採点しておく(90分)
9	疾病の概要 悪性腫瘍・脳血管疾患・心疾患・高血圧症・呼吸器疾患	教科書の「各疾病」について事前に読んでおく(90分)	返却テスト結果と授業で行ったことを見直し整理しておく(90分)
10	疾病の概要 腎疾患・泌尿器疾患・骨関節疾患・感染症・難病	教科書の「各疾病」について事前に読んでおく(90分)	当日の授業で行ったことを復習しておく(90分)
11	疾病の概要 (生活習慣病と健康のとらえ方)	教科書の「健康」について事前に読んでおく(90分)	当日の授業で行ったことをノートにまとめておく(90分)
12	障害の概要 ICFの基本的考え方	教科書の「ICF」について事前に読んでおく(90分)	配布資料を見直しノート整理しておく(90分)
13	障害の概要 各障害	教科書の「障害の概要」について事前に読んでおく(90分)	当日の授業で行ったことを復習しておく(90分)
14	リハビリテーションの概念	教科書の「リハビリテーションの概要」について事前に読んでおく(90分)	配布資料を見直しノート整理しておく(90分)
15	総括と今後の課題	これまで授業で行ったことを振り返り準備しておく(90分)	提案した福祉課題に今後も取り組んでいく(90分)
16	定期試験60分終了後、残り30分間で解説する。	講義を通して質問事項をまとめておくこと(90分)	試験及び解説を受けて講義全体の理解を深めること(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・2年		
開講時期	3Q	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	児童・家庭に対する支 (科目ナンバリング:)				
授業担当者(所属・職名)	飯浜 浩幸(社会福祉学科・教授)	研究室所在	1号館2階		
単位数	(単位認定責任者: 飯浜 浩幸)		CAP制		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	児童養護施設児童指導員(ソーシャルワーカー)としての経験を活かし、社会的養護サービスや施設ケア、苦情解決と権利擁護のあり方について講義を行う。		

概要

履修目標
「児童から子どもへ」「児童福祉から子ども家庭福祉へ」と概念の転換が図られた背景を理解しながら、子ども家庭福祉の理念、その法体系やサービス体系、援助活動の現状や課題について総合的に理解する。

授業の位置づけ
社会福祉学科のDP「1(4)と(7)」、「2(2)」に対応する。

到達目標
子どもや家庭の生活実態とこれを取り巻く社会情勢、ニーズについての理解ができる。 子ども家庭福祉制度の発展過程と子どもの権利についての理解ができる。 相談援助活動が必要となる子ども家庭福祉制度や他の法制度の理解ができる。

授業全体の内容と概要
子どもや家庭の生活実態とこれを取り巻く社会情勢、ニーズについて。 子ども家庭福祉制度の発展過程と子どもの権利について。 相談援助活動において必要となる子ども家庭福祉制度や他の法制度について。

授業の方法
板書やパワーポイント、テキスト、配布資料を活用しながら説明を行う。講義中、テーマを提示し思考・考察、小グループによる意見交換・討論、発表の場面を設定する。毎回、講義開始時に前回の講義に関する質問事項や理解不足に対する点に対してフィードバックを行う。定期試験・レポートについても解説によるフィードバックを行う。

アクティブラーニングの実施方法						
	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク	PBL
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習	反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項
1. 次回の講義でフィードバックを行うので、受講カードにその日の講義の理解についての記述を求める。 2. 次の3点を考えながら受講すること。 大人として子どもとどのように向き合うべきか。 親としてどのようなサービスが活用できるか。 子どもとその家族の支援者になるためにどのような努力が必要かの3点を考えながら受講すること。 3. レポート課題は、「子どもと家庭に係わるニュース(新聞・インターネット配信記事等)」を10収集し、それぞれに対して400字程度のコメントをつけたものとし、11回目の授業で提出を求める。

資格指定科目
社会福祉士国家試験受験資格課程, 保育士養成課程

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数は、10回以上。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
45%	40%	0%	0%	15%	0%

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
子どもや家庭の生活実態とこれを取り巻く社会情勢及びニーズについて	子どもや家庭の生活実態とこれを取り巻く社会情勢及びニーズについて理解することで、「児童福祉から子ども家庭福祉へ」と概念の転換が図られた背景について、理解を深めた。	子どもや家庭の生活実態とこれを取り巻く社会情勢及びニーズについて理解することで、「児童福祉から子ども家庭福祉へ」と概念の転換が図られた背景について、ほぼ理解を深めた。	子どもや家庭の生活実態とこれを取り巻く社会情勢及びニーズについて理解し、「児童福祉から子ども家庭福祉へ」と概念の転換が図られた背景について、やや理解を深めた。	子どもや家庭の生活実態とこれを取り巻く社会情勢及びニーズについて、理解することができた。	子どもや家庭の生活実態とこれを取り巻く社会情勢及びニーズについて、理解することができなかった。
子ども家庭福祉制度の発展過程と子どもの権利について	子ども家庭福祉制度の発展過程と子どもの権利について理解することで、「児童から子どもへ」と概念の転換が図られた背景について、理解を深めた。	子ども家庭福祉制度の発展過程と子どもの権利について理解することで、「児童から子どもへ」と概念の転換が図られた背景について、ほぼ理解を深めた。	子ども家庭福祉制度の発展過程と子どもの権利について理解し、「児童から子どもへ」と概念の転換が図られた背景について、やや理解を深めた。	子ども家庭福祉制度の発展過程と子どもの権利について、理解することができた。	子ども家庭福祉制度の発展過程と子どもの権利について、理解することができなかった。
相談援助活動が必要となる子ども家庭福祉制度や他の法制度について	相談援助活動が必要となる子ども家庭福祉制度や他の法制度について、理解を深めた。	相談援助活動が必要となる子ども家庭福祉制度や他の法制度について、ほぼ理解を深めた。	相談援助活動が必要となる子ども家庭福祉制度や他の法制度について、やや理解を深めた。	相談援助活動が必要となる子ども家庭福祉制度や他の法制度について、理解することができた。	相談援助活動が必要となる子ども家庭福祉制度や他の法制度について、理解することができなかった。

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『最新社会福祉養成講座3 児童・家庭福祉』	一般社団法人日本ソーシャルワーカー教育学校連盟	中央法規出版	2021年	9784805882467	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						授業の中で関連するものを紹介している。
2						
3						
4						
5						

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・2年		
開講時期	3Q	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	児童・家庭に対する支 (科目ナンバリング:)				
授業担当者(所属・職名)	飯浜 浩幸(社会福祉学科・教授)	研究室所在	1号館2階		
単位数	(単位認定責任者: 飯浜 浩幸)		CAP制		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容 児童養護施設児童指導員(ソーシャルワーカー)としての経験を活かし、社会的養護サービスや施設ケア、苦情解決と権利擁護のあり方について講義を行う。			

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	ガイダンス(シラバス確認を含む)	テキスト学習 第1章第4節(90分)	ノート整理、レポート作成(90分)
2	少子高齢社会と次世代育成支援	テキスト学習 第3章(90分)	ノート整理、レポート作成(90分)
3	現代社会と子ども家庭の問題	テキスト学習 第2章第3節(90分)	ノート整理、レポート作成(90分)
4	子ども家庭福祉の理念と権利保障	テキスト学習 第1章(90分)	ノート整理、レポート作成(90分)
5	児童福祉の発展	テキスト学習 第2章第1節・第2節(90分)	ノート整理、レポート作成(90分)
6	子ども家庭福祉の法体系と実施体制及び財政	テキスト学習 第4章第1節・第2節・第4節(90分)	ノート整理、レポート作成(90分)
7	子ども家庭福祉の専門職	テキスト学習 第4章第5節(90分)	ノート整理、レポート作成(90分)
8	苦情解決と権利擁護	文献学習(90分)	ノート整理、レポート作成(90分)
9	子ども家庭にかかわる福祉・保健	テキスト学習 第5章第2節(90分)	ノート整理、レポート作成(90分)
10	子ども虐待対策と子どもの社会的養護サービス	テキスト学習 第5章第4節・第5節・第6節(90分)	ノート整理、レポート作成(90分)
11	子どもと家庭にかかわる女性福祉	テキスト学習 第5章第8節(90分)	ノート整理、文献学習(90分)
12	子ども家庭への相談援助活動	テキスト学習 第5章第1節(90分)	ノート整理、文献学習(90分)
13	施設ケアと子ども家庭福祉援助活動	テキスト学習 第6章(90分)	ノート整理、文献学習(90分)
14	地域援助活動とネットワーク	文献学習(90分)	ノート整理、文献学習(90分)
15	全体のまとめ及びレポートに対するフィードバック(解説)を行う	文献学習(90分)	試験に向けた学習(90分)
16	定期試験(60分)、終了後、解説による試験のフィードバック(30分)を行う	試験に向けた学習(90分)	文献学習(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・1年		
開講時期	3Q	授業形態	講義	必修・選択	必修
科目名称	児童・家庭福祉 (科目ナンバリング:)				
授業担当者(所属・職名)	飯浜 浩幸(社会福祉学科・教授)		研究室所在	1号館2階	
単位数	2 (単位認定責任者: 飯浜 浩幸)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	児童養護施設児童指導員(ソーシャルワーカー)としての経験を活かし、社会的養護サービスや施設ケア、苦情解決と権利擁護のあり方について講義を行う。		

概要

履修目標
児童が権利の主体であることを踏まえ、児童・家庭及び妊産婦の生活とそれを取り巻く社会環境について理解する。 児童福祉の歴史と児童観の変遷や制度の発展過程について理解する。 児童や家庭福祉に係る法制度について理解する。 児童や家庭福祉領域における支援の仕組みと方法、社会福祉士の役割について理解する。 児童・家庭及び妊産婦の生活課題を踏まえて、適切な支援のあり方を理解する。

授業の位置づけ
社会福祉学科のDP「1(4)と(7)」、「2(2)と(3)」に対応する。

到達目標
児童が権利の主体と踏まえ、児童・家庭及び妊産婦の生活とそれを取り巻く社会環境について理解することができる。 児童福祉の歴史と児童観の変遷や制度の発展過程について理解することができる。 児童や家庭福祉に係る法制度について理解することができる。 児童や家庭福祉領域における支援の仕組みと方法、社会福祉士の役割について理解することができる。 児童・家庭及び妊産婦の生活課題を踏まえて、適切な支援のあり方を理解することができる。

授業全体の内容と概要
児童が権利の主体であることを踏まえ、児童・家庭及び妊産婦の生活とそれを取り巻く社会環境について学ぶ。 児童福祉の歴史と児童観の変遷や制度の発展過程について学ぶ。 児童や家庭福祉に係る法制度について学ぶ。 児童や家庭福祉領域における支援の仕組みと方法、社会福祉士の役割について学ぶ。 児童・家庭及び妊産婦の生活課題を踏まえて、適切な支援のあり方を学ぶ。

授業の方法
スライドや板書、テキスト、配布資料を活用しながら説明を行う。講義中、テーマを提示し思考・考察、小グループによる意見交換・討論、発表の場面を設定する。毎回、講義開始時に前回の講義に関する質問事項や理解不足に対する点に対してフィードバックを行う。定期試験・レポートについても解説によるフィードバックを行う。

アクティブラーニングの実施方法					
	プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク		PBL
	模範授業	ロールプレイ	調査学習		反転授業
	ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業		その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項
1. 次回の講義でフィードバックを行うので、受講カードにその日の講義の理解についての記述を求める。 2. 次の3点を考えながら受講すること。 大人として子どもとどのように向き合うべきか。 親としてどのようなサービスが活用できるか。 子どもとその家族の支援者になるためにどのような努力が必要かの3点を考えながら受講すること。 3. レポート課題は、「子どもと家庭に係わるニュース(新聞・インターネット配信記事等)」を10収集し、それぞれに対して400字程度のコメントをつけたものとし、11回目の授業で提出を求める。

資格指定科目
社会福祉士国家試験受験資格課程、保育士養成課程

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数は、10回以上。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
45%	40%	0%	0%	15%	0%

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
児童を権利の主体と踏まえた児童・家庭及び妊産婦の生活とそれを取り巻く社会環境について	児童を権利の主体と踏まえた児童・家庭及び妊産婦の生活とそれを取り巻く社会環境について、理解を深めた。	児童を権利の主体と踏まえた児童・家庭及び妊産婦の生活とそれを取り巻く社会環境について、ほぼ理解を深めた。	児童を権利の主体と踏まえた児童・家庭及び妊産婦の生活とそれを取り巻く社会環境について、やや理解を深めた。	児童を権利の主体と踏まえた児童・家庭及び妊産婦の生活とそれを取り巻く社会環境について、理解することができた。	児童を権利の主体と踏まえた児童・家庭及び妊産婦の生活とそれを取り巻く社会環境について、理解することができなかった。
児童福祉の歴史と児童観の変遷や制度の発展過程について	児童福祉の歴史と児童観の変遷や制度の発展過程について、理解を深めた。	児童福祉の歴史と児童観の変遷や制度の発展過程について、ほぼ理解を深めた。	児童福祉の歴史と児童観の変遷や制度の発展過程について、やや理解を深めた。	児童福祉の歴史と児童観の変遷や制度の発展過程について、理解することができた。	児童福祉の歴史と児童観の変遷や制度の発展過程について、理解することができなかった。
児童や家庭福祉に係る法制度について	児童や家庭福祉に係る法制度について、理解を深めた。	児童や家庭福祉に係る法制度について、ほぼ理解を深めた。	児童や家庭福祉に係る法制度について、やや理解を深めた。	児童や家庭福祉に係る法制度について、理解することができた。	児童や家庭福祉に係る法制度について、理解することができなかった。
児童や家庭福祉領域における支援の仕組みと方法、社会福祉士の役割について	児童や家庭福祉領域における支援の仕組みと方法、社会福祉士の役割について、理解を深めた。	児童や家庭福祉領域における支援の仕組みと方法、社会福祉士の役割について、ほぼ理解を深めた。	児童や家庭福祉領域における支援の仕組みと方法、社会福祉士の役割について、やや理解を深めた。	児童や家庭福祉領域における支援の仕組みと方法、社会福祉士の役割について、理解することができた。	児童や家庭福祉領域における支援の仕組みと方法、社会福祉士の役割について、理解することができなかった。
児童・家庭及び妊産婦の生活課題を踏まえた適切な支援のあり方について	児童・家庭及び妊産婦の生活課題を踏まえた適切な支援のあり方について、理解を深めた。	児童・家庭及び妊産婦の生活課題を踏まえた適切な支援のあり方について、ほぼ理解を深めた。	児童・家庭及び妊産婦の生活課題を踏まえた適切な支援のあり方について、やや理解を深めた。	児童・家庭及び妊産婦の生活課題を踏まえた適切な支援のあり方について、理解することができた。	児童・家庭及び妊産婦の生活課題を踏まえた適切な支援のあり方について、理解することができなかった。

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『最新社会福祉士養成講座3 児童・家庭福祉』	日本ソ・シャルフ・ク教育学校	中央法規出版	2021年	9784805882467	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						授業の中で関連するものを紹介している。
2						
3						
4						
5						

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・1年		
開講時期	3Q	授業形態	講義	必修・選択	必修
科目名称	児童・家庭福祉 (科目ナンバリング:)				
授業担当者(所属・職名)	飯浜 浩幸(社会福祉学科・教授)	研究室所在	1号館2階		
単位数	2 (単位認定責任者: 飯浜 浩幸)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	児童養護施設児童指導員(ソーシャルワーカー)としての経験を活かし、社会的養護サービスや施設ケア、苦情解決と権利擁護のあり方について講義を行う。		

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	ガイダンス(シラバス確認を含む)、児童・家庭の定義と児童の権利	テキスト学習 第1章(90分)	ノート整理、レポート作成(90分)
2	児童・家庭の生活実態とこれを取り巻く社会環境	テキスト学習 第3章(90分)	ノート整理、レポート作成(90分)
3	児童・家庭福祉の歴史 児童福祉の理念と児童観の変遷	テキスト学習 第2章第1節・第2節(90分)	ノート整理、レポート作成(90分)
4	児童・家庭福祉の歴史 児童・家庭福祉制度の発展過程	テキスト学習 第2章第3節(90分)	ノート整理、レポート作成(90分)
5	児童・家庭に対する法制度 (児童福祉法・児童虐待の防止等に関する法律・DV防止法)	テキスト学習 第4章第1節、第5章第5節・第8節(90分)	ノート整理、レポート作成(90分)
6	児童・家庭に対する法制度 (母子及び父子並びに寡婦福祉法・母子保健法)	テキスト学習 第5章第2節・第7節(90分)	ノート整理、レポート作成(90分)
7	児童・家庭に対する法制度 (児童手当法・児童扶養手当法・特別児童扶養手当法)	文献学習(90分)	ノート整理、レポート作成(90分)
8	児童・家庭に対する法制度 (次世代育成支援対策推進法・少子化対策基本法・赤貧防止法・子ども、子育て支援法・就学前の子どもに関する教育、保育)	テキスト学習 第5章第1節・第3節(90分)	ノート整理、レポート作成(90分)
9	児童・家庭に対する法制度 (子どもの貧困対策の推進に関する法律・子供若者育成支援推進法・いじめ防止対策推進法)	テキスト学習 第5章第4節・第11節(90分)	ノート整理、レポート作成(90分)
10	児童や家庭に対する支援における公私の役割関係及び国、都道府県、市町村の役割	テキスト学習 第4章第2節・第4節(90分)	ノート整理、レポート作成(90分)
11	児童・家庭に対する支援における関係機関(児童相談所)の役割	文献学習(90分)	ノート整理、文献学習(90分)
12	その他の児童や家庭(女性、若者を含む)に対する支援にかかわる組織・団体の役割	文献学習(90分)	ノート整理、文献学習(90分)
13	児童・家庭に対する支援における関係機関に関連する専門職等の役割	テキスト学習 第4章第5節(90分)	ノート整理、文献学習(90分)
14	社会福祉士の役割と児童・家庭に対する支援の実態(多職種連携を含む)	テキスト学習 第6章(90分)	ノート整理、文献学習(90分)
15	まとめ(事例研究)及びレポートに対するフィードバック(解説)を行う	文献学習(90分)	試験に向けた学習(90分)
16	定期試験(60分)、終了後、解説による試験のフィードバック(30分)を行う	試験に向けた学習(90分)	文献学習(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・2年		
開講時期	2Q	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	高齢者に対する支援と (科目ナンバリング：SWS112013)				
授業担当者(所属・職名)	櫻井 美帆子(社会福祉学科・准教授)	研究室所在	1号館4階		
単位数	2 (単位認定責任者： 櫻井 美帆子)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	現場の実務経験から得た事例等を用いて、高齢者福祉に対する理解を深めていく。		

概要

履修目標												
高齢者の生活実態とこれを取り巻く社会情勢・福祉・介護需要について理解を深める。又、これらに関連する様々な制度についても理解する。												
授業の位置づけ												
社会福祉学部のDP「1(1)と(4)と(7)」、「2(2)」に対応する科目。												
到達目標												
高齢者福祉サービスを必要とする利用者を理解し、関する諸制度やサービスの知識を会得する。												
授業全体の内容と概要												
高齢者支援の基盤となる理念・高齢者福祉に関する諸制度及び専門職とのネットワークについて学ぶ。												
授業の方法												
教科書に沿って講義形式で展開していく。講義の際には随時質問を行うので答えること。授業内で小試験と定期試験を行い、返却し解説を行う。												
アクティブラーニングの実施方法												
<table border="1"> <tr> <td>プレゼンテーション</td> <td>グループワーク</td> <td>フィールドワーク</td> <td>PBL</td> </tr> <tr> <td>模擬授業</td> <td>ロールプレイ</td> <td>調査学習</td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td>ディスカッション</td> <td>実験・実習・実技</td> <td>双方向授業</td> <td>その他(授業の方法参照)</td> </tr> </table>	プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL	模擬授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業	ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)
プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL									
模擬授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業									
ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)									
履修上の注意事項												
30分以上の遅刻は欠席とする。												
資格指定科目												
社会福祉士国家試験受験資格課程												

評価方法・基準

評価前提条件					
10回以上の出席が必要。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
60%	0%	0%	20%	0%	20%

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
高齢者の特性を理解できる。	環境との関連性を含め総合的に理解ができる。	概要を理解できる。	助言があれば理解できる。	一部助言があれば理解できる。	助言があっても理解できなかった。
高齢者保健福祉の発展について理解できる。	各々の時代の社会情勢と連動しながら理解できる。	時代の流れに沿って理解できる。	助言があれば理解できる。	一部助言があれば理解できる。	助言があっても理解できなかった。
高齢者支援に関する法や制度の理解ができる。	法や制度を理解した上で、各々の課題について意見を持つことができる。	法や制度の概要について理解できる。	助言があれば理解できる。	一部助言があれば理解できる。	助言があっても理解できなかった。

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『新・社会福祉士養成講座 第13巻 高齢者に対する支援と介護保険制度』	荘村明彦	中央法規出版	2019	9784804858073	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・2年		
開講時期	2Q	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	高齢者に対する支援と (科目ナンバリング: SWS112013)				
授業担当者(所属・職名)	櫻井 美帆子(社会福祉学科・准教授)	研究室所在	1号館4階		
単位数	2 (単位認定責任者: 櫻井 美帆子)		CAP制		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	現場の実務経験から得た事例等を用いて、高齢者福祉に対する理解を深めていく。		

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	シラバスの説明 高齢者の生活実態とこれを取り巻く社会情勢	新聞やインターネットで高齢者福祉に関する記事を読む。(90分)	ノートを整理する。(90分)
2	高齢者の特性 身体的特性	次回の授業範囲に該当する部分の教科書を読む。(90分)	ノートを整理する。(90分)
3	高齢者の特性 精神的特性・社会的特性	次回の授業範囲に該当する部分の教科書を読む。(90分)	ノートを整理する。(90分)
4	高齢者福祉の発展と法体系	次回の授業範囲に該当する部分の教科書を読む。(90分)	ノートを整理する。(90分)
5	高齢者支援の関係法規	次回の授業範囲に該当する部分の教科書を読む。(90分)	ノートを整理する。(90分)
6	介護保険制度の理念と目的	次回の授業範囲に該当する部分の教科書を読む。(90分)	ノートを整理する。(90分)
7	介護保険制度の全体像	次回の授業範囲に該当する部分の教科書を読む。(90分)	ノートを整理する。(90分)
8	中間まとめ(60分の小試験終了後、30分解説を行う)	8回で小試験を行うので1回から7回までを復習する。(90分)	小試験の間違えている部分を中心に復習をする。(90分)
9	介護保険財政	次回の授業範囲に該当する部分の教科書を読む。(90分)	ノートを整理する。(90分)
10	要介護認定の仕組みとプロセス	次回の授業範囲に該当する部分の教科書を読む。(90分)	ノートを整理する。(90分)
11	介護保険の給付 (介護給付、予防給付、市町村特別給付)	次回の授業範囲に該当する部分の教科書を読む。(90分)	ノートを整理する。(90分)
12	介護保険の給付 (指定サービス、特別サービス)	次回の授業範囲に該当する部分の教科書を読む。(90分)	ノートを整理する。(90分)
13	介護報酬	次回の授業範囲に該当する部分の教科書を読む。(90分)	ノートを整理する。(90分)
14	地域支援事業と介護保険事業計画	次回の授業範囲に該当する部分の教科書を読む。(90分)	ノートを整理する。(90分)
15	サービスの質を確保するための仕組み	次回の授業範囲に該当する部分の教科書を読む。(90分)	ノートを整理する。(90分)
16	定期試験(60分の試験終了後、30分解説を行う)	定期試験に向け復習する。(90分)	試験で間違えた部分を中心に復習をする。新聞で高齢者福祉関係の記事に目を通し、教科書、ノートで振り返り理解を深める(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・2年		
開講時期	4Q	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	高齢者に対する支援と (科目ナンバリング: SWS112014)				
授業担当者(所属・職名)	櫻井 美帆子(社会福祉学科・准教授)	研究室所在	1号館4階		
単位数	2 (単位認定責任者: 櫻井 美帆子)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	現場の実務経験から得た事例等を用いて、高齢者福祉に対する理解を深めていく。		

概要

履修目標

社会福祉専門職として、高齢者支援における役割と方法について論じる事が出来る。

授業の位置づけ

社会福祉学科のDP「1(1)と(4)と(7)」、「2(2)」に対応する科目。

到達目標

高齢者の生活実態を把握し、相談援助活動において必要となる介護保険制度や高齢者福祉、介護に関する制度、介護過程における技法を理解できる。

授業全体の内容と概要

高齢者の生活実態を把握し、相談援助活動において必要となる介護保険制度や高齢者福祉、介護に関する制度、介護過程における技法を理解する。高齢者支援に関する社会資源の種類と、具体的な活用方法について学ぶ。

授業の方法

教科書に沿って講義形式で展開していく。講義の際には随時質問を行うので答えること。小試験と定期試験は返却し、解説を行う。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

30分以上の遅刻は欠席とする。

資格指定科目

社会福祉士国家試験受験資格課程

評価方法・基準

評価前提条件

10回以上の出席が無ければ成績評価の対象としない。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
60%	0%	0%	20%	20%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
介護保険制度によるサービスについて理解できる。	サービスの種類、利用対象、利用方法、利用料の説明ができた。	サービスの種類、利用対象、利用方法の説明ができた。	助言により理解できた。	助言により一部理解できた。	助言があっても理解できなかった。
高齢者支援を支援する組織と役割について理解できる。	各々の組織の特性と役割について説明できた。	各々の組織の特性と役割について区別できた。	助言により理解できた。	助言により一部理解できた。	助言があっても理解できなかった。
高齢者支援におけるチームケアについて理解できる。	チームケアの意義と方法を事例を用いて具体的に説明できた。	チームケアの意義と方法について理解できた。	助言により理解できた。	助言により一部理解できた。	助言があっても理解できなかった。

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『新・社会福祉士養成講座 第13巻 高齢者に対する支援と介護保険制度』	荘村 明彦	中央法規出版	2019	9784805858073	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・2年		
開講時期	4Q	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	高齢者に対する支援と (科目ナンバリング: SWS112014)				
授業担当者(所属・職名)	櫻井 美帆子(社会福祉学科・准教授)	研究室所在	1号館4階		
単位数	2 (単位認定責任者: 櫻井 美帆子)		CAP制		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容 現場の実務経験から得た事例等を用いて、高齢者福祉に対する理解を深めていく。			

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	シラバスの説明 介護保険サービスの体系(居宅サービス)	次回の授業内容に該当する部分の教科書を読む。(90分)	ノートを整理する。(90分)
2	介護保険サービスの体系(施設サービス)	次回の授業内容に該当する部分の教科書を読む。(90分)	ノートを整理する。(90分)
3	介護保険サービスの体系(介護予防サービス)	次回の授業内容に該当する部分の教科書を読む。(90分)	ノートを整理する。(90分)
4	介護保険サービスの体系(地域密着型サービス)	次回の授業内容に該当する部分の教科書を読む。(90分)	ノートを整理する。(90分)
5	高齢者を支援する組織と役割(国民健康保険団体連合会)	次回の授業内容に該当する部分の教科書を読む。(90分)	ノートを整理する。(90分)
6	高齢者を支援する組織と役割(地域包括支援センター)	次回の授業内容に該当する部分の教科書を読む。(90分)	ノートを整理する。(90分)
7	中間まとめ(60分の小試験終了後、30分で解説をする)	7回で小試験を行うので1回から6回の全体を復習する。(90分)	小試験で間違えた部分を中心に復習をする。(90分)
8	介護保険制度の最近の動向	新聞やインターネットで、介護保険制度の最近の動向に関する記事を読む。(90分)	ノートを整理する。(90分)
9	高齢者支援の実際と方法	次回の授業内容に該当する部分の教科書を読む。(90分)	ノートを整理する。(90分)
10	介護の概念や対象	次回の授業内容に該当する部分の教科書を読む。(90分)	ノートを整理する。(90分)
11	介護過程	次回の授業内容に該当する部分の教科書を読む。(90分)	ケアマネジメントとの関係性を図解する。(90分)
12	介護の技法	次回の授業内容に該当する部分の教科書を読む。(90分)	ノートを整理する。事例を読む。(90分)
13	認知症ケア	次回の授業内容に該当する部分の教科書を読む。(90分)	ノートを整理する。事例を読む。(90分)
14	終末期ケア	次回の授業内容に該当する部分の教科書を読む。(90分)	ノートを整理する。事例を読む。(90分)
15	住環境	次回の授業内容に該当する部分の教科書を読む。(90分)	ノートを整理する。(90分)
16	定期試験(60分の試験終了後、残りの30分で解説をする)	定期試験に向け復習をする。(90分)	試験で間違えた部分を中心に復習する。(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・3年		
開講時期	1Q	授業形態	講義	必修・選択	必修
科目名称	保健医療サービス (科目ナンバリング: SOM112015)				
授業担当者(所属・職名)	中村 則子(社会福祉学科・特任准教授)		研究室所在	1号館4階	
単位数	2	(単位認定責任者: 中村 則子)	CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	医療機関や看護教育現場での経験を活かし、医療・保健・福祉の現況について話をします。		

概要

履修目標																					
社会福祉活動に必要な医療保険制度や保健医療サービスについて学ぶ。また、保健医療サービスにおける専門職の役割と実際、多職種協働について理解を深める。																					
授業の位置づけ																					
社会福祉学科のDP「1(1)と(2)と(4)と(5)」、「2(1)と(2)と(3)と(4)」に対応する。																					
到達目標																					
保健医療サービスについてその概要と保健医療サービス提供が各専門職の連携をもとになされることを説明できる。																					
授業全体の内容と概要																					
保健医療の概況や基本事項を学ぶ。それぞれの専門職種が担う役割をもとに保健医療サービス提供における連携とはどのようなものか理解を深める。																					
授業の方法																					
講義形式。板書とテキストの活用を基本とし、最新の統計や資料の活用を加え解説を行う。また、まとめや確認のために小試験を課題とし、検察後返却し解答・解説を行いフィードバックする。																					
アクティブラーニングの実施方法																					
<table border="1"> <tr> <td>プレゼンテーション</td> <td></td> <td>グループワーク</td> <td></td> <td>フィールドワーク</td> <td></td> <td>PBL</td> </tr> <tr> <td>模擬授業</td> <td></td> <td>ロールプレイ</td> <td></td> <td>調査学習</td> <td></td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td>ディスカッション</td> <td></td> <td>実験・実習・実技</td> <td></td> <td>双方向授業</td> <td>○</td> <td>その他(授業の方法参照)</td> </tr> </table>	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業	○	その他(授業の方法参照)
プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL															
模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業															
ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業	○	その他(授業の方法参照)															
履修上の注意事項																					
なし																					
資格指定科目																					
社会福祉士国家試験受験資格課程の科目である																					

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数は10回以上					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
60%	0%	0%	20%	10%	10%

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
医療保険制度の理解	医療保険制度創設の目的や保険給付、診療報酬について詳細に理解できた。	医療保険制度創設の目的や保険給付、診療報酬について概ね理解できた。	医療保険制度創設の目的や保険給付、診療報酬について部分的に理解できた。	医療保険制度創設の目的や保険給付、診療報酬について助言により部分的に理解できた。	助言しても理解できなかった。
保健医療サービスの概要	医療・福祉施設、保健所の役割と医療法について把握し、健康増進・保健対策との関連を詳しく説明できた。	医療・福祉施設、保健所の役割と医療法、健康増進・保健対策について概ね説明できた。	医療・福祉施設、保健所の役割と医療法、健康増進・保健対策について部分的に説明できた。	医療・福祉施設、保健所の役割と医療法、健康増進・保健対策について助言により部分的に説明できた。	助言しても説明できなかった。
専門職の役割	保健医療分野における社会福祉士の役割を、患者の権利とチーム医療との関連から詳しく説明できた。	保健医療分野における社会福祉士の役割、患者の権利・チーム医療について概ね説明できた。	保健医療分野における社会福祉士の役割、患者の権利・チーム医療について部分的に説明できた。	保健医療分野における社会福祉士の役割、患者の権利・チーム医療について助言により部分的に説明できた。	助言しても説明できなかった。

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『保健医療サービス』社会福祉士養成講座17	社会福祉士養成講座編集委員会	中央法規	2017年		
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・3年		
開講時期	1Q	授業形態	講義	必修・選択	必修
科目名称	保健医療サービス (科目ナンバリング: SOM112015)				
授業担当者(所属・職名)	中村 則子(社会福祉学科・特任准教授)	研究室所在	1号館4階		
単位数	2 (単位認定責任者: 中村 則子)	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	医療機関や看護教育現場での経験を活かし、医療・保健・福祉の現況について話をします。		

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	シラバス説明 保健医療サービスについて	事前に教科書全体に目をとめておく(90分)	当日の授業で行ったことをまとめておく(90分)
2	医療保険制度	教科書の「医療保険制度」について事前に読んでおく(90分)	当日の授業で行ったことをまとめておく(90分)
3	医療保険制度(保険給付)	教科書の「医療保険制度」について事前に読んでおく(90分)	配布資料を見直しておく(90分)
4	医療保険制度(医療費政策)	教科書の「医療保険制度」について事前に読んでおく(90分)	配布資料を見直しておく(90分)
5	診療報酬	教科書の「診療報酬」を事前に読んでおく(90分)	当日の授業で行ったことをまとめておく(90分)
6	保健医療サービスの概要(医療法)	教科書の「医療サービス」を事前に読んでおく(90分)	当日の授業で行ったことをまとめておく(90分)
7	保健医療サービスの概要(医療・福祉施設と医療計画)	教科書の「医療サービス」を事前に読んでおく(90分)	前半の授業内容を復習しておく(90分)
8	前半のまとめと学習到達度の確認テスト	前半の授業・資料・ノートを見直しテストに臨む(90分)	問題を見直し自己採点しておく(90分)
9	テスト返却。保健医療サービスの概要(衛生行政活動)	教科書の「保健行政」を事前に読んでおく(90分)	返却テスト結果と授業で行ったことを見直し整理しておく(90分)
10	保健医療サービスの概要(健康増進・保健対策)	教科書の「保健行政」を事前に読んでおく(90分)	当日の授業で行ったことをまとめておく(90分)
11	専門職の役割(医療ソーシャルワーカー)	教科書の「専門職について」を事前に読んでおく(90分)	社会福祉士の役割を授業と関連させて復習する(90分)
12	専門職の役割(各専門職とチーム医療)	教科書の「専門職について」を事前に読んでおく(90分)	配布資料を見直しておく(90分)
13	専門職の役割(患者の権利・インフォームドコンセント)	教科書の「専門職について」を事前に読んでおく(90分)	社会福祉士の役割を授業と関連させて復習する(90分)
14	保健医療サービスの連携と実際	教科書の「専門職の連携」について事前に読んでおく(90分)	社会福祉士の役割を授業と関連させて復習する(90分)
15	総括と保健医療サービスの今後の課題	これまで授業で行ったことを振り返り準備しておく(90分)	提案した福祉課題に今後も取り組んでいく(90分)
16	定期試験60分の終了後、残りの時間で解説します。	定期試験準備を行っておく(90分)	試験及び解説を受けて講義全体を振り返る(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・3年		
開講時期	1Q	授業形態	講義	必修・選択	必修
科目名称	障害者に対する支援と (科目ナンバリング：SWS112016)				
授業担当者(所属・職名)	畠山 明子(社会福祉学科・専任講師)	研究室所在	1号館2階		
単位数	2 (単位認定責任者：畠山 明子)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

概要

履修目標

障害者の実態と障害者福祉に関わる制度の変遷、障害者総合支援法をはじめとする様々な法律など障害者福祉の全体像を理解する。障害者福祉におけるソーシャルワーク実践を行う上で求められる知識の習得・定着を図る。

授業の位置づけ

社会福祉学科のDP「1(1)と(2)」、「2(2)と(3)」に対応する。

到達目標

障害者の取り巻く社会情勢と生活実態について、データを用いて説明し課題を指摘できる。
障害者にかかわる法体系について、その成立の過程や概要について理解する。
障害者福祉にかかわる制度の体系とその概要について理解し、課題を指摘できる。

授業全体の内容と概要

障害者の取り巻く社会情勢や生活実態について学ぶ。
障害者にかかわるさまざまな法制度について学ぶ。
障害者福祉にかかわる制度の体系とその概要について学ぶ。

授業の方法

教科書の内容をまとめた配布資料に基づく講義形式になるが、新聞記事の活用や映像資料の視聴、演習(グループワーク等)も取り入れる。配布された資料には板書事項を記述すること。
毎回の感想・質問等を記入するリアクションペーパーを配布・講義終了時に回収し、次回授業開始時にフィードバックを行う。
第10回目の前半には中間テストを実施し、理解度を確認する(出題形式・試験時間等は授業内で説明)。質問等は随時対応。
授業資料の配信等においてMicrosoft Teamsを活用する。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

教科書は毎回持参すること。
配布資料は紛失しないよう、ファイリングする等して管理を徹底すること。
ニュースなどで報道される福祉に関する話題について興味を持つこと。
新聞記事などを題材として社会福祉の現状や課題を検討する等、常に問題意識を持ちながら積極的に授業に参加すること。

資格指定科目

社会福祉士国家試験受験資格課程, 精神保健福祉士国家試験受験資格課程

評価方法・基準

評価前提条件					
出席回数は10回以上あることを評価の前提条件とし、第10回目に実施する中間テスト(30点)、第16回目に実施する定期試験(70点)の結果を総合して評価する。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
70%	0%	0%	30%	0%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
障害者の取り巻く社会情勢と生活実態について、データを用いて説明し課題を指摘できる。	関係するデータを用いて障害者を取り巻く社会情勢と生活実態について具体的に説明・記述できた。	関係するデータを用いて障害者を取り巻く社会情勢と生活実態についておおむね具体的に説明・記述できた。	関係するキーワードを提示することにより障害者を取り巻く社会情勢と生活実態について具体的に説明・記述できた。	関係するキーワードを提示することにより障害者を取り巻く社会情勢と生活実態についておおむね説明・記述できた。	障害者を取り巻く社会情勢と生活実態について関係するキーワードを理解しておらず、説明・記述が不十分だった。
障害者にかかわる法体系について、その成立の過程や概要について理解する。	障害者にかかわる法体系の成立の過程や概要について具体的に説明・記述できた。	障害者にかかわる法体系の成立の過程や概要についておおむね具体的に説明・記述できた。	関係するキーワードを提示することにより障害者にかかわる法体系の成立の過程や概要について具体的に説明・記述できた。	関係するキーワードを提示することにより障害者にかかわる法体系の成立の過程や概要についておおむね説明・記述できた。	障害者にかかわる法体系の成立の過程や概要について関係するキーワードを理解しておらず、説明・記述が不十分だった。
障害者福祉にかかわる制度の体系とその概要について理解し、課題を指摘できる。	障害者にかかわる制度の体系と概要、課題について具体的に説明・記述できた。	障害者にかかわる制度の体系と概要、課題についておおむね具体的に説明・記述できた。	関係するキーワードを提示することにより障害者にかかわる制度の体系と概要、課題について具体的に説明・記述できた。	関係するキーワードを提示することにより障害者にかかわる制度の体系と概要、課題についておおむね説明・記述できた。	障害者にかかわる制度の体系と概要、課題について関係するキーワードを理解しておらず、説明・記述が不十分だった。

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『障害者に対する支援と障害者自立支援制度 第6版』	社会福祉士養成講座編集委員会	中央法規	2019年	978-4-8058-5808-0	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・3年		
開講時期	1Q	授業形態	講義	必修・選択	必修
科目名称	障害者に対する支援と (科目ナンバリング: SWS112016)				
授業担当者(所属・職名)	畠山 明子(社会福祉学科・専任講師)	研究室所在	1号館2階		
単位数	2 (単位認定責任者: 畠山 明子)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	本講義の進め方、シラバスの説明、障害者を取り巻く社会情勢、障害者の生活実態	本講義で学ぶ概要についてシラバスや教科書の内容を確認する。(90分)	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。(90分)
2	障害とは、障害者にかかわる法体系 障害者基本法、身体障害者福祉法、知的障害者福祉法、精神保健福祉法、発達障害者支援法	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。前回授業で指示した用語やテーマについて調べる。(90分)	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。(90分)
3	障害者にかかわる法体系 障害者虐待防止法、医療観察法、パリアフリー新法、障害者差別解消法、障害者雇用促進法、障害者	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。前回授業で指示した用語やテーマについて調べる。(90分)	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。(90分)
4	障害者にかかわる法体系 障害者に関するその他の法体系、各省庁の障害者施策等	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。前回授業で指示した用語やテーマについて調べる。(90分)	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。(90分)
5	障害者自立支援制度 障害者総合支援法の理念・考え方、自立支援給付	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。前回授業で指示した用語やテーマについて調べる。(90分)	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。(90分)
6	障害者自立支援制度 支給決定のプロセス、自立支援医療費	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。前回授業で指示した用語やテーマについて調べる。(90分)	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。(90分)
7	障害者自立支援制度 補装具、地域生活支援事業、障害福祉計画・障害児福祉計画	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示した用語やテーマについて調べる。(90分)	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。(90分)
8	障害者自立支援制度 苦情解決、審査請求、障害者自立支援制度と介護保険制度の関係	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。前回授業で指示した用語やテーマについて調べる。(90分)	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。(90分)
9	障害者自立支援制度 障害児に対する支援、障害児福祉施策の現状	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。前回授業で指示した用語やテーマについて調べる。(90分)	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。(90分)
10	中間テスト、組織・機関の役割	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。前回授業で指示した用語やテーマについて調べる。(90分)	試験で間違えた箇所、理解があいまいだった箇所についてプリント等を確認して見直し、復習を行う。授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。(90分)
11	専門職の役割と実際 障害者に関わる専門職の価値・倫理、障害者総合支援法に基づく主な専門職	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。前回授業で指示した用語やテーマについて調べる。(90分)	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。(90分)
12	専門職の役割と実際 相談支援専門員の役割と実際、サービス管理責任者の役割と実際	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。前回授業で指示した用語やテーマについて調べる。(90分)	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。(90分)
13	専門職の役割と実際 生活支援員等の役割と実際、居宅介護等従業者の役割と実際	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。前回授業で指示した用語やテーマについて調べる。(90分)	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。(90分)
14	多職種連携、ネットワークング	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。前回授業で指示した用語やテーマについて調べる。(90分)	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。(90分)
15	授業のまとめ	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。前回授業で指示した用語やテーマについて調べる。(90分)	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。(90分)
16	定期試験(60分の試験後、残りの30分で解説)	試験に向けて授業内容の振り返りを行う。(90分)	試験で間違えた箇所、理解があいまいだった箇所についてプリント等を確認して見直し、復習を行う。(90分)

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・3年		
開講時期	4Q	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	社会調査の基礎 (科目ナンバリング：SOC112017)				
授業担当者(所属・職名)	杉本 大輔(社会福祉学科・准教授)	研究室所在	1号館2階		
単位数	2 (単位認定責任者：杉本 大輔)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

概要

履修目標
<ul style="list-style-type: none"> 量的調査、質的調査の方法論を習得し、あわせて数学的分析方法を理解する。 ソーシャルワーク技法における評価技法を理解する。 統計法及び社会調査における倫理規定について理解し、ソーシャルワーカーの倫理綱領との共通点を理解する。 社会調査の歴史を理解し、科学的調査技法の発展のプロセスを理解する。

授業の位置づけ
社会福祉学科のDP「1(4)と(5)と(6)」、「2(3)」に対応する。

到達目標
<ul style="list-style-type: none"> 量的調査、質的調査の技法と分析方法を習得できる。 個人情報保護法下における調査倫理を理解できる。 データ分析におけるIT機器と統計ソフトの活用方法を習得できる。

授業全体の内容と概要
<ul style="list-style-type: none"> 社会調査とソーシャルワークの関係の紹介(調査事例を用いる)。 量的調査、質的調査の技法の紹介。 調査倫理と個人情報保護法について関連法規を紹介して関係性を分析。 データ分析方法と統計ソフトの紹介。

授業の方法
15回の講義において教員がプリント・資料を用意して講義形式で行う。また、データ分析においては基礎解析などの数学の基本が必要になるので数学の基本的講義も行う。課題として高校数学の復習を課す。学生からの質問等に随時対応する。

アクティブラーニングの実施方法												
<table border="1"> <tr> <td>プレゼンテーション</td> <td>グループワーク</td> <td>フィールドワーク</td> <td>PBL</td> </tr> <tr> <td>模擬授業</td> <td>ロールプレイ</td> <td>調査学習</td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td>ディスカッション</td> <td>実験・実習・実技</td> <td>双方向授業</td> <td>その他(授業の方法参照)</td> </tr> </table>	プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL	模擬授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業	ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)
プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL									
模擬授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業									
ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)									

履修上の注意事項
主体的・積極的な講義の参加を心掛けること。

資格指定科目
社会福祉士国家試験受験資格課程、精神保健福祉士国家試験受験資格課程、スクール(学校)ソーシャルワーカー資格課程、子育て支援ソーシャルワーカー資格課程

評価方法・基準

評価前提条件												
最低出席回数10回以上をクリアすること。												
評価方法												
<table border="1"> <tr> <th>定期試験</th> <th>レポート</th> <th>課題・作品</th> <th>中間テスト</th> <th>平常点</th> <th>その他</th> </tr> <tr> <td>70%</td> <td>0%</td> <td>0%</td> <td>0%</td> <td>10%</td> <td>20%</td> </tr> </table>	定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他	70%	0%	0%	0%	10%	20%
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他							
70%	0%	0%	0%	10%	20%							

ルーブリック																													
<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">評価項目</th> <th colspan="5">評価基準</th> </tr> <tr> <th>履修項目を超えたレベルを達成している</th> <th>履修項目をほぼ達成している</th> <th>履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している</th> <th>到達目標を達成している</th> <th>到達目標を達成していない</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>量的調査の方法論の理解</td> <td>テーマ設定、仮説の構成と質問文への昇華、回答選択肢の選定、現地調査の方法、統計分析の手順を全て説明できた。</td> <td>テーマ設定、仮説の構成と質問文への昇華、回答選択肢の選定について説明できた。</td> <td>テーマ設定、質問文の作成と注意、回答選択肢の選定、現地調査の方法について説明できた。</td> <td>質問文の作成と現地調査の方法について説明できた。</td> <td>左記の内容が何一つできなかった。</td> </tr> <tr> <td>質的調査の方法論の理解</td> <td>参与者と観察者の位置づけ、記述方法、インタビュー方法、質的分析(KJ法、MGT A法)についてすべて説明できた。</td> <td>参与者と観察者の位置づけ、記述方法、インタビュー方法を質的分析の一つを説明できた。</td> <td>参与者と観察者の位置づけ、記述方法、インタビュー方法について説明できた。</td> <td>面接・観察について説明できた。</td> <td>左記の内容が何一つできなかった。</td> </tr> <tr> <td>社会調査者の倫理規定についての理解</td> <td>社会調査者の倫理規定と社会福祉士の倫理綱領との共通点と各々の独自性を全て言語で説明できた。</td> <td>社会調査者の倫理規定と社会福祉士の倫理綱領各々の独自性について言語で説明できた。</td> <td>社会調査者の倫理規定と社会福祉士の倫理綱領各々の共通点について言語で説明できた。</td> <td>社会調査者の倫理規定について言語で説明できた。</td> <td>社会調査者の倫理規定についての説明ができなかった。</td> </tr> </tbody> </table>	評価項目	評価基準					履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない	量的調査の方法論の理解	テーマ設定、仮説の構成と質問文への昇華、回答選択肢の選定、現地調査の方法、統計分析の手順を全て説明できた。	テーマ設定、仮説の構成と質問文への昇華、回答選択肢の選定について説明できた。	テーマ設定、質問文の作成と注意、回答選択肢の選定、現地調査の方法について説明できた。	質問文の作成と現地調査の方法について説明できた。	左記の内容が何一つできなかった。	質的調査の方法論の理解	参与者と観察者の位置づけ、記述方法、インタビュー方法、質的分析(KJ法、MGT A法)についてすべて説明できた。	参与者と観察者の位置づけ、記述方法、インタビュー方法を質的分析の一つを説明できた。	参与者と観察者の位置づけ、記述方法、インタビュー方法について説明できた。	面接・観察について説明できた。	左記の内容が何一つできなかった。	社会調査者の倫理規定についての理解	社会調査者の倫理規定と社会福祉士の倫理綱領との共通点と各々の独自性を全て言語で説明できた。	社会調査者の倫理規定と社会福祉士の倫理綱領各々の独自性について言語で説明できた。	社会調査者の倫理規定と社会福祉士の倫理綱領各々の共通点について言語で説明できた。	社会調査者の倫理規定について言語で説明できた。	社会調査者の倫理規定についての説明ができなかった。
評価項目		評価基準																											
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない																								
量的調査の方法論の理解	テーマ設定、仮説の構成と質問文への昇華、回答選択肢の選定、現地調査の方法、統計分析の手順を全て説明できた。	テーマ設定、仮説の構成と質問文への昇華、回答選択肢の選定について説明できた。	テーマ設定、質問文の作成と注意、回答選択肢の選定、現地調査の方法について説明できた。	質問文の作成と現地調査の方法について説明できた。	左記の内容が何一つできなかった。																								
質的調査の方法論の理解	参与者と観察者の位置づけ、記述方法、インタビュー方法、質的分析(KJ法、MGT A法)についてすべて説明できた。	参与者と観察者の位置づけ、記述方法、インタビュー方法を質的分析の一つを説明できた。	参与者と観察者の位置づけ、記述方法、インタビュー方法について説明できた。	面接・観察について説明できた。	左記の内容が何一つできなかった。																								
社会調査者の倫理規定についての理解	社会調査者の倫理規定と社会福祉士の倫理綱領との共通点と各々の独自性を全て言語で説明できた。	社会調査者の倫理規定と社会福祉士の倫理綱領各々の独自性について言語で説明できた。	社会調査者の倫理規定と社会福祉士の倫理綱領各々の共通点について言語で説明できた。	社会調査者の倫理規定について言語で説明できた。	社会調査者の倫理規定についての説明ができなかった。																								

教科書・参考文献・資料等

教科書																																										
<table border="1"> <thead> <tr> <th>No</th> <th>書籍名</th> <th>著者</th> <th>出版社</th> <th>出版年</th> <th>ISBN</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>4</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>5</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>	No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考	1							2							3							4							5						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考																																				
1																																										
2																																										
3																																										
4																																										
5																																										

参考文献・資料等																																										
<table border="1"> <thead> <tr> <th>No</th> <th>書籍名</th> <th>著者</th> <th>出版社</th> <th>出版年</th> <th>ISBN</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>4</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>5</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>	No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考	1							2							3							4							5						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考																																				
1																																										
2																																										
3																																										
4																																										
5																																										

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・3年		
開講時期	4Q	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	社会調査の基礎 (科目ナンバリング: SOC112017)				
授業担当者(所属・職名)	杉本 大輔(社会福祉学科・准教授)	研究室所在	1号館2階		
単位数	2 (単位認定責任者: 杉本 大輔)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	シラバスの説明 社会調査とソーシャルワーク技法の関連	基礎数学の復習(90分)	配布プリントの熟読(90分)
2	量的調査の概要	前回プリントの読み込み(90分)	配布プリントの熟読(90分)
3	量的調査技法1(テーマの設定)	前回プリントの読み込み(90分)	配布プリントの熟読(90分)
4	量的調査技法2(仮説の設定)	前回プリントの読み込み(90分)	配布プリントの熟読(90分)
5	量的調査技法3(質問文の作成)	前回プリントの読み込み(90分)	配布プリントの熟読(90分)
6	量的調査技法4(サンプリング)	前回プリントの読み込み(90分)	配布プリントの熟読(90分)
7	量的調査技法5(プリテストと本調査、その注意点)	前回プリントの読み込み(90分)	配布プリントの熟読(90分)
8	量的調査技法6(データ解析法 IT機器の活用法)	前回プリントの読み込み1次関数2次関数の復習(90分)	配布プリントの熟読 量的調査全体の復習(90分)
9	質的調査技法1(フィールドの設定)	前回プリントの読み込み(90分)	配布プリントの熟読(90分)
10	質的調査技法2(フィールドにおけるサンプリング)	前回プリントの読み込み(90分)	配布プリントの熟読(90分)
11	質的調査技法3(フィールドにおける記録と聞き取り)	前回プリントの読み込み(90分)	配布プリントの熟読(90分)
12	質的調査技法4(質的分析 グラウンデッドセオリアプローチを中心に)	前回プリントの読み込み(90分)	配布プリントの熟読(90分)
13	質的調査技法5(質的調査事例の紹介1)	前回プリントの読み込み(90分)	配布プリントの熟読 事例の熟読(90分)
14	質的調査技法6(質的調査事例の紹介2)	前回プリントの読み込み(90分)	配布プリントの熟読 事例の熟読(90分)
15	調査倫理と個人情報保護法との関連	前回プリントの読み込み(90分)	講義全体の総復習(90分)
16	定期試験(60分試験終了後30分解説をする)	講義全体の総復習(90分)	自己総括(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・4年		
開講時期	1Q	授業形態	講義	必修・選択	必修
科目名称	福祉行財政と福祉計画 (科目ナンバリング: SWS112018, SWS423087, SWS523098)				
授業担当者(所属・職名)	小早川 俊哉(社会福祉学部・教授)	研究室所在	1号館2階		
単位数	2 (単位認定責任者: 小早川 俊哉)		CAP制		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

概要

履修目標
福祉行政、福祉財政および福祉計画、それぞれの主体と目的はもちろん、方法と課題についても理解できるようになる。世界情勢や日本の社会構造の変化が、社会サービス・システムの構造的変化に大きく関連することを理解できるようになる。

授業の位置づけ
社会福祉学科のD Pの「1(4)と(5)」、「2(2)と(3)」に対応する。

到達目標
福祉行政の主体と目的を理解できる。福祉財政の主体と現状を理解できる。福祉計画の根拠法・主体・目的・方法を理解できる。大学の授業としての論理的考察および、社会福祉士・精神保健福祉士国家試験共通科目での出題傾向をも把握できる。

授業全体の内容と概要
国、都道府県、市町村および行政組織・団体の福祉的役割、その裏付けとなる財政のあり方と計画の目的・意義を学ぶことから、マクロ的視点での社会サービス・システムを理解する。

授業の方法
ポイントを記したレジュメ(プリント)を配布する。開始5-10分は、前回の復習を口頭試問形式で行う。その後は、配布済みレジュメに従い空き時間に重要事項をメモする形の講義形式をとるが、理解度の確認のため随時問いかけをさせてもらう。質問には随時対応する。復習を兼ねて、授業中のメモをテキストなどを参考にノートにまとめることを推奨する。中間試験(論述)を採点后返す際、解答の仕方など個別に指導する。

アクティブラーニングの実施方法						
	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク	P B L
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習	反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業	○ その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項
これまでに修得した他の授業との関わりに注意する。授業中の積極性は、授業終了時に名前を呼んでの出席確認を行うことで判定する。遅刻3回で欠席1回とみなす。

資格指定科目
社会福祉士国家試験受験資格課程、精神保健福祉士国家試験受験資格課程、保育士養成課程、スクール(学校)ソーシャルワーカー資格課程、子育て支援ソーシャルワーカー資格課程

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数は、10回以上。積極的な授業参加(発言する、質問する、回答する、メモを取る、など)を平常点とする。論述の中間試験と定期試験、平常点の総計で単位認定を行う。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
50%	0%	0%	25%	25%	0%

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
福祉行政の理解	国、都道府県、市町村の役割と相互の関係を理解するだけでなく、その課題に気付き対応策を説明できた。	国、都道府県、市町村の役割と相互の関係を理解するだけでなく、その課題を説明することができた。	国、都道府県、市町村の役割と相互の関係を説明することができた。	国、都道府県、市町村の役割を理解することができた。	国、都道府県、市町村の役割を理解することができなかった。
福祉財政の理解	福祉財政と所得再分配を関連付けて説明することができた。	福祉財政全体として、財源と支出の課題を説明することができた。	国、都道府県、市町村の財政状況を理解するとともに、その財源と支出を説明することができた。	国、都道府県、市町村の財政状況を理解することができた。	国、都道府県、市町村の財政状況を理解することができなかった。
福祉計画の理解	現実の地域福祉に福祉計画がどのような役割を担っているかを説明することができた。	地域福祉計画と他の福祉計画に整合性が必要な理由を説明することができた。	国の方針、都道府県計画と市町村計画の相互関連を説明することができた。	個々の福祉計画の主体と目的を理解することができた。	個々の福祉計画の主体と目的を理解することができなかった。

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・4年		
開講時期	1Q	授業形態	講義	必修・選択	必修
科目名称	福祉行財政と福祉計画 (科目ナンバリング: SWS112018, SWS423087, SWS523098)				
授業担当者(所属・職名)	小早川 俊哉(社会福祉学部・教授)	研究室所在	1号館2階		
単位数	2 (単位認定責任者: 小早川 俊哉)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	オリエンテーション(シラバスの説明を含む)、制度改正と行財政のイメージング	シラバスの読み込みと制度改革を調べてくる(90分)	用語の整理とメモ等をノートにまとめる(90分)
2	福祉行政の実施体制(1) 統治機構、行政と法規	参考となるテキストを読み本授業のイメージを持つようにする(90分)	用語の整理とメモ等をノートにまとめる(90分)
3	福祉行政の実施体制(2) 国、都道府県、市町村の役割	参考となるテキストを読み本授業のイメージを持つようにする(90分)	用語の整理とメモ等をノートにまとめる(90分)
4	福祉行政の実施体制(3) 組織・団体と専門職の役割	参考となるテキストを読み本授業のイメージを持つようにする(90分)	用語の整理とメモ等をノートにまとめる(90分)
5	福祉財政(1) 税と社会保険料および所得再分配	参考となるテキストを読み本授業のイメージを持つようにする(90分)	用語の整理とメモ等をノートにまとめる(90分)
6	福祉財政(2) 国家財政(社会保障財政)、地方公共団体の財政	参考となるテキストを読み本授業のイメージを持つようにする(90分)	用語の整理とメモ等をノートにまとめる(90分)
7	福祉財政(3) 国民負担率、給付付き税額控除等	参考となるテキストを読み本授業のイメージを持つようにする(90分)	今回のノートをまとめるとともに中間試験のため見直しを行う(90分)
8	福祉行財政の振り返りと中間試験	中間試験の準備をする(90分)	自身の解答を振り返る(90分)
9	中間試験結果からの個別課題とアドバイス 福祉計画の意義と目的	参考となるテキストを読み本授業のイメージを持つようにする(90分)	今回のノートをまとめるとともに自身の課題克服の方法を考える(90分)
10	福祉計画の主体と方法	参考となるテキストを読み本授業のイメージを持つようにする(90分)	用語の整理とメモ等をノートにまとめる(90分)
11	福祉計画の実際(1) 高齢者保健福祉、介護保険	参考となるテキストを読み本授業のイメージを持つようにする(90分)	用語の整理とメモ等をノートにまとめる(90分)
12	福祉計画の実際(2) 障害者福祉、保健医療	参考となるテキストを読み本授業のイメージを持つようにする(90分)	用語の整理とメモ等をノートにまとめる(90分)
13	福祉計画の実際(3) 子ども家庭福祉、次世代育成、男女共同参画・DV	参考となるテキストを読み本授業のイメージを持つようにする(90分)	用語の整理とメモ等をノートにまとめる(90分)
14	福祉計画の実際(4) 地域福祉計画、その他	参考となるテキストを読み本授業のイメージを持つようにする(90分)	用語の整理とメモ等をノートにまとめる(90分)
15	まとめとして振り返りと新たな動き	市町村総合計画と福祉計画の関係を確認する(90分)	定期試験に向け自身のノートの最終チェックを行う(90分)
16	定期試験(60分の試験終了後、試験のポイントを解説)	定期試験の準備をする(90分)	試験の振り返り(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・4年		
開講時期	1Q	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	福祉サービスの組織と経 (科目ナンバリング：SWS112019)				
授業担当者(所属・職名)	大島 康雄 (社会福祉学科・准教授)	研究室所在	1号館2階		
単位数	2 (単位認定責任者：大島 康雄)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	独立型社会福祉士事務所を営んでいる教員が準市場における、社会福祉士のビジネスモデルを提示していきます。		

概要

履修目標	福祉サービスでは組織論や経営論が必要になっている背景を理解する。将来、社会福祉領域で活躍する時に必要な知識であるため、組織論、リーダーシップ、経営論などを理解する。							
授業の位置づけ	社会福祉学科のDP「1(1)と(3)と(4)」、「2(1)」に対応する。							
到達目標	リーダーシップ論、組織論、経営論など説明できる。福祉組織の課題を具体的に述べることができる。							
授業全体の内容と概要	福祉サービスに係る種々の組織や団体について理解し、組織のマネジメントに関する基礎理論、多様な知識にもとづくマネジメント論の観点から経営戦略のあり方、適切なサービス提供体制などを取り上げる。							
授業の方法	授業では教科書と板書を活用しながら知識を獲得していきます(プレゼンテーション・グループワーク・ディスカッション含む)。また、確認テストを時間内に実施し、フィードバックとして回収後、回答の解説を行う。							
アクティブラーニングの実施方法	○	プレゼンテーション	○	グループワーク	○	フィールドワーク	○	PBL
		模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	○	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)
履修上の注意事項	なし							
資格指定科目	社会福祉士国家試験受験資格課程							

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数は10回以上の出席が必要。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
50%	0%	0%	30%	20%	0%

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
授業に参加し、教科書や板書、確認テストを受けている。	15回以上授業に参加し、積極的に学習をできた。	14回以上授業に参加し、積極的に学習をできた。	13回以上授業に参加し、積極的に学習をできた。	12~10回以上授業に参加し、積極的に学習ができた。	9回以下しか授業しておらず、消極的な学習しかできなかった。
確認テストの内容を理解し、定期試験の成績が60点以上である。	確認テストを受けて、定期試験の成績が100~90点獲得できた。	確認テストを受けて、定期試験の成績が89~80点以上獲得できた。	確認テストを受けて、定期試験の成績が79~70点以上獲得できた。	確認テストを受けて、定期試験の成績が69~60点以上獲得できた。	確認テストをある程度受け、定期試験の成績が59点以下しか取れなかった。
教科書、資料の内容を理解するため事前学習を行い、授業内で質問や自分の意見をプレゼンテーションする。	事前学習を行い、授業中に5回以上質問や意見を述べることができた。	事前学習を行い、授業中に4回質問や意見を述べることができた。	事前学習を行い、授業中に3回質問や意見を述べることができた。	事前学習を行い、授業中に2回質問や意見を述べることができた。	事前学習や質問、意見などを答えることが出来なかった。

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『福祉サービスの組織と経営』	社会福祉士養成講座編集委員会	中央法規	2017年	978-4-8058-5431-0	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・4年		
開講時期	1Q	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	福祉サービスの組織と経 (科目ナンバリング: SWS112019)				
授業担当者(所属・職名)	大島 康雄(社会福祉学科・准教授)	研究室所在	1号館2階		
単位数	2 (単位認定責任者: 大島 康雄)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	独立型社会福祉士事務所を営んでいる教員が準市場における、社会福祉士のビジネスモデルを提示していきます。		

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	シラバスの説明、福祉サービスにおけるマネジメント	事前に教科書を確認(90分)	ノートを整理し、質問事項を考える(90分)
2	福祉サービスに係る組織・団体(1) 法人とは	事前に教科書を確認(90分)	ノートを整理し、質問事項を考える(90分)
3	福祉サービスに係る組織・団体(2) 社会福祉法人	事前に教科書を確認(90分)	ノートを整理し、質問事項を考える(90分)
4	福祉サービスに係る組織・団体(3) 医療法人	事前に教科書を確認(90分)	ノートを整理し、質問事項を考える(90分)
5	福祉サービスに係る組織・団体(4) NPO法人その他	事前に教科書を確認(90分)	ノートを整理し、質問事項を考える(90分)
6	組織のマネジメントに関連する基礎理論(1) マネジメントの本質	事前に教科書を確認(90分)	ノートを整理し、質問事項を考える(90分)
7	組織のマネジメントに関連する基礎理論(2) 組織のあり方	事前に教科書を確認(90分)	ノートを整理し、質問事項を考える(90分)
8	組織のマネジメントに関連する基礎理論(3) 意思決定論	事前に教科書を確認(90分)	ノートを整理し、質問事項を考える(90分)
9	組織のマネジメントに関連する基礎理論(4) リーダーシップ論	事前に教科書を確認(90分)	ノートを整理し、質問事項を考える(90分)
10	経営戦略の構築(1) サービスマネジメント	事前に教科書を確認(90分)	ノートを整理し、質問事項を考える(90分)
11	経営戦略の構築(2) リスクマネジメント	事前に教科書を確認(90分)	ノートを整理し、質問事項を考える(90分)
12	経営戦略の構築(3) ヒューマンリソースマネジメント【人材採用】	事前に教科書を確認(90分)	ノートを整理し、質問事項を考える(90分)
13	経営戦略の構築(4) ヒューマンリソースマネジメント【能力開発】	事前に教科書を確認(90分)	ノートを整理し、質問事項を考える(90分)
14	経営戦略の構築(5) ヒューマンリソースマネジメント【評価処遇】	事前に教科書を確認(90分)	ノートを整理し、質問事項を考える(90分)
15	経営戦略の構築(6) 会計・財務マネジメント【会計基準】	事前に教科書を確認(90分)	ノートを整理し、質問事項を考える(90分)
16	テスト及び試験問題の解説	確認テストの学習(90分)	テストの復習(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・4年		
開講時期	2Q	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	就労支援サービス (科目ナンバリング：SWS112020)				
授業担当者(所属・職名)	畠山 明子(社会福祉学科・専任講師)	研究室所在	1号館2階		
単位数	1 (単位認定責任者：畠山 明子)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

概要

履修目標
働くことの意味を考えながら、就労することに対する支援が必要な人たちとはどのような生活課題のある人たちなのか、どのような制度や機関、専門職が関わるのか、さらに、ソーシャルワークの専門職としての社会福祉士はどのように就労支援を展開しているのかを理解する。

授業の位置づけ
社会福祉学科のDP「1(1)と(2)」、「2(2)」に対応する。

到達目標
労働環境の現状について、データを用いて説明し課題を指摘できる。 就労支援にかかわる法体系について、その概要について理解する。 障害者の就労支援にかかわる制度の体系とその概要について理解し、課題を指摘できる。 低所得者等の就労支援にかかわる制度の体系とその概要について理解し、課題を指摘できる。 高齢者の就労支援にかかわる制度の体系とその概要について理解し、課題を指摘できる。

授業全体の内容と概要
労働環境の現状と関連する法制度について学ぶ。 障害者の就労支援について学ぶ。 低所得者等の就労支援について学ぶ。 高齢者の就労支援について学ぶ。

授業の方法
配布資料に基づく講義形式になるが、新聞記事の活用や映像資料の視聴、演習(グループワーク等)も取り入れる。配布された資料には板書事項を記述すること。 毎回の授業終了時、授業内容に関する小テスト(5問出題)を実施する。 毎回の感想・質問等を記入するリアクションペーパーを配布・講義終了時に回収し、次回授業開始時にフィードバックを行う。 授業資料の配信等、Microsoft Teamsを活用する。

アクティブラーニングの実施方法															
<table border="1"> <tr> <td></td> <td>プレゼンテーション</td> <td>グループワーク</td> <td>フィールドワーク</td> <td>PBL</td> </tr> <tr> <td></td> <td>模擬授業</td> <td>ロールプレイ</td> <td>調査学習</td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td></td> <td>ディスカッション</td> <td>実験・実習・実技</td> <td>双方向授業</td> <td>その他(授業の方法参照)</td> </tr> </table>		プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL		模擬授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業		ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)
	プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL											
	模擬授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業											
	ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)											

履修上の注意事項
配布資料は紛失しないよう、ファイリングする等して管理を徹底すること。 ニュース等で報道される福祉に関わる話題について興味を持つこと。 新聞記事等を題材として社会福祉の現状や課題を検討する等、常に問題意識を持ちながら積極的に授業に参加すること。

資格指定科目
社会福祉士国家試験受験資格課程

評価方法・基準

評価前提条件												
出席回数は5回以上あることを評価の前提条件とし、毎回の小テストの結果(8回×5点)、第8回に実施する定期試験(60点)の結果を総合して評価する。												
評価方法												
<table border="1"> <tr> <th>定期試験</th> <th>レポート</th> <th>課題・作品</th> <th>中間テスト</th> <th>平常点</th> <th>その他</th> </tr> <tr> <td>60%</td> <td>0%</td> <td>0%</td> <td>0%</td> <td>0%</td> <td>40%</td> </tr> </table>	定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他	60%	0%	0%	0%	0%	40%
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他							
60%	0%	0%	0%	0%	40%							

ルーブリック																																									
<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">評価項目</th> <th colspan="5">評価基準</th> </tr> <tr> <th>履修項目を超えたレベルを達成している</th> <th>履修項目をほぼ達成している</th> <th>履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している</th> <th>到達目標を達成している</th> <th>到達目標を達成していない</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>労働環境の現状について、データを用いて説明し課題を指摘できる。</td> <td>関係するデータを用いて労働環境の現状と課題について具体的に説明・記述できた。</td> <td>関係するデータを用いて労働環境の現状と課題についておおむね具体的に説明・記述できた。</td> <td>関係するキーワードを提示することにより労働環境の現状と課題について具体的に説明・記述できた。</td> <td>関係するキーワードを提示することにより労働環境の現状と課題についておおむね説明・記述できた。</td> <td>労働環境の現状と課題について関係するキーワードを説明してあらず、説明・記述が不十分だった。</td> </tr> <tr> <td>就労支援にかかわる法体系について、その概要について理解する。</td> <td>就労支援にかかわる法体系の概要について具体的に説明・記述できた。</td> <td>就労支援にかかわる法体系の概要についておおむね具体的に説明・記述できた。</td> <td>関係するキーワードを提示することにより就労支援にかかわる法体系の概要について具体的に説明・記述できた。</td> <td>関係するキーワードを提示することにより就労支援にかかわる法体系の概要についておおむね説明・記述できた。</td> <td>就労支援にかかわる法体系の概要について関係するキーワードを理解してあらず、説明・記述が不十分だった。</td> </tr> <tr> <td>障害者の就労支援にかかわる制度の体系とその概要を指摘できる。</td> <td>障害者の就労支援にかかわる制度の体系と概要、課題について具体的に説明・記述できた。</td> <td>障害者の就労支援にかかわる制度の体系とその概要についておおむね具体的に説明・記述できた。</td> <td>関係するキーワードを提示することにより障害者の就労支援にかかわる制度の体系とその概要、課題について具体的に説明・記述できた。</td> <td>関係するキーワードを提示することにより障害者の就労支援にかかわる制度の体系とその概要、課題についておおむね説明・記述できた。</td> <td>障害者の就労支援にかかわる制度の体系とその概要、課題について関係するキーワードを理解してあらず、説明・記述が不十分だった。</td> </tr> <tr> <td>低所得者等の就労支援にかかわる制度の体系とその概要を指摘できる。</td> <td>低所得者等の就労支援にかかわる制度の体系と概要、課題について具体的に説明・記述できた。</td> <td>低所得者等の就労支援にかかわる制度の体系とその概要についておおむね具体的に説明・記述できた。</td> <td>関係するキーワードを提示することにより低所得者等の就労支援にかかわる制度の体系とその概要、課題について具体的に説明・記述できた。</td> <td>関係するキーワードを提示することにより低所得者等の就労支援にかかわる制度の体系とその概要、課題についておおむね説明・記述できた。</td> <td>低所得者等の就労支援にかかわる制度の体系とその概要、課題について関係するキーワードを理解してあらず、説明・記述が不十分だった。</td> </tr> <tr> <td>高齢者の就労支援にかかわる制度の体系とその概要を指摘できる。</td> <td>高齢者の就労支援にかかわる制度の体系と概要、課題について具体的に説明・記述できた。</td> <td>高齢者の就労支援にかかわる制度の体系とその概要についておおむね具体的に説明・記述できた。</td> <td>関係するキーワードを提示することにより高齢者の就労支援にかかわる制度の体系とその概要、課題について具体的に説明・記述できた。</td> <td>関係するキーワードを提示することにより高齢者の就労支援にかかわる制度の体系とその概要、課題についておおむね説明・記述できた。</td> <td>高齢者の就労支援にかかわる制度の体系とその概要、課題について関係するキーワードを理解してあらず、説明・記述が不十分だった。</td> </tr> </tbody> </table>	評価項目	評価基準					履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない	労働環境の現状について、データを用いて説明し課題を指摘できる。	関係するデータを用いて労働環境の現状と課題について具体的に説明・記述できた。	関係するデータを用いて労働環境の現状と課題についておおむね具体的に説明・記述できた。	関係するキーワードを提示することにより労働環境の現状と課題について具体的に説明・記述できた。	関係するキーワードを提示することにより労働環境の現状と課題についておおむね説明・記述できた。	労働環境の現状と課題について関係するキーワードを説明してあらず、説明・記述が不十分だった。	就労支援にかかわる法体系について、その概要について理解する。	就労支援にかかわる法体系の概要について具体的に説明・記述できた。	就労支援にかかわる法体系の概要についておおむね具体的に説明・記述できた。	関係するキーワードを提示することにより就労支援にかかわる法体系の概要について具体的に説明・記述できた。	関係するキーワードを提示することにより就労支援にかかわる法体系の概要についておおむね説明・記述できた。	就労支援にかかわる法体系の概要について関係するキーワードを理解してあらず、説明・記述が不十分だった。	障害者の就労支援にかかわる制度の体系とその概要を指摘できる。	障害者の就労支援にかかわる制度の体系と概要、課題について具体的に説明・記述できた。	障害者の就労支援にかかわる制度の体系とその概要についておおむね具体的に説明・記述できた。	関係するキーワードを提示することにより障害者の就労支援にかかわる制度の体系とその概要、課題について具体的に説明・記述できた。	関係するキーワードを提示することにより障害者の就労支援にかかわる制度の体系とその概要、課題についておおむね説明・記述できた。	障害者の就労支援にかかわる制度の体系とその概要、課題について関係するキーワードを理解してあらず、説明・記述が不十分だった。	低所得者等の就労支援にかかわる制度の体系とその概要を指摘できる。	低所得者等の就労支援にかかわる制度の体系と概要、課題について具体的に説明・記述できた。	低所得者等の就労支援にかかわる制度の体系とその概要についておおむね具体的に説明・記述できた。	関係するキーワードを提示することにより低所得者等の就労支援にかかわる制度の体系とその概要、課題について具体的に説明・記述できた。	関係するキーワードを提示することにより低所得者等の就労支援にかかわる制度の体系とその概要、課題についておおむね説明・記述できた。	低所得者等の就労支援にかかわる制度の体系とその概要、課題について関係するキーワードを理解してあらず、説明・記述が不十分だった。	高齢者の就労支援にかかわる制度の体系とその概要を指摘できる。	高齢者の就労支援にかかわる制度の体系と概要、課題について具体的に説明・記述できた。	高齢者の就労支援にかかわる制度の体系とその概要についておおむね具体的に説明・記述できた。	関係するキーワードを提示することにより高齢者の就労支援にかかわる制度の体系とその概要、課題について具体的に説明・記述できた。	関係するキーワードを提示することにより高齢者の就労支援にかかわる制度の体系とその概要、課題についておおむね説明・記述できた。	高齢者の就労支援にかかわる制度の体系とその概要、課題について関係するキーワードを理解してあらず、説明・記述が不十分だった。
評価項目		評価基準																																							
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない																																				
労働環境の現状について、データを用いて説明し課題を指摘できる。	関係するデータを用いて労働環境の現状と課題について具体的に説明・記述できた。	関係するデータを用いて労働環境の現状と課題についておおむね具体的に説明・記述できた。	関係するキーワードを提示することにより労働環境の現状と課題について具体的に説明・記述できた。	関係するキーワードを提示することにより労働環境の現状と課題についておおむね説明・記述できた。	労働環境の現状と課題について関係するキーワードを説明してあらず、説明・記述が不十分だった。																																				
就労支援にかかわる法体系について、その概要について理解する。	就労支援にかかわる法体系の概要について具体的に説明・記述できた。	就労支援にかかわる法体系の概要についておおむね具体的に説明・記述できた。	関係するキーワードを提示することにより就労支援にかかわる法体系の概要について具体的に説明・記述できた。	関係するキーワードを提示することにより就労支援にかかわる法体系の概要についておおむね説明・記述できた。	就労支援にかかわる法体系の概要について関係するキーワードを理解してあらず、説明・記述が不十分だった。																																				
障害者の就労支援にかかわる制度の体系とその概要を指摘できる。	障害者の就労支援にかかわる制度の体系と概要、課題について具体的に説明・記述できた。	障害者の就労支援にかかわる制度の体系とその概要についておおむね具体的に説明・記述できた。	関係するキーワードを提示することにより障害者の就労支援にかかわる制度の体系とその概要、課題について具体的に説明・記述できた。	関係するキーワードを提示することにより障害者の就労支援にかかわる制度の体系とその概要、課題についておおむね説明・記述できた。	障害者の就労支援にかかわる制度の体系とその概要、課題について関係するキーワードを理解してあらず、説明・記述が不十分だった。																																				
低所得者等の就労支援にかかわる制度の体系とその概要を指摘できる。	低所得者等の就労支援にかかわる制度の体系と概要、課題について具体的に説明・記述できた。	低所得者等の就労支援にかかわる制度の体系とその概要についておおむね具体的に説明・記述できた。	関係するキーワードを提示することにより低所得者等の就労支援にかかわる制度の体系とその概要、課題について具体的に説明・記述できた。	関係するキーワードを提示することにより低所得者等の就労支援にかかわる制度の体系とその概要、課題についておおむね説明・記述できた。	低所得者等の就労支援にかかわる制度の体系とその概要、課題について関係するキーワードを理解してあらず、説明・記述が不十分だった。																																				
高齢者の就労支援にかかわる制度の体系とその概要を指摘できる。	高齢者の就労支援にかかわる制度の体系と概要、課題について具体的に説明・記述できた。	高齢者の就労支援にかかわる制度の体系とその概要についておおむね具体的に説明・記述できた。	関係するキーワードを提示することにより高齢者の就労支援にかかわる制度の体系とその概要、課題について具体的に説明・記述できた。	関係するキーワードを提示することにより高齢者の就労支援にかかわる制度の体系とその概要、課題についておおむね説明・記述できた。	高齢者の就労支援にかかわる制度の体系とその概要、課題について関係するキーワードを理解してあらず、説明・記述が不十分だった。																																				

教科書・参考文献・資料等

教科書																																										
<table border="1"> <thead> <tr> <th>No</th> <th>書籍名</th> <th>著者</th> <th>出版社</th> <th>出版年</th> <th>ISBN</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>4</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>5</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>	No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考	1							2							3							4							5						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考																																				
1																																										
2																																										
3																																										
4																																										
5																																										

参考文献・資料等																																										
<table border="1"> <thead> <tr> <th>No</th> <th>書籍名</th> <th>著者</th> <th>出版社</th> <th>出版年</th> <th>ISBN</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>4</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>5</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>	No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考	1							2							3							4							5						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考																																				
1																																										
2																																										
3																																										
4																																										
5																																										

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・4年		
開講時期	2Q	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	就労支援サービス (科目ナンバリング: SWS112020)				
授業担当者(所属・職名)	畠山 明子(社会福祉学科・専任講師)	研究室所在	1号館2階		
単位数	1 (単位認定責任者: 畠山 明子)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	本講義の進め方、シラバスの説明、人が働くことの意味、労働の動向と法制度	本講義で学ぶ概要についてシラバスの内容を確認する。(90分)	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。(90分)
2	障害者の就労支援 障害者の就労状況と就労支援制度	前回授業で指示した用語やテーマについて調べる。(90分)	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。(90分)
3	障害者の就労支援 障害者の就労支援機関と専門職	前回授業で指示した用語やテーマについて調べる。(90分)	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。(90分)
4	低所得者等の就労支援 低所得者等の就労状況と就労支援制度	前回授業で指示した用語やテーマについて調べる。(90分)	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。(90分)
5	低所得者等の就労支援 低所得者等の就労支援機関と専門職	前回授業で指示した用語やテーマについて調べる。(90分)	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。(90分)
6	高齢者の就労支援 高齢者の就労状況と就労支援制度	前回授業で指示した用語やテーマについて調べる。(90分)	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。(90分)
7	高齢者の就労支援 高齢者の就労支援機関と専門職、授業のまとめ	前回授業で指示した用語やテーマについて調べる。(90分)	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。(90分)
8	定期試験(60分の試験終了後、残りの30分で解説)	試験に向けて授業内容の振り返りを行う。(90分)	試験で間違えた箇所、理解があいまいだった箇所についてプリント等を確認して見直し、復習を行う。(90分)
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
16			

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・4年		
開講時期	2Q	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	更生保護制度 (科目ナンバリング: SWS112021)				
授業担当者(所属・職名)	大倉 司(社会福祉学科・教授)	研究室所在	1号館3階		
単位数	1 (単位認定責任者: 大倉 司)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

概要

履修目標
今日求められている社会福祉と更生保護の連携強化を視野に、ソーシャルワーカーに必要とされる更生保護制度に関する知識・役割について理解を深める。

授業の位置づけ
社会福祉学科のDP「1(1)、(2)、(6)、(7)」、「2(2)」に対応する。

到達目標
<ul style="list-style-type: none"> 更生保護制度の意義と仕組みを説明できる。 更生保護制度を通じてソーシャルワーカーが担うべき役割を考慮することができる。 わが国の更生保護制度の現状と課題について自らの意見を示すことができる。

授業全体の内容と概要
刑事司法における更生保護の仕組みを学ぶとともに、犯罪をした者や非行のある少年に対する社会のなかでの処遇に関するソーシャルワーカーの関わりを考える。

授業の方法
授業は、板書及び配布資料を活用しながら、ディスカッションを交えつつ講義形式で行う。適宜、授業内容についてのレポート提出を求める。

アクティブラーニングの実施方法						
	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク	PBL
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習	反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項
毎回、必ず教科書・配付資料を携行すること。私語等は慎み、授業に集中してノートを取る。

資格指定科目
社会福祉士国家試験受験資格課程

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な出席回数は5回以上					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
70%	0%	0%	0%	30%	0%

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・理解	履修目標を超えて広く刑事司法と福祉に関する知識を理解できた。	社会福祉と更生保護の連携の必要性を視野にソーシャルワーカーに必要な更生保護に関する知識を理解できた。	社会福祉と更生保護の連携の必要性を知ることができた。	更生保護制度の意義と仕組みを説明することができた。	更生保護制度の意義と仕組みを説明することができなかった。
思考・判断	刑事司法と司法福祉のあり方について考えることができた。	保護観察官、社会復帰調整官の具体的業務について考えることができた。	更生保護におけるソーシャルワーカーの役割を考慮することができた。	更生保護におけるソーシャルワーカーの役割を考慮する姿勢を示した。	更生保護におけるソーシャルワーカーの役割を考慮する姿勢を示せなかった。
関心・意欲	社会福祉と更生保護との連携について課題を提示することができた。	更生保護におけるソーシャルワーカーの役割について意見を述べることができた。	更生保護制度の現状を踏まえその課題について考える姿勢を示した。	更生保護制度の現状について自分の意見を述べることができた。	更生保護制度の現状について考える姿勢を示せなかった。

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『最新社会福祉士養成講座・精神保健福祉士養成講座10 刑事司法と福祉』	日本ソーシャルワーク教育学校連盟編	中央法規出版	2021	978-4-8058-8240-5	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・4年		
開講時期	2Q	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	更生保護制度 (科目ナンバリング: SWS112021)				
授業担当者(所属・職名)	大倉 司(社会福祉学科・教授)	研究室所在	1号館3階		
単位数	1 (単位認定責任者: 大倉 司)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	シラバスの説明 近年の犯罪の特徴と社会内処遇の重要性・高齢者、軽度の知的障害や発達障害をもつ犯罪者の増加など	教科書を読み授業範囲の予習をする(90分)	授業のまとめをレポートとして提出する準備(90分)
2	更生保護制度の概要(1)・仮釈放、保護観察、生活環境の調整	教科書を読み授業範囲の予習をする(90分)	授業のまとめをレポートとして提出する準備(90分)
3	更生保護制度の概要(2)・更生緊急保護、恩赦、犯罪予防活動	教科書を読み授業範囲の予習をする(90分)	授業のまとめをレポートとして提出する準備(90分)
4	更生保護制度の担い手 - 保護観察官、保護司、更生保護施設など	教科書を読み授業範囲の予習をする(90分)	授業のまとめをレポートとして提出する準備(90分)
5	更生保護制度における関係機関・団体との連携	教科書を読み授業範囲の予習をする(90分)	授業のまとめをレポートとして提出する準備(90分)
6	医療観察制度の概要	教科書を読み授業範囲の予習をする(90分)	授業のまとめをレポートとして提出する準備(90分)
7	社会福祉と更生保護・更生保護の動向と課題 -	教科書を読み授業範囲の予習をする(90分)	授業のまとめをレポートとして提出する準備(90分)
8	試験(60分の試験終了後、30分で解説をする)	全授業を振り返り試験に向けた準備(90分)	試験内容をふまえ授業全体を振り返る(90分)
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
16			

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・1年		
開講時期	1Q	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	社会福祉の原理と政策 (科目ナンバリング:)				
授業担当者(所属・職名)	小早川 俊哉(社会福祉学部・教授)	研究室所在	1号館2階		
単位数	2 (単位認定責任者: 小早川 俊哉)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

概要

履修目標	社会福祉の原理をめぐる思想・哲学と理論を理解する。 社会福祉の歴史的展開の過程と社会福祉の理論を踏まえ、欧米との比較によって日本の社会福祉の特性を理解する。 社会問題と社会構造の前後の視点から、現代の社会問題について理解する。 福祉政策を捉える基本的な視点としての概念や理念を理解する。																					
授業の位置づけ	社会福祉学科のDP「1(2)と(4)と(5)」、「2(2)」に対応する。																					
到達目標	社会福祉士と精神保健福祉士に必要な基礎的な知識を身につけることができる。 社会変化と福祉制度の変遷(変わること)の関連を説明できるようになる。 「公平な社会」を「共生社会」と関連づけることができる。																					
授業全体の内容と概要	福祉を学ぶための基礎となる考え方や基礎知識を学ぶ。 福祉サービスをソーシャル・サービス、福祉政策をソーシャル・ポリシー(社会政策)と福祉を幅広く捉えるようになった背景(要因・理由)とその内容(考え方や概念)を学ぶ。																					
授業の方法	授業のポイントを記したレジュメ(プリント)を配布する。 開始5-10分は、前回の復習を口頭試問形式で行う。その後は、配布済みレジュメに従い空き行間に重要事項をメモする形の講義形式をとるが、理解度の確認のため随時問いかけをさせてもらう。質問には随時対応する。 復習を兼ねて、授業中のメモと教科書などを参考にノートにまとめることを推奨する。 中間試験(論述)を採点后返す際、解答の仕方など個別に指導する。																					
アクティブラーニングの実施方法	<table border="1"> <tr> <td>プレゼンテーション</td> <td></td> <td>グループワーク</td> <td></td> <td>フィールドワーク</td> <td></td> <td>PBL</td> </tr> <tr> <td>模擬授業</td> <td></td> <td>ロールプレイ</td> <td></td> <td>調査学習</td> <td></td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td>ディスカッション</td> <td></td> <td>実験・実習・実技</td> <td>○</td> <td>双方向授業</td> <td>○</td> <td>その他(授業の方法参照)</td> </tr> </table>	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業	○	その他(授業の方法参照)
プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL																
模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業																
ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業	○	その他(授業の方法参照)																
履修上の注意事項	社会保障や相談援助の基礎と専門職など、他の授業との関わりに注意する。 授業中の積極性は、授業終了時に名前を呼んでの出席確認を行うことで判定する。 遅刻3回で欠席1回とみなす。																					
資格指定科目	社会福祉士国家試験受験資格課程、精神保健福祉士国家試験受験資格課程、保育士養成課程、スクール(学校)ソーシャルワーカー資格課程、子育て支援ソーシャルワーカー資格課程																					

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数は、10回以上。メモを取る、などを平常点とする。 積極的な授業参加(発言する、質問する、回答する)を平常点とする。 論述の中間試験と定期試験、平常点の総計で単位認定を行う。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
50%	0%	0%	25%	25%	0%

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
社会福祉の歴史について	社会変化と福祉制度変遷の背景を知識として身に付け、今後の福祉制度の在り方を自己の考えとして表現できた。	社会変化と福祉制度変遷の背景を基礎知識として(質問への回答、試験の論述などに)使用することができた。	社会変化と福祉制度変遷を関連付けて説明することができた。	社会変化と福祉制度変遷を関係付けることができた。	社会変化と福祉制度変遷を関係付けることができなかった。
社会福祉の理論(哲学、思想を含む)について	公平性と効率性がどの様に重要なかを理解できた。	社会福祉の論点が何かを把握することができた。	理論の基盤となる用語の意味を理解できた。	社会福祉の基礎となる考え方を理解できた。	社会福祉の基礎となる考え方を理解できなかった。
ソーシャル・ポリシー(福祉政策)について	幅広い概念のソーシャル・ポリシーを用いる理由を説明することができた。	ソーシャル・ポリシーの目的と公平な社会の実現の関連を説明することができた。	ソーシャル・ポリシーにおいて公平性が重要な理由を説明することができた。	ソーシャル・ポリシーの概要を理解できた。	ソーシャルポリシーの概要を理解できなかった。

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『最新・社会福祉士養成講座・精神保健福祉士養成講座 4 社会福祉の原理と政策』	一般社団法人 日本ソーシャルワーク教育学校連盟	中央法規出版	2021	9784805862344	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・1年		
開講時期	1Q	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	社会福祉の原理と政策 (科目ナンバリング:)				
授業担当者(所属・職名)	小早川 俊哉(社会福祉学部・教授)	研究室所在	1号館2階		
単位数	2 (単位認定責任者: 小早川 俊哉)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	オリエンテーション(シラバスの説明を含む)と社会福祉の原理について(自助として市場の論議と所得再分配を含む)	シラバスの読み込みと市場原理を調べてくる(90分)	用語の整理とメモ等をノートにまとめる(90分)
2	社会福祉の歴史について(社会変化と福祉制度変遷の関係性)	教科書を読み本授業のイメージを持てるようにする(90分)	用語の整理とメモ等をノートにまとめる(90分)
3	社会福祉の歴史について(欧米の社会福祉の歴史的展開)	教科書を読み本授業のイメージを持てるようにする(90分)	用語の整理とメモ等をノートにまとめる(90分)
4	社会福祉の歴史について(日本の社会福祉の歴史的展開)	教科書を読み本授業のイメージを持てるようにする(90分)	用語の整理とメモ等をノートにまとめる(90分)
5	社会福祉の思想・哲学について(人間の尊厳、社会正義などを含む)	教科書を読み本授業のイメージを持てるようにする(90分)	用語の整理とメモ等をノートにまとめる(90分)
6	社会福祉の理論について(基本的な考え方について)	教科書を読み本授業のイメージを持てるようにする(90分)	用語の整理とメモ等をノートにまとめる(90分)
7	社会福祉の論点について(効率と公平、リバタリアン・パターナリズムなどを含む)	教科書を読み本授業のイメージを持てるようにする(90分)	今回のノートをまとめるとともに中間試験のため見直しを行う(90分)
8	前半のまとめと中間小試験	中間試験の準備をする(90分)	自身の解答を振り返る(90分)
9	社会福祉の対象とニーズについて(demandsとneedsの違いと変遷を含む)	教科書を読み本授業のイメージを持てるようにする(90分)	用語の整理とメモ等をノートにまとめる(90分)
10	現代社会の課題について(人口減少、少子高齢化などを含む)	教科書を読み本授業のイメージを持てるようにする(90分)	用語の整理とメモ等をノートにまとめる(90分)
11	現代社会の課題背景について(社会構造・情勢の変化を含む)	教科書を読み本授業のイメージを持てるようにする(90分)	用語の整理とメモ等をノートにまとめる(90分)
12	福祉政策の基本的視点について(福祉レジームを含む)	教科書を読み本授業のイメージを持てるようにする(90分)	用語の整理とメモ等をノートにまとめる(90分)
13	ソーシャル・ポリシーと福祉政策(1)・社会政策のなかの福祉政策	教科書を読み本授業のイメージを持てるようにする(90分)	用語の整理とメモ等をノートにまとめる(90分)
14	ソーシャル・ポリシーと福祉政策(2)・福祉政策の体系	教科書を読み本授業のイメージを持てるようにする(90分)	用語の整理とメモ等をノートにまとめる(90分)
15	まとめとして、現代社会の課題と福祉政策の変遷についての確認	これまでの授業を振り返り、福祉において公平がなぜ重要かを考えてくる(90分)	定期試験に向け自身のノートの最終チェックを行う(90分)
16	定期試験(60分の試験終了後、試験のポイントを解説)	定期試験の準備をする(90分)	現代社会と福祉の授業に向けて、試験の振り返り(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・1年		
開講時期	2Q	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	社会福祉の原理と政策 (科目ナンバリング:)				
授業担当者(所属・職名)	小早川 俊哉(社会福祉学部・教授)	研究室所在	1号館2階		
単位数	2 (単位認定責任者: 小早川 俊哉)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

概要

履修目標	福祉政策を捉える基本的な視点として、生活上のニーズと福祉政策の過程を結び付けて理解する。福祉政策の動向と課題を踏まえた上で、関連施策や包括的支援について理解する。福祉サービスの供給と利用の過程について理解する。福祉政策の国際比較の視点から、日本の福祉政策の特性について理解する。																								
授業の位置づけ	社会福祉学科のDP「1の(2)と(4)と(5)」、「2の(2)」に対応する。																								
到達目標	社会福祉士と精神保健福祉士に必要な基礎的な理論について理解することができる。ソーシャル・ポリシー(社会政策)が元来の福祉政策のみならず、直接福祉を目的としない政策(所得政策、雇用政策、住宅政策、教育政策など)を含む意義と目的を理解することができる。福祉の市場化の意義と目的を理解することができる。主要国の福祉制度の外観を理解し、今後の我が国のソーシャル・ポリシーの方向性を考えることができる。																								
授業全体の内容と概要	「社会福祉の原理と政策」を踏まえて、ソーシャル・サービスの構成要素と供給主体を学ぶ。福祉の市場化について、その内容と背景を学ぶ。福祉を直接の目的としない個々のソーシャル・ポリシー及び相談援助活動との関連を学ぶことから、福祉における「公平と効率」の意義を学ぶ。																								
授業の方法	授業のポイントを記したレジュメ(プリント)を配布する。開始5-10分は、前回の復習を口頭試験形式で行う。その後は、配布済みレジュメに従い空き行間に重要事項をメモする形の講義形式をとるが、理解度の確認のため随時問いかけをさせてもらう。質問には随時対応する。復習を兼ねて、授業中のメモと教科書などを参考にノートにまとめることを推奨する。中間試験(論述)を採点后返す際、解答の仕方など個別に指導する。																								
アクティブラーニングの実施方法	<table border="1"> <tr> <td></td> <td>プレゼンテーション</td> <td></td> <td>グループワーク</td> <td></td> <td>フィールドワーク</td> <td></td> <td>PBL</td> </tr> <tr> <td></td> <td>模擬授業</td> <td></td> <td>ロールプレイ</td> <td></td> <td>調査学習</td> <td></td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td></td> <td>ディスカッション</td> <td></td> <td>実験・実習・実技</td> <td>○</td> <td>双方向授業</td> <td>○</td> <td>その他(授業の方法参照)</td> </tr> </table>		プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL		模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業		ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業	○	その他(授業の方法参照)
	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL																		
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業																		
	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業	○	その他(授業の方法参照)																		
履修上の注意事項	「社会福祉の原理と政策」を踏まえ、社会保障や相談援助の基礎と専門職など、他の授業との関わりに注意する。授業中の積極性は、授業終了時に名前を呼んでの出席確認を行うことで判定する。遅刻3回で欠席1回とみなす。																								
資格指定科目	社会福祉士国家試験受験資格課程、精神保健福祉士国家試験受験資格課程、保育士養成課程、スクール(学校)ソーシャルワーカー資格課程、子育て支援ソーシャルワーカー資格課程																								

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要となる最低出席回数は、10回以上。積極的な授業参加(発言する、質問する、回答する、メモを取る、など)を平常点とする。論述の中間試験と定期試験、平常点の総計で単位認定を行う。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
50%	0%	0%	25%	25%	0%

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
直接福祉を目的としないソーシャル・ポリシー	ソーシャル・ポリシーの概念とソーシャル・サービスの概念との範囲の違いに気付くことができた。	ソーシャル・ポリシーとソーシャル・サービスの関連を理解できた。	ソーシャル・ポリシーが直接福祉を目的としない政策を含む背景を理解できた。	直接福祉を目的としない個々のソーシャル・ポリシーの意義と目的を理解できた。	直接福祉を目的としない個々のソーシャル・ポリシーの意義と目的を理解できなかった。
福祉の市場化	福祉における公平と効率の関係を説明することができた。	福祉における効率化の必要性を説明することができた。	福祉の市場化の背景と目的を理解することができた。	福祉の市場化の内容を理解できた。	福祉の市場化の内容を理解できなかった。
今後のソーシャル・ポリシーの方向性	公平と効率を念頭に自らの福祉観を表現することができた。	自らの福祉観を持つことができた。	社会変化の方向性とソーシャル・ポリシーの方向性を整合的に説明することができた。	論理的に今後のソーシャル・ポリシーの方向性を説明することができた。	今後のソーシャル・ポリシーの方向性を説明することができなかった。

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『最新・社会福祉士養成講座・精神保健福祉士養成講座 4 社会福祉の原理と政策』	一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟	中央法規出版	2021	9784805862344	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・1年		
開講時期	2Q	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	社会福祉の原理と政策 (科目ナンバリング:)				
授業担当者(所属・職名)	小早川 俊哉(社会福祉学部・教授)	研究室所在	1号館2階		
単位数	2 (単位認定責任者: 小早川 俊哉)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	オリエンテーション(シラバスの説明を含む)とソーシャル・サービスにおけるニーズについて(把握方法、種類と内容など)	シラバスの読み込みと市場原理を調べてくる(90分)	用語の整理とメモ等をノートにまとめる(90分)
2	ソーシャル・サービスにおける社会資源について(種類とその特徴、新たな構築など)	教科書を読み本授業のイメージを持てるようにする(90分)	用語の整理とメモ等をノートにまとめる(90分)
3	福祉政策の構成要素について(福祉の基礎構造、措置制度から契約方式へなど)	教科書を読み本授業のイメージを持てるようにする(90分)	用語の整理とメモ等をノートにまとめる(90分)
4	福祉政策の過程について(福祉のPDCAサイクル、福祉計画、実施方法と手段など)	教科書を読み本授業のイメージを持てるようにする(90分)	用語の整理とメモ等をノートにまとめる(90分)
5	福祉政策の動向と課題について(地域包括ケアシステムなど)	教科書を読み本授業のイメージを持てるようにする(90分)	用語の整理とメモ等をノートにまとめる(90分)
6	直接福祉を目的としない政策(保健医療政策および防災・災害時避難政策)	教科書を読み本授業のイメージを持てるようにする(90分)	用語の整理とメモ等をノートにまとめる(90分)
7	直接福祉を目的としない政策(権利擁護政策)	教科書を読み本授業のイメージを持てるようにする(90分)	今回のノートをまとめるとともに中間試験のため見直しを行う(90分)
8	前半のまとめと中間小試験	中間試験の準備をする(90分)	自身の解答を振り返る(90分)
9	直接福祉を目的としない政策(所得政策および雇用政策)	教科書を読み本授業のイメージを持てるようにする(90分)	用語の整理とメモ等をノートにまとめる(90分)
10	直接福祉を目的としない政策(住宅政策および教育政策)	教科書を読み本授業のイメージを持てるようにする(90分)	用語の整理とメモ等をノートにまとめる(90分)
11	ソーシャル・サービスの供給部門について(福祉の多元化を含む)	教科書を読み本授業のイメージを持てるようにする(90分)	用語の整理とメモ等をノートにまとめる(90分)
12	ソーシャル・サービスの供給過程について(福祉行財政、市場化などを含む)	教科書を読み本授業のイメージを持てるようにする(90分)	用語の整理とメモ等をノートにまとめる(90分)
13	ソーシャル・サービスの利用主体と援助方法について(対人援助とコミュニティを含む)	教科書を読み本授業のイメージを持てるようにする(90分)	用語の整理とメモ等をノートにまとめる(90分)
14	ソーシャル・サービス及びソーシャル・ポリシーの国際比較と時事および今後の課題について	教科書を読み本授業のイメージを持てるようにする(90分)	用語の整理とメモ等をノートにまとめる(90分)
15	まとめとして、ソーシャル・ポリシーにおける公平と効率およびソーシャル・ポリシーの全体像の確認	これまでの授業を振り返り、福祉において公平がなぜ重要かを考えてくる(90分)	定期試験に向け自身のノートの最終チェックを行う(90分)
16	定期試験(60分の試験終了後、試験のポイントを解説)	定期試験の準備をする(90分)	現代社会と福祉の授業に向けて、試験の振り返り(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・1年生		
開講時期	1Q	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	相談援助の理論と方法 (科目ナンバリング: SWS122022, SWS422081, SWS522092)				
授業担当者(所属・職名)	畠山 明子(社会福祉学科・専任講師)	研究室所在	1号館2階		
単位数	2 (単位認定責任者: 畠山 明子)	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

概要

履修目標

ソーシャルワーク実践のうち、人と環境との交互作用に関する理論とマイクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワーク、ソーシャルワークの様々な実践モデルとアプローチ、ソーシャルワークの展開過程に必要な知識・技術を修得する。

授業の位置づけ

社会福祉学科のDP「1(1)と(2)」、「2(2)」に対応する。

到達目標

人と環境との交互作用に関する理論とマイクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークについて理解する。
 ソーシャルワークの様々な実践モデルとアプローチについて理解する。
 ソーシャルワークの過程とそれに係る知識と技術について理解する。

授業全体の内容と概要

ソーシャルワークの中核をなす理論、実践モデル、アプローチ方法について学ぶ。
 ソーシャルワークの展開過程について学ぶ。
 ソーシャルワークの記録技法について学ぶ。

授業の方法

教科書の内容をまとめた配布資料に基づく講義形式になるが、新聞記事の活用や映像資料の視聴、演習(グループワーク等)も取り入れる。配布された資料には板書事項を記述すること。
 毎回の授業終了時、授業内容に関する小テストを実施する。
 毎回の感想・質問等を記入するリアクションペーパーを配布・講義終了時に回収し、次回授業開始時にフィードバックを行う。
 授業資料の配信等Microsoft Teamsを活用する。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		PBL
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

教科書は毎回持参すること。
 配布資料は紛失しないよう、ファイリングする等して管理を徹底すること。
 ニュース等で報道される福祉に関わる話題について興味を持つこと。
 新聞記事等を題材として社会福祉の現状や課題を検討する等、常に問題意識を持ちながら積極的に授業に参加すること。

資格指定科目

社会福祉士国家試験受験資格課程、精神保健福祉士国家試験受験資格課程

評価方法・基準

評価前提条件					
出席回数は10回以上あることを評価の前提条件とし、毎回の小テストの結果(30点)、第16回に実施する定期試験(70%)の結果を総合して評価する。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
70%	0%	0%	0%	0%	30%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
人と環境との交互作用に関する理論とマイクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークについて理解する。	関係するキーワードを用いて人と環境との交互作用に関する理論とマイクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークについて具体的に説明・記述できた。	関係するキーワードを用いて人と環境との交互作用に関する理論とマイクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークについておおむね具体的に説明・記述できた。	関係するキーワードを提示することにより人と環境との交互作用に関する理論とマイクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークについて具体的に説明・記述できた。	関係するキーワードを提示することにより人と環境との交互作用に関する理論とマイクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークについておおむね説明・記述できた。	人と環境との交互作用に関する理論とマイクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークについて関係するキーワードを理解してあらず、説明・記述が不十分だった。
ソーシャルワークの様々な実践モデルとアプローチについて理解する。	関係するキーワードを用いてソーシャルワークの様々な実践モデルとアプローチについて具体的に説明・記述できた。	関係するキーワードを用いてソーシャルワークの様々な実践モデルとアプローチについておおむね具体的に説明・記述できた。	関係するキーワードを提示することによりソーシャルワークの様々な実践モデルとアプローチについて具体的に説明・記述できた。	関係するキーワードを提示することによりソーシャルワークの様々な実践モデルとアプローチについておおむね説明・記述できた。	ソーシャルワークの様々な実践モデルとアプローチについて関係するキーワードを理解してあらず、説明・記述が不十分だった。
ソーシャルワークの過程とそれに係る知識と技術について理解する。	関係するキーワードを用いてソーシャルワークの過程とそれに係る知識と技術について具体的に説明・記述できた。	関係するキーワードを用いてソーシャルワークの過程とそれに係る知識と技術についておおむね具体的に説明・記述できた。	関係するキーワードを提示することによりソーシャルワークの過程とそれに係る知識と技術について具体的に説明・記述できた。	関係するキーワードを提示することによりソーシャルワークの過程とそれに係る知識と技術についておおむね説明・記述できた。	ソーシャルワークの過程とそれに係る知識と技術について関係するキーワードを理解してあらず、説明・記述が不十分だった。

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『最新社会福祉士養成講座精神保健福祉士養成講座 12ソーシャルワークの理論と方法(共通料)	一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟	中央法規	2021年	978-4-8058-8242-9	
2						
3						
4						
5						

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・1年生		
開講時期	1Q	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	相談援助の理論と方法 (科目ナンバリング: SWS122022, SWS422081, SWS522092)				
授業担当者(所属・職名)	畠山 明子(社会福祉学科・専任講師)	研究室所在	1号館2階		
単位数	2 (単位認定責任者: 畠山 明子)	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	本講義の進め方、シラバスの説明、ソーシャルワークの理論と方法の概説について	本講義で学ぶ概要についてシラバスや教科書の内容を確認する。(90分)	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。(90分)
2	人と環境との交互作用に関する理論とミクロ・メソ・マクロレベルにおけるソーシャルワークについて	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。前回授業で指示した用語やテーマについて調べる。(90分)	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。(90分)
3	ソーシャルワークの実践モデルとアプローチ(治療モデル、生活モデル、ストレスモデル)	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。前回授業で指示した用語やテーマについて調べる。(90分)	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。(90分)
4	ソーシャルワークの実践モデルとアプローチ(心理社会的アプローチ、機能的アプローチ、問題解決アプローチ)	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。前回授業で指示した用語やテーマについて調べる。(90分)	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。(90分)
5	ソーシャルワークの実践モデルとアプローチ(課題中心アプローチ、危機介入アプローチ、行動変容アプローチ)	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。前回授業で指示した用語やテーマについて調べる。(90分)	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。(90分)
6	ソーシャルワークの実践モデルとアプローチ(エンパワメントアプローチ、ナラティブアプローチ、解決志向アプローチ)	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。前回授業で指示した用語やテーマについて調べる。(90分)	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。(90分)
7	ソーシャルワークの実践モデルとアプローチ(事例検討)	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。前回授業で指示した用語やテーマについて調べる。(90分)	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。(90分)
8	ソーシャルワークの過程(ケースの発見、インタビュー、アセスメント、プランニング)	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。前回授業で指示した用語やテーマについて調べる。(90分)	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。(90分)
9	ソーシャルワークの過程(支援の実施、モニタリング、支援の終結と事後評価、アフターケア)	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。前回授業で指示した用語やテーマについて調べる。(90分)	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。(90分)
10	ソーシャルワークの過程(事例検討:高齢者)	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。前回授業で指示した用語やテーマについて調べる。(90分)	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。(90分)
11	ソーシャルワークの過程(事例検討:障害者)	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。前回授業で指示した用語やテーマについて調べる。(90分)	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。(90分)
12	ソーシャルワークの過程(事例検討:児童)	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。前回授業で指示した用語やテーマについて調べる。(90分)	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。(90分)
13	ソーシャルワークの記録(記録の意義と目的・記録の方法と実際)	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。前回授業で指示した用語やテーマについて調べる。(90分)	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。(90分)
14	ソーシャルワークの記録(演習)	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。前回授業で指示した用語やテーマについて調べる。(90分)	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。(90分)
15	授業のまとめ	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。前回授業で指示した用語やテーマについて調べる。(90分)	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。(90分)
16	定期試験(60分の試験終了後、残りの30分で解説)	試験に向けて授業内容の振り返りを行う。(90分)	試験で間違えた箇所、理解があまりなかった箇所についてプリント等を確認して見直し、復習を行う。(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・1年生		
開講時期	1Q	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	ソーシャルワークの理論と方法 (科目ナンバリング:)				
授業担当者(所属・職名)	畠山 明子(社会福祉学科・専任講師)	研究室所在	1号館2階		
単位数	2 (単位認定責任者: 畠山 明子)	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

概要

履修目標
ソーシャルワーク実践のうち、人と環境との交互作用に関する理論とマイクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワーク、ソーシャルワークの様々な実践モデルとアプローチ、ソーシャルワークの展開過程に必要な知識・技術を修得する。

授業の位置づけ
社会福祉学科のDP「1(1)と(2)」、「2(2)」に対応する。

到達目標
人と環境との交互作用に関する理論とマイクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークについて理解する。 ソーシャルワークの様々な実践モデルとアプローチについて理解する。 ソーシャルワークの過程とそれに係る知識と技術について理解する。

授業全体の内容と概要
ソーシャルワークの中核をなす理論、実践モデル、アプローチ方法について学ぶ。 ソーシャルワークの展開過程について学ぶ。 ソーシャルワークの記録技法について学ぶ。

授業の方法
教科書の内容をまとめた配布資料に基づく講義形式になるが、新聞記事の活用や映像資料の視聴、演習(グループワーク等)も取り入れる。配布された資料には板書事項を記述すること。 毎回の授業終了時、授業内容に関する小テストを実施する。 毎回の感想・質問等を記入するリアクションペーパーを配布・講義終了時に回収し、次回授業開始時にフィードバックを行う。 授業資料の配信等Microsoft Teamsを活用する。

アクティブラーニングの実施方法																					
<table border="1"> <tr> <td>プレゼンテーション</td> <td>○</td> <td>グループワーク</td> <td></td> <td>フィールドワーク</td> <td></td> <td>PBL</td> </tr> <tr> <td>模擬授業</td> <td></td> <td>ロールプレイ</td> <td></td> <td>調査学習</td> <td></td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td>○ ディスカッション</td> <td></td> <td>実験・実習・実技</td> <td>○</td> <td>双方向授業</td> <td></td> <td>その他(授業の方法参照)</td> </tr> </table>	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		PBL	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業	○ ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他(授業の方法参照)
プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		PBL															
模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業															
○ ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他(授業の方法参照)															

履修上の注意事項
教科書は毎回持参すること。 配布資料は紛失しないよう、ファイリングする等して管理を徹底すること。 ニュース等で報道される福祉に関わる話題について興味を持つこと。 新聞記事等を題材として社会福祉の現状や課題を検討する等、常に問題意識を持ちながら積極的に授業に参加すること。

資格指定科目
社会福祉士国家試験受験資格課程、精神保健福祉士国家試験受験資格課程

評価方法・基準

評価前提条件												
出席回数は10回以上あることを評価の前提条件とし、毎回の小テストの結果(30点)、第16回に実施する定期試験(70%)の結果を総合して評価する。												
評価方法												
<table border="1"> <tr> <th>定期試験</th> <th>レポート</th> <th>課題・作品</th> <th>中間テスト</th> <th>平常点</th> <th>その他</th> </tr> <tr> <td>70%</td> <td>0%</td> <td>0%</td> <td>0%</td> <td>0%</td> <td>30%</td> </tr> </table>	定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他	70%	0%	0%	0%	0%	30%
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他							
70%	0%	0%	0%	0%	30%							

ルーブリック																													
<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">評価項目</th> <th colspan="5">評価基準</th> </tr> <tr> <th>履修項目を超えたレベルを達成している</th> <th>履修項目をほぼ達成している</th> <th>履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している</th> <th>到達目標を達成している</th> <th>到達目標を達成していない</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>人と環境との交互作用に関する理論とマイクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークについて理解する。</td> <td>関係するキーワードを用いて人と環境との交互作用に関する理論とマイクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークについて具体的に説明・記述できた。</td> <td>関係するキーワードを用いて人と環境との交互作用に関する理論とマイクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークについておおむね具体的に説明・記述できた。</td> <td>関係するキーワードを提示することにより人と環境との交互作用に関する理論とマイクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークについて具体的に説明・記述できた。</td> <td>関係するキーワードを提示することにより人と環境との交互作用に関する理論とマイクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークについておおむね説明・記述できた。</td> <td>人と環境との交互作用に関する理論とマイクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークについて関係するキーワードを理解してあらず、説明・記述が不十分だった。</td> </tr> <tr> <td>ソーシャルワークの様々な実践モデルとアプローチについて理解する。</td> <td>関係するキーワードを用いてソーシャルワークの様々な実践モデルとアプローチについて具体的に説明・記述できた。</td> <td>関係するキーワードを用いてソーシャルワークの様々な実践モデルとアプローチについておおむね具体的に説明・記述できた。</td> <td>関係するキーワードを提示することによりソーシャルワークの様々な実践モデルとアプローチについて具体的に説明・記述できた。</td> <td>関係するキーワードを提示することによりソーシャルワークの様々な実践モデルとアプローチについておおむね説明・記述できた。</td> <td>ソーシャルワークの様々な実践モデルとアプローチについて関係するキーワードを理解してあらず、説明・記述が不十分だった。</td> </tr> <tr> <td>ソーシャルワークの過程とそれに係る知識と技術について理解する。</td> <td>関係するキーワードを用いてソーシャルワークの過程とそれに係る知識と技術について具体的に説明・記述できた。</td> <td>関係するキーワードを用いてソーシャルワークの過程とそれに係る知識と技術についておおむね具体的に説明・記述できた。</td> <td>関係するキーワードを提示することによりソーシャルワークの過程とそれに係る知識と技術について具体的に説明・記述できた。</td> <td>関係するキーワードを提示することによりソーシャルワークの過程とそれに係る知識と技術についておおむね説明・記述できた。</td> <td>ソーシャルワークの過程とそれに係る知識と技術について関係するキーワードを理解してあらず、説明・記述が不十分だった。</td> </tr> </tbody> </table>	評価項目	評価基準					履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない	人と環境との交互作用に関する理論とマイクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークについて理解する。	関係するキーワードを用いて人と環境との交互作用に関する理論とマイクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークについて具体的に説明・記述できた。	関係するキーワードを用いて人と環境との交互作用に関する理論とマイクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークについておおむね具体的に説明・記述できた。	関係するキーワードを提示することにより人と環境との交互作用に関する理論とマイクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークについて具体的に説明・記述できた。	関係するキーワードを提示することにより人と環境との交互作用に関する理論とマイクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークについておおむね説明・記述できた。	人と環境との交互作用に関する理論とマイクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークについて関係するキーワードを理解してあらず、説明・記述が不十分だった。	ソーシャルワークの様々な実践モデルとアプローチについて理解する。	関係するキーワードを用いてソーシャルワークの様々な実践モデルとアプローチについて具体的に説明・記述できた。	関係するキーワードを用いてソーシャルワークの様々な実践モデルとアプローチについておおむね具体的に説明・記述できた。	関係するキーワードを提示することによりソーシャルワークの様々な実践モデルとアプローチについて具体的に説明・記述できた。	関係するキーワードを提示することによりソーシャルワークの様々な実践モデルとアプローチについておおむね説明・記述できた。	ソーシャルワークの様々な実践モデルとアプローチについて関係するキーワードを理解してあらず、説明・記述が不十分だった。	ソーシャルワークの過程とそれに係る知識と技術について理解する。	関係するキーワードを用いてソーシャルワークの過程とそれに係る知識と技術について具体的に説明・記述できた。	関係するキーワードを用いてソーシャルワークの過程とそれに係る知識と技術についておおむね具体的に説明・記述できた。	関係するキーワードを提示することによりソーシャルワークの過程とそれに係る知識と技術について具体的に説明・記述できた。	関係するキーワードを提示することによりソーシャルワークの過程とそれに係る知識と技術についておおむね説明・記述できた。	ソーシャルワークの過程とそれに係る知識と技術について関係するキーワードを理解してあらず、説明・記述が不十分だった。
評価項目		評価基準																											
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない																								
人と環境との交互作用に関する理論とマイクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークについて理解する。	関係するキーワードを用いて人と環境との交互作用に関する理論とマイクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークについて具体的に説明・記述できた。	関係するキーワードを用いて人と環境との交互作用に関する理論とマイクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークについておおむね具体的に説明・記述できた。	関係するキーワードを提示することにより人と環境との交互作用に関する理論とマイクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークについて具体的に説明・記述できた。	関係するキーワードを提示することにより人と環境との交互作用に関する理論とマイクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークについておおむね説明・記述できた。	人と環境との交互作用に関する理論とマイクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークについて関係するキーワードを理解してあらず、説明・記述が不十分だった。																								
ソーシャルワークの様々な実践モデルとアプローチについて理解する。	関係するキーワードを用いてソーシャルワークの様々な実践モデルとアプローチについて具体的に説明・記述できた。	関係するキーワードを用いてソーシャルワークの様々な実践モデルとアプローチについておおむね具体的に説明・記述できた。	関係するキーワードを提示することによりソーシャルワークの様々な実践モデルとアプローチについて具体的に説明・記述できた。	関係するキーワードを提示することによりソーシャルワークの様々な実践モデルとアプローチについておおむね説明・記述できた。	ソーシャルワークの様々な実践モデルとアプローチについて関係するキーワードを理解してあらず、説明・記述が不十分だった。																								
ソーシャルワークの過程とそれに係る知識と技術について理解する。	関係するキーワードを用いてソーシャルワークの過程とそれに係る知識と技術について具体的に説明・記述できた。	関係するキーワードを用いてソーシャルワークの過程とそれに係る知識と技術についておおむね具体的に説明・記述できた。	関係するキーワードを提示することによりソーシャルワークの過程とそれに係る知識と技術について具体的に説明・記述できた。	関係するキーワードを提示することによりソーシャルワークの過程とそれに係る知識と技術についておおむね説明・記述できた。	ソーシャルワークの過程とそれに係る知識と技術について関係するキーワードを理解してあらず、説明・記述が不十分だった。																								

教科書・参考文献・資料等

教科書																																										
<table border="1"> <thead> <tr> <th>No</th> <th>書籍名</th> <th>著者</th> <th>出版社</th> <th>出版年</th> <th>ISBN</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>4</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>5</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考	1							2							3							4							5						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考																																				
1																																										
2																																										
3																																										
4																																										
5																																										

参考文献・資料等																																										
<table border="1"> <thead> <tr> <th>No</th> <th>書籍名</th> <th>著者</th> <th>出版社</th> <th>出版年</th> <th>ISBN</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>『最新社会福祉士養成講座精神保健福祉士養成講座 12ソーシャルワークの理論と方法(共通科)</td> <td>一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟</td> <td>中央法規</td> <td>2021年</td> <td>978-4-8058-8242-9</td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>4</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>5</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考	1	『最新社会福祉士養成講座精神保健福祉士養成講座 12ソーシャルワークの理論と方法(共通科)	一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟	中央法規	2021年	978-4-8058-8242-9		2							3							4							5						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考																																				
1	『最新社会福祉士養成講座精神保健福祉士養成講座 12ソーシャルワークの理論と方法(共通科)	一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟	中央法規	2021年	978-4-8058-8242-9																																					
2																																										
3																																										
4																																										
5																																										

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・1年生		
開講時期	1Q	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	ソーシャルワークの理論と方法 (科目ナンバリング:)				
授業担当者(所属・職名)	畠山 明子(社会福祉学科・専任講師)	研究室所在	1号館2階		
単位数	2 (単位認定責任者: 畠山 明子)	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	本講義の進め方、シラバスの説明、ソーシャルワークの理論と方法の概説について	本講義で学ぶ概要についてシラバスや教科書の内容を確認する。(90分)	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。(90分)
2	人と環境との相互作用に関する理論とミクロ・メソ・マクロレベルにおけるソーシャルワークについて	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。前回授業で指示した用語やテーマについて調べる。(90分)	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。(90分)
3	ソーシャルワークの実践モデルとアプローチ(治療モデル、生活モデル、ストレスモデル)	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。前回授業で指示した用語やテーマについて調べる。(90分)	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。(90分)
4	ソーシャルワークの実践モデルとアプローチ(心理社会的アプローチ、機能的アプローチ、問題解決アプローチ)	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。前回授業で指示した用語やテーマについて調べる。(90分)	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。(90分)
5	ソーシャルワークの実践モデルとアプローチ(課題中心アプローチ、危機介入アプローチ、行動変容アプローチ)	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。前回授業で指示した用語やテーマについて調べる。(90分)	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。(90分)
6	ソーシャルワークの実践モデルとアプローチ(エンパワメントアプローチ、ナラティブアプローチ、解決志向アプローチ)	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。前回授業で指示した用語やテーマについて調べる。(90分)	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。(90分)
7	ソーシャルワークの実践モデルとアプローチ(事例検討)	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。前回授業で指示した用語やテーマについて調べる。(90分)	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。(90分)
8	ソーシャルワークの過程(ケースの発見、インタビュー、アセスメント、プランニング)	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。前回授業で指示した用語やテーマについて調べる。(90分)	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。(90分)
9	ソーシャルワークの過程(支援の実施、モニタリング、支援の終結と事後評価、アフターケア)	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。前回授業で指示した用語やテーマについて調べる。(90分)	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。(90分)
10	ソーシャルワークの過程(事例検討:高齢者)	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。前回授業で指示した用語やテーマについて調べる。(90分)	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。(90分)
11	ソーシャルワークの過程(事例検討:障害者)	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。前回授業で指示した用語やテーマについて調べる。(90分)	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。(90分)
12	ソーシャルワークの過程(事例検討:児童)	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。前回授業で指示した用語やテーマについて調べる。(90分)	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。(90分)
13	ソーシャルワークの記録(記録の意義と目的・記録の方法と実際)	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。前回授業で指示した用語やテーマについて調べる。(90分)	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。(90分)
14	ソーシャルワークの記録(演習)	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。前回授業で指示した用語やテーマについて調べる。(90分)	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。(90分)
15	授業のまとめ	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。前回授業で指示した用語やテーマについて調べる。(90分)	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。(90分)
16	定期試験(60分の試験終了後、残りの30分で解説)	試験に向けて授業内容の振り返りを行う。(90分)	試験で間違えた箇所、理解があまりなかった箇所についてプリント等を確認して見直し、復習を行う。(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・1年生		
開講時期	3Q	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	ソーシャルワークの理論と方法 (科目ナンバリング:)				
授業担当者(所属・職名)	畠山 明子(社会福祉学科・専任講師)	研究室所在	1号館2階		
単位数	2 (単位認定責任者: 畠山 明子)	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

概要

履修目標
ソーシャルワークの実践のうち、ケアマネジメント、グループワーク、セルフヘルプグループ、コミュニティワーク、スーパービジョン、コンサルテーションの知識と技術を習得する。

授業の位置づけ
社会福祉学科のDP「1(1)と(2)」、「2(2)」に対応する。

到達目標
ソーシャルワークの過程とそれに係る知識と技術について理解する。 コミュニティワークの概念とその展開について理解する。 ソーシャルワークにおけるスーパービジョンについて理解する。

授業全体の内容と概要
社会福祉援助技術について、ケアマネジメント、グループワーク、セルフヘルプグループ、コミュニティワーク、スーパービジョン、コンサルテーションを学ぶ。

授業の方法
教科書の内容をまとめた配布資料に基づく講義形式になるが、新聞記事の活用や映像資料の視聴、演習(グループワーク等)も取り入れる。配布された資料には板書事項を記述すること。 毎回の授業終了時、授業内容に関する小テストを実施する。 毎回の感想・質問等を記入するリアクションペーパーを配布・講義終了時に回収し、次回授業開始時にフィードバックを行う。 授業資料の配信等Microsoft Teamsを活用する。

アクティブラーニングの実施方法																					
<table border="1"> <tr> <td>プレゼンテーション</td> <td>○</td> <td>グループワーク</td> <td></td> <td>フィールドワーク</td> <td></td> <td>PBL</td> </tr> <tr> <td>模擬授業</td> <td></td> <td>ロールプレイ</td> <td></td> <td>調査学習</td> <td></td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td>○ ディスカッション</td> <td></td> <td>実験・実習・実技</td> <td>○</td> <td>双方向授業</td> <td></td> <td>その他(授業の方法参照)</td> </tr> </table>	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		PBL	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業	○ ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他(授業の方法参照)
プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		PBL															
模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業															
○ ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他(授業の方法参照)															

履修上の注意事項
教科書は毎回持参すること。 配布資料は紛失しないよう、ファイリングする等して管理を徹底すること。 ニュース等で報道される福祉に関わる話題について興味を持つこと。 新聞記事等を題材として社会福祉の現状や課題を検討する等、常に問題意識を持ちながら積極的に授業に参加すること。

資格指定科目
社会福祉士国家試験受験資格課程、精神保健福祉士国家試験受験資格課程

評価方法・基準

評価前提条件												
出席回数は10回以上あることを評価の前提条件とし、毎回の小テストの結果(30点)、第16回に実施する定期試験(70%)の結果を総合して評価する。												
評価方法												
<table border="1"> <tr> <th>定期試験</th> <th>レポート</th> <th>課題・作品</th> <th>中間テスト</th> <th>平常点</th> <th>その他</th> </tr> <tr> <td>70%</td> <td>0%</td> <td>0%</td> <td>0%</td> <td>0%</td> <td>30%</td> </tr> </table>	定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他	70%	0%	0%	0%	0%	30%
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他							
70%	0%	0%	0%	0%	30%							

ルーブリック																																									
<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">評価項目</th> <th colspan="5">評価基準</th> </tr> <tr> <th>履修項目を超えたレベルを達成している</th> <th>履修項目をほぼ達成している</th> <th>履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している</th> <th>到達目標を達成している</th> <th>到達目標を達成していない</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ソーシャルワークの過程とそれに係る知識と技術について理解する。</td> <td>関係するキーワードを用いてソーシャルワークの過程とそれに係る知識と技術について具体的に説明・記述できた。</td> <td>関係するキーワードを用いてソーシャルワークの過程とそれに係る知識と技術についておおむね具体的に説明・記述できた。</td> <td>関係するキーワードを提示することによりソーシャルワークの過程とそれに係る知識と技術について具体的に説明・記述できた。</td> <td>関係するキーワードを提示することによりソーシャルワークの過程とそれに係る知識と技術について具体的に説明・記述できた。</td> <td>ソーシャルワークの過程とそれに係る知識と技術について関係するキーワードを説明してあらず、説明・記述が不十分だった。</td> </tr> <tr> <td>コミュニティワークの概念とその展開について理解する。</td> <td>関係するキーワードを用いてコミュニティワークの概念とその展開について具体的に説明・記述できた。</td> <td>関係するキーワードを用いてコミュニティワークの概念とその展開についておおむね具体的に説明・記述できた。</td> <td>関係するキーワードを提示することによりコミュニティワークの概念とその展開について具体的に説明・記述できた。</td> <td>関係するキーワードを提示することによりコミュニティワークの概念とその展開について具体的に説明・記述できた。</td> <td>コミュニティワークの概念とその展開について関係するキーワードを理解してあらず、説明・記述が不十分だった。</td> </tr> <tr> <td>ソーシャルワークにおけるスーパービジョンについて理解する。</td> <td>関係するキーワードを用いてソーシャルワークにおけるスーパービジョンについて具体的に説明・記述できた。</td> <td>関係するキーワードを用いてソーシャルワークにおけるスーパービジョンについておおむね具体的に説明・記述できた。</td> <td>関係するキーワードを提示することによりソーシャルワークにおけるスーパービジョンについて具体的に説明・記述できた。</td> <td>関係するキーワードを提示することによりソーシャルワークにおけるスーパービジョンについておおむね説明・記述できた。</td> <td>ソーシャルワークにおけるスーパービジョンについて関係するキーワードを理解してあらず、説明・記述が不十分だった。</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	評価項目	評価基準					履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない	ソーシャルワークの過程とそれに係る知識と技術について理解する。	関係するキーワードを用いてソーシャルワークの過程とそれに係る知識と技術について具体的に説明・記述できた。	関係するキーワードを用いてソーシャルワークの過程とそれに係る知識と技術についておおむね具体的に説明・記述できた。	関係するキーワードを提示することによりソーシャルワークの過程とそれに係る知識と技術について具体的に説明・記述できた。	関係するキーワードを提示することによりソーシャルワークの過程とそれに係る知識と技術について具体的に説明・記述できた。	ソーシャルワークの過程とそれに係る知識と技術について関係するキーワードを説明してあらず、説明・記述が不十分だった。	コミュニティワークの概念とその展開について理解する。	関係するキーワードを用いてコミュニティワークの概念とその展開について具体的に説明・記述できた。	関係するキーワードを用いてコミュニティワークの概念とその展開についておおむね具体的に説明・記述できた。	関係するキーワードを提示することによりコミュニティワークの概念とその展開について具体的に説明・記述できた。	関係するキーワードを提示することによりコミュニティワークの概念とその展開について具体的に説明・記述できた。	コミュニティワークの概念とその展開について関係するキーワードを理解してあらず、説明・記述が不十分だった。	ソーシャルワークにおけるスーパービジョンについて理解する。	関係するキーワードを用いてソーシャルワークにおけるスーパービジョンについて具体的に説明・記述できた。	関係するキーワードを用いてソーシャルワークにおけるスーパービジョンについておおむね具体的に説明・記述できた。	関係するキーワードを提示することによりソーシャルワークにおけるスーパービジョンについて具体的に説明・記述できた。	関係するキーワードを提示することによりソーシャルワークにおけるスーパービジョンについておおむね説明・記述できた。	ソーシャルワークにおけるスーパービジョンについて関係するキーワードを理解してあらず、説明・記述が不十分だった。												
評価項目		評価基準																																							
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない																																				
ソーシャルワークの過程とそれに係る知識と技術について理解する。	関係するキーワードを用いてソーシャルワークの過程とそれに係る知識と技術について具体的に説明・記述できた。	関係するキーワードを用いてソーシャルワークの過程とそれに係る知識と技術についておおむね具体的に説明・記述できた。	関係するキーワードを提示することによりソーシャルワークの過程とそれに係る知識と技術について具体的に説明・記述できた。	関係するキーワードを提示することによりソーシャルワークの過程とそれに係る知識と技術について具体的に説明・記述できた。	ソーシャルワークの過程とそれに係る知識と技術について関係するキーワードを説明してあらず、説明・記述が不十分だった。																																				
コミュニティワークの概念とその展開について理解する。	関係するキーワードを用いてコミュニティワークの概念とその展開について具体的に説明・記述できた。	関係するキーワードを用いてコミュニティワークの概念とその展開についておおむね具体的に説明・記述できた。	関係するキーワードを提示することによりコミュニティワークの概念とその展開について具体的に説明・記述できた。	関係するキーワードを提示することによりコミュニティワークの概念とその展開について具体的に説明・記述できた。	コミュニティワークの概念とその展開について関係するキーワードを理解してあらず、説明・記述が不十分だった。																																				
ソーシャルワークにおけるスーパービジョンについて理解する。	関係するキーワードを用いてソーシャルワークにおけるスーパービジョンについて具体的に説明・記述できた。	関係するキーワードを用いてソーシャルワークにおけるスーパービジョンについておおむね具体的に説明・記述できた。	関係するキーワードを提示することによりソーシャルワークにおけるスーパービジョンについて具体的に説明・記述できた。	関係するキーワードを提示することによりソーシャルワークにおけるスーパービジョンについておおむね説明・記述できた。	ソーシャルワークにおけるスーパービジョンについて関係するキーワードを理解してあらず、説明・記述が不十分だった。																																				

教科書・参考文献・資料等

教科書																																										
<table border="1"> <thead> <tr> <th>No</th> <th>書籍名</th> <th>著者</th> <th>出版社</th> <th>出版年</th> <th>ISBN</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>4</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>5</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考	1							2							3							4							5						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考																																				
1																																										
2																																										
3																																										
4																																										
5																																										

参考文献・資料等																																										
<table border="1"> <thead> <tr> <th>No</th> <th>書籍名</th> <th>著者</th> <th>出版社</th> <th>出版年</th> <th>ISBN</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>『最新社会福祉士養成講座精神保健福祉士養成講座 12ソーシャルワークの理論と方法(共通料)</td> <td>一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟</td> <td>中央法規</td> <td>2021年</td> <td>978-4-8058-8242-9</td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>4</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>5</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考	1	『最新社会福祉士養成講座精神保健福祉士養成講座 12ソーシャルワークの理論と方法(共通料)	一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟	中央法規	2021年	978-4-8058-8242-9		2							3							4							5						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考																																				
1	『最新社会福祉士養成講座精神保健福祉士養成講座 12ソーシャルワークの理論と方法(共通料)	一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟	中央法規	2021年	978-4-8058-8242-9																																					
2																																										
3																																										
4																																										
5																																										

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・1年生		
開講時期	3Q	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	ソーシャルワークの理論と方法 (科目ナンバリング:)				
授業担当者(所属・職名)	畠山 明子(社会福祉学科・専任講師)	研究室所在	1号館2階		
単位数	2 (単位認定責任者: 畠山 明子)	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

授業計画

各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間			
回	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	本講義の進め方、シラバスの説明、ソーシャルワークの理論と方法の振り返り	本講義で学ぶ概要についてシラバスや教科書の内容を確認する。(90分)	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。(90分)
2	ソーシャルワークの理論と方法の概説	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。前回授業で指示した用語やテーマについて調べる。(90分)	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。(90分)
3	ケアマネジメントについて (原則・意義と方法)	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。前回授業で指示した用語やテーマについて調べる。(90分)	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。(90分)
4	ケアマネジメントについて (事例検討)	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。前回授業で指示した用語やテーマについて調べる。(90分)	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。(90分)
5	集団を活用した支援について (グループワークの意義と目的・原則・展開過程)	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。前回授業で指示した用語やテーマについて調べる。(90分)	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。(90分)
6	集団を活用した支援について (事例検討: グループワーク)	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。前回授業で指示した用語やテーマについて調べる。(90分)	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。(90分)
7	集団を活用した支援について (セルフヘルプグループ)	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。前回授業で指示した用語やテーマについて調べる。(90分)	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。(90分)
8	集団を活用した支援について (事例検討: セルフヘルプグループ)	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。前回授業で指示した用語やテーマについて調べる。(90分)	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。(90分)
9	コミュニティワークについて (意義と目的: コミュニティワークの展開)	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。前回授業で指示した用語やテーマについて調べる。(90分)	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。(90分)
10	コミュニティワークについて (事例検討1)	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。前回授業で指示した用語やテーマについて調べる。(90分)	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。(90分)
11	コミュニティワークについて (事例検討2)	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。前回授業で指示した用語やテーマについて調べる。(90分)	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。(90分)
12	コミュニティワークについて (事例検討3)	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。前回授業で指示した用語やテーマについて調べる。(90分)	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。(90分)
13	スーパービジョンとコンサルテーションについて (意義・目的)	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。前回授業で指示した用語やテーマについて調べる。(90分)	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。(90分)
14	スーパービジョンとコンサルテーションについて (方法)	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。前回授業で指示した用語やテーマについて調べる。(90分)	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。(90分)
15	授業のまとめ	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。前回授業で指示した用語やテーマについて調べる。(90分)	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。(90分)
16	定期試験(60分の試験終了後、残りの30分で解説)	試験に向けて授業内容の振り返りを行う。(90分)	試験で間違えた箇所、理解があいまいだった箇所についてプリント等を確認して見直し、復習を行う。(90分)

授業計画			
回	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・1年生		
開講時期	3Q	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	相談援助の理論と方法 (科目ナンバリング: SWS122023, SWS422082, SWS522093)				
授業担当者(所属・職名)	畠山 明子(社会福祉学科・専任講師)	研究室所在	1号館2階		
単位数	2 (単位認定責任者: 畠山 明子)	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

概要

履修目標
ソーシャルワークの実践のうち、ケアマネジメント、グループワーク、セルフヘルプグループ、コミュニティワーク、スーパービジョン、コンサルテーションの知識と技術を習得する。

授業の位置づけ
社会福祉学科のDP「1(1)と(2)」、「2(2)」に対応する。

到達目標
ソーシャルワークの過程とそれに係る知識と技術について理解する。 コミュニティワークの概念とその展開について理解する。 ソーシャルワークにおけるスーパービジョンについて理解する。

授業全体の内容と概要
社会福祉援助技術について、ケアマネジメント、グループワーク、セルフヘルプグループ、コミュニティワーク、スーパービジョン、コンサルテーションを学ぶ。

授業の方法
教科書の内容をまとめた配布資料に基づく講義形式になるが、新聞記事の活用や映像資料の視聴、演習(グループワーク等)も取り入れる。配布された資料には板書事項を記述すること。 毎回の授業終了時、授業内容に関する小テストを実施する。 毎回の感想・質問等を記入するリアクションペーパーを配布・講義終了時に回収し、次回授業開始時にフィードバックを行う。 授業資料の配信等Microsoft Teamsを活用する。

アクティブラーニングの実施方法																					
<table border="1"> <tr> <td>プレゼンテーション</td> <td>○</td> <td>グループワーク</td> <td></td> <td>フィールドワーク</td> <td></td> <td>PBL</td> </tr> <tr> <td>模擬授業</td> <td></td> <td>ロールプレイ</td> <td></td> <td>調査学習</td> <td></td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td>○ ディスカッション</td> <td></td> <td>実験・実習・実技</td> <td>○</td> <td>双方向授業</td> <td></td> <td>その他(授業の方法参照)</td> </tr> </table>	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		PBL	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業	○ ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他(授業の方法参照)
プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		PBL															
模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業															
○ ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他(授業の方法参照)															

履修上の注意事項
教科書は毎回持参すること。 配布資料は紛失しないよう、ファイリングする等して管理を徹底すること。 ニュース等で報道される福祉に関わる話題について興味を持つこと。 新聞記事等を題材として社会福祉の現状や課題を検討する等、常に問題意識を持ちながら積極的に授業に参加すること。

資格指定科目
社会福祉士国家試験受験資格課程、精神保健福祉士国家試験受験資格課程

評価方法・基準

評価前提条件												
出席回数は10回以上あることを評価の前提条件とし、毎回の小テストの結果(30点)、第16回に実施する定期試験(70%)の結果を総合して評価する。												
評価方法												
<table border="1"> <tr> <th>定期試験</th> <th>レポート</th> <th>課題・作品</th> <th>中間テスト</th> <th>平常点</th> <th>その他</th> </tr> <tr> <td>70%</td> <td>0%</td> <td>0%</td> <td>0%</td> <td>0%</td> <td>30%</td> </tr> </table>	定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他	70%	0%	0%	0%	0%	30%
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他							
70%	0%	0%	0%	0%	30%							

ルーブリック																													
<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">評価項目</th> <th colspan="5">評価基準</th> </tr> <tr> <th>履修項目を超えたレベルを達成している</th> <th>履修項目をほぼ達成している</th> <th>履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している</th> <th>到達目標を達成している</th> <th>到達目標を達成していない</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ソーシャルワークの過程とそれに係る知識と技術について理解する。</td> <td>関係するキーワードを用いてソーシャルワークの過程とそれに係る知識と技術について具体的に説明・記述できた。</td> <td>関係するキーワードを用いてソーシャルワークの過程とそれに係る知識と技術的に説明・記述できた。</td> <td>関係するキーワードを提示することによりソーシャルワークの過程とそれに係る知識と技術について具体的に説明・記述できた。</td> <td>関係するキーワードを提示することによりソーシャルワークの過程とそれに係る知識と技術について具体的に説明・記述できた。</td> <td>ソーシャルワークの過程とそれに係る知識と技術について関係するキーワードを整理しておらず、説明・記述が不十分だった。</td> </tr> <tr> <td>コミュニティワークの概念とその展開について理解する。</td> <td>関係するキーワードを用いてコミュニティワークの概念とその展開について具体的に説明・記述できた。</td> <td>関係するキーワードを用いてコミュニティワークの概念とその展開について具体的に説明・記述できた。</td> <td>関係するキーワードを提示することによりコミュニティワークの概念とその展開について具体的に説明・記述できた。</td> <td>関係するキーワードを提示することによりコミュニティワークの概念とその展開について具体的に説明・記述できた。</td> <td>コミュニティワークの概念とその展開について関係するキーワードを整理しておらず、説明・記述が不十分だった。</td> </tr> <tr> <td>ソーシャルワークにおけるスーパービジョンについて理解する。</td> <td>関係するキーワードを用いてソーシャルワークにおけるスーパービジョンについて具体的に説明・記述できた。</td> <td>関係するキーワードを用いてソーシャルワークにおけるスーパービジョンについて具体的に説明・記述できた。</td> <td>関係するキーワードを提示することによりソーシャルワークにおけるスーパービジョンについて具体的に説明・記述できた。</td> <td>関係するキーワードを提示することによりソーシャルワークにおけるスーパービジョンについて具体的に説明・記述できた。</td> <td>ソーシャルワークにおけるスーパービジョンについて関係するキーワードを整理しておらず、説明・記述が不十分だった。</td> </tr> </tbody> </table>	評価項目	評価基準					履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない	ソーシャルワークの過程とそれに係る知識と技術について理解する。	関係するキーワードを用いてソーシャルワークの過程とそれに係る知識と技術について具体的に説明・記述できた。	関係するキーワードを用いてソーシャルワークの過程とそれに係る知識と技術的に説明・記述できた。	関係するキーワードを提示することによりソーシャルワークの過程とそれに係る知識と技術について具体的に説明・記述できた。	関係するキーワードを提示することによりソーシャルワークの過程とそれに係る知識と技術について具体的に説明・記述できた。	ソーシャルワークの過程とそれに係る知識と技術について関係するキーワードを整理しておらず、説明・記述が不十分だった。	コミュニティワークの概念とその展開について理解する。	関係するキーワードを用いてコミュニティワークの概念とその展開について具体的に説明・記述できた。	関係するキーワードを用いてコミュニティワークの概念とその展開について具体的に説明・記述できた。	関係するキーワードを提示することによりコミュニティワークの概念とその展開について具体的に説明・記述できた。	関係するキーワードを提示することによりコミュニティワークの概念とその展開について具体的に説明・記述できた。	コミュニティワークの概念とその展開について関係するキーワードを整理しておらず、説明・記述が不十分だった。	ソーシャルワークにおけるスーパービジョンについて理解する。	関係するキーワードを用いてソーシャルワークにおけるスーパービジョンについて具体的に説明・記述できた。	関係するキーワードを用いてソーシャルワークにおけるスーパービジョンについて具体的に説明・記述できた。	関係するキーワードを提示することによりソーシャルワークにおけるスーパービジョンについて具体的に説明・記述できた。	関係するキーワードを提示することによりソーシャルワークにおけるスーパービジョンについて具体的に説明・記述できた。	ソーシャルワークにおけるスーパービジョンについて関係するキーワードを整理しておらず、説明・記述が不十分だった。
評価項目		評価基準																											
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない																								
ソーシャルワークの過程とそれに係る知識と技術について理解する。	関係するキーワードを用いてソーシャルワークの過程とそれに係る知識と技術について具体的に説明・記述できた。	関係するキーワードを用いてソーシャルワークの過程とそれに係る知識と技術的に説明・記述できた。	関係するキーワードを提示することによりソーシャルワークの過程とそれに係る知識と技術について具体的に説明・記述できた。	関係するキーワードを提示することによりソーシャルワークの過程とそれに係る知識と技術について具体的に説明・記述できた。	ソーシャルワークの過程とそれに係る知識と技術について関係するキーワードを整理しておらず、説明・記述が不十分だった。																								
コミュニティワークの概念とその展開について理解する。	関係するキーワードを用いてコミュニティワークの概念とその展開について具体的に説明・記述できた。	関係するキーワードを用いてコミュニティワークの概念とその展開について具体的に説明・記述できた。	関係するキーワードを提示することによりコミュニティワークの概念とその展開について具体的に説明・記述できた。	関係するキーワードを提示することによりコミュニティワークの概念とその展開について具体的に説明・記述できた。	コミュニティワークの概念とその展開について関係するキーワードを整理しておらず、説明・記述が不十分だった。																								
ソーシャルワークにおけるスーパービジョンについて理解する。	関係するキーワードを用いてソーシャルワークにおけるスーパービジョンについて具体的に説明・記述できた。	関係するキーワードを用いてソーシャルワークにおけるスーパービジョンについて具体的に説明・記述できた。	関係するキーワードを提示することによりソーシャルワークにおけるスーパービジョンについて具体的に説明・記述できた。	関係するキーワードを提示することによりソーシャルワークにおけるスーパービジョンについて具体的に説明・記述できた。	ソーシャルワークにおけるスーパービジョンについて関係するキーワードを整理しておらず、説明・記述が不十分だった。																								

教科書・参考文献・資料等

教科書																																										
<table border="1"> <thead> <tr> <th>No</th> <th>書籍名</th> <th>著者</th> <th>出版社</th> <th>出版年</th> <th>ISBN</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>4</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>5</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>	No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考	1							2							3							4							5						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考																																				
1																																										
2																																										
3																																										
4																																										
5																																										

参考文献・資料等																																										
<table border="1"> <thead> <tr> <th>No</th> <th>書籍名</th> <th>著者</th> <th>出版社</th> <th>出版年</th> <th>ISBN</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>『最新社会福祉士養成講座精神保健福祉士養成講座 12ソーシャルワークの理論と方法(共通編)』</td> <td>一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟</td> <td>中央法規</td> <td>2021年</td> <td>978-4-8058-8242-9</td> <td></td> </tr> <tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>4</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>5</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>	No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考	1	『最新社会福祉士養成講座精神保健福祉士養成講座 12ソーシャルワークの理論と方法(共通編)』	一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟	中央法規	2021年	978-4-8058-8242-9		2							3							4							5						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考																																				
1	『最新社会福祉士養成講座精神保健福祉士養成講座 12ソーシャルワークの理論と方法(共通編)』	一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟	中央法規	2021年	978-4-8058-8242-9																																					
2																																										
3																																										
4																																										
5																																										

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・1年生		
開講時期	3Q	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	相談援助の理論と方法 (科目ナンバリング: SWS122023, SWS422082, SWS522093)				
授業担当者(所属・職名)	畠山 明子(社会福祉学科・専任講師)	研究室所在	1号館2階		
単位数	2 (単位認定責任者: 畠山 明子)	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

授業計画

各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間			
回	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	本講義の進め方、シラバスの説明、ソーシャルワークの理論と方法の振り返り	本講義で学ぶ概要についてシラバスや教科書の内容を確認する。(90分)	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。(90分)
2	ソーシャルワークの理論と方法の概説	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。前回授業で指示した用語やテーマについて調べる。(90分)	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。(90分)
3	ケアマネジメントについて (原則・意義と方法)	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。前回授業で指示した用語やテーマについて調べる。(90分)	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。(90分)
4	ケアマネジメントについて (事例検討)	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。前回授業で指示した用語やテーマについて調べる。(90分)	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。(90分)
5	集団を活用した支援について (グループワークの意義と目的・原則・展開過程)	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。前回授業で指示した用語やテーマについて調べる。(90分)	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。(90分)
6	集団を活用した支援について (事例検討: グループワーク)	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。前回授業で指示した用語やテーマについて調べる。(90分)	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。(90分)
7	集団を活用した支援について (セルフヘルプグループ)	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。前回授業で指示した用語やテーマについて調べる。(90分)	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。(90分)
8	集団を活用した支援について (事例検討: セルフヘルプグループ)	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。前回授業で指示した用語やテーマについて調べる。(90分)	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。(90分)
9	コミュニティワークについて (意義と目的: コミュニティワークの展開)	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。前回授業で指示した用語やテーマについて調べる。(90分)	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。(90分)
10	コミュニティワークについて (事例検討1)	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。前回授業で指示した用語やテーマについて調べる。(90分)	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。(90分)
11	コミュニティワークについて (事例検討2)	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。前回授業で指示した用語やテーマについて調べる。(90分)	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。(90分)
12	コミュニティワークについて (事例検討3)	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。前回授業で指示した用語やテーマについて調べる。(90分)	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。(90分)
13	スーパービジョンとコンサルテーションについて (意義・目的)	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。前回授業で指示した用語やテーマについて調べる。(90分)	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。(90分)
14	スーパービジョンとコンサルテーションについて (方法)	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。前回授業で指示した用語やテーマについて調べる。(90分)	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。(90分)
15	授業のまとめ	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。前回授業で指示した用語やテーマについて調べる。(90分)	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。(90分)
16	定期試験(60分の試験終了後、残りの30分で解説)	試験に向けて授業内容の振り返りを行う。(90分)	試験で間違えた箇所、理解があいまいだった箇所についてプリント等を確認して見直し、復習を行う。(90分)

授業計画			
回	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・1年		
開講時期	1Q	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	ソーシャルワーク演習 (科目ナンバリング:)				
授業担当者(所属・職名)	小早川 俊哉(社会福祉学科・教授)・上原 正希(社会福祉学科・教授)・西野克	研究室所在	1号館2階		
単位数	1 (単位認定責任者: 上原 正希)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	社会福祉士・精神保健福祉士・介護支援専門員などの資格を持ち、ソーシャルワーカーとして現場経験のある教員が、自分自身のソーシャルワーク経験や体験談を踏まえ、講義を行う。		

概要

履修目標
<ol style="list-style-type: none"> 1. ソーシャルワークの知識と技術に係る他の科目との関連性を踏まえ、社会福祉士及び精神保健福祉士として求められる基礎的な能力を涵養する。 2. ソーシャルワークの価値規範と倫理を実践的に理解する。 3. ソーシャルワークの実践に必要なコミュニケーション能力を養う。 4. ソーシャルワークの展開過程において用いられる、知識と技術を実践的に理解する。 5. 精神保健医療福祉のソーシャルワークについても理解する。

授業の位置づけ
社会福祉学科のDP「1(1)と(3)と(4)と(6)と(7)」と、「2(2)」に対応する。

到達目標
社会福祉士および精神保健福祉士に必要な専門職としての基礎的知識・技術について体験的に理解できる。

授業全体の内容と概要
個別指導並びに集団指導を通して、具体的な援助場面を想定した実技指導(ロールプレイ等)を中心とする演習形態により行う。

授業の方法
<ol style="list-style-type: none"> 1. グループに分かれて、テキストの事例を実際にロールプレイしたり、小グループに分かれてディスカッションを行う。その中で教員のスーパービジョンを受け、自己の振り返りを行い、自己覚知を促す。 2. COVID-19の状況により、対面授業およびオンライン授業の併用やどちらかに変更になる場合もあります。

アクティブラーニングの実施方法												
<table border="1"> <tr> <td>プレゼンテーション</td> <td>グループワーク</td> <td>フィールドワーク</td> <td>PBL</td> </tr> <tr> <td>模擬授業</td> <td>ロールプレイ</td> <td>調査学習</td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td>ディスカッション</td> <td>実験・実習・実技</td> <td>双方向授業</td> <td>その他(授業の方法参照)</td> </tr> </table>	プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL	模擬授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業	ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)
プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL									
模擬授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業									
ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)									

履修上の注意事項
<ol style="list-style-type: none"> 1. 教科書は必ず持参すること。 2. 必要な資料等は適宜配布します。

資格指定科目
社会福祉士国家試験受験資格課程, 精神保健福祉士国家試験受験資格課程 スクール(学校)ソーシャルワーカー資格課程

評価方法・基準

評価前提条件												
<ol style="list-style-type: none"> 1. 単位認定に必要な最低出席回数10回以上をクリアすること。 2. その他については、出席状況20%と、演習における話し合いの態度や発言の取り組み態度60%で評価します。 												
評価方法												
<table border="1"> <tr> <td>定期試験</td> <td>レポート</td> <td>課題・作品</td> <td>中間テスト</td> <td>平常点</td> <td>その他</td> </tr> <tr> <td>0%</td> <td>20%</td> <td>0%</td> <td>0%</td> <td>0%</td> <td>80%</td> </tr> </table>	定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他	0%	20%	0%	0%	0%	80%
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他							
0%	20%	0%	0%	0%	80%							

ルーブリック																																									
<table border="1"> <tr> <th rowspan="2">評価項目</th> <th colspan="5">評価基準</th> </tr> <tr> <th>履修項目を超えたレベルを達成している</th> <th>履修項目をほぼ達成している</th> <th>履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している</th> <th>到達目標を達成している</th> <th>到達目標を達成していない</th> </tr> <tr> <td>ソーシャルワークにおける自己理解、他者理解の重要性を理解する。</td> <td>自己覚知の概念、自己開示の実践、他者理解における実践理論を言語で明確に説明できた。</td> <td>自己覚知の概念、他者理解における実践理論を言語で明確に説明できた。</td> <td>自己覚知の概念、自己開示の実践を言語で明確に説明できた。</td> <td>自己覚知の概念を言語で明確に理解できた。</td> <td>左記の専門用語を一つも説明できなかった。</td> </tr> <tr> <td>ソーシャルワークにおける面接技法を理解する。</td> <td>ソーシャルワーク面接の一連のプロセスと重要タームをマイクロカウンセリング技法の用語を用いて説明できた。</td> <td>ソーシャルワーク面接の一連のプロセスの重要タームを説明できた。</td> <td>ソーシャルワーク面接の一連のプロセスを説明できた。</td> <td>面接における身体技法を実践できた。</td> <td>左記の専門ターム及び実践技法を一つも説明及び実践できなかった。</td> </tr> <tr> <td>ソーシャルワークにおけるアセスメント、プランニング、ケースカンファレンス、モニタリング、評価について理解する。</td> <td>アセスメント、プランニング、ケースカンファレンス、モニタリング、評価について明確に言語で説明できる、且つ各々の矢区割りやロールプレイングで実践できた。</td> <td>アセスメント、プランニング、ケースカンファレンス、モニタリング、評価における各々の役割をロールプレイングで実践できた。</td> <td>アセスメント、プランニング、ケースカンファレンス、評価、モニタリングの理論と重要性を言語で明確に説明できた。</td> <td>アセスメント、プランニング、ケースカンファレンス、モニタリング、評価の重要性を説明できた。</td> <td>左記の用語の説明およびロールプレイング実践を一つもできなかった。</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	評価項目	評価基準					履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない	ソーシャルワークにおける自己理解、他者理解の重要性を理解する。	自己覚知の概念、自己開示の実践、他者理解における実践理論を言語で明確に説明できた。	自己覚知の概念、他者理解における実践理論を言語で明確に説明できた。	自己覚知の概念、自己開示の実践を言語で明確に説明できた。	自己覚知の概念を言語で明確に理解できた。	左記の専門用語を一つも説明できなかった。	ソーシャルワークにおける面接技法を理解する。	ソーシャルワーク面接の一連のプロセスと重要タームをマイクロカウンセリング技法の用語を用いて説明できた。	ソーシャルワーク面接の一連のプロセスの重要タームを説明できた。	ソーシャルワーク面接の一連のプロセスを説明できた。	面接における身体技法を実践できた。	左記の専門ターム及び実践技法を一つも説明及び実践できなかった。	ソーシャルワークにおけるアセスメント、プランニング、ケースカンファレンス、モニタリング、評価について理解する。	アセスメント、プランニング、ケースカンファレンス、モニタリング、評価について明確に言語で説明できる、且つ各々の矢区割りやロールプレイングで実践できた。	アセスメント、プランニング、ケースカンファレンス、モニタリング、評価における各々の役割をロールプレイングで実践できた。	アセスメント、プランニング、ケースカンファレンス、評価、モニタリングの理論と重要性を言語で明確に説明できた。	アセスメント、プランニング、ケースカンファレンス、モニタリング、評価の重要性を説明できた。	左記の用語の説明およびロールプレイング実践を一つもできなかった。												
評価項目		評価基準																																							
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない																																				
ソーシャルワークにおける自己理解、他者理解の重要性を理解する。	自己覚知の概念、自己開示の実践、他者理解における実践理論を言語で明確に説明できた。	自己覚知の概念、他者理解における実践理論を言語で明確に説明できた。	自己覚知の概念、自己開示の実践を言語で明確に説明できた。	自己覚知の概念を言語で明確に理解できた。	左記の専門用語を一つも説明できなかった。																																				
ソーシャルワークにおける面接技法を理解する。	ソーシャルワーク面接の一連のプロセスと重要タームをマイクロカウンセリング技法の用語を用いて説明できた。	ソーシャルワーク面接の一連のプロセスの重要タームを説明できた。	ソーシャルワーク面接の一連のプロセスを説明できた。	面接における身体技法を実践できた。	左記の専門ターム及び実践技法を一つも説明及び実践できなかった。																																				
ソーシャルワークにおけるアセスメント、プランニング、ケースカンファレンス、モニタリング、評価について理解する。	アセスメント、プランニング、ケースカンファレンス、モニタリング、評価について明確に言語で説明できる、且つ各々の矢区割りやロールプレイングで実践できた。	アセスメント、プランニング、ケースカンファレンス、モニタリング、評価における各々の役割をロールプレイングで実践できた。	アセスメント、プランニング、ケースカンファレンス、評価、モニタリングの理論と重要性を言語で明確に説明できた。	アセスメント、プランニング、ケースカンファレンス、モニタリング、評価の重要性を説明できた。	左記の用語の説明およびロールプレイング実践を一つもできなかった。																																				

教科書・参考文献・資料等

教科書																																										
<table border="1"> <tr> <th>No</th> <th>書籍名</th> <th>著者</th> <th>出版社</th> <th>出版年</th> <th>ISBN</th> <th>備考</th> </tr> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>適宜紹介する。</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>4</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>5</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考	1						適宜紹介する。	2							3							4							5						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考																																				
1						適宜紹介する。																																				
2																																										
3																																										
4																																										
5																																										

参考文献・資料等																																										
<table border="1"> <tr> <th>No</th> <th>書籍名</th> <th>著者</th> <th>出版社</th> <th>出版年</th> <th>ISBN</th> <th>備考</th> </tr> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>4</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>5</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考	1							2							3							4							5						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考																																				
1																																										
2																																										
3																																										
4																																										
5																																										

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・1年		
開講時期	1Q	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	ソーシャルワーク演習 (科目ナンバリング:)				
授業担当者(所属・職名)	小早川 俊哉(社会福祉学科・教授)・上原 正希(社会福祉学科・教授)・西野克	研究室所在	1号館2階		
単位数	1 (単位認定責任者: 上原 正希)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	社会福祉士・精神保健福祉士・介護支援専門員などの資格を持ち、ソーシャルワーカーとして現場経験のある教員が、自分自身のソーシャルワーク経験や体験談を踏まえ、講義を行う。		

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	オリエンテーション(グループ分け 自己紹介) シラバスの説明。自己覚知・自己理解と他者理解について理解する。基本的なコミュニケーション技術について理解する。	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	ノート整理・自己の言動の振り返り(90分)
2	・言語的技術(質問、促し、言い換え、感情の反響)の基本的な面接技術・面接の構造化について理解する。	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	ノート整理・自己の言動の振り返り(90分)
3	・環境の設定(面接室、生活場面、自室等)	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	ノート整理・自己の言動の振り返り(90分)
4	ソーシャルワークの展開過程 事例を用いて、具体的なソーシャルワークの場面と過程について理解する。	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	ノート整理・自己の言動の振り返り(90分)
5	ソーシャルワークの展開過程 事例を用いて、具体的なソーシャルワークの場面と過程について理解する。	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	ノート整理・自己の言動の振り返り(90分)
6	ソーシャルワークの展開過程 事例を用いて、具体的なソーシャルワークの場面と過程について理解する。	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	ノート整理・自己の言動の振り返り(90分)
7	ソーシャルワークの展開過程 事例を用いて、具体的なソーシャルワークの場面と過程について理解する。	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	ノート整理・自己の言動の振り返り(90分)
8	ソーシャルワークの展開過程 事例を用いて、具体的なソーシャルワークの場面と過程について理解する。	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	ノート整理・自己の言動の振り返り(90分)
9	ソーシャルワークの展開過程 事例を用いて、具体的なソーシャルワークの場面と過程について理解する。	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	ノート整理・自己の言動の振り返り(90分)
10	ソーシャルワークの展開過程 事例を用いて、具体的なソーシャルワークの場面と過程について理解する。	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	ノート整理・自己の言動の振り返り(90分)
11	ソーシャルワークの記録について理解する。・支援経過の把握と管理	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	ノート整理・自己の言動の振り返り(90分)
12	グループダイナミクスの活用について理解する。・グループワークの構成(グループリーダー・コリーダー・グループメンバー)	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	ノート整理・自己の言動の振り返り(90分)
13	グループダイナミクスの活用について理解する。・グループワークの展開過程(準備期・開始期・作業期・終結期)	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	ノート整理・自己の言動の振り返り(90分)
14	プレゼンテーション技術について理解する。・個人プレゼンテーション・グループプレゼンテーション	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	ノート整理・自己の言動の振り返り(90分)
15	プレゼンテーション技術について理解する。・個人プレゼンテーション・グループプレゼンテーション	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	ノート整理・自己の言動の振り返り(90分)
16	まとめ	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	ノート整理・自己の言動の振り返り(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・2年		
開講時期	1Q	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	相談援助の理論と方法 (科目ナンバリング: SWS123024, SWS423083, SWS523094)				
授業担当者(所属・職名)	大島 康雄(社会福祉学科・准教授)	研究室所在	1号館2階		
単位数	2 (単位認定責任者: 大島 康雄)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	社会福祉士として相談援助を行っていた教員が相談援助の実際をライブ形式で授業を行います。		

概要

履修目標	相談援助の理論・で学んだ内容技術について、より広げ集団及び家族への援助並びに地域を基盤とした援助等のためのケアマネジメントの基礎などの理解する。
------	--

授業の位置づけ	社会福祉学科のDP「1(1)と(3)と(4)」、「2(2)」に対応する。
---------	--------------------------------------

到達目標	社会福祉専門職の多様な技術とその効果について理解し、説明できる。事例などから、利用者のケアマネジメントを実施できる。
------	--

授業全体の内容と概要	社会福祉援助体系に占める、ケースワークを中心に学ぶ。現場で必要とされる面接技術を身につける。社会福祉専門職と集団・間接援助技術の関係性を学ぶ。
------------	---

授業の方法	知識の獲得はもちろんです、グループワークや演習、ロールプレイなど、ソーシャルワーカーにとって必要な技術を活用しながら授業を行います。板書やプリントなどを使い、確認テストも行い、知識の獲得を図ります。マイクロカウンセリングを行い、自身の課題などをフィードバックして、面接の在り方を意識できるようにします。質問に対してはそのつど対応します。
-------	--

アクティブラーニングの実施方法							
<input type="checkbox"/>	プレゼンテーション	<input type="checkbox"/>	グループワーク	<input type="checkbox"/>	フィールドワーク	<input type="checkbox"/>	PBL
<input type="checkbox"/>	模擬授業	<input type="checkbox"/>	ロールプレイ	<input type="checkbox"/>	調査学習	<input type="checkbox"/>	反転授業
<input type="checkbox"/>	ディスカッション	<input type="checkbox"/>	実験・実習・実技	<input type="checkbox"/>	双方向授業	<input type="checkbox"/>	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項	教科書は必ず持参すること。資料等は、適宜配布します。相談援助の理論と方法・を学んでいることが望ましい。試験前の授業では総まとめを行います、大変重要です。
----------	--

資格指定科目	スポーツソーシャルワーカー資格課程科目
--------	---------------------

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数は、12回以上。手書きのノートの提出があります。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
50%	0%	25%	0%	25%	0%

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
授業に参加し、ノートを作成し提出する。	15回以上授業に参加し、ノートが整理され積極的に学習できた。	14回授業に参加し、ノートが整理され積極的に学習できた。	13回授業に参加し、ノートが整理され積極的に学習できた。	12回授業に参加し、ノートが整理され積極的に学習できた。	11回以下しか授業に参加できなかった。
定期試験の成績が60点以上である。	確認テストを受けて、定期試験の成績が100-90点できた。	確認テストを受けて、定期試験の成績が89-80点以上できた。	確認テストを受けて、定期試験の成績が79-70点以上できた。	確認テストを受けて、定期試験の成績が69-60点以上できた。	確認テストをある程度受け、定期試験の成績が59点以下しか獲得できなかった。
マイクロカウンセリングを意識した面接が行え、ケアマネジメントサイクルが行える。	マイクロカウンセリングを意識しながら、インタークからエバリュエーションまでできた。	マイクロカウンセリングを意識しながら、インタークからモニタリングまでできた。	マイクロカウンセリングを意識しながら、インタークからプランニングまでできた。	マイクロカウンセリングを意識しながら、インタークからアセスメントまでできた。	演習や模擬面接ができなかった。

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『相談援助の理論と方法』	社会福祉士養成講座編集委員会	中央法規	2009年02月	9784805851043	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・2年		
開講時期	1Q	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	相談援助の理論と方法 (科目ナンバリング: SWS123024, SWS423083, SWS523094)				
授業担当者(所属・職名)	大島 康雄(社会福祉学科・准教授)	研究室所在	1号館2階		
単位数	2 (単位認定責任者: 大島 康雄)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	社会福祉士として相談援助を行っていた教員が相談援助の実際をライブ形式で授業を行います。		

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	相談援助の理論と方法 の学びについて シラバスの説明	事前に教科書を確認(90分)	板書・教科書の復習(90分)
2	相談援助における対象の理解 概念と定義	事前に教科書を確認(90分)	板書・教科書の復習(90分)
3	相談援助における対象の理解 対象の捉え方	事前に教科書を確認(90分)	板書・教科書の復習(90分)
4	ケースマネジメント インテーク	事前に教科書を確認(90分)	板書・教科書の復習(90分)
5	ケースマネジメント アセスメント	事前に教科書を確認(90分)	板書・教科書の復習(90分)
6	ケースマネジメント プランニング	事前に教科書を確認(90分)	板書・教科書の復習(90分)
7	ケースマネジメント ケアプランの作成	事前に教科書を確認(90分)	板書・教科書の復習(90分)
8	ケアマネジメントの実際(在宅)について理論	事前に教科書を確認(90分)	板書・教科書の復習(90分)
9	ケアマネジメントの実際(在宅)について実践 事例研究	事前に教科書を確認(90分)	板書・教科書の復習(90分)
10	ケアマネジメントの実際(施設)について理論	事前に教科書を確認(90分)	板書・教科書の復習(90分)
11	ケアマネジメントの実際(施設)について実践 事例研究	事前に教科書を確認(90分)	板書・教科書の復習(90分)
12	コーディネーションとネットワークング	事前に教科書を確認(90分)	板書・教科書の復習(90分)
13	コーディネーションとネットワークング	事前に教科書を確認(90分)	板書・教科書の復習(90分)
14	相談援助における社会資源の活用・調整・開発 ソーシャルアクション	事前に教科書を確認(90分)	板書・教科書の復習(90分)
15	ボランティアについて、実習態度、まとめ	事前に教科書を確認(90分)	板書・教科書の復習(90分)
16	定期試験(60分試験終了後・30分解説)	定期試験対策(90分)	試験の振り返り(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・2年		
開講時期	3Q	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	相談援助の理論と方法 (科目ナンバリング: SWS123025, SWS423084, SWS523095)				
授業担当者(所属・職名)	大島 康雄(社会福祉学科・准教授)	研究室所在	1号館2階		
単位数	2 (単位認定責任者: 大島 康雄)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	社会福祉士として相談援助を行っていた教員が相談援助の実際をライブ形式で授業を行います。		

概要

履修目標	相談援助の理論と方法 - で学んだことを基礎とし、相談援助の関連援助技術、その意義・役割の理解。医療・学校等のソーシャルワークの現状について理解する。																								
授業の位置づけ	社会福祉学科のDP「1(1)と(3)と(4)」、「2(2)」に対応する。																								
到達目標	社会福祉専門職の多様な技術とその効果について理解できる。 事例などから、利用者のケアマネジメントができる。																								
授業全体の内容と概要	相談援助の理論と方法 - までの総合的な振り返り・まとめとして、相談援助の理論と方法 の授業終了時、相談援助職の専門性について自分自身の意見(発言)ができるようになる。																								
授業の方法	知識の獲得はもちろんですが、グループワークや演習、ロールプレイなど、ソーシャルワーカーにとって必要な技術を活用しながら授業を行います。板書やプリントなどを使い、確認テストも行い、知識の獲得を図ります。マイクロカウンセリングを行い、自身の課題などをフィードバックして、面接の在り方を意識できるようにします。																								
アクティブラーニングの実施方法	<table border="1"> <tr> <td><input type="checkbox"/></td> <td>プレゼンテーション</td> <td><input type="checkbox"/></td> <td>グループワーク</td> <td><input type="checkbox"/></td> <td>フィールドワーク</td> <td><input type="checkbox"/></td> <td>PBL</td> </tr> <tr> <td><input type="checkbox"/></td> <td>模擬授業</td> <td><input type="checkbox"/></td> <td>ロールプレイ</td> <td><input type="checkbox"/></td> <td>調査学習</td> <td><input type="checkbox"/></td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td><input type="checkbox"/></td> <td>ディスカッション</td> <td><input type="checkbox"/></td> <td>実験・実習・実技</td> <td><input type="checkbox"/></td> <td>双方向授業</td> <td><input type="checkbox"/></td> <td>その他(授業の方法参照)</td> </tr> </table>	<input type="checkbox"/>	プレゼンテーション	<input type="checkbox"/>	グループワーク	<input type="checkbox"/>	フィールドワーク	<input type="checkbox"/>	PBL	<input type="checkbox"/>	模擬授業	<input type="checkbox"/>	ロールプレイ	<input type="checkbox"/>	調査学習	<input type="checkbox"/>	反転授業	<input type="checkbox"/>	ディスカッション	<input type="checkbox"/>	実験・実習・実技	<input type="checkbox"/>	双方向授業	<input type="checkbox"/>	その他(授業の方法参照)
<input type="checkbox"/>	プレゼンテーション	<input type="checkbox"/>	グループワーク	<input type="checkbox"/>	フィールドワーク	<input type="checkbox"/>	PBL																		
<input type="checkbox"/>	模擬授業	<input type="checkbox"/>	ロールプレイ	<input type="checkbox"/>	調査学習	<input type="checkbox"/>	反転授業																		
<input type="checkbox"/>	ディスカッション	<input type="checkbox"/>	実験・実習・実技	<input type="checkbox"/>	双方向授業	<input type="checkbox"/>	その他(授業の方法参照)																		
履修上の注意事項	教科書は必ず持参すること。資料等は、適宜配布します。 相談援助の理論と方法 - を学んでいることが望ましい。																								
資格指定科目	社会福祉士国家試験受験資格課程																								

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数は、12回以上。手書きのノートの提出があります。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
50%	0%	25%	0%	25%	0%

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
授業に参加し、ノートを作成し提出する。	15回以上授業に参加し、ノートが整理され積極的に学習できた。	14回授業に参加し、ノートが整理され積極的に学習できた。	13回授業に参加し、ノートが整理され積極的に学習できた。	12回授業に参加し、ノートが整理され積極的に学習できた。	11回以下しか授業に参加できなかった。
定期試験の成績が点以上60点以上である。	確認テストを受けて、定期試験の成績が100-90点獲得できた。	確認テストを受けて、定期試験の成績が89-80点以上獲得できた。	確認テストを受けて、定期試験の成績が79-70点以上獲得できた。	確認テストを受けて、定期試験の成績が69-60点以上獲得できた。	確認テストをある程度受け、定期試験の成績が59点以下しか獲得できなかった。
ソーシャルワークの技術を活用し、自己の課題やワーカーとしての在り方を述べることができる。	CW, GWなどを活用することができる。自己の課題、ワーカーとしての在り方を適切に伝えることができた。	CW, GWなどを活用することができる。自己の課題、ワーカーとしての在り方をある程度に伝えることができた。	自己の課題、ワーカーとしての在り方を伝えることができた。	ワーカーとしての在り方を伝えることができた。	アウトプットすることができなかった。

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『相談援助の理論と方法』	社会福祉士養成講座編集委員会	中央法規	2009年	9784805851043	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・2年		
開講時期	3Q	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	相談援助の理論と方法 (科目ナンバリング: SWS123025, SWS423084, SWS523095)				
授業担当者(所属・職名)	大島 康雄(社会福祉学科・准教授)	研究室所在	1号館2階		
単位数	2 (単位認定責任者: 大島 康雄)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	社会福祉士として相談援助を行っていた教員が相談援助の実際をライブ形式で授業を行います。		

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	グループを活用した相談援助、シラバスの説明	事前に教科書を確認(90分)	板書・教科書の復習(90分)
2	心理社会アプローチ	事前に教科書を確認(90分)	板書・教科書の復習(90分)
3	機能的アプローチ	事前に教科書を確認(90分)	板書・教科書の復習(90分)
4	問題解決アプローチ	事前に教科書を確認(90分)	板書・教科書の復習(90分)
5	課題中心アプローチ	事前に教科書を確認(90分)	板書・教科書の復習(90分)
6	危機介入アプローチ	事前に教科書を確認(90分)	板書・教科書の復習(90分)
7	行動変容アプローチ	事前に教科書を確認(90分)	板書・教科書の復習(90分)
8	事例考察	事前に教科書を確認(90分)	板書・教科書の復習(90分)
9	様々な実践モデルとアプローチ エンパワメント, フラティフ	事前に教科書を確認(90分)	板書・教科書の復習(90分)
10	様々な実践モデルとアプローチ 認知アプローチ	事前に教科書を確認(90分)	板書・教科書の復習(90分)
11	スーパービジョンとコンサルテーション	事前に教科書を確認(90分)	板書・教科書の復習(90分)
12	ケースカンファレンスの技術	事前に教科書を確認(90分)	板書・教科書の復習(90分)
13	個人情報の保護と情報通信技術の活用	事前に教科書を確認(90分)	板書・教科書の復習(90分)
14	事例研究・事例分析	事前に教科書を確認(90分)	板書・教科書の復習(90分)
15	ノート提出・まとめ	事前に教科書を確認(90分)	板書・教科書の復習(90分)
16	定期試験(60分試験終了後・30分解説)	定期試験対策(90分)	試験の振り返り(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・3年		
開講時期	1Q	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	地域福祉の理論と方法 (科目ナンバリング: SWS123026, SWS4233085, SWS523096)				
授業担当者(所属・職名)	上原 正希(社会福祉学科・教授)		研究室所在	1号館2階	
単位数	2 (単位認定責任者: 上原 正希)		CAP制		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	社会福祉士・精神保健福祉士・介護支援専門員の資格を持ち、日本ソーシャルワーカー協会理事であるソーシャルワーカーとして現場経験のある教員が、自分自身のソーシャルワーク経験や体験談を踏まえ、講義を行う。		

概要

履修目標																								
社会福祉士国家試験出題基準にも関連する地域福祉学の学術用語や地域福祉の理念と対象、ソーシャルワークなど地域福祉学の基礎を理解する。																								
授業の位置づけ																								
社会福祉学科のDP「1(1)と(2)と(3)と(4)と(5)と(6)と(7)」、「2(2)」に対応する。																								
到達目標																								
1. 地域社会における社会福祉の対象について説明ができる。 2. 地域福祉学の学術用語の基礎的説明ができる。																								
授業全体の内容と概要																								
1. 地域福祉学は、その対象理解を学ぶものが地域福祉論、実践方法・技術を学ぶものがコミュニティワークになる。 2. 本科目は、理論的接近により地域社会、地域住民、地域資源とは何か、地域福祉論の基礎について学ぶ。 3. テキストを中心に関連文献を適宜紹介し、参考文献として、その他、文献資料も活用する。 4. 授業内容は、社会福祉士国家試験科目「地域福祉の理論と方法」の内容についての理論的理解を含む。																								
授業の方法																								
1. 授業形態は講義形式だが、適宜、グループワークやディスカッションを含む。 2. テキストを使用し、ポイントとするべき箇所は説明、板書を行う。 3. 適宜、質疑応答を交える。 4. COVID-19の状況により、対面授業およびオンライン授業の併用やどちらかに変更になる場合もあります。																								
アクティブラーニングの実施方法																								
<table border="1"> <tr> <td></td> <td>プレゼンテーション</td> <td></td> <td>グループワーク</td> <td></td> <td>フィールドワーク</td> <td></td> <td>PBL</td> </tr> <tr> <td></td> <td>模擬授業</td> <td></td> <td>ロールプレイ</td> <td></td> <td>調査学習</td> <td></td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td></td> <td>ディスカッション</td> <td></td> <td>実験・実習・実技</td> <td></td> <td>双方向授業</td> <td></td> <td>その他(授業の方法参照)</td> </tr> </table>		プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL		模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業		ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)
	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL																	
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業																	
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)																	
履修上の注意事項																								
1. 教科書は必ず持参すること。 2. 必要な資料等は適宜配布する。 3. 15回目の授業時にノートの確認を行う。 4. とは同じ教科書を使用する。																								
資格指定科目																								
社会福祉士国家試験受験資格課程, 精神保健福祉士国家試験受験資格課程, 精神保健福祉士国家試験受験資格課程																								

評価方法・基準

評価前提条件					
1. 出席回数は最低10回なければ試験を受験することはできない。 2. その他については、出席状況15%・ノート確認15%の評価となる。 3. 成績評価分布の目標について「S」は履修者の10%以内とし、「A」と「S」を含めて履修者の40%以内とする。但し、履修者が10人未満の授業科目は、授業形態等を考慮し、成績評価の割合の対象外とします(絶対評価と相対評価を併用する)。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
70%	0%	0%	0%	0%	30%

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
【知識】地域福祉の基本的な考え方について理解できた。	地域福祉の基本的な考え方について非常に理解できた。	地域福祉の基本的な考え方についておおむね理解できた。	地域福祉の基本的な考え方について理解できた。	地域福祉の基本的な考え方について理解が一部できなかった。	地域福祉の基本的な考え方について全体的に理解ができなかった。
【知識】地域福祉の組織や役割について理解できた。	地域福祉の組織や役割について非常に理解できた。	地域福祉の組織や役割についておおむね理解できた。	地域福祉の組織や役割について理解できた。	地域福祉の組織や役割について理解が一部できなかった。	地域福祉の組織や役割について全体的に理解ができなかった。
【知識】コミュニティソーシャルワークについて理解できた。	コミュニティソーシャルワークについて非常に理解できた。	コミュニティソーシャルワークについておおむね理解できた。	コミュニティソーシャルワークについて理解できた。	コミュニティソーシャルワークについて理解が一部できなかった。	コミュニティソーシャルワークについて全体的に理解ができなかった。

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『地域福祉と包括的支援体制』	日本ソーシャルワーク教育学校連盟	中央法規	2021年	978-4-8058-8236-8	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・3年		
開講時期	1Q	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	地域福祉の理論と方法 (科目ナンバリング: SWS123026, SWS4233085, SWS523096)				
授業担当者(所属・職名)	上原 正希(社会福祉学科・教授)		研究室所在	1号館2階	
単位数	2 (単位認定責任者: 上原 正希)		CAP制		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	社会福祉士・精神保健福祉士・介護支援専門員の資格を持ち、日本ソーシャルワーカー協会理事であるソーシャルワーカーとして現場経験のある教員が、自分自身のソーシャルワーク経験や体験談を踏まえ、講義を行う。		

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	ガイダンス・シラバスの説明	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	ノート整理を行うこと(90分)
2	地域福祉の発展過程について	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	ノート整理を行うこと(90分)
3	地域福祉の発展過程 - 行政と住民の協働・新しい生活課題	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	ノート整理を行うこと(90分)
4	地域福祉の発展過程 - 新しいサービスシステム・地域福祉の主体	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	ノート整理を行うこと(90分)
5	地域福祉の基本的考え方 - 地域福祉理論の発展・理念	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	ノート整理を行うこと(90分)
6	地域福祉の基本的考え方 - 地域コミュニティ型組織とアソシエーション型組織	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	ノート整理を行うこと(90分)
7	地域福祉の主体と福祉教育について	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	ノート整理を行うこと(90分)
8	行政組織と民間組織の役割と実際 - 地域福祉計画	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	ノート整理を行うこと(90分)
9	行政組織と民間組織の役割と実際 - 社会福祉協議会・社会福祉法人	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	ノート整理を行うこと(90分)
10	行政組織と民間組織の役割と実際 - NPO・民生委員児童委員など	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	ノート整理を行うこと(90分)
11	コミュニティソーシャルワークについて - 考え方	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	ノート整理を行うこと(90分)
12	コミュニティソーシャルワークについて - 展開とシステム	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	ノート整理を行うこと(90分)
13	コミュニティソーシャルワークについて - 方法	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	ノート整理を行うこと(90分)
14	コミュニティソーシャルワークについて - チームアプローチ	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	ノート整理を行うこと(90分)
15	コミュニティソーシャルワークについて - 専門職と住民	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	ノート整理を行うこと(90分)
16	【定期試験】60分の試験終了後、残りの30分で解説	テスト勉強をしておくこと(90分)	テストの振り返りを行うこと(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・1年		
開講時期	2Q	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	現代の精神保健の課題 (科目ナンバリング:)				
授業担当者(所属・職名)	佐々木 智城(社会福祉学科・准教授)	研究室所在	1号館2階		
単位数	2 (単位認定責任者: 佐々木 智城)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	精神科病院の勤務経験のある精神保健福祉士が経験も交えながら指導する。		

概要

履修目標

現代の精神保健分野の動向と課題を理解する。
 精神保健の基本的考え方を理解する。
 現代社会における精神保健の諸課題の実際を生活環境ごとに理解し、精神保健福祉士の役割について理解する。
 精神保健の保持・増進と発生予防のための支援及び専門機関や関係職種との役割と連携について理解する。
 国際連合の精神保健活動他他国々における精神保健の現状と対策について理解する。

授業の位置づけ

社会福祉学科のDP「1(1)と(2)と(4)と(5)」、「2(2)」に対応する。

到達目標

現代の精神保健の動向と課題を知り、精神保健の保持・増進、予防のための支援及び関係機関との連携方法、精神保健福祉士の役割について理解する。

授業全体の内容と概要

現代の精神保健分野の動向と課題と、精神保健の基本的な考え方について、精神保健の保持・増進と発生予防のための支援及び専門機関や関係職種の役割と連携について。

授業の方法

パワーポイント、板書、プリント、DVDを使用しながら講義形式で行うが、内容によってはグループで討論することもある。毎回、授業の最後に学んだことや質問をまとめて提出する。質問は次の授業で回答する。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業	○	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

精神保健に関連する疾患などについて事例を交えて学習する。毎回、授業の最後に学んだことをまとめて提出する。これは出席と成績に反映される。

資格指定科目

精神保健福祉士国家試験受験資格課程

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数は10回以上。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	70%	0%	0%	20%	10%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
メンタルヘルス上の問題の理解	資料やDVDなどの授業内容を十分理解し、自分の考えを含めた感想文を毎回提出していた。	授業後の感想文に自分の考えについてある程度述べていた。	授業後の感想文に自分が理解したことを大枠でまとめた。	内容は乏しいが授業後の感想文に記入していた。	授業後の感想文をほとんど書けなかった。
授業に主体的に取り組む態度	精神疾患を抱えた方への支援方法についてわかりやすく説明できた。	精神疾患を抱えた方への支援方法についておおむね説明できた。	精神疾患を抱えた方への支援方法について一定程度説明できた。	精神疾患を抱えた方への支援方法について多少説明できた。	精神疾患を抱えた方への支援方法について説明することができなかった。
精神保健学的な思考力・判断力の程度	精神保健学の基本を踏まえてメンタルヘルスに関する考察を十分行うことができた。	精神保健学の基本を踏まえてメンタルヘルスに関する考察をおおむね行うことができた。	精神保健学の基本を踏まえてメンタルヘルスに関する考察を一定程度行うことができた。	精神保健学の基本を踏まえてメンタルヘルスに関する考察を多少行うことができた。	精神保健学の基本を踏まえてメンタルヘルスに関する考察を行うことができなかった。

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						教科書なし
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『最新精神保健福祉士養成講座 2 現代の精神保健の課題と支援』	日本ソーシャルワーク教育学校連盟	中央法規出版	2021	4805882530	
2						
3						
4						
5						

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・1年		
開講時期	2Q	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	現代の精神保健の課題 (科目ナンバリング:)				
授業担当者(所属・職名)	佐々木 智城 (社会福祉学科・准教授)	研究室所在	1号館2階		
単位数	2 (単位認定責任者: 佐々木 智城)		CAP制		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	精神科病院の勤務経験のある精神保健福祉士が経験も交えながら指導する。		

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	現代の精神保健分野の動向と基本的考え方について シラバスの説明	指定した教科書を事前に読んでおくこと(90分)	授業の内容をノートにまとめて復習すること。 (90分)
2	家族関係における暴力と精神保健について	指定した教科書を事前に読んでおくこと(90分)	授業の内容をノートにまとめて復習すること。 (90分)
3	出産・育児をめぐる精神保健について	指定した教科書を事前に読んでおくこと(90分)	授業の内容をノートにまとめて復習すること。 (90分)
4	介護をめぐる精神保健について	指定した教科書を事前に読んでおくこと(90分)	授業の内容をノートにまとめて復習すること。 (90分)
5	社会的ひきこもりをめぐる精神保健について	指定した教科書を事前に読んでおくこと(90分)	授業の内容をノートにまとめて復習すること。 (90分)
6	グリーフケアについて	指定した教科書を事前に読んでおくこと(90分)	授業の内容をノートにまとめて復習すること。 (90分)
7	精神保健支援を担う機関について	指定した教科書を事前に読んでおくこと(90分)	授業の内容をノートにまとめて復習すること。 (90分)
8	学校教育における精神保健的課題について	指定した教科書を事前に読んでおくこと(90分)	授業の内容をノートにまとめて復習すること。 (90分)
9	スクールソーシャルワーカーの役割について	指定した教科書を事前に読んでおくこと(90分)	授業の内容をノートにまとめて復習すること。 (90分)
10	学校精神保健にかかわる社会資源について	指定した教科書を事前に読んでおくこと(90分)	授業の内容をノートにまとめて復習すること。 (90分)
11	産業精神保健とその対策について	指定した教科書を事前に読んでおくこと(90分)	授業の内容をノートにまとめて復習すること。 (90分)
12	職場のメンタルヘルスのための相談について	指定した教科書を事前に読んでおくこと(90分)	授業の内容をノートにまとめて復習すること。 (90分)
13	災害被災者の精神保健について	指定した教科書を事前に読んでおくこと(90分)	授業の内容をノートにまとめて復習すること。 (90分)
14	犯罪被害者の支援について	指定した教科書を事前に読んでおくこと(90分)	授業の内容をノートにまとめて復習すること。 (90分)
15	自殺予防について	指定した教科書を事前に読んでおくこと(90分)	授業の内容をノートにまとめて復習すること。 (90分)
16	レポートについて、最終回において解説しフィードバックする。	レポート作成の準備をすること(90分)	レポートの作成(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・3年		
開講時期	4Q	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	地域福祉の理論と方法 (科目ナンバリング: SWS123027, SWS423086, SWS523097)				
授業担当者(所属・職名)	上原 正希(社会福祉学科・教授)		研究室所在	1号館2階	
単位数	2 (単位認定責任者: 上原 正希)		CAP制		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	社会福祉士・精神保健福祉士・介護支援専門員の資格を持ち、日本ソーシャルワーカー協会理事であるソーシャルワーカーとして現場経験のある教員が、自分自身のソーシャルワーク経験や体験談を踏まえ、講義を行う。		

概要

履修目標	社会福祉士国家試験出題基準などにも関連し、地域福祉学の基礎を で学修し、 では地域における具体的な実践について理解する。
------	--

授業の位置づけ	社会福祉学科のDP「1(2)と(3)と(4)と(5)と(6)と(7)」、「2(2)」に対応する。
---------	--

到達目標	1. 地域社会における社会福祉の対象について、具体的事例に基づき、説明ができる。 2. 地域社会における社会福祉のアプローチについて具体的事例に基づき、説明できる。
------	---

授業全体の内容と概要	1. 地域福祉学は、実践方法・技術を学ぶものがコミュニティワーク、その対象理解を学ぶものが地域福祉論になります。 2. 本科目は、での理論的接近により地域社会の推進方法の基礎をより推し進め、地域における具体的な実践について学修します。 3. テキストを中心に、関連文献を適宜紹介します。参考文献として、その他、文献資料も活用します。 4. 授業内容は、社会福祉士国家試験科目「地域福祉の理論と方法」の内容についての理論的理解を含みます。
------------	---

授業の方法	1. 授業形態は講義形式です。 2. テキストを使用し、ポイントとするべき箇所は説明、板書を行います。 3. 適宜質問に対応します。 4. COVID-19の状況により、対面授業およびオンライン授業の併用やどちらかに変更になる場合もあります。
-------	--

アクティブラーニングの実施方法							
	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項	1. 教科書は必ず持参すること。 2. 必要な資料等は適宜配布します。 3. 15回目の授業時にノートの確認を行います。 4. と は同じ教科書を使用します。
----------	--

資格指定科目	社会福祉士国家試験受験資格課程, 精神保健福祉士国家試験受験資格課程
--------	------------------------------------

評価方法・基準

評価前提条件					
1. 出席回数は最低10回なければ試験を受験することはできません。 2. その他については、出席状況15%・ノート確認15%の評価です。 3. 成績評価分布の目標について「S」は履修者の10%以内とし、「A」と「S」を含めて履修者の40%以内とする。但し、履修者が10人未満の授業科目は、授業形態等を考慮し、成績評価の割合の対象外とします(絶対評価と相対評価を併用する)。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
70%	0%	0%	0%	0%	30%

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
【知識】ソーシャルサポートネットワークについて理解できた。	ソーシャルサポートネットワークについて非常に理解できた	ソーシャルサポートネットワークについておおむね理解できた	ソーシャルサポートネットワークについて理解できた	ソーシャルサポートネットワークについて一部理解ができなかった	ソーシャルサポートネットワークについて理解できなかった
【知識】地域における社会資源について理解できた。	地域における社会資源について非常に理解できた	地域における社会資源についておおむね理解できた	地域における社会資源について理解できた	地域における社会資源について一部理解ができなかった	地域における社会資源について理解できなかった
【知識】災害時における地域福祉問題や対策について理解できた。	災害時における地域福祉問題や対策について非常に理解できた	災害時における地域福祉問題や対策についておおむね理解できた	災害時における地域福祉問題や対策について理解できた	災害時における地域福祉問題や対策について一部理解ができなかった	災害時における地域福祉問題や対策について理解できなかった

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『地域福祉と包括的支援体制』	日本ソーシャルワーク教育学校連盟	中央法規	2021年	978-4-8058-8236-8	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・3年		
開講時期	4Q	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	地域福祉の理論と方法 (科目ナンバリング: SWS123027, SWS423086, SWS523097)				
授業担当者(所属・職名)	上原 正希(社会福祉学科・教授)		研究室所在	1号館2階	
単位数	2 (単位認定責任者: 上原 正希)		CAP制		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	社会福祉士・精神保健福祉士・介護支援専門員の資格を持ち、日本ソーシャルワーカー協会理事であるソーシャルワーカーとして現場経験のある教員が、自分自身のソーシャルワーク経験や体験談を踏まえ、講義を行う。		

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	シラバスの説明 地域福祉の推進について・住民参加	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	ノート整理を行うこと(90分)
2	ソーシャルサポートネットワークについて	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	ノート整理を行うこと(90分)
3	ソーシャルサポートネットワークについて・事例	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	ノート整理を行うこと(90分)
4	地域における社会資源の活用・調整・開発について	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	ノート整理を行うこと(90分)
5	地域における社会資源の活用・調整・開発について・事例	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	ノート整理を行うこと(90分)
6	地域における福祉ニーズの把握方法と実際について	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	ノート整理を行うこと(90分)
7	地域における福祉ニーズの把握方法と実際について・事例	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	ノート整理を行うこと(90分)
8	地域トータルケアシステムの構築と実際について	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	ノート整理を行うこと(90分)
9	地域トータルケアシステムの構築と実際について・展開方法	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	ノート整理を行うこと(90分)
10	地域トータルケアシステムの構築と実際について・事例	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	ノート整理を行うこと(90分)
11	地域における福祉サービスの評価方法について	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	ノート整理を行うこと(90分)
12	災害支援と地域福祉について	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	ノート整理を行うこと(90分)
13	災害支援と地域福祉について・事例	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	ノート整理を行うこと(90分)
14	地域福祉と海外について・イギリス	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	ノート整理を行うこと(90分)
15	地域福祉と海外について・アメリカ	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	ノート整理を行うこと(90分)
16	【定期試験】60分の試験終了後、残りの30分で解説	テスト勉強をしておくこと(90分)	テストの振り返りを行うこと(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・1年		
開講時期	3Q	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	精神保健福祉の原理 (科目ナンバリング:)				
授業担当者(所属・職名)	西野 克俊 (社会福祉学科・専任講師)	研究室所在	1号館2階		
単位数	2 (単位認定責任者: 西野 克俊)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	精神科医療機関における実務経験がある教員がその経験を活かして、精神保健福祉の基礎となる知識や倫理観習得のための指導をする。		

概要

履修目標	<p>「障害者」に対する思想や障害者の社会的立場の変遷から、障害福祉の基本的枠組み(理念・視点・関係性)について理解する。精神保健福祉士が対象とする「精神障害者」の定義とその障害特性を構造的に理解するとともに、精神障害者の生活実態について学ぶ。精神疾患や精神障害をもつ当事者の社会的立場や処遇内容の変遷をふまえて、それに対する問題意識をもつ価値観を体得する。精神障害者へのかかわりについて、精神医学ソーシャルワーカーが構築してきた固有の価値を学び、精神保健福祉士の存在意義を理解して職業的アイデンティティの基礎を築く。</p> <p>現在の精神保健福祉士の基本的枠組み(理念・視点・関係性)と倫理綱領に基づく職責について理解する。精神保健福祉士を規定する法律と倫理綱領を把握し、求められる機能や役割を理解する。近年の精神保健福祉の動向を踏まえ、精神保健福祉士の職域と業務特性を理解する。</p>
------	---

授業の位置づけ	社会福祉学科のDP「1(1)と(4)と(7)」、「2(2)」に対応する。
---------	--------------------------------------

到達目標	精神保健福祉の理念や概念を習得し、精神保健福祉士の倫理や価値観を培い、役割や業務特性を理解できる。
------	---

授業全体の内容と概要	障害福祉の理念や概念の理解や社会的障壁について学ぶ。精神保健福祉士の原理や精神保健福祉士の役割等について学ぶ。
------------	---

授業の方法	授業形態は講義形式で行う。テキスト及び配布資料を使用し、ポイントとするべき箇所は説明、板書を行う。質問等に対しては都度口頭にて説明を行い、必要に応じて資料を配布する。確認テストを実施し、解答回収後解説を行う。
-------	--

アクティブラーニングの実施方法						
	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク	PBL
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習	反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項	教科書は必ず持参すること。必要な資料等は適宜配布する。20分以上の遅刻・早退は欠席とみなす。
----------	--

資格指定科目	精神保健福祉士国家試験受験資格科目
--------	-------------------

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数は、10回以上。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
60%	0%	0%	0%	10%	30%

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・理解	精神保健福祉相談援助についての基礎的な知識を深く理解できた。	精神保健福祉相談援助についての基礎的な知識をおおむね理解できた。	精神保健福祉相談援助についての基礎的な知識を理解できた。	精神保健福祉相談援助についての基礎的な知識を多少理解できた。	精神保健福祉相談援助についての基礎的な知識を理解することができなかった。
思考力・考察力	精神保健福祉の基礎を踏まえ、精神保健福祉相談援助の展開について十分に考察できた。	精神保健福祉の基本を踏まえ、精神保健福祉相談援助の展開についておおむね考察できた。	精神保健福祉の基本を踏まえ、精神保健福祉相談援助の展開について考察できた。	精神保健福祉の基本を踏まえ、精神保健福祉相談援助の展開について多少考察できた。	精神保健福祉の基本を踏まえ、精神保健福祉相談援助の展開について考察することができなかった。
主体性・情意	精神保健福祉相談援助の展開について理解したことを適切に説明できた。	精神保健福祉相談援助の展開について理解したことをおおむね説明できた。	精神保健福祉相談援助の展開について理解したことを説明できた。	精神保健福祉相談援助の展開について理解したことを多少説明できた。	精神保健福祉相談援助の展開について理解したことを説明することができなかった。

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『精神保健福祉の原理』	一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟	中央法規出版株式会社	2021	9784805882566	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・1年		
開講時期	3Q	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	精神保健福祉の原理 (科目ナンバリング:)				
授業担当者(所属・職名)	西野 克俊(社会福祉学科・専任講師)	研究室所在	1号館2階		
単位数	2 (単位認定責任者: 西野 克俊)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	精神科医療機関における実務経験がある教員がその経験を活かして、精神保健福祉の基礎となる知識や倫理観習得のための指導をする。		

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	障害者福祉の思想と原理について シラバスの説明	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	ノート・資料整理を行うこと(90分)
2	障害者福祉の理念について(ノーマライゼーション、ソーシャルインクルージョン等)	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	ノート・資料整理を行うこと(90分)
3	障害者福祉の理念について(エンバワメント、自立生活、機関均等等)	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	ノート・資料整理を行うこと(90分)
4	障害者福祉の歴史的展開について	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	ノート・資料整理を行うこと(90分)
5	国際機能分類について(ICIDH、ICFの理解)	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	ノート・資料整理を行うこと(90分)
6	制度における「精神障害者」の定義について	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	ノート・資料整理を行うこと(90分)
7	精神障害の障害特性について	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	ノート・資料整理を行うこと(90分)
8	諸外国の動向について	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	ノート・資料整理を行うこと(90分)
9	日本の精神保健福祉政策に影響のあった出来事について(相馬事件、ライシャワー事件)	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	ノート・資料整理を行うこと(90分)
10	日本の精神保健福祉政策に影響のあった出来事について(宇都宮病院事件、大和側病院事件)	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	ノート・資料整理を行うこと(90分)
11	日本の精神保健福祉政策に影響のあった出来事について(池田小事件、相模原事件)	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	ノート・資料整理を行うこと(90分)
12	社会的障壁の理解について(欠格事項、強制不妊手術など)	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	ノート・資料整理を行うこと(90分)
13	社会的障壁の理解について(コンフリクトの種類など)	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	ノート・資料整理を行うこと(90分)
14	社会的障壁の理解について(人権侵害、アルコール・薬物問題など)	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	ノート・資料整理を行うこと(90分)
15	まとめ「障害者福祉」、「日本における事件」、「社会的障壁」等について	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	ノート・資料整理を行うこと(90分)
16	試験(60分)実施、終了後解説(30分)	試験のための学習(90分)	試験の振り返りを行うこと(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・1年		
開講時期	1Q	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	発達心理学 (科目ナンバリング: EDP122062)				
授業担当者(所属・職名)	佐々木 智城(社会福祉学科・准教授)	研究室所在	1号館2階		
単位数	2 (単位認定責任者: 佐々木 智城)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	病院臨床、スクールカウンセラー経験のある臨床心理士、公認心理師が子どもや大人の発達について臨床の話を変えながら指導する。		

概要

履修目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 保育実践に関わる発達理論等の心理学的知識を踏まえ、発達を捉える視点について理解する。 2. 子どもの発達に関わる心理学の基礎を習得し、養護及び教育の一体性や発達に即した援助の基本となる子どもへの理解を深める。 3. 乳幼児期の子どもの学びの過程や特性について基礎的な知識を習得し、保育における人との相互的関わりや体験、環境の意義を理解する。 												
授業の位置づけ	社会福祉学科のDP「1(2)、(5)、(6)、(7)」、「2(2)」に対応する。												
到達目標	胎児期、乳幼児期から児童青年期までの発達理解、相互的かかわりの重要性、生涯発達の概観を理解する。												
授業全体の内容と概要	保育と心理学、子どもの発達理解、人との相互的かかわりと子どもの発達、生涯発達と初期経験の重要性について学修する。												
授業の方法	パワーポイント、板書、プリント、DVDを使用しながら講義形式で行う。質問は随時受け付ける。												
アクティブラーニングの実施方法	<table border="1"> <tr> <td>プレゼンテーション</td> <td>グループワーク</td> <td>フィールドワーク</td> <td>PBL</td> </tr> <tr> <td>模擬授業</td> <td>ロールプレイ</td> <td>調査学習</td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td>ディスカッション</td> <td>実験・実習・実技</td> <td>双方向授業</td> <td>○ その他(授業の方法参照)</td> </tr> </table>	プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL	模擬授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業	ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	○ その他(授業の方法参照)
プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL										
模擬授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業										
ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	○ その他(授業の方法参照)										
履修上の注意事項	授業ではノートに書き留める事項が多数出てくるので、ノートを取りまとめること。日々にノート作りがテストの結果に直接関わります。												
資格指定科目	保育士養成課程												

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数は10回以上。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
70%	0%	0%	0%	20%	10%

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
発達心理学の授業内容の理解	授業で扱った内容や資料等を理解し、問われた時には何も見ずに答えることができた。	授業内容をノートにまとめている。問われたらノートを見ずに、答えることができた。	授業内容をノートにまとめている。問われたらノートを見ながらでも答えることができた。	授業内容を問われた時に、ノートを見ても答えることができないがノートにまとめることはできていた。	授業内容をノートにまとめることができなかった。
発達心理学的な思考力・判断力の程度	発達心理学の基本を踏まえて、思考や記憶、養着形成等に関する考察を十分行うことができた。	発達心理学の基本を踏まえて、思考や記憶、養着形成等に関する考察をおおむね行うことができた。	発達心理学の基本を踏まえて、思考や記憶、養着形成等に関する考察を行うことができた。	発達心理学の基本を踏まえて、思考や記憶、養着形成等に関する考察を多少行うことができた。	発達心理学の基本を踏まえて、思考や記憶、養着形成等に関する考察を行うことができなかった。
授業に主体的に取り組む態度(思考、記憶、身体、養着形成等の過程)	思考、記憶、身体、養着形成等の過程を発達心理学的にわかりやすく説明できた。	思考、記憶、身体、養着形成等の過程を発達心理学的におおむね説明できた。	思考、記憶、身体、養着形成等の過程を発達心理学的に一定程度説明できた。	思考、記憶、身体、養着形成等の過程を発達心理学的に多少説明できた。	思考、記憶、身体、養着形成等の過程を発達心理学に説明することが難しかった。

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						教科書なし
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『発達心理学』	無藤 隆、子安増生	東京大学出版会	2011	978-4130121002	
2						
3						
4						
5						

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・1年		
開講時期	1Q	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	発達心理学 (科目ナンバリング: EDP122062)				
授業担当者(所属・職名)	佐々木 智城 (社会福祉学科・准教授)	研究室所在	1号館2階		
単位数	2 (単位認定責任者: 佐々木 智城)		CAP制		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	病院臨床、スクールカウンセラー経験のある臨床心理士、公認心理師が子どもや大人の発達について臨床の話を交えながら指導する。		

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	子どもの発達を理解することの意義 シラバスの説明	指定した参考文献を事前に読んでおくこと(90分)	授業の内容をノートにまとめて復習すること。(90分)
2	子どもの発達と環境	指定した参考文献を事前に読んでおくこと(90分)	授業の内容をノートにまとめて復習すること。(90分)
3	発達理論と子ども観・保育観	指定した参考文献を事前に読んでおくこと(90分)	授業の内容をノートにまとめて復習すること。(90分)
4	乳児期の原始反射、運動機能の発達	指定した参考文献を事前に読んでおくこと(90分)	授業の内容をノートにまとめて復習すること。(90分)
5	乳幼児期の愛着形成	指定した参考文献を事前に読んでおくこと(90分)	授業の内容をノートにまとめて復習すること。(90分)
6	乳幼児期の学びに関わる理論	指定した参考文献を事前に読んでおくこと(90分)	授業の内容をノートにまとめて復習すること。(90分)
7	乳幼児期の学びの過程と特性	指定した参考文献を事前に読んでおくこと(90分)	授業の内容をノートにまとめて復習すること。(90分)
8	乳幼児期の学びを支える保育	指定した参考文献を事前に読んでおくこと(90分)	授業の内容をノートにまとめて復習すること。(90分)
9	乳幼児期の社会性の発達	指定した参考文献を事前に読んでおくこと(90分)	授業の内容をノートにまとめて復習すること。(90分)
10	社会情動的発達	指定した参考文献を事前に読んでおくこと(90分)	授業の内容をノートにまとめて復習すること。(90分)
11	身体的機能と運動機能の発達	指定した参考文献を事前に読んでおくこと(90分)	授業の内容をノートにまとめて復習すること。(90分)
12	認知の発達	指定した参考文献を事前に読んでおくこと(90分)	授業の内容をノートにまとめて復習すること。(90分)
13	言語の発達	指定した参考文献を事前に読んでおくこと(90分)	授業の内容をノートにまとめて復習すること。(90分)
14	児童期の思考の発達	指定した参考文献を事前に読んでおくこと(90分)	授業の内容をノートにまとめて復習すること。(90分)
15	道徳性の発達	指定した参考文献を事前に読んでおくこと(90分)	授業の内容をノートにまとめて復習すること。(90分)
16	定期試験。60分の試験終了後、残りの30分で解説を行う。	今までの授業内容を復習しておくこと。(90分)	試験の振り返りを行うこと(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・1年		
開講時期	3Q	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	発達心理学 (科目ナンバリング: EDP122063)				
授業担当者(所属・職名)	佐々木 智城(社会福祉学科・准教授)	研究室所在	1号館2階		
単位数	2 (単位認定責任者: 佐々木 智城)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	小中学校のスクールカウンセリング、放課後等デイサービス、精神科病院勤務経験のある公認心理師が指導する。		

概要

履修目標
<ol style="list-style-type: none"> 生涯発達に関する心理学の基礎的な知識を習得し、初期経験の重要性、発達課題等について理解する。 家族・家庭の意義や機能を理解するとともに、親子関係や家族関係等について発達の観点から理解し、子どもとその家庭を包括的に捉える視点を習得する。 子育て家庭をめぐる現代の社会的状況と課題について理解する。 子どもの精神保健とその課題について理解する。

授業の位置づけ
社会福祉学科のDP「1(2)、(5)、(6)、(7)」、「2(2)」に対応する。

到達目標
人間の生涯発達過程及び発達課題上の危機について理解を深める。その上で、実際の支援時に発達心理学の知識を活用するための視点を習得する。

授業全体の内容と概要
発達心理学 の学習を踏まえて、人間の生涯発達過程についての基本を学ぶ。特に児童青年期から青年期、成人期、老年期までの発達課題や危機について学ぶ。

授業の方法
パワーポイント、板書、プリント、DVDを使用しながら講義形式で行う。質問は随時受け付ける。

アクティブラーニングの実施方法						
	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク	PBL
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習	反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業	○ その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項
授業ではノートに書き留める事項が多数出てくるので、ノートを取りまとめること。日々にノート作りがテストの結果に直接関わります。

資格指定科目
保育士養成課程

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数は10回以上。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
70%	0%	0%	0%	20%	10%

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
授業内容の理解	資料や授業内容をよく理解し、授業で学んだことを問われたときは、何も見ずに答えることができた。	授業内容をノートにまとめてあり、授業内容に関して問われたときに、ノートを見ずに、答えることができた。	授業内容をノートにまとめてあり、授業内容に関して問われたときに、ノートを見ながらでも答えることができた。	問われたときにノートを見ながらでも答えることができないが、ノートにまとめることはできた。	授業内容をノートにまとめることができなかった。
発達心理学的な思考力・判断力の程度	発達心理学の基本を踏まえて、思考や記憶、愛着形成等に関する考察を十分行うことができた。	発達心理学の基本を踏まえて、思考や記憶、愛着形成等に関する考察をおおむね行うことができた。	発達心理学の基本を踏まえて、思考や記憶、愛着形成等に関する考察を一定程度行うことができた。	発達心理学の基本を踏まえて、思考や記憶、愛着形成等に関する考察を多少行うことができた。	発達心理学の基本を踏まえて、思考や記憶、愛着形成等に関する考察を行うことが難しかった。
授業に主体的に取り組む態度	思考、記憶、身体、愛着形成等の過程を発達心理学的にわかりやすく説明できた。	思考、記憶、身体、愛着形成等の過程を発達心理学的におおむね説明できた。	思考、記憶、身体、愛着形成等の過程を発達心理学的に一定程度説明できた。	思考、記憶、身体、愛着形成等の過程を発達心理学的に多少説明できた。	思考、記憶、身体、愛着形成等の過程を発達心理学的に説明することが難しかった。

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						教科書なし
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『発達心理学』	無藤 隆、子安増生	東京大学出版会	2011	978-4130121002	
2						
3						
4						
5						

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・1年		
開講時期	3Q	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	発達心理学 (科目ナンバリング: EDP122063)				
授業担当者(所属・職名)	佐々木 智城 (社会福祉学科・准教授)	研究室所在	1号館2階		
単位数	2 (単位認定責任者: 佐々木 智城)		CAP制		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	小中学校のスクールカウンセリング、放課後等デイサービス、精神科病院勤務経験のある公認心理師が指導する。		

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	乳幼児期から学童期前期にかけての発達シラバスの説明	指定した参考文献を事前に読んでおくこと(90分)	授業の内容をノートにまとめて復習すること(90分)
2	学童期後期の発達	指定した参考文献を事前に読んでおくこと(90分)	授業の内容をノートにまとめて復習すること(90分)
3	青年期の発達	指定した参考文献を事前に読んでおくこと(90分)	授業の内容をノートにまとめて復習すること(90分)
4	成人期の発達	指定した参考文献を事前に読んでおくこと(90分)	授業の内容をノートにまとめて復習すること(90分)
5	老年期の発達	指定した参考文献を事前に読んでおくこと(90分)	授業の内容をノートにまとめて復習すること(90分)
6	成人期の愛着	指定した参考文献を事前に読んでおくこと(90分)	授業の内容をノートにまとめて復習すること(90分)
7	家族・家庭の意義と機能	指定した参考文献を事前に読んでおくこと(90分)	授業の内容をノートにまとめて復習すること(90分)
8	親子関係・家族関係の理解	指定した参考文献を事前に読んでおくこと(90分)	授業の内容をノートにまとめて復習すること(90分)
9	子育ての経験と親としての育ち	指定した参考文献を事前に読んでおくこと(90分)	授業の内容をノートにまとめて復習すること(90分)
10	子育てを取り巻く社会的状況	指定した参考文献を事前に読んでおくこと(90分)	授業の内容をノートにまとめて復習すること(90分)
11	ライフコースと仕事・子育て	指定した参考文献を事前に読んでおくこと(90分)	授業の内容をノートにまとめて復習すること(90分)
12	多様な家庭とその理解	指定した参考文献を事前に読んでおくこと(90分)	授業の内容をノートにまとめて復習すること(90分)
13	特別な配慮を要する家庭	指定した参考文献を事前に読んでおくこと(90分)	授業の内容をノートにまとめて復習すること(90分)
14	子どもの生活・生育環境とその影響	指定した参考文献を事前に読んでおくこと(90分)	授業の内容をノートにまとめて復習すること(90分)
15	子どもの心の健康に関わる問題	指定した参考文献を事前に読んでおくこと(90分)	授業の内容をノートにまとめて復習すること(90分)
16	定期試験。60分の試験終了後、残りの30分で解説をする。	今までの授業内容を復習しておくこと。(90分)	試験の振り返りを行うこと(90分)。

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・1年		
開講時期	1Q	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	保育原理 (科目ナンバリング: CHS121077)				
授業担当者(所属・職名)	吉江 幸子(社会福祉学科・准教授)	研究室所在	1号館2階		
単位数	2 (単位認定責任者: 吉江 幸子)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	保育施設での実務経験のある教員が、その経験をもとに保育の意義、目的、法令および制度、思想・歴史の変遷等について実際の保育現場をイメージできるような講義を行う。		

概要

履修目標	保育の意義、目的について理解する。保育に関する法令及び制度を理解する。 保育所保育指針における保育の基本について理解する。 保育の思想と歴史の変遷について学修し、現状と課題を理解する。																								
授業の位置づけ	社会福祉学科のDP「1(1)と(3)」、「2(2)」に対応する。																								
到達目標	保育の意義、制度、計画、実践(方法・内容)、思想・歴史の変遷等を理解している。 保育所保育指針における保育の基本について理解している。																								
授業全体の内容と概要	保育の意義、目的、法令及び制度、保育の目標と方法を体系的に学修する。																								
授業の方法	講義を中心とした授業を行っていく中で、実際の保育現場の事例をあげ、子どもや保護者、保育者の様子をイメージしながら、一人ひとり学生の考える場となるように授業を進めていく。質問にはその都度対応し、レポートはコメントしてフィードバックする。																								
アクティブラーニングの実施方法	<table border="1"> <tr> <td></td> <td>プレゼンテーション</td> <td></td> <td>グループワーク</td> <td></td> <td>フィールドワーク</td> <td></td> <td>PBL</td> </tr> <tr> <td></td> <td>模擬授業</td> <td></td> <td>ロールプレイ</td> <td></td> <td>調査学習</td> <td></td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td></td> <td>ディスカッション</td> <td></td> <td>実験・実習・実技</td> <td></td> <td>双方向授業</td> <td></td> <td>その他(授業の方法参照)</td> </tr> </table>		プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL		模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業		ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)
	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL																		
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業																		
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)																		
履修上の注意事項	出席を重要視する。レポート・課題の内容及び提出方法は、授業時間に指示する。																								
資格指定科目	保育士養成課程																								

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数は、11回以上。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
70%	0%	15%	0%	15%	0%

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
保育の制度に関する知識・技能(何を知っているか、何ができるか)	保育の制度について基礎的な知識を深く理解できた。	保育の制度について基礎的な知識をおおむね理解できた。	保育の制度について基礎的な知識を理解できた。	保育の制度について基礎的な知識を多少理解できた。	保育の制度について基礎的な知識を理解することができなかった。
思考力・判断力・表現力等(知っていること、できることをどう使うか)	歴史の変遷を踏まえた保育の基本について十分に考察できた。	歴史の変遷を踏まえた保育内容の展開についておおむね考察できた。	歴史の変遷を踏まえた保育内容の展開について考察できた。	歴史の変遷を踏まえた保育内容の展開について多少考察できた。	歴史の変遷を踏まえた保育内容の展開について考察できなかった。
主体的に取り組む態度(どのように関わるか)	保育の意義・目的について理解したことをわかりやすく説明できた。	保育の意義・目的について理解したことをおおむね説明できた。	保育の意義・目的について理解したことを説明できた。	保育の意義・目的について理解したことを多少説明できた。	保育の意義・目的について理解したことを説明できなかった。

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『workで学ぶ保育原理』	佐伯一弥	わかば社	2019	9784907270261	
2	『保育所保育指針<平成29年告示>』	厚生労働省	フレーベル館	2017	9784577814239	
3	『保育所保育指針解説』	厚生労働省	フレーベル館	2018	9784577814482	
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・1年		
開講時期	1Q	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	保育原理 (科目ナンバリング: CHS121077)				
授業担当者(所属・職名)	吉江 幸子(社会福祉学科・准教授)	研究室所在	1号館2階		
単位数	2 (単位認定責任者: 吉江 幸子)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容 <small>保育施設での実務経験のある教員が、その経験をもとに保育の意義、目的、法令および制度、思想・歴史の変遷等について実際の保育現場をイメージできるような講義を行う。</small>			

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	シラバスの説明 保育の理念と概念	シラバスを読んでおくこと(90分)	講義内容の理解を深め、復習しておくこと(90分)
2	子どもの最善の利益と保育	教科書を読み、学習しておくこと(90分)	講義内容の理解を深め、復習しておくこと(90分)
3	子ども家庭福祉と保育	教科書を読み、学習しておくこと(90分)	講義内容の理解を深め、復習しておくこと(90分)
4	保育の社会的役割と責任	教科書を読み、学習しておくこと(90分)	講義内容の理解を深め、復習しておくこと(90分)
5	子ども家庭福祉の法体系における保育の位置付けと関係法令	教科書を読み、学習しておくこと(90分)	講義内容の理解を深め、復習しておくこと(90分)
6	子ども・子育て支援新制度	教科書を読み、学習しておくこと(90分)	講義内容の理解を深め、復習しておくこと(90分)
7	保育の実施体系	教科書を読み、学習しておくこと(90分)	講義内容の理解を深め、復習しておくこと(90分)
8	保育所保育指針	教科書を読み、学習しておくこと(90分)	講義内容の理解を深め、復習しておくこと(90分)
9	保育所保育に関する基本原則	教科書を読み、学習しておくこと(90分)	講義内容の理解を深め、復習しておくこと(90分)
10	保育における養護	教科書を読み、学習しておくこと(90分)	講義内容の理解を深め、復習しておくこと(90分)
11	保育の目標、保育の内容	教科書を読み、学習しておくこと(90分)	講義内容の理解を深め、復習しておくこと(90分)
12	保育の環境と方法	教科書を読み、学習しておくこと(90分)	講義内容の理解を深め、復習しておくこと(90分)
13	子どもの理解に基づく保育の過程(計画・実践・記録・省察・評価・改善)とその循環	教科書を読み、学習しておくこと(90分)	講義内容の理解を深め、復習しておくこと(90分)
14	諸外国の保育の現状と課題	教科書を読み、学習しておくこと(90分)	講義内容の理解を深め、復習しておくこと(90分)
15	日本の保育の現状と課題	教科書を読み、学習しておくこと(90分)	講義内容の理解を深め、復習しておくこと(90分)
16	定期試験 解説およびフィードバック	講義全体をとおして質問などを整理しておく(90分)	解説を受け、講義全体をふりかえること(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・1年		
開講時期	2Q	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	保育者論 (科目ナンバリング: CHS121081)				
授業担当者(所属・職名)	吉江 幸子(社会福祉学科・准教授)	研究室所在	1号館2階		
単位数	2 (単位認定責任者: 吉江 幸子)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	保育現場における実務経験を活かし、保育士の専門性を体系的に講義する。		

概要

履修目標												
以下の4つを授業の目的とする。 1. 保育者の役割と倫理について理解する。 2. 保育士の制度的な位置づけを理解し、その専門性について考察する。 3. 保育者の連携・協働について理解する。 4. 保育者の資質向上とキャリア形成について理解する。												
授業の位置づけ												
社会福祉学科のDP「1(1)」、「2(2)」に対応する。												
到達目標												
1. 保育者の役割・倫理・協働、専門職的成長について理解したことを説明する。 2. 保育士の制度的な位置づけ、専門性について理解したことを説明する。												
授業全体の内容と概要												
保育者の役割、倫理、協働、専門職的成長及び保育士の制度的な位置づけ、専門性について体系的に学修する。												
授業の方法												
授業は、板書とパワーポイントを活用しながら講義形式で行う。 毎回アクションペーパーを活用し、次回の授業時にフィードバックする。 レポートに関してもコメントしてフィードバックする。												
アクティブラーニングの実施方法												
<table border="1"> <tr> <td>プレゼンテーション</td> <td>グループワーク</td> <td>フィールドワーク</td> <td>PBL</td> </tr> <tr> <td>模擬授業</td> <td>ロールプレイ</td> <td>調査学習</td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td>ディスカッション</td> <td>実験・実習・実技</td> <td>双方向授業</td> <td>その他(授業の方法参照)</td> </tr> </table>	プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL	模擬授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業	ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)
プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL									
模擬授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業									
ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)									
履修上の注意事項												
レポートの内容・提出方法及び平常点の評価は加点方式とし、授業時間に説明する。遅刻した場合、授業へは参加できるが欠席扱いとするので注意すること。												
資格指定科目												
保育士養成課程												

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数は11回以上。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
50%	20%	0%	0%	30%	0%

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
保育者の役割に関する知識・技能(何を知っているか、何ができるか)	保育者の役割及び倫理性について深く理解できた。	保育者の役割及び倫理性についておおむね理解できた。	保育者の役割及び倫理性について理解できた。	保育者の役割及び倫理性についてやや理解できた。	保育者の役割及び倫理性について理解できなかった。
保育士の専門性に関する思考力・判断力・表現力等(知っていること、できることをどう使うか)	保育士の専門性について深く考察できた。	保育士の専門性についておおむね考察できた。	保育士の専門性について考察できた。	保育士の専門性についてやや考察できた。	保育士の専門性について考察することができなかった。
主体的に取り組む態度(どのように関わるか)	専門職としての役割・倫理・協働について理解したことをわかりやすく説明できた。	専門職としての役割・倫理・協働について理解したことをおおむね説明できた。	専門職としての役割・倫理・協働について理解したことを説明できた。	専門職としての役割・倫理・協働について理解したことをやや説明できた。	専門職としての役割・倫理・協働について理解したことを説明できなかった。

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『保育所保育指針<平成29年告示>』	厚生労働省	フレーベル館	2017	9784577814239	
2	『保育所保育指針解説』	厚生労働省	フレーベル館	2018	9784577814482	
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・1年		
開講時期	2Q	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	保育者論 (科目ナンバリング: CHS121081)				
授業担当者(所属・職名)	吉江 幸子(社会福祉学科・准教授)	研究室所在	1号館2階		
単位数	2 (単位認定責任者: 吉江 幸子)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容 保育現場における実務経験を活かし、保育士の専門性を体系的に講義する。			

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	シラバスの説明	指定した教科書を事前に読むこと(90分)。	1回目の授業で理解した点を整理する(90分)。
2	保育者の役割・職務内容と倫理	教科書の専門用語の意味を理解しておく(90分)。	2回目の授業で理解した点を整理する(90分)。
3	児童福祉法における保育士の定義	教科書の専門用語の意味を理解しておく(90分)。	授業終了時に示す課題レポートを作成する(90分)。
4	保育士の資格・要件	教科書の専門用語の意味を理解しておく(90分)。	4回目の授業で理解した点を整理する(90分)。
5	欠格事由、信用失墜行為及び秘密義務保持等	教科書の専門用語の意味を理解しておく(90分)。	5回目の授業で理解した点を整理する(90分)。
6	保育士の資質・能力	教科書の専門用語の意味を理解しておく(90分)。	6回目の授業で理解した点を整理する(90分)。
7	養護及び教育の一体的展開	教科書の専門用語の意味を理解しておく(90分)。	7回目の授業で理解した点を整理する(90分)。
8	家庭との連携と保護者に対する支援	教科書の専門用語の意味を理解しておく(90分)。	授業終了時に示す課題レポートを作成する(90分)。
9	計画に基づく保育の実践と省察・評価	教科書の専門用語の意味を理解しておく(90分)。	9回目の授業で理解した点を整理する(90分)。
10	保育の質の向上	教科書の専門用語の意味を理解しておく(90分)。	10回目の授業で理解した点を整理する(90分)。
11	保育における職員間の連携・協働	教科書の専門用語の意味を理解しておく(90分)。	11回目の授業で理解した点を整理する(90分)。
12	専門職間及び専門機関との連携・協働	教科書の専門用語の意味を理解しておく(90分)。	12回目の授業で理解した点を整理する(90分)。
13	地域における自治体や関係機関等との連携・協働	教科書の専門用語の意味を理解しておく(90分)。	13回目の授業で理解した点を整理する(90分)。
14	資質向上に関する組織的取組	教科書の専門用語の意味を理解しておく(90分)。	授業終了時に示す課題レポートを作成する(90分)。
15	保育者の専門性の向上とキャリア形成の意義 組織とリーダーシップ まとめ	これまでの授業で学んだ事を整理しておく(90分)。	授業の目的の達成度を自己評価する(90分)。
16	定期試験60分。試験終了後に解説を行う 提出されたレポートの総合評価をフィードバック	15回の講義内容を振り返り復習する(90分)	験、課題の解説に基づき復習し整理する(90分)。

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・1年		
開講時期	3Q	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	精神保健福祉の理論と (科目ナンバリング：SWS122042)				
授業担当者(所属・職名)	西野 克俊 (社会福祉学科・専任講師)	研究室所在	1号館2階		
単位数	2 (単位認定責任者：西野 克俊)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	精神科医療機関における実務経験がある教員がその経験を活かして、精神保健福祉歴史や動向及び精神科リハビリテーション理解のための指導をする。		

概要

履修目標
精神保健医療福祉の誕生、どのような理念を基に支援をしているのかなどについて理解する。ソーシャルワークの基礎知識や基本技術を獲得し、それらを関連づけて体系的に理解する。

授業の位置づけ
社会福祉学科のDP「1(1)と(2)と(4)と(7)」、「2(2)」に対応する。

到達目標
精神障害者が置かれてきた歴史、精神科リハビリテーションの意義、精神保健福祉士の役割を理解できる。

授業全体の内容と概要
精神医療の特性(精神医療の歴史・動向や精神科病院の特性の理解を含む)と、精神障害者に対する支援の基本的考え方について学ぶ。精神科リハビリテーションの概念と構成及びチーム医療の一員としての精神保健福祉士の役割について学ぶ。

授業の方法
授業形態は講義形式で行うが、適宜グループ学習を取り入れる。テキスト及び配布資料を使用し、ポイントとするべき箇所は説明、板書を行う。質問等に対しては都度口頭にて説明を行い、必要に応じて資料を配布する。確認テストを実施し、解答回収後解説を行う。

アクティブラーニングの実施方法						
	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク	PBL
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習	反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項
教科書は必ず持参すること。必要な資料等は適宜配布する。20分以上の遅刻・早退は欠席とみなす。

資格指定科目
精神保健福祉士国家試験受験資格課程

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数は、10回以上。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
60%	0%	0%	0%	10%	30%

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・理解	精神保健医療福祉についての基礎的な知識を深く理解できた。	精神保健医療福祉についての基礎的な知識をおおむね理解できた。	精神保健医療福祉についての基礎的な知識を理解できた。	精神保健医療福祉についての基礎的な知識を多少理解できた。	精神保健医療福祉についての基礎的な知識を理解することができなかった。
思考力・考察力	精神保健医療福祉の基本を踏まえ、精神保健医療及び福祉の理論及び方法について十分に考察できた。	精神保健医療福祉の基本を踏まえ、精神保健医療及び福祉の理論及び方法についておおむね考察できた。	精神保健医療福祉の基本を踏まえ、精神保健医療及び福祉の理論及び方法について考察できた。	精神保健医療福祉の基本を踏まえ、精神保健医療及び福祉の理論及び方法について多少考察できた。	精神保健医療福祉の基本を踏まえ、精神保健医療及び福祉の理論及び方法について考察することができなかった。
主体性・情意	精神保健医療福祉について理解したことを適切に説明できた。	精神保健医療福祉について理解したことをおおむね説明できた。	精神保健医療福祉について理解したことを説明できた。	精神保健医療福祉について理解したことを多少説明できた。	精神保健医療福祉について理解したことを説明することができなかった。

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『精神保健福祉の理論と相談援助の展開』	日本精神保健福祉士養成校協会	中央法規出版	2014	9784805839461	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・1年		
開講時期	3Q	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	精神保健福祉の理論と (科目ナンバリング: SWS122042)				
授業担当者(所属・職名)	西野 克俊(社会福祉学科・専任講師)	研究室所在	1号館2階		
単位数	2 (単位認定責任者: 西野 克俊)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	精神科医療機関における実務経験がある教員がその経験を活かして、精神保健福祉歴史や動向及び精神科リハビリテーション理解のための指導をする。		

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	シラバスの説明 精神保健福祉の理論と相談援助の展開の学びについてのガイダンス	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	ノート・資料整理を行うこと(90分)
2	精神保健医療福祉の歴史と動向について(概論)	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	ノート・資料整理を行うこと(90分)
3	精神保健医療福祉の日本の歴史と動向について	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	ノート・資料整理を行うこと(90分)
4	精神保健医療福祉の日本の歴史と動向について	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	ノート・資料整理を行うこと(90分)
5	精神保健医療福祉の諸外国の歴史と動向について	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	ノート・資料整理を行うこと(90分)
6	精神保健福祉士の活動の歴史と動向について	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	ノート・資料整理を行うこと(90分)
7	精神保健福祉士の活動の歴史と動向について	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	ノート・資料整理を行うこと(90分)
8	精神障害者に対する支援の理念、支援対象者について	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	ノート・資料整理を行うこと(90分)
9	精神障害者の人権について	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	ノート・資料整理を行うこと(90分)
10	精神障害者の権利擁護と制度について	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	ノート・資料整理を行うこと(90分)
11	精神科リハビリテーションの概念・理念について	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	ノート・資料整理を行うこと(90分)
12	精神科リハビリテーションの概念・理念について	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	ノート・資料整理を行うこと(90分)
13	精神科リハビリテーションの意義と基本原則について	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	ノート・資料整理を行うこと(90分)
14	精神科リハビリテーションの構成について	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	ノート・資料整理を行うこと(90分)
15	精神科リハビリテーションの展開について	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	ノート・資料整理を行うこと(90分)
16	試験(60分)実施、終了後解説(30分)	試験のための学習(90分)	試験の振り返りを行うこと(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・1年		
開講時期	3Q	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	精神保健福祉の理論と (科目ナンバリング：SWS122043)				
授業担当者(所属・職名)	西野 克俊(社会福祉学科・専任講師)	研究室所在	1号館2階		
単位数	2 (単位認定責任者：西野 克俊)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	精神科医療機関における実務経験がある教員がその経験を活かして、精神保健福祉歴史や動向及び精神科リハビリテーション理解のための指導をする。		

概要

履修目標
精神保健医療福祉の誕生、どのような理念を基に支援をしているのかなどについて理解する。ソーシャルワークの基礎知識や基本技術を獲得し、それらを関連づけて体系的に理解する。

授業の位置づけ
社会福祉学科のDP「1(1)と(2)と(4)と(7)」、「2(2)」に対応する。

到達目標
精神障害者が置かれてきた歴史、精神科リハビリテーションの意義、精神保健福祉士の役割を理解できる。

授業全体の内容と概要
精神医療の特性(精神医療の歴史・動向や精神科病院の特性の理解を含む)と、精神障害者に対する支援の基本的考え方について学ぶ。精神科リハビリテーションの概念と構成及びチーム医療の一員としての精神保健福祉士の役割について学ぶ。

授業の方法
授業形態は講義形式で行うが、適宜グループ学習を取り入れる。テキスト及び配布資料を使用し、ポイントとするべき箇所は説明、板書を行う。質問等に対しては都度口頭にて説明を行い、必要に応じて資料を配布する。確認テストを実施し、解答回収後解説を行う。

アクティブラーニングの実施方法						
	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク	PBL
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習	反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項
教科書は必ず持参すること。必要な資料等は適宜配布する。20分以上の遅刻・早退は欠席とみなす。

資格指定科目
精神保健福祉士国家試験受験資格課程

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数は、10回以上。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
60%	0%	0%	0%	10%	30%

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・理解	精神保健医療福祉についての基礎的な知識を深く理解できた。	精神保健医療福祉についての基礎的な知識をおおむね理解できた。	精神保健医療福祉についての基礎的な知識を理解できた。	精神保健医療福祉についての基礎的な知識を多少理解できた。	精神保健医療福祉についての基礎的な知識を理解することができなかった。
思考力・考察力	精神保健医療福祉の基本を踏まえ、精神保健医療及び福祉の理論及び方法について十分に考察できた。	精神保健医療福祉の基本を踏まえ、精神保健医療及び福祉の理論及び方法についておおむね考察できた。	精神保健医療福祉の基本を踏まえ、精神保健医療及び福祉の理論及び方法について考察できた。	精神保健医療福祉の基本を踏まえ、精神保健医療及び福祉の理論及び方法について多少考察できた。	精神保健医療福祉の基本を踏まえ、精神保健医療及び福祉の理論及び方法について考察することができなかった。
主体性・情意	精神保健医療福祉について理解したことを適切に説明できた。	精神保健医療福祉について理解したことをおおむね説明できた。	精神保健医療福祉について理解したことを説明できた。	精神保健医療福祉について理解したことを多少説明できた。	精神保健医療福祉について理解したことを説明することができなかった。

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『精神保健福祉の理論と相談援助の展開』	日本精神保健福祉士養成校協会	中央法規出版	2014	9784805839461	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・1年		
開講時期	3Q	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	精神保健福祉の理論と (科目ナンバリング: SWS122043)				
授業担当者(所属・職名)	西野 克俊(社会福祉学科・専任講師)	研究室所在	1号館2階		
単位数	2 (単位認定責任者: 西野 克俊)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	精神科医療機関における実務経験がある教員がその経験を活かして、精神保健福祉歴史や動向及び精神科リハビリテーション理解のための指導をする。		

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	シラバスの説明 精神保健福祉の理論と相談援助の展開の学びについてのガイダンス	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	ノート・資料整理を行うこと(90分)
2	精神保健医療福祉の歴史と動向について(概論)	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	ノート・資料整理を行うこと(90分)
3	精神保健医療福祉の日本の歴史と動向について	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	ノート・資料整理を行うこと(90分)
4	精神保健医療福祉の日本の歴史と動向について	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	ノート・資料整理を行うこと(90分)
5	精神保健医療福祉の諸外国の歴史と動向について	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	ノート・資料整理を行うこと(90分)
6	精神保健福祉士の活動の歴史と動向について	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	ノート・資料整理を行うこと(90分)
7	精神保健福祉士の活動の歴史と動向について	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	ノート・資料整理を行うこと(90分)
8	精神障害者に対する支援の理念、支援対象者について	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	ノート・資料整理を行うこと(90分)
9	精神障害者の人権について	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	ノート・資料整理を行うこと(90分)
10	精神障害者の権利擁護と制度について	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	ノート・資料整理を行うこと(90分)
11	精神科リハビリテーションの概念・理念について	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	ノート・資料整理を行うこと(90分)
12	精神科リハビリテーションの概念・理念について	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	ノート・資料整理を行うこと(90分)
13	精神科リハビリテーションの意義と基本原則について	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	ノート・資料整理を行うこと(90分)
14	精神科リハビリテーションの構成について	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	ノート・資料整理を行うこと(90分)
15	精神科リハビリテーションの展開について	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	ノート・資料整理を行うこと(90分)
16	試験(60分)実施、終了後解説(30分)	試験のための学習(90分)	試験の振り返りを行うこと(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・1年		
開講時期	4Q	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	精神保健福祉に関する (科目ナンバリング: SWS122046)				
授業担当者(所属・職名)	大島 康雄 (社会福祉学科・准教授)	研究室所在	1号館2階		
単位数	2 (単位認定責任者: 大島 康雄)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	精神保健福祉士として相談援助を行っていたが、実際に活用する制度やサービスを実践面において授業を行う。		

概要

履修目標	精神保健福祉に関する制度とサービスについて理解する。精神障害者の特徴、生活状況、精神保健福祉法、障害者総合支援法、年金・医療・生活保護など各種制度を理解し、マネジメントを把握する。
------	--

授業の位置づけ	社会福祉学科のDP「1(1)と(3)と(4)」、「2(2)」に対応する。
---------	--------------------------------------

到達目標	精神保健福祉領域の基礎知識をもとに、自分なりの考えを述べる事ができる。
------	-------------------------------------

授業全体の内容と概要	教科書は必ず持参すること。小テスト、レポートの内容や提出方法は、授業内にて指示する。精神疾患や障害のある人の社会生活にとって、制度やサービスがもつ意義を絶えず問い直しながら、学習を進めてほしい。
------------	---

授業の方法	精神障害者を取り巻く課題を学び、グループワークやディスカッションを行います。板書やプリントの確認問題を行いながら学習を進めていきます。確認問題は解説を行います。また、事例検討に関しては、事後の状況を説明し制度と生活支援がイメージできるようにフィードバックを行います。
-------	---

アクティブラーニングの実施方法						
	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク	PBL
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習	反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項	なし
----------	----

資格指定科目	精神保健福祉士国家試験受験資格課程
--------	-------------------

評価方法・基準

評価前提条件	授業態度、単位認定に必要な最低出席回数は、10回以上。					
評価方法	定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
	0%	0%	50%	30%	20%	0%

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
授業に参加し、教科書や板書、確認テストを受けている。	15回以上授業に参加し、積極的に学習ができた。	14回授業に参加し、積極的に学習ができた。	13回授業に参加し、積極的に学習ができた。	12~10回授業に参加し、積極的に学習ができた。	9回以下授業に参加し、積極的に学習ができた。
確認テストの内容を理解し、定期試験の成績が60点以上である。	確認テストで平均100~90点を獲得できた。	確認テストを受けて、定期試験の成績が89~80点以上を獲得できた。	確認テストを受けて、定期試験の成績が79~70点以上を獲得できた。	確認テストを受けて、定期試験の成績が69~60点以上を獲得できた。	確認テストをある程度受け、定期試験の成績が59点以下しか獲得できなかった。
教科書、資料の内容を理解するため事前学習を行い、授業内で質問や自分の意見をプレゼンテーションする。	事前学習を行い、授業中に5回以上質問や意見を出すことができた。	事前学習を行い、授業中に4回以上質問や意見を出すことができた。	事前学習を行い、授業中に3回以上質問や意見を出すことができた。	事前学習を行い、授業中に2回以上質問や意見を出すことができた。	事前学習や質問、意見を出すことができなかった。

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『精神保健福祉に関する制度とサービス』	一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟	中央法規	2012年02月	978-4-8058-5596-6	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・1年		
開講時期	4Q	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	精神保健福祉に関する (科目ナンバリング: SWS122046)				
授業担当者(所属・職名)	大島 康雄(社会福祉学科・准教授)	研究室所在	1号館2階		
単位数	2 (単位認定責任者: 大島 康雄)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	精神保健福祉士として相談援助を行っていたが、実際に活用する制度やサービスを実践面において授業を行う。		

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	オリエンテーション、シラバスの説明	事前に教科書を確認(90分)	ノートを整理し、質問事項を考える。(90分)
2	精神障害者の相談援助活動と精神保健福祉に関する制度とサービスの理解	事前に教科書を確認(90分)	ノートを整理し、質問事項を考える。(90分)
3	精神保健福祉法の成立までの経緯と意義、その後の変化	事前に教科書を確認(90分)	ノートを整理し、質問事項を考える。(90分)
4	精神保健福祉法の成立までの経緯と意義、その後の変化	事前に教科書を確認(90分)	ノートを整理し、質問事項を考える。(90分)
5	精神保健福祉法の概要	事前に教科書を確認(90分)	ノートを整理し、質問事項を考える。(90分)
6	精神保健福祉法の概要	事前に教科書を確認(90分)	ノートを整理し、質問事項を考える。(90分)
7	精神障害者等の福祉制度の概要と福祉サービス(障害者基本法, 障害者総合支援法)	事前に教科書を確認(90分)	ノートを整理し、質問事項を考える。(90分)
8	精神障害者等を対象とした福祉施策・事業(医療保険制度)	事前に教科書を確認(90分)	事前に教科書を確認(90分)
9	精神障害者等を対象とした福祉施策・事業(経済的支援に関する制度)	事前に教科書を確認(90分)	ノートを整理し、質問事項を考える。(90分)
10	精神保健福祉領域の近年の動向(障害者権利条約と当事者による活動, 権利擁護)	事前に教科書を確認(90分)	ノートを整理し、質問事項を考える。(90分)
11	精神保健福祉領域の近年の動向(障害年金制度と所得保障)	事前に教科書を確認(90分)	ノートを整理し、質問事項を考える。(90分)
12	精神保健福祉領域の近年の動向(アルコール健康障害対策基本法の制定と関連施策)	事前に教科書を確認(90分)	ノートを整理し、質問事項を考える。(90分)
13	精神保健福祉領域の近年の動向(更生保護制度)	事前に教科書を確認(90分)	ノートを整理し、質問事項を考える。(90分)
14	精神保健福祉領域の近年の動向(医療観察法)	事前に教科書を確認(90分)	ノートを整理し、質問事項を考える。(90分)
15	まとめ	事前に教科書を確認(90分)	ノートを整理し、質問事項を考える。(90分)
16	確認テスト及びテストの解説	テストの事前学習(90分)	テストの振り返り(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・1年		
開講時期	1Q	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	生涯学習概論 (S (科目ナンバリング: EDU121129, EDU421073, EDU521084))				
授業担当者(所属・職名)	藤根 収(社会福祉学科・特任教授)		研究室所在	2号館7階	
単位数	2 (単位認定責任者: 藤根 収)		CAP制		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	学校現場や教育行政における経験がある教員がその経験を活かして、今日的な教育課題(生涯学習)について指導する。		

概要

履修目標																								
生涯学習についての基礎的・基本的事項を理解し、生涯学習の学習者・支援者としての知識・態度を身に付ける。																								
授業の位置づけ																								
社会福祉学科のDP<学修目標>の2,3,4,と5, <履修すべき科目と単位>の2,に対応する。																								
到達目標																								
生涯学習の歴史や基礎的知識を身に付け、それらと多様な教育理念との関わりや過去から現在に至る教育の歴史の変遷を理解できる。																								
授業全体の内容と概要																								
各回のテーマに基づき必要な事項を講義するとともに、主体的・対話的で深い学びを実現するため、テーマに関連する事項に関して考察、意見交換(グループ)、発表等の一連の活動を行う。また、できるだけ具体的な事例から生涯学習の理解を深め、生涯においてどう関わるか、また、支援者としての関わりを考えられるように構成する。																								
授業の方法																								
授業ではパワーポイント及び配布物(レジメ)で実施し、資料にて説明した後、グループワーク等で思考・考察、意見交換・討論、発表等の一連の活動を行う。また、実践事例のVTR教材視聴後に事例に基づくレポート提出を行う。なお、レポートにはコメントにてフィードバックする。																								
アクティブラーニングの実施方法																								
<table border="1"> <tr> <td><input type="checkbox"/></td> <td>プレゼンテーション</td> <td><input type="checkbox"/></td> <td>グループワーク</td> <td><input type="checkbox"/></td> <td>フィールドワーク</td> <td><input type="checkbox"/></td> <td>PBL</td> </tr> <tr> <td><input type="checkbox"/></td> <td>模擬授業</td> <td><input type="checkbox"/></td> <td>ロールプレイ</td> <td><input type="checkbox"/></td> <td>調査学習</td> <td><input type="checkbox"/></td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td><input type="checkbox"/></td> <td>ディスカッション</td> <td><input type="checkbox"/></td> <td>実験・実習・実技</td> <td><input type="checkbox"/></td> <td>双方向授業</td> <td><input type="checkbox"/></td> <td>その他(授業の方法参照)</td> </tr> </table>	<input type="checkbox"/>	プレゼンテーション	<input type="checkbox"/>	グループワーク	<input type="checkbox"/>	フィールドワーク	<input type="checkbox"/>	PBL	<input type="checkbox"/>	模擬授業	<input type="checkbox"/>	ロールプレイ	<input type="checkbox"/>	調査学習	<input type="checkbox"/>	反転授業	<input type="checkbox"/>	ディスカッション	<input type="checkbox"/>	実験・実習・実技	<input type="checkbox"/>	双方向授業	<input type="checkbox"/>	その他(授業の方法参照)
<input type="checkbox"/>	プレゼンテーション	<input type="checkbox"/>	グループワーク	<input type="checkbox"/>	フィールドワーク	<input type="checkbox"/>	PBL																	
<input type="checkbox"/>	模擬授業	<input type="checkbox"/>	ロールプレイ	<input type="checkbox"/>	調査学習	<input type="checkbox"/>	反転授業																	
<input type="checkbox"/>	ディスカッション	<input type="checkbox"/>	実験・実習・実技	<input type="checkbox"/>	双方向授業	<input type="checkbox"/>	その他(授業の方法参照)																	
履修上の注意事項																								
20分以上の遅刻は欠席とし、遅刻3回で欠席1回とみなす。経営学部と社会福祉学部とが同一クラスで授業を行う。																								
資格指定科目																								
教職課程(全教科)選択科目																								

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数は、10回以上。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
50%	10%	0%	20%	20%	0%

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
生涯学習理論等の理解	生涯学習理論等について、学修した知識・技能を基礎に、さらに知識等を深めようとする事ができた。	生涯学習理論等について、意欲的に学び、必要な知識・技能を理解することができた。	生涯学習理論等について必要な知識・技能を理解できた。	生涯学習理論等について、知識・技能を一定程度理解できた。	生涯学習理論等について、理解が不十分である。
生涯学習に関する情報や実践に対する思考・判断・表現	生涯学習について積極的に思考・判断し、個人やグループで工夫して表現することができた。	生涯学習について思考・判断し、個人やグループで表現することができた。	生涯学習について、個人やグループで思考活動等に取り組み、表現しようとしたことができた。	生涯学習理論等について思考活動等に一定程度取り組み、表現しようとしていた。	生涯学習理論等について、理解が不十分である。
授業への参加態度・姿勢	授業に非常に積極的に参加することができた。	授業に積極的に参加することができた。	授業に関心をもって参加することができた。	授業への関心が一定程度みられた。	授業への参加態度に課題があった。

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『よくわかる生涯学習(改訂版)』	香川正弘	ミネルヴァ書房	2016	978-623-07631-4	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・1年		
開講時期	1Q	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	生涯学習概論 (S (科目ナンバリング: EDU121129, EDU421073, EDU521084))				
授業担当者(所属・職名)	藤根 収(社会福祉学科・特任教授)	研究室所在	2号館7階		
単位数	2 (単位認定責任者: 藤根 収)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	学校現場や教育行政における経験がある教員がその経験を活かして、今日的な教育課題(生涯学習)について指導する。		

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	オリエンテーション -シラバスの説明・生涯学習とは何か	教科書から「生涯学習」についての課題を整理する(90分)	課題についてノートに整理し、シラバスで確認すること(90分)
2	「生涯学習とは?」 1 教育基本法の理念と目的から	教科書の該当部分を読んでおくことと課題を整理する(90分)	重要な用語や事柄等をノートに整理する(90分)
3	「生涯学習とは?」 2 「生涯学習社会」の生涯学習	教科書の該当部分を読んでおくことと課題を整理する(90分)	重要な用語や事柄等をノートに整理する(90分)
4	「生涯学習とは?」 3 「生涯教育」と「生涯学習」	教科書の該当部分を読んでおくことと課題を整理する(90分)	重要な用語や事柄等をノートに整理する(90分)
5	生涯学習社会における各機能の役割 学校教育の役割1 「生涯学習と学校教育」	教科書の該当部分を読んでおくことと課題を整理する(90分)	重要な用語や事柄等をノートに整理する(90分)
6	生涯学習社会における各機能の役割 学校教育の役割2 「生涯学習機関としての学校」	教科書の該当部分を読んでおくことと課題を整理する(90分)	重要な用語や事柄等をノートに整理する(90分)
7	生涯学習社会における各機能の役割 社会教育の役割1 「生涯学習と社会教育の意義」	教科書の該当部分を読んでおくことと課題を整理する(90分)	重要な用語や事柄等をノートに整理する(90分)
8	生涯学習社会における各機能の役割 社会教育の役割2 「社会教育のこれから」	教科書の該当部分を読んでおくことと課題を整理する(90分)	重要な用語や事柄等をノートに整理する(90分)
9	生涯学習社会における各機能の役割 家庭の役割1 「生涯学習と家庭教育」	教科書の該当部分を読んでおくことと課題を整理する(90分)	重要な用語や事柄等をノートに整理する(90分)
10	生涯学習社会における各機能の役割 家庭の役割2 「これからの家庭教育」 (中間テスト)	教科書の該当部分を読んでおくことと課題を整理する(90分)	重要な用語や事柄等をノートに整理する(90分)
11	生涯学習推進施策の動向1 日本の生涯学習に関わる施策の具体的展開と課題	教科書の該当部分を読んでおくことと課題を整理する(90分)	重要な用語や事柄等をノートに整理する(90分)
12	生涯学習推進施策の動向2 多様な社会における生涯学習の施策	教科書の該当部分を読んでおくことと課題を整理する(90分)	重要な用語や事柄等をノートに整理する(90分)
13	生涯学習とリカレント教育1 リカレント教育の意義	教科書の該当部分を読んでおくことと課題を整理する(90分)	重要な用語や事柄等をノートに整理する(90分)
14	生涯学習とリカレント教育2 リカレント教育の方策	講義内容を整理し、レポート作成の課題を整理する(90分)	重要な用語や事柄等をノートに整理する(90分)
15	生涯学習と生涯学習社会の今後の課題について	講義内容を整理し、レポート作成の課題を整理する(90分)	レポートを作成する(90分)
16	定期試験(60分の試験終了後、残りの30分で解説する。)	教科書等で講義内容を整理する(90分)	試験の結果を見直す(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・1年		
開講時期	3Q	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	生涯学習概論 (S (科目ナンバリング: EDU121130, EDU421074, EDU521085))				
授業担当者(所属・職名)	藤根 収(社会福祉学科・特任教授)		研究室所在	2号館7階	
単位数	2 (単位認定責任者: 藤根 収)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	学校現場や教育行政における経験がある教員がその経験を活かして、今日的な教育課題(生涯学習)について指導する。		

概要

履修目標
生涯学習について具体的な活動の現状から学び、生涯学習の学習者・支援者としての理解を深めると共に生涯学習について国際化・情報化等の視点から、今後の動向を考察する。

授業の位置づけ
社会福祉学科のDP<学修目標>の2.と3.と4.と5. <履修すべき科目と単位>の2.に対応する。

到達目標
生涯学習の歴史や基礎的知識を身に付け、それらと多様な教育の理念との関わりや過去から現在に至る教育の歴史の変遷を理解できる。

授業全体の内容と概要
毎回のテーマに基づき必要な事項を講義するとともに、主体的・対話的で深い学びを実現するため、テーマに関連する事項に関して考察、意見交換(グループ)、発表等の一連の活動を行う。また、できるだけ具体的な事例から生涯学習の理解を深め、生涯においてどう関わるか、また、支援者としての関わりを考えられるように構成する。

授業の方法
授業ではパワーポイント及び配布物(レジメ)で実施し、資料にて説明した後、グループワーク等で思考・考察、意見交換・討論、発表等の一連の活動を行う。また、実践事例のVTR教材視聴後に事例に基づくレポート提出を行う。なお、レポートにはコメントにてフィードバックする。

アクティブラーニングの実施方法							
<input type="checkbox"/>	プレゼンテーション	<input type="checkbox"/>	グループワーク	<input type="checkbox"/>	フィールドワーク	<input type="checkbox"/>	PBL
<input type="checkbox"/>	模擬授業	<input type="checkbox"/>	ロールプレイ	<input type="checkbox"/>	調査学習	<input type="checkbox"/>	反転授業
<input type="checkbox"/>	ディスカッション	<input type="checkbox"/>	実験・実習・実技	<input type="checkbox"/>	双方向授業	<input type="checkbox"/>	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項
20分以上の遅刻は欠席とし、遅刻3回で欠席1回とみなす。経営学科と社会福祉学科とが同一クラスで授業を行う。

資格指定科目
教職課程(全教科)選択科目

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数は、10回以上。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
50%	10%	0%	20%	20%	0%

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
生涯学習理論等の理解	生涯学習理論等について、学修した知識・技能を基礎に、さらに知識等を深めようとする事ができた。	生涯学習理論等について、意欲的に学び、必要な知識・技能を理解することができた。	生涯学習理論等について必要な知識・技能を理解できた。	生涯学習理論等についての知識・技能を一定程度理解できた。	生涯学習理論等について、理解が不十分である。
生涯学習に関する情報や実践に対する思考・判断・表現	生涯学習について積極的に思考・判断し、個人やグループで工夫して表現することができた。	生涯学習について思考・判断し、個人やグループで表現することができた。	生涯学習について、個人やグループで思考活動等に取り組み、表現しようとしたことができた。	生涯学習について、思考・判断等に一定程度取り組み、表現しようとしていた。	生涯学習について、思考・判断・表現について必要な取組ができなかった。
授業への参加態度・姿勢	授業に非常に積極的に参加することができた。	授業に積極的に参加することができた。	授業に関心をもって参加することができた。	授業への関心が一定程度みられた。	授業への参加態度に課題があった。

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『よくわかる生涯学習(改訂版)』	香川正弘	ミネルヴァ書房	2016	978-4-623-07631-4	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・1年		
開講時期	3Q	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	生涯学習概論 (S (科目ナンバリング: EDU121130, EDU421074, EDU521085))				
授業担当者(所属・職名)	藤根 収(社会福祉学科・特任教授)	研究室所在	2号館7階		
単位数	2 (単位認定責任者: 藤根 収)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	学校現場や教育行政における経験がある教員がその経験を活かして、今日的な教育課題(生涯学習)について指導する。		

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	生涯学習と生涯教育・社会教育等について(復習とシラバスの説明)	教科書から「生涯学習社会」についての課題を整理する(90分)	課題についてノートに整理し、シラバスで確認すること(90分)
2	北海道の生涯学習 札幌市の生涯学習の歴史と仕組み	教科書の該当部分を読んでおくことと課題を整理する(90分)	重要な用語や事柄等をノートに整理する(90分)
3	生涯学習と自己形成1 人間形成と教育・学習等	教科書の該当部分を読んでおくことと課題を整理する(90分)	重要な用語や事柄等をノートに整理する(90分)
4	生涯学習と自己形成2 ライフサイクルと発達課題等	教科書の該当部分を読んでおくことと課題を整理する(90分)	重要な用語や事柄等をノートに整理する(90分)
5	生涯学習と自己形成3 生涯学習と生涯設計等	教科書の該当部分を読んでおくことと課題を整理する(90分)	重要な用語や事柄等をノートに整理する(90分)
6	諸外国の生涯学習1 ドイツ・オランダ等の生涯学習	教科書の該当部分を読んでおくことと課題を整理する(90分)	重要な用語や事柄等をノートに整理する(90分)
7	諸外国の生涯学習2 フランス・イタリア、北欧諸国の生涯学習	教科書の該当部分を読んでおくことと課題を整理する(90分)	重要な用語や事柄等をノートに整理する(90分)
8	生涯学習施設 北海道と札幌市の生涯学習施設の取り組み	教科書の該当部分を読んでおくことと課題を整理する(90分)	重要な用語や事柄等をノートに整理する(90分)
9	諸外国の生涯学習3 発展途上の生涯学習	教科書の該当部分を読んでおくことと課題を整理する(90分)	重要な用語や事柄等をノートに整理する(90分)
10	諸外国の生涯学習4 国際機関等の生涯学習 中間テスト	教科書の該当部分を読んでおくことと課題を整理する(90分)	重要な用語や事柄等をノートに整理する(90分)
11	施設に基づいた生涯学習活動 図書館・公民館等・生涯スポーツ他	教科書の該当部分を読んでおくことと課題を整理する(90分)	重要な用語や事柄等をノートに整理する(90分)
12	生涯学習の課題と取り組み 外島の取り組みと課題(レポート)	教科書の該当部分を読んでおくことと課題を整理する(90分)	重要な用語や事柄等をノートに整理する(90分)
13	生涯学習の現代的課題と内容1 さまざまな学習課題と学習内容(生きがい、健康、町づくり等)	教科書の該当部分を読んでおくことと課題を整理する(90分)	重要な用語や事柄等をノートに整理する(90分)
14	生涯学習の現代的課題と内容2 さまざまな学習課題と学習内容(少子高齢化、消費者問題等)	教科書の該当部分を読んでおくことと課題を整理する(90分)	重要な用語や事柄等をノートに整理する(90分)
15	生涯学習の今後の動向 生涯学習のまとめ-「これまで」と「これから」	教科書の該当部分を読んでおくことと課題を整理する(90分)	重要な用語や事柄等を整理し、レポートを作成する(90分)
16	定期試験(60分の試験終了後、残りの30分で解説する。)	教科書等で講義内容を整理する。(90分)	試験の結果を見直す(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・1年		
開講時期	1Q	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	特別支援教育総論 (科目ナンバリング：SNE122112)				
授業担当者(所属・職名)	堀川厚志(社会福祉学科・特任教授)	研究室所在	2号館8階		
単位数	2 (単位認定責任者：堀川厚志)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	学校教育現場及び教育行政経験のある教員が、特別支援教育に関する今日的課題等について指導する。		

概要

履修目標	・特別支援教育への転換の背景から特別支援教育の理念や意義、現状等について総合的に理解する。
------	---

授業の位置づけ	・社会福祉学科のDP「1(2)と(3)と(5)」、「2(1)と(4)」に対応する。
---------	---

到達目標	特別支援教育への転換の背景、特別支援教育の理念や意義がわかり、関連する基本的な内容がわかる。
------	--

授業全体の内容と概要	・内容としては、特殊教育から特別支援教育への転換の背景、特別支援教育の理念や意義、障害のある子の教育の歴史、教育制度、教育課程、個別的教育支援計画と個別の指導計画、学習指導要領の概要、小・中学校等を含めた特別支援教育コーディネーターの役割等について、現状の特別支援教育を踏まえて説明する。
------------	--

授業の方法	・プレゼン資料等の提示による講義形式を主とする。 ・内容により、グループワークやペアワークを実施する。 ・前時の振り返りと本時の内容確認の小テストを実施する。 ・小テストや提出レポートに関するフィードバックとして、説明、解説を実施する。
-------	---

アクティブラーニングの実施方法	<table border="1"> <tr> <td>プレゼンテーション</td> <td>グループワーク</td> <td>フィールドワーク</td> <td>PBL</td> </tr> <tr> <td>模擬授業</td> <td>ロールプレイ</td> <td>調査学習</td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td>ディスカッション</td> <td>実験・実習・実技</td> <td>双方向授業</td> <td>その他(授業の方法参照)</td> </tr> </table>	プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL	模擬授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業	ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)
プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL										
模擬授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業										
ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)										

履修上の注意事項	・授業内容に関するプレゼン資料の毎時間の配付や、レポート課題の出題、小テストを実施するので、欠席をしないようにすること。
----------	--

資格指定科目	教職課程(特別支援)必修科目
--------	----------------

評価方法・基準

評価前提条件	・単位認定に必要な最低出席回数は、10回以上とする。					
評価方法	定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
	60%	20%	0%	0%	10%	10%

ルーブリック	評価基準				
評価項目	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
特別支援教育の基本的な内容や現状等に関する総合的な理解	特別支援教育の基本的な内容や現状等について、十分に理解し、学修した知識をさらに深化させたり、発展的な学修ができた。	特別支援教育の基本的な内容や現状等について、十分に理解できた。	特別支援教育の基本的な内容や現状等について、一定の程度、理解できた。	特別支援教育の基本的な内容や現状等について、部分的に理解できた。	特別支援教育の基本的な内容や現状等について、理解できなかった。
特別支援教育の基本的な内容、現状と課題等に関する理解、思考力、判断力、表現力の向上	特別支援教育の基本的な内容、現状と課題等について、的確かつ発展的に整理し、思考力、判断力、表現力を十分に高めることができた。	特別支援教育の基本的な内容、現状と課題等について整理し、思考力、判断力、表現力を十分に高めることができた。	特別支援教育の基本的な内容、現状と課題等について整理し、思考力、判断力、表現力を高めることができた。	特別支援教育の基本的な内容、現状と課題等について整理し、部分的に思考力、判断力、表現力を高めることができた。	特別支援教育の基本的な内容、現状と課題等について整理し、思考力、判断力、表現力を高めることができなかった。
授業への参加意欲や学修に向かう姿勢・態度	授業には意欲的に参加し、自ら発言するなど、常に積極的に取り組むことができた。	授業には意欲的に参加し、積極的に取り組むことができた。	授業には意欲的に参加し、部分的に積極的に取り組むことができた。	授業に参加し、ときどき積極的に取り組むことができた。	授業に参加し、積極的に取り組むことができなかった。

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『特別支援教育の基礎・基本2020』	独立行政法人国立特別支援教育総合研究所	ジアース教育新社	2020	978-4-86371-548-6	
2						
3						
4						
5						

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・1年		
開講時期	1Q	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	特別支援教育総論 (科目ナンバリング：SNE122112)				
授業担当者(所属・職名)	堀川厚志(社会福祉学科・特任教授)	研究室所在	2号館8階		
単位数	2 (単位認定責任者：堀川厚志)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	学校教育現場及び教育行政経験のある教員が、特別支援教育に関する今日的課題等について指導する。		

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	オリエンテーション(シラバスの説明等)	シラバスを読む(90分)	内容を振り返る(90分)
2	特別支援教育への転換	用特別支援教育への転換を調べる(90分)	重要事項を整理する(90分)
3	特別支援教育の制度	特別支援教育の制度を調べる(90分)	重要事項を整理する(90分)
4	障害児教育の歴史	障害児教育の歴史を調べる(90分)	重要事項を整理する(90分)
5	特別支援教育の対象と就学	対象と就学を調べる(90分)	重要事項を整理する(90分)
6	個別の教育支援計画	個別の教育支援計画を調べる(90分)	重要事項を整理する(90分)
7	学習指導要領と教育課程	学習指導要領と教育課程を調べる(90分)	重要事項を整理する(90分)
8	個別の指導計画	個別の指導計画を調べる(90分)	重要事項を整理する(90分)
9	各障害の状態と特別支援学校の教育	各障害の状態と特別支援学校を調べる(90分)	重要事項を整理する(90分)
10	教育課程の編成と指導の実際	教育課程の編成と指導の実際を調べる(90分)	重要事項を整理する(90分)
11	自立活動の指導	自立活動の指導を調べる(90分)	重要事項を整理する(90分)
12	特別支援教育コーディネーター	特別支援教育コーディネーターを調べる(90分)	重要事項を整理する(90分)
13	小・中学校等の特別支援教育	小・中学校の指導を調べる(90分)	重要事項を整理する(90分)
14	指導とアセスメント	指導とアセスメントを調べる(90分)	重要事項を整理する(90分)
15	心理検査	心理検査を調べる(90分)	重要事項を整理する(90分)
16	定期試験(60分間の筆記テスト、終了後20分間の解説実施)	全内容を整理する(90分)	全内容を振り返る(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・1年		
開講時期	1Q	授業形態	講義	必修・選択	課程必修
科目名称	肢体不自由者の心理・ (科目ナンバリング：SNE122114)				
授業担当者(所属・職名)	坂上 俊樹(社会福祉学科・特任教授)	研究室所在	1号館2階		
単位数	2 (単位認定責任者：坂上 俊樹)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験有り	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	学校現場における教員経験を活かして、今日的な教育課題(肢体不自由者の心理・生理・病理)について指導する。		

概要

履修目標
共生社会創造のための授業として肢体不自由教育を効果的に行うために必要な心理や病理・行動特性等の基本的な知識を理解して、指導上の配慮事項等の基礎知識を得る。

授業の位置づけ
社会福祉学科のDP「1(2)と(3)と(5)と(6)と(7)」、「2(2)」に対応する。

到達目標
肢体不自由児の心理や行動特性、指導上の配慮事項等について具体的に述べるができる。

授業全体の内容と概要
「一人一人の教育的ニーズに応じた特別支援教育」の基本的理念を押さえ、肢体不自由児の身体的・心理的な特性を事例や視覚教材を活用しながら構成する。

授業の方法
授業は、パワーポイント及び配布資料で実施し、パワーポイントにて説明した後、配布資料の記述部分に書き込んだり、質疑応答の時間を設けて基礎知識の定着を図る。また、DVDを視聴し具体的な実践場面を確認し、レポートにまとめ知識の進化を図る。なお、グループワーク発表、レポートにはコメントにてフィードバックする。

アクティブラーニングの実施方法						
	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク	PBL
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習	反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項
肢体不自由児の身体的、心理的な特性に応じた指導を行うにはどうしたらよいかを考えながら、必要な知識を積極的に学ぶ姿勢で臨むこと。また、実践事例のDVD教材視聴直後に事例に基づくレポート提出を求め、授業を欠席することのないよう留意すること。

資格指定科目
教職課程(特別支援)必修科目

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数は10回以上。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
60%	20%	0%	0%	20%	0%

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
肢体不自由児の心理・生理・病理の理解	肢体不自由児の心理・生理・病理の理解について、学修した知識・技能を基礎に、更に学修を深めることができた。	肢体不自由児の心理・生理・病理について、必要な知識・技能を理解することができた。	肢体不自由児の心理・生理・病理について、一定程度の理解ができた。	肢体不自由児の心理・生理・病理について、一部理解することができた。	肢体不自由児の心理・生理・病理について、理解ができなかった。
肢体不自由児の心理整理・病理についての思考・判断・表現	肢体不自由児の心理・生理・病理について、積極的に思考・判断し、自ら表現を工夫して活動することができた。	肢体不自由児の心理・生理・病理について思考・判断し、自ら表現することができた。	肢体不自由児の心理・生理・病理について、思考活動に取組み、表現しようことができた。	肢体不自由児の心理・生理・病理について、思考・判断・表現についての必要な取組ができなかった。	
授業への参加態度・姿勢	授業にとっても積極的に参加することができた。	授業に積極的に参加することができた。	授業に関心をもって参加することができた。	授業へいくらか関心をもって参加できた。	授業への積極的な参加ができなかった。

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『特別支援教育の基礎・基本 新訂版』	国立特別支援教育総合研究所	ジアーズ教育新社	2018年	978-4-86371-297-3	
2					0	
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『肢体不自由児の医療・療育・教育 改訂3版』	篠田運明	金芳堂	2015年	978-4-7653-1628-6	
2						
3						
4						
5						

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・1年		
開講時期	1Q	授業形態	講義	必修・選択	課程必修
科目名称	肢体不自由者の心理・ (科目ナンバリング: SNE122114)				
授業担当者(所属・職名)	坂上 俊樹(社会福祉学科・特任教授)	研究室所在	1号館2階		
単位数	2 (単位認定責任者: 坂上 俊樹)		CAP制		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験有り	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	学校現場における教員経験を活かして、今日的な教育課題(肢体不自由者の心理・生理・病理)について指導する。		

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	シラバスの説明及び肢体不自由児者の心理・生理・病理の概要	シラバスを確認しておくこと(90分)	配付資料に基づいて、年間の授業内容の見直しを立てる(90分)
2	肢体不自由者の概念と疾患	指定した教科書の「特別支援教育の対象」を事前に読んでおくこと(90分)	配付資料に基づき復習しておくこと(90分)
3	脳性まひの起因と症状(1)	指定した教科書の「肢体不自由とは」を事前に読んでおくこと(90分)	配付資料に基づき復習しておくこと(90分)
4	脳性まひの起因と症状(2)	指定した教科書の「脳性まひ」を事前に読んでおくこと(90分)	配付資料に基づき復習しておくこと(90分)
5	二分脊椎の起因と症状	指定した教科書の「二分脊椎」を事前に読んでおくこと(90分)	配付資料に基づき復習しておくこと(90分)
6	筋ジストロフィーの起因と症状	指定した教科書の「筋ジストロフィー」を事前に読んでおくこと(90分)	配付資料に基づき復習しておくこと(90分)
7	ベルテス病の起因と症状	「ベルテス病」について事前に調べておくこと(90分)	配付資料に基づき復習しておくこと(90分)
8	肢体不自由の特性を呈するその他の障害	指定した教科書の「医学的側面から見た肢体不自由」を事前に読んでおくこと(90分)	配付資料に基づき復習しておくこと(90分)
9	重症心身障害	配布した資料に基づき事前に調べること(90分)	配付資料に基づき復習しておくこと(90分)
10	障害に対する医療的対応	指定した教科書の「医学的側面からの把握」を事前に読んでおくこと(90分)	配付資料に基づき復習しておくこと(90分)
11	DVDの視聴及びレポート作成	事前に配布したDVDの資料を読んでおくこと(90分)	DVD視聴時に取ったメモに基づき整理しておくこと(90分)
12	生涯学習と医療・社会福祉	指定した教科書の「幼児児童生徒への対応」を事前に読んでおくこと(90分)	配付資料に基づき復習しておくこと(90分)
13	肢体不自由者の心理的特性	指定した教科書の「心理学的・教育的側面からみた肢体不自由」を事前に読んでおくこと(90分)	配付資料に基づき復習しておくこと(90分)
14	肢体不自由者の療育上特に留意すべき事項	指定した教科書の「肢体不自由とは」を事前に読んでおくこと(90分)	配付資料に基づき復習しておくこと(90分)
15	バリアフリーとまとめ	配布した資料に基づき「バリアフリー」について調べておくこと(90分)	配付資料に基づき復習しておくこと(90分)
16	定期試験(60分の試験終了後、残りの30分で解説する。)	指定した教科書や講義内容について整理しておくこと(90分)	試験の結果を見直す(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・1年		
開講時期	3Q	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	知的障害者の心理・生 (科目ナンバリング：SNE122113)				
授業担当者(所属・職名)	堀川厚志(社会福祉学科・特任教授)	研究室所在	2号館8階		
単位数	2 (単位認定責任者：堀川厚志)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	学校教育現場及び教育行政経験のある教員が、特別支援教育に関する今日的課題等について指導する。		

概要

履修目標	知的障害児に対する教育を効果的に行うために必要な心理や生理、病理、行動特性等の基本的な内容を理解し、指導上の基礎的な配慮事項等を理解する。
------	---

授業の位置づけ	・社会福祉学科のDP「1(2)と(3)と(5)」、「2(1)と(5)」に対応する。
---------	---

到達目標	・知的障害児の心理や生理、病理、行動特性等の基本的な内容がわかり、指導上の基礎的な配慮事項等がわかる。
------	---

授業全体の内容と概要	・基本的な内容としては、知的障害に関する定義、原因、医学的分類、状態像の把握(アセスメント、心理検査)、関連障害(染色体異常、代謝異常、自閉スペクトラム障害等)、認知処理(感覚、知覚、記憶等)、身体と運動発達、言語獲得について、一般的な定型発達との比較及び教育的対応の視点から説明する。
------------	---

授業の方法	・プレゼン資料等の提示による講義形式を主とする。 ・内容により、グループワークやペアワークを実施する。 ・前時の振り返りと本時の内容確認の小テストを実施する。 ・小テストや提出レポートに関するフィードバックとして、説明、解説を実施する。
-------	---

アクティブラーニングの実施方法						
	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク	PBL
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習	反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項	・授業内容に関するプレゼン資料の毎時間の配付や、レポート課題の出題、小テストを実施するので、欠席をしないようにすること。
----------	--

資格指定科目	教職課程(特別支援)必修科目
--------	----------------

評価方法・基準

評価前提条件					
・単位認定に必要な最低出席回数は、10回以上とする。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
60%	20%	0%	0%	10%	10%

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知的障害児の心理や生理、病理、行動特性等の基本的な内容の理解	知的障害児の心理や生理、病理、行動特性等について、十分に理解し、学修した知識をさらに深化させたり、発展的な学修ができた。	知的障害児の心理や生理、病理、行動特性等について十分に理解できた。	知的障害児の心理や生理、病理、行動特性等について、一定程度、理解できた。	知的障害児の心理や生理、病理、行動特性等について、部分的に理解できた。	知的障害児の心理や生理、病理、行動特性等について、理解できなかった。
基本的内容及び指導上の基礎的な配慮事項等を踏まえた教育的対応に関する思考力、判断力、表現力の向上	指導上の基礎的な配慮事項等を踏まえた教育的対応について、的確かつ発展的に整理し、思考力、判断力、表現力を十分に高めることができた。	指導上の基礎的な配慮事項等を踏まえた教育的対応について整理し、思考力、判断力、表現力を十分に高めることができた。	指導上の基礎的な配慮事項等を踏まえた教育的対応について整理し、思考力、判断力、表現力を高めることができた。	指導上の基礎的な配慮事項等を踏まえた教育的対応について整理し、部分的に思考力、判断力、表現力を高めることができた。	指導上の基礎的な配慮事項等を踏まえた教育的対応について整理し、思考力、判断力、表現力を高めることができなかった。
授業への参加意欲や学修に向かう姿勢・態度	授業には意欲的に参加し、自ら発言するなど、常に積極的に取り組むことができた。	授業には意欲的に参加し、積極的に取り組むことができた。	授業には意欲的に参加し、部分的に積極的に取り組むことができた。	授業に参加し、ときどき積極的に取り組むことができた。	授業に参加し、積極的に取り組むことができなかった。

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『特別支援教育の基礎・基本2020』	独立行政法人国立特別支援教育総合研究所	ジヤース教育新社	2020	978-4-86371-548-6	
2						
3						
4						
5						

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・1年		
開講時期	3Q	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	知的障害者の心理・生 (科目ナンバリング: SNE122113)				
授業担当者(所属・職名)	堀川厚志(社会福祉学科・特任教授)	研究室所在	2号館8階		
単位数	2 (単位認定責任者: 堀川厚志)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	学校教育現場及び教育行政経験のある教員が、特別支援教育に関する今日的課題等について指導する。		

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	オリエンテーション(シラバスの説明等)	シラバスを読む(90分)	内容を振り返る(90分)
2	知的障害の用語と定義	用語の使用と定義を調べる(90分)	重要事項を整理する(90分)
3	知的障害の原因と医学的分類	原因と医学的分類を調べる(90分)	重要事項を整理する(90分)
4	知的障害児のアセスメント	アセスメントについて調べる(90分)	重要事項を整理する(90分)
5	知的障害児に対する教育的な活用を考慮した心理検査	心理検査について調べる(90分)	重要事項を整理する(90分)
6	知的障害に関連した障害(染色体異常)	染色体異常について調べる(90分)	重要事項を整理する(90分)
7	知的障害に関連した障害(代謝異常)	代謝異常について調べる(90分)	重要事項を整理する(90分)
8	知的障害に関連した障害(自閉スペクトラム障害等)	自閉スペクトラム障害異常について調べる(90分)	重要事項を整理する(90分)
9	知的障害児の認知特性	認知特性について調べる(90分)	重要事項を整理する(90分)
10	知的障害児の知覚特性	知覚特性について調べる(90分)	重要事項を整理する(90分)
11	知的障害児の知能	知能について調べる(90分)	重要事項を整理する(90分)
12	知的障害児の記憶	記憶について調べる(90分)	重要事項を整理する(90分)
13	知的障害児の身体と運動	身体と運動について調べる(90分)	重要事項を整理する(90分)
14	知的障害児の言語の理解と表出	言語について調べる(90分)	重要事項を整理する(90分)
15	知的障害児の言語の獲得	言語について調べる(90分)	重要事項を整理する(90分)
16	定期試験(60分間の筆記テスト、終了後20分間の解説実施)	全内容を整理する(90分)	全内容を振り返る(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・1年		
開講時期	3Q	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	肢体不自由教育 (科目ナンバリング：SNE122118)				
授業担当者(所属・職名)	坂上 俊樹(社会福祉学科・特任教授)	研究室所在	1号館2階		
単位数	2 (単位認定責任者：坂上 俊樹)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	学校現場における教員経験を活かして、今日的な教育課題(肢体不自由教育)について指導する。		

概要

履修目標	共生社会の創造のための教養として肢体不自由者の教育を効果的に行うために必要な基本的な知識と障害の状況等に応じた指導の在り方について基礎的な知識を得る。												
授業の位置づけ	社会福祉学科のDP「1(2)と(3)と(5)と(6)と(7)」、「2(2)」に対応する。												
到達目標	肢体不自由教育を効果的に行うために必要な指導内容・方法等についての基礎的知識を具体的に述べることができる。												
授業全体の内容と概要	特別支援教育の対象となる肢体不自由者の現状を押さえ、児童生徒の実態把握の方法と評価、障害の状態に応じた教育課程や指導内容・方法、健康の保持や訓練、医療的ケアの仕方等について映像教材等も活用しながら構成する。												
授業の方法	授業は、パワーポイント及び配布資料で実施し、パワーポイントにて説明した後、配付資料の記述部分に書き込んだり、質疑応答の時間を設けて基礎知識の定着をはかる。また、DVDを視聴し具体的な実践場面を確認し、レポートにまとめ知識の進化を図る。レポートについてはコメントによりフィードバックする。												
アクティブラーニングの実施方法	<table border="1"> <tr> <td>プレゼンテーション</td> <td>グループワーク</td> <td>フィールドワーク</td> <td>PBL</td> </tr> <tr> <td>模擬授業</td> <td>ロールプレイ</td> <td>調査学習</td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td>ディスカッション</td> <td>実験・実習・実技</td> <td>双方向授業</td> <td>その他(授業の方法参照)</td> </tr> </table>	プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL	模擬授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業	ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)
プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL										
模擬授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業										
ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)										
履修上の注意事項	肢体不自由者の障害特性に応じた指導を効果的に行うために必要な知識を積極的に学ぶ姿勢で臨むこと。授業内容の習得状況を確認するために中間テストを実施することがある。また、実践事例のVTR教材視聴直後に事例に基づくレポート提出を求めらるので、授業を欠席することのないよう留意すること。												
資格指定科目	教職課程(特別支援)必修科目												

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数は10回以上。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
70%	10%	0%	10%	10%	0%

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
肢体不自由教育の理解	肢体不自由教育について、学修した知識・技能を基盤に、さらに学修を深めようとする事ができた。	肢体不自由教育について、必要な知識・技能を理解する事ができた。	肢体不自由教育について、一定程度の理解ができた。	肢体不自由教育について、一部理解することができた。	肢体不自由教育について、理解できなかった。
肢体不自由教育の思考・表現	肢体不自由教育について、積極的に思考・判断し、自ら表現を工夫して活動することができた。	肢体不自由教育について、思考・判断し、自ら表現することができた。	肢体不自由教育について、思考活動に取り組み表現しようとする事ができた。	肢体不自由教育について、思考することができた。	肢体不自由教育にかかわる思考・判断・表現について必要な取り組みができなかった。
授業への参加態度・姿勢	授業にとっても積極的に参加することができた。	授業に積極的に参加することができた。	授業に関心を持って参加することができた。	授業へいくらかの関心をもつて参加できた。	授業への積極的な参加ができなかった。

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『特別支援教育の基礎・基本 新訂版』	国立特別支援教育総合研究所	ジアーズ教育新社	2018年	978-4-86371-297-3	
2	『特別支援学校幼稚部教育要領 小学部・中学部 学習指導要領』	文部科学省	海文堂出版	平成29年	978-4-303-12424-3	
3	『特別支援学校学習指導要領解説総則編』	文部科学省	開隆堂出版	平成30年	978-4-304-04229-4	
4	『特別支援学校学習指導要領解説自立活動編』	文部科学省	開隆堂出版	平成30年	978-4-304-04231-7	
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『肢体不自由教育の基本とその展開』	慶應義塾大学出版会	慶應義塾大学出版会	2008年	978-4-7664-1409-7	
2						
3						
4						
5						

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・1年		
開講時期	3Q	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	肢体不自由教育 (科目ナンバリング: SNE122118)				
授業担当者(所属・職名)	坂上 俊樹 (社会福祉学科・特任教授)	研究室所在	1号館2階		
単位数	2 (単位認定責任者: 坂上 俊樹)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容 学校現場における教員経験を活かして、今日的な教育課題(肢体不自由教育)について指導する。			

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	シラバスの説明及び肢体不自由教育の概要	シラバスを確認しておくこと(90分)	シラバスに基づいて、授業内容に見通しを立てる(90分)
2	肢体不自由教育の現状と仕組み	指定した教科書の「肢体不自由児の発達と実態把握」を事前に読んでおくこと(90分)	配付資料に基づき復習しておくこと(90分)
3	肢体不自由教育の歴史の変遷	指定した教科書の「肢体不自由児の発達と実態把握」を事前に読んでおくこと(90分)	配付資料に基づき復習しておくこと(90分)
4	教育課程と学習指導要領	指定した教科書の「障害に応じた教育課程の編成」を事前に読んでおくこと(90分)	配付資料に基づき復習しておくこと(90分)
5	肢体不自由者の教育課程と指導上の特徴	指定した教科書の「肢体不自由児に応じた教育課程の編成」を事前に読んでおくこと(90分)	配付資料に基づき復習しておくこと(90分)
6	肢体不自由者の個別の教育支援計画と個別の指導計画	指定した教科書の「肢体不自由児に応じた教育課程の編成」を事前に読んでおくこと(90分)	配付資料に基づき復習しておくこと(90分)
7	実態把握と自立活動(身体の動き他)	指定した参考文献の「学習指導要領 自立活動編」を事前に読んでおくこと(90分)	配付資料に基づき復習しておくこと(90分)
8	実態把握と自立活動(健康の保持他)	指定した参考文献の「学習指導要領 自立活動編」を事前に読んでおくこと(90分)	配付資料に基づき復習しておくこと(90分)
9	実態把握とコミュニケーション	指定した参考文献の「学習指導要領 自立活動編」を事前に読んでおくこと(90分)	配付資料に基づき復習しておくこと(90分)
10	実態把握と健康安全及び医療的ケア	指定した教科書の「肢体不自由児の発達と実態把握」を事前に読んでおくこと(90分)	配付資料に基づき復習しておくこと(90分)
11	訪問教育	配布した資料に基づき訪問教育について事前に調べておくこと(90分)	配付資料に基づき復習しておくこと(90分)
12	就学指導と進路指導	指定した教科書の「肢体不自由児の発達と実態把握」を事前に読んでおくこと(90分)	配付資料に基づき復習しておくこと(90分)
13	自立活動(摂食指導)	指定した参考文献の「学習指導要領 自立活動編」を事前に読んでおくこと(90分)	配付資料に基づき復習しておくこと(90分)
14	DVDの視聴及びレポート作成	配布した資料を事前に読んでおくこと(90分)	DVD視聴時のメモを元に整理する(90分)
15	評価の方法・まとめ	指定した教科書の「肢不自由児の発達と実態把握」を事前に読んでおくこと(90分)	配付資料に基づき復習しておくこと(90分)
16	定期試験(60分の試験終了後、残り330分で解説する。)	指定した教科書や講義内容について整理しておくこと(90分)	試験の結果を見直す(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・1年		
開講時期	3Q	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	聴覚障害教育総論 (科目ナンバリング：SNE122122)				
授業担当者(所属・職名)	荒木 広式(社会福祉学科・特任教授)		研究室所在	2号館8階	
単位数	2	(単位認定責任者：荒木 広式)	CAP制		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	学校現場や教育行政の実務経験のある教員がその経験を活かして、聴覚障害教育に係る今日的な課題への対応を指導する。		

概要

履修目標	聴覚障害者の心理・生理・病理面からの考察を基礎として、我が国の聴覚障害教育の全体像を把握するとともに、聴覚障害児の発達と各段階における教育内容・方法について理解する。
------	---

授業の位置づけ	社会福祉学科のDP「1(2)と(3)と(5)」、「2(2)」に対応する。
---------	--------------------------------------

到達目標	聴覚障害の特性と発達及び教育内容の特徴を理解し、説明するとともに、テーマに即して、限られた時間内でレポートを記述できる。
------	--

授業全体の内容と概要	聴覚障害の特性をおさえた上で、聴覚障害の種類・程度による発達の特性及びコミュニケーション能力と環境との関係性について具体的な事例を取り入れて構成する。また、毎回設定する「授業テーマ」をもとに、思考・考察、意見交換、討論、発表等の一連の活動を行う。
------------	---

授業の方法	授業は、パワーポイント及び配布資料で実施し、資料にて説明した後、グループワークにてグループ発表、レポート提出(15回)を行う。なお、レポートは評価並びにコメントを記入し、フィードバックする。
-------	---

アクティブラーニングの実施方法							
<input type="checkbox"/>	プレゼンテーション	<input type="checkbox"/>	グループワーク	<input type="checkbox"/>	フィールドワーク	<input type="checkbox"/>	PBL
<input type="checkbox"/>	模擬授業	<input type="checkbox"/>	ロールプレイ	<input type="checkbox"/>	調査学習	<input type="checkbox"/>	反転授業
<input type="checkbox"/>	ディスカッション	<input type="checkbox"/>	実験・実習・実技	<input type="checkbox"/>	双方向授業	<input type="checkbox"/>	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項	教職科目(特別支援教育)であることから、遅刻や欠席をしないように努めること。
----------	--

資格指定科目	教職課程(特別支援)必修科目
--------	----------------

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数は、10回以上。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
50%	40%	0%	0%	0%	10%

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
聴覚障害の特性と教育内容の習得	聴覚障害教育に係る知識・技能を積極的に習得し、その内容を的確に説明できた。	聴覚障害教育に係る知識・技能を習得し、その内容を説明できた。	聴覚障害教育に係る基礎的な知識・技能を習得し、その内容を説明できた。	聴覚障害教育に係る基礎的な知識・技能を習得し、その内容をほぼ説明できた。	聴覚障害教育に係る基礎的な知識・技能の習得や、その内容説明ができなかった。
授業テーマに関するレポートの記述	テーマに基づき、的確な思考力・判断力のもと、論理的な内容で、時間内に記述できた。	テーマに基づき、思考力・判断力を活かした内容で、時間内に記述できた。	テーマに基づき、資料を参考にして、思考力・判断力のもと、時間内に記述できた。	テーマに基づき、資料を参考にして、自分なりの考えで、ほぼ時間内に記述できた。	テーマに基づき、資料を参考にして、自分なりの考えで、時間内に記述できなかった。
授業への参加態度・姿勢	授業に主体的・積極的に参加することができた。	授業に積極的に参加することができた。	授業に関心を持って参加することができた。	授業にほぼ関心を持って参加することができた。	授業に関心を持って参加することができなかった。

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『使用しない』					
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『聴覚障害教育の基本と実際』	中野善達	田研出版	2008	978-4860890186	
2						
3						
4						
5						

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・1年		
開講時期	3Q	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	聴覚障害教育総論 (科目ナンバリング: SNE122122)				
授業担当者(所属・職名)	荒木 広式 (社会福祉学科・特任教授)	研究室所在	2号館 8階		
単位数	2 (単位認定責任者: 荒木 広式)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	学校現場や教育行政の実務経験のある教員がその経験を活かして、聴覚障害教育に係る今日的な課題への対応を指導する。		

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	シラバスの説明, 耳の役割	授業範囲を予習し, 関連する資料の収集に努めること。(90分)	講義資料, 授業 レポートをファイル化し, 復習しておくこと。(90分)
2	特別支援学校(聾学校)の教育の実際	次回授業範囲を予習し, 関連する資料の収集に努めること。(90分)	講義資料, 授業 レポートをファイル化し, 復習しておくこと。(90分)
3	聴覚障害児が受ける教育の場	次回授業範囲を予習し, 専門用語の意味を理解しておくこと。(90分)	講義資料, 授業 レポートをファイル化し, 復習しておくこと。(90分)
4	聞こえのしくみと聴覚障害の分類	次回授業範囲を予習し, 専門用語の意味を理解しておくこと。(90分)	講義資料, 授業 レポートをファイル化し, 復習しておくこと。(90分)
5	聴力検査の実際	次回授業範囲を予習し, 専門用語の意味を理解しておくこと。(90分)	講義資料, 授業 レポートをファイル化し, 復習しておくこと。(90分)
6	オーディオグラムと聴力型	次回授業範囲を予習し, 専門用語の意味を理解しておくこと。(90分)	講義資料, 授業 レポートをファイル化し, 復習しておくこと。(90分)
7	補聴器と人工内耳	次回授業範囲を予習し, 専門用語の意味を理解しておくこと。(90分)	講義資料, 授業 レポートをファイル化し, 復習しておくこと。(90分)
8	聴覚障害児の発達の特性	次回授業範囲を予習し, 専門用語の意味を理解しておくこと。(90分)	講義資料, 授業 レポートをファイル化し, 復習しておくこと。(90分)
9	聴覚障害幼児の言語発達	次回授業範囲を予習し, 専門用語の意味を理解しておくこと。(90分)	講義資料, 授業 レポートをファイル化し, 復習しておくこと。(90分)
10	聴覚障害教育の歴史的経過(1) - 欧米について	次回授業範囲を予習し, 関連する資料の収集に努めること。(90分)	講義資料, 授業 レポートをファイル化し, 復習しておくこと。(90分)
11	聴覚障害教育の歴史的経過(2) - 日本について	次回授業範囲を予習し, 関連する資料の収集に努めること。(90分)	講義資料, 授業 レポートをファイル化し, 復習しておくこと。(90分)
12	聴覚障害教育における教育課程	次回授業範囲を予習し, 専門用語の意味を理解しておくこと。(90分)	講義資料, 授業 レポートをファイル化し, 復習しておくこと。(90分)
13	聴覚障害者のコミュニケーション手段	次回授業範囲を予習し, 専門用語の意味を理解しておくこと。(90分)	講義資料, 授業 レポートをファイル化し, 復習しておくこと。(90分)
14	特別支援教育への転換と障害児の教育形態	次回授業範囲を予習し, 専門用語の意味を理解しておくこと。(90分)	講義資料, 授業 レポートをファイル化し, 復習しておくこと。(90分)
15	保護者への支援, まとめ	次回授業範囲を予習し, 関連する資料の収集に努めること。(90分)	講義資料, 授業 レポートをファイル化し, 復習しておくこと。(90分)
16	定期試験(60分の試験終了後, 残りの30分で解説を行う。)	講義資料等で講義内容を整理する。(90分)	試験の結果を見直す。(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・1年		
開講時期	1Q	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	視覚障害教育総論 (科目ナンバリング：SNE122121)				
授業担当者(所属・職名)	酒井 宏三(社会福祉学科・非常勤講師)	研究室所在	1号館非常勤講師室		
単位数	2 (単位認定責任者：酒井 宏三)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	特別支援学校や教育行政における勤務経験を活かして、視覚障害教育に関する諸事項を講義する。		

概要

履修目標
特別支援教育の教師を目指すため、視覚障害の特性の理解と、学習上・生活上の困難を改善・克服する教育についての基本的知識を習得し、視覚障害教育に携わる者の意欲・態度等の基本的資質について学ぶ。

授業の位置づけ
社会福祉学科のDP「1(4)と(5)と(6)」、「2(2)」に対応する。

到達目標
視覚障害の特性を、眼疾・心理学的面、視覚障害者の歴史、職業、学校制度から基本的理解ができ、学ぶ内容を述べることができる。また、視覚障害による学習上・生活上の困難の理解を基に、改善・克服して視覚障害者が自立・社会参加できるための教育について基礎的知識を習得する意欲を高めることができ、視覚障害教育に携わる者として意欲・態度の資質を養うことができる。

授業全体の内容と概要
1. 準ずる教育としての視覚障害教育を、心理学的特性と学習上・生活上の困難な事項を基に、その指導内容・方法は主として「自立活動」から学ぶ構成とする。 2. 視覚障害者の教育をその歴史・学校制度から理解し、教育機関・指導者の役割を考察する。 3. 具体的な理解を図るため、点字・歩行の基礎技術の実技・疑似体験・視覚教材視聴等の構成とする。

授業の方法
1. 「準備学習」を重視する。事前に配布する資料に基づく「テスト形式」の予習、「なぜ学ぶ必要があるか？」のミニレポートにより、視覚障害教育に携わる者としての基本的知識、意欲、態度の認識を深め、なお、レポートは評価並びにコメントを記入し、フィードバックする。 2. 講義では、各項目の特徴を明らかにすることを重視し、質問・プレゼン・ディスカッションを取り入れる。 3. 歩行が点字(希望により選択)の基礎技能の習得を毎回実施する。

アクティブラーニングの実施方法															
<table border="1"> <tr> <td></td> <td>プレゼンテーション</td> <td>グループワーク</td> <td>フィールドワーク</td> <td>PBL</td> </tr> <tr> <td></td> <td>模擬授業</td> <td>ロールプレイ</td> <td>調査学習</td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td></td> <td>ディスカッション</td> <td>実験・実習・実技</td> <td>双方向授業</td> <td>その他(授業の方法参照)</td> </tr> </table>		プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL		模擬授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業		ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)
	プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL											
	模擬授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業											
	ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)											

履修上の注意事項
1. 「準備学習」の「小テスト形式の課題」・「学ぶ理由のミニレポート」は事前に資料を配布するので、講義の前に必ず提出すること。 2. 「歩行」・「観察」時にアイマスクを使用するので、衛生面上、必ず自分で準備すること。 3. 「歩行」時は階段の上り下りがあるので、服装や靴など動きやすいものを準備すること。

資格指定科目
教職課程(特別支援)必修科目

評価方法・基準

評価前提条件												
・単位認定に必要となる最低出席回数及び「準備学習」期日提出は10回以上とする。 ・「準備学習」や課題への意欲・態度、レポートの内容・書き方、質問・発表により評価する。												
評価方法												
<table border="1"> <tr> <th>定期試験</th> <th>レポート</th> <th>課題・作品</th> <th>中間テスト</th> <th>平常点</th> <th>その他</th> </tr> <tr> <td>0%</td> <td>30%</td> <td>40%</td> <td>0%</td> <td>30%</td> <td>0%</td> </tr> </table>	定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他	0%	30%	40%	0%	30%	0%
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他							
0%	30%	40%	0%	30%	0%							

ルーブリック																													
<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">評価項目</th> <th colspan="5">評価基準</th> </tr> <tr> <th>履修項目を超えたレベルを達成している</th> <th>履修項目をほぼ達成している</th> <th>履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している</th> <th>到達目標を達成している</th> <th>到達目標を達成していない</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>準備学習</td> <td>「準備学習」に意欲的に取り組み、提出物は高度な理解が溢れ、「なぜ学ぶのか？」のミニレポートも正しく把握し、自らの考えが適切である。</td> <td>「準備学習」に努め、提出期限も守り、基本的理解が身につく。ミニレポートも次第的確となった。</td> <td>「準備学習」に努めてきて、いるが、資料の活かし方にも慣れ、ミニレポートの書き方が上達した。</td> <td>「準備学習」に努めてきて、資料の活かし方ができるようになってきた。ミニレポートの表現が適切になった。</td> <td>「準備学習」への取り組みが不十分で、資料の活用、ミニレポートによる学びの向上ができなかった。</td> </tr> <tr> <td>視覚障害教育の指導内容・方法等についての理解</td> <td>視覚障害教育の指導内容・方法等について、意欲的に学び、興味・関心を高め、自ら課題をみつけ調査したり、要点をまとめた。</td> <td>視覚障害教育の指導内容・方法等について、良く学び基本的理解が十分身についた。</td> <td>視覚障害教育について、学ぶ意欲が高まってきて、基本的理解が身につくようになった。</td> <td>視覚障害教育について学び、基本的理解への努力が見られるようになった。</td> <td>視覚障害者の教育について、学び、基本的理解の努力が示されなかった。</td> </tr> <tr> <td>視覚障害教育の関心・意欲・態度</td> <td>視覚障害者の教育に携わる者として、意欲・態度の資質が応答・発表等に著しくみられた。</td> <td>視覚障害者の教育に携わる者として、意欲・態度の資質が応答・発表等に十分にみられた。</td> <td>視覚障害者の教育に携わる者として、意欲・態度の資質が応答・発表等にみられた。</td> <td>視覚障害者の教育に携わる者としての意欲が次第に高まった。</td> <td>視覚障害者の教育に携わる者としての意欲・態度が応答・発表にみられなかった。</td> </tr> </tbody> </table>	評価項目	評価基準					履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない	準備学習	「準備学習」に意欲的に取り組み、提出物は高度な理解が溢れ、「なぜ学ぶのか？」のミニレポートも正しく把握し、自らの考えが適切である。	「準備学習」に努め、提出期限も守り、基本的理解が身につく。ミニレポートも次第的確となった。	「準備学習」に努めてきて、いるが、資料の活かし方にも慣れ、ミニレポートの書き方が上達した。	「準備学習」に努めてきて、資料の活かし方ができるようになってきた。ミニレポートの表現が適切になった。	「準備学習」への取り組みが不十分で、資料の活用、ミニレポートによる学びの向上ができなかった。	視覚障害教育の指導内容・方法等についての理解	視覚障害教育の指導内容・方法等について、意欲的に学び、興味・関心を高め、自ら課題をみつけ調査したり、要点をまとめた。	視覚障害教育の指導内容・方法等について、良く学び基本的理解が十分身についた。	視覚障害教育について、学ぶ意欲が高まってきて、基本的理解が身につくようになった。	視覚障害教育について学び、基本的理解への努力が見られるようになった。	視覚障害者の教育について、学び、基本的理解の努力が示されなかった。	視覚障害教育の関心・意欲・態度	視覚障害者の教育に携わる者として、意欲・態度の資質が応答・発表等に著しくみられた。	視覚障害者の教育に携わる者として、意欲・態度の資質が応答・発表等に十分にみられた。	視覚障害者の教育に携わる者として、意欲・態度の資質が応答・発表等にみられた。	視覚障害者の教育に携わる者としての意欲が次第に高まった。	視覚障害者の教育に携わる者としての意欲・態度が応答・発表にみられなかった。
評価項目		評価基準																											
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない																								
準備学習	「準備学習」に意欲的に取り組み、提出物は高度な理解が溢れ、「なぜ学ぶのか？」のミニレポートも正しく把握し、自らの考えが適切である。	「準備学習」に努め、提出期限も守り、基本的理解が身につく。ミニレポートも次第的確となった。	「準備学習」に努めてきて、いるが、資料の活かし方にも慣れ、ミニレポートの書き方が上達した。	「準備学習」に努めてきて、資料の活かし方ができるようになってきた。ミニレポートの表現が適切になった。	「準備学習」への取り組みが不十分で、資料の活用、ミニレポートによる学びの向上ができなかった。																								
視覚障害教育の指導内容・方法等についての理解	視覚障害教育の指導内容・方法等について、意欲的に学び、興味・関心を高め、自ら課題をみつけ調査したり、要点をまとめた。	視覚障害教育の指導内容・方法等について、良く学び基本的理解が十分身についた。	視覚障害教育について、学ぶ意欲が高まってきて、基本的理解が身につくようになった。	視覚障害教育について学び、基本的理解への努力が見られるようになった。	視覚障害者の教育について、学び、基本的理解の努力が示されなかった。																								
視覚障害教育の関心・意欲・態度	視覚障害者の教育に携わる者として、意欲・態度の資質が応答・発表等に著しくみられた。	視覚障害者の教育に携わる者として、意欲・態度の資質が応答・発表等に十分にみられた。	視覚障害者の教育に携わる者として、意欲・態度の資質が応答・発表等にみられた。	視覚障害者の教育に携わる者としての意欲が次第に高まった。	視覚障害者の教育に携わる者としての意欲・態度が応答・発表にみられなかった。																								

教科書・参考文献・資料等

教科書																																										
<table border="1"> <tr> <th>No</th> <th>書籍名</th> <th>著者</th> <th>出版社</th> <th>出版年</th> <th>ISBN</th> <th>備考</th> </tr> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>4</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>5</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考	1							2							3							4							5						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考																																				
1																																										
2																																										
3																																										
4																																										
5																																										

参考文献・資料等																																										
<table border="1"> <tr> <th>No</th> <th>書籍名</th> <th>著者</th> <th>出版社</th> <th>出版年</th> <th>ISBN</th> <th>備考</th> </tr> <tr> <td>1</td> <td>『視覚障害教育に携わる方のために。』</td> <td>香川 邦生ほか</td> <td>慶應義塾出版</td> <td>2000年</td> <td>978-4-7664-2367-9</td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>4</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>5</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考	1	『視覚障害教育に携わる方のために。』	香川 邦生ほか	慶應義塾出版	2000年	978-4-7664-2367-9		2							3							4							5						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考																																				
1	『視覚障害教育に携わる方のために。』	香川 邦生ほか	慶應義塾出版	2000年	978-4-7664-2367-9																																					
2																																										
3																																										
4																																										
5																																										

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・1年		
開講時期	1Q	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	視覚障害教育総論 (科目ナンバリング: SNE122121)				
授業担当者(所属・職名)	酒井 宏三(社会福祉学科・非常勤講師)		研究室所在	1号館非常勤講師室	
単位数	2 (単位認定責任者: 酒井 宏三)		CAP制		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容 特別支援学校や教育行政における勤務経験を活かして、視覚障害教育に関する諸事項を講義する。			

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	オリエンテーション ・授業計画(シラバス)の説明と大事にしたいこと	シラバスを読んでおくこと。(90分)	ミニレポートの作成。(90分)
2	視覚障害者の理解 ・視覚障害者の職業自立 「三療で生きる!三療しかない?」	提供資料による「小テスト形式の課題」・「視覚障害教育に携わる者の学ぶ内容」(ミニレポート)。(90分)	講義内容の理解を深め、資料・ノートをまとめておくこと。(90分)
3	視覚障害者の理解 ・視覚障害者の親の方の変遷 「日本特有の自立の場とは?」	提供資料による「小テスト形式の課題」・「視覚障害教育に携わる者の学ぶ内容」(ミニレポート)。(90分)	講義内容の理解を深め、資料・ノートをまとめておくこと。(90分)
4	視覚障害者の理解 ・眼の機能と視機能障害 「あなたも、江戸時代なら障害者?」	提供資料による「小テスト形式の課題」・「視覚障害教育に携わる者の学ぶ内容」(ミニレポート)。(90分)	ミニレポートの作成。(90分)
5	視覚障害者の理解 ・眼の疾病と配慮事項 「知らないことは、罪?」	提供資料による「小テスト形式の課題」・「視覚障害教育に携わる者の学ぶ内容」(ミニレポート)。(90分)	講義内容の理解を深め、資料・ノートをまとめておくこと。(90分)
6	視覚障害教育の制度 ・教育制度と就学 「通って、学んで、良かった!」	提供資料による「小テスト形式の課題」・「視覚障害教育に携わる者の学ぶ内容」(ミニレポート)。(90分)	講義内容の理解を深め、資料・ノートをまとめておくこと。(90分)
7	視覚障害者の心理学的特性と学習上・生活上の困難 ・改善、克服するために 「部分的な情報収集とは?」	提供資料による「小テスト形式の課題」・「視覚障害教育に携わる者の学ぶ内容」(ミニレポート)。(90分)	ミニレポートの作成。(90分)
8	教育課程と配慮事項 ・五つの配慮事項 「進める教育と障害の改善克服?」	提供資料による「小テスト形式の課題」・「視覚障害教育に携わる者の学ぶ内容」(ミニレポート)。(90分)	講義内容の理解を深め、資料・ノートをまとめておくこと。(90分)
9	自立活動の指導 ・指導目標と指導内容 「予備・確かめ」の習熟とは?」	提供資料による「小テスト形式の課題」・「視覚障害教育に携わる者の学ぶ内容」(ミニレポート)。(90分)	講義内容の理解を深め、資料・ノートをまとめておくこと。(90分)
10	自立活動の指導 ・空間概念の指導 「こ、あそこって、どっち?」	提供資料による「小テスト形式の課題」・「視覚障害教育に携わる者の学ぶ内容」(ミニレポート)。(90分)	ミニレポートの作成。(90分)
11	自立活動の指導 ・歩行地図と歩行指導 「安全な一歩から地図を描き、世界へ!」	提供資料による「小テスト形式の課題」・「視覚障害教育に携わる者の学ぶ内容」(ミニレポート)。(90分)	講義内容の理解を深め、資料・ノートをまとめておくこと。(90分)
12	自立活動の指導 ・点字の系統的指導 「触って読む点字で心を広げる!」	提供資料による「小テスト形式の課題」・「視覚障害教育に携わる者の学ぶ内容」(ミニレポート)。(90分)	講義内容の理解を深め、資料・ノートをまとめておくこと。(90分)
13	自立活動の指導 ・アクティブタッチと図形指導 「って、こう描くんだったよね!」	提供資料による「小テスト形式の課題」・「視覚障害教育に携わる者の学ぶ内容」(ミニレポート)。(90分)	ミニレポートの作成。(90分)
14	自立活動の指導 ・弱視の特性と早期教育 「見えるって、見えてること?」	提供資料による「小テスト形式の課題」・「視覚障害教育に携わる者の学ぶ内容」(ミニレポート)。(90分)	講義内容の理解を深め、資料・ノートをまとめておくこと。(90分)
15	教科指導と指導方法 ・視覚障害教育の課題 「見たことないもの、作られへん!」	学習内容について調べておくこと。(90分)	講義内容の理解を深め、資料・ノートをまとめておくこと。(90分)
16	重要事項の発表と課題に対する解説	重要事項から選択したテーマを発表できるよう原稿・教材を作成すること。(90分)	解説・フィードバックを受けて講義全体を振り返ること(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・2年		
開講時期	1Q	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	相談援助演習 (科目ナンバリング：SWS122028)				
授業担当者(所属・職名)	小早川 俊哉(社会福祉学科・教授)・ 上原 正希(社会福祉学科・教授)・大	研究室所在	1号館2階		
単位数	2 (単位認定責任者：小早川 俊哉)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	ソーシャルワーク、ケアワークの実務経験者が、実践現場における相談業務、介護業務の事例を参考に講義を展開する。		

概要

履修目標	ソーシャルワーカーとしての姿勢(自己理解、他者理解、倫理観)と相談業務の基本的技法(コミュニケーション、面接技法、記録技法、ケースカンファレンス、実践評価)をディスカッション、ロールプレイ、DVD鑑賞等を通して体得する。
------	--

授業の位置づけ	社会福祉学科のDP「1(1)と(2)と(3)」、「2(2)」に対応する。
---------	--------------------------------------

到達目標	様々な援助技術(スキル)を習得することや技法の統合のための理解を深めることができるようになる。また、次年度の相談援助実習に向けて、積極的な討議参加や自己表現ができる。
------	---

授業全体の内容と概要	個人・家族、グループ、地域社会への支援をイメージし、ロールプレイ等の学習を通じて、面接や記録などの技法の実際を学ぶ。
------------	--

授業の方法	3～4つのグループ(1グループ20名以内)に分かれて、テキストの事例を実際にロールプレイしたり、小グループに分かれてディスカッションを行う。その中で教員のスーパービジョンを受け、自己の振り返りを行い、自己覚知を促す。
-------	--

アクティブラーニングの実施方法						
	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク	PBL
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習	反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項	この科目の単位を取得できなかった場合、次年度の相談援助実習及び保育実習を履修できないので注意すること。
----------	---

資格指定科目	社会福祉士国家試験受験資格課程、精神保健福祉士国家試験受験資格課程、保育士養成課程、スクール(学校)ソーシャルワーカー資格課程、子育て支援ソーシャルワーカー資格課程
--------	--

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数20回以上をクリアすること。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	30%	0%	0%	0%	70%

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
ソーシャルワークにおける自己理解、他者理解の重要性を理解する。	自己覚知の概念、自己開示の実践、他者理解における実践理論を言語で明確に説明できた。	自己覚知の概念、他者理解における実践理論を言語で明確に説明できた。	自己覚知の概念、自己開示の実践を言語で明確に説明できた。	自己覚知の概念を言語で明確に理解できた。	左記の専門用語を一つも説明できなかった。
ソーシャルワークにおける面接技法を理解する。	ソーシャルワーク面接の一連のプロセスと重要タームをマイクロカウンセリング技法の用語を用いて説明できた。	ソーシャルワーク面接の一連のプロセスの重要タームを説明できた。	ソーシャルワーク面接の一連のプロセスを説明できた。	面接における身体技法を実践できた。	左記の専門ターム及び実践技法を一つも説明及び実践できなかった。
ソーシャルワークにおけるアセスメント、プランニング、ケースカンファレンス、モニタリング、評価について理解する。	アセスメント、プランニング、ケースカンファレンス、モニタリング、評価における各々の役割をロールプレイングで実践できた。	アセスメント、プランニング、ケースカンファレンス、モニタリング、評価における各々の役割をロールプレイングで実践できた。	アセスメント、プランニング、ケースカンファレンス、モニタリングの理論と重要性を言語で明確に説明できた。	アセスメント、プランニング、ケースカンファレンス、モニタリング、評価の重要性を説明できた。	左記の用語の説明およびロールプレイング実践を一つもできなかった。

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『ソーシャルワーク演習ワークブック』	相澤謙治 植戸貴子	(株)みらい	2013年	978-4-86015-123-2	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・2年		
開講時期	1Q	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	相談援助演習 (科目ナンバリング: SWS122028)				
授業担当者(所属・職名)	小早川 俊哉(社会福祉学科・教授)・ 上原 正希(社会福祉学科・教授)・大	研究室所在	1号館2階		
単位数	2 (単位認定責任者: 小早川 俊哉)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	ソーシャルワーク、ケアワークの実務経験者が、実践現場における相談業務、介護業務の事例を参考に講義を展開する。		

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	オリエンテーション(グループ分け 自己紹介) シラバスの説明	1年時の関連科目の復習(90分)	自己の言動の振り返り(90分)
2	演習に向けての準備(自己紹介 アイスブレイキング)	1年時の関連科目の復習(90分)	自己の言動の振り返り(90分)
3	自己理解1「自己概念を学ぶ」	テキストの読み込み(90分)	自己の言動の振り返り(90分)
4	自己理解2「自身のルーツ 家族関係を知る」	テキストの読み込み(90分)	自己の言動の振り返り(90分)
5	自己開示と他者理解1「自己開示」	テキストの読み込み(90分)	自己の言動の振り返り(90分)
6	自己開示と他者理解2「共感について」	テキストの読み込み(90分)	自己の言動の振り返り(90分)
7	自己開示と他者理解3「価値観の違い」	テキストの読み込み(90分)	自己の言動の振り返り(90分)
8	コミュニケーション1「コミュニケーションの基本」	テキストの読み込み(90分)	自己の言動の振り返り(90分)
9	コミュニケーション2「言語的コミュニケーション」	テキストの読み込み(90分)	自己の言動の振り返り(90分)
10	コミュニケーション3「非言語的コミュニケーション」	テキストの読み込み(90分)	自己の言動の振り返り(90分)
11	ソーシャルワークの価値と倫理1「価値とは何か」	テキストの読み込み(90分)	自己の言動の振り返り(90分)
12	ソーシャルワークの価値と倫理2「倫理とは何か」	テキストの読み込み(90分)	自己の言動の振り返り(90分)
13	面接技法1「面接の意義」	テキストの読み込み(90分)	DVD鑑賞による面接技法ポイントのまとめ(90分)
14	面接技法2「面接の基本」	テキストの読み込み(90分)	DVD鑑賞による面接技法ポイントのまとめ(90分)
15	記録技法1「面接場面での記録」	テキストの読み込み(90分)	記録技法のまとめ(90分)
16	記録技法2「ケース記録」	テキストの読み込み(90分)	記録技法のまとめ(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17	アセスメント1「アセスメントの意義」	テキストの読み込み(90分)	アセスメントのまとめ(90分)
18	アセスメント2「利用者の背景を知る」	テキストの読み込み(90分)	アセスメントのまとめ(90分)
19	アセスメント3「事例によるロールプレイ」	テキストの読み込み(90分)	ロールプレイ中の自己の言動の振り返り(90分)
20	プランニング「アセスメントからの支援計画作成」	テキストの読み込み(90分)	ロールプレイ中の自己の言動の振り返り(90分)
21	ケースカンファレンスの方法	テキストの読み込み(90分)	ケースカンファレンスのポイントのまとめ(90分)
22	模擬ケースカンファレンス	テキストの読み込み(90分)	ケースカンファレンスのポイントのまとめ(90分)
23	評価と効果測定1「利用者の満足度」	テキストの読み込み(90分)	効果測定技法のまとめ(90分)
24	評価と効果測定2「支援内容の評価」	テキストの読み込み(90分)	効果測定技法のまとめ(90分)
25	コミュニティワーク1「地域ニーズの把握」	テキストの読み込み(90分)	地域診断のまとめ(90分)
26	コミュニティワーク2「北広島市の福祉課題明確化」	テキストの読み込み(90分)	地域診断のまとめ(90分)
27	コミュニティワーク3「課題解決への方法」	テキストの読み込み(90分)	地域支援方法のまとめ(90分)
28	コミュニティワーク4「広報誌の作成」	テキストの読み込み(90分)	地域支援方法のまとめ(90分)
29	支援事例を用いたロールプレイング1	テキストの読み込み(90分)	演習を通しての自己覚知について文章化(90分)
30	支援事例を用いたロールプレイング2	テキストの読み込み(90分)	演習を通しての自己覚知について文章化(90分)
31	事例研究へのイントロダクション	テキストの読み込み(90分)	自己総括(90分)
32	相談援助演習 総括	テキストの読み込み(90分)	自己総括(90分)

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・2年		
開講時期	3Q	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	相談援助演習 (科目ナンバリング：SWS122029)				
授業担当者(所属・職名)	小早川 俊哉(社会福祉学科・教授)・ 上原 正希(社会福祉学科・教授)・大	研究室所在	1号館2階		
単位数	2 (単位認定責任者：小早川 俊哉)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	SW, CWとしての経験を有する教員が担当し、実践事例を参照しながら講義を進める。		

概要

履修目標
高齢、障がい、地域・行政、児童といった社会福祉各領域の事例を検証することによって、クライアントの主訴の読み取り、ニーズに合致した支援方法を考察することにより、ソーシャルワーク実践を考察する視点を養う。あわせてロールプレイングを通して面接技法における要点を理解する。

授業の位置づけ
社会福祉学科のDP「1(1)と(2)と(3)」、「2(2)」に対応する。

到達目標
事例を検討することから真のニーズを把握する洞察力を養い、ロールプレイングを通して面接技法を習得する。また、次年度以降の現場実習に向けて、積極的な討議参加や自己表現ができる。

授業全体の内容と概要
事例検討を中心に、相談援助演習 で学んだことを、グループワーク、ロールプレイング等を通して、実践に近い形で学び、体得する。

授業の方法
3-4グループに分かれ(1グループ20名以内)事例検討、ロールプレイング、事例検討の結果発表を行う。教員のアドバイスの講義を含めつつ、学生自身が積極的に学び取るアクティブラーニング演習を行う。

アクティブラーニングの実施方法							
	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL
	模擬授業		ロールプレイング		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項
この科目の単位が取得できない場合、次年度の相談援助実習及び相談援助実習指導 は履修できないので注意すること。

資格指定科目
社会福祉士国家試験受験資格課程, 精神保健福祉士国家試験受験資格課程, 子育て支援ソーシャルワーカー資格課程, スクール(学校)ソーシャルワーカー資格課程

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な出席回数20回以上をクリアすること					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	30%	0%	0%	0%	70%

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
ソーシャルワーク実践事例の理解。	ソーシャルワーク実践事例を読み込み、グループディスカッションに積極的に参加し、付随した課題に明確な回答を与え、且つ、その理由を説明できた。	ソーシャルワーク実践事例を読み込み、グループディスカッションに積極的に参加できた。	ソーシャルワーク実践事例の読み込みが確であった。	グループディスカッションに積極的に参加できた。	ディスカッションへの参加も消極的で、事例に付随した課題にも回答できなかった。
ロールプレイングへの積極的参加	ロールプレイングの場面の作成を積極的に行い、且つCL、SW各々の役割をこなし、OSCE項目の平均4点以上をキープできた。(5段階評価)	ロールプレイングの場面の作成を積極的に行い、且つCL、SW各々の役割をこなし、OSCE項目の平均3点以上をキープできた。(5段階評価)	ロールプレイングの場面の作成を積極的に行い、且つCL、SW各々の役割をこなし、OSCE項目の平均3点以上をキープできた。	ロールプレイングに積極的に参加しできた。	ロールプレイングへの積極的参加ができなかった。
チームワーク、リーダーシップ、スーパービジョン、ソーシャルワークの視点、といった応用課題を理解する	チームワーク、リーダーシップ、スーパービジョン、ソーシャルワークの視点等々について明確な言語で説明できた。	チームワーク、スーパービジョン、ソーシャルワークの視点等々について明確な言語で説明できた。	チームワーク、ソーシャルワークの視点について明確な言語で説明できた。	ソーシャルワークの視点について明確な言語で説明できた。	左記の言語全てを説明できなかった。

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『「ソーシャルワーク演習ワークブック」』	相澤謙治 植戸貴子	(株)みらい	2013年	978-4-86015-123-2	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・2年		
開講時期	3Q	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	相談援助演習 (科目ナンバリング: SWS122029)				
授業担当者(所属・職名)	小早川 俊哉(社会福祉学科・教授)・ 上原 正希(社会福祉学科・教授)・大	研究室所在	1号館2階		
単位数	2 (単位認定責任者: 小早川 俊哉)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	SW, CWとしての経験を有する教員が担当し、実践事例を参照しながら講義を進める。		

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	シラバスの説明	前期科目の復習(45分)	テキストの読み込み(45分)
2	ソーシャルワークプロセスの再確認	前期科目の復習(45分)	テキストの読み込み(45分)
3	事例研究1「倫理と組織：ニーズの把握とグループ討議」	テキストの読み込み(45分)	事例検討結果の検証(45分)
4	事例研究1「倫理と組織：問題解決へのプランニング」	テキストの読み込み(45分)	事例検討結果の検証(45分)
5	事例研究2「高齢者介護：ニーズの把握とグループ討議」	テキストの読み込み(45分)	事例検討結果の検証(45分)
6	事例研究2「高齢者介護：問題解決へのプランニング」	テキストの読み込み(45分)	事例検討結果の検証(45分)
7	事例研究3「知的障がい者：ニーズの把握とグループ討議」	テキストの読み込み(45分)	事例検討結果の検証(45分)
8	事例研究3「知的障がい者：問題解決へのプランニング」	テキストの読み込み(45分)	事例検討結果の検証(45分)
9	事例研究4「児童虐待：ニーズの把握とグループ討議」	テキストの読み込み(45分)	事例検討結果の検証(45分)
10	事例研究4「児童虐待：問題解決へのプランニング」	テキストの読み込み(45分)	事例検討結果の検証(45分)
11	事例研究5「DV：ニーズの把握とグループ討議」	テキストの読み込み(45分)	事例検討結果の検証(45分)
12	事例研究5「DV：問題解決へのプランニング」	テキストの読み込み(45分)	事例検討結果の検証(45分)
13	事例研究6「ストレンクス：ニーズの把握とグループ討議」	テキストの読み込み(45分)	事例検討結果の検証(45分)
14	事例研究6「ストレンクス：問題解決へのプランニング」	テキストの読み込み(45分)	事例検討結果の検証(45分)
15	事例研究7「障がい児：ニーズの把握とグループ討議」	テキストの読み込み(45分)	事例検討結果の検証(45分)
16	事例研究7「障がい児：問題解決へのプランニング」	テキストの読み込み(90分)	事例検討結果の検証(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17	事例研究8「生活保護：ニーズの把握とグループ討議」	テキストの読み込み(45分)	事例検討結果の検証(45分)
18	事例研究8「生活保護：問題解決へのプランニング」	テキストの読み込み(45分)	事例検討結果の検証(45分)
19	事例研究9「生活保護：ニーズの把握とグループ討議」	テキストの読み込み(45分)	事例検討結果の検証(45分)
20	事例研究9「生活保護：問題解決へのプランニング」	テキストの読み込み(45分)	事例検討結果の検証(45分)
21	事例研究10「権利擁護：ニーズの把握とグループ討議」	テキストの読み込み(45分)	事例検討結果の検証(45分)
22	事例研究10「権利擁護：問題解決へのプランニング」	テキストの読み込み(45分)	事例検討結果の検証(45分)
23	事例研究11「地域：ニーズの把握とグループ討議」	テキストの読み込み(45分)	事例検討結果の検証(45分)
24	事例研究11「地域：問題解決へのプランニング」	テキストの読み込み(45分)	事例検討結果の検証(45分)
25	応用演習(チームワーク)	テキストの読み込み(45分)	講義中の自己の振り返り(45分)
26	応用演習(リーダーシップ)	テキストの読み込み(45分)	講義中の自己の振り返り(45分)
27	応用演習(スーパービジョン)	テキストの読み込み(45分)	講義中の自己の振り返り(45分)
28	応用演習(ソーシャルワークの視点)	テキストの読み込み(90分)	講義中の自己の振り返り(90分)
29	各学生の気づき(グループ討議)	テキストの読み込み(45分)	講義中の自己の振り返り(45分)
30	振り返りと相談援助実習に向けて	テキストの読み込み(45分)	講義中の自己の振り返り(45分)
31	実習事例検討(利用者理解とコミュニケーション)	テキストの読み込み(45分)	全体を通しての振り返り(45分)
32	実習事例検討(アセスメントと生活場面面接)	テキストの読み込み(45分)	全体を通しての振り返り(45分)

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・2年		
開講時期	1Q	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	相談援助実習指導 (科目ナンバリング: SWS122031)				
授業担当者(所属・職名)	小早川 俊哉(社会福祉学科・教授)・上原 正希(社会福祉学科・教授)・杉	研究室所在	1号館2階		
単位数	2 (単位認定責任者: 小早川 俊哉)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	ソーシャルワーク、ケースワークの実務経験者が現場における実践事例を例示して講義を展開する。		

概要

履修目標

ソーシャルワークの各領域(高齢、障がい、児童、地域・行政)における職場・職種・ソーシャルワーク技法、及び利用者像を理解する。

授業の位置づけ

社会福祉学科のDP「1(2)と(3)と(4)と(5)と(6)と(7)」、「2(2)」に対応する。

到達目標

ソーシャルワーク各領域における施設・機関・制度・利用者理解・実践課題を理解するとともに、ソーシャルワーク実践に対するイメージを具体化し、相談援助実習の意義とその目的を認識できる。

授業全体の内容と概要

- ・相談援助実習各領域担当教員による講義
- ・ソーシャルワークの基礎理論を対象とした講義

授業の方法

1. 開講当初は、1名の教員によるソーシャルワークの基礎理論(クライアント中心理論アプローチ)の講義を行ったのち、相談援助実習各領域(高齢、障がい、児童、地域・行政)の担当教員が講義形式で3週連続で講義を行う。
2. 各講義は板書と配布プリントが中心となるが、教員によってはパワーポイントを使用し、個々の領域の実践事例の説明をする。
3. 年間を通じてボランティアレポート(4,000字以上)を課題として提出する義務を課す。
4. COVID-19の状況により、対面授業およびオンライン授業の併用やどちらかに変更になる場合もあります。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習	○	反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業	○	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

主体的・積極的な参加を心掛けること。

資格指定科目

社会福祉士国家試験受験資格課程, 精神保健福祉士国家試験受験資格課程, 保育士養成課程, スクール(学校)ソーシャルワーカー資格課程, 子育て支援ソーシャルワーカー資格課程

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数は、10回以上。

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
70%	0%	0%	0%	0%	30%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
ソーシャルワーク各領域における職場理解ができてい	高齢、障がい、児童、地域・行政の各職場について、その具体的な業務と課題、公的法制度と利用者について具体的に説明できた。	高齢、障がい、児童、地域・行政の各職場について、その特徴と違いを具体的に説明できた。	高齢、障がい、児童、地域・行政の各領域の職場理解について、具体的に説明できた。	高齢、障がい、児童、地域・行政の職場について具体的に説明できた。	左記の内容を一つも説明できなかった。
ソーシャルワーク各領域における職種理解ができてい	高齢、障がい、児童、地域・行政の各領域の職種について、その具体的な業務と課題、公的法制度と利用者について具体的に説明できた。	高齢、障がい、児童、地域・行政の各領域における職種の違いについて、その特徴と違いを具体的に説明できた。	高齢、障がい、児童、地域・行政の各領域における職種について具体的に説明できた。	高齢、障がい、児童、地域・行政の各領域における職種について説明できた。	左記の内容を一つも説明できなかった。
ソーシャルワーク各領域におけるソーシャルワーク実践についての理解ができてい	高齢、障がい、児童、地域・行政の各領域におけるソーシャルワーク実践について、その具体的な方法と課題、公的法制度と利用者との立について具体的に説明できた。	高齢、障がい、児童、地域・行政の各領域におけるソーシャルワーク実践について、その特徴と違いを具体的に説明でき、且つ根拠となる法制度について説明できた。	高齢、障がい、児童、地域・行政の各領域におけるソーシャルワーク実践の特徴と違いを具体的に説明できた。	高齢、障がい、児童、地域・行政の各領域におけるソーシャルワーク実践について説明できた。	左記の内容を一つも説明できなかった。

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	*別途指示します。a					
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	*別途指示します。a					
2						
3						
4						
5						

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・2年		
開講時期	1Q	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	相談援助実習指導 (科目ナンバリング: SWS122031)				
授業担当者(所属・職名)	小早川 俊哉(社会福祉学科・教授)・ 上原 正希(社会福祉学科・教授)・杉	研究室所在	1号館2階		
単位数	2 (単位認定責任者: 小早川 俊哉)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容をソーシャルワーク、ケースワークの実務経験者が現場における実践事例を例示して講義を展開する。			

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	シラバスの説明	1年時科目の復習(90分)	今後のスケジュールにおける学習計画の作成(90分)
2	ソーシャルワーク理論講義(クライアント中心理論アプローチ)	1年時科目の復習(90分)	配布プリントの熟読(90分)
3	高齢者領域「高齢者施設におけるソーシャルワーカーの役割と特性」	前回プリントの読み込み(90分)	配布プリントの熟読(90分)
4	高齢者領域「高齢者施設における利用者の特性と具体的支援方法」	前回プリントの読み込み(90分)	配布プリントの熟読(90分)
5	高齢者領域「高齢者施設における多職種と連携した支援」	前回プリントの読み込み(90分)	高齢者領域講義のまとめ(90分)
6	障がい領域「障がい者設けるソーシャルワーカーの役割と特性」	前回プリントの読み込み(90分)	配布プリントの熟読(90分)
7	障がい領域「障がい者設ける利用者の特性と具体的支援方法」	前回プリントの読み込み(90分)	配布プリントの熟読(90分)
8	障がい領域「障害者施設における多職種と連携した支援」	前回プリントの読み込み(90分)	障がい領域講義のまとめ(90分)
9	児童領域「児童養護施設におけるソーシャルワーカーの役割と特性」	前回プリントの読み込み(90分)	布プリントの熟読(90分)
10	児童領域「児童養護施設における利用者の特性と具体的支援方法」	前回プリントの読み込み(90分)	布プリントの熟読(90分)
11	児童領域「児童養護施設における多職種と連携した支援」	前回プリントの読み込み(90分)	児童領域講義のまとめ(90分)
12	地域・行政領域「地域包括支援センターにおけるソーシャルワーカーの役割と特性」	前回プリントの読み込み(90分)	配布プリントの熟読(90分)
13	地域・行政領域「地域包括支援センターにおけるソーシャルワーカーの役割と特性」	前回プリントの読み込み(90分)	配布プリントの熟読(90分)
14	地域・行政領域「地域包括支援センターにおける多職種と連携した支援」	前回プリントの読み込み(90分)	地域・行政領域講義のまとめ(90分)
15	総括	全領域講義を網羅した質問事項の作成(90分)	全体を通しての総復習(90分)
16	定期試験(60分試験終了後30分解説をする)	全体を通しての総復習(90分)	自己総括(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・2年		
開講時期	3Q	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	相談援助実習指導 (科目ナンバリング: SWS122032)				
授業担当者(所属・職名)	小早川 俊哉(社会福祉学科・教授)・上原 正希(社会福祉学科・教授)・杉	研究室所在	1号館2階		
単位数	2 (単位認定責任者: 小早川 俊哉)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	社会福祉現場における実践経験のあるソーシャルワーカーが、その経験を活かして、実践現場における今日的課題と、それと向き合い、解決する方法を講義する。		

概要

履修目標
 ソーシャルワーク各領域の外部講師の講義を聴講し、実践現場の職場・職種・ソーシャルワーク技法についての具体的方法を学び、次年度の実践現場における実習指導に備えて、実習領域を絞り込み、その領域の実践内容をイメージする。

授業の位置づけ
 社会福祉学科のDP「1(2)と(3)と(4)と(5)と(6)と(7)」、「2(2)」に対応する。

到達目標
 次年度の相談援助実習に向けて希望実習領域を明確にし、その領域の施設・機関・制度・利用者・地域社会・関連職種について理解する。併せて相談援助実習の意義と実習での学習目標を明確にする。

授業全体の内容と概要
 1. 相談援助実習各領域担当教員のグループ(20人以下)に分かれて少人数講義
 2. 外部講師を招いての現場実践講義
 3. 相談援助実習を終えた学生による実習体験報告会
 以上3点から講義を構成する。

授業の方法
 各領域担当教員から説明がある。質問等は各担当教員が随時対応し、フィードバックする。

アクティブラーニングの実施方法

プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL
模擬授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業
ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項
 1. 外部講師の功を中心に、高齢、障がい、児童、地域・行政の各領域のグループに分かれて講義を行う。
 2. 外部講師の講義はパワーポイントを使った実践現場の事例紹介が主であり、領域に分かれた講義ではグループディスカッションが中心となる。
 3. 年間を通してボランティアレポート(4,000字以上)の提出を課題とする。
 4. COVID-19の状況により、対面授業およびオンライン授業の併用やどちらかに変更になる場合もあります。

資格指定科目
 社会福祉士国家試験受験資格課程, 精神保健福祉士国家試験受験資格課程, スクール(学校)ソーシャルワーカー資格課程, 子育て支援ソーシャルワーカー資格課程

評価方法・基準

評価前提条件
 単位認定の最低出席回数10回をクリアすること。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
70%	10%	0%	0%	0%	20%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあたるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
外部講師の講義を聴講し、実践現場の課題、利用者像、具体的なソーシャルワーク技法を理解する。	外部講師の講義内容に出てくる実践現場の課題、利用者、SW技法について具体的に説明でき、それを地域社会との課題と結び付け説明でき、さらに、社会福祉制度の課題としてマクロに説明でき、且つ、次年度の実習現場の希望領域の実習課題として昇華できた。	外部講師の講義内容に出てくる実践現場の課題、利用者、SW技法について具体的に説明でき、それを地域社会との課題と結び付け説明でき、さらに、社会福祉制度の課題としてマクロに説明できた。	外部講師の講義内容に出てくる実践現場の課題、利用者、SW技法について具体的に説明でき、それを地域社会との課題と結び付け説明できた。	外部講師の講義内容に出てくる実践現場の課題、利用者、SW技法について説明できた。	左記の内容が何一つできていなかった。
次年度の実習領域を絞り込み、その領域の実習課題を明確にする。	次年度の実習領域を明確にし、実習に必要な知識(法的制度、利用者像、具体的SW技法)について説明でき、且つ、自分の実習課題を明確化し、これまで学んだ各領域の共通項を抽出でき、実習課題に昇華していた。	次年度の実習領域を明確にし、実習に必要な知識(法的制度、利用者像、具体的SW技法)について説明でき、且つ、自分の実習課題を明確化していた。	次年度の実習領域を明確にし、実習に必要な知識(法的制度、利用者像、具体的SW技法)について説明でき、且つ、自分の実習課題を明確化し、実習領域の職場・職種・ソーシャルワークについて説明できた。	次年度の実習領域を明確にし、実習に臨む目的と課題を具体的に説明できた。	左記の内容が何一つできていなかった。
ジェネリックソーシャルワークの概念を理解し、本講義の内容から、その具体的要因を抽出できる。	ジェネリックソーシャルワークの概念を説明でき、自分が選択した講義領域と、外部講師の講義から、その内容を抽出でき、且つ、次年度の実習課題として昇華していた。	ジェネリックソーシャルワークの概念を説明でき、自分が選択した講義領域と外部講師の講義内容からその要因を抽出できた。	ジェネリックソーシャルワークの概念を説明でき、自分が選択した講義領域の中からその要因を抽出できた。	ジェネリックソーシャルワークの概念を説明できた。	左記の内容が何一つできていなかった。

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	*別途指示します。a					
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	*別途指示します。a					
2						
3						
4						
5						

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・2年		
開講時期	3Q	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	相談援助実習指導 (科目ナンバリング: SWS122032)				
授業担当者(所属・職名)	小早川 俊哉(社会福祉学科・教授)・ 上原 正希(社会福祉学科・教授)・杉	研究室所在	1号館2階		
単位数	2 (単位認定責任者: 小早川 俊哉)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	社会福祉現場における実践経験のあるソーシャルワーカーが、その経験を活かして、実践現場における今日的課題と、それと向き合い、解決する方法を講義する。		

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	オリエンテーション及びグループ分け シラバスの説明	前期科目の復習(90分)	希望グループの決定(90分)
2	外部講師実践講義 「児童養護施設におけるソーシャルワーク実践」	児童養護施設についての復習(90分)	配布プリントの熟読(90分)
3	外部講師実践講義 「高齢者施設におけるソーシャルワーク実践」	高齢者施設についての復習(90分)	配布プリントの熟読(90分)
4	グループ講義第1クール 「障害・高齢者・児童・地域行政機関における各機関の特色」	選択領域グループの学習(90分)	配布プリントの熟読(90分)
5	グループ講義第1クール 「障害・高齢者・児童・地域行政分野における利用者の具体的なニーズと支援」	前回プリントの読み込み(90分)	配布プリントの熟読(90分)
6	グループ講義第1クール 「障害・高齢者・児童・地域行政分野におけるソーシャルワークの展開」	前回プリントの読み込み(90分)	配布プリントの熟読(90分)
7	グループ講義第1クール 「障害・高齢者・児童・地域行政分野における多職種機関との連携」	前回プリントの読み込み(90分)	配布プリントの熟読(90分)
8	実習体験報告会	希望領域報告者に対する質問事項の決定(90分)	実習希望領域の決定(90分)
9	グループ講義第2クール 「障害・高齢者・児童・地域行政分野における各機関の特色」	選択グループの学習(90分)	配布プリントの熟読(90分)
10	グループ講義第2クール 「障害・高齢者・児童・地域行政分野における利用者の具体的なニーズと支援」	前回プリントの読み込み(90分)	配布プリントの熟読(90分)
11	グループ講義第2クール 「障害・高齢者・児童・地域行政分野におけるソーシャルワークの展開」	前回プリントの読み込み(90分)	配布プリントの熟読(90分)
12	グループ講義第2クール 「障害・高齢者・児童・地域行政分野における多職種機関との連携」	前回プリントの読み込み(90分)	配布プリントの熟読(90分)
13	実習希望領域に絞ったグループ学習	希望領域に関する自主学習(90分)	配布プリントの熟読(90分)
14	実習希望領域に絞ったグループ学習	希望領域に関する自主学習(90分)	配布プリントの熟読(90分)
15	実習希望領域に絞ったグループ学習	希望領域に関する自主学習(90分)	配布プリントの熟読(90分)
16	定期試験(60分試験終了後30分解説をする)	全体を通しての総復習(90分)	自己総括(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・2年		
開講時期	3Q	授業形態	実験	必修・選択	選択
科目名称	心理学基礎実験 (科目ナンバリング: EXP123065)				
授業担当者(所属・職名)	吉澤 英里 (社会福祉学科・准教授)	研究室所在	1号館3階		
単位数	2 (単位認定責任者: 吉澤 英里)	CAP制	×		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	認定心理士として心理学実験の研究経験を持つ教員による指導の下、心理学実験に関わる実習を行う。		

概要

履修目標
<p>学生が基礎的な実験や調査、検査などを実際に体験することで、心理学を研究する科学的な方法・技術を習得する。さらに、実験などから得られた結果や考察を、適切な書式や引用による科学的報告書としてレポートにまとめるための知識・技術を学ぶ。</p>

授業の位置づけ

「社会福祉学科」のDP「1(3と6)」、「2(2)」に対応する。

到達目標

心理学実験の演習・レポート作成を通して、研究レポートの書き方、文献の検索・引用方法といったアカデミックスキルを発揮する。心理学の知識について、先行研究と心理学実験の両方から理解し、説明する。小集団の実験演習に積極的に参加することを通して、協働的態度を発揮する。

授業全体の内容と概要

心理学実験を体験しながら各実験に関連する心理学概念について理解するとともに、問題、目的、方法、結果、考察といった構成の研究レポートの書き方、文献の引用方法等を身につける。質問には随時対応する。なお、この科目は日本心理学会認定心理士申請(2019年度以前の入学者)に必須の科目であり、卒業論文に直接つながる位置づけの科目ではない。

授業の方法

板書および配布資料により、実験の目的および実施手順を説明した後、小グループに分かれて実験等を実施し、データを収集する。必ず全員が実験者および参加者の両方を体験することで、学習の理解を深める。さらに、収集したデータを自ら分析し、まとめ、レポートを作成する。また、質問には随時対応する。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		PBL
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

- ・教科書を熟読すること。提出期限は厳守すること。
- ・授業前半は実験の概要や手続きの説明を行うことが多いため、遅刻しないこと。

資格指定科目

認定心理士資格課程(2019年度以前入学者のみ)

評価方法・基準

評価前提条件					
<p>・単位認定に必要な最低出席回数は26回以上。すべての実験への参加し、レポートを提出することが必要。かつレポートでは適切な引用が行われ、剽窃を行っていないこと。剽窃がある場合は不可。 ・総合的評価 = 「レポート作成」+ 「その他」(授業内外での質問や発言などの積極的な取り組み、自ら調べたり、質問したり、意見を述べるという自学自習の程度など)。</p>					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	90%	0%	0%	0%	10%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
アカデミック・スキル	問題、方法、結果、考察、引用文献は全てそろっており、書式や記述内容を優れて満たすことができた。	問題、方法、結果、考察、引用文献は全てそろっており、書式や記述内容を十分に満たすことができた。	問題、方法、結果、考察、引用文献は全てそろっており、書式や記述内容を満たすことができた。	問題、方法、結果、考察、引用文献は全てそろっており、最低限の書式や記述内容を満たすことができた。	レポートの本文中に剽窃が認められた。または、問題、方法、結果、考察、引用文献のいずれかが書けなかった。
心理学の知識	問題、方法、結果、考察、引用文献が揃っており、求められる内容を十分に満たしたうえで、関連事項に言及できた。	問題、方法、結果、考察、引用文献が揃っており、求められる内容を十分に網羅できた。	問題、方法、結果、考察、引用文献が揃っており、求められる内容を標準的に網羅できた。	問題、方法、結果、考察、引用文献が揃っており、求められる内容を最低限、網羅できた。	レポートの本文中に剽窃がある。または、問題、方法、結果、考察、引用文献のいずれかが書けなかった。
授業参加・態度	授業内に加え、授業外でも自ら調べたり、質問したりする行動が著しくできた。	授業内に加え、授業外でも自ら調べたり、質問したりする行動ができた。	授業内で実験に参加したり質問したりすることが標準的にできた。	授業内で実験に参加したり質問したりすることが最低限できた。	最低出席回数に達しているものの、授業に参加できなかった。

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『よくわかる心理学実験実習』	村上香奈・山崎浩一	ミネルヴァ書房	2018	978-4-623-	心理学基礎実験と同じ教科書を使用
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『心理学のためのデータ解析テクニカルブック』	森敏明・吉田寿夫	北大路書房	1990	978-4-7628-	
2						
3						
4						
5						

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・2年		
開講時期	3Q	授業形態	実験	必修・選択	選択
科目名称	心理学基礎実験 (科目ナンバリング: EXP123065)				
授業担当者(所属・職名)	吉澤 英里 (社会福祉学科・准教授)	研究室所在	1号館3階		
単位数	2 (単位認定責任者: 吉澤 英里)	CAP制	x		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容 認定心理士として心理学実験の研究経験を持つ教員による指導の下、心理学実験に関する実習を行う。			

授業計画

各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間			
回	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	オリエンテーション1(シラバスの説明, 授業の内容の説明)	教科書の熟読(45分)	今回の内容について復習する(45分)
2	オリエンテーション1(心理学の論文の構成, それぞれの内容について)	教科書の熟読(45分)	今回の内容について復習する(45分)
3	実験 知覚の実験1(実験の説明および準備)	教科書や参考資料を熟読する。(45分)	今回の内容について復習する(45分)
4	実験 知覚の実験2(実験の実施およびデータ入力)	教科書や参考資料を熟読する。(45分)	今回の内容について復習する(45分)
5	実験 知覚の実験3(データ分析, 心理学統計演習)	教科書や参考資料を熟読する。(45分)	今回の内容について復習する(45分)
6	実験 知覚の実験4(レポートの書き方: 文献検索, 問題, 方法)	教科書や参考資料を熟読する。(45分)	今回の内容について復習する(45分)
7	実験 知覚の実験5(レポートの書き方: 結果のまとめ)	教科書や参考資料を熟読する。(45分)	今回の内容について復習する(45分)
8	実験 知覚の実験6(レポートの書き方: 考察)	教科書や参考資料を熟読する。(45分)	今回の内容について復習する(45分)
9	実験 知覚の実験7(レポートの書き方: 考察, 引用文献)	教科書や参考資料を熟読する。(45分)	今回の内容について復習する(45分)
10	実験 知覚の実験8(最終確認)	教科書や参考資料を熟読する。(45分)	レポート作成と次回の実験概要の把握(45分)レポート提出締め切り16回の授業
11	実験 記憶の実験1(実験の説明および準備)	教科書や参考資料を熟読する。(45分)	今回の内容について復習する(45分)
12	実験 記憶の実験2(実験の実施およびデータ入力)	教科書や参考資料を熟読する。(45分)	今回の内容について復習する(45分)
13	実験 記憶の実験3(データ分析, 心理学統計演習)	教科書や参考資料を熟読する。(45分)	今回の内容について復習する(45分)
14	実験 記憶の実験4(レポートの書き方: 文献検索, 問題, 方法)	教科書や参考資料を熟読する。(45分)	今回の内容について復習する(45分)
15	実験 記憶の実験5(レポートの書き方: 結果のまとめ, 考察, 引用文献)	教科書や参考資料を熟読する。(45分)	今回の内容について復習する(45分)
16	実験 記憶の実験6(最終確認)	教科書や参考資料を熟読する。(45分)	レポート作成と次回の実験概要の把握(45分)レポート提出締め切り22回の授業

各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間			
回	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17	実験 社会・集団の実験1(実験の説明および準備)	教科書や参考資料を熟読する。(45分)	今回の内容について復習する(45分)
18	実験 社会・集団の実験2(実験の実施およびデータ入力)	教科書や参考資料を熟読する。(45分)	今回の内容について復習する(45分)
19	実験 社会・集団の実験3(データ分析, 心理学統計演習)	教科書や参考資料を熟読する。(45分)	今回の内容について復習する(45分)
20	実験 社会・集団の実験4(レポートの書き方: 文献検索, 問題, 方法)	教科書や参考資料を熟読する。(45分)	今回の内容について復習する(45分)
21	実験 社会・集団の実験5(レポートの書き方: 結果のまとめ, 考察, 引用文献)	教科書や参考資料を熟読する。(45分)	今回の内容について復習する(45分)
22	実験 社会・集団の実験6(最終確認)	教科書や参考資料を熟読する。(45分)	レポート作成と次回の実験概要の把握(45分)レポート提出締め切りは28回の授業
23	実験 印象形成の実験1(実験の説明および準備)	教科書や参考資料を熟読する。(45分)	今回の内容について復習する(45分)
24	実験 印象形成の実験2(実験の実施およびデータ入力)	教科書や参考資料を熟読する。(45分)	今回の内容について復習する(45分)
25	実験 印象形成の実験3(データ分析, 心理学統計演習)	教科書や参考資料を熟読する。(45分)	今回の内容について復習する(45分)
26	実験 印象形成の実験4(レポートの書き方: 文献検索, 問題, 方法)	教科書や参考資料を熟読する。(45分)	今回の内容について復習する(45分)
27	実験 印象形成の実験5(レポートの書き方: 結果のまとめ, 考察, 引用文献)	教科書や参考資料を熟読する。(45分)	今回の内容について復習する(45分)
28	実験 印象形成の実験6(最終確認)	教科書や参考資料を熟読する。(45分)	レポート作成と次回の実験概要の把握(45分)。レポート提出締め切りは28週間後。
29	予備 これまでの実験の補足説明あるいはその他の心理学領域の実験体験等	これまでの実験内容を振り返り, 留意点を確認する。(45分)	今回の内容について復習する(45分)
30	予備 これまでの実験の補足説明あるいはその他の心理学領域の実験体験とレポート執筆等	これまでの実験内容を振り返り, 留意点を確認する。(45分)	レポート作成の再確認(45分)
31	レポート返却と講評	これまでの成果を振り返り, 疑問点を纏める(45分)	これまでの成果と課題と振り返る(45分)
32	これまでの振り返り	これまでの成果を振り返り, 疑問点を纏める(45分)	これまでの成果と課題と振り返る(45分)

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・3年		
開講時期	1Q	授業形態	実験	必修・選択	選択
科目名称	心理学基礎実験 (科目ナンバリング: EXP123066)				
授業担当者(所属・職名)	吉澤 英里 (社会福祉学科・准教授)	研究室所在	1号館3階		
単位数	2 (単位認定責任者: 吉澤 英里)	CAP制	x		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	認定心理士として心理学実験の研究経験の経験を持つ教員による指導の下、心理学実験に関わる実習を行う。		

概要

履修目標
学生が体験する実験や調査などの研究対象を拡張し、心理学基礎実験で身につけた科学的な心理学の研究手法・技術と、科学的報告書としてレポートにまとめるための知識・技術を深める。

授業の位置づけ
社会福祉学科のDP「1(3)と(6)」、「2(2)」に対応する。

到達目標
心理学実験の演習・レポート作成を通して、研究レポートの書き方、文献の検索・引用方法といったアカデミックスキルを発揮する。 心理学の知識について、先行研究と心理学実験の両方から理解し、説明する。 小集団の実験演習に積極的に参加することを通して、協働的態度を発揮する。

授業全体の内容と概要
心理学実験を体験しながら各実験に関連する心理学概念について理解するとともに、問題、目的、方法、結果、考察といった構成の研究レポートの書き方、文献の引用方法を身につける。質問には随時対応する。なお、この科目は日本心理学会認定心理士申請に必須の科目であり、卒業論文に直接つながる位置づけの科目ではない。

授業の方法
板書および配布資料により、実験の目的および実施手順を説明した後、小グループに分かれて実験等を実施し、データを収集する。必ず全員が実験者および参加者の両方を経験することで、学習の理解を深める。さらに、収集したデータを自ら分析し、まとめ、レポートを作成する。また、質問には随時対応し、レポートにはコメントをしてフィードバックをする。

アクティブラーニングの実施方法																					
<table border="1"> <tr> <td>プレゼンテーション</td> <td>○</td> <td>グループワーク</td> <td></td> <td>フィールドワーク</td> <td></td> <td>PBL</td> </tr> <tr> <td>模擬授業</td> <td></td> <td>ロールプレイ</td> <td></td> <td>調査学習</td> <td></td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td>ディスカッション</td> <td>○</td> <td>実験・実習・実技</td> <td></td> <td>双方向授業</td> <td></td> <td>その他(授業の方法参照)</td> </tr> </table>	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		PBL	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)
プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		PBL															
模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業															
ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)															

履修上の注意事項
<ul style="list-style-type: none"> 受講の条件: 「心理学研究法」と「心理学基礎実験」を必ず修得していること。統計学関連科目も受講していることが望ましい。 教科書を熟読すること。提出期限は厳守すること。 授業前半は実験の概要や手続きの説明を行うことが多いため、遅刻しないこと。

資格指定科目
認定心理士資格課程

評価方法・基準

評価前提条件												
すべての実験への参加し、レポートを提出することが必要。かつレポートでは適切な引用が行われ、剽窃を行っていないこと。剽窃がある場合は不可。 総合的評価 = 「レポート作成」 + 「その他」(授業内外での質問や発言などの積極的な取り組み、自ら調べたり、質問したり、意見を述べるという自学自習の程度など)。												
評価方法												
<table border="1"> <tr> <th>定期試験</th> <th>レポート</th> <th>課題・作品</th> <th>中間テスト</th> <th>平常点</th> <th>その他</th> </tr> <tr> <td>0%</td> <td>90%</td> <td>0%</td> <td>0%</td> <td>0%</td> <td>10%</td> </tr> </table>	定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他	0%	90%	0%	0%	0%	10%
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他							
0%	90%	0%	0%	0%	10%							

ルーブリック																													
<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">評価項目</th> <th colspan="5">評価基準</th> </tr> <tr> <th>履修項目を超えたレベルを達成している</th> <th>履修項目をほぼ達成している</th> <th>履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している</th> <th>到達目標を達成している</th> <th>到達目標を達成していない</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>アカデミック・スキル</td> <td>問題、方法、結果、考察、引用文献を全てそろえ、水記以上の書式の正確さや記述内容でレポートを作成できた。</td> <td>問題、方法、結果、考察、引用文献を全てそろえ、書式の正確さや記述内容を概ね満たしてレポートを作成できた。</td> <td>書式の正確さや記述内容にやや不足があるものの、問題、方法、結果、考察、引用文献を全てそろえてレポートを書くことができた。</td> <td>書式や記述内容が不十分であるが、問題、方法、結果、考察、引用文献をすべてそろえてレポートを書くことができた。</td> <td>レポートの本文中に剽窃があるか認められる。あるいは、問題、方法、結果、考察、引用文献のいずれかが書けなかった。</td> </tr> <tr> <td>心理学の知識</td> <td>問題、方法、結果、考察、引用文献が揃っており、求められる内容を十分に満たしたうえで、関連事項について言及できた。</td> <td>問題、方法、結果、考察、引用文献が揃っており、求められる内容を十分に網羅できた。</td> <td>問題、方法、結果、考察、引用文献が揃っており、求められる内容を一通り網羅できた。</td> <td>記述の誤りが認められるなど、内容は十分ではないが、問題、方法、結果、考察、引用文献はすべて書くことができた。</td> <td>レポートの本文中に剽窃があるか認められる。あるいは、先行研究を参照できなかった。</td> </tr> <tr> <td>授業参加・態度</td> <td>授業外でも自ら調べたり、質問したりすることが顕著にできた。</td> <td>授業外でも自ら調べたり、質問したりすることができた。</td> <td>授業外で自主的に学ぶ姿は見られないが、積極的に実験に参加したり、質問したりできた。</td> <td>授業外で自主的に学ぶ姿は見られないが、授業内で実験に参加したり、質問したりできた。</td> <td>最低出席回数に達しているものの、授業に参加できなかった。</td> </tr> </tbody> </table>	評価項目	評価基準					履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない	アカデミック・スキル	問題、方法、結果、考察、引用文献を全てそろえ、水記以上の書式の正確さや記述内容でレポートを作成できた。	問題、方法、結果、考察、引用文献を全てそろえ、書式の正確さや記述内容を概ね満たしてレポートを作成できた。	書式の正確さや記述内容にやや不足があるものの、問題、方法、結果、考察、引用文献を全てそろえてレポートを書くことができた。	書式や記述内容が不十分であるが、問題、方法、結果、考察、引用文献をすべてそろえてレポートを書くことができた。	レポートの本文中に剽窃があるか認められる。あるいは、問題、方法、結果、考察、引用文献のいずれかが書けなかった。	心理学の知識	問題、方法、結果、考察、引用文献が揃っており、求められる内容を十分に満たしたうえで、関連事項について言及できた。	問題、方法、結果、考察、引用文献が揃っており、求められる内容を十分に網羅できた。	問題、方法、結果、考察、引用文献が揃っており、求められる内容を一通り網羅できた。	記述の誤りが認められるなど、内容は十分ではないが、問題、方法、結果、考察、引用文献はすべて書くことができた。	レポートの本文中に剽窃があるか認められる。あるいは、先行研究を参照できなかった。	授業参加・態度	授業外でも自ら調べたり、質問したりすることが顕著にできた。	授業外でも自ら調べたり、質問したりすることができた。	授業外で自主的に学ぶ姿は見られないが、積極的に実験に参加したり、質問したりできた。	授業外で自主的に学ぶ姿は見られないが、授業内で実験に参加したり、質問したりできた。	最低出席回数に達しているものの、授業に参加できなかった。
評価項目		評価基準																											
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない																								
アカデミック・スキル	問題、方法、結果、考察、引用文献を全てそろえ、水記以上の書式の正確さや記述内容でレポートを作成できた。	問題、方法、結果、考察、引用文献を全てそろえ、書式の正確さや記述内容を概ね満たしてレポートを作成できた。	書式の正確さや記述内容にやや不足があるものの、問題、方法、結果、考察、引用文献を全てそろえてレポートを書くことができた。	書式や記述内容が不十分であるが、問題、方法、結果、考察、引用文献をすべてそろえてレポートを書くことができた。	レポートの本文中に剽窃があるか認められる。あるいは、問題、方法、結果、考察、引用文献のいずれかが書けなかった。																								
心理学の知識	問題、方法、結果、考察、引用文献が揃っており、求められる内容を十分に満たしたうえで、関連事項について言及できた。	問題、方法、結果、考察、引用文献が揃っており、求められる内容を十分に網羅できた。	問題、方法、結果、考察、引用文献が揃っており、求められる内容を一通り網羅できた。	記述の誤りが認められるなど、内容は十分ではないが、問題、方法、結果、考察、引用文献はすべて書くことができた。	レポートの本文中に剽窃があるか認められる。あるいは、先行研究を参照できなかった。																								
授業参加・態度	授業外でも自ら調べたり、質問したりすることが顕著にできた。	授業外でも自ら調べたり、質問したりすることができた。	授業外で自主的に学ぶ姿は見られないが、積極的に実験に参加したり、質問したりできた。	授業外で自主的に学ぶ姿は見られないが、授業内で実験に参加したり、質問したりできた。	最低出席回数に達しているものの、授業に参加できなかった。																								

教科書・参考文献・資料等

教科書																																										
<table border="1"> <thead> <tr> <th>No</th> <th>書籍名</th> <th>著者</th> <th>出版社</th> <th>出版年</th> <th>ISBN</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>『よくわかる心理学実験実習』</td> <td>村上香奈・山崎浩一</td> <td>ミネルヴァ書房</td> <td>2018</td> <td>978-4-623-</td> <td>心理学基礎実験と同じ教科書を使用</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>4</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>5</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考	1	『よくわかる心理学実験実習』	村上香奈・山崎浩一	ミネルヴァ書房	2018	978-4-623-	心理学基礎実験と同じ教科書を使用	2							3							4							5						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考																																				
1	『よくわかる心理学実験実習』	村上香奈・山崎浩一	ミネルヴァ書房	2018	978-4-623-	心理学基礎実験と同じ教科書を使用																																				
2																																										
3																																										
4																																										
5																																										

参考文献・資料等																																										
<table border="1"> <thead> <tr> <th>No</th> <th>書籍名</th> <th>著者</th> <th>出版社</th> <th>出版年</th> <th>ISBN</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>『心理学のためのデータ解析テクニカルブック』</td> <td>森敏明・吉田寿夫</td> <td>北大路書房</td> <td>1990</td> <td>978-4-7628-</td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>4</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>5</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考	1	『心理学のためのデータ解析テクニカルブック』	森敏明・吉田寿夫	北大路書房	1990	978-4-7628-		2							3							4							5						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考																																				
1	『心理学のためのデータ解析テクニカルブック』	森敏明・吉田寿夫	北大路書房	1990	978-4-7628-																																					
2																																										
3																																										
4																																										
5																																										

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・3年		
開講時期	1Q	授業形態	実験	必修・選択	選択
科目名称	心理学基礎実験 (科目ナンバリング: EXP123066)				
授業担当者(所属・職名)	吉澤 英里 (社会福祉学科・准教授)	研究室所在	1号館3階		
単位数	2 (単位認定責任者: 吉澤 英里)	CAP制	x		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	認定心理士として心理学実験の研究経験の経験を持つ教員による指導の下、心理学実験に関わる実習を行う。		

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	オリエンテーション1(シラバスの説明, 授業の内容の説明)	心理学基礎実験 の資料, レポートの振り返り(45分)	今回の内容について復習する(45分)
2	オリエンテーション1(心理学基礎実験 の振り返り)	心理学基礎実験 の資料, レポートの振り返り(45分)	今回の内容について復習する(45分)
3	実験 心理検査1(実験の説明および準備)	教科書や参考資料を熟読する。(45分)	今回の内容について復習する(45分)
4	実験 心理検査2(実験の実施およびデータ入力)	教科書や参考資料を熟読する。(45分)	今回の内容について復習する(45分)
5	実験 心理検査3(データ分析, 心理学統計演習)	教科書や参考資料を熟読する。(45分)	今回の内容について復習する(45分)
6	実験 心理検査4(レポートの書き方: 文献検索, 問題, 方法)	教科書や参考資料を熟読する。(45分)	今回の内容について復習する(45分)
7	実験 心理検査5(レポートの書き方: 結果と考察)	教科書や参考資料を熟読する。(45分)	今回の内容について復習する(45分)
8	実験 心理検査6(最終確認)	教科書や参考資料を熟読する。(45分)	レポート作成と次回の実験概要の把握(45分)レポート提出締め切り16回の授業
9	実験 行動観察1(実験の説明および準備)	教科書や参考資料を熟読する。(45分)	今回の内容について復習する(45分)
10	実験 行動観察2(実験の実施およびデータ入力)	教科書や参考資料を熟読する。(45分)	今回の内容について復習する(45分)
11	実験 行動観察3(データ分析, 心理学統計演習)	教科書や参考資料を熟読する。(45分)	今回の内容について復習する(45分)
12	実験 行動観察4(レポートの書き方: 文献検索, 問題, 方法)	教科書や参考資料を熟読する。(45分)	今回の内容について復習する(45分)
13	実験 行動観察5(レポートの書き方: 結果のまとめ, 考察, 引用文献)	教科書や参考資料を熟読する。(45分)	今回の内容について復習する(45分)
14	実験 行動観察6(最終確認)	教科書や参考資料を熟読する。(45分)	レポート作成と次回の実験概要の把握(45分)レポート提出締め切り20回の授業
15	実験 社会・集団の実験1(実験の説明および準備)	教科書や参考資料を熟読する。(45分)	今回の内容について復習する(45分)
16	実験 社会・集団の実験2(実験の実施およびデータ入力)	教科書や参考資料を熟読する。(45分)	今回の内容について復習する(45分)

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17	実験 社会・集団の実験3(データ分析, 心理学統計演習)	教科書や参考資料を熟読する。(45分)	今回の内容について復習する(45分)
18	実験 社会・集団の実験4(レポートの書き方: 文献検索, 問題, 方法)	教科書や参考資料を熟読する。(45分)	今回の内容について復習する(45分)
19	実験 社会・集団の実験5(レポートの書き方: 結果のまとめ, 考察, 引用文献)	教科書や参考資料を熟読する。(45分)	今回の内容について復習する(45分)
20	実験 社会・集団の実験6(最終確認)	教科書や参考資料を熟読する。(45分)	レポート作成と次回の実験概要の把握(45分)レポート提出締め切りは28回の授業
21	心理学実験の関連事項の復習と学習	教科書や参考資料を熟読する。(45分)	今回の内容について復習する(45分)
22	心理学実験の関連事項の復習と学習	教科書や参考資料を熟読する。(45分)	今回の内容について復習する(45分)
23	実験 情動・行動の実験1(実験の説明および準備)	教科書や参考資料を熟読する。(45分)	今回の内容について復習する(45分)
24	実験 情動・行動の実験2(実験の実施およびデータ入力)	教科書や参考資料を熟読する。(45分)	今回の内容について復習する(45分)
25	実験 情動・行動の実験3(データ分析, 心理学統計演習)	教科書や参考資料を熟読する。(45分)	今回の内容について復習する(45分)
26	実験 情動・行動の実験4(レポートの書き方: 文献検索, 問題, 方法)	教科書や参考資料を熟読する。(45分)	今回の内容について復習する(45分)
27	実験 情動・行動の実験5(レポートの書き方: 結果のまとめ, 考察, 引用文献)	教科書や参考資料を熟読する。(45分)	今回の内容について復習する(45分)
28	実験 情動・行動の実験6(最終確認)	教科書や参考資料を熟読する。(45分)	レポート作成と次回の実験概要の把握(45分)レポート提出締め切りは2週間後。
29	予備 これまでの実験の補足説明あるいはその他の心理学領域の実験体験 等	これまでの実験内容を振り返り, 留意点を確認する。(45分)	今回の内容について復習する(45分)
30	予備 これまでの実験の補足説明あるいはその他の心理学領域の実験体験とレポート執筆 等	これまでの実験内容を振り返り, 留意点を確認する。(45分)	レポート作成の再確認(45分)
31	レポートの講評	これまでの成果を振り返り, 疑問点を纏める(45分)	これまでの成果と課題と振り返る(45分)
32	これまでの振り返り	これまでの成果を振り返り, 疑問点を纏める(45分)	これまでの成果と課題と振り返る(45分)

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・2年		
開講時期	2Q	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	心理学研究法 (科目ナンバリング: PSG123067)				
授業担当者(所属・職名)	吉澤 英里 (社会福祉学科・准教授)	研究室所在	1号館3階		
単位数	2 (単位認定責任者: 吉澤 英里)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	認定心理士として実験および調査研究の経験を持つ教員が、その経験を活かして心理学研究に関する講義を行う。		

概要

履修目標
学生が、心理学の研究の技法の修得だけでなく、心理学における研究の方法論(理論)について理解を深める。さらに、その心理学研究における方法論の理解を背景として、学生が自ら研究計画を立てられるようになる。

授業の位置づけ
社会福祉学科のDP「1(3と6)」、「2(2)」に対応する科目。

到達目標
心理学研究における方法の意義と問題点を説明する。 リサーチ・クエスチョンや仮説を立て、研究計画を立てる。 与えられた課題を自律的に取り組む。

授業全体の内容と概要
心(あるいは行動)という科学的に扱いにくい対象に対して心理学が行う研究方法(統計も含む)の意義や問題について理解する。さらに、心理学においてヒトや他の動物を対象に研究を行う際に関わる倫理的問題を理解する。そのうえで、心理学研究の手順(リサーチ・クエスチョン 仮説 研究計画 仮説検証 結果のまとめと考察)を熟知し、レポートを執筆する。

授業の方法
板書とパワーポイント、配布印刷物を活用しながら、演習形式で行う。質問には随時対応する。

アクティブラーニングの実施方法																					
<table border="1"> <tr> <td>プレゼンテーション</td> <td>○</td> <td>グループワーク</td> <td></td> <td>フィールドワーク</td> <td></td> <td>PBL</td> </tr> <tr> <td>模擬授業</td> <td></td> <td>ロールプレイ</td> <td></td> <td>調査学習</td> <td></td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td>ディスカッション</td> <td></td> <td>実験・実習・実技</td> <td></td> <td>双方向授業</td> <td></td> <td>その他(授業の方法参照)</td> </tr> </table>	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		PBL	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)
プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		PBL															
模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業															
ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)															

履修上の注意事項
・授業の運営・進行を著しく妨害するような行為(私語、大学で認められたもの以外の飲食、携帯電話・スマートフォンの使用、代返 等)が認められた場合、総合評価から大幅に減点することがある。 ・授業中は、板書だけでなく、口頭の説明、疑問点などをノートに書き加えながら、集中して聴くこと。 ・試験および課題は、「引用元を示さないで他人の文章やインターネット・文献から書き写したものは削除(ひょうせつ)とみなし、採点の対象とはせず0点とする。丁寧に書かれず、読み取れない文章も採点対象とはしない。

資格指定科目
認定心理士資格課程(2019年度以前入学者)

評価方法・基準

評価前提条件												
再試験は実施しない。また、削除のある課題や答えは採点しない。												
評価方法												
<table border="1"> <tr> <th>定期試験</th> <th>レポート</th> <th>課題・作品</th> <th>中間テスト</th> <th>平常点</th> <th>その他</th> </tr> <tr> <td>60%</td> <td>30%</td> <td>10%</td> <td>0%</td> <td>0%</td> <td>0%</td> </tr> </table>	定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他	60%	30%	10%	0%	0%	0%
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他							
60%	30%	10%	0%	0%	0%							

ルーブリック																													
<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">評価項目</th> <th colspan="5">評価基準</th> </tr> <tr> <th>履修項目を超えたレベルを達成している</th> <th>履修項目をほぼ達成している</th> <th>履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している</th> <th>到達目標を達成している</th> <th>到達目標を達成していない</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>心理学研究法に対する理解</td> <td>複数の各研究法について、具体例を挙げながら、極めて詳細に説明することができた。</td> <td>複数の各研究法について、具体例を挙げながら説明することができた。</td> <td>各研究法のうち、1つ以上について、具体例を挙げながら説明できた。</td> <td>各研究法のうち、1つ以上について、説明できた。</td> <td>各研究法について、全く理解していない。自分の言葉で説明することができなかった。</td> </tr> <tr> <td>RQ, 仮説</td> <td>身近なテーマについて、RQと複数の仮説を考えることができた。さらに、仮説を検証するのに適した研究方法にも言及することができた。</td> <td>身近なテーマについて、RQと複数の仮説を考えることができた。</td> <td>身近なテーマについて、RQと仮説を考えることができた。</td> <td>身近なテーマについて、RQを考えることができた。</td> <td>身近な疑問を考えることはできるが、RQを書くことができなかった。</td> </tr> <tr> <td>自律的学習態度</td> <td>レポート、課題を締め切りまでに全て提出できた。</td> <td>レポート、課題を全て提出できた。</td> <td>レポート、課題を8割提出できた。</td> <td>レポート、課題を6割提出できた。</td> <td>到達目標(6割)の数だけレポート、課題を提出できなかった。</td> </tr> </tbody> </table>	評価項目	評価基準					履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない	心理学研究法に対する理解	複数の各研究法について、具体例を挙げながら、極めて詳細に説明することができた。	複数の各研究法について、具体例を挙げながら説明することができた。	各研究法のうち、1つ以上について、具体例を挙げながら説明できた。	各研究法のうち、1つ以上について、説明できた。	各研究法について、全く理解していない。自分の言葉で説明することができなかった。	RQ, 仮説	身近なテーマについて、RQと複数の仮説を考えることができた。さらに、仮説を検証するのに適した研究方法にも言及することができた。	身近なテーマについて、RQと複数の仮説を考えることができた。	身近なテーマについて、RQと仮説を考えることができた。	身近なテーマについて、RQを考えることができた。	身近な疑問を考えることはできるが、RQを書くことができなかった。	自律的学習態度	レポート、課題を締め切りまでに全て提出できた。	レポート、課題を全て提出できた。	レポート、課題を8割提出できた。	レポート、課題を6割提出できた。	到達目標(6割)の数だけレポート、課題を提出できなかった。
評価項目		評価基準																											
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない																								
心理学研究法に対する理解	複数の各研究法について、具体例を挙げながら、極めて詳細に説明することができた。	複数の各研究法について、具体例を挙げながら説明することができた。	各研究法のうち、1つ以上について、具体例を挙げながら説明できた。	各研究法のうち、1つ以上について、説明できた。	各研究法について、全く理解していない。自分の言葉で説明することができなかった。																								
RQ, 仮説	身近なテーマについて、RQと複数の仮説を考えることができた。さらに、仮説を検証するのに適した研究方法にも言及することができた。	身近なテーマについて、RQと複数の仮説を考えることができた。	身近なテーマについて、RQと仮説を考えることができた。	身近なテーマについて、RQを考えることができた。	身近な疑問を考えることはできるが、RQを書くことができなかった。																								
自律的学習態度	レポート、課題を締め切りまでに全て提出できた。	レポート、課題を全て提出できた。	レポート、課題を8割提出できた。	レポート、課題を6割提出できた。	到達目標(6割)の数だけレポート、課題を提出できなかった。																								

教科書・参考文献・資料等

教科書																																										
<table border="1"> <thead> <tr> <th>No</th> <th>書籍名</th> <th>著者</th> <th>出版社</th> <th>出版年</th> <th>ISBN</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>4</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>5</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考	1							2							3							4							5						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考																																				
1																																										
2																																										
3																																										
4																																										
5																																										

参考文献・資料等																																										
<table border="1"> <thead> <tr> <th>No</th> <th>書籍名</th> <th>著者</th> <th>出版社</th> <th>出版年</th> <th>ISBN</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>『これから心理学を学ぶ人のための研究方法を統計法』</td> <td>西村純一・井上俊哉</td> <td>ナカニシヤ出版</td> <td>2016</td> <td>978-4-7795-</td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>『心理学のためのデータ解析テクニカルブック』</td> <td>森敏明・吉田寿夫</td> <td>北大路書房</td> <td>1990</td> <td>978-4-7628-</td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>『新訂 心理学研究法』</td> <td>海保博之・大野木裕明・岡市広成</td> <td>放送大学教育振興会</td> <td>2008</td> <td>978-4-5953-</td> <td></td> </tr> <tr> <td>4</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>5</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考	1	『これから心理学を学ぶ人のための研究方法を統計法』	西村純一・井上俊哉	ナカニシヤ出版	2016	978-4-7795-		2	『心理学のためのデータ解析テクニカルブック』	森敏明・吉田寿夫	北大路書房	1990	978-4-7628-		3	『新訂 心理学研究法』	海保博之・大野木裕明・岡市広成	放送大学教育振興会	2008	978-4-5953-		4							5						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考																																				
1	『これから心理学を学ぶ人のための研究方法を統計法』	西村純一・井上俊哉	ナカニシヤ出版	2016	978-4-7795-																																					
2	『心理学のためのデータ解析テクニカルブック』	森敏明・吉田寿夫	北大路書房	1990	978-4-7628-																																					
3	『新訂 心理学研究法』	海保博之・大野木裕明・岡市広成	放送大学教育振興会	2008	978-4-5953-																																					
4																																										
5																																										

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・2年		
開講時期	2Q	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	心理学研究法 (科目ナンバリング: PSG123067)				
授業担当者(所属・職名)	吉澤 英里 (社会福祉学科・准教授)	研究室所在	1号館3階		
単位数	2 (単位認定責任者: 吉澤 英里)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容に関する講義を行う。 認定心理士として実験および調査研究の経験を持つ教員が、その経験を活かして心理学研究に関する講義を行う。			

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
1	オリエンテーション(シラバスの説明, 心理学の成り立ちと科学的研究について)	心理学の研究手法について概要を調べる。(90分)	心理学の科学としての特徴を要約(90分)
2	リサーチクエスチョンと仮説(リサーチクエスチョン; RQを立てる, 研究仮説)	日常で感じている心理学的疑問をまとめる(90分)	RQを立てる(90分)
3	実験法1(実験法の要件, 基本的プロセス, 独立変数, 従属変数, 剰余変数, 実験群と統制群)	キーワードについて調べる(90分)	専門用語について整理し, 疑問をまとめる(90分)
4	実験法2(実験デモンストレーション; 独立変数と従属変数についての理解)	心理学が扱うデータの種類を調べる(90分)	専門用語について整理し, 疑問をまとめる(90分)
5	実験法3(実験計画, 被験者内計画, 被験者間計画)	心理学が扱うデータの種類を調べる(90分)	専門用語について整理し, 疑問をまとめる(90分)
6	実験法4(実験デモンストレーション; 被験者内計画と被験者間計画の違いについての理解)	関連文献を熟読する(90分)	専門用語について整理し, 疑問をまとめる(90分)
7	データ分析実習(心理学統計の意味)	関連文献を熟読する(90分)	専門用語について整理し, 疑問をまとめる(90分)
8	観察法1(観察法の概要, 観察手法の種類)	日常で他者をどのように観察しているか考え, 気づいたことをまとめる(90分)	日常観察と心理学研究における観察との違いをまとめる(90分)
9	観察法2(観察データの収集と分析)	観察を用いた研究の検索と文献の要約(90分)	結果を元にレポートを作成する(90分)
10	質問紙1(質問紙法の概要, 質問文の作成と回答形式の種類)	調べたいテーマに関する文献を読み, その概要をまとめる(90分)	質問紙を作成して調査を実施し, データを入力する(90分)
11	質問紙2(質問紙の分析)	実施した調査テーマに関する文献を読み, 概要をまとめる(90分)	調査データを分析して結果をまとめる(90分)
12	質問紙3(結果のまとめ方, 考察の方法など)	調査データを分析してレポートを作成する(90分)	調査データを分析してレポートを作成する(90分)
13	面接法1(面接法の概要, 基本的プロセス)	面接法の種類をまとめる(90分)	面接法の基本的なプロセスを振り返る(90分)
14	面接法2(インタビューの実施と分析)	構造化面接, 半構造化面接, 非構造化面接の違いを調べる(90分)	調査的面接を実施し, その結果をまとめ, 報告書を作成する(90分)
15	まとめ	これまでの授業内容を概観し, わかったことや疑問点をまとめる(90分)	これまでの授業内容を概観し, わかったことや疑問点をまとめる(90分)
16	60分の試験終了後, 残りの30分で解説を行う。	資料を見ながら, 各研究法について十分に理解する(90分)	試験で分からなかったことを資料で再確認する(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・1年		
開講時期	2Q	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	精神保健福祉相談援助 (科目ナンバリング: SWS122041)				
授業担当者(所属・職名)	西野 克俊 (社会福祉学科・専任講師)	研究室所在	1号館2階		
単位数	2 (単位認定責任者: 西野 克俊)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	精神科医療機関における実務経験がある教員がその経験を活かして、精神保健福祉の基礎となる知識や倫理観習得のための指導をする。		

概要

履修目標
精神保健福祉士の業務、専門性、権利擁護、総合的かつ包括的な援助と多職種連携について理解する。ソーシャルワークの基礎知識や基本技術を獲得し、それらを関連づけて体系的に理解する。

授業の位置づけ
社会福祉学科のDP「1(1)と(4)と(7)」、「2(2)」に対応する。

到達目標
精神保健福祉士が行う相談援助、精神障害者に対する権利擁護の意義などについて記述及び説明することができる。

授業全体の内容と概要
精神保健福祉士が行う相談援助の対象と相談援助の基本的考え方について学ぶ。相談援助に係わる専門職(精神科病院、精神科診療所を含む)の概念と範囲について学ぶ。精神障害者の相談援助における権利擁護の意義と範囲について学ぶ。精神保健福祉士活動における総合的かつ包括的な援助と多職種連携(チームアプローチを含む)の意義と内容について学ぶ。

授業の方法
授業形態は講義形式で行う。テキスト及び配布資料を使用し、ポイントとするべき箇所は説明、板書を行う。質問等に対しては都度口頭にて説明を行い、必要に応じて資料を配布する。確認テストを実施し、解答回収後解説を行う。

アクティブラーニングの実施方法							
	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項
教科書は必ず持参すること。必要な資料等は適宜配布する。20分以上の遅刻・早退は欠席とみなす。

資格指定科目
精神保健福祉士国家試験受験資格科目

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数は、10回以上。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
60%	0%	0%	0%	10%	30%

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあたるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・理解	精神保健福祉相談援助についての基礎的な知識を深く理解できた。	精神保健福祉相談援助についての基礎的な知識をおおむね理解できた。	精神保健福祉相談援助についての基礎的な知識を理解できた。	精神保健福祉相談援助についての基礎的な知識を多少理解できた。	精神保健福祉相談援助についての基礎的な知識を理解することができなかった。
思考力・考察力	精神保健福祉の基本を踏まえ、精神保健福祉相談援助の展開について十分に考察できた。	精神保健福祉の基本を踏まえ、精神保健福祉相談援助の展開についておおむね考察できた。	精神保健福祉の基本を踏まえ、精神保健福祉相談援助の展開について考察できた。	精神保健福祉の基本を踏まえ、精神保健福祉相談援助の展開について多少考察できた。	精神保健福祉の基本を踏まえ、精神保健福祉相談援助の展開について考察することができなかった。
主体性・情意	精神保健福祉相談援助の展開について理解したことを適切に説明できた。	精神保健福祉相談援助の展開について理解したことをおおむね説明できた。	精神保健福祉相談援助の展開について理解したことを説明できた。	精神保健福祉相談援助の展開について理解したことを多少説明できた。	精神保健福祉相談援助の展開について理解したことを説明することができなかった。

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『精神保健福祉相談援助の基盤(基礎・専門)』	日本精神保健福祉士養成校協会	中央法規出版	2015	9784805851180	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・1年		
開講時期	2Q	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	精神保健福祉相談援助 (科目ナンバリング: SWS122041)				
授業担当者(所属・職名)	西野 克俊(社会福祉学科・専任講師)	研究室所在	1号館2階		
単位数	2 (単位認定責任者: 西野 克俊)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	精神科医療機関における実務経験がある教員がその経験を活かして、精神保健福祉の基礎となる知識や倫理観習得のための指導をする。		

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	シラバス説明及び精神保健福祉相談援助の基礎の学びについてのガイダンス	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	ノート・資料整理を行うこと(90分)
2	精神保健福祉士の役割と歴史について	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	ノート・資料整理を行うこと(90分)
3	精神保健福祉の定義と理念について	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	ノート・資料整理を行うこと(90分)
4	精神保健福祉の活動と基本的な考え方について	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	ノート・資料整理を行うこと(90分)
5	精神保健福祉士と社会福祉士について	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	ノート・資料整理を行うこと(90分)
6	精神保健福祉分野のソーシャルワークの理念について	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	ノート・資料整理を行うこと(90分)
7	精神保健福祉分野におけるソーシャルワークの対象者	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	ノート・資料整理を行うこと(90分)
8	精神保健福祉士の意義と支援機関	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	ノート・資料整理を行うこと(90分)
9	精神保健福祉分野の人権と権利擁護	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	ノート・資料整理を行うこと(90分)
10	精神保健福祉分野の権利擁護制度について	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	ノート・資料整理を行うこと(90分)
11	精神保健福祉分野のソーシャルワーク活動と実践	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	ノート・資料整理を行うこと(90分)
12	精神保健福祉分野のソーシャルワーク活動と実践	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	ノート・資料整理を行うこと(90分)
13	精神保健福祉分野における他職種連携について	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	ノート・資料整理を行うこと(90分)
14	精神保健福祉分野における総合的・包括的援助について	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	ノート・資料整理を行うこと(90分)
15	精神保健福祉士の専門職倫理	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	ノート・資料整理を行うこと(90分)
16	試験(60分)実施、終了後解説(30分)	試験のための学習(90分)	試験の振り返りを行うこと(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・2年		
開講時期	1Q	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	精神保健福祉に関する (科目ナンバリング: SWS122047)				
授業担当者(所属・職名)	大島 康雄 (社会福祉学科・准教授)	研究室所在	1号館2階		
単位数	2 (単位認定責任者: 大島 康雄)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	精神保健福祉士として相談援助を行っていたが、実際に活用する制度やサービスを実践面にて授業を行う。		

概要

履修目標	精神保健福祉に関する制度とサービスを学び、制度の説明や具体的な活用をイメージし、他者に伝えることをする。							
授業の位置づけ	社会福祉学科のDP「1(1)と(3)と(4)と(6)」、「2(2)」に対応する。							
到達目標	基礎知識をもとにして、最新の精神保健福祉の動向を自ら調べて学べるようになること。また、クライアントなどに説明できる。							
授業全体の内容と概要	昨年度の「精神保健福祉に関する制度とサービス」の復習を踏まえた上で、最新の精神保健福祉に関わる動向について説明する。							
授業の方法	授業態度、単位認定に必要な最低出席回数は、10回以上。教科書を活用し、板書やプリントによる確認を行います。障害者総合支援法の内容や社会保障制度などの制度を説明し、プレゼンテーションの資料などを作成してもらおう。質問に対して解説を行い、対応を行います。							
アクティブラーニングの実施方法	<input type="checkbox"/>	プレゼンテーション	<input type="checkbox"/>	グループワーク	<input type="checkbox"/>	フィールドワーク	<input type="checkbox"/>	PBL
	<input type="checkbox"/>	模擬授業	<input type="checkbox"/>	ロールプレイ	<input type="checkbox"/>	調査学習	<input type="checkbox"/>	反転授業
	<input type="checkbox"/>	ディスカッション	<input type="checkbox"/>	実験・実習・実技	<input type="checkbox"/>	双方向授業	<input type="checkbox"/>	その他(授業の方法参照)
履修上の注意事項	グループワークやプレゼンテーションがあるので、積極的に授業に参加してもらいたいです。							
資格指定科目	精神保健福祉士国家試験受験資格課程							

評価方法・基準

評価前提条件					
授業態度、単位認定に必要な最低出席回数は、10回以上。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	50%	30%	20%	0%

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
授業に参加し、教科書や板書、確認テストを受けている。	15回以上授業に参加し、積極的に学習ができた。	14回授業に参加し、積極的に学習ができた。	13回授業に参加し、積極的に学習ができた。	12~10回以上授業に参加し、積極的に学習ができた。	9回以下授業に参加し、学習が消極的にできなかった。
確認テストの内容を理解し、定期試験の成績が60点以上である。	確認テストを受けて、定期試験の成績が100~90点獲得できた。	確認テストを受けて、定期試験の成績が89~80点以上獲得できた。	確認テストを受けて、定期試験の成績が79~70点以上獲得できた。	確認テストを受けて、定期試験の成績が69~60点以上獲得できた。	確認テストをある程度受け、定期試験の成績が59点以下しか獲得できなかった。
「精神保健福祉に関する制度とサービス」で学んだ制度やサービスを説明できる。	制度とサービスについて適切に説明を行い、必要な資料(パワーポイントやレジュメ)を作成することができた。	制度とサービスについて説明を行い、必要な資料(パワーポイントやレジュメ)を作成することができた。	必要な資料(パワーポイントやレジュメ)を作成することができた。	制度とサービスについて説明を行うことができた。	説明を行うことができない。

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『精神保健福祉に関する制度とサービス』	一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟	中央法規	2012年02月	978-4-8058-5596-6	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・2年		
開講時期	1Q	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	精神保健福祉に関する (科目ナンバリング: SWS122047)				
授業担当者(所属・職名)	大島 康雄(社会福祉学科・准教授)	研究室所在	1号館2階		
単位数	2 (単位認定責任者: 大島 康雄)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	精神保健福祉士として相談援助を行っていたが、実際に活用する制度やサービスを実践面に即して授業を行う。		

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	オリエンテーション、シラバスの説明	事前に教科書を確認(90分)	グループ発表の準備(90分)
2	精神障害者の相談援助活動と精神保健福祉に関する制度とサービスの理解	グループ発表の練習(90分)	グループ発表の反省(90分)
3	精神保健福祉法の成立までの経緯と意義、その後の変化	グループ発表の練習(90分)	グループ発表の反省(90分)
4	精神保健福祉法の成立までの経緯と意義、その後の変化	グループ発表の練習(90分)	グループ発表の反省(90分)
5	精神保健福祉法の概要	グループ発表の練習(90分)	グループ発表の反省(90分)
6	精神保健福祉法の概要	グループ発表の練習(90分)	グループ発表の反省(90分)
7	精神障害者等の福祉制度の概要と福祉サービス(障害者基本法, 障害者総合支援法)	事前に教科書を確認(90分)	板書・教科書の復習(90分)
8	精神障害者等を対象とした福祉施策・事業(医療保険制度)	事前に教科書を確認(90分)	板書・教科書の復習(90分)
9	精神障害者等を対象とした福祉施策・事業(経済的支援に関する制度)	事前に教科書を確認(90分)	板書・教科書の復習(90分)
10	精神保健福祉領域の近年の動向(障害者権利条約と当事者による活動, 権利擁護)	事前に教科書を確認(90分)	板書・教科書の復習(90分)
11	精神保健福祉領域の近年の動向(障害年金制度と所得保障)	事前に教科書を確認(90分)	板書・教科書の復習(90分)
12	精神保健福祉領域の近年の動向(アルコール健康障害対策基本法の制定と関連施策)	事前に教科書を確認(90分)	板書・教科書の復習(90分)
13	精神保健福祉領域の近年の動向(更生保護制度)	事前に教科書を確認(90分)	板書・教科書の復習(90分)
14	精神保健福祉領域の近年の動向(医療観察法)	事前に教科書を確認(90分)	板書・教科書の復習(90分)
15	まとめ	事前に教科書を確認(90分)	板書・教科書の復習(90分)
16	確認テスト、テストの解説	事前課題の学習(90分)	テストの復習(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・2年		
開講時期	2Q	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	精神保健の課題と支援 (科目ナンバリング:PSS122039)				
授業担当者(所属・職名)	佐々木 智城(社会福祉学科・准教授)	研究室所在	1号館2階		
単位数	2 (単位認定責任者: 佐々木 智城)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	精神科病院の勤務経験のある精神保健福祉士が経験も交えながら指導する。		

概要

履修目標	現代の精神保健分野の動向と課題を理解する。 精神保健の基本的考え方を理解する。 現代社会における精神保健の諸課題の実際を生活環境ごとに理解し、精神保健福祉士の役割について理解する。 精神保健の保持・増進と発生予防のための支援及び専門機関や関係職種との役割と連携について理解する。 国際連合の精神保健活動他他国々における精神保健の現状と対策について理解する。																					
授業の位置づけ	社会福祉学科のDP「1(1)と(2)と(4)と(5)」、「2(2)」に対応する。																					
到達目標	現代の精神保健の動向と課題を知り、精神保健の保持・増進、予防のための支援及び関係機関との連携方法、精神保健福祉士の役割について理解する。																					
授業全体の内容と概要	現代の精神保健分野の動向と課題と、精神保健の基本的な考え方について、精神保健の保持・増進と発生予防のための支援及び専門機関や関係職種の役割と連携について。																					
授業の方法	パワーポイント、板書、プリント、DVDを使用しながら講義形式で行うが、内容によってはグループで討論することもある。毎回、授業の最後に学んだことや質問をまとめて提出する。質問は次の授業で回答する。																					
アクティブラーニングの実施方法	<table border="1"> <tr> <td>プレゼンテーション</td> <td></td> <td>グループワーク</td> <td></td> <td>フィールドワーク</td> <td></td> <td>PBL</td> </tr> <tr> <td>模擬授業</td> <td></td> <td>ロールプレイ</td> <td></td> <td>調査学習</td> <td></td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td>ディスカッション</td> <td></td> <td>実験・実習・実技</td> <td></td> <td>双方向授業</td> <td>○</td> <td>その他(授業の方法参照)</td> </tr> </table>	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業	○	その他(授業の方法参照)
プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL																
模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業																
ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業	○	その他(授業の方法参照)																
履修上の注意事項	精神保健に関連する疾患などについて事例を交えて学習する。毎回、授業の最後に学んだことをまとめて提出する。これは出席と成績に反映される。																					
資格指定科目	精神保健福祉士国家試験受験資格課程																					

評価方法・基準

評価前提条件	単位認定に必要な最低出席回数は10回以上。					
評価方法	定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
	0%	70%	0%	0%	20%	10%

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
メンタルヘルス上の問題の理解	資料やDVDなどの授業内容を十分理解し、自分の考えを含めた感想文を毎回提出していた。	授業後の感想文に自分の考えについてある程度述べていた。	授業後の感想文に自分が理解したことを大枠でまとめた。	内容は乏しいが授業後の感想文に記入していた。	授業後の感想文をほとんど書けなかった。
授業に主体的に取り組む態度	精神疾患を抱えた方への支援方法についてわかりやすく説明できた。	精神疾患を抱えた方への支援方法についておおむね説明できた。	精神疾患を抱えた方への支援方法について一定程度説明できた。	精神疾患を抱えた方への支援方法について多少説明できた。	精神疾患を抱えた方への支援方法について説明することができなかった。
精神保健学的な思考力・判断力の程度	精神保健学の基本を踏まえてメンタルヘルスに関する考察を十分行うことができた。	精神保健学の基本を踏まえてメンタルヘルスに関する考察をおおむね行うことができた。	精神保健学の基本を踏まえてメンタルヘルスに関する考察を一定程度行うことができた。	精神保健学の基本を踏まえてメンタルヘルスに関する考察を多少行うことができた。	精神保健学の基本を踏まえてメンタルヘルスに関する考察を行うことができなかった。

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						教科書なし
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『最新精神保健福祉士養成講座 2 現代の精神保健の課題と支援』	日本ソーシャルワーク教育学校連盟	中央法規出版	2021	4805882530	
2						
3						
4						
5						

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・2年		
開講時期	2Q	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	精神保健の課題と支援 (科目ナンバリング:PSS122039)				
授業担当者(所属・職名)	佐々木 智城(社会福祉学科・准教授)	研究室所在	1号館2階		
単位数	2 (単位認定責任者: 佐々木 智城)		CAP制		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	精神科病院の勤務経験のある精神保健福祉士が経験も交えながら指導する。		

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	現代の精神保健分野の動向と基本的考え方について シラバスの説明	指定した教科書を事前に読んでおくこと(90分)	授業の内容をノートにまとめて復習すること。 (90分)
2	家族関係における暴力と精神保健について	指定した教科書を事前に読んでおくこと(90分)	授業の内容をノートにまとめて復習すること。 (90分)
3	出産・育児をめぐる精神保健について	指定した教科書を事前に読んでおくこと(90分)	授業の内容をノートにまとめて復習すること。 (90分)
4	介護をめぐる精神保健について	指定した教科書を事前に読んでおくこと(90分)	授業の内容をノートにまとめて復習すること。 (90分)
5	社会的ひきこもりをめぐる精神保健について	指定した教科書を事前に読んでおくこと(90分)	授業の内容をノートにまとめて復習すること。 (90分)
6	グリーフケアについて	指定した教科書を事前に読んでおくこと(90分)	授業の内容をノートにまとめて復習すること。 (90分)
7	精神保健支援を担う機関について	指定した教科書を事前に読んでおくこと(90分)	授業の内容をノートにまとめて復習すること。 (90分)
8	学校教育における精神保健的課題について	指定した教科書を事前に読んでおくこと(90分)	授業の内容をノートにまとめて復習すること。 (90分)
9	スクールソーシャルワーカーの役割について	指定した教科書を事前に読んでおくこと(90分)	授業の内容をノートにまとめて復習すること。 (90分)
10	学校精神保健にかかわる社会資源について	指定した教科書を事前に読んでおくこと(90分)	授業の内容をノートにまとめて復習すること。 (90分)
11	産業精神保健とその対策について	指定した教科書を事前に読んでおくこと(90分)	授業の内容をノートにまとめて復習すること。 (90分)
12	職場のメンタルヘルスのための相談について	指定した教科書を事前に読んでおくこと(90分)	授業の内容をノートにまとめて復習すること。 (90分)
13	災害被災者の精神保健について	指定した教科書を事前に読んでおくこと(90分)	授業の内容をノートにまとめて復習すること。 (90分)
14	犯罪被害者の支援について	指定した教科書を事前に読んでおくこと(90分)	授業の内容をノートにまとめて復習すること。 (90分)
15	自殺予防について	指定した教科書を事前に読んでおくこと(90分)	授業の内容をノートにまとめて復習すること。 (90分)
16	レポートについて、最終回において解説しフィードバックする。	レポート作成の準備をすること(90分)	レポートの作成(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・2年		
開講時期	3Q	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	精神保健の課題と支援 (科目ナンバリング:PSS122040)				
授業担当者(所属・職名)	佐々木 智城(社会福祉学科・准教授)	研究室所在	1号館2階		
単位数	2 (単位認定責任者: 佐々木 智城)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	精神科病院の勤務経験のある精神保健福祉士が経験も交えながら指導する。		

概要

<p>履修目標</p> <p>現代の精神保健分野の動向と課題を理解する。 精神保健の基本的考え方を理解する。 現代社会における精神保健の諸課題の実際を生活環境ごとに理解し、精神保健福祉士の役割について理解する。 精神保健の保持・増進と発生予防のための支援及び専門機関や関係職種との役割と連携について理解する。 国際連合の精神保健活動他他国々における精神保健の現状と対策について理解する。</p>																								
<p>授業の位置づけ</p> <p>社会福祉学科のDP「1(1)と(2)と(4)と(5)」、「2(2)」に対応する。</p>																								
<p>到達目標</p> <p>現代の精神保健の動向と課題を知り、精神保健の保持・増進、予防のための支援及び関係機関との連携方法、精神保健福祉士の役割について理解する。</p>																								
<p>授業全体の内容と概要</p> <p>現代の精神保健分野の動向と課題と、精神保健の基本的な考え方について、精神保健の保持・増進と発生予防のための支援及び専門機関や関係職種の役割と連携について。</p>																								
<p>授業の方法</p> <p>パワーポイント、板書、プリント、DVDを使用しながら講義形式で行うが、内容によってはグループで討論することもある。毎回、授業の最後に学んだことや質問をまとめて提出する。質問は次の授業で回答する。</p>																								
<p>アクティブラーニングの実施方法</p> <table border="1"> <tr> <td></td> <td>プレゼンテーション</td> <td></td> <td>グループワーク</td> <td></td> <td>フィールドワーク</td> <td></td> <td>PBL</td> </tr> <tr> <td></td> <td>模擬授業</td> <td></td> <td>ロールプレイ</td> <td></td> <td>調査学習</td> <td></td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td></td> <td>ディスカッション</td> <td></td> <td>実験・実習・実技</td> <td></td> <td>双方向授業</td> <td>○</td> <td>その他(授業の方法参照)</td> </tr> </table>		プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL		模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業		ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業	○	その他(授業の方法参照)
	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL																	
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業																	
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業	○	その他(授業の方法参照)																	
<p>履修上の注意事項</p> <p>精神保健に関連する疾患などについて事例を交えて学習する。毎回、授業の最後に学んだことをまとめて提出する。これは出席と成績に反映される。</p>																								
<p>資格指定科目</p> <p>精神保健福祉士国家試験受験資格課程</p>																								

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数は10回以上。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	70%	0%	0%	20%	10%

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
メンタルヘルス上の問題の理解	資料やDVDなどの授業内容を十分理解し、自分の考えを含めた感想文を毎回提出していた。	授業後の感想文に自分の考えについてある程度述べていた。	授業後の感想文に自分が理解したことを大枠でまとめた。	内容は乏しいが授業後の感想文に記入していた。	授業後の感想文がほとんど書かれていなかった。
主体的に授業に取り組む態度	精神疾患を抱えた方への支援方法についてわかりやすく説明できた。	精神疾患を抱えた方への支援方法についておおむね説明できた。	精神疾患を抱えた方への支援方法について一定程度説明できた。	精神疾患を抱えた方への支援方法について多少説明できた。	精神疾患を抱えた方への支援方法について説明することができなかった。
精神保健学的な思考・判断力の程度	精神保健学の基本を踏まえてメンタルヘルスに関する考察を十分行うことができた。	精神保健学の基本を踏まえてメンタルヘルスに関する考察をおおむね行うことができた。	精神保健学の基本を踏まえてメンタルヘルスに関する考察を一定程度行うことができた。	精神保健学の基本を踏まえてメンタルヘルスに関する考察を多少行うことができた。	精神保健学の基本を踏まえてメンタルヘルスに関する考察を行うことができなかった。

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						教科書なし
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『最新精神保健福祉士養成講座2 現代の精神保健の課題と支援』	日本ソーシャルワーク教育学校連盟	中央法規出版	2021	4805882530	
2						
3						
4						
5						

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・2年		
開講時期	3Q	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	精神保健の課題と支援 (科目ナンバリング:PSS122040)				
授業担当者(所属・職名)	佐々木 智城(社会福祉学科・准教授)	研究室所在	1号館2階		
単位数	2 (単位認定責任者: 佐々木 智城)		CAP制		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	精神科病院の勤務経験のある精神保健福祉士が経験も交えながら指導する。		

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	精神保健の視点から見た現代社会の課題とアプローチについて シラバスの説明	指定した教科書を事前に読んでおくこと(90分)	授業の内容をノートにまとめて復習すること。(90分)
2	貧困問題と精神保健について	指定した教科書を事前に読んでおくこと(90分)	授業の内容をノートにまとめて復習すること。(90分)
3	社会的孤立について	指定した教科書を事前に読んでおくこと(90分)	授業の内容をノートにまとめて復習すること。(90分)
4	LGBTと精神保健について	指定した教科書を事前に読んでおくこと(90分)	授業の内容をノートにまとめて復習すること。(90分)
5	精神保健の予防の考え方について	指定した教科書を事前に読んでおくこと(90分)	授業の内容をノートにまとめて復習すること。(90分)
6	アルコール問題に対する対策について	指定した教科書を事前に読んでおくこと(90分)	授業の内容をノートにまとめて復習すること。(90分)
7	薬物依存対策について	指定した教科書を事前に読んでおくこと(90分)	授業の内容をノートにまとめて復習すること。(90分)
8	ギャンブル等依存対策について	指定した教科書を事前に読んでおくこと(90分)	授業の内容をノートにまとめて復習すること。(90分)
9	うつ病と自殺防止対策について	指定した教科書を事前に読んでおくこと(90分)	授業の内容をノートにまとめて復習すること。(90分)
10	子育て支援と暴力、虐待予防について	指定した教科書を事前に読んでおくこと(90分)	授業の内容をノートにまとめて復習すること。(90分)
11	認知症高齢者に対する対策について	指定した教科書を事前に読んでおくこと(90分)	授業の内容をノートにまとめて復習すること。(90分)
12	社会的ひきこもりに対する対策について	指定した教科書を事前に読んでおくこと(90分)	授業の内容をノートにまとめて復習すること。(90分)
13	地域精神保健に関する偏見・差別等の課題について	指定した教科書を事前に読んでおくこと(90分)	授業の内容をノートにまとめて復習すること。(90分)
14	精神保健に関する専門職種(保健師等)と国、都道府県、市町村、団体等の役割及び連携について	指定した教科書を事前に読んでおくこと(90分)	授業の内容をノートにまとめて復習すること。(90分)
15	諸外国の精神保健活動の現状及び対策について	指定した教科書を事前に読んでおくこと(90分)	授業の内容をノートにまとめて復習すること。(90分)
16	レポートについて、最終回において解説しフィードバックする。	レポート作成の準備をすること(90分)	レポートの作成(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・2年		
開講時期	4Q	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	精神障害者の生活支援 (科目ナンバリング: SWS122048)				
授業担当者(所属・職名)	大島 康雄(社会福祉学科・准教授)	研究室所在	1号館2階		
単位数	2 (単位認定責任者: 大島 康雄)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	精神保健福祉士として相談援助を行っていた教員が精神障害者の実際の生活を意識した授業を行います。		

概要

履修目標																					
精神障害自体の理解や精神障害者を取り巻く環境や生活支援のあり方について理解する。																					
授業の位置づけ																					
社会福祉学科のDP「1(1)と(3)と(4)」、「2(2)」に対応する。																					
到達目標																					
障害者福祉の基本的理解を基に、精神障害者を取りまく現状や課題、制度や社会資源の実態について、生活支援の視点から論述できる。																					
授業全体の内容と概要																					
精神保健福祉領域において、権利擁護を含む地域での総合的・継続的なシステムづくりが重要になっている。そのための相談支援体制やサービスの供給体制、ネットワークづくりについて授業を展開する。																					
授業の方法																					
授業態度、単位認定に必要な最低出席回数は、10回以上。視覚教材と教科書、板書、プリントを活用して授業を行います。精神障害者の生活課題をグループで話し合い、個別支援計画を作成してもらいます。質問については、そのつど対応します。																					
アクティブラーニングの実施方法																					
<table border="1"> <tr> <td>プレゼンテーション</td> <td>○</td> <td>グループワーク</td> <td></td> <td>フィールドワーク</td> <td></td> <td>PBL</td> </tr> <tr> <td>模擬授業</td> <td></td> <td>ロールプレイ</td> <td></td> <td>調査学習</td> <td></td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td>○ ディスカッション</td> <td></td> <td>実験・実習・実技</td> <td></td> <td>双方向授業</td> <td></td> <td>その他(授業の方法参照)</td> </tr> </table>	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		PBL	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業	○ ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)
プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		PBL															
模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業															
○ ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)															
履修上の注意事項																					
なし																					
資格指定科目																					
精神保健福祉士国家試験受験資格課程																					

評価方法・基準

評価前提条件					
授業態度、単位認定に必要な最低出席回数は、10回以上。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	50%	30%	20%	0%

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
授業に参加し、教科書や板書、確認テストを受けている。	15回以上授業に参加し、積極的に学習できた。	14回授業に参加し、積極的に学習できた。	13回授業に参加し、積極的に学習できた。	12~10回授業に参加し、積極的に学習できた。	9回以下授業に参加し、積極的に学習できなかった。
確認テストの内容を理解し、定期試験の成績が60点以上である。	確認テストで平均100~90点獲得できた。	確認テストを受けて、定期試験の成績が89~80点以上獲得できた。	確認テストを受けて、定期試験の成績が79~70点以上獲得できた。	確認テストを受けて、定期試験の成績が69~60点以上獲得できた。	確認テストをある程度受け、定期試験の成績が59点以下しか獲得できなかった。
視覚教材を活用し、精神障害者の生活課題を整理し、地域移行支援のプランニングが行える。	視覚教材の問題背景や歴史的な課題を整理し、精神障害者の特性から地域移行のプランを適切に作成できた。	視覚教材の問題背景や歴史的な課題を整理し、精神障害者の特性から地域移行のプランを作成できた。	精神障害者の特性から地域移行のプランを作成できた。	視覚教材の問題背景や歴史的な課題を整理することができた。	課題の整理やプランの作成が行うことができなかった。

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『精神障害者の生活支援システム』	一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟	中央法規	2012年02月	978-4-8058-5596-6	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・2年		
開講時期	4Q	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	精神障害者の生活支援 (科目ナンバリング: SWS122048)				
授業担当者(所属・職名)	大島 康雄(社会福祉学科・准教授)	研究室所在	1号館2階		
単位数	2 (単位認定責任者: 大島 康雄)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	精神保健福祉士として相談援助を行っていた教員が精神障害者の実際の生活を意識した授業を行います。		

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	オリエンテーション、シラバスの説明	事前に教科書を確認(90分)	板書・教科書の復習(90分)
2	精神障害者の概念	事前に教科書を確認(90分)	板書・教科書の復習(90分)
3	精神障害者の生活の実際	事前に教科書を確認(90分)	板書・教科書の復習(90分)
4	精神障害者の生活の実際	事前に教科書を確認(90分)	板書・教科書の復習(90分)
5	精神障害者の生活と人権 グループワーク	事前に教科書を確認(90分)	板書・教科書の復習(90分)
6	精神障害者の地域生活支援システム アセスメント	事前に教科書を確認(90分)	板書・教科書の復習(90分)
7	精神障害者の地域生活支援システム プラン作成	事前に教科書を確認(90分)	板書・教科書の復習(90分)
8	精神障害者の居住支援	事前に教科書を確認(90分)	板書・教科書の復習(90分)
9	精神障害者の居住支援	事前に教科書を確認(90分)	板書・教科書の復習(90分)
10	精神障害者の雇用・就業支援	事前に教科書を確認(90分)	板書・教科書の復習(90分)
11	精神障害者の雇用・就業支援	事前に教科書を確認(90分)	板書・教科書の復習(90分)
12	精神障害者の雇用・就業支援	事前に教科書を確認(90分)	板書・教科書の復習(90分)
13	行政における相談援助	事前に教科書を確認(90分)	板書・教科書の復習(90分)
14	精神保健福祉の動向	事前に教科書を確認(90分)	板書・教科書の復習(90分)
15	まとめ	事前に教科書を確認(90分)	板書・教科書の復習(90分)
16	確認テスト及び確認テストの解説	テスト問題の事前学習(90分)	確認テストの振り返り(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・1年		
開講時期	3Q	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	保育内容総論 (科目ナンバリング: CHS121086)				
授業担当者(所属・職名)	佐藤 慶知(社会福祉学科・非常勤講師)		研究室所在	1号館1階非常勤講師室	
単位数	1	(単位認定責任者: 佐藤 慶知)	CAP制		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	保育現場における実務経験を活かし、保育の基本と保育内容との関連を講義する。		

概要

履修目標
この科目は、以下の4つを授業の目的とする。 1 保育所保育指針における「保育の目標」「育みたい資質・能力」「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」と「保育の内容」の関連を理解する。 2 保育所保育指針の各章のつながり、保育の全体的な構造について理解する。 3 子どもの発達や生活を取り巻く社会的背景や歴史の変遷を踏まえ、保育の内容の基本的な考え方を、子どもの発達や実態に即した具体的な保育の過程につなげて理解する。 4 保育の多様な展開について具体的に理解する。

授業の位置づけ
社会福祉学科のDP「1(1)」、「2(2)」に対応する。

到達目標
保育所保育指針をもとに保育の全体構造と保育内容について理解できる。保育の基本を踏まえた保育内容の展開と保育の多様な展開について理解できる。

授業全体の内容と概要
保育の全体構造と保育内容について学修する。保育の基本を踏まえた保育内容の展開及び保育の多様な展開について学修する。

授業の方法
授業は、板書とパワーポイント、グループ学習を取り入れ、意見を出し合う場を多く設定する。リアクションペーパーを活用し、質問に対する返答等コメントしてフィードバックする。

アクティブラーニングの実施方法												
<table border="1"> <tr> <td>プレゼンテーション</td> <td>グループワーク</td> <td>フィールドワーク</td> <td>PBL</td> </tr> <tr> <td>模擬授業</td> <td>ロールプレイ</td> <td>調査学習</td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td>ディスカッション</td> <td>実験・実習・実技</td> <td>双方向授業</td> <td>その他(授業の方法参照)</td> </tr> </table>	プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL	模擬授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業	ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)
プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL									
模擬授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業									
ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)									

履修上の注意事項
課題の提出方法及び課題・平常点の評価方法は、授業時間に説明する。

資格指定科目
保育士養成課程

評価方法・基準

評価前提条件												
単位認定に必要な最低出席回数は6回以上。												
評価方法												
<table border="1"> <tr> <th>定期試験</th> <th>レポート</th> <th>課題・作品</th> <th>中間テスト</th> <th>平常点</th> <th>その他</th> </tr> <tr> <td>50%</td> <td>0%</td> <td>20%</td> <td>0%</td> <td>30%</td> <td>0%</td> </tr> </table>	定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他	50%	0%	20%	0%	30%	0%
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他							
50%	0%	20%	0%	30%	0%							

ルーブリック																													
<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">評価項目</th> <th colspan="5">評価基準</th> </tr> <tr> <th>履修項目を超えたレベルを達成している</th> <th>履修項目をほぼ達成している</th> <th>履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している</th> <th>到達目標を達成している</th> <th>到達目標を達成していない</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>知識・技能(何を知っているか、何ができるか)</td> <td>保育の全体構造について、基礎的な知識を深く理解できた。</td> <td>保育の全体構造について、基礎的な知識をおおむね理解できた。</td> <td>保育の全体構造について、基礎的な知識を理解できた。</td> <td>保育の全体構造について、基礎的な知識をやや理解できた。</td> <td>保育の全体構造について、基礎的な知識の理解が難しかった。</td> </tr> <tr> <td>思考力判断力表現力等(知っていること、できることをどう使うか)</td> <td>保育の基本を踏まえた保育内容の展開について十分に考察できた。</td> <td>保育の基本を踏まえた保育内容の展開についておおむね考察できた。</td> <td>保育の基本を踏まえた保育内容の展開について考察できた。</td> <td>保育の基本を踏まえた保育内容の展開についてやや考察できた。</td> <td>保育の基本を踏まえた保育内容の展開について考察することができなかった。</td> </tr> <tr> <td>主体的に取り組む態度(どのように関わるか)</td> <td>保育の多様な展開について理解したことをわかりやすく説明できた。</td> <td>保育の多様な展開について理解したことをおおむね説明できた。</td> <td>保育の多様な展開について理解したことを説明できた。</td> <td>保育の多様な展開について理解したことをやや説明できた。</td> <td>保育の多様な展開について理解したことを説明することはできなかった。</td> </tr> </tbody> </table>	評価項目	評価基準					履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない	知識・技能(何を知っているか、何ができるか)	保育の全体構造について、基礎的な知識を深く理解できた。	保育の全体構造について、基礎的な知識をおおむね理解できた。	保育の全体構造について、基礎的な知識を理解できた。	保育の全体構造について、基礎的な知識をやや理解できた。	保育の全体構造について、基礎的な知識の理解が難しかった。	思考力判断力表現力等(知っていること、できることをどう使うか)	保育の基本を踏まえた保育内容の展開について十分に考察できた。	保育の基本を踏まえた保育内容の展開についておおむね考察できた。	保育の基本を踏まえた保育内容の展開について考察できた。	保育の基本を踏まえた保育内容の展開についてやや考察できた。	保育の基本を踏まえた保育内容の展開について考察することができなかった。	主体的に取り組む態度(どのように関わるか)	保育の多様な展開について理解したことをわかりやすく説明できた。	保育の多様な展開について理解したことをおおむね説明できた。	保育の多様な展開について理解したことを説明できた。	保育の多様な展開について理解したことをやや説明できた。	保育の多様な展開について理解したことを説明することはできなかった。
評価項目		評価基準																											
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない																								
知識・技能(何を知っているか、何ができるか)	保育の全体構造について、基礎的な知識を深く理解できた。	保育の全体構造について、基礎的な知識をおおむね理解できた。	保育の全体構造について、基礎的な知識を理解できた。	保育の全体構造について、基礎的な知識をやや理解できた。	保育の全体構造について、基礎的な知識の理解が難しかった。																								
思考力判断力表現力等(知っていること、できることをどう使うか)	保育の基本を踏まえた保育内容の展開について十分に考察できた。	保育の基本を踏まえた保育内容の展開についておおむね考察できた。	保育の基本を踏まえた保育内容の展開について考察できた。	保育の基本を踏まえた保育内容の展開についてやや考察できた。	保育の基本を踏まえた保育内容の展開について考察することができなかった。																								
主体的に取り組む態度(どのように関わるか)	保育の多様な展開について理解したことをわかりやすく説明できた。	保育の多様な展開について理解したことをおおむね説明できた。	保育の多様な展開について理解したことを説明できた。	保育の多様な展開について理解したことをやや説明できた。	保育の多様な展開について理解したことを説明することはできなかった。																								

教科書・参考文献・資料等

教科書																																										
<table border="1"> <thead> <tr> <th>No</th> <th>書籍名</th> <th>著者</th> <th>出版社</th> <th>出版年</th> <th>ISBN</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>4</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>5</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>	No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考	1							2							3							4							5						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考																																				
1																																										
2																																										
3																																										
4																																										
5																																										

参考文献・資料等																																										
<table border="1"> <thead> <tr> <th>No</th> <th>書籍名</th> <th>著者</th> <th>出版社</th> <th>出版年</th> <th>ISBN</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>『保育所保育指針<平成29年告示>』</td> <td>厚生労働省</td> <td>フレーベル館</td> <td>2017</td> <td>9784577814239</td> <td></td> </tr> <tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>4</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>5</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>	No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考	1	『保育所保育指針<平成29年告示>』	厚生労働省	フレーベル館	2017	9784577814239		2							3							4							5						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考																																				
1	『保育所保育指針<平成29年告示>』	厚生労働省	フレーベル館	2017	9784577814239																																					
2																																										
3																																										
4																																										
5																																										

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・1年		
開講時期	3Q	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	保育内容総論 (科目ナンバリング: CHS121086)				
授業担当者(所属・職名)	佐藤 慶知(社会福祉学科・非常勤講師)		研究室所在	1号館1階非常勤講師室	
単位数	1 (単位認定責任者: 佐藤 慶知)		CAP制		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容 保育現場における実務経験を活かし、保育の基本と保育内容との関連を講義する。			

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	シラバスの説明 保育所保育指針に基づく保育の全体構造と保育内容の理解	保育指針内容を事前に読むこと(90分)。	1回目の授業で理解した点を整理する(90分)。
2	保育の内容の歴史的概観とその社会的背景	保育の歴史の変遷を事前学習しておく(90分)。	2回目の授業で理解した点を整理する(90分)。
3	子どもの発達や生活に即した保育の内容の基本的な考え方	保育内容の基本を事前学習しておく(90分)。	3回目の授業で理解した点を整理する(90分)。
4	保育の基本的な考え方 看護と教育が一体的な保育、子どもの主体性、環境を通して行う保育	環境保育に関して事前学習しておく(90分)。	4回目の授業で理解した点を整理する(90分)。
5	保育の基本的な考え方 生活や遊びによる総合的な保育、個と集団の発達を踏まえた保育	総合的保育に関して事前学習しておく(90分)。	5回目の授業で理解した点を整理する(90分)。
6	保育の基本的な考え方 家庭・地域、小学校等との連携を踏まえた保育	地域連携について事前学習しておく(90分)。	6回目の授業で理解した点を整理する(90分)。
7	多様化する保育ニーズへの対応と特別な配慮を必要とする子どもの保育、多文化共生の保育、まとめ	特別な保育の内容を事前学習しておく(90分)。	7回目の授業で理解した点を整理する(90分)。
8	定期試験60分。試験終了後に解説を行う	講義内容を振り返り復習する(90分)。	試験、課題の解説に基づき復習し整理する(90分)。
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
16			

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・2年		
開講時期	前期集中	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	自然地理学 (科目ナンバリング: GGR122139)				
授業担当者(所属・職名)	鈴木 正章(社会福祉学科・非常勤講師)	研究室所在	1号館1階	非常勤講師室	
単位数	2 (単位認定責任者: 鈴木 正章)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

概要

履修目標
自然地理学の地理学における位置とその対象が地球の地表面の岩石圏・水圏・大気圏である。本講義では、地形学を中心に自然地理学の理解を深める。また、地表面を把握するためのツールとしての地形図を使った作業を通して地表空間の地形の理解、すなわち地表面の凹凸がどのような成因で形成されるのか、その結果としてどのような地形が形成されるのかを理解することができる。

授業の位置づけ
社会福祉学科のDP「1(2)と(3)と(4)と(5)」、「2(2)」に対応する。

到達目標
地表空間にはどのような地形が観られるのか、国土地理院発行の1:25,000の地形図の等高線から地形が判読できるようになる。また、その地形がどのような営力できているのか理解できるようになる。

授業全体の内容と概要
自然地理学の地理学における位置、その系譜を講述し、地形図の作業を通して地表空間を理解する。また、地形の形成要因からどの結果としてどのような地形がつくられるのかを講述する。

授業の方法
授業の具体的な形態: 講義形式、 進行方法: おもにパワーポイントと板書、 使用する教材: 配布資料及びビデオ、 課題に対する説明: 地図作業を課題として予定しているので、赤色と青色の色鉛筆の用意、 要望への対応等: 集中講義期間中随時対応します。

アクティブラーニングの実施方法												
<table border="1"> <tr> <td>プレゼンテーション</td> <td>グループワーク</td> <td>フィールドワーク</td> <td>PBL</td> </tr> <tr> <td>模擬授業</td> <td>ロールプレイ</td> <td>調査学習</td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td>ディスカッション</td> <td>実験・実習・実技</td> <td>双方向授業</td> <td>その他(授業の方法参照)</td> </tr> </table>	プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL	模擬授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業	ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)
プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL									
模擬授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業									
ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)									

履修上の注意事項
受講者数の制限: なし、 受講条件: なし、 履修に必要な知識・学力等: 本学の学生であれば全て可、 遅刻・欠席等のルール等: クラブ等でやむ負えなく欠席する場合には、届けを出して承認を得ること、 受講の心構え: 受講を集中講義であるため、日毎に出される課題を復習として着実に取り組むこと。

資格指定科目
教職課程(社会・地理歴史)必須科目

評価方法・基準

評価前提条件												
単位認定に必要な最低出席回数は、10回以上とする。												
評価方法												
<table border="1"> <tr> <th>定期試験</th> <th>レポート</th> <th>課題・作品</th> <th>中間テスト</th> <th>平常点</th> <th>その他</th> </tr> <tr> <td>0%</td> <td>15%</td> <td>15%</td> <td>40%</td> <td>30%</td> <td>0%</td> </tr> </table>	定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他	0%	15%	15%	40%	30%	0%
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他							
0%	15%	15%	40%	30%	0%							

ルーブリック																													
<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">評価項目</th> <th colspan="5">評価基準</th> </tr> <tr> <th>履修項目を超えたレベルを達成している</th> <th>履修項目をほぼ達成している</th> <th>履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している</th> <th>到達目標を達成している</th> <th>到達目標を達成していない</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>地形図の作業(谷・尾根線及び断面図の作成)を通じ、地表空間に展開する地形の理解</td> <td>地形図の等高線のコンターワークから谷線や尾根線をして地形空間に展開する地形断面図することができた。さらに、等高線から地形が読み取ることができた。</td> <td>地形図の等高線のコンターワークから谷線や尾根線をして地形空間に展開する地形断面図することができた。</td> <td>地形図の等高線のコンターワークから谷線や尾根線をして地形空間に展開する地形断面図することができた。</td> <td>地形図の等高線のコンターワークから谷線や尾根線をして地形空間に展開する地形断面図することができた。</td> <td>地形図の等高線のコンターワークから谷線や尾根線をして地形空間に展開する地形断面図することができなかった。</td> </tr> <tr> <td>現在の地表空間に広がる地形がどのような営力で形成されてきたのか、その理解</td> <td>地形を形成する営力について説明でき、さらにそれらの営力がどのような地形を形成するのか説明できた。なおかつそれぞれ地形が地表空間において理解でき、地図上で読図できた。</td> <td>地形を形成する営力について説明でき、さらにそれらの営力がどのような地形を形成するのか説明できた。なおかつそれぞれ地形が地表空間において理解できた。</td> <td>地形を形成する営力について説明でき、さらにそれらの営力がどのような地形を形成するのか説明できた。</td> <td>地形を形成する営力について説明できた。</td> <td>地形の形成する営力について説明できなかった。</td> </tr> <tr> <td>人々の生活や生産活動の基盤になる地表空間にはどのような地形が分布し、それらの地形の形成過程や形成要因の理解</td> <td>人々の生活や生産活動の基盤になっている地表空間がどのような地形や地盤でできているのか、それらの地形の空間的配置、形成過程及び形成要因を説明できた。</td> <td>人々の生活や生産活動の基盤になっている地表空間がどのような地形や地盤でできているのか、それらの地形の空間的配置及び形成過程を説明できた。</td> <td>人々の生活や生産活動の基盤になっている地表空間がどのような地形や地盤でできているのか、さらにそれらの地形の空間的配置が説明できた。</td> <td>人々の生活や生産活動の基盤になっている地表空間がどのような地形や地盤でできているのかを説明できた。</td> <td>人々の生活や生産活動の基盤になっている地表空間がどのような地形や地盤でできているのかを説明できなかった。</td> </tr> </tbody> </table>	評価項目	評価基準					履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない	地形図の作業(谷・尾根線及び断面図の作成)を通じ、地表空間に展開する地形の理解	地形図の等高線のコンターワークから谷線や尾根線をして地形空間に展開する地形断面図することができた。さらに、等高線から地形が読み取ることができた。	地形図の等高線のコンターワークから谷線や尾根線をして地形空間に展開する地形断面図することができた。	地形図の等高線のコンターワークから谷線や尾根線をして地形空間に展開する地形断面図することができた。	地形図の等高線のコンターワークから谷線や尾根線をして地形空間に展開する地形断面図することができた。	地形図の等高線のコンターワークから谷線や尾根線をして地形空間に展開する地形断面図することができなかった。	現在の地表空間に広がる地形がどのような営力で形成されてきたのか、その理解	地形を形成する営力について説明でき、さらにそれらの営力がどのような地形を形成するのか説明できた。なおかつそれぞれ地形が地表空間において理解でき、地図上で読図できた。	地形を形成する営力について説明でき、さらにそれらの営力がどのような地形を形成するのか説明できた。なおかつそれぞれ地形が地表空間において理解できた。	地形を形成する営力について説明でき、さらにそれらの営力がどのような地形を形成するのか説明できた。	地形を形成する営力について説明できた。	地形の形成する営力について説明できなかった。	人々の生活や生産活動の基盤になる地表空間にはどのような地形が分布し、それらの地形の形成過程や形成要因の理解	人々の生活や生産活動の基盤になっている地表空間がどのような地形や地盤でできているのか、それらの地形の空間的配置、形成過程及び形成要因を説明できた。	人々の生活や生産活動の基盤になっている地表空間がどのような地形や地盤でできているのか、それらの地形の空間的配置及び形成過程を説明できた。	人々の生活や生産活動の基盤になっている地表空間がどのような地形や地盤でできているのか、さらにそれらの地形の空間的配置が説明できた。	人々の生活や生産活動の基盤になっている地表空間がどのような地形や地盤でできているのかを説明できた。	人々の生活や生産活動の基盤になっている地表空間がどのような地形や地盤でできているのかを説明できなかった。
評価項目		評価基準																											
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない																								
地形図の作業(谷・尾根線及び断面図の作成)を通じ、地表空間に展開する地形の理解	地形図の等高線のコンターワークから谷線や尾根線をして地形空間に展開する地形断面図することができた。さらに、等高線から地形が読み取ることができた。	地形図の等高線のコンターワークから谷線や尾根線をして地形空間に展開する地形断面図することができた。	地形図の等高線のコンターワークから谷線や尾根線をして地形空間に展開する地形断面図することができた。	地形図の等高線のコンターワークから谷線や尾根線をして地形空間に展開する地形断面図することができた。	地形図の等高線のコンターワークから谷線や尾根線をして地形空間に展開する地形断面図することができなかった。																								
現在の地表空間に広がる地形がどのような営力で形成されてきたのか、その理解	地形を形成する営力について説明でき、さらにそれらの営力がどのような地形を形成するのか説明できた。なおかつそれぞれ地形が地表空間において理解でき、地図上で読図できた。	地形を形成する営力について説明でき、さらにそれらの営力がどのような地形を形成するのか説明できた。なおかつそれぞれ地形が地表空間において理解できた。	地形を形成する営力について説明でき、さらにそれらの営力がどのような地形を形成するのか説明できた。	地形を形成する営力について説明できた。	地形の形成する営力について説明できなかった。																								
人々の生活や生産活動の基盤になる地表空間にはどのような地形が分布し、それらの地形の形成過程や形成要因の理解	人々の生活や生産活動の基盤になっている地表空間がどのような地形や地盤でできているのか、それらの地形の空間的配置、形成過程及び形成要因を説明できた。	人々の生活や生産活動の基盤になっている地表空間がどのような地形や地盤でできているのか、それらの地形の空間的配置及び形成過程を説明できた。	人々の生活や生産活動の基盤になっている地表空間がどのような地形や地盤でできているのか、さらにそれらの地形の空間的配置が説明できた。	人々の生活や生産活動の基盤になっている地表空間がどのような地形や地盤でできているのかを説明できた。	人々の生活や生産活動の基盤になっている地表空間がどのような地形や地盤でできているのかを説明できなかった。																								

教科書・参考文献・資料等

教科書																																										
<table border="1"> <tr> <th>No</th> <th>書籍名</th> <th>著者</th> <th>出版社</th> <th>出版年</th> <th>ISBN</th> <th>備考</th> </tr> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>4</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>5</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考	1							2							3							4							5						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考																																				
1																																										
2																																										
3																																										
4																																										
5																																										

参考文献・資料等																																										
<table border="1"> <tr> <th>No</th> <th>書籍名</th> <th>著者</th> <th>出版社</th> <th>出版年</th> <th>ISBN</th> <th>備考</th> </tr> <tr> <td>1</td> <td>『配布資料』</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>4</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>5</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考	1	『配布資料』						2							3							4							5						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考																																				
1	『配布資料』																																									
2																																										
3																																										
4																																										
5																																										

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・2年		
開講時期	前期集中	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	自然地理学 (科目ナンバリング: GGR122139)				
授業担当者(所属・職名)	鈴木 正章 (社会福祉学科・非常勤講師)		研究室所在	1号館1階 非常勤講師室	
単位数	2 (単位認定責任者: 鈴木 正章)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	シラバスの説明、講義内容と授業計画のガイダンス	本授業のシラバスの熟読しておくこと。(90分)	地理学とはどのような学問なのかインターネットで調べてまとめる。(90分)
2	地理学とその方法	地理学の系譜についてインターネットなどで調べておくこと。(90分)	地理学と地図の歴史をまとめる。(90分)
3	地形図の理解 (道具としての地図の種類と用途)	身の回りにどのような地図があるのか調べてみる。	地理調査に使用する地図にどのようなものがあるのかまとめる。(90分)
4	地形図の理解 (等高線から地形を読む)	国土地理院発行の地形図に盛り込まれている情報にどのようなものがあらかしめ確認しておくこと。(90分)	地形図に盛り込まれている等高線からどのような地形を読み取れるか習熟すること。(90分)
5	地形図の理解 (谷尾根線や地形断面図の書き方)	地形図に含まれる高さ(標高)を表す地図記号を探しておくこと。(90分)	地形図の等高線や高低差を表わす地図記号を読み断面図や谷尾根線が描けるよう練習しておくこと。(90分)
6	地形を形成する営力	地形形成営力について調べておくこと。(90分)	地形形成営力にはどのようなものがあるのか整理しておくこと。(90分)
7	地形を形成する営力	マスマーブメントについて調べておくこと。(90分)	マスマーブメントにはどのようなものがあるのか整理しておくこと。(90分)
8	地形を形成する営力	河成作用について調べておくこと。(90分)	河成作用について整理をしてまとめておくこと。(90分)
9	地形を形成する営力IV (第1回テスト)	浸食輪廻とは何か調べておくこと。(90分)	浸食輪廻のプロセスについて整理しておくこと。(90分)
10	氷河地形	氷河の作用について調べておくこと。(90分)	氷河の作用について調べておくこと。(90分)
11	平野の地形 (構造平野・ケスタ地形)	浸食平野のことに調べておくこと。(90分)	浸食平野についてまとめておくこと。(90分)
12	平野の地形 (丘陵・台地)	堆積平野のことに調べておくこと。(90分)	浸食平野と堆積平野の違いについて整理しておくこと。(90分)
13	平野の地形 (扇状地・氾濫原平野)	河川が形成する平野の地形について調べておくこと。(90分)	河川が作る地形についてまとめておくこと。(90分)
14	平野の地形 (三角州・海岸地形)	海岸線で観られる平野の地形について調べておくこと。(90分)	河口付近や海岸付近で観られる地形について調べておくこと。(90分)
15	沖積平野の形成過程	水河性海面変動と河岸段丘について調べて置くこと。(90分)	沖積平野の形成と過去の海面変化の関係について調べておくこと。(90分)
16	まとめ及び講評 (第2回テスト)	これまで授業のまとめをししておくこと。(90分)	これまで授業のまとめをして整理しておくこと。(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・2年		
開講時期	後期集中	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	自然地理学 (科目ナンバリング: GGR122140)				
授業担当者(所属・職名)	鈴木 正章 (社会福祉学科・非常勤講師)	研究室所在	1号館1階	非常勤講師室	
単位数	2 (単位認定責任者: 鈴木 正章)		CAP制		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

概要

履修目標
自然地理学 に引き続き地形学を中心に自然地理学の理解を深めることと我々の生活の身の回りに発生する自然災害について理解することが出来る。

授業の位置づけ
社会福祉学科のDP「1(2)と(3)と(4)と(5)」、「2(2)」に対応する。

到達目標
変動帯とよばれている日本列島にはなぜ地震や火山活動が多いのかその理由が説明することができるようになる。地形図の読図や空中写真判読から地形の様子が理解できるようになる。自然災害に対する防災について考えることが出来るようになる。

授業全体の内容と概要
日本列島はなぜ地震や火山が多いのかプレートの運動、火山分布や活断層の運動の仕方などから説明する。また、活断層がどのような活動するのか阿寺断層の地図作業をとおして説明する。それらによってもたらされる自然災害について講述する。

授業の方法
授業の具体的な形態: 講義形式、 進行方法: おもにパワーポイントと板書、 使用する教材: 配布資料及びビデオ、 課題に対する説明: 地図作業を課題として予定しているので、12色程度の鉛筆の用意、 要理への対応等: 集中講義期間中随時対応します。

アクティブラーニングの実施方法																					
<table border="1"> <tr> <td>プレゼンテーション</td> <td></td> <td>グループワーク</td> <td></td> <td>フィールドワーク</td> <td></td> <td>PBL</td> </tr> <tr> <td>模擬授業</td> <td></td> <td>ロールプレイ</td> <td></td> <td>調査学習</td> <td></td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td>ディスカッション</td> <td></td> <td>実験・実習・実技</td> <td></td> <td>双方向授業</td> <td></td> <td>その他(授業の方法参照)</td> </tr> </table>	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)
プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL															
模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業															
ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)															

履修上の注意事項
受講者数の制限: なし、 受講条件: なし、 履修に必要な知識・学力等: 本学の学生であれば全て可、 遅刻・欠席等のルール等: クラブ等でやむ負えなく欠席する場合には、届けを出して承認を得ること、 受講の心構え: 受講を集中講義であるため、日毎に出される課題を復習として着実に取り組むこと。なお、高等学校で使用した地図帳が資料として参照できることが望ましい。

資格指定科目
教職課程(地理歴史)必須科目。

評価方法・基準

評価前提条件												
単位認定に必要な最低出席回数は、10回以上とする。												
評価方法												
<table border="1"> <tr> <th>定期試験</th> <th>レポート</th> <th>課題・作品</th> <th>中間テスト</th> <th>平常点</th> <th>その他</th> </tr> <tr> <td>0%</td> <td>15%</td> <td>15%</td> <td>40%</td> <td>30%</td> <td>0%</td> </tr> </table>	定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他	0%	15%	15%	40%	30%	0%
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他							
0%	15%	15%	40%	30%	0%							

ルーブリック																																			
<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">評価項目</th> <th colspan="5">評価基準</th> </tr> <tr> <th>履修項目を超えたレベルを達成している</th> <th>履修項目をほぼ達成している</th> <th>履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している</th> <th>到達目標を達成している</th> <th>到達目標を達成していない</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>プレートテクトニクスに基づく地球表面を覆うプレートの運動でどのような地形が形成されるのか説明できる。</td> <td>プレートとは何か、世界の地表を覆っているプレートの分布、プレートの運動について説明できた。その結果としてどのような地形が形成されるのか説明できた。</td> <td>プレートとは何か、世界の地表を覆っているプレートの分布、プレートの運動について説明できた。その結果としてどのような地形が形成されるのか説明できた。</td> <td>プレートとは何か、世界の地表を覆っているプレートの分布、それらのプレートの運動について説明できた。</td> <td>プレートとは何か、世界の地表を覆っているプレートの分布を説明できた。</td> <td>プレートとは何か、世界の地表を覆っているプレートの分布を説明できなかった。</td> </tr> <tr> <td>世界の火山分布や地震帯とプレートの運動の関係の理解。</td> <td>世界の火山分布と地震帯の分布の特徴が説明できた。さらに、それらの分布の特徴と生じる原因とプレートの運動の関係から説明できた。</td> <td>世界の火山分布と地震帯の分布の特徴が説明できた。さらに、それらの分布の特徴をプレートの運動の関係から説明できた。</td> <td>世界の火山分布と地震帯の分布の特徴が説明できた。</td> <td>世界の火山分布とその特徴が説明できた。</td> <td>世界の火山分布とその特徴を説明できなかった。</td> </tr> <tr> <td>活断層についての理解。</td> <td>活断層とは何か?さらに、日本列島の活断層の分布の特徴をプレートの運動の関係から説明できた。また、空中写真から活断層を判読でき、活断層の活動の仕方を説明できた。</td> <td>活断層とは何か?さらに、日本列島の活断層の分布の特徴をプレートの運動の関係から説明できた。空中写真から活断層を判読できた。</td> <td>活断層とは何か?さらに、日本列島の活断層の分布の特徴をプレートの運動の関係から説明できた。</td> <td>活断層とは何か?説明できなかった。</td> <td>活断層とは何か?説明できなかった。</td> </tr> <tr> <td>火山活動と噴火様式についての理解</td> <td>火山の噴火現象について説明でき、それによって生じる噴出物についてどのような物があり、それぞれの性質や特徴が説明できた。さらに噴火様式及び火山地形について説明できた。</td> <td>火山の噴火現象について説明でき、それによって生じる噴出物についてどのような物があり、それぞれの性質や特徴が説明できた。さらに噴火様式について説明できた。</td> <td>火山の噴火現象について説明でき、それによってもたらされた噴出物についてどのような物があり、それぞれの性質や特徴が説明できた。</td> <td>火山の噴火現象について説明できた。</td> <td>火山の噴火現象について説明できなかった。</td> </tr> </tbody> </table>	評価項目	評価基準					履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない	プレートテクトニクスに基づく地球表面を覆うプレートの運動でどのような地形が形成されるのか説明できる。	プレートとは何か、世界の地表を覆っているプレートの分布、プレートの運動について説明できた。その結果としてどのような地形が形成されるのか説明できた。	プレートとは何か、世界の地表を覆っているプレートの分布、プレートの運動について説明できた。その結果としてどのような地形が形成されるのか説明できた。	プレートとは何か、世界の地表を覆っているプレートの分布、それらのプレートの運動について説明できた。	プレートとは何か、世界の地表を覆っているプレートの分布を説明できた。	プレートとは何か、世界の地表を覆っているプレートの分布を説明できなかった。	世界の火山分布や地震帯とプレートの運動の関係の理解。	世界の火山分布と地震帯の分布の特徴が説明できた。さらに、それらの分布の特徴と生じる原因とプレートの運動の関係から説明できた。	世界の火山分布と地震帯の分布の特徴が説明できた。さらに、それらの分布の特徴をプレートの運動の関係から説明できた。	世界の火山分布と地震帯の分布の特徴が説明できた。	世界の火山分布とその特徴が説明できた。	世界の火山分布とその特徴を説明できなかった。	活断層についての理解。	活断層とは何か?さらに、日本列島の活断層の分布の特徴をプレートの運動の関係から説明できた。また、空中写真から活断層を判読でき、活断層の活動の仕方を説明できた。	活断層とは何か?さらに、日本列島の活断層の分布の特徴をプレートの運動の関係から説明できた。空中写真から活断層を判読できた。	活断層とは何か?さらに、日本列島の活断層の分布の特徴をプレートの運動の関係から説明できた。	活断層とは何か?説明できなかった。	活断層とは何か?説明できなかった。	火山活動と噴火様式についての理解	火山の噴火現象について説明でき、それによって生じる噴出物についてどのような物があり、それぞれの性質や特徴が説明できた。さらに噴火様式及び火山地形について説明できた。	火山の噴火現象について説明でき、それによって生じる噴出物についてどのような物があり、それぞれの性質や特徴が説明できた。さらに噴火様式について説明できた。	火山の噴火現象について説明でき、それによってもたらされた噴出物についてどのような物があり、それぞれの性質や特徴が説明できた。	火山の噴火現象について説明できた。	火山の噴火現象について説明できなかった。
評価項目		評価基準																																	
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない																														
プレートテクトニクスに基づく地球表面を覆うプレートの運動でどのような地形が形成されるのか説明できる。	プレートとは何か、世界の地表を覆っているプレートの分布、プレートの運動について説明できた。その結果としてどのような地形が形成されるのか説明できた。	プレートとは何か、世界の地表を覆っているプレートの分布、プレートの運動について説明できた。その結果としてどのような地形が形成されるのか説明できた。	プレートとは何か、世界の地表を覆っているプレートの分布、それらのプレートの運動について説明できた。	プレートとは何か、世界の地表を覆っているプレートの分布を説明できた。	プレートとは何か、世界の地表を覆っているプレートの分布を説明できなかった。																														
世界の火山分布や地震帯とプレートの運動の関係の理解。	世界の火山分布と地震帯の分布の特徴が説明できた。さらに、それらの分布の特徴と生じる原因とプレートの運動の関係から説明できた。	世界の火山分布と地震帯の分布の特徴が説明できた。さらに、それらの分布の特徴をプレートの運動の関係から説明できた。	世界の火山分布と地震帯の分布の特徴が説明できた。	世界の火山分布とその特徴が説明できた。	世界の火山分布とその特徴を説明できなかった。																														
活断層についての理解。	活断層とは何か?さらに、日本列島の活断層の分布の特徴をプレートの運動の関係から説明できた。また、空中写真から活断層を判読でき、活断層の活動の仕方を説明できた。	活断層とは何か?さらに、日本列島の活断層の分布の特徴をプレートの運動の関係から説明できた。空中写真から活断層を判読できた。	活断層とは何か?さらに、日本列島の活断層の分布の特徴をプレートの運動の関係から説明できた。	活断層とは何か?説明できなかった。	活断層とは何か?説明できなかった。																														
火山活動と噴火様式についての理解	火山の噴火現象について説明でき、それによって生じる噴出物についてどのような物があり、それぞれの性質や特徴が説明できた。さらに噴火様式及び火山地形について説明できた。	火山の噴火現象について説明でき、それによって生じる噴出物についてどのような物があり、それぞれの性質や特徴が説明できた。さらに噴火様式について説明できた。	火山の噴火現象について説明でき、それによってもたらされた噴出物についてどのような物があり、それぞれの性質や特徴が説明できた。	火山の噴火現象について説明できた。	火山の噴火現象について説明できなかった。																														

教科書・参考文献・資料等

教科書																																										
<table border="1"> <thead> <tr> <th>No</th> <th>書籍名</th> <th>著者</th> <th>出版社</th> <th>出版年</th> <th>ISBN</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>4</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>5</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>	No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考	1							2							3							4							5						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考																																				
1																																										
2																																										
3																																										
4																																										
5																																										

参考文献・資料等																																										
<table border="1"> <thead> <tr> <th>No</th> <th>書籍名</th> <th>著者</th> <th>出版社</th> <th>出版年</th> <th>ISBN</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td>『配布資料』</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>4</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>5</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>	No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考	1	『配布資料』						2							3							4							5						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考																																				
1	『配布資料』																																									
2																																										
3																																										
4																																										
5																																										

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・2年		
開講時期	後期集中	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	自然地理学 (科目ナンバリング: GGR122140)				
授業担当者(所属・職名)	鈴木 正章 (社会福祉学科・非常勤講師)	研究室所在	1号館1階	非常勤講師室	
単位数	2 (単位認定責任者: 鈴木 正章)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	講義内容と授業計画のガイダンス シラバスの説明	本授業のシラバスの熟読しておくこと。(90分)	世界の地震や火山がどのような所に多いのかまとめておくこと。(90分)
2	プレートテクトニクス(1)	大陸移動説について調べておくこと。(90分)	大陸移動説を提唱したウエグナーの業績についてまとめておくこと。(90分)
3	プレートテクトニクス(2)	プレートのことについてインターネットなどで調べておくこと。(90分)	プレートと地殻やマントルの違いについて整理しておくこと。(90分)
4	日本列島の地質構造(プレートの運動との関係)	日本列島および周辺にはどのプレートが分布しているのか調べておくこと。(90分)	日本列島の地質構造とプレートの関係をまとめておくこと。(90分)
5	日本列島の生い立ち	日本列島の地質について調べておくこと。(90分)	日本列島の生成過程についてまとめておくこと。(90分)
6	活断層とは(断層, 断層の運動と種類, 活断層の定義)	断層にはどのような種類があるのか調べておくこと。(90分)	活断層とどのような断層なのかまとめておくこと。(90分)
7	日本の活断層の分布と特徴	日本列島の活断層の分布図を観て分布する特徴を考えてみよう。(90分)	日本列島の活断層の分布の特徴を整理しておくこと。(90分)
8	阿寺断層(1)(活断層としての特徴)	阿寺断層の日本列島における位置を調べておくこと。(90分)	地図作業を通して阿寺断層がどのような性質をもつ断層なのかまとめておくこと。(90分)
9	阿寺断層(2)(活断層としての運動の仕方)(第1回テスト)	河岸段丘のことについて調べておくこと。(90分)	活断層の運動の仕方を整理しておくこと。(90分)
10	火山活動とは	火山の定義について調べておくこと。(90分)	世界の火山の分布の特徴とプレートとの関係を整理しておくこと。(90分)
11	火山の噴火現象	様々な火山の噴火の様子をインターネットで調べておくこと。(90分)	火山ごとの噴火の様子の違を整理しておくこと。(90分)
12	火山の噴火様式	火山噴火の様式について調べておくこと(90分)	火山ごとに噴火様式の違う理由を整理しておくこと(90分)
13	日本列島における火山の特徴	火山フロントとは何か調べておくこと。(90分)	日本列島に活動的な火山が多い理由をまとめておくこと。(90分)
14	日本列島における自然災害	日本列島でこれまで経験した地震災害について調べておくこと。(90分)	日本列島で地震災害が多い理由につてまとめておくこと(90分)
15	日本列島における自然災害	日本列島でこれまで経験した火山災害について調べておくこと。(90分)	日本列島で火山災害が多い理由につてまとめておくこと(90分)
16	まとめ及び講評(第2回テスト)	これまでの授業のまとめをしておくこと。(90分)	これまでの授業のまとめをして整理しておくこと。(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・2年		
開講時期	2Q	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	地誌 (科目ナンバリング: HUG122141)				
授業担当者(所属・職名)	渡部 斎(社会福祉学科・教授)	研究室所在	2号館7階		
単位数	2 (単位認定責任者: 渡部 斎)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

概要

履修目標
地誌学は地域で生じている自然や社会などのさまざまな事象を総合的に理解することによって、その地域の性格を明らかにしようとする地理学の一分野である。本年度の地誌の講義では、地誌の考え方や地誌で取り扱われる資史料、地誌の事例としては地元北広島市をフィールドとして学修する。教職(中学社会・高校地理歴史科)に必要な知識・技術・能力を培う。

授業の位置づけ
社会福祉学科のDP「1(2)、(3)、(4)」、「2(2)」に対応する。

到達目標
地誌学を通して、地域の特性を把握することができる。

授業全体の内容と概要
1) 地域の調査方法(地図作業・地図読解・図表の読解等)について学修する。 2) 北広島市の地誌項目、自然(気候・地形)、社会(人口、歴史、地名、農業、工業、交通、都市等)について学修する。

授業の方法
主に授業形態は、講義形式(板書と配布資料)で行われる。地図作業や地図読解でスキルを磨き、フィールドワーク(現地調査)を行う予定である。また、実際に河川や丘陵、土地利用など、自分の目で確認ができる調査学習を実施することができる。課題は、レポート3回の提出と地図作業作成(水系図・土地利用図など)で、3回程度を予定している。レポートについては、コメントにてフィードバックする。

アクティブラーニングの実施方法												
<table border="1"> <tr> <td>プレゼンテーション</td> <td>グループワーク</td> <td>フィールドワーク</td> <td>PBL</td> </tr> <tr> <td>模擬授業</td> <td>ロールプレイ</td> <td>調査学習</td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td>ディスカッション</td> <td>実験・実習・実技</td> <td>双方向授業</td> <td>その他(授業の方法参照)</td> </tr> </table>	プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL	模擬授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業	ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)
プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL									
模擬授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業									
ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)									

履修上の注意事項
<ul style="list-style-type: none"> 講義には高等学校で使用した地図帳を持参すると便利。 地図作業を必ず行うので12色程度の色鉛筆や定規を用意すること。 レポートは、指示した「レポート作成要領」に準拠したものを提出する。

資格指定科目
教職課程(社会・地理歴史)必修科目

評価方法・基準

評価前提条件												
単位認定に必要な最低出席回数は、10回以上である。												
評価方法												
<table border="1"> <tr> <th>定期試験</th> <th>レポート</th> <th>課題・作品</th> <th>中間テスト</th> <th>平常点</th> <th>その他</th> </tr> <tr> <td>0%</td> <td>30%</td> <td>30%</td> <td>0%</td> <td>20%</td> <td>20%</td> </tr> </table>	定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他	0%	30%	30%	0%	20%	20%
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他							
0%	30%	30%	0%	20%	20%							

ルーブリック																																									
<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">評価項目</th> <th colspan="5">評価基準</th> </tr> <tr> <th>履修項目を超えたレベルを達成している</th> <th>履修項目をほぼ達成している</th> <th>履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している</th> <th>到達目標を達成している</th> <th>到達目標を達成していない</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>知識・理解</td> <td>レポート課題において、9割以上の得点を取ることができた。</td> <td>レポート課題において、8割以上の得点を取ることができた。</td> <td>レポート課題において、7割以上の得点を取ることができた。</td> <td>レポート課題において、6割以上の得点を取ることができた。</td> <td>レポート課題において、6割以上の得点を取ることができなかった。</td> </tr> <tr> <td>技能</td> <td>作業課題(地図作業や地図読解)において、9割以上の得点を取ることができた。</td> <td>作業課題(地図作業や地図読解)において、8割以上の得点を取ることができた。</td> <td>作業課題(地図作業や地図読解)において、7割以上の得点を取ることができた。</td> <td>作業課題(地図作業や地図読解)において、6割以上の得点を取ることができた。</td> <td>作業課題(地図作業や地図読解)において、6割以上の得点を取ることができなかった。</td> </tr> <tr> <td>態度</td> <td>右の記述を高いレベルで実現できた。</td> <td>フィールドワークなどに進んで参加し、調査学習の意義を理解することができた。</td> <td>フィールドワークなどに参加し、調査学習の意義を理解することができた。</td> <td>フィールドワークなどに参加し、調査学習の意義を理解することができた。</td> <td>フィールドワークなどに参加し、調査学習の意義を理解することができなかった。</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	評価項目	評価基準					履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない	知識・理解	レポート課題において、9割以上の得点を取ることができた。	レポート課題において、8割以上の得点を取ることができた。	レポート課題において、7割以上の得点を取ることができた。	レポート課題において、6割以上の得点を取ることができた。	レポート課題において、6割以上の得点を取ることができなかった。	技能	作業課題(地図作業や地図読解)において、9割以上の得点を取ることができた。	作業課題(地図作業や地図読解)において、8割以上の得点を取ることができた。	作業課題(地図作業や地図読解)において、7割以上の得点を取ることができた。	作業課題(地図作業や地図読解)において、6割以上の得点を取ることができた。	作業課題(地図作業や地図読解)において、6割以上の得点を取ることができなかった。	態度	右の記述を高いレベルで実現できた。	フィールドワークなどに進んで参加し、調査学習の意義を理解することができた。	フィールドワークなどに参加し、調査学習の意義を理解することができた。	フィールドワークなどに参加し、調査学習の意義を理解することができた。	フィールドワークなどに参加し、調査学習の意義を理解することができなかった。												
評価項目		評価基準																																							
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない																																				
知識・理解	レポート課題において、9割以上の得点を取ることができた。	レポート課題において、8割以上の得点を取ることができた。	レポート課題において、7割以上の得点を取ることができた。	レポート課題において、6割以上の得点を取ることができた。	レポート課題において、6割以上の得点を取ることができなかった。																																				
技能	作業課題(地図作業や地図読解)において、9割以上の得点を取ることができた。	作業課題(地図作業や地図読解)において、8割以上の得点を取ることができた。	作業課題(地図作業や地図読解)において、7割以上の得点を取ることができた。	作業課題(地図作業や地図読解)において、6割以上の得点を取ることができた。	作業課題(地図作業や地図読解)において、6割以上の得点を取ることができなかった。																																				
態度	右の記述を高いレベルで実現できた。	フィールドワークなどに進んで参加し、調査学習の意義を理解することができた。	フィールドワークなどに参加し、調査学習の意義を理解することができた。	フィールドワークなどに参加し、調査学習の意義を理解することができた。	フィールドワークなどに参加し、調査学習の意義を理解することができなかった。																																				

教科書・参考文献・資料等

教科書																																										
<table border="1"> <thead> <tr> <th>No</th> <th>書籍名</th> <th>著者</th> <th>出版社</th> <th>出版年</th> <th>ISBN</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>『使用しない』^a</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>4</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>5</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考	1	『使用しない』 ^a						2							3							4							5						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考																																				
1	『使用しない』 ^a																																									
2																																										
3																																										
4																																										
5																																										

参考文献・資料等																																										
<table border="1"> <thead> <tr> <th>No</th> <th>書籍名</th> <th>著者</th> <th>出版社</th> <th>出版年</th> <th>ISBN</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>『北広島遺産ハンドブック』^a</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>『2.5万分の1地形図』^a</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>4</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>5</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考	1	『北広島遺産ハンドブック』 ^a						2	『2.5万分の1地形図』 ^a						3							4							5						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考																																				
1	『北広島遺産ハンドブック』 ^a																																									
2	『2.5万分の1地形図』 ^a																																									
3																																										
4																																										
5																																										

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・2年		
開講時期	2Q	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	地誌 (科目ナンバリング: HUG122141)				
授業担当者(所属・職名)	渡部 斎(社会福祉学科・教授)	研究室所在	2号館7階		
単位数	2 (単位認定責任者: 渡部 斎)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	シラバスの説明、授業の内容・進め方・評価の仕方のガイダンス	事前にシラバスを読んでいること。(90分)	レポート課題等を作成すること。(90分)
2	地誌の捉え方と考え方	前回の授業内容を復習しておくこと。(90分)	レポート課題等を作成すること。(90分)
3	地誌で取り扱われる資料について (市勢要覧)	前回の授業内容を復習しておくこと。(90分)	レポート課題等を作成すること。(90分)
4	地誌で取り扱われる資料について (市勢要覧の資料編)	前回の授業内容を復習しておくこと。(90分)	レポート課題等を作成すること。(90分)
5	地誌で取り扱われる資料について (農林業センサス・グラフや表等の読解)	前回の授業内容を復習しておくこと。(90分)	レポート課題等を作成すること。(90分)
6	地図作業 (切峰断面図の作成)	地図作業の用意(色鉛筆・定規等)、地図帳で記号を確認しておくこと。(90分)	指示された部分を作成しておくこと。(90分)
7	地図作業 (水系図の作成)	地図作業の用意(色鉛筆・定規等)、地図帳で記号を確認しておくこと。(90分)	指示された部分を作成しておくこと。(90分)
8	北広島市の自然環境 (地形・地質)	予習としてのレポート課題等を作成すること。(90分)	今回の授業内容を復習しておくこと。(90分)
9	北広島市の自然環境 (気候)	予習としてのレポート課題等を作成すること。(90分)	今回の授業内容を復習しておくこと。(90分)
10	地図作業 (平成版の土地利用図作成)	地図作業の用意(色鉛筆・定規等)、地図帳で記号を確認しておくこと。(90分)	指示された部分を作成しておくこと。(90分)
11	地図作業 (平成版の土地利用図作成)	地図作業の用意(色鉛筆・定規等)、地図帳で記号を確認しておくこと。(90分)	指示された部分を作成しておくこと。(90分)
12	フィールドワーク	フィールドワークに使用する地図を作成すること。(90分)	調査学習の課題をしておくこと。(90分)
13	フィールドワーク	フィールドワークに使用する地図を作成すること。(90分)	調査学習の課題をしておくこと。(90分)
14	地図作業 (大正版の土地利用図作成)	地図作業の用意(色鉛筆・定規等)、地図帳で記号を確認しておくこと。(90分)	指示された部分を作成しておくこと。(90分)
15	地図作業 (大正版の土地利用図作成)	地図作業の用意(色鉛筆・定規等)、地図帳で記号を確認しておくこと。(90分)	指示された部分を作成しておくこと。(90分)
16	課題(地図読解・レポートなど)の解説の実施	まとめの準備(90分)	まとめの振り返り(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・2年		
開講時期	4Q	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	肢体不自由教育 (科目ナンバリング：SNE123119)				
授業担当者(所属・職名)	坂上 俊樹(社会福祉学科・特任教授)	研究室所在	1号館2階		
単位数	2 (単位認定責任者：坂上 俊樹)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	学校現場における教員経験を活かして、今日的な教育課題(肢体不自由教育及び重複障害教育)について指導する。		

概要

履修目標
共生社会の創造のための教養として肢体不自由者及び重複障害者の教育を効果的に行うために必要な基本的な知識と障害の状況等に応じた指導の在り方等の実践的な知識を取得する。

授業の位置づけ
社会福祉学科のDP「1(2)と(3)と(5)と(6)と(7)」、「2(2)」に対応する。

到達目標
肢体不自由教育を効果的に行うために必要な指導内容・方法等についての実践的な知識を具体的に述べることができる。

授業全体の内容と概要
特別支援教育の対象となる肢体不自由者及び重複障害のある子供の教育の現状を押さえ、児童生徒の実態に応じた教育課程や指導内容・方法について事例研究や映像教材等も活用しながら構成する。

授業の方法
授業は、教科書を輪読し、パワーポイント及び配付資料で教科書の内容を確認するとともに、思考・考察、意見交換、討議等の活動を行う。また、教育の実際場面のDVDを視聴しレポートにまとめたり、指導事例に基づいて指導案を作成し模擬授業を行う等で、総合的に教育の方法を取得させる。レポートや模擬授業についてはコメントによりフィードバックする。

アクティブラーニングの実施方法						
	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク	PBL
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習	反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項
肢体不自由者の障害特性に応じた指導を効果的に行うために必要な知識を積極的に学ぶ姿勢で臨むこと。また、重複障害児指導事例集等の事例に基づく指導案の作成と模擬授業の実施及びレポート提出を求めているので、授業を欠席することのないよう留意すること。

資格指定科目
教職課程(特別支援)必修科目

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数は10回以上。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	40%	40%	0%	20%	0%

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
肢体不自由教育 の理解	肢体不自由教育 について、学修した知識・技能を基盤に、さらに学修を深めようとする事ができた。	肢体不自由教育 について、必要な知識・技能を理解することができた。	肢体不自由教育 について、一定程度の理解ができた。	肢体不自由教育 について、一部理解することができた。	肢体不自由教育 について、理解できなかった。
肢体不自由教育 の思考・判断・表現	肢体不自由教育 について、積極的に思考・判断し、自ら表現を工夫して活動することができた。	肢体不自由教育 について、思考・判断し、自ら表現することができた。	肢体不自由教育 について、思考活動に取り組み表現しようとする事ができた。	肢体不自由教育 について、思考することができた。	肢体不自由教育 にかかわる思考・判断・表現について必要な取り組みができなかった。
授業への参加態度・姿勢	授業に非常に積極的に参加することができた。	授業に積極的に参加することができた。	授業に関心を持って参加することができた。	授業にいくつかの関心をもつことができた。	授業へ積極的に参加することができなかった。

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『特別支援教育の基礎・基本 新訂版』	国立特別支援教育総合研究所	ジアーズ教育新社	2018年	978-4-86371-297-3	
2	『特別支援学校幼稚部教育要領 小学部・中学部学習指導要領』	文部科学省	海文堂出版	平成29年	978-4-303-12424-3	
3	『特別支援学校学習指導要領解説総則編』	文部科学省	開隆堂出版	平成30年	978-4-304-04229-4	
4	『特別支援学校学習指導要領解説自立活動編』	文部科学省	開隆堂出版	平成30年	978-4-304-04231-7	
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・2年		
開講時期	4Q	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	肢体不自由教育 (科目ナンバリング: SNE123119)				
授業担当者(所属・職名)	坂上 俊樹(社会福祉学科・特任教授)	研究室所在	1号館2階		
単位数	2 (単位認定責任者: 坂上 俊樹)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	学校現場における教員経験を活かして、今日的な教育課題(肢体不自由教育及び重複障害教育)について指導する。		

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	シラバスの説明及び肢体不自由者・重複障害者の教育の概要	シラバスを確認しておくこと(90分)	配付資料に基づいて、年間の授業内容の見直しを立てる(90分)
2	肢体不自由者の教育内容と教育支援法	教科書の「肢体不自由児に応じた教育課程の編成」を事前に読んでおくこと(90分)	配付資料に基づき復習しておくこと(90分)
3	肢体不自由者のコミュニケーション支援(1) ことばの獲得のプロセスと支援	教科書の「各教科等の指導の工夫」を事前に読んでおくこと(90分)	配付資料に基づき復習しておくこと(90分)
4	肢体不自由者のコミュニケーション支援(2) コミュニケーション手段と支援	教科書の「各教科等の指導の工夫」を事前に読んでおくこと(90分)	配付資料に基づき復習しておくこと(90分)
5	重複障害児の教育の意義	教科書の「重複障害児指導事例集」を事前に読んでおくこと(90分)	配付資料に基づき復習しておくこと(90分)
6	重複障害児の教育の内容と方法	教科書の「重複障害児指導事例集」を事前に読んでおくこと(90分)	配付資料に基づき復習しておくこと(90分)
7	重複障害のある幼児児童生徒の指導事例(1)	教科書の「重複障害児指導事例集」を事前に読んでおくこと(90分)	配付資料に基づき復習しておくこと(90分)
8	重複障害のある幼児児童生徒の指導事例(2)	教科書の「重複障害児指導事例集」を事前に読んでおくこと(90分)	配付資料に基づき復習しておくこと(90分)
9	重複障害のある幼児児童生徒の指導事例(3)	教科書の「重複障害児指導事例集」を事前に読んでおくこと(90分)	配付資料に基づき復習しておくこと(90分)
10	DVDの視聴及びレポートの作成	配布した資料を事前に読んでおくこと(90分)	DVD視聴時のメモを元に整理する(90分)
11	肢体不自由教育の教育課程と指導案作成のポイント及び指導の工夫(1) -題材(目標)の決定、題材設定の理由、全体指導計画-	配布した資料に基づき指導案について事前に調べておくこと(90分)	重複障害児指導事例集に基づいた指導案を作成する(90分)
12	肢体不自由教育の指導案作成のポイントと指導の工夫(2) -本時の目標・本時の展開と配慮事項、評価-	配布された指導案を事前に読んでおくこと(90分)	重複障害児指導事例集に基づいた指導案を作成する(90分)
13	肢体不自由教育の指導案に基づく指導の工夫(1) 模擬授業	配布された指導案を事前に読んでおくこと(90分)	指導案を修正する(90分)
14	肢体不自由教育の指導案に基づく指導の工夫(2) 模擬授業	配布された指導案を事前に読んでおくこと(90分)	指導案を修正する(90分)
15	肢体不自由教育の指導案作成のポイントと評価の方法・まとめ	教科書の「肢体不自由児の発達と実態把握」を事前に読んでおくこと(90分)	配付資料に基づき復習しておくこと(90分)
16	指導案および模擬授業について検討会	指導案や模擬授業の振り返り(90分)	検討の結果を見直す(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・2年		
開講時期	2Q	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	知的障害教育 (科目ナンバリング：SNE122116)				
授業担当者(所属・職名)	藤根 収(社会福祉学科・特任教授)	研究室所在	2号館7階		
単位数	2 (単位認定責任者：藤根 収)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	学校現場や教育行政における経験がある教員がその経験を活かして、今日的な教育課題について指導する。		

概要

履修目標
特別な支援を必要とする知的障害児の教育課程及び指導・支援の方法を理解し、知的障害児の教育を効果的に行うために必要な基本的知識と障害の状況等に応じた指導のあり方等の実践的な知識を習得する。

授業の位置づけ
「社会福祉学科」のDP「1(2)と(3)と(5)と(7)」、「2(2)」に対応する。

到達目標
特別支援教育に関する教育課程の枠組みを踏まえ、個別的教育支援計画及び個別の指導計画を作成する意義と活用方法を理解する。また、知的障害教育を効果的に行うために必要な指導内容・方法等についての基礎的知識を理解できる。

授業全体の内容と概要
毎回のテーマに基づき必要な事項を講義するとともに、主体的・対話的で深い学びを実現するため、テーマに関連する事項に関して考察、意見交換、発表等の一連の活動を行う。知的障害教育の歴史の変遷と現状を知り、児童生徒の実態把握の方法、教育課程や指導内容・方法、評価等を具体的な事例や映像等の視聴覚教材を活用し総合的に構成する。

授業の方法
授業はパワーポイント及び配布物(レジメ)で実施し、テーマに関する説明をした後、グループワーク等で、テーマに関する事項に関して、思考・考察、意見交換、討議、発表等の一連の活動を行うなどして理解を深める。また、実践事例のVTR教材視聴の事例に基づくレポート提出を行う。なお、レポート等にはコメントにてフィードバックする。

アクティブラーニングの実施方法																								
<table border="1"> <tr> <td>○</td> <td>プレゼンテーション</td> <td>○</td> <td>グループワーク</td> <td></td> <td>フィールドワーク</td> <td></td> <td>PBL</td> </tr> <tr> <td></td> <td>模擬授業</td> <td>○</td> <td>ロールプレイ</td> <td></td> <td>調査学習</td> <td></td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td></td> <td>ディスカッション</td> <td>○</td> <td>実験・実習・実技</td> <td></td> <td>双方向授業</td> <td></td> <td>その他(授業の方法参照)</td> </tr> </table>	○	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		PBL		模擬授業	○	ロールプレイ		調査学習		反転授業		ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)
○	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		PBL																	
	模擬授業	○	ロールプレイ		調査学習		反転授業																	
	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)																	

履修上の注意事項
20分以上の遅刻は欠席とし、遅刻3回で欠席1回とみなす。

資格指定科目
教職課程(特別支援)必修科目

評価方法・基準

評価前提条件												
単位認定に必要な最低出席回数は、10回以上。												
評価方法												
<table border="1"> <tr> <th>定期試験</th> <th>レポート</th> <th>課題・作品</th> <th>中間テスト</th> <th>平常点</th> <th>その他</th> </tr> <tr> <td>50%</td> <td>20%</td> <td>0%</td> <td>0%</td> <td>20%</td> <td>10%</td> </tr> </table>	定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他	50%	20%	0%	0%	20%	10%
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他							
50%	20%	0%	0%	20%	10%							

ルーブリック																													
<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">評価項目</th> <th colspan="5">評価基準</th> </tr> <tr> <th>履修項目を超えたレベルを達成している</th> <th>履修項目をほぼ達成している</th> <th>履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している</th> <th>到達目標を達成している</th> <th>到達目標を達成していない</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>知的障害教育の知識・技能の習得</td> <td>知識・技能の基礎的内容について高い関心をもって理解し、さらに深めてようとする事ができた。</td> <td>知識・技能の基礎的内容について、関心をもって理解し、学習することができた。</td> <td>知識・技能の基礎的内容を学修することができた。</td> <td>知識・技能の基礎的内容について一定程度理解することができた。</td> <td>知識・技能の基礎的内容についての理解ができなかった。</td> </tr> <tr> <td>知的障害教育に関する思考・判断・表現</td> <td>テーマに基づき、積極的に思考・判断し、個人やグループで工夫して積極的に表現できた。</td> <td>テーマに基づき、思考・判断し、個人やグループで意欲的に表現できた。</td> <td>テーマに基づき、思考・判断し、個人やグループで表現できた。</td> <td>テーマに基づき、一部、思考・判断し、個人やグループで表現しようとした。</td> <td>テーマの受け止めが不十分で、思考・判断・表現が十分にできなかった。</td> </tr> <tr> <td>授業への参加態度・姿勢</td> <td>授業に非常に積極的に参加することができた。</td> <td>授業に積極的に参加することができた。</td> <td>授業に関心をもって参加することができた。</td> <td>授業への関心が一定程度みられた。</td> <td>授業への参加態度・姿勢が不十分だった。</td> </tr> </tbody> </table>	評価項目	評価基準					履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない	知的障害教育の知識・技能の習得	知識・技能の基礎的内容について高い関心をもって理解し、さらに深めてようとする事ができた。	知識・技能の基礎的内容について、関心をもって理解し、学習することができた。	知識・技能の基礎的内容を学修することができた。	知識・技能の基礎的内容について一定程度理解することができた。	知識・技能の基礎的内容についての理解ができなかった。	知的障害教育に関する思考・判断・表現	テーマに基づき、積極的に思考・判断し、個人やグループで工夫して積極的に表現できた。	テーマに基づき、思考・判断し、個人やグループで意欲的に表現できた。	テーマに基づき、思考・判断し、個人やグループで表現できた。	テーマに基づき、一部、思考・判断し、個人やグループで表現しようとした。	テーマの受け止めが不十分で、思考・判断・表現が十分にできなかった。	授業への参加態度・姿勢	授業に非常に積極的に参加することができた。	授業に積極的に参加することができた。	授業に関心をもって参加することができた。	授業への関心が一定程度みられた。	授業への参加態度・姿勢が不十分だった。
評価項目		評価基準																											
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない																								
知的障害教育の知識・技能の習得	知識・技能の基礎的内容について高い関心をもって理解し、さらに深めてようとする事ができた。	知識・技能の基礎的内容について、関心をもって理解し、学習することができた。	知識・技能の基礎的内容を学修することができた。	知識・技能の基礎的内容について一定程度理解することができた。	知識・技能の基礎的内容についての理解ができなかった。																								
知的障害教育に関する思考・判断・表現	テーマに基づき、積極的に思考・判断し、個人やグループで工夫して積極的に表現できた。	テーマに基づき、思考・判断し、個人やグループで意欲的に表現できた。	テーマに基づき、思考・判断し、個人やグループで表現できた。	テーマに基づき、一部、思考・判断し、個人やグループで表現しようとした。	テーマの受け止めが不十分で、思考・判断・表現が十分にできなかった。																								
授業への参加態度・姿勢	授業に非常に積極的に参加することができた。	授業に積極的に参加することができた。	授業に関心をもって参加することができた。	授業への関心が一定程度みられた。	授業への参加態度・姿勢が不十分だった。																								

教科書・参考文献・資料等

教科書																																										
<table border="1"> <thead> <tr> <th>No</th> <th>書籍名</th> <th>著者</th> <th>出版社</th> <th>出版年</th> <th>ISBN</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>『特別支援教育の基礎・基本 2020』</td> <td>国立特別支援教育総合研究所</td> <td>ジアース教育新社</td> <td>2020</td> <td>978-4-86371-548-6</td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>4</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>5</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考	1	『特別支援教育の基礎・基本 2020』	国立特別支援教育総合研究所	ジアース教育新社	2020	978-4-86371-548-6		2							3							4							5						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考																																				
1	『特別支援教育の基礎・基本 2020』	国立特別支援教育総合研究所	ジアース教育新社	2020	978-4-86371-548-6																																					
2																																										
3																																										
4																																										
5																																										

参考文献・資料等																																										
<table border="1"> <thead> <tr> <th>No</th> <th>書籍名</th> <th>著者</th> <th>出版社</th> <th>出版年</th> <th>ISBN</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>『特別支援学校小学部・中学部学習指導要領(平成29年4月告示)』</td> <td>文部科学省</td> <td>海文堂出版</td> <td>2018</td> <td>978-4-303-12424-3</td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>4</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>5</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考	1	『特別支援学校小学部・中学部学習指導要領(平成29年4月告示)』	文部科学省	海文堂出版	2018	978-4-303-12424-3		2							3							4							5						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考																																				
1	『特別支援学校小学部・中学部学習指導要領(平成29年4月告示)』	文部科学省	海文堂出版	2018	978-4-303-12424-3																																					
2																																										
3																																										
4																																										
5																																										

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・2年		
開講時期	2Q	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	知的障害教育 (科目ナンバリング: SNE122116)				
授業担当者(所属・職名)	藤根 収(社会福祉学科・特任教授)	研究室所在	2号館7階		
単位数	2 (単位認定責任者: 藤根 収)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	学校現場や教育行政における経験がある教員がその経験を活かして、今日的な教育課題について指導する。		

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	オリエンテーション -シラバスの説明、知的障害教育の概要	教科書から「知的障害教育」についての課題を整理する。(90分)	課題についてノートに整理し、シラバスで確認すること。(90分)
2	知的障害児教育の歴史 -戦前の教育	教科書の該当部分を読んでおくことと課題を整理する。(90分)	重要な用語や事柄等をノートに整理する。(90分)
3	知的障害児教育の歴史 -戦後の教育	教科書の該当部分を読んでおくことと課題を整理する。(90分)	重要な用語や事柄等をノートに整理する。(90分)
4	知的障害の理解と教育の制度について	教科書の該当部分を読んでおくことと課題を整理する。(90分)	重要な用語や事柄等をノートに整理する。(90分)
5	学習指導要領と教育課程編成の基本的な考え方について	教科書の該当部分を読んでおくことと課題を整理する。(90分)	重要な用語や事柄等をノートに整理する。(90分)
6	実態把握の方法と個別の指導計画について	教科書の該当部分を読んでおくことと課題を整理する。(90分)	重要な用語や事柄等をノートに整理する。(90分)
7	個別の指導計画と授業づくりについて	教科書の該当部分を読んでおくことと課題を整理する。(90分)	重要な用語や事柄等をノートに整理する。(90分)
8	知的障害のある子どもの日常生活の指導と遊びの指導について	教科書の該当部分を読んでおくことと課題を整理する。(90分)	重要な用語や事柄等をノートに整理する。(90分)
9	知的障害のある子どもの作業学習の指導について	教科書の該当部分を読んでおくことと課題を整理する。(90分)	重要な用語や事柄等をノートに整理する。(90分)
10	知的障害のある子どもの生活単元学習の指導について	教科書の該当部分を読んでおくことと課題を整理する。(90分)	重要な用語や事柄等をノートに整理する。(90分)
11	知的障害のある子どもの自立活動の指導について	教科書の該当部分を読んでおくことと課題を整理する。(90分)	重要な用語や事柄等をノートに整理する。(90分)
12	知的障害のある子どもの教科別の指導などについて	教科書の該当部分を読んでおくことと課題を整理する。(90分)	重要な用語や事柄等をノートに整理する。(90分)
13	知的障害のある子どもの個別の教育支援計画について	教科書の該当部分を読んでおくことと課題を整理する。(90分)	重要な用語や事柄等をノートに整理する。(90分)
14	知的障害のある子どもの交流及び共同学習について	教科書の該当部分を読んでおくことと課題を整理する。(90分)	重要な用語や事柄等をノートに整理する。(90分)
15	知的障害のある子どもの学習評価の方法について	教科書の該当部分を読んでおくことと課題を整理する。(90分)	重要な語句や内容を整理するとともにレポートを作成する。(90分)
16	定期試験(60分の試験終了後、残りの30分で解説する。)	教科書等で講義内容を整理する。(90分)	試験の結果を見直す。(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・2年		
開講時期	3Q	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	病弱者の心理・生理・ (科目ナンバリング：SNE122115)				
授業担当者(所属・職名)	高橋 健剛(社会福祉学科・非常勤講師)	研究室所在	1号館1階非常勤講師室		
単位数	2 (単位認定責任者：高橋 健剛)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	学校現場における教員経験から、その経験を活かして具体的な実践例を中心に各特性等の理解を図り、さらに教育実習に必要な内容を指導する。		

概要

履修目標	特別な支援を必要とする病弱教育の教育課程及び支援の方法を理解し、病弱・身体虚弱児の心理・生理・病理、行動特性等の基本的な知識を理解する。												
授業の位置づけ	社会福祉学科のDP「1(2)と(3)と(5)」、「2(2)」に対応する。												
到達目標	病弱・身体虚弱児の心理・生理・病理の各特性や行動特性等について理解することができる。												
授業全体の内容と概要	病弱・身体虚弱児の身体的・心理的な特性や病理の特性について、できるだけ具体的な事例や視聴覚教材等を活用しながら構成する。												
授業の方法	各回のテーマに基づき必要な事項を講義するとともに、主体的・対話的で深い学びを実現するため、テーマに関連する事項に関して考察、意見交換、発表等の一連の活動を行う。授業ではパワーポイント及び配布物(レジメ)で実施し、資料にて説明した後、グループワーク等でグループ協議を行う。具体的な事例のVTR視聴後にレポート提出を行う。レポートはコメントしてフィードバックする。質問等随時対応する。												
アクティブラーニングの実施方法	<table border="1"> <tr> <td>プレゼンテーション</td> <td>グループワーク</td> <td>フィールドワーク</td> <td>PBL</td> </tr> <tr> <td>模擬授業</td> <td>ロールプレイ</td> <td>調査学習</td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td>ディスカッション</td> <td>実験・実習・実技</td> <td>双方向授業</td> <td>その他(授業の方法参照)</td> </tr> </table>	プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL	模擬授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業	ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)
プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL										
模擬授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業										
ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)										
履修上の注意事項	20分以上の遅刻は欠席とし、遅刻3回で欠席1回とみなします。												
資格指定科目	教職課程(特別支援)必修科目												

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数は、10回以上。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
50%	20%	0%	0%	20%	10%

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
病弱者の心理・生理・病理の理解	心理・生理・病理の理解について高い関心をもって理解し、さらに深めることができた。	心理・生理・病理について関心をもって理解し学修できた。	心理・生理・病理についてほぼ学修できた。	心理・生理・病理について不十分ながら理解することができた。	心理・生理・病理について理解できなかった。
病弱者の心理・生理・病理についての思考・判断・表現	テーマに基づき、積極的に思考・判断し、個人やグループで工夫して積極的に表現できた。	テーマに基づき、思考・判断し、個人やグループで意欲的に表現できた。	テーマに基づき、思考・判断し個人やグループで表現できた。	テーマに基づき、思考・判断し個人やグループで多少表現できた。	テーマの受け止め方が不十分で思考・判断・表現にできなかった。
病弱者の心理・生理・病理に係る授業への関心・意欲・態度	授業に非常に積極的に参加することができた。	授業に積極的に参加することができた。	授業に関心をもって参加することができた。	授業への関心が低いが多量に参加できた。	授業への参加態度に課題が残った。

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『特別支援教育の基礎・基本(新訂版)』	国立特別支援教育総合研究所	ジアース教育新社	2015年	978-4863712973	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・2年		
開講時期	3Q	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	病弱者の心理・生理・ (科目ナンバリング: SNE122115)				
授業担当者(所属・職名)	高橋 健剛 (社会福祉学科・非常勤講師)	研究室所在	1号館1階非常勤講師室		
単位数	2 (単位認定責任者: 高橋 健剛)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	学校現場における教員経験から、その経験を活かして具体的な実践例を中心に各特性等の理解を図り、さらに教育実習に必要な内容を指導する。		

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	シラバスの説明 病弱者(児)の心理・生理・病理の概要について	教科書から「病弱者の心理・生理・病理」についての課題を整理する(90分)	課題についてノートに整理し、シラバスで確認すること。(90分)
2	病弱者と病弱教育について	教科書の該当部分を読んでおくことと課題を整理する(90分)	重要な用語や事柄等をノートに整理する(90分)
3	小児慢性特定疾患についての理解について	教科書の該当部分を読んでおくことと課題を整理する(90分)	重要な用語や事柄等をノートに整理する(90分)
4	障がいの受容と支援の理解について	教科書の該当部分を読んでおくことと課題を整理する(90分)	重要な用語や事柄等をノートに整理する(90分)
5	発達段階とプレバレーションの理解と方法について	教科書の該当部分を読んでおくことと課題を整理する(90分)	重要な用語や事柄等をノートに整理する(90分)
6	腎臓疾患の理解と支援	教科書の該当部分を読んでおくことと課題を整理する(90分)	重要な用語や事柄等をノートに整理する(90分)
7	悪性新生物の理解と支援	教科書の該当部分を読んでおくことと課題を整理する(90分)	重要な語句や内容の整理とレポートの作成(90分)
8	こころの病の理解と支援	教科書の該当部分を読んでおくことと課題を整理する(90分)	重要な用語や事柄等をノートに整理する(90分)
9	小児の心身症の理解と支援	教科書の該当部分を読んでおくことと課題を整理する(90分)	重要な用語や事柄等をノートに整理する(90分)
10	てんかんと脳腫瘍の理解と支援	教科書の該当部分を読んでおくことと課題を整理する(90分)	重要な用語や事柄等をノートに整理する(90分)
11	筋ジストロフィーの理解と支援	教科書の該当部分を読んでおくことと課題を整理する(90分)	重要な用語や事柄等をノートに整理する(90分)
12	発達障がいの理解と支援	教科書の該当部分を読んでおくことと課題を整理する(90分)	重要な用語や事柄等をノートに整理する(90分)
13	自立と進路指導について	教科書の該当部分を読んでおくことと課題を整理する(90分)	重要な用語や事柄等をノートに整理する(90分)
14	病弱者の「限界への挑戦」について	教科書の該当部分を読んでおくことと課題を整理する(90分)	重要な用語や事柄等をノートに整理する(90分)
15	緩和ケアとトータルケアの課題について	教科書の該当部分を読んでおくことと課題を整理する(90分)	重要な語句や内容の整理とレポートの作成(90分)
16	定期試験(60分の試験終了後、残りの30分で解説する。)	講義内容の重要事項について整理しておくこと(90分)	試験の結果を見直す(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・3年		
開講時期	4Q	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	民法（S） （科目ナンバリング：LAW122143，LAW422056，LAW522050）				
授業担当者（所属・職名）	大倉 司（社会福祉学科・教授）		研究室所在	1号館3階	
単位数	2（単位認定責任者：大倉 司）		CAP制		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

概要

履修目標	売買・賃貸借などの契約，夫婦・親子，相続など身近な法律問題について，生活者として必要な民法の基本的な知識を修得する。				
授業の位置づけ	社会福祉学科のDP「1（1）と（2）と（4）と（7）」、「2（3）」に対応する。				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> わが国の民法の基本原則と仕組みについて理解できる。 契約、相続などのトラブルに対処するための民法の考え方を説明できる。 生活者として身近に発生したトラブルに対処する方法を六法等で講べることができる。 				
授業全体の内容と概要	民法の総則，物権，債権，親族，相続各編を概説し，市民生活を送るうえで想定される法律問題を取り上げながら法的な思考力を高める。				
授業の方法	授業は，板書及び配布資料を活用しながら，ディスカッションを交えつつ講義形式で行う。適宜、授業内容についてのレポート提出を求める。				
アクティブラーニングの実施方法	プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL	
	模擬授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業	
	ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他（授業の方法参照）	
履修上の注意事項	授業は，板書及び配布資料を活用しながら講義形式で行う。また判例や立法動向を紹介して理解を求めるとともに，毎回、前回授業についてのまとめをレポートとして提出する。				
資格指定科目	教職課程（社会・公民）選択科目				

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な出席回数は10回以上					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
70%	0%	0%	0%	30%	0%

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・理解	契約など身近な法律問題についての基本的な知識を具体的な事例に応用できた。	契約など身近な法律問題についての基本的な知識を修得できた。	民法上の権利義務関係について具体的に理解できた。	民法の基本原則と仕組みについて理解できた。	民法の基本原則と仕組みについて理解できなかった。
思考・判断	身近な法律問題への対処について判例を踏まえながら学修を進めることができた。	契約等に関する民法の知識を具体的な事例に当てはめて理解できた。	身近なトラブルに対処するために必要な民法の基本的な知識を修得できた。	身近なトラブルに対処するための民法の考え方を説明できた。	身近なトラブルに対処するための民法の考え方を説明できなかった。
関心・意欲	授業内容を越えて身近に生じたトラブルに際し六法等で講べることができた。	身近に生じたトラブルに対処する方法を六法等で講べることができた。	身近なトラブルに際して「六法」を参照して対処する意欲を示した。	授業で取り上げた法律について「六法」の宗文参照することができた。	授業中に「六法」を使いながら理解を深めるという意欲に乏しかった。

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『民法入門[第8版]』	野村豊弘	有斐閣	2019	978-4-641-22136-9	
2	『ポケット六法[令和3年版]』	佐伯仁志ほか編	有斐閣	2020	978-4-641-00921-9	
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・3年		
開講時期	4Q	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	民法(S) (科目ナンバリング: LAW122143, LAW422056, LAW522050)				
授業担当者(所属・職名)	大倉 司(社会福祉学科・教授)	研究室所在	1号館3階		
単位数	2 (単位認定責任者: 大倉 司)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	シラバスの説明 民法とは(1) - 私たちの暮らしと民法の間わり, 民法改正の動向について, 最近の判例について	教科書を読み授業範囲の予習をする(90分)	授業のまとめをレポートとして提出する準備(90分)
2	民法とは(2) - 民法の意義・構造・基本原理	教科書を読み授業範囲の予習をする(90分)	授業のまとめをレポートとして提出する準備(90分)
3	総則(1) - 権利と義務, 権利の主体	教科書を読み授業範囲の予習をする(90分)	授業のまとめをレポートとして提出する準備(90分)
4	総則(2) - 法律行為 意思表示, 無効・取消し	教科書を読み授業範囲の予習をする(90分)	授業のまとめをレポートとして提出する準備(90分)
5	総則(3) - 法律行為 権利能力, 意志能力, 行為能力	教科書を読み授業範囲の予習をする(90分)	授業のまとめをレポートとして提出する準備(90分)
6	総則(4) - 代理	教科書を読み授業範囲の予習をする(90分)	授業のまとめをレポートとして提出する準備(90分)
7	総則(5) - 時効	教科書を読み授業範囲の予習をする(90分)	授業のまとめをレポートとして提出する準備(90分)
8	物権 - 物権の種類, 所有権	教科書を読み授業範囲の予習をする(90分)	授業のまとめをレポートとして提出する準備(90分)
9	債権(1) - 契約	教科書を読み授業範囲の予習をする(90分)	授業のまとめをレポートとして提出する準備(90分)
10	債権(2) - 契約	教科書を読み授業範囲の予習をする(90分)	授業のまとめをレポートとして提出する準備(90分)
11	債権(3) - 事務管理, 不当利得	教科書を読み授業範囲の予習をする(90分)	授業のまとめをレポートとして提出する準備(90分)
12	債権(4) - 不法行為	教科書を読み授業範囲の予習をする(90分)	授業のまとめをレポートとして提出する準備(90分)
13	親族(1) - 家族法の基本原則, 婚姻, 親子	教科書を読み授業範囲の予習をする(90分)	授業のまとめをレポートとして提出する準備(90分)
14	親族(2) - 親権, 後見・保佐・補助後見, 扶養	教科書を読み授業範囲の予習をする(90分)	授業のまとめをレポートとして提出する準備(90分)
15	相続	教科書を読み授業範囲の予習をする(90分)	授業のまとめをレポートとして提出する準備(90分)
16	試験(60分の試験終了後、30分で解説をする)	全授業を振り返り試験に向けた準備(90分)	試験内容をふまえ授業全体を振り返る(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・3年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	相談援助実習指導 (科目ナンバリング：SWS123033)				
授業担当者(所属・職名)	小早川 俊哉(社会福祉学科・教授)・上原 正希(社会福祉学科・教授)・杉	研究室所在	1号館2階		
単位数	2 (単位認定責任者：小早川 俊哉)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	ソーシャルワーク、ケアワークの実務経験がある教員が実践現場の具体的事例を踏まえながら事前・事中・事後の実習指導を行う。		

概要

履修目標
ソーシャルワーク各領域(高齢、障がい、児童、地域・行政)の現場実習を通じて、ソーシャルワーク各領域における利用者理解、現場理解、職種理解、他機関・他機関との連携、地域における共生、今後の社会福祉行政の課題について学ぶ。

授業の位置づけ
社会福祉学科のDP「1(1)と(2)と(3)と(4)と(5)と(6)と(7)」、「2(2)」に対応する。

到達目標
専門知識、相談援助技術及び関連知識を実際に活用し、福祉ニーズを抱える人々に対する相談援助業務に必要な資質、技術、倫理、課題把握能力など、総合的なシネレリックソーシャルワークに対応できる能力を習得する。相談援助実習の事前訪問を含め、個別の実習計画を作成できる。

授業全体の内容と概要
2年次において「相談援助実習指導」及び「相談援助実習」の単位を修得し、実習生としてふさわしい態度と意欲のある学生(面接を行う)に対し、「相談援助実習指導」及び「相談援助実習」は開講される。「相談援助実習指導」と「相談援助実習」は3つの授業に分かれているが、一体のものと理解すべきである。「相談援助実習指導」は事前指導、「相談援助実習」は現場実習、「相談援助実習指導」は事後学習と考える。

授業の方法
高齢、障がい、児童、地域・行政の各々の実習領域に分かれて授業を展開する。授業内容は担当教員に一任されているが、各領域の職場・職種・ソーシャルワークについての事例・法規・制度が中心となり、使用する教材は各教員が用意する。年間を通しての課題として実習終了後のレポート提出、報告書の提出課題を義務付ける。学生の要望・課題には、可能な範囲で随時対応する。

アクティブラーニングの実施方法			
プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL
模擬授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業
ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項
各領域実習担当教員の指示を厳守すること。

資格指定科目
社会福祉士国家試験受験資格課程、精神保健福祉士国家試験受験資格課程、スクール(学校)ソーシャルワーク資格課程、子育て支援ソーシャルワーカー資格課程

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数は、10回以上。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	30%	0%	0%	30%	40%

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
事前学習における各領域の利用者理解ができている。	実習領域の利用者の特性を説明でき、個々の利用者の自己実現に必要なSWの視点と連携について説明できた。	実習領域の利用者の特性を説明でき、個々の利用者の自己実現の視点を説明できた。	実習領域の利用者の特性について説明でき、且つ、それに必要なSWの視点を説明できた。	実習領域の利用者の特性について説明できた。	左記の内容が何一つできなかった。
事前学習における実習領域の関連法規と制度の特徴が理解できている。	実習領域の関連法規と制度の特徴を説明でき、且つ、地域行政との関連をも説明できた。	実習領域の関連法規の特徴及び関連制度について説明できた。	実習領域の関連法規と制度の関係を説明できた。	実習領域の関連法規を説明できた。	左記の内容が何一つできなかった。
実習領域における具体的なソーシャルワーク技法を理解している。	実習領域におけるソーシャルワークの具体的な技法を説明でき、それを実習中にどのように活用するかを説明でき、且つ、自分の実習計画に昇華できた。	実習領域におけるソーシャルワークの具体的な技法(面接、記録、コミュニケーション、他職種連携、地域連携)が説明できた。	実習領域におけるソーシャルワークの具体的な技法を説明でき、それを実習中にどのように活用するかを説明できた。	実習領域におけるソーシャルワーク技法のうち、利用者との具体的な技法を説明できた。	左記の内容が何一つできなかった。

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・3年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	相談援助実習指導 (科目ナンバリング: SWS123033)				
授業担当者(所属・職名)	小早川 俊哉(社会福祉学科・教授)・ 上原 正希(社会福祉学科・教授)・杉	研究室所在	1号館2階		
単位数	2 (単位認定責任者: 小早川 俊哉)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	ソーシャルワーク、ケアワークの実務経験がある教員が実践現場の具体的な事例を踏まえながら事前・事中・事後の実習指導を行う。		

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	シラバスの説明と事前学習(利用者理解)	2年時の講義の復習(90分)	配布プリントの読み込み(90分)
2	事前学習(利用者理解)	前回プリントの読み込み(90分)	前回プリントの読み込み(90分)
3	事前学習(利用者理解)	前回プリントの読み込み(90分)	前回プリントの読み込み(90分)
4	事前学習(関連法規・制度理解)	前回プリントの読み込み(90分)	前回プリントの読み込み(90分)
5	事前学習(関連法規・制度理解)	前回プリントの読み込み(90分)	前回プリントの読み込み(90分)
6	事前学習(関連法規・制度理解)	前回プリントの読み込み(90分)	前回プリントの読み込み(90分)
7	事前学習(ソーシャルワーク技法)	前回プリントの読み込み(90分)	前回プリントの読み込み(90分)
8	事前学習(ソーシャルワーク技法)	前回プリントの読み込み(90分)	前回プリントの読み込み(90分)
9	事前学習(ソーシャルワーク技法)	前回プリントの読み込み(90分)	前回プリントの読み込み(90分)
10	事前学習(他職種・他機関連携)	前回プリントの読み込み(90分)	前回プリントの読み込み(90分)
11	事前学習(他職種・他機関連携)	前回プリントの読み込み(90分)	前回プリントの読み込み(90分)
12	事前学習(他職種・他機関連携)	前回プリントの読み込み(90分)	前回プリントの読み込み(90分)
13	事前学習(地域連携)	前回プリントの読み込み(90分)	前回プリントの読み込み(90分)
14	事前学習(地域連携)	前回プリントの読み込み(90分)	前回プリントの読み込み(90分)
15	事前学習(地域連携)	前回プリントの読み込み(90分)	前回プリントの読み込み(90分)
16	実習計画作成と修正	前回プリントの読み込み(90分)	前回プリントの読み込み(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・3年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	相談援助実習指導 (科目ナンバリング: SWS123034)				
授業担当者(所属・職名)	小早川 俊哉(社会福祉学科・教授)・ 上原 正希(社会福祉学科・教授)・杉	研究室所在	1号館2階		
単位数	2 (単位認定責任者: 小早川 俊哉)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	ソーシャルワーク、ケアワークの実務経験のある教員が、実践現場における事例を参照しながら、現場実習の事後指導を行う。		

概要

履修目標
各領域の相談援助実習を終了した後、実習中の振り返り(利用者との関り、他職種・他機関連携、地域連携)を行うことによって、実習中の行為がSW実践の具体的技法とどのような関連するが、SW諸理論とどのように関連するが、あるいは逸脱しているかを理解する。

授業の位置づけ
社会福祉学科のDP「1(1)と(2)と(3)と(4)と(5)と(6)と(7)」、「2(2)」に対応する。

到達目標
専門職として求められる資質、専門的知識・技術、倫理、自己に求められる問題把握など、総合的に対応できる能力を習得する。さらに、現場実習での具体的援助経験を、専門性を踏まえて概念化し理論化できる能力を習得できる。

授業全体の内容と概要
「相談援助実習」と「相談援助実習」は3つの授業に分かれているが、1対のものとして理解すべきである。「相談援助実習指導」は事前指導、「相談援助実習」は現場実習、「相談援助実習指導」は事後指導と考える。「相談援助実習」での課題への取り組みを振り返り、それをレポートおよび報告書にまとめる。また「相談援助実習指導」の最終講義において「相談援助実習」の報告(各領域1名程度)、「相談援助実習指導」(2年生向け)での報告会(各領域から1名程度)を行う。

授業の方法
高齢、障がい、児童、地域・行政の各実習領域に分かれ、各々の担当教員が講義を行う。講義方法は各担当教員に一任されているが、各領域の制度、法規、実践事例、そして実習後の振り返りをメインに行う。講義資料は各担当教員が用意するが、実習後の振り返りについては学生自身が発表者になりプレゼンを行う(方法については担当教員に一任されるが、最低限レシメの配布は行うこと)。年間を通して実習終了後のレポート、報告書の提出を課題として義務付けている。学生からの要望・課題については、可能な範囲で随時対応していく。

アクティブラーニングの実施方法						
	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク	PBL
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習	反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項
各領域担当教員の指示に従うこと。

資格指定科目
社会福祉士国家試験受験資格課程, 精神保健福祉士国家試験受験資格課程, スクール(学校)ソーシャルワーカー資格課程, 子育て支援ソーシャルワーカー資格課程

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定の最低出席回数10回以上をクリアすること。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	30%	0%	0%	30%	40%

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
実習中の利用者との関りをSW理論・技法と位置付けて説明できる。	実習中の利用者とのコミュニケーション場面における成功事例と失敗事例を振り返り、それを具体的論で説明でき、且つ、具体的技法との関連を説明できた。	実習中の利用者とのコミュニケーション場面における成功事例と失敗事例を振り返り、その各々の場面を通しての自己覚知ができた。	実習中の利用者とのコミュニケーション場面における成功事例と失敗事例を振り返り、それを具体的論によって説明できた。	実習中の利用者とのコミュニケーション場面における成功事例を振り返り、それを具体的論で説明できた。	左記の内容が何一つできなかった。
実習中の他職種・他機関連携をSW理論・技法と位置付けて説明できる。	実習中の他職種・他機関連携について具体的なSW理論と結び付けて説明でき、且つ、ジェネリックソーシャルワークの視点から普遍的なSW理論に昇華できた。	実習中の他職種・他機関連携を全て説明でき、実習の領域の特性と合わせて説明できた。	実習中の他職種・他機関連携について、どんな職種・機関と連携したかを説明できた。	実習中の他職種・他機関連携について具体的なSW理論と結び付けて説明できた。	左記の内容が何一つできなかった。
実習中の地域連携についてSW理論・技法と位置付けて説明できる。	実習中の地域連携について説明でき、その具体的な業務をSW理論を用いて説明でき、且つ、地域ネットワーク構築の特徴を考察できた。	実習中の地域連携について説明でき、具体的などんな機関と連携し、どのようなSW実践を行ったかを説明できた。	実習中の地域連携について説明でき、その具体的な業務内容をSW理論を用いて説明できた。	実習中の地域連携について、どんな機関と連携したかを説明できた。	左記の内容が何一つできなかった。

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・3年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	相談援助実習指導 (科目ナンバリング: SWS123034)				
授業担当者(所属・職名)	小早川 俊哉(社会福祉学科・教授)・ 上原 正希(社会福祉学科・教授)・杉	研究室所在	1号館2階		
単位数	2 (単位認定責任者: 小早川 俊哉)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり 左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	ソーシャルワーク、ケアワークの実務経験のある教員が、実践現場における事例を参照しながら、現場実習の事後指導を行う。			

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	シラバスの説明 事後学習(振り返り)	実習の振り返り(90分)	配布プリントの熟読(90分)
2	事後学習(振り返り)	前回プリントの読み込み(90分)	配布プリントの熟読(90分)
3	事後学習(振り返り)	前回プリントの読み込み(90分)	配布プリントの熟読(90分)
4	事後学習(自己覚知)	前回プリントの読み込み(90分)	配布プリントの熟読(90分)
5	事後学習(自己覚知)	前回プリントの読み込み(90分)	配布プリントの熟読(90分)
6	事後学習(自己覚知)	前回プリントの読み込み(90分)	配布プリントの熟読(90分)
7	事後学習(他職種・他機関連携)	前回プリントの読み込み(90分)	配布プリントの熟読(90分)
8	事後学習(他職種・他機関連携)	前回プリントの読み込み(90分)	配布プリントの熟読(90分)
9	事後学習(他職種・他機関連携)	前回プリントの読み込み(90分)	配布プリントの熟読(90分)
10	事後学習(地域連携)	前回プリントの読み込み(90分)	配布プリントの熟読(90分)
11	事後学習(地域連携)	前回プリントの読み込み(90分)	配布プリントの熟読(90分)
12	事後学習(地域連携)	前回プリントの読み込み(90分)	配布プリントの熟読(90分)
13	事後学習(ソーシャルワーク実践理論)	前回プリントの読み込み(90分)	配布プリントの熟読(90分)
14	事後学習(ソーシャルワーク実践理論)	前回プリントの読み込み(90分)	配布プリントの熟読(90分)
15	事後学習(ソーシャルワーク実践理論)	前回プリントの読み込み(90分)	配布プリントの熟読(90分)
16	実習報告会 まとめ	前回プリントの読み込み(90分)	配布プリントの熟読(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・3年		
開講時期	後期集中	授業形態	実習	必修・選択	選択
科目名称	相談援助実習 (科目ナンバリング: SWS124035)				
授業担当者(所属・職名)	小早川 俊哉(社会福祉学科・教授)・上原 正希(社会福祉学科・教授)・杉	研究室所在	1号館2階		
単位数	4 (単位認定責任者: 小早川 俊哉)	CAP制	x		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	社会福祉各領域において実習を行い、各実践現場において豊富な実務経験を持つ職員がスーパーバイザーとなり、ソーシャルワーク実習についての指導を行う。		

概要

履修目標
実践現場における23日180時間以上の職場・職種・ソーシャルワーク実習を通して、選択した実習領域の職場・職種・ソーシャルワークについての理解を深め、さらに、他職種・他機関連携、地域連携などを通してジェネリックソーシャルワークに対する理解を深める。

授業の位置づけ
社会福祉学科のDP「1(1)と(2)と(3)と(4)と(5)と(6)と(7)」、「2(2)」に対応する。

到達目標
<ul style="list-style-type: none"> ・ 価値、職業倫理とワーカーの行動・態度の関係の理解、並びに価値の実現に関して具体的に理解する。 ・ 利用者自身の抱えるニーズを様々な社会資源との関係で分析・評価し援助計画を立てる能力を習得する。 ・ 援助過程を通して必要な専門的援助関係を構築し深める技術を習得する。 ・ 利用者とその関係者の問題解決能力を高め、利用者和社会環境の調整を図る技術を習得する。 ・ 地域社会、当該施設・機関の特性を評価し、その組織化を促進する技術を習得する。 ・ 当該領域において用いられる社会資源の知識とそれを開発し、活用するための技術を習得する。 ・ 恣意的な観察及び記録作成ができる。 ・ 自己理解を深め自己の意識・感情のコントロールができる。その領域の特殊技法等を理解する。

授業全体の内容と概要
「相談援助実習指導」および「相談援助実習」は3つの授業に分かれているが、一対のものとして理解すべきである。「相談援助実習指導」は事前学習、「相談援助実習」は実践現場実習、「相談援助実習指導」は事後学習と考える。したがって「相談援助実習指導」および「相談援助実習」の履修が必要不可欠である。「相談援助実習」では、ソーシャルワーク理解を基本として、特に「相談援助実習指導」の事前学習において、しっかりと現場実習の目的や課題を持ち、その達成に向けて社会福祉実践現場(施設・機関)で23日間(180時間)以上にわたる現場実習を行うこととなる。

授業の方法
各領域の担当教員の指導、および配属された実習先の指導者の指示に従うこと。実習期間中は担当教員が訪問指導によって、質疑応答や相談に応じる。

アクティブラーニングの実施方法															
<table border="1"> <tr> <td></td> <td>プレゼンテーション</td> <td>グループワーク</td> <td>フィールドワーク</td> <td>PBL</td> </tr> <tr> <td></td> <td>模擬授業</td> <td>ロールプレイ</td> <td>調査学習</td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td></td> <td>ディスカッション</td> <td>実験・実習・実技</td> <td>双方向授業</td> <td>その他(授業の方法参照)</td> </tr> </table>		プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL		模擬授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業		ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)
	プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL											
	模擬授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業											
	ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)											

履修上の注意事項
事前学習にあたる「相談援助実習指導」の履修態度によっては、実習配属がなされない場合があるので各領域担当教員の指導を厳守すること。

資格指定科目
社会福祉士国家試験受験資格課程、精神保健福祉士国家試験受験資格課程、スクール(学校)ソーシャルワーカー資格課程、子育て支援ソーシャルワーカー資格課程

評価方法・基準

評価前提条件												
23日間180時間以上の実習日程をクリアすること。												
評価方法												
<table border="1"> <tr> <th>定期試験</th> <th>レポート</th> <th>課題・作品</th> <th>中間テスト</th> <th>平常点</th> <th>その他</th> </tr> <tr> <td>0%</td> <td>0%</td> <td>0%</td> <td>0%</td> <td>0%</td> <td>100%</td> </tr> </table>	定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他	0%	0%	0%	0%	0%	100%
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他							
0%	0%	0%	0%	0%	100%							

ルーブリック																													
<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">評価項目</th> <th colspan="5">評価基準</th> </tr> <tr> <th>履修項目を超えたレベルを達成している</th> <th>履修項目をほぼ達成している</th> <th>履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している</th> <th>到達目標を達成している</th> <th>到達目標を達成していない</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>相談援助実習における「職場とは何か」を理解する。</td> <td>利用者の名前、性格、基本的特性を理解し、尚且つ実習現場の職場の特徴を説明でき、尚且つ職場における利用者とのかわり方を説明でき、さらに社会制度との関連を説明できた。</td> <td>利用者の名前、性格、基本的特性を理解し、尚且つ実習現場の職場の特徴を説明でき、尚且つ職場における利用者とのかわり方を理解できた。</td> <td>利用者の名前、性格、基本的特性を理解し、尚且つ実習現場の職場の特徴を説明できた。</td> <td>実習現場の職場の特性を説明できた。</td> <td>左記の内容が何一つできていなかった。</td> </tr> <tr> <td>相談援助実習における「職種とは何か」を理解する。</td> <td>利用者のニーズを各々説明でき、そのニーズに即した「職種にふさわしいかわり方」を説明でき、且つ、そのかわり方をSW理論で説明できた。</td> <td>利用者のニーズを各々説明でき、そのニーズに即した「職種にふさわしいかわり方」を説明でき、且つ実践できた。</td> <td>利用者のニーズを各々説明でき、そのニーズに即した「職種にふさわしいかわり方」を説明できた。</td> <td>実習現場における「職種」について説明できた。</td> <td>左記の内容が何一つできていなかった。</td> </tr> <tr> <td>相談援助実習における「ソーシャルワークとは何か」を理解する。</td> <td>実習中のケース研究において、支援計画を作成、且つ実践でき、それをSW理論で説明できた。</td> <td>実習中のケース研究において、支援計画を作成、且つ実践でき、それをSW理論で説明できた。</td> <td>実習中のケース研究において、支援計画を作成でき、且つ、実践できた。</td> <td>実習中のケース研究において、支援計画を作成できた。</td> <td>左記の内容が何一つできていなかった。</td> </tr> </tbody> </table>	評価項目	評価基準					履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない	相談援助実習における「職場とは何か」を理解する。	利用者の名前、性格、基本的特性を理解し、尚且つ実習現場の職場の特徴を説明でき、尚且つ職場における利用者とのかわり方を説明でき、さらに社会制度との関連を説明できた。	利用者の名前、性格、基本的特性を理解し、尚且つ実習現場の職場の特徴を説明でき、尚且つ職場における利用者とのかわり方を理解できた。	利用者の名前、性格、基本的特性を理解し、尚且つ実習現場の職場の特徴を説明できた。	実習現場の職場の特性を説明できた。	左記の内容が何一つできていなかった。	相談援助実習における「職種とは何か」を理解する。	利用者のニーズを各々説明でき、そのニーズに即した「職種にふさわしいかわり方」を説明でき、且つ、そのかわり方をSW理論で説明できた。	利用者のニーズを各々説明でき、そのニーズに即した「職種にふさわしいかわり方」を説明でき、且つ実践できた。	利用者のニーズを各々説明でき、そのニーズに即した「職種にふさわしいかわり方」を説明できた。	実習現場における「職種」について説明できた。	左記の内容が何一つできていなかった。	相談援助実習における「ソーシャルワークとは何か」を理解する。	実習中のケース研究において、支援計画を作成、且つ実践でき、それをSW理論で説明できた。	実習中のケース研究において、支援計画を作成、且つ実践でき、それをSW理論で説明できた。	実習中のケース研究において、支援計画を作成でき、且つ、実践できた。	実習中のケース研究において、支援計画を作成できた。	左記の内容が何一つできていなかった。
評価項目		評価基準																											
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない																								
相談援助実習における「職場とは何か」を理解する。	利用者の名前、性格、基本的特性を理解し、尚且つ実習現場の職場の特徴を説明でき、尚且つ職場における利用者とのかわり方を説明でき、さらに社会制度との関連を説明できた。	利用者の名前、性格、基本的特性を理解し、尚且つ実習現場の職場の特徴を説明でき、尚且つ職場における利用者とのかわり方を理解できた。	利用者の名前、性格、基本的特性を理解し、尚且つ実習現場の職場の特徴を説明できた。	実習現場の職場の特性を説明できた。	左記の内容が何一つできていなかった。																								
相談援助実習における「職種とは何か」を理解する。	利用者のニーズを各々説明でき、そのニーズに即した「職種にふさわしいかわり方」を説明でき、且つ、そのかわり方をSW理論で説明できた。	利用者のニーズを各々説明でき、そのニーズに即した「職種にふさわしいかわり方」を説明でき、且つ実践できた。	利用者のニーズを各々説明でき、そのニーズに即した「職種にふさわしいかわり方」を説明できた。	実習現場における「職種」について説明できた。	左記の内容が何一つできていなかった。																								
相談援助実習における「ソーシャルワークとは何か」を理解する。	実習中のケース研究において、支援計画を作成、且つ実践でき、それをSW理論で説明できた。	実習中のケース研究において、支援計画を作成、且つ実践でき、それをSW理論で説明できた。	実習中のケース研究において、支援計画を作成でき、且つ、実践できた。	実習中のケース研究において、支援計画を作成できた。	左記の内容が何一つできていなかった。																								

教科書・参考文献・資料等

教科書																																										
<table border="1"> <thead> <tr> <th>No</th> <th>書籍名</th> <th>著者</th> <th>出版社</th> <th>出版年</th> <th>ISBN</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>4</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>5</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>	No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考	1							2							3							4							5						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考																																				
1																																										
2																																										
3																																										
4																																										
5																																										

参考文献・資料等																																										
<table border="1"> <thead> <tr> <th>No</th> <th>書籍名</th> <th>著者</th> <th>出版社</th> <th>出版年</th> <th>ISBN</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>4</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>5</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>	No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考	1							2							3							4							5						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考																																				
1																																										
2																																										
3																																										
4																																										
5																																										

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・3年		
開講時期	後期集中	授業形態	実習	必修・選択	選択
科目名称	相談援助実習 (科目ナンバリング: SWS124035)				
授業担当者(所属・職名)	小早川 俊哉(社会福祉学科・教授)・ 上原 正希(社会福祉学科・教授)・杉	研究室所在	1号館2階		
単位数	4 (単位認定責任者: 小早川 俊哉)	CAP制	x		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	社会福祉各領域において実習を行い、各実践現場において豊富な実務経験を持つ職員がスーパーバイザーとなり、ソーシャルワーク実務についての指導を行う。		

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	職場実習1 シラバスの説明	オリエンテーション時に配布されたプリントの熟読(90分)	日誌の記載およびスーパーバイザーからの指摘についての振り返り(90分)
2	職場実習2	前回プリントの読み込み(90分)	日誌の記載およびスーパーバイザーからの指摘についての振り返り(90分)
3	職場実習3	前回プリントの読み込み(90分)	日誌の記載およびスーパーバイザーからの指摘についての振り返り(90分)
4	職場実習4	前回プリントの読み込み(90分)	日誌の記載およびスーパーバイザーからの指摘についての振り返り(90分)
5	職場実習5	前回プリントの読み込み(90分)	日誌の記載およびスーパーバイザーからの指摘についての振り返り(90分)
6	職種実習1	前回プリントの読み込み(90分)	日誌の記載およびスーパーバイザーからの指摘についての振り返り(90分)
7	職種実習2	前回プリントの読み込み(90分)	日誌の記載およびスーパーバイザーからの指摘についての振り返り(90分)
8	職種実習3	前回プリントの読み込み(90分)	日誌の記載およびスーパーバイザーからの指摘についての振り返り(90分)
9	職種実習4	前回プリントの読み込み(90分)	日誌の記載およびスーパーバイザーからの指摘についての振り返り(90分)
10	職種実習5	前回プリントの読み込み(90分)	日誌の記載およびスーパーバイザーからの指摘についての振り返り(90分)
11	ソーシャルワーク実習1	前回プリントの読み込み(90分)	日誌の記載およびスーパーバイザーからの指摘についての振り返り(90分)
12	ソーシャルワーク実習2	前回プリントの読み込み(90分)	日誌の記載およびスーパーバイザーからの指摘についての振り返り(90分)
13	ソーシャルワーク実習3	前回プリントの読み込み(90分)	日誌の記載およびスーパーバイザーからの指摘についての振り返り(90分)
14	ソーシャルワーク実習4	前回プリントの読み込み(90分)	日誌の記載およびスーパーバイザーからの指摘についての振り返り(90分)
15	ソーシャルワーク実習5	前回プリントの読み込み(90分)	日誌の記載およびスーパーバイザーからの指摘についての振り返り(90分)
16	実習全体の総括	前回プリントの読み込み(90分)	日誌の記載およびスーパーバイザーからの指摘についての振り返り(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・3年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	精神保健福祉援助演習 (科目ナンバリング：SWS122049)				
授業担当者(所属・職名)	大島 康雄(社会福祉学科・准教授)、 西野 克俊(社会福祉学科・専任講師)	研究室所在	1号館2階		
単位数	1 (単位認定責任者：大島 康雄)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	精神保健福祉士として相談援助を行っていた教員が現場で求められる役割や基礎的な知識、技術、倫理など演習を通じて展開していきます。		

概要

履修目標	相談援助に係る基礎的な知識や技術を基に、精神保健福祉相談援助の展開を体系的に理解する。 個人及び集団的な実技指導を通して、総合的かつ包括的な相談援助を理解する。
------	---

授業の位置づけ	社会福祉学科のDP「1(1)と(2)と(3)と(6)と(7)」、「2(2)」に対応する。
---------	--

到達目標	精神保健福祉士に必要な専門知識・技術・実践能力が身につける。 精神保健福祉士としての援助技術を概念化し、理論化し、体系立てて理解する。
------	--

授業全体の内容と概要	精神保健福祉士としての援助としての知識と技術について学びます。 精神保健福祉相談援助のコミュニケーション技術などについて学びます。
------------	--

授業の方法	授業形態はグループ学習形式及び演習形式で行う。 テキスト及び配布資料を使用し、ポイントとなるべき箇所は説明、板書を行う。 質問等に対しては都度口頭にて説明を行い、必要に応じて資料を配布する。 ロールプレイ等に関しては、フィードバックを行う。
-------	---

アクティブラーニングの実施方法						
	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク	PBL
	模擬授業	○	ロールプレイ		調査学習	反転授業
	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項	教科書は必ず持参すること。 やむを得ず遅刻または欠席する場合は、原則として事前に連絡をすること。 相談援助演習の履修及び単位取得済みでなければ本科目の履修はできません。
----------	--

資格指定科目	精神保健福祉士国家試験受験資格課程
--------	-------------------

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数は10回以上。 グループワークにおいて、発言などを3回以上は行い、参加姿勢を見せる。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	50%	0%	50%	0%

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・理解	相談援助にかかる基礎的な知識及び技術を深く理解できた。	相談援助にかかる基礎的な知識及び技術をおおむね理解できた。	相談援助にかかる基礎的な知識及び技術を理解できた。	相談援助にかかる基礎的な知識及び技術を多少理解できた。	相談援助にかかる基礎的な知識及び技術を理解することができなかった。
思考力・考察力	相談援助技術の基本を踏まえ、相談援助の展開について十分に考察できた。	相談援助技術の基本を踏まえ、相談援助の展開についておおむね考察できた。	相談援助技術の基本を踏まえ、相談援助の展開について考察できた。	相談援助技術の基本を踏まえ、相談援助の展開について多少考察できた。	相談援助技術の基本を踏まえ、相談援助の展開について考察することができなかった。
主体性・情意	精神保健福祉相談援助技術の展開について理解したことを適切に説明できた。	精神保健福祉相談援助技術の展開について理解したことをおおむね説明できた。	精神保健福祉相談援助技術の展開について理解したことを説明できた。	精神保健福祉相談援助技術の展開について理解したことを多少説明できた。	精神保健福祉相談援助技術の展開について理解したことを説明することができなかった。

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『精神保健福祉援助演習(基礎・専門)』	日本精神保健福祉士養成校協会	中央法規出版	2016	9784805853139	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・3年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	精神保健福祉援助演習 (科目ナンバリング: SWS122049)				
授業担当者(所属・職名)	大島 康雄(社会福祉学科・准教授)、 西野 克俊(社会福祉学科・専任講師)	研究室所在	1号館2階		
単位数	1	(単位認定責任者: 大島 康雄)	CAP制		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	精神保健福祉士として相談援助を行っていた教員が現場で求められる役割や基礎的な知識、技術、倫理など演習を通じて展開していきます。		

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	シラバスの説明及び精神保健福祉援助演習の学びについてのガイダンス	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	教科書及び板書の復習(90分)
2	自己理解と他者理解	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	教科書及び板書の復習(90分)
3	精神保健福祉相談援助の価値と倫理	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	教科書及び板書の復習(90分)
4	利用者の理解	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	教科書及び板書の復習(90分)
5	援助関係の理解	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	教科書及び板書の復習(90分)
6	コミュニケーション技術	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	コミュニケーション技術の振り返り(90分)
7	コミュニケーション技術	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	コミュニケーション技術の振り返り(90分)
8	面接技術	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	面接技術の振り返り(90分)
9	面接技術	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	面接技術の振り返り(90分)
10	スーパービジョンとコンサルテーション	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	教科書及び板書の復習(90分)
11	記録の技術	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	教科書及び板書の復習(90分)
12	観察法	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	教科書及び板書の復習(90分)
13	マッピング技法	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	教科書及び板書の復習(90分)
14	チームアプローチの理解	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	教科書及び板書の復習(90分)
15	チームアプローチの理解	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	教科書及び板書の復習(90分)
16	精神保健福祉援助演習のまとめ、ロールプレイ等のフィードバック	各15回分の振り返り(90分)	総合的な振り返り(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・4年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	精神保健福祉援助演習 (科目ナンバリング：SWS122050)				
授業担当者(所属・職名)	大島 康雄(社会福祉学科・准教授)、 西野 克俊(社会福祉学科・専任講師)	研究室所在	1号館2階		
単位数	1 (単位認定責任者：大島 康雄)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	精神保健福祉士として相談援助を行っていた教員が実習指導を行い、事前学習、体験、医療・地域機関での実習を通じて、自己の課題と向き合い専門職としての在り方を意識できる。		

概要

履修目標	地域の障害福祉サービス事業所等での実習で精神障がい者の生活のしづらさを理解し、精神保健福祉士の専門的技術を実践する。				
授業の位置づけ	社会福祉学科のDP「1(1)と(2)と(3)と(4)」、「2(1)と(4)」に対応する。				
到達目標	精神保健福祉士に必要な専門的知識・技術・実践ができる。 記録や報告書等の作成能力を高め、実践現場で通用する社会性・主体性を身につけて実践できる。 福祉実践者として自己覚知を深め、対象者理解と地域での生活支援について理解できる。				
授業全体の内容と概要	精神保健福祉援助実習を通して、精神保健福祉援助並びに障害者等の相談援助に係る専門的知識と技術について具体的なかつ実務的に理解し実践的な技術等を体得する。 精神保健福祉援助実習を通して、精神障害者のおかれている現状を理解し、その生活実態や生活上の課題について把握する。 精神保健福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得する。 総合的かつ包括的な地域生活支援と関連分野の専門職との連携のあり方及びその具体的内容を実践的に理解する。				
授業の方法	実習を行い、実践場面でのソーシャルワークを学ぶ。				
アクティブラーニングの実施方法	<input type="checkbox"/> プレゼンテーション	<input type="checkbox"/> グループワーク	<input type="checkbox"/> フィールドワーク		PBL
	<input type="checkbox"/> 模擬授業	<input type="checkbox"/> ロールプレイ	<input type="checkbox"/> 調査学習		反転授業
	<input type="checkbox"/> ディスカッション	<input type="checkbox"/> 実験・実習・実技	<input type="checkbox"/> 双方向授業		その他(授業の方法参照)
履修上の注意事項	出席を重視します。やむを得ず遅刻や欠席をするときには、原則として事前に連絡をすること。 精神保健福祉士国家試験の受験資格取得のための必須科目です。知りたい、聞きたい、理解しようという積極的な姿勢が必要であると同時に、精神保健福祉に關する事柄に対し自ら問題意識を持って履修すること。				
資格指定科目	精神保健福祉士国家試験受験資格課程				

評価方法・基準

評価前提条件					
地域の障害福祉サービス事業所等での実習60時間以上を修了していること。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	0%	0%	0%	100%

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
実習に参加し、積極的に取り組んだ。	実習期間、遅刻や欠席もなく、実習態度も積極的に取り組むことができた。	実習期間、遅刻や欠席もなく、実習態度も適切に取り組むことができた。	実習期間、遅刻や欠席もなく、実習態度も問題なく取り組むことができた。	実習期間の規定をクリアし、実習態度も問題なく取り組むことができた。	実習期間の規定をクリアできなかった。
実習目標に合わせた実習が行えた。	事前学習と実習計画の連動がされ、問題意識が実習を通して解決できた。	事前学習と実習計画の連動がされ、問題意識が実習を通して学ぶことができた。	事前学習と実習計画の連動がされ、問題意識が実習を通して感じることができた。	問題意識が実習を通じて気づくことができた。	実習を通して問題意識を持つことができなかった。
実習先で適切な態度やクライアントと関わることであった。	適切な接遇が行え、積極的にクライアントと関わり、自己のコミュニケーションを高めることができた。	接遇を意識し、積極的にクライアントと関わり、自己のコミュニケーションを高めることができた。	クライアントと関わり、自己のコミュニケーションを高めることができた。	自己のコミュニケーションを高めることができた。	関わりを持つことができなかった。

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『精神保健福祉援助実習指導・実習』	日本精神保健福祉士養成校協会	中央法規	2012年	978-4-8058-5120-3	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・4年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	精神保健福祉援助演習 (科目ナンバリング: SWS122050)				
授業担当者(所属・職名)	大島 康雄(社会福祉学科・准教授)、 西野 克俊(社会福祉学科・専任講師)	研究室所在	1号館2階		
単位数	1 (単位認定責任者: 大島 康雄)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	精神保健福祉士として相談援助を行っていた教員が実習指導を行い、事前学習、体験、医療・地域機関での実習を通じて、自己の課題と向き合い専門職としての在り方を意識できる。		

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	精神科医療, 精神障害者の長期入院の弊害, 社会的な偏見や差別の現状を知る。	実習内容の事前学習(90分)	実習日誌の作成(90分)
2	精神科医療, 精神障害者の長期入院の弊害, 社会的な偏見や差別の現状を知る。	実習内容の事前学習(90分)	実習日誌の作成(90分)
3	展開される援助過程を理解し, ソーシャルワークの原則を理解する。	実習内容の事前学習(90分)	実習日誌の作成(90分)
4	ケアプラン, ケアマネジメントの実際から援助関係のあり方を学ぶ。	実習内容の事前学習(90分)	実習日誌の作成(90分)
5	地域の社会資源に関する情報収集や開発, 活用について理解する。	実習内容の事前学習(90分)	実習日誌の作成(90分)
6	精神保健ボランティアや地域のサポートシステムについて学ぶ。	実習内容の事前学習(90分)	実習日誌の作成(90分)
7	実践の記録化を通じて, 事例研究の意義について理解する。	実習内容の事前学習(90分)	実習日誌の作成(90分)
8	自己への気づきを深め, 対人援助業務においてあるべき姿勢について理解する。	実習内容の事前学習(90分)	実習日誌の作成(90分)
9	実習日誌の提出	実習日誌の作成(90分)	実習の振り返り(90分)
10			
11			
12			
13			
14			
15			
16			

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・3年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	精神保健福祉援助実習 (科目ナンバリング: SWS122051)				
授業担当者(所属・職名)	大島 康雄(社会福祉学科・准教授)、 西野 克俊(社会福祉学科・専任講師)	研究室所在	1号館2階		
単位数	2 (単位認定責任者: 大島 康雄)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	精神保健福祉士として相談援助をしていた教員が、実習に向けた学習・体験などを通じて精神保健福祉援助実習が効果的になるように授業を行います。		

概要

履修目標	精神保健福祉士として必要な知識・技術についての基礎を培う。																								
授業の位置づけ	社会福祉学科のDP「1(1)と(4)」、「2(2)」に対応する。																								
到達目標	精神保健福祉分野における現状や課題を理解する。 精神保健福祉援助実習の目的を明確にする。																								
授業全体の内容と概要	精神保健福祉援助実習の意義や精神障害者への支援の実際を具体的に学ぶ。「精神保健福祉援助実習要項」や「精神保健福祉援助実習報告集」等から、実習教育や精神保健福祉士について理解を深める。																								
授業の方法	知識の獲得や考える力、伝える方法などを具体的に授業中にしてもらい、スキルを高めます。教科書を活用し、板書やプリントなどで知識を整理していきます。事前学習をしてもらい、自ら学習する機会と疑問をもつことを意識してもらいます。質問に関してはそのつど対応します。																								
アクティブラーニングの実施方法	<table border="1"> <tr> <td><input type="checkbox"/></td> <td>プレゼンテーション</td> <td><input type="checkbox"/></td> <td>グループワーク</td> <td><input type="checkbox"/></td> <td>フィールドワーク</td> <td><input type="checkbox"/></td> <td>PBL</td> </tr> <tr> <td><input type="checkbox"/></td> <td>模擬授業</td> <td><input type="checkbox"/></td> <td>ロールプレイ</td> <td><input type="checkbox"/></td> <td>調査学習</td> <td><input type="checkbox"/></td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td><input type="checkbox"/></td> <td>ディスカッション</td> <td><input type="checkbox"/></td> <td>実験・実習・実技</td> <td><input type="checkbox"/></td> <td>双方向授業</td> <td><input type="checkbox"/></td> <td>その他(授業の方法参照)</td> </tr> </table>	<input type="checkbox"/>	プレゼンテーション	<input type="checkbox"/>	グループワーク	<input type="checkbox"/>	フィールドワーク	<input type="checkbox"/>	PBL	<input type="checkbox"/>	模擬授業	<input type="checkbox"/>	ロールプレイ	<input type="checkbox"/>	調査学習	<input type="checkbox"/>	反転授業	<input type="checkbox"/>	ディスカッション	<input type="checkbox"/>	実験・実習・実技	<input type="checkbox"/>	双方向授業	<input type="checkbox"/>	その他(授業の方法参照)
<input type="checkbox"/>	プレゼンテーション	<input type="checkbox"/>	グループワーク	<input type="checkbox"/>	フィールドワーク	<input type="checkbox"/>	PBL																		
<input type="checkbox"/>	模擬授業	<input type="checkbox"/>	ロールプレイ	<input type="checkbox"/>	調査学習	<input type="checkbox"/>	反転授業																		
<input type="checkbox"/>	ディスカッション	<input type="checkbox"/>	実験・実習・実技	<input type="checkbox"/>	双方向授業	<input type="checkbox"/>	その他(授業の方法参照)																		
履修上の注意事項	出席を重視します。やむを得ず遅刻や欠席をするときには、原則として事前に連絡をすること。 精神保健福祉士の専門性や活動範囲について考察しながら質疑等を行うこと。 履修にあたっては相談援助演習・の単位を修得していること及び相談援助実習指導・が単位取得済みであり、を履修することが要件になります。																								
資格指定科目	精神保健福祉士国家試験受験資格課程																								

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数は、12回以上。実習報告会の参加、運営などがあります。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	20%	0%	30%	20%	30%

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・理解	相談援助にかかる基礎的な知識及び技術を深く理解できた。	相談援助にかかる基礎的な知識及び技術をおおむね理解できた。	相談援助にかかる基礎的な知識及び技術を理解できた。	相談援助にかかる基礎的な知識及び技術を多少理解できた。	相談援助にかかる基礎的な知識及び技術を理解することができなかった。
思考力・考察力	相談援助技術の基本を踏まえ、相談援助の展開について十分に考察できた。	相談援助技術の基本を踏まえ、相談援助の展開についておおむね考察できた。	相談援助技術の基本を踏まえ、相談援助の展開について考察できた。	相談援助技術の基本を踏まえ、相談援助の展開について多少考察できた。	相談援助技術の基本を踏まえ、相談援助の展開について考察することができなかった。
主体性・情意	精神保健福祉相談援助技術の展開について理解したことを適切に説明できた。	精神保健福祉相談援助技術の展開について理解したことをおおむね説明できた。	精神保健福祉相談援助技術の展開について理解したことを説明できた。	精神保健福祉相談援助技術の展開について理解したことを多少説明できた。	精神保健福祉相談援助技術の展開について理解したことを説明することができなかった。

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『精神保健福祉援助実習指導・実習』	日本精神保健福祉士養成校協会	中央法規	2012年	978-4-8058-5120-3	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・3年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	精神保健福祉援助実習 (科目ナンバリング: SWS122051)				
授業担当者(所属・職名)	大島 康雄(社会福祉学科・准教授)、 西野 克俊(社会福祉学科・専任講師)	研究室所在	1号館2階		
単位数	2 (単位認定責任者: 大島 康雄)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	精神保健福祉士として相談援助をしていた教員が、実習に向けた学習・体験などを通じて精神保健福祉援助実習が効果的になるように授業を行います。		

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	精神保健福祉援助実習について、オリエンテーション(精神保健福祉援助実習要項、説明、シラバスの説明)	事前学習の資料作成(90分)	事前学習の資料の修正(90分)
2	精神保健福祉援助実習の目的・意義	事前学習の資料作成(90分)	事前学習の資料の修正(90分)
3	精神保健福祉士の支援活動の実際	事前学習の資料作成(90分)	事前学習の資料の修正(90分)
4	精神科医療機関における精神保健福祉士の役割	事前学習の資料作成(90分)	事前学習の資料の修正(90分)
5	精神科医療機関における精神保健福祉士の業務について	事前学習の資料作成(90分)	事前学習の資料の修正(90分)
6	就労移行支援・就労継続支援事業所等における精神保健福祉士の役割	事前学習の資料作成(90分)	事前学習の資料の修正(90分)
7	就労移行支援・就労継続支援事業所等における精神保健福祉士の業務について	事前学習の資料作成(90分)	事前学習の資料の修正(90分)
8	地域活動支援センターにおける精神保健福祉士の役割	事前学習の資料作成(90分)	事前学習の資料の修正(90分)
9	地域活動支援センターにおける精神保健福祉士の業務について	事前学習の資料作成(90分)	事前学習の資料の修正(90分)
10	精神科病院の実習報告について	事前学習の資料作成(90分)	事前学習の資料の修正(90分)
11	地域の障害サービス事業所等の実習について	事前学習の資料作成(90分)	事前学習の資料の修正(90分)
12	実習報告を聞いて	事前学習の資料作成(90分)	事前学習の資料の修正(90分)
13	精神科病院の実習について	事前学習の資料作成(90分)	事前学習の資料の修正(90分)
14	地域の障害サービス事業所等の実習について	事前学習の資料作成(90分)	事前学習の資料の修正(90分)
15	まとめ、事前学習の報告、オスキー	事前学習の資料作成(90分)	事前学習の資料の修正(90分)
16	事前学習の提出、オスキーの評価を説明。	事前学習の資料作成(90分)	事前学習の資料の修正(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・3年		
開講時期	4Q	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	社会心理学 (科目ナンバリング: SOP122071)				
授業担当者(所属・職名)	松下 守邦(社会福祉学科・教授)	研究室所在	1号館2階		
単位数	2 (単位認定責任者: 松下 守邦)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

概要

履修目標
<p>・社会心理学は私たちの日常生活をどう学ぶか学問である。この授業では、「私たちが社会からどのような影響をうけているのか」、「私たちが社会をどのように理解しているのか」について学修する。</p> <p>・理解するためのアプローチは大きく2つがある。一人ひとりの人間の心の仕組みに関心に向ける「心理学的社会心理学」と、集団に関心をおいてマクロな構造や社会的変化をどう学ぶか「社会的社会心理学」(中村陽吉:2006)である。</p> <p>・ここでは、社会的理解と心理学的理解の2つの観点を学ぶ。</p>

授業の位置づけ
社会福祉学科のDP「1(3)(4)(5)(6)」、「2(2)」に対応する。

到達目標
<p>社会心理学の基本になる学術用語の説明ができる。 社会心理学の応用領域における日常生活について、概念である学術用語、理論等を用いて課題を把握して考察ができる。</p> <p>評価基準の5指標は、履修目標をこえた(S)、履修目標をほぼ達成できた(A)、履修目標と到達目標の間であった(B)、到達目標をみたく、合格最低レベル(C)、到達目標に達することができなかった不合格(F)の段階的区分がある。成績分布目標は、履修状況により相対性と絶対性が勘案される規定があるので留意する。</p>

授業全体の内容と概要
<p>・社会心理学における自己研究を学修する。日常生活において私たちの思考や行動が「適応的無意識」のなかで大量の情報処理を瞬時にこなしている、その情報の解り過程について考察する。</p>

授業の方法
<p>・「授業の進行方法」: 授業の初回にて、文献精読の方法、学生分担報告について説明をおこなう。</p> <p>・文献精読は堀約(大野晋『日本語練習帳』岩波書店、1999)、三色線引き読み(齋藤孝『三色ボールペンで読む日本語』角川書店、2005)の技法をもとに、プレゼンテーション、グループワーク、文献読解(下記、アクティブ・ラーニングの実施方法、その他)の授業構成になる。</p> <p>・「使用教材」: 授業はテキスト、副教材(プリント資料、映像資料)を紹介しながら、自己研究についての社会心理学基礎を学修する。</p> <p>・「課題に関する説明」- 課題に対するフィードバック、「要望等への対応方法」: 授業中の個別報告、授業のまとめレポートなど課題や要望等の質問相談には、随時、対応する。授業中、あるいは研究室オフィスアワー利用により、気軽に相談してほしい。</p>

アクティブラーニングの実施方法																								
<table border="1"> <tr> <td>○</td> <td>プレゼンテーション</td> <td>○</td> <td>グループワーク</td> <td></td> <td>フィールドワーク</td> <td></td> <td>PBL</td> </tr> <tr> <td></td> <td>模擬授業</td> <td></td> <td>ロールプレイ</td> <td></td> <td>調査学習</td> <td></td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td></td> <td>ディスカッション</td> <td></td> <td>実験・実習・実技</td> <td></td> <td>双方向授業</td> <td>○</td> <td>その他(授業の方法参照)</td> </tr> </table>	○	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		PBL		模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業		ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業	○	その他(授業の方法参照)
○	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		PBL																	
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業																	
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業	○	その他(授業の方法参照)																	

履修上の注意事項
<p>各履修学生は、文献精読、報告作業を担当する。個別報告とレポート作成提出は、協同学習として役割と時間を遵守する。大学から交付される学生メールアドレスを使い、マイクロソフトTeams科目チャネル、Formsを学修利用する。パソコンスキル(レポート作成、準備学修の確認、教員への授業外連絡など、情報通信機器利用マナー)を高めていく。</p>

資格指定科目
認定心理士資格課程

評価方法・基準

評価前提条件												
<p>・単位認定に必要な最低出席要件は10回以上である。 ・文献精読の分担報告(本文、ソースノートの要旨をまとめ、新しい知見、学術用語をについて、例をあげて説明記述する)をおこなう。学修のまとめとしてレポート作成提出する。テキストに各自が線を引き、書き込みながら読み込む「アクティブ・リーディング」、実践確認のため、各自、テキスト作業後、提出準備をする。</p>												
評価方法												
<table border="1"> <tr> <th>定期試験</th> <th>レポート</th> <th>課題・作品</th> <th>中間テスト</th> <th>平常点</th> <th>その他</th> </tr> <tr> <td>0%</td> <td>30%</td> <td>60%</td> <td>0%</td> <td>0%</td> <td>10%</td> </tr> </table>	定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他	0%	30%	60%	0%	0%	10%
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他							
0%	30%	60%	0%	0%	10%							

ルーブリック																													
<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">評価項目</th> <th colspan="5">評価基準</th> </tr> <tr> <th>履修項目を超えたレベルを達成している</th> <th>履修項目をほぼ達成している</th> <th>履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している</th> <th>到達目標を達成している</th> <th>到達目標を達成していない</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td> <p>修得した知識を使い、収集した情報を分析し、理解することができる。情報分析力としての知識・技能</p> </td> <td> <p>文献の要旨をていねいにまとめ、これまでの学修内容との関連を適切にふまえていた。新しく学ぶことについて、複数の例をあげながら、自分の言葉で説明した。</p> </td> <td> <p>文献の要旨をまとめており、これまでの学修内容のいくつかを関連づけていた。新しく学ぶことについて、自分の言葉で例をあげて説明した。</p> </td> <td> <p>文献の要旨をまとめており、新しく学ぶことについて、自分の言葉で説明した。</p> </td> <td> <p>文献の要旨は、改善の余地があるが、まとめている。新しく学ぶことについて、説明するところが難しく、情報分析の知識・技能の修得ができなかった。</p> </td> <td> <p>文献の要旨をまとめる作業を、新しく学ぶことについて、説明するところが難しく、情報分析の知識・技能の修得ができなかった。</p> </td> </tr> <tr> <td> <p>収集した情報を分析して課題を発見し、客観的立場から成果を論理的に表現することができる。思考力・判断力・表現力</p> </td> <td> <p>課題に関連して、信頼性のある文献資料を複数選び、適切に引用した。新しく学ぶことは、これまでのものと対比して、類似点や相違点をあげながら表現をした。</p> </td> <td> <p>課題に関連して、信頼性のある文献資料を選び、適切に引用した。新しく学ぶことは、これまでのものと関連づけながら表現をした。</p> </td> <td> <p>課題に関連して、信頼性のある文献資料を選び、引用した。新しく学ぶことは、これまでのものと関連づけながら表現をした。</p> </td> <td> <p>課題に関連して、改善の余地があるが、文献資料を選び、引用すること、新しく学ぶことが難しく、思考力・判断力・表現力の修得ができなかった。</p> </td> <td> <p>課題に関連して、文献資料を選び、引用すること、新しく学ぶことが難しく、思考力・判断力・表現力の修得ができなかった。</p> </td> </tr> <tr> <td> <p>大学の学修環境を創造するメンバーとして自覚し、自分の意見と異なる意見を統合させながら、学修経験を高めていくこととする。関心・意欲・態度</p> </td> <td> <p>大学生としての役割と責任を自覚し、積極的、協同的に行動することができた。</p> </td> <td> <p>大学生として役割は、おおむね理解しており、行動することができた。</p> </td> <td> <p>大学生として自分の役割は、基本的な行動をすることができた。</p> </td> <td> <p>大学生として自分の役割は、改善の余地はあるが、行動することができた。</p> </td> <td> <p>大学生として自分の役割を、自ら理解して行動することが難しく、関心・意欲・態度を示すことができなかった。</p> </td> </tr> </tbody> </table>	評価項目	評価基準					履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない	<p>修得した知識を使い、収集した情報を分析し、理解することができる。情報分析力としての知識・技能</p>	<p>文献の要旨をていねいにまとめ、これまでの学修内容との関連を適切にふまえていた。新しく学ぶことについて、複数の例をあげながら、自分の言葉で説明した。</p>	<p>文献の要旨をまとめており、これまでの学修内容のいくつかを関連づけていた。新しく学ぶことについて、自分の言葉で例をあげて説明した。</p>	<p>文献の要旨をまとめており、新しく学ぶことについて、自分の言葉で説明した。</p>	<p>文献の要旨は、改善の余地があるが、まとめている。新しく学ぶことについて、説明するところが難しく、情報分析の知識・技能の修得ができなかった。</p>	<p>文献の要旨をまとめる作業を、新しく学ぶことについて、説明するところが難しく、情報分析の知識・技能の修得ができなかった。</p>	<p>収集した情報を分析して課題を発見し、客観的立場から成果を論理的に表現することができる。思考力・判断力・表現力</p>	<p>課題に関連して、信頼性のある文献資料を複数選び、適切に引用した。新しく学ぶことは、これまでのものと対比して、類似点や相違点をあげながら表現をした。</p>	<p>課題に関連して、信頼性のある文献資料を選び、適切に引用した。新しく学ぶことは、これまでのものと関連づけながら表現をした。</p>	<p>課題に関連して、信頼性のある文献資料を選び、引用した。新しく学ぶことは、これまでのものと関連づけながら表現をした。</p>	<p>課題に関連して、改善の余地があるが、文献資料を選び、引用すること、新しく学ぶことが難しく、思考力・判断力・表現力の修得ができなかった。</p>	<p>課題に関連して、文献資料を選び、引用すること、新しく学ぶことが難しく、思考力・判断力・表現力の修得ができなかった。</p>	<p>大学の学修環境を創造するメンバーとして自覚し、自分の意見と異なる意見を統合させながら、学修経験を高めていくこととする。関心・意欲・態度</p>	<p>大学生としての役割と責任を自覚し、積極的、協同的に行動することができた。</p>	<p>大学生として役割は、おおむね理解しており、行動することができた。</p>	<p>大学生として自分の役割は、基本的な行動をすることができた。</p>	<p>大学生として自分の役割は、改善の余地はあるが、行動することができた。</p>	<p>大学生として自分の役割を、自ら理解して行動することが難しく、関心・意欲・態度を示すことができなかった。</p>
評価項目		評価基準																											
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない																								
<p>修得した知識を使い、収集した情報を分析し、理解することができる。情報分析力としての知識・技能</p>	<p>文献の要旨をていねいにまとめ、これまでの学修内容との関連を適切にふまえていた。新しく学ぶことについて、複数の例をあげながら、自分の言葉で説明した。</p>	<p>文献の要旨をまとめており、これまでの学修内容のいくつかを関連づけていた。新しく学ぶことについて、自分の言葉で例をあげて説明した。</p>	<p>文献の要旨をまとめており、新しく学ぶことについて、自分の言葉で説明した。</p>	<p>文献の要旨は、改善の余地があるが、まとめている。新しく学ぶことについて、説明するところが難しく、情報分析の知識・技能の修得ができなかった。</p>	<p>文献の要旨をまとめる作業を、新しく学ぶことについて、説明するところが難しく、情報分析の知識・技能の修得ができなかった。</p>																								
<p>収集した情報を分析して課題を発見し、客観的立場から成果を論理的に表現することができる。思考力・判断力・表現力</p>	<p>課題に関連して、信頼性のある文献資料を複数選び、適切に引用した。新しく学ぶことは、これまでのものと対比して、類似点や相違点をあげながら表現をした。</p>	<p>課題に関連して、信頼性のある文献資料を選び、適切に引用した。新しく学ぶことは、これまでのものと関連づけながら表現をした。</p>	<p>課題に関連して、信頼性のある文献資料を選び、引用した。新しく学ぶことは、これまでのものと関連づけながら表現をした。</p>	<p>課題に関連して、改善の余地があるが、文献資料を選び、引用すること、新しく学ぶことが難しく、思考力・判断力・表現力の修得ができなかった。</p>	<p>課題に関連して、文献資料を選び、引用すること、新しく学ぶことが難しく、思考力・判断力・表現力の修得ができなかった。</p>																								
<p>大学の学修環境を創造するメンバーとして自覚し、自分の意見と異なる意見を統合させながら、学修経験を高めていくこととする。関心・意欲・態度</p>	<p>大学生としての役割と責任を自覚し、積極的、協同的に行動することができた。</p>	<p>大学生として役割は、おおむね理解しており、行動することができた。</p>	<p>大学生として自分の役割は、基本的な行動をすることができた。</p>	<p>大学生として自分の役割は、改善の余地はあるが、行動することができた。</p>	<p>大学生として自分の役割を、自ら理解して行動することが難しく、関心・意欲・態度を示すことができなかった。</p>																								

教科書・参考文献・資料等

教科書																																										
<table border="1"> <thead> <tr> <th>No</th> <th>書籍名</th> <th>著者</th> <th>出版社</th> <th>出版年</th> <th>ISBN</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>『選択の科学』</td> <td>S・アイエンガー/櫻井祐子訳</td> <td>文藝春秋</td> <td>2014</td> <td>9784167901554</td> <td>文春文庫S13-1</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>4</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>5</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考	1	『選択の科学』	S・アイエンガー/櫻井祐子訳	文藝春秋	2014	9784167901554	文春文庫S13-1	2							3							4							5						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考																																				
1	『選択の科学』	S・アイエンガー/櫻井祐子訳	文藝春秋	2014	9784167901554	文春文庫S13-1																																				
2																																										
3																																										
4																																										
5																																										

参考文献・資料等																																										
<table border="1"> <thead> <tr> <th>No</th> <th>書籍名</th> <th>著者</th> <th>出版社</th> <th>出版年</th> <th>ISBN</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>『自分とは何か-「自我の社会学」入門』</td> <td>船津 衛</td> <td>恒星社厚生閣</td> <td>2011</td> <td>9784769912415</td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>『選択日記』</td> <td>S・アイエンガー</td> <td>文藝春秋</td> <td>2012</td> <td>9784163756004</td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>『新 心理学的社会心理学』</td> <td>中村陽吉</td> <td>ブレーン出版</td> <td>2006</td> <td>9784892428401</td> <td></td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>『選択をしやすくするには How to make choices easier』</td> <td>S・アイエンガー</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>TED日本語 https://digital.cas</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>『移民と日本社会』</td> <td>永吉希久子</td> <td>中央論新社</td> <td>2020</td> <td>9784121025807</td> <td>中公新書</td> </tr> </tbody> </table>	No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考	1	『自分とは何か-「自我の社会学」入門』	船津 衛	恒星社厚生閣	2011	9784769912415		2	『選択日記』	S・アイエンガー	文藝春秋	2012	9784163756004		3	『新 心理学的社会心理学』	中村陽吉	ブレーン出版	2006	9784892428401		4	『選択をしやすくするには How to make choices easier』	S・アイエンガー				TED日本語 https://digital.cas	5	『移民と日本社会』	永吉希久子	中央論新社	2020	9784121025807	中公新書
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考																																				
1	『自分とは何か-「自我の社会学」入門』	船津 衛	恒星社厚生閣	2011	9784769912415																																					
2	『選択日記』	S・アイエンガー	文藝春秋	2012	9784163756004																																					
3	『新 心理学的社会心理学』	中村陽吉	ブレーン出版	2006	9784892428401																																					
4	『選択をしやすくするには How to make choices easier』	S・アイエンガー				TED日本語 https://digital.cas																																				
5	『移民と日本社会』	永吉希久子	中央論新社	2020	9784121025807	中公新書																																				

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・3年		
開講時期	4Q	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	社会心理学 (科目ナンバリング: SOP122071)				
授業担当者(所属・職名)	松下 守邦(社会福祉学科・教授)	研究室所在	1号館2階		
単位数	2 (単位認定責任者: 松下 守邦)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	シラバスの説明をおこなう。報告役割分担を確認する。	シラバスを熟読する。(90分)	今回の学習内容を復習する。(90分)
2	自我の3側面(C・H・クーリー)、「人間の自我は、他の人間の認識や評価を想像し、それによって生じる自己感情からなっている」(船津衛)。	配布資料を読んで予習をする。(90分)	今回の学習内容を復習する。(90分)
3	運命、偶然と選択、自分自身、自分の置かれた環境とセルフ・コントロール、自己決定権の自己認識	テキスト第1講 - を予習する。(90分)	今回の学習内容を復習する。(90分)
4	宗教と幸福度、個人主義的文化と集団主義的文化の自己認識	テキスト第2講 - を予習する。(90分)	今回の学習内容を復習する。(90分)
5	恋愛結婚と取り決め婚、日本人とアメリカ人の自己認識	テキスト第2講 - を予習する。(90分)	今回の学習内容を復習する。(90分)
6	バーナム効果、認知不協和、就職活動の自己認識	テキスト第3講 - を予習する。(90分)	今回の学習内容を復習する。(90分)
7	他者の自己評価、多面評価とフィードバック、社会資本の変化とエコーチェンバー効果をもたらす自己認識	テキスト第3講 - を予習する。	今回の学習内容を復習する。(90分)
8	マシマロテスト、ヒューリスティック、提示方法バイアス、確認バイアス、感情の自己認識	テキスト第4講 - を予習する。(90分)	今回の学習内容を復習する。(90分)
9	視覚文化、流行、単純接触効果、広告と自己認識	テキスト第5講 - を予習する。(90分)	今回の学習内容を復習する。(90分)
10	プライミング、投票行動と自己認識	テキスト第5講 - を予習する。(90分)	今回の学習内容を復習する。(90分)
11	選択条件、選択行動、マジカルナンバー、ロングテールと自己認識	テキスト第6講 - を予習する。	今回の学習内容を復習する。(90分)
12	退職金積立制度、医療保険制度、選択の多様性、選択の飽和と自己認識	テキスト第6講 - を予習する。(90分)	今回の学習内容を復習する。(90分)
13	医療における治療方針の選択行動、父権主義、絶対的価値、相対的価値と自己認識	テキスト第7講 - を予習する。(90分)	今回の学習内容を復習する。(90分)
14	選択的決定、非選択的決定、心理的反発、アクラシア、自己決定の委譲と自己認識	テキスト第7講 - を予習する。(90分)	今回の学習内容を復習する。(90分)
15	三元(選択、偶然、運命)の連立、直感、熟考、選択死と自己認識	テキスト最終講の予習する。(90分)	今回の学習内容を復習する。(90分)
16	自己研究の心理学的理解と社会学的理解の総括	これまでのテキスト、資料、視覚教材の学習内容を整理する。(90分)	全授業を振り返り、学習内容の内省的レポートを期日までに提出する。(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・3年		
開講時期	1Q	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	臨床心理学 (科目ナンバリング: CLP122069)				
授業担当者(所属・職名)	佐々木 智城(社会福祉学科・准教授)	研究室所在	1号館2階		
単位数	2 (単位認定責任者: 佐々木 智城)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	臨床心理士、公認心理師が精神科病院勤務経験等を活かしながら、臨床心理学を指導する。		

概要

履修目標
臨床心理学とは、社会福祉学、精神医学、社会病理学、社会学などの隣接諸科学とも協働しつつ、社会的な諸問題に取り組みようとする応用・実践的な学問であり、それは現在、発展しつつある学際的な心理学の一分野である。この臨床心理学の実践領域として、教育領域、司法・矯正領域、福祉領域、産業領域、医療・保健領域、開業領域が掲げられている。本講義では、これらの内容を深く理解する。

授業の位置づけ
社会福祉学科のDP「1(2)と(4)と(5)と(6)と(7)」、「2(2)」に対応する。

到達目標
臨床心理学やそれに隣接する社会学・精神医学・精神病理学等の知見や技法が実社会でさまざまに活用されている諸相を概観するとともに、心理臨床的援助の基礎知識を学ぶ。

授業全体の内容と概要
内容は大きく、臨床心理学の実践・応用に関する基礎的な事項と、臨床心理学等を援用した社会的な諸問題への取り組みや心理臨床の実践の諸相とに分かれる。については他の心理系科目とも若干の重複があるかもしれないので、なるべくに重点を置く。特に、深刻な社会問題である犯罪・少年非行等の身近なテーマを取り上げて、授業を進める。

授業の方法
パワーポイント、板書、プリント、DVDを使用しながら講義形式で行うが、内容によってはグループで討論することもある。毎回、授業の最後に学んだことや質問をまとめて提出する。質問は次の授業で回答する。

アクティブラーニングの実施方法												
<table border="1"> <tr> <td>プレゼンテーション</td> <td>グループワーク</td> <td>フィールドワーク</td> <td>PBL</td> </tr> <tr> <td>模擬授業</td> <td>ロールプレイ</td> <td>調査学習</td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td>ディスカッション</td> <td>実験・実習・実技</td> <td>双方向授業</td> <td>○ その他(授業の方法参照)</td> </tr> </table>	プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL	模擬授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業	ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	○ その他(授業の方法参照)
プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL									
模擬授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業									
ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	○ その他(授業の方法参照)									

履修上の注意事項
毎回、授業の最後に学んだことをまとめて提出すること。提出によって出席とし、成績に反映する。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件												
単位認定に必要な最低出席回数は10回以上。												
評価方法												
<table border="1"> <tr> <th>定期試験</th> <th>レポート</th> <th>課題・作品</th> <th>中間テスト</th> <th>平常点</th> <th>その他</th> </tr> <tr> <td>0%</td> <td>70%</td> <td>0%</td> <td>0%</td> <td>20%</td> <td>10%</td> </tr> </table>	定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他	0%	70%	0%	0%	20%	10%
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他							
0%	70%	0%	0%	20%	10%							

ルーブリック																																									
<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">評価項目</th> <th colspan="5">評価基準</th> </tr> <tr> <th>履修項目を超えたレベルを達成している</th> <th>履修項目をほぼ達成している</th> <th>履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している</th> <th>到達目標を達成している</th> <th>到達目標を達成していない</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>臨床心理学についての理解</td> <td>授業後の感想文で授業の資料や教科書の内容も含めて、自分の考えを述べてまとめた。</td> <td>授業後の感想文で自分の考えを含めて学んだ内容をまとめた。</td> <td>授業後の感想文で授業で学んだ内容をまとめた。</td> <td>授業後の感想文で授業で学んだ内容をいくらかまとめた。</td> <td>授業後の感想文で授業で学んだ内容をまとめることができなかった。</td> </tr> <tr> <td>臨床心理学的な思考・判断力の程度</td> <td>臨床心理学の基本を踏まえてアセスメント、見立て、支援方法等に関する考察を十分行うことができた。</td> <td>臨床心理学の基本を踏まえてアセスメント、見立て、支援方法等に関する考察をおおむね行うことができた。</td> <td>臨床心理学の基本を踏まえてアセスメント、見立て、支援方法等に関する考察を一定程度行うことができた。</td> <td>臨床心理学の基本を踏まえてアセスメント、見立て、支援方法等に関する考察を多少行うことができた。</td> <td>臨床心理学の基本を踏まえてアセスメント、見立て、支援方法等に関する考察を行うことができなかった。</td> </tr> <tr> <td>授業に主体的に取り組む態度(アセスメント、見立て、支援方法等)</td> <td>アセスメント、見立て、支援方法等を臨床心理学の視点でわかりやすく説明できた。</td> <td>アセスメント、見立て、支援方法等を臨床心理学の視点でおおむね説明できた。</td> <td>アセスメント、見立て、支援方法等を臨床心理学の視点で一定程度説明できた。</td> <td>アセスメント、見立て、支援方法等を臨床心理学の視点で多少説明できた。</td> <td>アセスメント、見立て、支援方法等を臨床心理学の視点で説明することができなかった。</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	評価項目	評価基準					履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない	臨床心理学についての理解	授業後の感想文で授業の資料や教科書の内容も含めて、自分の考えを述べてまとめた。	授業後の感想文で自分の考えを含めて学んだ内容をまとめた。	授業後の感想文で授業で学んだ内容をまとめた。	授業後の感想文で授業で学んだ内容をいくらかまとめた。	授業後の感想文で授業で学んだ内容をまとめることができなかった。	臨床心理学的な思考・判断力の程度	臨床心理学の基本を踏まえてアセスメント、見立て、支援方法等に関する考察を十分行うことができた。	臨床心理学の基本を踏まえてアセスメント、見立て、支援方法等に関する考察をおおむね行うことができた。	臨床心理学の基本を踏まえてアセスメント、見立て、支援方法等に関する考察を一定程度行うことができた。	臨床心理学の基本を踏まえてアセスメント、見立て、支援方法等に関する考察を多少行うことができた。	臨床心理学の基本を踏まえてアセスメント、見立て、支援方法等に関する考察を行うことができなかった。	授業に主体的に取り組む態度(アセスメント、見立て、支援方法等)	アセスメント、見立て、支援方法等を臨床心理学の視点でわかりやすく説明できた。	アセスメント、見立て、支援方法等を臨床心理学の視点でおおむね説明できた。	アセスメント、見立て、支援方法等を臨床心理学の視点で一定程度説明できた。	アセスメント、見立て、支援方法等を臨床心理学の視点で多少説明できた。	アセスメント、見立て、支援方法等を臨床心理学の視点で説明することができなかった。												
評価項目		評価基準																																							
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない																																				
臨床心理学についての理解	授業後の感想文で授業の資料や教科書の内容も含めて、自分の考えを述べてまとめた。	授業後の感想文で自分の考えを含めて学んだ内容をまとめた。	授業後の感想文で授業で学んだ内容をまとめた。	授業後の感想文で授業で学んだ内容をいくらかまとめた。	授業後の感想文で授業で学んだ内容をまとめることができなかった。																																				
臨床心理学的な思考・判断力の程度	臨床心理学の基本を踏まえてアセスメント、見立て、支援方法等に関する考察を十分行うことができた。	臨床心理学の基本を踏まえてアセスメント、見立て、支援方法等に関する考察をおおむね行うことができた。	臨床心理学の基本を踏まえてアセスメント、見立て、支援方法等に関する考察を一定程度行うことができた。	臨床心理学の基本を踏まえてアセスメント、見立て、支援方法等に関する考察を多少行うことができた。	臨床心理学の基本を踏まえてアセスメント、見立て、支援方法等に関する考察を行うことができなかった。																																				
授業に主体的に取り組む態度(アセスメント、見立て、支援方法等)	アセスメント、見立て、支援方法等を臨床心理学の視点でわかりやすく説明できた。	アセスメント、見立て、支援方法等を臨床心理学の視点でおおむね説明できた。	アセスメント、見立て、支援方法等を臨床心理学の視点で一定程度説明できた。	アセスメント、見立て、支援方法等を臨床心理学の視点で多少説明できた。	アセスメント、見立て、支援方法等を臨床心理学の視点で説明することができなかった。																																				

教科書・参考文献・資料等

教科書																																										
<table border="1"> <thead> <tr> <th>No</th> <th>書籍名</th> <th>著者</th> <th>出版社</th> <th>出版年</th> <th>ISBN</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>4</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>5</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考	1							2							3							4							5						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考																																				
1																																										
2																																										
3																																										
4																																										
5																																										

参考文献・資料等																																										
<table border="1"> <thead> <tr> <th>No</th> <th>書籍名</th> <th>著者</th> <th>出版社</th> <th>出版年</th> <th>ISBN</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>『よくわかる臨床心理学 改定新版』</td> <td>下山晴彦</td> <td>ミネルヴァ書房</td> <td>2009</td> <td>4623054357</td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>4</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>5</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考	1	『よくわかる臨床心理学 改定新版』	下山晴彦	ミネルヴァ書房	2009	4623054357		2							3							4							5						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考																																				
1	『よくわかる臨床心理学 改定新版』	下山晴彦	ミネルヴァ書房	2009	4623054357																																					
2																																										
3																																										
4																																										
5																																										

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・3年		
開講時期	1Q	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	臨床心理学 (科目ナンバリング: CLP122069)				
授業担当者(所属・職名)	佐々木 智城(社会福祉学科・准教授)	研究室所在	1号館2階		
単位数	2 (単位認定責任者: 佐々木 智城)		CAP制		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	臨床心理士、公認心理師が精神科病院勤務経験等を活かしながら、臨床心理学を指導する。		

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	シラバスの説明。古典的な臨床心理学と現代の臨床心理学	指定した教科書を事前に読んでおくこと(90分)	授業の内容をノートにまとめて復習すること。(90分)
2	不応の原因と不応へのさまざまな対応	指定した教科書を事前に読んでおくこと(90分)	授業の内容をノートにまとめて復習すること。(90分)
3	臨床心理学的な見立てと心理アセスメント	指定した教科書を事前に読んでおくこと(90分)	授業の内容をノートにまとめて復習すること。(90分)
4	心理臨床の実践と法律・倫理、関連する諸資格	指定した教科書を事前に読んでおくこと(90分)	授業の内容をノートにまとめて復習すること。(90分)
5	教育領域における不応への取組み	指定した教科書を事前に読んでおくこと(90分)	授業の内容をノートにまとめて復習すること。(90分)
6	いじめ/不登校・引きこもり/校内暴力など/スクールカウンセラーの役割	指定した教科書を事前に読んでおくこと(90分)	授業の内容をノートにまとめて復習すること。(90分)
7	病院臨床	指定した教科書を事前に読んでおくこと(90分)	授業の内容をノートにまとめて復習すること。(90分)
8	現代青年の直面する諸問題への取組み	指定した教科書を事前に読んでおくこと(90分)	授業の内容をノートにまとめて復習すること。(90分)
9	キャリアの選択(就職)/配偶者の選択(結婚)/キャリアカウンセラーの役割	指定した教科書を事前に読んでおくこと(90分)	授業の内容をノートにまとめて復習すること。(90分)
10	社会・福祉・産業領域における心理臨床的支援(1)	指定した教科書を事前に読んでおくこと(90分)	授業の内容をノートにまとめて復習すること。(90分)
11	社会・福祉・産業領域における心理臨床的支援(2)	指定した教科書を事前に読んでおくこと(90分)	授業の内容をノートにまとめて復習すること。(90分)
12	社会・福祉・産業領域における心理臨床的支援(3)	指定した教科書を事前に読んでおくこと(90分)	授業の内容をノートにまとめて復習すること。(90分)
13	DVや児童虐待/勤労者のメンタルヘルス/産業カウンセラーの役割	指定した教科書を事前に読んでおくこと(90分)	授業の内容をノートにまとめて復習すること。(90分)
14	犯罪と少年非行の動向	指定した教科書を事前に読んでおくこと(90分)	授業の内容をノートにまとめて復習すること。(90分)
15	犯罪非行臨床における心理実務者の役割(少年補導員など)	指定した教科書を事前に読んでおくこと(90分)	授業の内容をノートにまとめて復習すること。(90分)
16	レポートについて、最終回において解説しフィードバックする。	レポート作成の準備をすること(90分)	レポートの作成(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・3年		
開講時期	1Q	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	精神保健福祉の理論と (科目ナンバリング：SWS123044)				
授業担当者(所属・職名)	西野 克俊 (社会福祉学科・専任講師)	研究室所在	1号館2階		
単位数	2 (単位認定責任者：西野 克俊)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	精神科医療機関における実務経験がある教員がその経験や体験談を踏まえ、講義を行います		

概要

履修目標
対象グループの大きさによって異なる支援や家族の支援、地域への支援における展開方法について具体的事例を交え理解します。ソーシャルワークの基礎知識や基本技術を獲得し、それらを関連づけて体系的に理解することができる。

授業の位置づけ
社会福祉学科のDP「1(1)と(2)と(4)と(7)」、「2(2)」に対応する。

到達目標
精神保健福祉士の支援効果、地域支援の視点を養い、自分自身でその役割を発言及び記述できる。

授業全体の内容と概要
事例を交え、相談援助活動の展開(医療施設、社会復帰施設、地域社会を含む)について学びます。 事例を交え、家族調整・支援の実践と事例分析について学びます。 事例を交え、スーパービジョンとコンサルテーションについて学びます。 事例を交え、地域移行の対象及び支援体制について学びます。 事例を交え、地域を基盤にした相談援助の主体と対象(精神障害者の生活実態とこれを取り巻く社会情勢、医療、福祉の状況を含む)について学びます。 事例を交え、地域を基盤にしたリハビリテーションの基本的考え方について学びます。

授業の方法
授業形態は講義形式及びグループ学習形式で行う。 テキスト及び配布資料を使用し、ポイントとするべき箇所は説明、板書を行う。 質問等に対しては都度口頭にて説明を行い、必要に応じて資料を配布する。

アクティブラーニングの実施方法												
<table border="1"> <tr> <td>プレゼンテーション</td> <td>グループワーク</td> <td>フィールドワーク</td> <td>PBL</td> </tr> <tr> <td>模擬授業</td> <td>ロールプレイ</td> <td>調査学習</td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td>ディスカッション</td> <td>実験・実習・実技</td> <td>双方向授業</td> <td>その他(授業の方法参照)</td> </tr> </table>	プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL	模擬授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業	ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)
プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL									
模擬授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業									
ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)									

履修上の注意事項
教科書は必ず持参すること。 必要な資料等は適宜配布する。 20分以上の遅刻・早退は欠席とみなす。

資格指定科目
精神保健福祉士国家試験受験資格課程

評価方法・基準

評価前提条件												
単位認定に必要な最低出席回数は10回以上。 グループワーク学習において、発言等を3回以上は行い参加姿勢を見せる。												
評価方法												
<table border="1"> <tr> <td>定期試験</td> <td>レポート</td> <td>課題・作品</td> <td>中間テスト</td> <td>平常点</td> <td>その他</td> </tr> <tr> <td>40%</td> <td>0%</td> <td>20%</td> <td>0%</td> <td>10%</td> <td>30%</td> </tr> </table>	定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他	40%	0%	20%	0%	10%	30%
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他							
40%	0%	20%	0%	10%	30%							

ルーブリック																													
<table border="1"> <tr> <th rowspan="2">評価項目</th> <th colspan="5">評価基準</th> </tr> <tr> <th>履修項目を超えたレベルを達成している</th> <th>履修項目をほぼ達成している</th> <th>履修目標と到達目標の間に差があるレベルに達成している</th> <th>到達目標を達成している</th> <th>到達目標を達成していない</th> </tr> <tr> <td>知識・理解</td> <td>精神保健福祉相談援助についての基礎的な知識を深く理解できた。</td> <td>精神保健福祉相談援助についての基礎的な知識をおおむね理解できた。</td> <td>精神保健福祉相談援助についての基礎的な知識を理解できた。</td> <td>精神保健福祉相談援助についての基礎的な知識を多少理解できた。</td> <td>精神保健福祉相談援助についての基礎的な知識を理解することができなかった。</td> </tr> <tr> <td>思考力・考察力</td> <td>精神保健福祉相談の基本を踏まえ、精神保健福祉相談援助の展開について十分考察できた。</td> <td>精神保健福祉相談の基本を踏まえ、精神保健福祉相談援助の展開についておおむね考察できた。</td> <td>精神保健福祉相談の基本を踏まえ、精神保健福祉相談援助の展開について考察できた。</td> <td>精神保健福祉相談の基本を踏まえ、精神保健福祉相談援助の展開について多少考察できた。</td> <td>精神保健福祉相談の基本を踏まえ、精神保健福祉相談援助の展開について考察することができなかった。</td> </tr> <tr> <td>主体性・情意</td> <td>精神保健福祉相談援助の展開について理解したことを適切に説明できた。</td> <td>精神保健福祉相談援助の展開について理解したことをおおむね説明できた。</td> <td>精神保健福祉相談援助の展開について理解したことを説明できた。</td> <td>精神保健福祉相談援助の展開について理解したことを多少説明できた。</td> <td>精神保健福祉相談援助の展開について理解したことを説明することができなかった。</td> </tr> </table>	評価項目	評価基準					履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間に差があるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない	知識・理解	精神保健福祉相談援助についての基礎的な知識を深く理解できた。	精神保健福祉相談援助についての基礎的な知識をおおむね理解できた。	精神保健福祉相談援助についての基礎的な知識を理解できた。	精神保健福祉相談援助についての基礎的な知識を多少理解できた。	精神保健福祉相談援助についての基礎的な知識を理解することができなかった。	思考力・考察力	精神保健福祉相談の基本を踏まえ、精神保健福祉相談援助の展開について十分考察できた。	精神保健福祉相談の基本を踏まえ、精神保健福祉相談援助の展開についておおむね考察できた。	精神保健福祉相談の基本を踏まえ、精神保健福祉相談援助の展開について考察できた。	精神保健福祉相談の基本を踏まえ、精神保健福祉相談援助の展開について多少考察できた。	精神保健福祉相談の基本を踏まえ、精神保健福祉相談援助の展開について考察することができなかった。	主体性・情意	精神保健福祉相談援助の展開について理解したことを適切に説明できた。	精神保健福祉相談援助の展開について理解したことをおおむね説明できた。	精神保健福祉相談援助の展開について理解したことを説明できた。	精神保健福祉相談援助の展開について理解したことを多少説明できた。	精神保健福祉相談援助の展開について理解したことを説明することができなかった。
評価項目		評価基準																											
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間に差があるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない																								
知識・理解	精神保健福祉相談援助についての基礎的な知識を深く理解できた。	精神保健福祉相談援助についての基礎的な知識をおおむね理解できた。	精神保健福祉相談援助についての基礎的な知識を理解できた。	精神保健福祉相談援助についての基礎的な知識を多少理解できた。	精神保健福祉相談援助についての基礎的な知識を理解することができなかった。																								
思考力・考察力	精神保健福祉相談の基本を踏まえ、精神保健福祉相談援助の展開について十分考察できた。	精神保健福祉相談の基本を踏まえ、精神保健福祉相談援助の展開についておおむね考察できた。	精神保健福祉相談の基本を踏まえ、精神保健福祉相談援助の展開について考察できた。	精神保健福祉相談の基本を踏まえ、精神保健福祉相談援助の展開について多少考察できた。	精神保健福祉相談の基本を踏まえ、精神保健福祉相談援助の展開について考察することができなかった。																								
主体性・情意	精神保健福祉相談援助の展開について理解したことを適切に説明できた。	精神保健福祉相談援助の展開について理解したことをおおむね説明できた。	精神保健福祉相談援助の展開について理解したことを説明できた。	精神保健福祉相談援助の展開について理解したことを多少説明できた。	精神保健福祉相談援助の展開について理解したことを説明することができなかった。																								

教科書・参考文献・資料等

教科書																																										
<table border="1"> <tr> <th>No</th> <th>書籍名</th> <th>著者</th> <th>出版社</th> <th>出版年</th> <th>ISBN</th> <th>備考</th> </tr> <tr> <td>1</td> <td>『精神保健福祉の理論と相談援助の展開』</td> <td>日本精神保健福祉士養成校協会</td> <td>中央法規出版</td> <td>2014</td> <td>9784805839478</td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>4</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>5</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考	1	『精神保健福祉の理論と相談援助の展開』	日本精神保健福祉士養成校協会	中央法規出版	2014	9784805839478		2							3							4							5						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考																																				
1	『精神保健福祉の理論と相談援助の展開』	日本精神保健福祉士養成校協会	中央法規出版	2014	9784805839478																																					
2																																										
3																																										
4																																										
5																																										

参考文献・資料等																																										
<table border="1"> <tr> <th>No</th> <th>書籍名</th> <th>著者</th> <th>出版社</th> <th>出版年</th> <th>ISBN</th> <th>備考</th> </tr> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>4</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>5</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考	1							2							3							4							5						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考																																				
1																																										
2																																										
3																																										
4																																										
5																																										

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・3年		
開講時期	1Q	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	精神保健福祉の理論と (科目ナンバリング: SWS123044)				
授業担当者(所属・職名)	西野 克俊(社会福祉学科・専任講師)	研究室所在	1号館2階		
単位数	2 (単位認定責任者: 西野 克俊)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	精神科医療機関における実務経験がある教員がその経験や体験談を踏まえ、講義を行います。		

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	シラバスの説明 精神保健福祉の理論と相談援助の展開の学びについてのガイダンス	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	ノート整理を行うこと(90分)
2	事例を通して学ぶ「個別支援の実践」	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	ノート整理を行うこと(90分)
3	事例を通して学ぶ「集団を活用した支援の実践」	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	ノート整理を行うこと(90分)
4	事例を通して学ぶ「精神保健福祉と家族関係」	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	ノート整理を行うこと(90分)
5	事例を通して学ぶ「家族支援の方法」	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	ノート整理を行うこと(90分)
6	事例を通して学ぶ「家族調整と支援」	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	ノート整理を行うこと(90分)
7	事例を通して学ぶ「家族調整と支援」	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	ノート整理を行うこと(90分)
8	事例を通して学ぶ「他職種との連携」	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	ノート整理を行うこと(90分)
9	事例を通して学ぶ「地域移行に関わる組織と機関」	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	ノート整理を行うこと(90分)
10	事例を通して学ぶ「地域移行推進」	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	ノート整理を行うこと(90分)
11	事例を通して学ぶ「精神障害者を取り巻く社会的状況」	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	ノート整理を行うこと(90分)
12	事例を通して学ぶ「地域相談援助の主体」	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	ノート整理を行うこと(90分)
13	事例を通して学ぶ「地域相談援助の対象」	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	ノート整理を行うこと(90分)
14	事例を通して学ぶ「地域相談援助の体制」	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	ノート整理を行うこと(90分)
15	事例を通して学ぶ「地域を基盤とした相談援助活動」	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	ノート整理を行うこと(90分)
16	試験(60分)実施、終了後解説(30分)	試験のための学習(90分)	試験の振り返りを行うこと(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・3年		
開講時期	後期集中	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	精神保健福祉の理論と (科目ナンバリング：SWS123044)				
授業担当者(所属・職名)	西野 克俊 (社会福祉学科・専任講師)	研究室所在	1号館2階		
単位数	2 (単位認定責任者：西野 克俊)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	精神科医療機関における実務経験がある教員がその経験や体験談を踏まえ、講義を行います		

概要

履修目標
対象グループの大きさによって異なる支援や家族の支援、地域への支援における展開方法について具体的事例を交え理解します。ソーシャルワークの基礎知識や基本技術を獲得し、それらを関連づけて体系的に理解することができる。

授業の位置づけ
社会福祉学科のDP「1(1)と(2)と(4)と(7)」、「2(2)」に対応する。

到達目標
精神保健福祉士の支援効果、地域支援の視点を養い、自分自身でその役割を発言及び記述できる。

授業全体の内容と概要
事例を交え、相談援助活動の展開(医療施設、社会復帰施設、地域社会を含む)について学びます。 事例を交え、家族調整・支援の実践と事例分析について学びます。 事例を交え、スーパービジョンとコンサルテーションについて学びます。 事例を交え、地域移行の対象及び支援体制について学びます。 事例を交え、地域を基盤にした相談援助の主体と対象(精神障害者の生活実態とこれを取り巻く社会情勢、医療、福祉の状況を含む)について学びます。 事例を交え、地域を基盤にしたリハビリテーションの基本的考え方について学びます。

授業の方法
授業形態は講義形式及びグループ学習形式で行う。 テキスト及び配布資料を使用し、ポイントとするべき箇所は説明、板書を行う。 質問等に対しては都度口頭にて説明を行い、必要に応じて資料を配布する。

アクティブラーニングの実施方法						
	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク	PBL
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習	反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項
教科書は必ず持参すること。 必要な資料等は適宜配布する。 20分以上の遅刻・早退は欠席とみなす。

資格指定科目
精神保健福祉士国家試験受験資格課程

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数は10回以上。 グループワーク学習において、発言等を3回以上は行い参加姿勢を見せる。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
40%	0%	20%	0%	10%	30%

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間に差をレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・理解	精神保健福祉相談援助についての基礎的な知識を深く理解できた。	精神保健福祉相談援助についての基礎的な知識をおおむね理解できた。	精神保健福祉相談援助についての基礎的な知識を理解できた。	精神保健福祉相談援助についての基礎的な知識を多少理解できた。	精神保健福祉相談援助についての基礎的な知識を理解することができなかった。
思考力・考察力	精神保健福祉相談の基本を踏まえ、精神保健福祉相談援助の展開について十分考察できた。	精神保健福祉相談の基本を踏まえ、精神保健福祉相談援助の展開についておおむね考察できた。	精神保健福祉相談の基本を踏まえ、精神保健福祉相談援助の展開について考察できた。	精神保健福祉相談の基本を踏まえ、精神保健福祉相談援助の展開について多少考察できた。	精神保健福祉相談の基本を踏まえ、精神保健福祉相談援助の展開について考察することができなかった。
主体性・情意	精神保健福祉相談援助の展開について理解したことを適切に説明できた。	精神保健福祉相談援助の展開について理解したことをおおむね説明できた。	精神保健福祉相談援助の展開について理解したことを説明できた。	精神保健福祉相談援助の展開について理解したことを多少説明できた。	精神保健福祉相談援助の展開について理解したことを説明することができなかった。

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『精神保健福祉の理論と相談援助の展開』	日本精神保健福祉士養成校協会	中央法規出版	2014	9784805839478	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・3年		
開講時期	後期集中	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	精神保健福祉の理論と (科目ナンバリング: SWS123044)				
授業担当者(所属・職名)	西野 克俊(社会福祉学科・専任講師)	研究室所在	1号館2階		
単位数	2 (単位認定責任者: 西野 克俊)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	精神科医療機関における実務経験がある教員がその経験や体験談を踏まえ、講義を行います。		

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	シラバスの説明 精神保健福祉の理論と相談援助の展開 の学びについてのガイダンス	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	ノート整理を行うこと(90分)
2	事例を通して学ぶ「個別支援の実践」	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	ノート整理を行うこと(90分)
3	事例を通して学ぶ「集団を活用した支援の実践」	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	ノート整理を行うこと(90分)
4	事例を通して学ぶ「精神保健福祉と家族関係」	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	ノート整理を行うこと(90分)
5	事例を通して学ぶ「家族支援の方法」	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	ノート整理を行うこと(90分)
6	事例を通して学ぶ「家族調整と支援」	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	ノート整理を行うこと(90分)
7	事例を通して学ぶ「家族調整と支援」	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	ノート整理を行うこと(90分)
8	事例を通して学ぶ「他職種との連携」	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	ノート整理を行うこと(90分)
9	事例を通して学ぶ「地域移行に関わる組織と機関」	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	ノート整理を行うこと(90分)
10	事例を通して学ぶ「地域移行推進」	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	ノート整理を行うこと(90分)
11	事例を通して学ぶ「精神障害者を取り巻く社会的状況」	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	ノート整理を行うこと(90分)
12	事例を通して学ぶ「地域相談援助の主体」	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	ノート整理を行うこと(90分)
13	事例を通して学ぶ「地域相談援助の対象」	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	ノート整理を行うこと(90分)
14	事例を通して学ぶ「地域相談援助の体制」	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	ノート整理を行うこと(90分)
15	事例を通して学ぶ「地域を基盤とした相談援助活動」	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	ノート整理を行うこと(90分)
16	試験(60分)実施、終了後解説(30分)	試験のための学習(90分)	試験の振り返りを行うこと(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・3年		
開講時期	2Q	授業形態	実験	必修・選択	選択
科目名称	心理学実験法 (科目ナンバリング: EXP123068)				
授業担当者(所属・職名)	吉澤 英里 (社会福祉学科・准教授)	研究室所在	1号館3階		
単位数	2 (単位認定責任者: 吉澤 英里)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	認定心理士として心理学実験の研究経験を持つ教員が、その経験を活かして心理学実験法に関する講義を行う。		

概要

履修目標
<p>学生が、心理学研究法や心理学基礎実験の学習内容を基礎として、科学的心理学の方法論としての実験法を学ぶ。学生が、独立変数と従属変数の設定や実験計画の立て方、実験法のメリットとデメリットを理解し、実験による研究計画の問題点を読み解くことができるようになる。</p>

授業の位置づけ
<p>社会福祉学科のDP「1(3)と(6)」、「2(2)」に対応する。</p>

到達目標
<p>心理学における独立変数と従属変数の関係について説明する。 実験計画法とその理論的背景について説明する。 実験計画の立案やデータの分析における統計手法を理解し、レポートを執筆する。</p>

授業全体の内容と概要
<p>心理学に関する方法論と技法について、実験を中心として演習方式で学ぶ。 主要研究分野から代表的な研究例を教材として、問題、仮説、検証実験の計画立案に関する基礎的理解と実践的知識を深める。</p>

授業の方法
<p>板書とパワーポイント、配布印刷物を活用しながら、講義形式で行う。質問には随時対応し、提出されたレポートにはコメントをしてフィードバックをする。</p>

アクティブラーニングの実施方法						
	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク	PBL
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習	反転授業
	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項
<ul style="list-style-type: none"> ・授業の運営・進行を著しく妨害するような行為(私語、大学で認められたもの以外の飲食、携帯電話・スマートフォンの使用、代返等)が認められた場合、総合評価から大幅に減点することがある。 ・授業中は、板書だけでなく、口頭の説明、疑問点などをノートに書き加えながら、集中して聴くこと。 ・課題は「引用元を示さないで他人の文章やインターネット・文献から書き写したものは削除(ひょうせつ)とみなし、採点の対象とはせず0点とする。丁寧に書かれず、読み取れない文章も採点対象とはしない。

資格指定科目
認定心理士資格課程

評価方法・基準

評価前提条件					
再試験は実施しない。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
60%	30%	10%	0%	0%	0%

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
独立変数と従属変数	独立変数と従属変数の両方について、説明することができる。具体的な実験例を自ら考え、それぞれを特定することができる。	独立変数と従属変数の両方について、説明することができる。具体的な実験例をそれぞれを特定することができる。	独立変数と従属変数の両方について説明できた。	独立変数と従属変数のうち、一方について説明できた。	独立変数と従属変数のどちらについても説明できなかった。
実験計画法とその理論的背景	基本的な用語について、ほとんど説明できる。さらに、それらを組み合わせて研究計画や分析計画を立てることができる。	基本的な用語について、ほとんど説明できる。さらに、それらを組み合わせて研究計画を立てることができる。	基本的な用語について、ほとんど説明できた。	基本的な用語について、6割程度説明できた。	基本的な用語(仮説、実験群、統制群、要因、被験者内計画、被験者間計画、単一参加者計画等)について理解できなかった。
レポート執筆	RQ、仮説、研究計画をいずれも立てることができる。さらに、適した分析方法にも言及できた。	RQ、仮説、研究計画をいずれも立てることができる。	研究計画を立てられないが、RQや仮説を立てることができる。	仮説や研究計画を立てられないが、RQを立てることができる。	RQ、仮説、研究計画のいずれも立てることができなかった。

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『よくわかる心理学実験実習』	村上善奈・山崎浩一	ミネルヴァ書房	2018	978-4-623-	
2						
3						
4						
5						

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・3年		
開講時期	2Q	授業形態	実験	必修・選択	選択
科目名称	心理学実験法 (科目ナンバリング: EXP123068)				
授業担当者(所属・職名)	吉澤 英里 (社会福祉学科・准教授)	研究室所在	1号館3階		
単位数	2 (単位認定責任者: 吉澤 英里)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容に関する講義を行う。 認定心理士として心理学実験の研究経験を持つ教員が、その経験を活かして心理学実験法に関する講義を行う。			

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	オリエンテーション(シラバスの説明)および心理学研究法の復習	心理学研究法で説明された研究法の概要をまとめる(90分)	研究法の理解したこと、疑問点をまとめる(90分)
2	心理学研究法の復習	前回資料を見直す(90分)	実験法の特徴をまとめる(90分)
3	心理学における実験法の意義(なぜ実験が必要なのかを考えよう)	実験法の意義として考えられる点をまとめる(90分)	実験法でなければ調べられないことと実験法では調べられないことを列記する(90分)
4	心理学実験の進め方 仮説検証への道筋: 研究仮説の設定, 独立変数と従属変数, 操作的定義等	仮説の種類と特徴をまとめる(90分)	独立変数と従属変数, 操作的定義など概念についてまとめる(90分)
5	心理学実験の進め方 剰余変数の統制, 実験群と統制群, 実験と分散分析の前提	左の用語が説明できるように, 以前の資料等を見直す(90分)	剰余変数の統制方法を考える(90分)
6	実験計画と心理統計 要因・水準の意味, 実験参加者内および参加者間の違い: 実験参加者の統制	分散分析の種類をまとめる(90分)	分散分析の種類について振り返る(90分)
7	実験計画と心理統計 実験参加者間1要因計画	分散分析表の読み方, 検定効果量について復習しておく(90分)	参加者間1要因実験の心理学研究を文献検索し, 概要をまとめる(90分)
8	実験計画と心理統計 実験参加者内1要因計画	参加者内1要因実験の実験計画を立案し, 概要をまとめる(90分)	参加者内1要因実験の心理学研究を文献検索し, 概要をまとめる(90分)
9	実験計画と心理統計 実験参加者間2要因計画	参加者間2要因実験の実験計画を立案し, 概要をまとめる(90分)	参加者間2要因実験の心理学研究を文献検索し, 概要をまとめる(90分)
10	実験計画と心理統計 実験参加者混合2要因計画	混合要因計画実験を立案, 概要をまとめる(90分)	混合実験計画の心理学研究を文献検索し, 概要をまとめる(90分)
11	課題レポートの説明(実験計画を立ててみよう)	キーワードを絞り込み, 各内容についてまとめる(90分)	RQ, 仮説, 実験計画を立案し, レポートを作成する(90分)
12	実験計画と心理統計 単一参加者計画	単一参加者計画の研究を検索し, 概要をまとめる(90分)	レポートを作成する(90分)
13	実験論文を読み解こう(独立変数, 従属変数, 剰余変数, 仮説, 手続き等の検証)	レポート作成で読んだ文献の研究計画を要約する(90分)	授業で読んだ実験論文の実験計画を要約する(90分)
14	添削後の課題レポートの返却と講評	授業で読んだ実験論文の実験計画を要約する(90分)	返却されたレポートを読み直し, 修正する(90分)
15	総まとめ(実験計画と分散分析の復習と実験倫理について再考)	これまでの資料を読み返す(90分)	実験法について理解したこと, 疑問点をまとめる(90分)
16	60分の試験終了後, 残りの30分で解説を行う。	資料を確認し, 自分の言葉で実験法の意義と限界を説明できるように準備する(90分)	試験でわからなかったことを再確認する(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・3年		
開講時期	2Q	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	精神保健福祉の理論と (科目ナンバリング：SWS123045)				
授業担当者(所属・職名)	西野 克俊 (社会福祉学科・専任講師)	研究室所在	1号館2階		
単位数	2 (単位認定責任者：西野 克俊)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	精神科医療機関における実務経験がある教員がその経験や体験談を踏まえ、講義を行います。		

概要

履修目標
地域でのリハビリテーション、ケアマネジメント、ネットワークの方法について具体的な事例を交え理解する。ソーシャルワークの基礎知識や基本技術を獲得し、それらを関連づけて体系的に理解することができる。

授業の位置づけ
社会福祉学科のDP「1(1)と(2)と(4)と(7)」、「2(2)」に対応する。

到達目標
精神保健福祉士の地域支援おける効果、チームでの支援など、自分自身でその役割を発言及び記述できる。

授業全体の内容と概要
精神障害者のケアマネジメントについて学びます。地域を基盤にした支援とネットワークについて学びます。地域生活を支援する包括的な支援(地域精神保健福祉活動)の意義と展開について学びます。

授業の方法
授業形態は講義形式及びグループ学習形式で行う。テキスト及び配布資料を使用し、ポイントとするべき箇所は説明、板書を行う。質問等に対しては都度口頭にて説明を行い、必要に応じて資料を配布する。

アクティブラーニングの実施方法						
	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク	PBL
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習	反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項
教科書は必ず持参すること。必要な資料等は適宜配布する。20分以上の遅刻・早退は欠席とみなす。

資格指定科目
精神保健福祉士国家試験受験資格課程

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数は10回以上。グループワーク学習において、発言等を3回以上は行い参加姿勢を見せる。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
40%	0%	20%	0%	10%	30%

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・理解	精神保健福祉相談援助についての基礎的な知識を深く理解できた。	精神保健福祉相談援助についての基礎的な知識をおおむね理解できた。	精神保健福祉相談援助についての基礎的な知識を理解できた。	精神保健福祉相談援助についての基礎的な知識を多少理解できた。	精神保健福祉相談援助についての基礎的な知識を理解することができなかった。
思考力・考察力	精神保健福祉相談の基本を踏まえ、精神保健福祉相談援助の展開について十分考察できた。	精神保健福祉相談援助についての基礎的な知識をおおむね理解できた。	精神保健福祉相談援助についての基礎的な知識を理解できた。	精神保健福祉相談援助についての基礎的な知識を多少理解できた。	精神保健福祉相談援助についての基礎的な知識を理解することができなかった。
主体性・情意	精神保健福祉相談援助の展開について理解したことを適切に説明できた。	精神保健福祉相談援助の展開について理解したことをおおむね説明できた。	精神保健福祉相談援助の展開について理解したことを説明できた。	精神保健福祉相談援助の展開について理解したことを多少説明できた。	精神保健福祉相談援助の展開について理解したことを説明することができなかった。

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『精神保健福祉の理論と相談援助の展開』	日本精神保健福祉士養成校協会	中央法規出版	2014	9784805839478	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・3年		
開講時期	2Q	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	精神保健福祉の理論と (科目ナンバリング: SWS123045)				
授業担当者(所属・職名)	西野 克俊(社会福祉学科・専任講師)	研究室所在	1号館2階		
単位数	2 (単位認定責任者: 西野 克俊)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容 精神科医療機関における実務経験がある教員がその経験や体験談を踏まえ、講義を行います			

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	シラバスの説明及び精神保健福祉の理論と相談援助の展開の学びについてのガイダンス	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	ノート整理を行うこと(90)
2	地域を基盤としたリハビリテーションとは、ケアマネジメントとは、ネットワークとは何か	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	ノート整理を行うこと(90)
3	事例を通して学ぶ「地域ネットワーク」	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	ノート整理を行うこと(90)
4	事例を通して学ぶ「アウトリーチ、訪問援助」	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	ノート整理を行うこと(90)
5	事例を通して学ぶ「セルフヘルプグループ、ボランティア活動」	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	ノート整理を行うこと(90)
6	事例を通して学ぶ「ケアマネジメントの原則、意義」	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	ノート整理を行うこと(90)
7	事例を通して学ぶ「ケアマネジメントの展開過程」	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	ノート整理を行うこと(90)
8	事例を通して学ぶ「チームケアとチームワーク」	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	ノート整理を行うこと(90)
9	事例を通して学ぶ「精神障害者のケアマネジメント」	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	ノート整理を行うこと(90)
10	事例を通して学ぶ「地域を基盤とした支援とネットワーク概論」	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	ノート整理を行うこと(90)
11	事例を通して学ぶ「地域アセスメント」	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	ノート整理を行うこと(90)
12	事例を通して学ぶ「地域を基盤とした支援」	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	ノート整理を行うこと(90)
13	事例を通して学ぶ「地域生活を支援する包括的支援の意義概論」	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	ノート整理を行うこと(90)
14	事例を通して学ぶ「包括的な視点(地域精神保健福祉活動)」	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	ノート整理を行うこと(90)
15	事例を通して学ぶ「地域生活を支援する包括的な取り組み」	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	ノート整理を行うこと(90)
16	試験(60分)実施、終了後解説(30分)		

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・3年		
開講時期	後期集中	授業形態	実習	必修・選択	必修
科目名称	精神保健福祉援助実習 (科目ナンバリング：SWS123054)				
授業担当者(所属・職名)	大島 康雄(社会福祉学科・准教授)、 西野 克俊(社会福祉学科・専任講師)	研究室所在	1号館2階		
単位数	2 (単位認定責任者：大島 康雄)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	精神保健福祉士として相談援助をしていた教員が、実習に向けた学習・体験などを通じて精神保健福祉援助実習が効果的になるように授業を行います。		

概要

履修目標																								
地域の障害福祉サービス事業所等での実習で精神障がい者の生活のしづらさを理解し、精神保健福祉士の専門的技術を身につける。																								
授業の位置づけ																								
社会福祉学科のDP「1(1)と(3)」、「2(2)」に対応する。																								
到達目標																								
地域の障害福祉サービス事業所の精神保健福祉士のスキルが身につく。																								
授業全体の内容と概要																								
精神保健福祉援助実習を通して、精神保健福祉援助並びに障害者等の相談援助に係る専門的知識と技術について具体的なかつ実践的に理解し実践的な技術等を体得する。 精神保健福祉援助実習を通して、精神障害者のおかれている現状を理解し、その生活実態や生活上の課題について把握する。 精神保健福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得する。 総合的かつ包括的な地域生活支援と関連分野の専門職との連携のあり方及びその具体的内容を実践的に理解する。																								
授業の方法																								
地域の障害福祉サービス事業所等での実習60時間以上を修了していること。																								
アクティブラーニングの実施方法																								
<table border="1"> <tr> <td><input type="checkbox"/></td> <td>プレゼンテーション</td> <td><input type="checkbox"/></td> <td>グループワーク</td> <td><input type="checkbox"/></td> <td>フィールドワーク</td> <td><input type="checkbox"/></td> <td>PBL</td> </tr> <tr> <td><input type="checkbox"/></td> <td>模擬授業</td> <td><input type="checkbox"/></td> <td>ロールプレイ</td> <td><input type="checkbox"/></td> <td>調査学習</td> <td><input type="checkbox"/></td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td><input type="checkbox"/></td> <td>ディスカッション</td> <td><input type="checkbox"/></td> <td>実験・実習・実技</td> <td><input type="checkbox"/></td> <td>双方向授業</td> <td><input type="checkbox"/></td> <td>その他(授業の方法参照)</td> </tr> </table>	<input type="checkbox"/>	プレゼンテーション	<input type="checkbox"/>	グループワーク	<input type="checkbox"/>	フィールドワーク	<input type="checkbox"/>	PBL	<input type="checkbox"/>	模擬授業	<input type="checkbox"/>	ロールプレイ	<input type="checkbox"/>	調査学習	<input type="checkbox"/>	反転授業	<input type="checkbox"/>	ディスカッション	<input type="checkbox"/>	実験・実習・実技	<input type="checkbox"/>	双方向授業	<input type="checkbox"/>	その他(授業の方法参照)
<input type="checkbox"/>	プレゼンテーション	<input type="checkbox"/>	グループワーク	<input type="checkbox"/>	フィールドワーク	<input type="checkbox"/>	PBL																	
<input type="checkbox"/>	模擬授業	<input type="checkbox"/>	ロールプレイ	<input type="checkbox"/>	調査学習	<input type="checkbox"/>	反転授業																	
<input type="checkbox"/>	ディスカッション	<input type="checkbox"/>	実験・実習・実技	<input type="checkbox"/>	双方向授業	<input type="checkbox"/>	その他(授業の方法参照)																	
履修上の注意事項																								
相談援助実習終了者(予定含む)は免除する。																								
資格指定科目																								
精神保健福祉士国家試験受験資格課程																								

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要となる最低出席回数は、12回以上。実習報告会の参加、運営などがあります。福祉機関で実習を行い、ソーシャルワーカーとしての相談援助の基本を身に付けることができる。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	0%	0%	50%	50%

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
実習に参加し、積極的に取り組んだ。	実習期間、遅刻や欠席もなく、実習態度も積極的であった。	実習期間、遅刻や欠席もなく、実習態度も適切であった。	実習期間、遅刻や欠席もなく、実習態度も問題は無かった。	実習期間の規定をクリアした、実習態度も問題は無かった。	実習期間の規定をクリアできなかった。
実習目標に合わせた実習が行えた。	事前学習と実習計画の連動がされ、問題意識が実習を通して解決された。	事前学習と実習計画の連動がされ、問題意識が実習を通して学べた。	事前学習と実習計画の連動がされ、問題意識が実習を通して感じることができた。	問題意識が実習を通じて気づくことができた。	実習を通して問題意識を持つことができなかった。
実習先で適切な態度やクライアントと関わり、自己のコミュニケーションを高めることができた。	適切な接遇が行え、積極的にクライアントと関わり、自己のコミュニケーションを高めることができた。	接遇を意識し、積極的にクライアントと関わり、自己のコミュニケーションを高めることができた。	クライアントと関わり、自己のコミュニケーションを高めることができた。	自己のコミュニケーションを高めることができた。	関わりを持つことができなかった。

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『精神保健福祉援助実習指導・実習』	日本精神保健福祉士養成校協会	中央法規	2012年	978-4-8058-5120-3	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・3年		
開講時期	後期集中	授業形態	実習	必修・選択	必修
科目名称	精神保健福祉援助実習 (科目ナンバリング: SWS123054)				
授業担当者(所属・職名)	大島 康雄(社会福祉学科・准教授)、 西野 克俊(社会福祉学科・専任講師)	研究室所在	1号館2階		
単位数	2 (単位認定責任者: 大島 康雄)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	精神保健福祉士として相談援助をしていた教員が、実習に向けた学習・体験などを通じて精神保健福祉援助実習が効果的になるように授業を行います。		

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	精神科医療, 精神障害者の長期入院の弊害, 社会的な偏見や差別の現状を知る。	実習内容の事前学習(90分)	実習日誌の作成(90分)
2	精神障害者の生活課題(ニーズ)を環境面(地域的・社会的・経済的等)や家族関係等から全体的に理解する。	実習内容の事前学習(90分)	実習日誌の作成(90分)
3	展開される援助過程を理解し, ソーシャルワークの原則を理解する。	実習内容の事前学習(90分)	実習日誌の作成(90分)
4	ケアプラン, ケアマネジメントの実際から援助関係のあり方を学ぶ。	実習内容の事前学習(90分)	実習日誌の作成(90分)
5	地域の社会資源に関する情報収集や開発, 活用について理解する。	実習内容の事前学習(90分)	実習日誌の作成(90分)
6	精神保健ボランティアや地域のサポートシステムについて学ぶ。	実習内容の事前学習(90分)	実習日誌の作成(90分)
7	実践の記録化を通じて, 事例研究の意義について理解する。	実習内容の事前学習(90分)	実習日誌の作成(90分)
8	自己への気づきを深め, 対人援助業務においてあるべき姿勢について理解する。	実習内容の事前学習(90分)	実習日誌の作成(90分)
9	実習日誌の提出	実習日誌の作成(90分)	実習の振り返り(90分)
10			
11			
12			
13			
14			
15			
16			

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・3年		
開講時期	2Q	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	子どもの食と栄養 (科目ナンバリング：EHS122084)				
授業担当者(所属・職名)	湯浅 頼佳(社会福祉学科・専任講師)	研究室所在	1号館3階		
単位数	2 (単位認定責任者：湯浅 頼佳)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

概要

履修目標
<ol style="list-style-type: none"> 健康な生活の基本としての食生活の意義や栄養に関する基本的知識を学ぶ。 子どもの発育・発達と食生活の関連について理解を深める。 食育の基本とその内容及び食育のための環境を地域社会・文化とのかかわりの中で理解する。 家庭や児童福祉施設における食生活の現状と課題について学ぶ。 特別な配慮を要する子どもの食と栄養について理解する。

授業の位置づけ
社会福祉学科のDP「1(2)」と「(5)」、「2(2)」に対応する。

到達目標
小児期の栄養と食生活は生涯にわたる健康と生活の基礎であり小児期から成人にいたる一貫した食生活の意義を理解し、また、保育との関連の中で小児に適切な食事が提供できることの意義と保育における食生活が心の健康にも影響すること、食生活が家族の健康や生活地域との密接な関係があること、食生活を通して生活全般や環境の望ましい姿を理解する。

授業全体の内容と概要
小児期の成長・発達は、最も著しい時期である。とくに小児期の栄養は、生涯を通じての健康の基盤を確立するためにも重要である。小児期の身体発育や運動機能・精神的発達などを充分に理解し、適正な栄養のあり方を学び、実習を行う。

授業の方法
授業は板書を中心に、パワーポイントや視聴覚教材(DVD・ブルーレイ)も取り入れながら講義形式で行う。調理実習も併用するので必要に応じてグループワークやグループ学習も実施し、その都度発生した疑問・質問などにはフィードバックとして解説を行う。

アクティブラーニングの実施方法						
	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク	PBL
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習	反転授業
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項
実習を含む科目(グループで実習)なので欠席は極力さけること。単位認定に必要な出席回数は11回以上とする。

資格指定科目
保育士養成課程

評価方法・基準

評価前提条件					
定期試験, レポート, 出席, その他(授業態度, 平常点(活動状況, 発表等)を上表の基準で評価する。単位認定に必要な出席回数は11回以上とする。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
80%	5%	0%	0%	10%	5%

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・技能(理解力)	食生活の意義や栄養に関する基本的知識を十分に理解できた。	食生活の意義や栄養に関する基本的知識を概ね理解できた。	食生活の意義や栄養に関する基本的知識を理解できた。	食生活の意義や栄養に関する基本的知識を多少理解できた。	食生活の意義や栄養に関する基本的知識を理解できなかった。
汎用的機能(思考力)	子どもの発育・発達と食生活の関連について十分に理解し深く考察できた。	子どもの発育・発達と食生活の関連について理解し概ね考察できた。	子どもの発育・発達と食生活の関連について十分に理解し考察できた。	子どもの発育・発達と食生活の関連について十分に理解し多少考察できた。	子どもの発育・発達と食生活の関連について考察できなかった。
態度・志向性(意欲)	授業を休まず出席できた。(16回)	授業を概ね休まず出席できた。(15回)	授業を休むことがあるが出席できた。(14-13回)	授業を休みがちだが出席できた。(12-11回)	評価前提条件を満たす事ができなかった。(10-0回)

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『子どもの食生活 第5版 栄養・食育・保育』	上田玲子	ななみ書房	2021	9784903356870	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・3年		
開講時期	2Q	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	子どもの食と栄養 (科目ナンバリング: EHS122084)				
授業担当者(所属・職名)	湯浅 頼佳(社会福祉学科・専任講師)	研究室所在	1号館3階		
単位数	2 (単位認定責任者: 湯浅 頼佳)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	ガイダンス及びシラバスの説明	子どもの食生活に関係した話題を調べる(90分)	シラバスの確認をする。毎回授業後にノート整理を含めた復習を行う事(90分)
2	子どもの健康と食生活の意義・子どもの心身の健康と食生活・子どもの食生活の現状と課題	教科書の学習内容部分を数回読んでおく事(90分)	毎回授業後にノート整理を含めた復習を行う(90分)
3	栄養に関する基本的知識(1)栄養の基本的概念と栄養素の種類と機能	教科書の学習内容部分を数回読んでおく事(90分)	毎回授業後にノート整理を含めた復習を行う(90分)
4	栄養に関する基本的知識(2)食事摂取基準と献立作成・調理の基本	教科書の学習内容部分を数回読んでおく事(90分)	毎回授業後にノート整理を含めた復習を行う(90分)
5	子どもの発達・発達と食生活(1)乳児期の授乳・離乳の意義と食生活	教科書の学習内容部分を数回読んでおく事(90分)	毎回授業後にノート整理を含めた復習を行う(90分)
6	子どもの発達・発達と食生活(2)幼児期の心身の発達と食生活	教科書の学習内容部分を数回読んでおく事(90分)	毎回授業後にノート整理を含めた復習を行う(90分)
7	子どもの発達・発達と食生活(3)学童期の心身の発達と食生活・生涯発達と食生活	教科書の学習内容部分を数回読んでおく事(90分)	毎回授業後にノート整理を含めた復習を行う(90分)
8	食育の基本と内容(1)食育における養護と教育の一体性	教科書の学習内容部分を数回読んでおく事(90分)	毎回授業後にノート整理を含めた復習を行う(90分)
9	食育の基本と内容(2)食育の内容と計画及び評価・食育のための環境	教科書の学習内容部分を数回読んでおく事(90分)	毎回授業後にノート整理を含めた復習を行う(90分)
10	食育の基本と内容(3)地域の関係機関や職員間の連携・食生活指導及び食を通じた保護者への支援	教科書の学習内容部分を数回読んでおく事(90分)	毎回授業後にノート整理を含めた復習を行う(90分)
11	家庭や児童福祉施設における食事と栄養	教科書の学習内容部分を数回読んでおく事(90分)	毎回授業後にノート整理を含めた復習を行う(90分)
12	特別な配慮を要する子どもの食と栄養	教科書の学習内容部分を数回読んでおく事(90分)	毎回授業後にノート整理を含めた復習を行う(90分)
13	調理実習(1)	調理実習に必要な要件について調べておく事(90分)	うまく行かなかった点や反省点を次回に繋げる様考える(90分)
14	調理実習(2)	調理実習に必要な要件について調べておく事(90分)	調理実習についてレポートを作成する(90分)
15	まとめ	子どもの栄養について理解したことをまとめる(90分)	受講後の考察をレポートにまとめる(90分)
16	定期試験実施 60分の試験終了後、残りの30分で解説を行います。	試験準備(90分)	試験のふりかえり(90分)

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・3年		
開講時期	1Q	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	障害児保育 (科目ナンバリング：SNE122101)				
授業担当者(所属・職名)	坂上 俊樹(社会福祉学科・特任教授)	研究室所在	1号館2階		
単位数	2 (単位認定責任者：坂上 俊樹)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	学校現場における教員経験を活かして、今日的な教育課題(障害児保育)について指導する。		

概要

履修目標	<p>共生社会の創造のために以下の5つの観点で幅広い教養を身に付ける</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 障害児保育を支える理念や歴史の変遷について学び、障害児及びその保育について理解する。 2. 様々な障害について理解し、子どもの理解や援助の方法、環境構成等について学ぶ。 3. 障害のある子どもの保育の計画を作成し、個別支援及び他の子どもとのかわりのなかで育ち合う保育実践について理解を深める。 4. 障害のある子どもの保護者への支援や関係機関との連携について理解する。 5. 障害のある子どもの保育にかかわる保健・医療・福祉・教育等の現状と課題について理解する 																								
授業の位置づけ	社会福祉学科のDP「1(2)と(3)と(5)と(6)」、「2(2)」に対応する。																								
到達目標	障害児保育を支える理念、障害の理解と保育における発達への援助、障害児保育の実際、家庭及び関係機関との連携、障害のある子どもの保育にかかわる現状と課題について具体的に述べることができる。																								
授業全体の内容と概要	障害児保育を支える理念、障害の理解と保育における発達への援助、障害児保育の実際、家庭及び関係機関との連携、障害のある子どもの保育にかかわる現状と課題について学修する。																								
授業の方法	教科書の輪読、パワーポイント及び配布資料で講義形式とし、教科書の内容の確認、ロールプレイや質疑応答の時間を設けるなどで基礎知識の定着を図る。また、DVDで具体的な実践場面を視聴し内容をレポートにまとめ知識の伸展を図る。																								
アクティブラーニングの実施方法	<table border="1"> <tr> <td></td> <td>プレゼンテーション</td> <td></td> <td>グループワーク</td> <td></td> <td>フィールドワーク</td> <td></td> <td>PBL</td> </tr> <tr> <td></td> <td>模擬授業</td> <td></td> <td>ロールプレイ</td> <td></td> <td>調査学習</td> <td></td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td></td> <td>ディスカッション</td> <td></td> <td>実験・実習・実技</td> <td></td> <td>双方向授業</td> <td></td> <td>その他(授業の方法参照)</td> </tr> </table>		プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL		模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業		ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)
	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL																		
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業																		
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)																		
履修上の注意事項	具体的な指導場面の指導事例を元に、ロールプレイで体感したり、障害児保育にかかわる実践事例のVTR教材を視聴した後に事例に基づいたレポート作成を求めているので、授業を欠席することのないよう留意すること。																								
資格指定科目	保育士養成課程																								

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数は10回以上。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
60%	20%	0%	0%	20%	0%

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
障害児保育の理解	障害児保育について、学修した知識・技能を基盤に、さらに学修を深めようとする事ができた。	障害児保育について、必要な知識・技能を理解する事ができた。	障害児保育について、一定程度の理解ができた。	障害児保育について、一部理解する事ができた。	障害児保育について、理解できなかった。
障害児保育の思考・判断・表現	障害児保育について、積極的に思考・判断し、自ら表現を工夫して活動する事ができた。	障害児保育について、思考・判断し、自ら表現する事ができた。	障害児保育について、思考活動に取り組み表現しようとする事ができた。	障害児保育について、思考しようとする事はできなかった。	障害児保育にかかわる思考・判断・表現について必要な取り組みができなかった。
授業への参加態度・姿勢	授業に非常に積極的に参加する事ができた。	授業に積極的に参加する事ができた。	授業に関心を持って参加する事ができた。	授業への関心を示す事はできなかった。	授業への積極的な参加がなかった。

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『新障害のある子どもの保育実践』	水田和江・増田貴人編著	学文社	2014年	978-4-7620-2451-1	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・3年		
開講時期	1Q	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	障害児保育 (科目ナンバリング: SNE122101)				
授業担当者(所属・職名)	坂上 俊樹(社会福祉学科・特任教授)	研究室所在	1号館2階		
単位数	2 (単位認定責任者: 坂上 俊樹)		CAP制		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務。学校現場における教員経験を活かして、今日的な教育課題(障害児保育)について指導する経験と授業関連内容			

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	シラバスの説明及び障害児保育を支える理念・「障害」の概念と障害児保育の歴史の変遷、障害児保育の基本	シラバスを確認しておくこと(90分)	「障害」についての概念を確認する(90分)
2	障害の理解と保育における発達への援助(1) 肢体不自由児、視覚・聴覚障害児等の理解と援助	教科書の「障害のある子どもの保育の実際」を事前に読んでおくこと(90分)	配付資料に基づき復習しておくこと(90分)
3	障害の理解と保育における発達への援助(2) 知的障害児の理解と援助	教科書の「障害のある子どもの保育の実際」を事前に読んでおくこと(90分)	配付資料に基づき復習しておくこと(90分)
4	障害の理解と保育における発達への援助(3) 発達障害児の理解と援助 (ADHD・注意欠陥多動性障害・LD・学習障害等)	教科書の「障害のある子どもの保育の実際」を事前に読んでおくこと(90分)	配付資料に基づき復習しておくこと(90分)
5	障害の理解と保育における発達への援助(4) 発達障害児の理解と援助 (PDD、自閉症スペクトラム等)	教科書の「障害のある子どもの保育の実際」を事前に読んでおくこと(90分)	配付資料に基づき復習しておくこと(90分)
6	障害児保育の実際(1) 保育課程に基づく指導計画の作成と記録及び評価	教科書の「障害のある子どもの保育の実際」を事前に読んでおくこと(90分)	配付資料に基づき復習しておくこと(90分)
7	障害児保育の実際(2) 個々の発達を促す生活や遊びの環境	教科書の「保育実践の基礎知識」を事前に読んでおくこと(90分)	配付資料に基づき復習しておくこと(90分)
8	障害児保育の実際(3) 子ども同士のかかわりと育ち合い	教科書の「保育実践の基礎知識」を事前に読んでおくこと(90分)	配付資料に基づき復習しておくこと(90分)
9	障害児保育の実際(4) 職員間の協働	教科書の「障害のある子どもの保育の実際」を事前に読んでおくこと(90分)	配付資料に基づき復習しておくこと(90分)
10	家庭及び関係機関との連携(1) 保護者や家族に対する理解と支援	教科書の「家族への支援と保育者の役割」を事前に読んでおくこと(90分)	配付資料に基づき復習しておくこと(90分)
11	家庭及び関係機関との連携(2) 地域の専門機関等との連携及び個別の支援計画の作成	教科書の「施設・専門機関の地域ネットワーク」を事前に読んでおくこと(90分)	配付資料に基づき復習しておくこと(90分)
12	家庭及び関係機関との連携(3) 小学校等との連携	教科書の「施設・専門機関の地域ネットワーク」を事前に読んでおくこと(90分)	配付資料に基づき復習しておくこと(90分)
13	障害のある子どもの保育にかかわる現状と課題(1) 保健・医療における現状と課題	教科書の「障害のある子どもの保育の今後の課題」を事前に読んでおくこと(90分)	配付資料に基づき復習しておくこと(90分)
14	障害のある子どもの保育にかかわる現状と課題(2) 福祉・教育における現状と課題の概要、DVDの視聴	配布した資料を事前に読んでおくこと(90分)	DVD視聴時のメモを元に整理すること(90分)
15	障害のある子どもの保育にかかわる現状と課題(2) 福祉・教育における現状と課題	教科書の「障害のある子どもの保育の今後の課題」を事前に読んでおくこと(90分)	配付資料に基づき復習しておくこと(90分)
16	定期試験(60分の試験終了後、残り30分で解説する。	指定した教科書や講義内容について整理しておくこと(90分)	試験の結果を見直す(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・3年		
開講時期	後期集中	授業形態	実習	必修・選択	選択
科目名称	保育実習 (科目ナンバリング: CHS123108)				
授業担当者(所属・職名)	吉江 幸子(社会福祉学科・准教授) 湯浅 頼佳(社会福祉学科・専任講師)	研究室所在	1号館2階(吉江)	1号館3階(湯浅)	
単位数	4 (単位認定責任者: 吉江 幸子)	CAP制	×		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	保育士として保育園での勤務経験があり、その経験を生かして保育実習に向けた指導を行う。		

概要

履修目標
児童福祉施設等の内容、機能を実践現場での体験を通して理解するとともに、講義等で習得した教科全体の知識・技能を基礎とし、これらを総合的に実践する応用力を養う。また、保育士としての職業倫理と子どもの最善の利益の具体化について学ぶ。

授業の位置づけ
社会福祉学科のDP「1(2)と(5)」、「2(2)」に対応する。

到達目標
保育士を志す者としての自己覚知ができ、継続課題を見出す姿勢を身につける。

授業全体の内容と概要
「保育実習」は、保育士資格を取得するための必修科目であり、保育所(10日以上:2単位)での実習と保育所以外の児童福祉施設等(10日以上:2単位)での実習合計4単位を履修することが定められている。

授業の方法
前期に保育所実習(10日以上:2単位)と後期に保育所以外の児童福祉施設等(10日以上:2単位)での実習合計4単位を履修する。実習期間中は担当教員の訪問指導を受けることができ、質問や相談の時間を設定する。また、実習先の指導者からのコメント等をフィードバックする。

アクティブラーニングの実施方法																								
<table border="1"> <tr> <td><input type="checkbox"/></td> <td>プレゼンテーション</td> <td><input type="checkbox"/></td> <td>グループワーク</td> <td><input type="checkbox"/></td> <td>フィールドワーク</td> <td><input type="checkbox"/></td> <td>PBL</td> </tr> <tr> <td><input type="checkbox"/></td> <td>模擬授業</td> <td><input type="checkbox"/></td> <td>ロールプレイ</td> <td><input type="checkbox"/></td> <td>調査学習</td> <td><input type="checkbox"/></td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td><input type="checkbox"/></td> <td>ディスカッション</td> <td><input type="checkbox"/></td> <td>実験・実習・実技</td> <td><input type="checkbox"/></td> <td>双方向授業</td> <td><input type="checkbox"/></td> <td>その他(授業の方法参照)</td> </tr> </table>	<input type="checkbox"/>	プレゼンテーション	<input type="checkbox"/>	グループワーク	<input type="checkbox"/>	フィールドワーク	<input type="checkbox"/>	PBL	<input type="checkbox"/>	模擬授業	<input type="checkbox"/>	ロールプレイ	<input type="checkbox"/>	調査学習	<input type="checkbox"/>	反転授業	<input type="checkbox"/>	ディスカッション	<input type="checkbox"/>	実験・実習・実技	<input type="checkbox"/>	双方向授業	<input type="checkbox"/>	その他(授業の方法参照)
<input type="checkbox"/>	プレゼンテーション	<input type="checkbox"/>	グループワーク	<input type="checkbox"/>	フィールドワーク	<input type="checkbox"/>	PBL																	
<input type="checkbox"/>	模擬授業	<input type="checkbox"/>	ロールプレイ	<input type="checkbox"/>	調査学習	<input type="checkbox"/>	反転授業																	
<input type="checkbox"/>	ディスカッション	<input type="checkbox"/>	実験・実習・実技	<input type="checkbox"/>	双方向授業	<input type="checkbox"/>	その他(授業の方法参照)																	

履修上の注意事項
レポート、課題、その他(実習先の評価、実習日誌、事前・事後学習における態度、書類の提出状況、実習報告書等)を上記の基準で評価する。正当な理由なき遅刻、欠席は実習をとりやめにする。保育者の資質に欠ける者は、実習をとりやめとする。実習終了後の書類提出の期日を守らない場合は評価(単位認定)しない。実習全体のまとめと今後の課題を明確にするためのレポート提出1回課す。なお、詳細(レポート課題・提出方法等)は授業時間に指示する。保育実習履修要件として次の科目を取得している事を原則とする。児童・家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度、相談援助演習、相談援助の基礎と専門職、保育内容演習、保育内容演習

資格指定科目
保育士養成課程

評価方法・基準

評価前提条件												
レポート、課題、その他(実習先の評価、実習日誌、事前・事後学習における態度、書類の提出状況、実習報告書等)を上記の基準で評価する。												
評価方法												
<table border="1"> <tr> <th>定期試験</th> <th>レポート</th> <th>課題・作品</th> <th>中間テスト</th> <th>平常点</th> <th>その他</th> </tr> <tr> <td>0%</td> <td>5%</td> <td>5%</td> <td>0%</td> <td>10%</td> <td>80%</td> </tr> </table>	定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他	0%	5%	5%	0%	10%	80%
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他							
0%	5%	5%	0%	10%	80%							

ルーブリック																																			
<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">評価項目</th> <th colspan="5">評価基準</th> </tr> <tr> <th>履修項目を超えたレベルを達成している</th> <th>履修項目をほぼ達成している</th> <th>履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している</th> <th>到達目標を達成している</th> <th>到達目標を達成していない</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>知識・技能(何を知っているか、何ができるか)</td> <td>保育の専門知識の活用について十分に理解した。</td> <td>保育の専門知識の活用について概ね理解した。</td> <td>保育の専門知識の活用について理解した。</td> <td>保育の専門知識の活用について多少は理解した。</td> <td>保育の専門知識の活用について十分に理解できなかった。</td> </tr> <tr> <td>思考力・判断力・表現力等(知っていること、できることをどう使うか)</td> <td>保育の基本を踏まえた保育技術の展開について十分に考察できた。</td> <td>保育の基本を踏まえた保育技術の展開について概ね考察できた。</td> <td>保育の基本を踏まえた保育技術の展開について考察できた。</td> <td>保育の基本を踏まえた保育技術の展開について多少は考察できた。</td> <td>保育の基本を踏まえた保育技術の展開について十分に考察できなかった。</td> </tr> <tr> <td>主体的に取り組み態度(どのように関わるか)</td> <td>保育実習による総合的な学びを、記録で十分に表すことができた。</td> <td>保育実習による総合的な学びを、記録で概ね表すことができた。</td> <td>保育実習による総合的な学びを、記録で表すことができた。</td> <td>保育実習による総合的な学びを、記録で多少は表すことができた。</td> <td>保育実習による総合的な学びを、記録で表すことができなかった。</td> </tr> <tr> <td>パフォーマンス(知識、スキルを使いこなす活用、応用)</td> <td>保育実習による自己評価と課題の明確化に積極的に取り組むことができた。</td> <td>保育実習による自己評価と課題の明確化に概ね取り組むことができた。</td> <td>保育実習による自己評価と課題の明確化に取り組むことができた。</td> <td>保育実習による自己評価と課題の明確化に多少は取り組むことができた。</td> <td>保育実習による自己評価と課題の明確化に取り組むことができなかった。</td> </tr> </tbody> </table>	評価項目	評価基準					履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない	知識・技能(何を知っているか、何ができるか)	保育の専門知識の活用について十分に理解した。	保育の専門知識の活用について概ね理解した。	保育の専門知識の活用について理解した。	保育の専門知識の活用について多少は理解した。	保育の専門知識の活用について十分に理解できなかった。	思考力・判断力・表現力等(知っていること、できることをどう使うか)	保育の基本を踏まえた保育技術の展開について十分に考察できた。	保育の基本を踏まえた保育技術の展開について概ね考察できた。	保育の基本を踏まえた保育技術の展開について考察できた。	保育の基本を踏まえた保育技術の展開について多少は考察できた。	保育の基本を踏まえた保育技術の展開について十分に考察できなかった。	主体的に取り組み態度(どのように関わるか)	保育実習による総合的な学びを、記録で十分に表すことができた。	保育実習による総合的な学びを、記録で概ね表すことができた。	保育実習による総合的な学びを、記録で表すことができた。	保育実習による総合的な学びを、記録で多少は表すことができた。	保育実習による総合的な学びを、記録で表すことができなかった。	パフォーマンス(知識、スキルを使いこなす活用、応用)	保育実習による自己評価と課題の明確化に積極的に取り組むことができた。	保育実習による自己評価と課題の明確化に概ね取り組むことができた。	保育実習による自己評価と課題の明確化に取り組むことができた。	保育実習による自己評価と課題の明確化に多少は取り組むことができた。	保育実習による自己評価と課題の明確化に取り組むことができなかった。
評価項目		評価基準																																	
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない																														
知識・技能(何を知っているか、何ができるか)	保育の専門知識の活用について十分に理解した。	保育の専門知識の活用について概ね理解した。	保育の専門知識の活用について理解した。	保育の専門知識の活用について多少は理解した。	保育の専門知識の活用について十分に理解できなかった。																														
思考力・判断力・表現力等(知っていること、できることをどう使うか)	保育の基本を踏まえた保育技術の展開について十分に考察できた。	保育の基本を踏まえた保育技術の展開について概ね考察できた。	保育の基本を踏まえた保育技術の展開について考察できた。	保育の基本を踏まえた保育技術の展開について多少は考察できた。	保育の基本を踏まえた保育技術の展開について十分に考察できなかった。																														
主体的に取り組み態度(どのように関わるか)	保育実習による総合的な学びを、記録で十分に表すことができた。	保育実習による総合的な学びを、記録で概ね表すことができた。	保育実習による総合的な学びを、記録で表すことができた。	保育実習による総合的な学びを、記録で多少は表すことができた。	保育実習による総合的な学びを、記録で表すことができなかった。																														
パフォーマンス(知識、スキルを使いこなす活用、応用)	保育実習による自己評価と課題の明確化に積極的に取り組むことができた。	保育実習による自己評価と課題の明確化に概ね取り組むことができた。	保育実習による自己評価と課題の明確化に取り組むことができた。	保育実習による自己評価と課題の明確化に多少は取り組むことができた。	保育実習による自己評価と課題の明確化に取り組むことができなかった。																														

教科書・参考文献・資料等

教科書																																										
<table border="1"> <thead> <tr> <th>No</th> <th>書籍名</th> <th>著者</th> <th>出版社</th> <th>出版年</th> <th>ISBN</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>『新訂 知りたいときにすぐわかる幼稚園・保育所・児童福祉施設等実習ガイド 第二版』</td> <td>石橋裕子・林幸範編著</td> <td>同文書院</td> <td>2018年</td> <td>9784810314755</td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>4</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>5</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考	1	『新訂 知りたいときにすぐわかる幼稚園・保育所・児童福祉施設等実習ガイド 第二版』	石橋裕子・林幸範編著	同文書院	2018年	9784810314755		2							3							4							5						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考																																				
1	『新訂 知りたいときにすぐわかる幼稚園・保育所・児童福祉施設等実習ガイド 第二版』	石橋裕子・林幸範編著	同文書院	2018年	9784810314755																																					
2																																										
3																																										
4																																										
5																																										

参考文献・資料等																																										
<table border="1"> <thead> <tr> <th>No</th> <th>書籍名</th> <th>著者</th> <th>出版社</th> <th>出版年</th> <th>ISBN</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>『実習の手引き』</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>『学内テキスト』</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>4</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>5</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考	1	『実習の手引き』						2	『学内テキスト』						3							4							5						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考																																				
1	『実習の手引き』																																									
2	『学内テキスト』																																									
3																																										
4																																										
5																																										

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・3年		
開講時期	後期集中	授業形態	実習	必修・選択	選択
科目名称	保育実習 (科目ナンバリング: CHS123108)				
授業担当者(所属・職名)	吉江 幸子(社会福祉学科・准教授) 湯浅 頼佳(社会福祉学科・専任講師)	研究室所在	1号館2階(吉江) 1号館3階(湯浅)		
単位数	4 (単位認定責任者: 吉江 幸子)	CAP制	x		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり 左記に該当する場合の実務。保育士として保育園での勤務経験があり、その経験を生かして保育実習に向けた指導を行う経験と授業関連内容				

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	オリエンテーション及びシラバスの説明	座学で学んだ知識をブラッシュアップし実習に備える(4.5分)	実習を終えてから振り返り1日の日誌を完成させる(4.5分)
2	保育所実習の意義(1)実習の目的	座学で学んだ知識をブラッシュアップし実習に備える(4.5分)	実習を終えてから振り返り1日の日誌を完成させる(4.5分)
3	保育所実習の意義(2)実習の概要	座学で学んだ知識をブラッシュアップし実習に備える(4.5分)	実習を終えてから振り返り1日の日誌を完成させる(4.5分)
4	保育所実習の内容と課題の明確化(1)実習の内容	座学で学んだ知識をブラッシュアップし実習に備える(4.5分)	実習を終えてから振り返り1日の日誌を完成させる(4.5分)
5	保育所実習の内容と課題の明確化(2)実習の課題	座学で学んだ知識をブラッシュアップし実習に備える(4.5分)	実習を終えてから振り返り1日の日誌を完成させる(4.5分)
6	保育所実習に際しての留意事項(1)子どもの人権と最善の利益の考慮	座学で学んだ知識をブラッシュアップし実習に備える(4.5分)	実習を終えてから振り返り1日の日誌を完成させる(4.5分)
7	保育所実習に際しての留意事項(2)プライバシーの保護と守秘義務	座学で学んだ知識をブラッシュアップし実習に備える(4.5分)	実習を終えてから振り返り1日の日誌を完成させる(4.5分)
8	保育所実習に際しての留意事項(3)実習生としての心構え	座学で学んだ知識をブラッシュアップし実習に備える(4.5分)	実習を終えてから振り返り1日の日誌を完成させる(4.5分)
9	保育所実習の計画と記録(1)指導計画の作成	座学で学んだ知識をブラッシュアップし実習に備える(4.5分)	実習を終えてから振り返り1日の日誌を完成させる(4.5分)
10	保育所実習の計画と記録(2)指導計画の実践	座学で学んだ知識をブラッシュアップし実習に備える(4.5分)	実習を終えてから振り返り1日の日誌を完成させる(4.5分)
11	保育所実習の計画と記録(3)指導計画の改善	座学で学んだ知識をブラッシュアップし実習に備える(4.5分)	実習を終えてから振り返り1日の日誌を完成させる(4.5分)
12	保育所実習の計画と記録(4)実習における記録及び評価	座学で学んだ知識をブラッシュアップし実習に備える(4.5分)	実習を終えてから振り返り1日の日誌を完成させる(4.5分)
13	事後指導における実習の総括と課題の明確化(1)保育所実習の総括と自己評価	座学で学んだ知識をブラッシュアップし実習に備える(4.5分)	実習を終えてから振り返り1日の日誌を完成させる(4.5分)
14	事後指導における実習の総括と課題の明確化(2)課題の明確化	座学で学んだ知識をブラッシュアップし実習に備える(4.5分)	実習を終えてから振り返り1日の日誌を完成させる(4.5分)
15	保育所実習報告会	保育所実習報告会の準備をする(4.5分)	保育所実習の日誌、報告書、自己評価表等を完成させ提出する(4.5分)
16	保育所実習まとめと振り返り	保育所実習の総括と課題の明確化を行い、反省会の準備をする(4.5分)	まとめと振り返りを元に次の課題を明確化する(4.5分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17	オリエンテーション	座学で学んだ知識をブラッシュアップし実習に備える(4.5分)	実習を終えてから振り返り1日の日誌を完成させる(4.5分)
18	施設実習の意義(1)実習の目的	座学で学んだ知識をブラッシュアップし実習に備える(4.5分)	実習を終えてから振り返り1日の日誌を完成させる(4.5分)
19	施設実習の意義(2)実習の概要	座学で学んだ知識をブラッシュアップし実習に備える(4.5分)	実習を終えてから振り返り1日の日誌を完成させる(4.5分)
20	施設実習の内容と課題の明確化(1)実習の内容	座学で学んだ知識をブラッシュアップし実習に備える(4.5分)	実習を終えてから振り返り1日の日誌を完成させる(4.5分)
21	施設実習の内容と課題の明確化(2)実習の課題	座学で学んだ知識をブラッシュアップし実習に備える(4.5分)	実習を終えてから振り返り1日の日誌を完成させる(4.5分)
22	施設実習に際しての留意事項(1)子どもの人権と最善の利益の考慮	座学で学んだ知識をブラッシュアップし実習に備える(4.5分)	実習を終えてから振り返り1日の日誌を完成させる(4.5分)
23	施設実習に際しての留意事項(2)プライバシーの保護と守秘義務	座学で学んだ知識をブラッシュアップし実習に備える(4.5分)	実習を終えてから振り返り1日の日誌を完成させる(4.5分)
24	施設実習に際しての留意事項(3)実習生としての心構え	座学で学んだ知識をブラッシュアップし実習に備える(4.5分)	実習を終えてから振り返り1日の日誌を完成させる(4.5分)
25	施設実習の計画と記録(1)指導計画の作成	座学で学んだ知識をブラッシュアップし実習に備える(4.5分)	実習を終えてから振り返り1日の日誌を完成させる(4.5分)
26	施設実習の計画と記録(2)指導計画の実践	座学で学んだ知識をブラッシュアップし実習に備える(4.5分)	実習を終えてから振り返り1日の日誌を完成させる(4.5分)
27	施設実習の計画と記録(3)指導計画の改善	座学で学んだ知識をブラッシュアップし実習に備える(4.5分)	実習を終えてから振り返り1日の日誌を完成させる(4.5分)
28	施設実習の計画と記録(4)実習における記録及び評価	座学で学んだ知識をブラッシュアップし実習に備える(4.5分)	実習を終えてから振り返り1日の日誌を完成させる(4.5分)
29	事後指導における実習の総括と課題の明確化(1)保育所実習の総括と自己評価	座学で学んだ知識をブラッシュアップし実習に備える(4.5分)	実習を終えてから振り返り1日の日誌を完成させる(4.5分)
30	事後指導における実習の総括と課題の明確化(2)課題の明確化	座学で学んだ知識をブラッシュアップし実習に備える(4.5分)	実習を終えてから振り返り1日の日誌を完成させる(4.5分)
31	施設実習報告会	施設実習報告会の準備をする(4.5分)	施設実習の日誌、報告書、自己評価表等を完成させ提出する(4.5分)
32	施設実習まとめと振り返り	施設実習の総括と課題の明確化を行い、反省会の準備をする(4.5分)	まとめと振り返りを元に次の課題を明確化する(4.5分)

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・3年		
開講時期	通年	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	保育実習指導 (科目ナンバリング: CHS122105)				
授業担当者(所属・職名)	吉江 幸子(社会福祉学科・准教授) 湯浅 頼佳(社会福祉学科・専任講師)	研究室所在	1号館2階(吉江)	1号館3階(湯浅)	
単位数	2 (単位認定責任者: 吉江 幸子)	CAP制	×		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	保育士として保育施設での勤務経験があり、その経験を生かして保育実習に向けた指導を行う。		

概要

履修目標
1. 保育実習の意義と目的を理解する。 2. 実習実習の内容を理解し、自らの課題を明確にする。 3. 実習施設における子どもの人権と最善の利益の考慮、プライバシーの保護と守秘義務等について理解する。 4. 児童虐待について理解を深める。 5. 実習の計画・実践・観察・記録。評価の方法や内容について具体的に理解する。 6. 実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、新たな課題や学習目標を明確にする。

授業の位置づけ
社会福祉学科のDP「1(2)と(6)」、「2(2)」に対応する。

到達目標
実習の意義、実習の内容と課題の明確化、実習に際しての留意事項、実習の計画と記録について理解する。

授業全体の内容と概要
実習の意義、実習の内容と課題の明確化、実習に際しての留意事項、実習の計画と記録について学修する。

授業の方法
授業はパワーポイントや視聴覚教材(DVD・ブルーレイ)も取り入れながら演習形式で行う。実習の事前指導及び事後指導も含まれるので必要に応じてグループワークやグループ学習も実施し、その都度発生した疑問・質問などにはフィードバックとして解説を行い、実習終了後は報告会を実施する。

アクティブラーニングの実施方法																								
<table border="1"> <tr> <td><input type="checkbox"/></td> <td>プレゼンテーション</td> <td><input type="checkbox"/></td> <td>グループワーク</td> <td><input type="checkbox"/></td> <td>フィールドワーク</td> <td><input type="checkbox"/></td> <td>PBL</td> </tr> <tr> <td><input type="checkbox"/></td> <td>模擬授業</td> <td><input type="checkbox"/></td> <td>ロールプレイ</td> <td><input type="checkbox"/></td> <td>調査学習</td> <td><input type="checkbox"/></td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td><input type="checkbox"/></td> <td>ディスカッション</td> <td><input type="checkbox"/></td> <td>実験・実習・実技</td> <td><input type="checkbox"/></td> <td>双方向授業</td> <td><input type="checkbox"/></td> <td>その他(授業の方法参照)</td> </tr> </table>	<input type="checkbox"/>	プレゼンテーション	<input type="checkbox"/>	グループワーク	<input type="checkbox"/>	フィールドワーク	<input type="checkbox"/>	PBL	<input type="checkbox"/>	模擬授業	<input type="checkbox"/>	ロールプレイ	<input type="checkbox"/>	調査学習	<input type="checkbox"/>	反転授業	<input type="checkbox"/>	ディスカッション	<input type="checkbox"/>	実験・実習・実技	<input type="checkbox"/>	双方向授業	<input type="checkbox"/>	その他(授業の方法参照)
<input type="checkbox"/>	プレゼンテーション	<input type="checkbox"/>	グループワーク	<input type="checkbox"/>	フィールドワーク	<input type="checkbox"/>	PBL																	
<input type="checkbox"/>	模擬授業	<input type="checkbox"/>	ロールプレイ	<input type="checkbox"/>	調査学習	<input type="checkbox"/>	反転授業																	
<input type="checkbox"/>	ディスカッション	<input type="checkbox"/>	実験・実習・実技	<input type="checkbox"/>	双方向授業	<input type="checkbox"/>	その他(授業の方法参照)																	

履修上の注意事項
「各授業回数における学習内容」に記載の「準備学習」「事後学習」を参照する事。 正当な理由なき遅刻、欠席は実習をとりやめにする。保育者の資質に欠ける者は、実習をとりやめとする。実習終了後の書類提出の期日を守らない場合は評価(単位認定)しない。実習全体のまとめと今後の課題を明確にするためのレポート提出を1回課す。なお、詳細(レポート課題・提出方法等)は授業時間に指示する。 また保育実習履修要件として次の科目を取得している事を原則とする。 児童・家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度 相談援助演習 相談援助の基礎と専門職 保育内容演習 保育内容演習

資格指定科目
保育士養成課程

評価方法・基準

評価前提条件												
授業回数の3分の2(前期1回・後期1回)以上の出席がなければ成績評価の対象としない。												
評価方法												
<table border="1"> <tr> <th>定期試験</th> <th>レポート</th> <th>課題・作品</th> <th>中間テスト</th> <th>平常点</th> <th>その他</th> </tr> <tr> <td>0%</td> <td>20%</td> <td>10%</td> <td>0%</td> <td>10%</td> <td>60%</td> </tr> </table>	定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他	0%	20%	10%	0%	10%	60%
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他							
0%	20%	10%	0%	10%	60%							

ルーブリック																																			
<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">評価項目</th> <th colspan="5">評価基準</th> </tr> <tr> <th>履修項目を超えたレベルを達成している</th> <th>履修項目をほぼ達成している</th> <th>履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している</th> <th>到達目標を達成している</th> <th>到達目標を達成していない</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>知識・技能(何を知っているか、何が出来るか)</td> <td>保育の専門的知識について十分理解していた。</td> <td>保育の専門的知識について概ね理解していた。</td> <td>保育の専門的知識について理解していた。</td> <td>保育の専門的知識について多少は理解していた。</td> <td>保育の専門的知識について理解していなかった。</td> </tr> <tr> <td>思考力・判断力・表現力等(知っていること、できることをどう使うか)</td> <td>保育の基本を踏まえた保育技術の展開について十分に考察できた。</td> <td>保育の基本を踏まえた保育技術の展開について概ね考察できた。</td> <td>保育の基本を踏まえた保育技術の展開について考察できた。</td> <td>保育の基本を踏まえた保育技術の展開について多少は考察できた。</td> <td>保育の基本を踏まえた保育技術の展開について考察できなかった。</td> </tr> <tr> <td>主体的に取り組む態度(どのように関わるか)</td> <td>保育実習による総合的な学びを、記録で十分に表すことができた。</td> <td>保育実習による総合的な学びを、記録で概ね表すことができた。</td> <td>保育実習による総合的な学びを、記録で表すことができた。</td> <td>保育実習による総合的な学びを、記録で多少は表すことができた。</td> <td>保育実習による総合的な学びを、記録で表すことができなかった。</td> </tr> <tr> <td>パフォーマンス(知識、スキルを使いこなす活用、応用)</td> <td>保育実習による自己評価と課題の明確化に積極的に取り組むことができた。</td> <td>保育実習による自己評価と課題の明確化に概ね取り組むことができた。</td> <td>保育実習による自己評価と課題の明確化に取り組むことができた。</td> <td>保育実習による自己評価と課題の明確化に多少は取り組むことができた。</td> <td>保育実習による自己評価と課題の明確化に取り組むことができなかった。</td> </tr> </tbody> </table>	評価項目	評価基準					履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない	知識・技能(何を知っているか、何が出来るか)	保育の専門的知識について十分理解していた。	保育の専門的知識について概ね理解していた。	保育の専門的知識について理解していた。	保育の専門的知識について多少は理解していた。	保育の専門的知識について理解していなかった。	思考力・判断力・表現力等(知っていること、できることをどう使うか)	保育の基本を踏まえた保育技術の展開について十分に考察できた。	保育の基本を踏まえた保育技術の展開について概ね考察できた。	保育の基本を踏まえた保育技術の展開について考察できた。	保育の基本を踏まえた保育技術の展開について多少は考察できた。	保育の基本を踏まえた保育技術の展開について考察できなかった。	主体的に取り組む態度(どのように関わるか)	保育実習による総合的な学びを、記録で十分に表すことができた。	保育実習による総合的な学びを、記録で概ね表すことができた。	保育実習による総合的な学びを、記録で表すことができた。	保育実習による総合的な学びを、記録で多少は表すことができた。	保育実習による総合的な学びを、記録で表すことができなかった。	パフォーマンス(知識、スキルを使いこなす活用、応用)	保育実習による自己評価と課題の明確化に積極的に取り組むことができた。	保育実習による自己評価と課題の明確化に概ね取り組むことができた。	保育実習による自己評価と課題の明確化に取り組むことができた。	保育実習による自己評価と課題の明確化に多少は取り組むことができた。	保育実習による自己評価と課題の明確化に取り組むことができなかった。
評価項目		評価基準																																	
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない																														
知識・技能(何を知っているか、何が出来るか)	保育の専門的知識について十分理解していた。	保育の専門的知識について概ね理解していた。	保育の専門的知識について理解していた。	保育の専門的知識について多少は理解していた。	保育の専門的知識について理解していなかった。																														
思考力・判断力・表現力等(知っていること、できることをどう使うか)	保育の基本を踏まえた保育技術の展開について十分に考察できた。	保育の基本を踏まえた保育技術の展開について概ね考察できた。	保育の基本を踏まえた保育技術の展開について考察できた。	保育の基本を踏まえた保育技術の展開について多少は考察できた。	保育の基本を踏まえた保育技術の展開について考察できなかった。																														
主体的に取り組む態度(どのように関わるか)	保育実習による総合的な学びを、記録で十分に表すことができた。	保育実習による総合的な学びを、記録で概ね表すことができた。	保育実習による総合的な学びを、記録で表すことができた。	保育実習による総合的な学びを、記録で多少は表すことができた。	保育実習による総合的な学びを、記録で表すことができなかった。																														
パフォーマンス(知識、スキルを使いこなす活用、応用)	保育実習による自己評価と課題の明確化に積極的に取り組むことができた。	保育実習による自己評価と課題の明確化に概ね取り組むことができた。	保育実習による自己評価と課題の明確化に取り組むことができた。	保育実習による自己評価と課題の明確化に多少は取り組むことができた。	保育実習による自己評価と課題の明確化に取り組むことができなかった。																														

教科書・参考文献・資料等

教科書																																										
<table border="1"> <thead> <tr> <th>No</th> <th>書籍名</th> <th>著者</th> <th>出版社</th> <th>出版年</th> <th>ISBN</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>『新訂 知りたいときにすぐわかる幼稚園・保育所・児童福祉施設等実習ガイド 第二版』</td> <td>石橋裕子・林 幸範 編著</td> <td>同文書院</td> <td>2018年</td> <td>9784810314755</td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>4</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>5</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考	1	『新訂 知りたいときにすぐわかる幼稚園・保育所・児童福祉施設等実習ガイド 第二版』	石橋裕子・林 幸範 編著	同文書院	2018年	9784810314755		2							3							4							5						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考																																				
1	『新訂 知りたいときにすぐわかる幼稚園・保育所・児童福祉施設等実習ガイド 第二版』	石橋裕子・林 幸範 編著	同文書院	2018年	9784810314755																																					
2																																										
3																																										
4																																										
5																																										

参考文献・資料等																																										
<table border="1"> <thead> <tr> <th>No</th> <th>書籍名</th> <th>著者</th> <th>出版社</th> <th>出版年</th> <th>ISBN</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>『実習の手引き』</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>『学内テキスト』</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>4</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>5</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考	1	『実習の手引き』						2	『学内テキスト』						3							4							5						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考																																				
1	『実習の手引き』																																									
2	『学内テキスト』																																									
3																																										
4																																										
5																																										

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・3年		
開講時期	通年	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	保育実習指導 (科目ナンバリング: CHS122105)				
授業担当者(所属・職名)	吉江 幸子(社会福祉学科・准教授) 湯浅 頼佳(社会福祉学科・専任講師)	研究室所在	1号館2階(吉江) 1号館3階(湯浅)		
単位数	2 (単位認定責任者: 吉江 幸子)	CAP制	x		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容。保育士として保育施設での勤務経験があり、その経験を生かして保育実習に向けた指導を行う。			

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	オリエンテーション及びシラバスの説明	保育所実習の目的について考え、教科書の学習内容部分を数回読んでおく(45分)	ノート整理を含めた復習を行う(45分)
2	保育所実習の意義(1)実習の目的	教科書の学習内容部分を数回読んでおく(45分)	ノート整理を含めた復習を行う(45分)
3	保育所実習の意義(2)実習の概要	教科書の学習内容部分を数回読んでおく(45分)	ノート整理を含めた復習を行う(45分)
4	保育所実習の内容と課題の明確化(1)実習の内容	教科書の学習内容部分を数回読んでおく(45分)	ノート整理を含めた復習を行う(45分)
5	保育所実習の内容と課題の明確化(2)実習の課題	教科書の学習内容部分を数回読んでおく(45分)	ノート整理を含めた復習を行う(45分)
6	保育所実習に際しての留意事項(1)子どもの人権と最善の利益の考慮	教科書の学習内容部分を数回読んでおく(45分)	ノート整理を含めた復習を行う(45分)
7	保育所実習に際しての留意事項(2)プライバシーの保護と守秘義務	教科書の学習内容部分を数回読んでおく(45分)	ノート整理を含めた復習を行う(45分)
8	保育所実習に際しての留意事項(3)実習生としての心構え	教科書の学習内容部分を数回読んでおく(45分)	ノート整理を含めた復習を行う(45分)
9	保育所実習の計画と記録(1)指導計画の作成	教科書の学習内容部分を数回読んでおく(45分)	ノート整理を含めた復習を行う(45分)
10	保育所実習の計画と記録(2)指導計画の実践	教科書の学習内容部分を数回読んでおく(45分)	ノート整理を含めた復習を行う(45分)
11	保育所実習の計画と記録(3)指導計画の改善	教科書の学習内容部分を数回読んでおく(45分)	ノート整理を含めた復習を行う(45分)
12	保育所実習の計画と記録(4)実習における記録及び評価	教科書の学習内容部分を数回読んでおく(45分)	ノート整理を含めた復習を行う(45分)
13	事後指導における実習の総括と課題の明確化(1)保育所実習の総括と自己評価	教科書の学習内容部分を数回読んでおく(45分)	ノート整理を含めた復習を行う(45分)
14	事後指導における実習の総括と課題の明確化(2)課題の明確化	教科書の学習内容部分を数回読んでおく(45分)	ノート整理を含めた復習を行う(45分)
15	保育所実習報告会	保育所実習報告会の資料を作成する(45分)	保育所実習報告会のまとめと反省を行う(45分)
16	保育所実習のまとめと振り返り	保育所実習のまとめと振り返りの準備をする(45分)	施設実習の目的について考える(45分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17	施設実習のオリエンテーション	教科書の学習内容部分を数回読んでおく(45分)	ノート整理を含めた復習を行う(45分)
18	施設実習の意義(1)実習の目的	教科書の学習内容部分を数回読んでおく(45分)	ノート整理を含めた復習を行う(45分)
19	施設実習の意義(2)実習の概要	教科書の学習内容部分を数回読んでおく(45分)	ノート整理を含めた復習を行う(45分)
20	施設実習の内容と課題の明確化(1)実習の内容	教科書の学習内容部分を数回読んでおく(45分)	ノート整理を含めた復習を行う(45分)
21	施設実習の内容と課題の明確化(2)実習の課題	教科書の学習内容部分を数回読んでおく(45分)	ノート整理を含めた復習を行う(45分)
22	施設実習に際しての留意事項(1)子どもの人権と最善の利益の考慮	教科書の学習内容部分を数回読んでおく(45分)	ノート整理を含めた復習を行う(45分)
23	保育所実習に際しての留意事項(2)プライバシーの保護と守秘義務	教科書の学習内容部分を数回読んでおく(45分)	ノート整理を含めた復習を行う(45分)
24	施設実習に際しての留意事項(3)実習生としての心構え	教科書の学習内容部分を数回読んでおく(45分)	ノート整理を含めた復習を行う(45分)
25	施設実習の計画と記録(1)指導計画の作成	教科書の学習内容部分を数回読んでおく(45分)	ノート整理を含めた復習を行う(45分)
26	施設実習の計画と記録(2)指導計画の実践	教科書の学習内容部分を数回読んでおく(45分)	ノート整理を含めた復習を行う(45分)
27	施設実習の計画と記録(3)指導計画の改善	教科書の学習内容部分を数回読んでおく(45分)	ノート整理を含めた復習を行う(45分)
28	施設実習の計画と記録(4)実習における記録及び評価	教科書の学習内容部分を数回読んでおく(45分)	ノート整理を含めた復習を行う(45分)
29	事後指導における実習の総括と課題の明確化(1)保育所実習の総括と自己評価	教科書の学習内容部分を数回読んでおく(45分)	ノート整理を含めた復習を行う(45分)
30	事後指導における実習の総括と課題の明確化(2)課題の明確化	教科書の学習内容部分を数回読んでおく(45分)	ノート整理を含めた復習を行う(45分)
31	施設実習報告会	施設実習報告会の資料を作成する(45分)	施設実習報告会のまとめと反省を行う(45分)
32	施設実習のまとめと振り返り	施設実習のまとめと振り返りに向けて準備をする(45分)	施設実習について振り返り考察する(45分)

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・3年		
開講時期	4Q	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	障害児保育 (科目ナンバリング：SNE123102)				
授業担当者(所属・職名)	坂上 俊樹(社会福祉学科・特任教授)	研究室所在	1号館2階		
単位数	2 (単位認定責任者：坂上 俊樹)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	学校現場における教員経験を活かして、今日的な教育課題(障害児保育全般と発達障害)について指導する。		

概要

履修目標
障害のある子どもの保育に携わる保育士に必要なさまざまな援助技能を、シミュレーション学習をとおして習得するとともに、子ども1人ひとりの発達課題と生活課題を明らかにすることによって保育現場で援助技能を適切に活用して援助することを理解できるようにする。

授業の位置づけ
社会福祉学科のDP「2(2)と(3)と(5)と(6)」、「2(2)」に対応する。

到達目標
障害のあるなしにとらわれない視点から保育実践を行うことのできる保育士になるために、必要な知識・技術について具体的に述べる事ができる。

授業全体の内容と概要
統合保育場面や家族支援の事例に基づき、ロールプレイ等のシミュレーション学習を通して、遊びや対人関係の援助、日常生活動作等に関する具体的な保育技術、保育計画の立案や面接・記録の技法の実際を学び、保育士としての心構えを取得する。

授業の方法
教科書の輪読、パワーポイント及び配布資料で教科書の内容を確認、ロールプレイや質疑応答の時間を設けるなどで基礎知識の定着をはかる。また、DVDで具体的な実践場面を視聴し内容をレポートにまとめ知識の伸展を図る。

アクティブラーニングの実施方法												
<table border="1"> <tr> <td>プレゼンテーション</td> <td>グループワーク</td> <td>フィールドワーク</td> <td>PBL</td> </tr> <tr> <td>模擬授業</td> <td>ロールプレイ</td> <td>調査学習</td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td>ディスカッション</td> <td>実験・実習・実技</td> <td>双方向授業</td> <td>その他(授業の方法参照)</td> </tr> </table>	プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL	模擬授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業	ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)
プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL									
模擬授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業									
ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)									

履修上の注意事項
具体的な指導場面の指導事例を元に、ロールプレイで体感したり、障害児保育にかかわる実践事例のVTR教材を視聴した後に、事例に基づいたレポート作成を求めているので、授業を欠席することのないよう留意すること。

資格指定科目
保育士養成課程

評価方法・基準

評価前提条件												
単位認定に必要な最低出席回数は10回以上。												
評価方法												
<table border="1"> <tr> <th>定期試験</th> <th>レポート</th> <th>課題・作品</th> <th>中間テスト</th> <th>平常点</th> <th>その他</th> </tr> <tr> <td>50%</td> <td>20%</td> <td>10%</td> <td>0%</td> <td>20%</td> <td>0%</td> </tr> </table>	定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他	50%	20%	10%	0%	20%	0%
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他							
50%	20%	10%	0%	20%	0%							

ルーブリック																													
<table border="1"> <tr> <th rowspan="2">評価項目</th> <th colspan="5">評価基準</th> </tr> <tr> <th>履修項目を超えたレベルを達成している</th> <th>履修項目をほぼ達成している</th> <th>履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している</th> <th>到達目標を達成している</th> <th>到達目標を達成していない</th> </tr> <tr> <td>障害児保育の理解</td> <td>障害児保育について、学修した知識・技能を基盤に、さらに学修を深めようとする事ができた。</td> <td>障害児保育について、必要な知識・技能を理解する事ができた。</td> <td>障害児保育について、一定程度の理解ができた。</td> <td>障害児保育について、一部理解する事ができた。</td> <td>障害児保育について、理解ができなかった。</td> </tr> <tr> <td>障害児保育の思考・判断・表現</td> <td>障害児保育について、積極的に思考・判断し、自ら表現を工夫して活動する事ができた。</td> <td>障害児保育について、思考・判断し、自ら表現する事ができた。</td> <td>障害児保育について、思考活動に取り組み表現しようとする事ができた。</td> <td>障害児保育について、思考する事ができた。</td> <td>障害児保育にかかわる思考・判断・表現について必要な取り組みができなかった。</td> </tr> <tr> <td>授業への参加態度・姿勢</td> <td>授業に非常に積極的に参加する事ができた。</td> <td>授業に積極的に参加する事ができた。</td> <td>授業に関心を持って参加する事ができた。</td> <td>授業へのいくらかの関心をもちつた。</td> <td>授業へ積極的に参加する事ができなかった。</td> </tr> </table>	評価項目	評価基準					履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない	障害児保育の理解	障害児保育について、学修した知識・技能を基盤に、さらに学修を深めようとする事ができた。	障害児保育について、必要な知識・技能を理解する事ができた。	障害児保育について、一定程度の理解ができた。	障害児保育について、一部理解する事ができた。	障害児保育について、理解ができなかった。	障害児保育の思考・判断・表現	障害児保育について、積極的に思考・判断し、自ら表現を工夫して活動する事ができた。	障害児保育について、思考・判断し、自ら表現する事ができた。	障害児保育について、思考活動に取り組み表現しようとする事ができた。	障害児保育について、思考する事ができた。	障害児保育にかかわる思考・判断・表現について必要な取り組みができなかった。	授業への参加態度・姿勢	授業に非常に積極的に参加する事ができた。	授業に積極的に参加する事ができた。	授業に関心を持って参加する事ができた。	授業へのいくらかの関心をもちつた。	授業へ積極的に参加する事ができなかった。
評価項目		評価基準																											
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない																								
障害児保育の理解	障害児保育について、学修した知識・技能を基盤に、さらに学修を深めようとする事ができた。	障害児保育について、必要な知識・技能を理解する事ができた。	障害児保育について、一定程度の理解ができた。	障害児保育について、一部理解する事ができた。	障害児保育について、理解ができなかった。																								
障害児保育の思考・判断・表現	障害児保育について、積極的に思考・判断し、自ら表現を工夫して活動する事ができた。	障害児保育について、思考・判断し、自ら表現する事ができた。	障害児保育について、思考活動に取り組み表現しようとする事ができた。	障害児保育について、思考する事ができた。	障害児保育にかかわる思考・判断・表現について必要な取り組みができなかった。																								
授業への参加態度・姿勢	授業に非常に積極的に参加する事ができた。	授業に積極的に参加する事ができた。	授業に関心を持って参加する事ができた。	授業へのいくらかの関心をもちつた。	授業へ積極的に参加する事ができなかった。																								

教科書・参考文献・資料等

教科書																																										
<table border="1"> <tr> <th>No</th> <th>書籍名</th> <th>著者</th> <th>出版社</th> <th>出版年</th> <th>ISBN</th> <th>備考</th> </tr> <tr> <td>1</td> <td>『実践事例に基づく障害児保育。』</td> <td>七木田敦編著</td> <td>保育出版社</td> <td>2011年</td> <td>978-4-938795-62-7</td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>4</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>5</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考	1	『実践事例に基づく障害児保育。』	七木田敦編著	保育出版社	2011年	978-4-938795-62-7		2							3							4							5						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考																																				
1	『実践事例に基づく障害児保育。』	七木田敦編著	保育出版社	2011年	978-4-938795-62-7																																					
2																																										
3																																										
4																																										
5																																										

参考文献・資料等																																										
<table border="1"> <tr> <th>No</th> <th>書籍名</th> <th>著者</th> <th>出版社</th> <th>出版年</th> <th>ISBN</th> <th>備考</th> </tr> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>4</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>5</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考	1							2							3							4							5						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考																																				
1																																										
2																																										
3																																										
4																																										
5																																										

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・3年		
開講時期	4Q	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	障害児保育 (科目ナンバリング: SNE123102)				
授業担当者(所属・職名)	坂上 俊樹(社会福祉学科・特任教授)	研究室所在	1号館2階		
単位数	2 (単位認定責任者: 坂上 俊樹)		CAP制		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容 学校現場における教員経験を活かして、今日的な教育課題(障害児保育全般と発達障害)について指導する。			

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	シラバスの説明及び障害児保育の概要	シラバスを確認しておくこと(90分)	シラバスに基づいて、授業内容に見通しを立てる(90分)
2	保育場面の事例を通して学ぶ(アセスメント)	教科書の「障害のある子どもの保育とは」を事前に読んでおくこと(90分)	配付資料に基づき復習しておくこと(90分)
3	保育場面の事例を通して学ぶ(保育計画の立案)	教科書の「特別支援教育と保育」を事前に読んでおくこと(90分)	配付資料に基づき復習しておくこと(90分)
4	保育場面の事例を通して学ぶ(保育計画の立案2)	教科書の「特別支援教育と保育」を事前に読んでおくこと(90分)	配付資料に基づき復習しておくこと(90分)
5	保育場面の事例を通して学ぶ(ロールプレイ 個別援助)	教科書の「かかわりの基本・ていねいなかかわり」を事前に読んでおくこと(90分)	配付資料に基づき復習しておくこと(90分)
6	保育場面の事例を通して学ぶ(ロールプレイ 集団援助)	教科書の「学習に障害のある子どもの保育」を事前に読んでおくこと(90分)	配付資料に基づき復習しておくこと(90分)
7	家族支援の事例を通して学ぶ(アセスメント)	教科書の「家庭との連携」を事前に読んでおくこと(90分)	配付資料に基づき復習しておくこと(90分)
8	家族支援の事例を通して学ぶ(面接場面のロールプレイ)	教科書の「家庭との連携」を事前に読んでおくこと(90分)	配付資料に基づき復習しておくこと(90分)
9	家族支援の事例を通して学ぶ(保護者会運営のロールプレイ)	教科書の「家庭との連携」を事前に読んでおくこと(90分)	配付資料に基づき復習しておくこと(90分)
10	スーパービジョンとチームワーク(所内ケース検討会議のロールプレイ)	教科書の「保育所・幼稚園の支援について」を事前に読んでおくこと(90分)	配付資料に基づき復習しておくこと(90分)
11	スーパービジョンとチームワーク(所内ケース検討会議のロールプレイ)	教科書の「保育所・幼稚園の支援について」を事前に読んでおくこと(90分)	配付資料に基づき復習しておくこと(90分)
12	DVDの視聴及びレポートの作成	配布した資料を事前に読んでおくこと(90分)	DVD視聴時のメモを元に整理する。(90分)
13	他機関連携の事例を通して学ぶ(児童相談所・保健所)	配布した資料を事前に読んでおくこと(90分)	配付資料に基づき復習しておくこと(90分)
14	他機関連携の事例を通して学ぶ(早期療育システム)	配布した資料を事前に読んでおくこと(90分)	配付資料に基づき復習しておくこと(90分)
15	障害児保育にかかわる保育士の資質について総合的に検討する。	配布した資料を事前に読んでおくこと(90分)	配付資料に基づき復習しておくこと(90分)
16	定期試験(60分の試験終了後、残り30分で解説する。)	指定した教科書や講義内容について整理しておくこと(90分)	試験の結果を見直す(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・3年		
開講時期	1Q	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	人文地理学 (S) (科目ナンバリング: HUG122137)				
授業担当者(所属・職名)	渡部 斎(社会福祉学科・教授)	研究室所在	2号館7階		
単位数	2 (単位認定責任者: 渡部 斎)		CAP制		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

概要

履修目標
異なる地理的環境によって、複雑な人間生活空間を生み出している。それは、どのように社会に投影されているのかを、人文地理学を通して考察する。生活環境に与える人文地理的要因(人口・都市・経済・産業等)について理解する。

授業の位置づけ
社会福祉学科DP「1(2)」、「1(3)」、「1(4)」、「2(2)」に対応する。

到達目標
人文地理学の考え方を理解することで、地域性の諸要因を説明できる。

授業全体の内容と概要
生活環境に与える人文地理的要因(人口・都市・経済・産業等)について学習し、特に地域性や環境に関する内容をグローバルに認識する。

授業の方法
授業形態は講義形式であるが、板書の他に視聴覚メディア等を利用する。テキスト及び配布資料等を中心に講義を行う。また、人文地理学に関連する課題において、ディスカッションを行う予定である。なお、レポート課題(5本程度)は授業の予習であり、復習でもあるので重要である。レポートについてはコメントにてフィードバックする。

アクティブラーニングの実施方法												
<table border="1"> <tr> <td>プレゼンテーション</td> <td>グループワーク</td> <td>フィールドワーク</td> <td>PBL</td> </tr> <tr> <td>模擬授業</td> <td>ロールプレイ</td> <td>調査学習</td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td>ディスカッション</td> <td>実験・実習・実技</td> <td>双方向授業</td> <td>その他(授業の方法参照)</td> </tr> </table>	プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL	模擬授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業	ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)
プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL									
模擬授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業									
ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)									

履修上の注意事項
レポートは、指示した「レポート作成要領」に準拠したものを提出すること。

資格指定科目
教職課程(社会・地理歴史)必修科目

評価方法・基準

評価前提条件												
・単位認定に必要な最低出席回数は、10回以上である。												
評価方法												
<table border="1"> <tr> <th>定期試験</th> <th>レポート</th> <th>課題・作品</th> <th>中間テスト</th> <th>平常点</th> <th>その他</th> </tr> <tr> <td>0%</td> <td>50%</td> <td>0%</td> <td>0%</td> <td>25%</td> <td>25%</td> </tr> </table>	定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他	0%	50%	0%	0%	25%	25%
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他							
0%	50%	0%	0%	25%	25%							

ルーブリック																																									
<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">評価項目</th> <th colspan="5">評価基準</th> </tr> <tr> <th>履修項目を超えたレベルを達成している</th> <th>履修項目をほぼ達成している</th> <th>履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している</th> <th>到達目標を達成している</th> <th>到達目標を達成していない</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>知識・理解</td> <td>レポート課題において、9割以上の得点を取ることができた。</td> <td>レポート課題において、8割以上の得点を取ることができた。</td> <td>レポート課題において、7割以上の得点を取ることができた。</td> <td>レポート課題において、6割以上の得点を取ることができた。</td> <td>レポート課題において、6割以上の得点を取ることができなかった。</td> </tr> <tr> <td>思考力・判断力・表現力</td> <td>右の記述を高いレベルで実現できた。</td> <td>ディスカッションの課題などで、論理的に自分の意見をまとめ、たいへんわかりやすく説明ができた。</td> <td>ディスカッションの課題などで、自分の意見をまとめ、わかりやすく説明ができた。</td> <td>ディスカッションの課題などで、自分の意見をまとめ、説明ができた。</td> <td>ディスカッションの課題などで、自分の意見をまとめ、説明ができなかった。</td> </tr> <tr> <td>関心・意欲・態度</td> <td>右の記述を高いレベルで実現できた。</td> <td>人文地理的要因(人口・都市・経済・産業等)を深く理解することができた。</td> <td>人文地理的要因(人口・都市・経済・産業等)を理解することができた。</td> <td>人文地理的要因(人口・都市・経済・産業等)をやや理解することができた。</td> <td>人文地理的要因(人口・都市・経済・産業等)を理解することができなかった。</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	評価項目	評価基準					履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない	知識・理解	レポート課題において、9割以上の得点を取ることができた。	レポート課題において、8割以上の得点を取ることができた。	レポート課題において、7割以上の得点を取ることができた。	レポート課題において、6割以上の得点を取ることができた。	レポート課題において、6割以上の得点を取ることができなかった。	思考力・判断力・表現力	右の記述を高いレベルで実現できた。	ディスカッションの課題などで、論理的に自分の意見をまとめ、たいへんわかりやすく説明ができた。	ディスカッションの課題などで、自分の意見をまとめ、わかりやすく説明ができた。	ディスカッションの課題などで、自分の意見をまとめ、説明ができた。	ディスカッションの課題などで、自分の意見をまとめ、説明ができなかった。	関心・意欲・態度	右の記述を高いレベルで実現できた。	人文地理的要因(人口・都市・経済・産業等)を深く理解することができた。	人文地理的要因(人口・都市・経済・産業等)を理解することができた。	人文地理的要因(人口・都市・経済・産業等)をやや理解することができた。	人文地理的要因(人口・都市・経済・産業等)を理解することができなかった。												
評価項目		評価基準																																							
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない																																				
知識・理解	レポート課題において、9割以上の得点を取ることができた。	レポート課題において、8割以上の得点を取ることができた。	レポート課題において、7割以上の得点を取ることができた。	レポート課題において、6割以上の得点を取ることができた。	レポート課題において、6割以上の得点を取ることができなかった。																																				
思考力・判断力・表現力	右の記述を高いレベルで実現できた。	ディスカッションの課題などで、論理的に自分の意見をまとめ、たいへんわかりやすく説明ができた。	ディスカッションの課題などで、自分の意見をまとめ、わかりやすく説明ができた。	ディスカッションの課題などで、自分の意見をまとめ、説明ができた。	ディスカッションの課題などで、自分の意見をまとめ、説明ができなかった。																																				
関心・意欲・態度	右の記述を高いレベルで実現できた。	人文地理的要因(人口・都市・経済・産業等)を深く理解することができた。	人文地理的要因(人口・都市・経済・産業等)を理解することができた。	人文地理的要因(人口・都市・経済・産業等)をやや理解することができた。	人文地理的要因(人口・都市・経済・産業等)を理解することができなかった。																																				

教科書・参考文献・資料等

教科書																																										
<table border="1"> <thead> <tr> <th>No</th> <th>書籍名</th> <th>著者</th> <th>出版社</th> <th>出版年</th> <th>ISBN</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>『現代社会の人文地理学』</td> <td>福田 稜</td> <td>古今書院</td> <td>2014</td> <td>9784772231626</td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>4</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>5</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考	1	『現代社会の人文地理学』	福田 稜	古今書院	2014	9784772231626		2							3							4							5						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考																																				
1	『現代社会の人文地理学』	福田 稜	古今書院	2014	9784772231626																																					
2																																										
3																																										
4																																										
5																																										

参考文献・資料等																																										
<table border="1"> <thead> <tr> <th>No</th> <th>書籍名</th> <th>著者</th> <th>出版社</th> <th>出版年</th> <th>ISBN</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>『高等地図帳』</td> <td>二ノ宮書店編集部</td> <td>二ノ宮書店</td> <td>2019</td> <td>978-4817604392</td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>4</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>5</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考	1	『高等地図帳』	二ノ宮書店編集部	二ノ宮書店	2019	978-4817604392		2							3							4							5						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考																																				
1	『高等地図帳』	二ノ宮書店編集部	二ノ宮書店	2019	978-4817604392																																					
2																																										
3																																										
4																																										
5																																										

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・3年		
開講時期	1Q	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	人文地理学 (S) (科目ナンバリング:HUG122137)				
授業担当者(所属・職名)	渡部 斎(社会福祉学科・教授)	研究室所在	2号館7階		
単位数	2 (単位認定責任者: 渡部 斎)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	シラバスの説明、授業の内容・進め方・評価の仕方のガイダンス	事前にシラバスを読んでいること。(90分)	今回の授業内容を復習しておくこと。(90分)
2	人文地理学の歩み (歴史)	事前にテキストの範囲を読んでいること。(90分)	今回の授業内容を復習しておくこと。(90分)
3	人文地理学の歩み (歴史)	前回の授業内容を復習しておくこと。(90分)	レポート課題等を作成すること。(90分)
4	「地域」の概念について	事前にテキストの範囲を読んでいること。(90分)	今回の授業内容を復習しておくこと。(90分)
5	「地域」と空間について	前回の授業内容を復習しておくこと。(90分)	レポート課題等を作成すること。(90分)
6	機能地域と同質地域について	前回の授業内容を復習しておくこと。(90分)	今回の授業内容を復習しておくこと。(90分)
7	人口地理学 (分布と人口動向)	事前にテキストの範囲を読んでいること。(90分)	レポート課題等を作成すること。(90分)
8	人口地理学 (人口爆発のメカニズム)	前回の授業内容を復習しておくこと。(90分)	今回の授業内容を復習しておくこと。(90分)
9	人口地理学ディスカッション (人口爆発の抑制)	ディスカッションの準備学修。(90分)	レポート課題等を作成すること。(90分)
10	人口地理学 (人口爆発の影響)	前回の授業内容を復習しておくこと。(90分)	今回の授業内容を復習しておくこと。(90分)
11	人口地理学ディスカッション (少子高齢化)	ディスカッションの準備学修。(90分)	今回の授業内容を復習しておくこと。(90分)
12	人口地理学 (先進国の人口問題)	前回の授業内容を復習しておくこと。(90分)	レポート課題等を作成すること。(90分)
13	都市地理学 (都市の発達)	前回の授業内容を復習しておくこと。(90分)	今回の授業内容を復習しておくこと。(90分)
14	都市地理学 (都市の構造)	前回の授業内容を復習しておくこと。(90分)	レポート課題等を作成すること。(90分)
15	都市地理学 (ニュータウン)	前回の授業内容を復習しておくこと。(90分)	今回の授業内容を復習しておくこと。(90分)
16	課題(レポートなど)の解説	まとめの準備。(90分)	まとめの振り返り。(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・3年		
開講時期	3Q	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	人文地理学 (S) (科目ナンバリング: HUG122138)				
授業担当者(所属・職名)	渡部 斎(社会福祉学科・教授)		研究室所在	2号館7階	
単位数	2 (単位認定責任者: 渡部 斎)		CAP制		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

概要

履修目標
異なる地理的環境によって、複雑な人間生活空間を生み出している。それは、どのように社会に投影されているのかを、人文地理学を通して考察する。生活環境に与える人文地理的要因(人口・都市・経済・産業等)について、理解する。

授業の位置づけ
社会福祉学科DP「1(2)」と「3」と「4」, 「2(2)」に対応する。

到達目標
人文地理学の考え方を理解することで、地域性の諸要因を説明できる。

授業全体の内容と概要
生活環境に与える人文地理的要因(人口・都市・経済・産業等)について学習し、特に地域性や環境に関する内容をグローバルに認識する。

授業の方法
授業形態は講義形式であるが、板書の他に視聴覚メディア等を利用する。テキスト及び配布資料等を中心に講義を行う。また、人文地理学に関連する課題において、ディスカッションを行う予定である。なお、レポート課題(5本程度)は授業の予習であり、復習でもあるので重要である。レポートについてはコメントにてフィードバックする。

アクティブラーニングの実施方法						
	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク	PBL
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習	反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項
レポートは、指示した「レポート作成要領」に準拠したものを提出すること。

資格指定科目
教職課程(社会・地理歴史)必修科目

評価方法・基準

評価前提条件					
・単位認定に必要な最低出席回数は、10回以上である。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	50%	0%	0%	25%	25%

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・理解	レポート課題において、9割以上の得点を取ることができた。	レポート課題において、8割以上の得点を取ることができた。	レポート課題において、7割以上の得点を取ることができた。	レポート課題において、6割以上の得点を取ることができた。	レポート課題において、6割以上の得点を取ることができなかった。
思考力・判断力・表現力	右の記述を高いレベルで実現していた。	ディスカッションの課題などで、論理的に自分の意見をまとめ、たいへんわかりやすく説明ができた。	ディスカッションの課題などで、自分の意見をまとめ、わかりやすく説明ができた。	ディスカッションの課題などで、自分の意見をまとめ、説明ができた。	ディスカッションの課題などで、自分の意見をまとめ、説明ができなかった。
関心・意欲・態度	右の記述を高いレベルで実現していた。	人文地理的要因(人口・都市・経済・産業等)を深く理解することができた。	人文地理的要因(人口・都市・経済・産業等)を理解することができた。	人文地理的要因(人口・都市・経済・産業等)をやや理解することができた。	人文地理的要因(人口・都市・経済・産業等)を理解することができなかった。

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『現代社会の人文地理学』	福田 稜	古今書院	2014	9784772231626	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『高等地図帳』	二ノ宮書店編集部	二ノ宮書店	2019	978-4817604392	
2						
3						
4						
5						

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・3年		
開講時期	3Q	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	人文地理学 (S) (科目ナンバリング:HUG122138)				
授業担当者(所属・職名)	渡部 斎(社会福祉学科・教授)	研究室所在	2号館7階		
単位数	2 (単位認定責任者: 渡部 斎)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	シラバスの説明、授業の内容・進め方・評価の仕方のガイダンス	事前にシラバスを読んでいること。(90分)	今回の授業内容を復習しておくこと。(90分)
2	人文地理学の歩み (歴史)	事前にテキストの範囲を読んでいること。(90分)	今回の授業内容を復習しておくこと。(90分)
3	人文地理学の歩み (歴史)	前回の授業内容を復習しておくこと。(90分)	レポート課題等を作成すること。(90分)
4	「地域」の概念について	事前にテキストの範囲を読んでいること。(90分)	今回の授業内容を復習しておくこと。(90分)
5	「地域」と空間について	前回の授業内容を復習しておくこと。(90分)	レポート課題等を作成すること。(90分)
6	機能地域と同質地域について	前回の授業内容を復習しておくこと。(90分)	今回の授業内容を復習しておくこと。(90分)
7	人口地理学 (分布と人口動向)	事前にテキストの範囲を読んでいること。(90分)	レポート課題等を作成すること。(90分)
8	人口地理学 (人口爆発のメカニズム)	前回の授業内容を復習しておくこと。(90分)	今回の授業内容を復習しておくこと。(90分)
9	人口地理学ディスカッション (人口爆発の抑制)	ディスカッションの準備学修。(90分)	レポート課題等を作成すること。(90分)
10	人口地理学 (人口爆発の影響)	前回の授業内容を復習しておくこと。(90分)	今回の授業内容を復習しておくこと。(90分)
11	人口地理学ディスカッション (少子高齢化)	ディスカッションの準備学修。(90分)	今回の授業内容を復習しておくこと。(90分)
12	人口地理学 (先進国の人口問題)	前回の授業内容を復習しておくこと。(90分)	レポート課題等を作成すること。(90分)
13	都市地理学 (都市の発達)	前回の授業内容を復習しておくこと。(90分)	今回の授業内容を復習しておくこと。(90分)
14	都市地理学 (都市の構造)	前回の授業内容を復習しておくこと。(90分)	レポート課題等を作成すること。(90分)
15	都市地理学 (ニュータウン)	前回の授業内容を復習しておくこと。(90分)	今回の授業内容を復習しておくこと。(90分)
16	課題(レポートなど)の解説	まとめの準備。(90分)	まとめの振り返り。(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・3年		
開講時期	4Q	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	知的障害教育 (科目ナンバリング：SNE123117)				
授業担当者(所属・職名)	藤根 収(社会福祉学科・特任教授)	研究室所在	2号館7階		
単位数	2 (単位認定責任者：藤根 収)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	学校現場や教育行政における経験がある教員がその経験を活かして、特別支援教育(知的障害教育)について指導する。		

概要

履修目標
特別な支援を必要とする知的障害児の教育課程及び指導・支援の方法を理解し、知的障害児の教育を効果的に行うために必要な基本的知識と障害の状況等に応じた指導のあり方等の実践的知識を習得する。

授業の位置づけ
「社会福祉学科」のDP「1(2)と(3)と(5)と(7)」、「2(2)」に対応する。

到達目標
特別支援教育に関する教育課程の枠組みを踏まえ、知的障害教育における教育課程の編成や個別の教育支援計画及び個別の指導計画を作成する意義と活用方法、自立活動の指導、授業づくりなどを理解する。また、知的障害教育を効果的に行うために必要な指導内容・方法等についての基礎的知識を理解する。

授業全体の内容と概要
毎回のテーマに基づき必要な事項を講義するとともに、主体的・対話的で深い学びを実現するため、テーマに関連する事項に関して考察、意見交換、発表等の一連の活動を行う。また、知的障害教育に係る法令の理解や教育課程の編成の仕方や指導内容・方法について、演習方式も取り入れながら行う。

授業の方法
授業ではパワーポイント及び配布物(レジメ)で実施し、資料にて説明した後、グループワーク等で、テーマに関する事項に関して、思考・考察、意見交換、討議、発表等の一連の活動を行うなどして理解を深める。また、実践事例のVTR教材視聴の事例に基づくレポート提出を行う。なお、レポート等にはコメントにてフィードバックする。

アクティブラーニングの実施方法							
<input type="checkbox"/>	プレゼンテーション	<input type="checkbox"/>	グループワーク	<input type="checkbox"/>	フィールドワーク	<input type="checkbox"/>	PBL
<input type="checkbox"/>	模擬授業	<input type="checkbox"/>	ロールプレイ	<input type="checkbox"/>	調査学習	<input type="checkbox"/>	反転授業
<input type="checkbox"/>	ディスカッション	<input type="checkbox"/>	実験・実習・実技	<input type="checkbox"/>	双方向授業	<input type="checkbox"/>	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項
20分以上の遅刻は欠席とし、遅刻3回で欠席1回とみなす。

資格指定科目
教職課程(特別支援学校教諭)必修科目

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数は、10回以上。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
50%	20%	0%	0%	20%	10%

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知的障害教育の専門的な知識・技能の習得	専門的な内容について高い関心をもって理解し、さらに深めてようとする事ができた。	専門的な内容について、関心をもって理解し、学修することができた。	専門的な内容を学修することができた。	専門的な内容について一定程度理解することができた。	専門的な内容について理解できなかった。
知的障害教育に関する思考・判断・表現	テーマに基づき、積極的に思考・判断し、個人やグループで工夫して積極的に表現できた。	テーマに基づき、思考・判断し、個人やグループで意欲的に表現できた。	テーマに基づき、思考・判断し、個人やグループで表現できた。	テーマに基づき、一部思考・判断し、個人やグループで表現できた。	テーマの受け止めが不十分で、思考・判断・表現が十分にできなかった。
授業への参加態度・姿勢	授業に非常に積極的に参加することができた。	授業に積極的に参加することができた。	授業に関心をもって参加することができた。	授業への関心が一定程度みられた。	授業への参加態度・姿勢が不十分だった。

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『特別支援教育の基礎・基本 2020』	国立特別支援教育総合研究所	ジアース教育新社	2020	978-4-86371-548-6	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『特別支援教育の授業案づくり』	太田正己	黎明書房	2016	978-4-654-01929-8	
2	『特別支援教育の学習指導案と授業研究』	肥後祥治 ほか	ジアース教育新社	2013	978-4-86371-213-3	
3						
4						
5						

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・3年		
開講時期	4Q	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	知的障害教育 (科目ナンバリング: SNE123117)				
授業担当者(所属・職名)	藤根 収(社会福祉学科・特任教授)	研究室所在	2号館7階		
単位数	2 (単位認定責任者: 藤根 収)		CAP制		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	学校現場や教育行政における経験がある教員がその経験を活かして、特別支援教育(知的障害教育)について指導する。		

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	オリエンテーション -シラバスの説明、知的障害教育について-	教科書から「知的障害教育」についての課題を整理する。(90分)	課題についてノートに整理し、シラバスで確認すること。(90分)
2	知的障害教育に関係する法令(教育基本法や学校教育法、学習指導要領等)の理解と教育課程について	教科書の該当部分を読んでおくことと課題を整理する。(90分)	重要な用語や事柄等をノートに整理する。(90分)
3	特別支援学校学習指導要領のポイントと教育動向について	教科書の該当部分を読んでおくことと課題を整理する。(90分)	重要な用語や事柄等をノートに整理する。(90分)
4	特別支援学校と特別支援学級における教育について	教科書の該当部分を読んでおくことと課題を整理する。(90分)	重要な用語や事柄等をノートに整理する。(90分)
5	教育課程 ・教育課程編成上の基本事項と指導の形態について	教科書の該当部分を読んでおくことと課題を整理する。(90分)	重要な用語や事柄等をノートに整理する。(90分)
6	教育課程 ・各教科等の年間授業時間と各教科等の指導のねらいについて	教科書の該当部分を読んでおくことと課題を整理する。(90分)	重要な用語や事柄等をノートに整理する。(90分)
7	教育課程 ・各教科等を合わせた指導、教科別の指導等について	教科書の該当部分を読んでおくことと課題を整理する。(90分)	重要な用語や事柄等をノートに整理する。(90分)
8	教育課程 ・自立活動、年間指導計画の作成について	教科書の該当部分を読んでおくことと課題を整理する。(90分)	重要な用語や事柄等をノートに整理する。(90分)
9	教育課程 ・学習指導案の作成 - 各教科等の指導案	教科書の該当部分を読んでおくことと課題を整理する。(90分)	重要な用語や事柄等をノートに整理する。(90分)
10	特別支援教育に関する理解 -制度と課題、合理的配慮等	教科書の該当部分を読んでおくことと課題を整理する。(90分)	重要な用語や事柄等をノートに整理する。(90分)
11	特別支援教育に関する理解 -教育課程	教科書の該当部分を読んでおくことと課題を整理する。(90分)	重要な用語や事柄等をノートに整理する。(90分)
12	特別支援教育に関する理解 -学習指導要領	教科書の該当部分を読んでおくことと課題を整理する。(90分)	重要な用語や事柄等をノートに整理する。(90分)
13	特別支援教育に関する理解 -障害児教育の歴史と就学の手続き等	教科書の該当部分を読んでおくことと課題を整理する。(90分)	重要な用語や事柄等をノートに整理する。(90分)
14	特別支援教育に関する理解 -指導法・検査法・心理的特性等	教科書の該当部分を読んでおくことと課題を整理する。(90分)	重要な用語や事柄等をノートに整理する。(90分)
15	まとめと今後の課題	教科書の該当部分を読んでおくことと課題を整理する。(90分)	重要な語句や内容を整理するとともにレポートを作成する。(90分)
16	定期試験(60分の試験終了後、残りの30分で解説する。)	教科書等で講義内容を整理する。(90分)	試験の結果を見直す。(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・3年		
開講時期	2Q	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	病弱教育 (科目ナンバリング: SNE122120)				
授業担当者(所属・職名)	高橋 健剛(社会福祉学科・非常勤講師)	研究室所在	1号館1階非常勤講師室		
単位数	2 (単位認定責任者: 高橋 健剛)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	学校現場における教員経験から、その経験を活かして具体的な実践例を中心に各特性等の理解を図り、さらに教育実習にも必要な内容を指導する。		

概要

履修目標	病弱教育の教育課程及び支援の方法を理解し、教育課程の枠組みを踏まえ、個別の教育支援計画及び個別の指導計画を作成する意義と方法を理解する。病弱・身体虚弱教育に必要な基本的な知識と健康や病気の状態に応じた指導の在り方等の知識を取得する。												
授業の位置づけ	社会福祉学科のDP「1(2)と(3)と(5)」、「2(2)」に対応する。												
到達目標	病弱・身体虚弱児教育の教育課程、指導内容・方法等についての基礎的知識を理解することができる。												
授業全体の内容と概要	病弱・身体虚弱児の健康や病気の状況に応じた教育課程や指導内容・方法、医療機関との連携、医療的ケアの在り方等について構成する。												
授業の方法	各回のテーマに基づき必要な事項を講義するとともに、主体的・対話的で深い学びを実現するため、テーマに関連する事項に関して考察、意見交換、発表等の一連の活動を行う。授業ではパワーポイント及び配布物(レジメ)で実施し、資料にて説明した後、グループワーク等でグループ協議を行う。また具体的な事例のVTR教材視聴後のレポート提出を行う。レポート等については、コメントにてフィードバックを行う。												
アクティブラーニングの実施方法	<table border="1"> <tr> <td>プレゼンテーション</td> <td>グループワーク</td> <td>フィールドワーク</td> <td>PBL</td> </tr> <tr> <td>模擬授業</td> <td>ロールプレイ</td> <td>調査学習</td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td>ディスカッション</td> <td>実験・実習・実技</td> <td>双方向授業</td> <td>その他(授業の方法参照)</td> </tr> </table>	プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL	模擬授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業	ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)
プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL										
模擬授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業										
ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)										
履修上の注意事項	20分以上の遅刻は欠席とし、遅刻3回で欠席1回とみなす。												
資格指定科目	教職課程(特別支援)必修科目												

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数は、10回以上。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
50%	20%	0%	0%	20%	10%

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
病弱教育の基礎的な知識・技能の習得	知識・技能についての基礎的内容について高い関心をもって理解し、さらに深めることができた。	知識・技能の基礎的内容について関心をもって理解し、学修できた。	知識・技能の基礎的内容についてほぼ学修できた。	知識・技能について不十分ながら理解することができた。	知識・技能の基礎的内容について理解できなかった。
病弱教育に関する思考・判断・表現	テーマに基づき、積極的に思考・判断し、個人やグループで工夫して積極的に表現できた。	テーマに基づき、積極的に思考・判断し、個人やグループで感動的に表現できた。	テーマに基づき、積極的に思考・判断し、個人やグループで表現できた。	テーマに基づき、思考・判断し、個人やグループで取り組みができた。	テーマの受け止め方が不十分で思考・判断に課題がみられ、表現できなかった。
授業への参加態度・姿勢	授業に非常に積極的に参加することができた。	授業に積極的に参加することができた。	授業に関心をもって参加することができた。	授業への関心が低い参加できた。	授業への態度に課題があり、参加できなかった。

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『特別支援教育の基礎・基本(新訂版)』	ジアース教育新社	ジアース教育新社	2015	978-4863712973	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・3年		
開講時期	2Q	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	病弱教育 (科目ナンバリング: SNE122120)				
授業担当者(所属・職名)	高橋 健剛 (社会福祉学科・非常勤講師)		研究室所在	1号館1階非常勤講師室	
単位数	2 (単位認定責任者: 高橋 健剛)		CAP制		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容 学校現場における教員経験から、その経験を活かして具体的な実践例を中心に各特性等の理解を図り、さらに教育実習にも必要な内容を指導する。			

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	シラバス説明とオリエンテーション-病弱教育とは	教科書から「病弱教育」についての課題を整理する(90分)	課題についてノートに整理し、シラバスで確認すること。(90分)
2	病弱教育の歴史の変遷	教科書の該当部分を読んでおくことと課題を整理する(90分)	重要な用語や事柄等をノートに整理する(90分)
3	病弱教育の特別支援学校・特別支援学級	教科書の該当部分を読んでおくことと課題を整理する(90分)	重要な用語や事柄等をノートに整理する(90分)
4	病弱特別支援学校・特別支援学級の教育課程	教科書の該当部分を読んでおくことと課題を整理する(90分)	重要な用語や事柄等をノートに整理する(90分)
5	個別の指導計画と個別的教育支援計画	教科書の該当部分を読んでおくことと課題を整理する(90分)	重要な用語や事柄等をノートに整理する(90分)
6	病気の理解と指導1 教科指導	教科書の該当部分を読んでおくことと課題を整理する(90分)	重要な用語や事柄等をノートに整理する(90分)
7	病気の理解と指導2 教科外指導	教科書の該当部分を読んでおくことと課題を整理する(90分)	重要な語句や内容の整理とレポートの作成(90分)
8	病気の理解と指導3 慢性疾患と総合的な学習の時間	教科書の該当部分を読んでおくことと課題を整理する(90分)	重要な用語や事柄等をノートに整理する(90分)
9	病気の理解と指導4 重症心身障害と自立活動	教科書の該当部分を読んでおくことと課題を整理する(90分)	重要な用語や事柄等をノートに整理する(90分)
10	病気の理解と指導5 領域・教科を合わせた指導(1) (生活単元学習と遊びの指導)	教科書の該当部分を読んでおくことと課題を整理する(90分)	重要な用語や事柄等をノートに整理する(90分)
11	病気の理解と指導6 領域・教科を合わせた指導(2) (日常生活指導と作業学習)	教科書の該当部分を読んでおくことと課題を整理する(90分)	重要な用語や事柄等をノートに整理する(90分)
12	児童虐待と心身の発達	教科書の該当部分を読んでおくことと課題を整理する(90分)	重要な用語や事柄等をノートに整理する(90分)
13	医療機関との連携, 医療的ケア(1) (学校における対応について)	教科書の該当部分を読んでおくことと課題を整理する(90分)	重要な用語や事柄等をノートに整理する(90分)
14	医療機関との連携, 医療的ケア(2) (今後の課題について)	教科書の該当部分を読んでおくことと課題を整理する(90分)	重要な用語や事柄等をノートに整理する(90分)
15	就学指導と進路指導の今日的課題	教科書の該当部分を読んでおくことと課題を整理する(90分)	重要な語句や内容の整理とレポートの作成(90分)
16	定期試験(60分の試験終了後、残りの30分で解説する。)	講義内容の重要事項について整理しておくこと(90分)	試験の結果を見直す(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・3年		
開講時期	前期	授業形態	実習	必修・選択	選択
科目名称	特別支援教育実習（事（科目ナンバリング：SNE123125））				
授業担当者（所属・職名）	藤根 収（社会福祉学科・特任教授）、堀川 厚志（社会福祉学科・特任教授）	研究室所在	2号館7階		
単位数	1	（単位認定責任者：藤根 収）	CAP制		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	学校現場における教員経験がある教員がその経験を活かして、教育実習について事前指導する。		

概要

履修目標

特別支援教育の趣旨や内容を理解するとともに、特別支援学校教諭一種免許状取得のために必要な教育実習の意義を理解する。模擬授業等の演習では、教育実習を見据え、学校現場で教壇に立つ教師の役割を意識して学ぶ。

授業の位置づけ

「社会福祉学科」のDP「1（2）と（3）と（5）と（7）」、「2（2）」に対応する。

到達目標

特別支援学校教育の概要や教育実習について理解し、障害のある子どもの教育活動や授業づくりに必要な基礎的な知識、技能、態度を身に付ける。

授業全体の内容と概要

特別支援学校教育の概要および授業の実際について理解できるとともに、学校の教育活動全般についても具体的な理解を図るようになる。

授業の方法

授業はパワーポイント及び配布資料で実施するとともに、学生自らが考えた授業設計や指導案づくり、模擬授業等を実際の学校現場に近い内容で実施する。演習後にはコメントにてフィードバックする。また、夏季休暇等を活用して学校現場の見学や公開授業研究会等に参加させ、レポート提出を行う。なお、指導案やレポートにはコメントにてフィードバックする。

アクティブラーニングの実施方法

<input type="checkbox"/>	プレゼンテーション	<input type="checkbox"/>	グループワーク	<input type="checkbox"/>	フィールドワーク	<input type="checkbox"/>	PBL
<input type="checkbox"/>	模擬授業	<input type="checkbox"/>	ロールプレイ	<input type="checkbox"/>	調査学習	<input type="checkbox"/>	反転授業
<input type="checkbox"/>	ディスカッション	<input type="checkbox"/>	実験・実習・実技	<input type="checkbox"/>	双方向授業	<input type="checkbox"/>	その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

- 常に障害のある子どもの前に立って指導する姿を想定して授業に臨むこと。
- 4年生での特別支援学校の教育実習（事前・事後指導）の単位取得に必修科目であること。
- 普段から障害児のある子どもの生活や教育に関する新聞記事やテレビ情報を収集すること。
- 学習指導案作成にかかわる情報の収集に努め、教育実習に備えること。
- 通年授業なので、下記の授業以外に特別支援学校の参観や研究授業等に参加するようにすること。
- 模擬授業を行う際には、授業者以外は生徒役を実践して授業案の作成・授業展開等について学ぶこと。

資格指定科目

教職課程（特別支援）必修科目

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数は、10回以上					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	80%	0%	0%	0%	20%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
特別支援教育の基礎的な知識・技能の理解	知識・技能に関する基礎的な内容について高い関心をもって理解し、さらに深めてよとすることができた。	知識・技能に関する基礎的な内容について、関心をもって理解し、学修することができた。	知識・技能に関する基礎的な内容を学修することができた。	知識・技能に関する基礎的な内容について一定程度理解することができた。	知識・技能に関する基礎的な内容の理解ができなかった。
授業づくりに対するの思考・判断・表現	自ら授業づくりを構想し、創意工夫を凝らした指導案作成と模擬授業に積極的に取り組んだ。	自ら授業づくりを構想し、指導案作成と模擬授業に積極的に取り組んだ。	自ら授業づくりを構想し、指導案作成と模擬授業に取り組んだ。	指導案作成と模擬授業に取り組んだ。	指導案作成と模擬授業への取り組みが十分にできなかった。
授業や模擬授業への取り組み姿勢	非常に積極的に取り組むことができた。	積極的に取り組むことができた。	関心をもって取り組むことができた。	関心をもって取り組もうとした。	取組態度・姿勢が不十分だった。

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『特別支援教育の基礎・基本 2020』	国立特別支援教育総合研究所	ジアース教育新社	2020	978-4-86371-548-6	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『特別支援学校学習指導要領』	文部科学省	海文堂出版	2018	978-4-303-12424-3	
2	『教育実習完璧ガイド』	宮崎 猛 小泉博明	小学館	2015	978-4-09-105015-1	
3						
4						
5						

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・3年		
開講時期	前期	授業形態	実習	必修・選択	選択
科目名称	特別支援教育実習（事（科目ナンバリング：SNE123125））				
授業担当者（所属・職名）	藤根 収（社会福祉学科・特任教授）、堀川 厚志（社会福祉学科・特任教授）	研究室所在	2号館7階		
単位数	1（単位認定責任者：藤根 収）	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	学校現場における教員経験がある教員がその経験を活かして、教育実習について事前指導する。		

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	オリエンテーション/シラバスの説明等	教育実習に臨む心構えを発表する準備をしておくこと。(90分)	オリエンテーションの重要事項を整理すること。(90分)
2	特別支援学校の教育実習の意義や目標	事前に意義や目標を調べておくこと。(90分)	授業内容の概要と課題等を整理すること。(90分)
3	教育実習の実際（挨拶、服従規律、注意点）	前時に学んだことを振り返り、発表できるようにすること。(90分)	授業内容の概要と課題等を整理すること。(90分)
4	実習のスケジュールと心構え	先輩等から聴取して、必要な準備やスケジュールを調べておくこと。(90分)	授業内容の概要と課題等を整理すること。(90分)
5	実習日誌の書き方、文章の書き方	実習日誌について内容や書き方などを調べておくこと。(90分)	授業内容の概要と課題等を整理すること。(90分)
6	特別支援学校教育の実際	特別支援学校児童生徒や教育課程等を調べておくこと。(90分)	授業内容の概要と課題等を整理すること。(90分)
7	学習指導案の作成（学習指導案の構成と要素）	学習指導案について内容や必要な要素などを調べておくこと。(90分)	授業内容の概要と課題等を整理すること。(90分)
8	学習指導案の作成（学習指導案の記入の方法1）	児童生徒の実態を踏まえた児童生徒の実態を踏まえた目標設定などを調べておくこと。(90分)	授業内容の概要と課題等を整理すること。(90分)
9	学習指導案の作成（学習指導案の記入の方法2）	学習指導案の作成の方法などを調べておくこと。(90分)	授業内容の概要と課題等を整理すること。(90分)
10	学習指導案の作成（学習指導案の記入の実際1）	対象児童生徒を想定して学習指導案について考えておくこと。(90分)	授業内容の概要と課題等を整理すること。(90分)
11	学習指導案の作成（学習指導案の記入の実際2）	必要な教材の準備、具体的な指導方法を考えること。(90分)	授業内容の概要と課題等を整理すること。(90分)
12	模擬授業の実際（各教科を合わせた指導）	対象児童生徒を想定して模擬授業の準備をしておくこと。(90分)	模擬授業の振り返りと課題等を整理すること。(90分)
13	模擬授業の実際（各教科等を合わせた指導）	対象児童生徒を想定して模擬授業の準備をしておくこと。(90分)	模擬授業の振り返りと課題等を整理すること。(90分)
14	模擬授業の実際（各教科等を合わせた指導）	対象児童生徒を想定して模擬授業の準備をしておくこと。(90分)	模擬授業の振り返りと課題等を整理すること。(90分)
15	模擬授業のまとめと今後の課題	模擬授業の反省点等を明確にして発表できるように準備しておくこと。(90分)	模擬授業の振り返りと課題等を整理すること。(90分)
16	レポート（最終回において解説しフィードバックする。）	講義等の内容を整理しておくこと。(90分)	解説内容を整理すること。(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・4年		
開講時期	1Q	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	加セラリク論(S) (科目ナンバリング: CLP123074, CLP423088, CLP523099)				
授業担当者(所属・職名)	佐々木 智城(社会福祉学科・准教授)	研究室所在	1号館2階		
単位数	2 (単位認定責任者: 佐々木 智城)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり 左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	臨床心理士、公認心理師が精神科病院勤務経験、スクールカウンセラー経験等を活かしながら、臨床心理学を指導する。			

概要

履修目標

C. ロジャースの提唱した来談者中心療法(カウンセリング)に関する基本的な学習をした後、福祉現場の実際の臨床に沿いながら、カウンセリングのあり方を学ぶ。具体的には、(1)不登校、(2)被害者、(3)身体障害、(4)軽度発達障害(LD・ADHD等)に焦点を当てて、個別・家族・集団カウンセリングについて講義を受け、実践トレーニングで学ぶ。

授業の位置づけ

社会福祉学科のDP「1(1)と(2)と(5)と(6)と(7)」、「2(2)」に対応する。

到達目標

カウンセリングによって人は成長し、発達する多面的な存在として、幅広い視点からカウンセリングを習得する。

授業全体の内容と概要

配付資料などを用い、これまでの研究によって蓄積されてきた知見を紹介する。それらを通し、人間にそなわっている基本的な心的機能全般についての知識を獲得する。

授業の方法

教科書、プリント、DVDでのカウンセリングの実際を視聴し、グループワークでカウンセリングの技法を学んでいく(ディスカッション、ロールプレイ含む)。毎回、授業の最後に学んだことや質問をまとめて提出する。質問は次の授業で回答する。

アクティブラーニングの実施方法

プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		PBL
模擬授業	○	ロールプレイ		調査学習		反転授業
ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業	○	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

毎回、授業の最後に学んだことをまとめて提出すること。提出によって出席とし、成績に反映する。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数は10回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	70%	0%	0%	20%	10%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
カウンセリングについての理解	教科書やDVDに基づいてカウンセリング技法を理解し、技法をスムーズに使えた。	教科書やDVDに基づいてカウンセリング技法を理解し、技法をおおむね使えた。	教科書やDVDに基づいてカウンセリング技法を理解し、技法を一定程度使えた。	教科書やDVDに基づいてカウンセリング技法を部分的に使えた。	教科書やDVDに基づいてカウンセリング技法の理解が乏しく、技法を部分的にでも使えなかった。
カウンセリングの視点に基づく思考・判断力	カウンセリングの基本を踏まえてクライアントの見立て、どの技法を使うかを十分考察できた。	カウンセリングの基本を踏まえてクライアントの見立て、どの技法を使うかをおおむね考察できた。	カウンセリングの基本を踏まえてクライアントの見立て、どの技法を使うかを一定程度できた。	カウンセリングの基本を踏まえてクライアントの見立て、どの技法を使うかを考察できた。	カウンセリングの基本を踏まえてクライアントの見立て、どの技法を使うかを考察することができなかった。
授業に主体的に取り組む態度	カウンセリングの基本を踏まえてクライアントの見立てとどの技法を用いるかをわかやすく説明できた。	カウンセリングの基本を踏まえてクライアントの見立てとどの技法を用いるかをおおむね説明できた。	カウンセリングの基本を踏まえてクライアントの見立てとどの技法を用いるかを一定程度説明できた。	カウンセリングの基本を踏まえてクライアントの見立てとどの技法を用いるかを説明できた。	カウンセリングの基本を踏まえてクライアントの見立てとどの技法を用いるかを説明することができなかった。

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『マイクロカウンセリング技法』	福原真知子	風間書房	2007	978-4-7599-1637-9	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・4年		
開講時期	1Q	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	カウセリング論(S) (科目ナンバリング: CLP123074, CLP423088, CLP523099)				
授業担当者(所属・職名)	佐々木 智城(社会福祉学科・准教授)	研究室所在	1号館2階		
単位数	2 (単位認定責任者: 佐々木 智城)		CAP制		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	臨床心理士、公認心理師が精神科病院勤務経験、スクールカウンセラー経験等を活かしながら、臨床心理学を指導する。		

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	シラバスの説明。カウセリングの基本。C.ロジャースの来談者中心療法や日本におけるカウセリングのあり方について。	教科書の事例や技法を読んでおくこと(90分)	授業の内容をもとに、受容・共感などを意識しながら、周囲の人と接すること(90分)
2	欧米と日本の比較。	教科書の事例や技法を読んでおくこと(90分)	授業の内容をもとに、受容・共感などを意識しながら、周囲の人と接すること(90分)
3	クライアントを理解する(カウンセラーの自己覚知を含む)。	教科書の事例や技法を読んでおくこと(90分)	授業の内容をもとに、受容・共感などを意識しながら、周囲の人と接すること(90分)
4	不登校の理解とカウセリングやその他の心理療法等による支援策について、不登校の理解・学校・各種専門機関とスクールカウンセラーの役割について。	教科書の事例や技法を読んでおくこと(90分)	授業の内容をもとに、受容・共感などを意識しながら、周囲の人と接すること(90分)
5	具体的支援のあり方。・紙上ロールプレイング法(不登校編)による学習。	教科書の事例や技法を読んでおくこと(90分)	授業の内容をもとに、受容・共感などを意識しながら、周囲の人と接すること(90分)
6	被虐待児童へのカウセリング。虐待問題に焦点を当てた、カウセリングやその他の心理療法等による支援策について。	教科書の事例や技法を読んでおくこと(90分)	授業の内容をもとに、受容・共感などを意識しながら、周囲の人と接すること(90分)
7	具体的支援のあり方。・紙上ロールプレイング法(虐待編)による学習。	教科書の事例や技法を読んでおくこと(90分)	授業の内容をもとに、受容・共感などを意識しながら、周囲の人と接すること(90分)
8	身体障害者(児)へのカウセリング。事故や疾病により身体障害を抱えることになった人々のカウセリングやその他の心理療法等による支援策。	教科書の事例や技法を読んでおくこと(90分)	授業の内容をもとに、受容・共感などを意識しながら、周囲の人と接すること(90分)
9	軽度発達障害児へのカウセリング。軽度発達障害(LD, ADHD, アスペルガー等)に焦点を当てた、カウセリングやその他の心理療法等による支援策について。	教科書の事例や技法を読んでおくこと(90分)	授業の内容をもとに、受容・共感などを意識しながら、周囲の人と接すること(90分)
10	具体的支援のあり方。・紙上ロールプレイング法(軽度発達障害編)による学習。	教科書の事例や技法を読んでおくこと(90分)	授業の内容をもとに、受容・共感などを意識しながら、周囲の人と接すること(90分)
11	子どもの不登校やいじめ、発達障害に関して協力が欠かれない親(保護者)へのカウセリングやコンサルテーション(助言指導)について。	教科書の事例や技法を読んでおくこと(90分)	授業の内容をもとに、受容・共感などを意識しながら、周囲の人と接すること(90分)
12	集団での治療的效果等について、集団カウセリングの効果。・具体的支援のあり方(事例学習)。	教科書の事例や技法を読んでおくこと(90分)	授業の内容をもとに、受容・共感などを意識しながら、周囲の人と接すること(90分)
13	カウセリング・マインドを現場臨床に役立てるためにこれまでの学習を基本にしたロールプレイング法による学習。	教科書の事例や技法を読んでおくこと(90分)	授業の内容をもとに、受容・共感などを意識しながら、周囲の人と接すること(90分)
14	福祉現場等でカウセリング・マインドをどのように応用し実践できるかグループ討議を行う。	教科書の事例や技法を読んでおくこと(90分)	授業の内容をもとに、受容・共感などを意識しながら、周囲の人と接すること(90分)
15	各福祉現場における実態を踏まえて、カウセリング等の実務的な応用について質疑応答を行う。	教科書の事例や技法を読んでおくこと(90分)	授業の内容をもとに、受容・共感などを意識しながら、周囲の人と接すること(90分)
16	レポートについて、最終回において解説しフィードバックする。	レポート作成の準備をすること(90分)	レポートの作成(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・4年		
開講時期	後期集中	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	相談援助演習 (科目ナンバリング：SWS124030)				
授業担当者(所属・職名)	小早川 俊哉(社会福祉学科・教授)・ 上原 正希(社会福祉学科・教授)・大	研究室所在	1号館2階		
単位数	1 (単位認定責任者：大島 康雄)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	SW、GW、CWとしての経験を有する教員が演習を行う。		

概要

履修目標	相談援助演習：で学んだ内容や技術について、より広げ集団及び家族への援助並びに地域を基盤とした援助等のために考察力、プレゼンテーション力、要約力を身に付け実践する。
------	---

授業の位置づけ	社会福祉学科のDP「1(1)と(3)と(5)」、「2(3)」に対応する。
---------	--------------------------------------

到達目標	自分自身で考え学習し、主体的に行動する態度や姿勢が涵養できる。 利用者の人権の大切さ、地域生活における権利擁護、自立支援等を具体的事例を通してより深く理解できる。 グループで命題に合わせた調査を行い、プレゼンテーションや考察、要約できる。
------	---

授業全体の内容と概要	ソーシャルワークの実践力を高める。 個人、家族、グループ、地域社会への支援の事例に基づき、アセスメントやプランニングの実際をより深く学ぶ。 ディベートを通じて、考察力、プレゼンテーション力、要約力を身に付ける。
------------	---

授業の方法	社会福祉の課題をリサーチして、命題を作り、それに合わせたディスカッション、ディベートなどを行います。板書や資料などを活用して、知識の整理を行います。 質問に関してはそのつど対応します。
-------	---

アクティブラーニングの実施方法						
○	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク	PBL
	模擬授業	○	ロールプレイ	○	調査学習	反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項	グループに分かれ演習を行う為、出欠、レポート等々の連絡報告を各担当教員へ行うこと。
----------	---

資格指定科目	社会福祉士国家試験受験資格課程, 精神保健福祉士国家試験受験資格課程, 保育士養成課程
--------	---

評価方法・基準

評価前提条件	単位認定に必要な最低出席回数は、10回以上					
評価方法	定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
	0%	0%	25%	0%	25%	50%

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
授業に参加し、ディベートのテーマについて調査することができる。	1.5回以上授業に参加し、プレゼンテーションの資料を適切な内容で作成できた。	1.4回授業に参加し、プレゼンテーションの資料を適切な内容で作成できた。	1.3回授業に参加し、プレゼンテーションの資料を適切な内容で作成できた。	1.2~1.0回授業に参加し、プレゼンテーションの資料を適切な内容で作成できた。	9回以下しか授業に参加できなかった。
ディベートを通じて適切にプレゼンテーションを行い、相手の主張を整理する力がある。	2回以上ディベートに参加し、プレゼンテーションを行い、相手の主張に対して適切な返答できた。	2回以上ディベートに参加し、プレゼンテーションを行い、相手の主張に対して返答できた。	2回以上ディベートに参加し、プレゼンテーションができた。	1回ディベートに参加できた。	ディベートに参加できなかった。
社会福祉の課題を問題意識をもって調べ、知識として獲得し、グループワークで発言できる。	文献、インターネットなどから社会福祉の課題を調べ、知識として獲得する。グループワークで適切に発言できた。	文献、インターネットなどから社会福祉の課題を調べ、知識として獲得する。グループワークで発言できた。	文献、インターネットなどから社会福祉の課題を調べ、知識として獲得できた。	文献、インターネットなどから社会福祉の課題を調べ、知識として獲得できた。	調べることができなかった。

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・4年		
開講時期	後期集中	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	相談援助演習 (科目ナンバリング: SWS124030)				
授業担当者(所属・職名)	小早川 俊哉(社会福祉学科・教授)・ 上原 正希(社会福祉学科・教授)・大	研究室所在	1号館2階		
単位数	1 (単位認定責任者: 大島 康雄)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容 SW、GW、CWとしての経験を有する教員が演習を行う。			

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	オリエンテーション、シラバスの説明	ソーシャルワークの機能と役割を確認する。(45分)	事前に福祉課題を調べる。(45分)
2	近年の現代社会の課題と福祉分野にもとめられるもの	事前に福祉課題を調べる。(45分)	プレゼンテーションの資料を作成する。(45分)
3	近年の現代社会の課題と福祉分野にもとめられるもの	事前に福祉課題を調べる。(45分)	プレゼンテーションの資料を作成する。(45分)
4	近年の現代社会の課題と福祉分野にもとめられるもの	事前に福祉課題を調べる。(45分)	プレゼンテーションの資料を作成する。(45分)
5	ディベートの方法	事前に福祉課題を調べる。(45分)	プレゼンテーションの資料を作成する。(45分)
6	ディベートの方法	事前に福祉課題を調べる。(45分)	プレゼンテーションの資料を作成する。(45分)
7	ディベートの方法	事前に福祉課題を調べる。(45分)	プレゼンテーションの資料を作成する。(45分)
8	ディベート1回目	事前に福祉課題を調べる。(45分)	プレゼンテーションの資料を作成する。(45分)
9	福祉課題に関するグループ学習 高齢者領域	事前に福祉課題を調べる。(45分)	プレゼンテーションの資料を作成する。(45分)
10	福祉課題に関するグループ学習 障害者領域	事前に福祉課題を調べる。(45分)	プレゼンテーションの資料を作成する。(45分)
11	福祉課題に関するグループ学習 児童領域	事前に福祉課題を調べる。(45分)	プレゼンテーションの資料を作成する。(45分)
12	福祉課題に関するグループ学習 低所得者領域	事前に福祉課題を調べる。(45分)	プレゼンテーションの資料を作成する。(45分)
13	福祉課題に関するグループ学習 その他の領域	事前に福祉課題を調べる。(45分)	プレゼンテーションの資料を作成する。(45分)
14	ディベート2回目	プレゼンテーションの資料を作成する。(45分)	プレゼンテーションの資料を作成する。(45分)
15	ディベート3回目	プレゼンテーションの資料を作成する。(45分)	プレゼンテーションの資料を作成する。(45分)
16	総評、ディベートの振り返り	審判を受けた感想・反省をまとめる。(45分)	ディベートの振り返り(45分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・4年		
開講時期	後期集中	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	相談援助演習（保（科目ナンバリング：SWS124030））				
授業担当者（所属・職名）	飯浜 浩幸（社会福祉学科・教授）	研究室所在	1号館2階		
単位数	1（単位認定責任者：飯浜 浩幸）	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	児童養護施設児童指導員（ソーシャルワーカー）としての経験を活かし、児童養護施設等要保護児童の家庭に対する支援についての指導を行う。スーパーバイザーの経験を活かし、学生一人ひとりの専門職としての自己覚知を促す。		

概要

<p>履修目標</p> <p>以下を理解し、ソーシャルワークの実践力を高める。 各々の支援の事例に基づき、ロールプレイ等の学習を通して、面接や記録の技法、アセスメントやプランニングの実際について理解する。 保育相談支援の意義と原則について理解する。 保育相談支援の基本を理解する。 保育相談支援の実際を学び、内容や方法を理解する。 保育所等児童福祉施設における保護者支援の実際について理解する。</p>																													
<p>授業の位置づけ</p> <p>社会福祉学科のDP「1（3）と（4）と（7）」、「2（2）」に対応する。</p>																													
<p>到達目標</p> <p>各々の支援の事例に基づき、ロールプレイ等の学習を通して、面接や記録の技法、アセスメントやプランニングの実際について理解することができる。 保育相談支援の意義と原則について理解することができる。 保育相談支援の基本について理解することができる。 保育相談支援の実際を学び、内容や方法を理解することができる。 保育所等児童福祉施設における保護者支援の実際について理解することができる。</p>																													
<p>授業全体の内容と概要</p> <p>事例に基づくロールプレイ等の学習を通して、面接や記録の技法、アセスメントやプランニングの実際をより深く学ぶ。さらに保育相談支援に重点をおき、体系的な学習を実践する。</p>																													
<p>授業の方法</p> <p>授業は、演習テーマに基づき思考・考察・意見交換・討論・発表等の一連の活動を行う。小グループでの話し合い、事例分析・ロールプレイング等に基づく各自の感想、意見、振り返りを毎回述べてもらう。グループ発表、個人発表等に対してコメントを述ベフィードバックを行う。レポートについても解説によるフィードバックを行う。</p>																													
<p>アクティブラーニングの実施方法</p> <table border="1"> <tr> <td></td> <td>プレゼンテーション</td> <td></td> <td>グループワーク</td> <td></td> <td>フィールドワーク</td> <td></td> <td>PBL</td> </tr> <tr> <td></td> <td>模擬授業</td> <td></td> <td>ロールプレイ</td> <td></td> <td>調査学習</td> <td></td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td></td> <td>ディスカッション</td> <td></td> <td>実験・実習・実技</td> <td></td> <td>双方向授業</td> <td></td> <td>その他（授業の方法参照）</td> </tr> </table>							プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL		模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業		ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）
	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL																						
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業																						
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）																						
<p>履修上の注意事項</p> <p>演習テーマに基づき小グループでの話し合い、ロールプレイング等を行うので主体的に参加して欲しい。専門職としての自己を成長させるための時間として活用して欲しい。そのために「準備学習」については、示したテーマに係るこれまでの学びを踏まえて整理すること。「事後学習」については、その日取り組んだ演習内容を記録し専門職を目指す者としての自己覚知を重視すること。</p>																													
<p>資格指定科目</p> <p>社会福祉士国家試験受験資格課程科目、保育士養成課程科目</p>																													

評価方法・基準

<p>評価前提条件</p> <p>単位認定に必要な最低出席回数は、10回以上。</p>																	
<p>評価方法</p> <table border="1"> <tr> <td>定期試験</td> <td>レポート</td> <td>課題・作品</td> <td>中間テスト</td> <td>平常点</td> <td>その他</td> </tr> <tr> <td>0%</td> <td>30%</td> <td>0%</td> <td>0%</td> <td>70%</td> <td>0%</td> </tr> </table>						定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他	0%	30%	0%	0%	70%	0%
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他												
0%	30%	0%	0%	70%	0%												

<p>ルーブリック</p>					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
面接や記録の技法、アセスメントやプランニングの実際について	面接や記録の技法、アセスメントやプランニングの実際について、理解を深めた。	面接や記録の技法、アセスメントやプランニングの実際について、ほぼ理解を深めた。	面接や記録の技法、アセスメントやプランニングの実際について、やや理解を深めた。	面接や記録の技法、アセスメントやプランニングの実際について、理解することができた。	面接や記録の技法、アセスメントやプランニングの実際について、理解することができなかった。
保育相談支援の意義と原則について	保育相談支援の意義と原則について、理解を深めた。	保育相談支援の意義と原則について、ほぼ理解を深めた。	保育相談支援の意義と原則について、やや理解を深めた。	保育相談支援の意義と原則について、理解することができた。	保育相談支援の意義と原則について、理解することができなかった。
保育相談支援の基本について	保育相談支援の基本について、理解を深めた。	保育相談支援の基本について、ほぼ理解を深めた。	保育相談支援の基本について、やや理解を深めた。	保育相談支援の基本について、理解することができた。	保育相談支援の基本について、理解することができなかった。
保育相談支援の内容や方法について	保育相談支援の内容や方法について、理解を深めた。	保育相談支援の内容や方法について、ほぼ理解を深めた。	保育相談支援の内容や方法について、やや理解を深めた。	保育相談支援の内容や方法について、理解することができた。	保育相談支援の内容や方法について、理解することができなかった。
保育所等児童福祉施設における保護者支援の実際について	保育所等児童福祉施設における保護者支援の実際について、理解を深めた。	保育所等児童福祉施設における保護者支援の実際について、ほぼ理解を深めた。	保育所等児童福祉施設における保護者支援の実際について、やや理解を深めた。	保育所等児童福祉施設における保護者支援の実際について、理解することができた。	保育所等児童福祉施設における保護者支援の実際について、理解することができなかった。

教科書・参考文献・資料等

<p>教科書</p> <table border="1"> <tr> <th>No</th> <th>書籍名</th> <th>著者</th> <th>出版社</th> <th>出版年</th> <th>ISBN</th> <th>備考</th> </tr> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>使用しない（資料を添付する）。</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>4</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>5</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>							No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考	1						使用しない（資料を添付する）。	2							3							4							5						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考																																										
1						使用しない（資料を添付する）。																																										
2																																																
3																																																
4																																																
5																																																
<p>参考文献・資料等</p> <table border="1"> <tr> <th>No</th> <th>書籍名</th> <th>著者</th> <th>出版社</th> <th>出版年</th> <th>ISBN</th> <th>備考</th> </tr> <tr> <td>1</td> <td>『新・基本保育シリーズ 子育て支援』</td> <td>公益財団法人児童育成協会監修</td> <td>中央法規出版</td> <td>2019年</td> <td>9784805857991</td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>4</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>5</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>							No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考	1	『新・基本保育シリーズ 子育て支援』	公益財団法人児童育成協会監修	中央法規出版	2019年	9784805857991		2							3							4							5						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考																																										
1	『新・基本保育シリーズ 子育て支援』	公益財団法人児童育成協会監修	中央法規出版	2019年	9784805857991																																											
2																																																
3																																																
4																																																
5																																																

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・4年		
開講時期	後期集中	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	相談援助演習（保（科目ナンバリング：SWS124030））				
授業担当者（所属・職名）	飯浜 浩幸（社会福祉学科・教授）	研究室所在	1号館2階		
単位数	1（単位認定責任者：飯浜 浩幸）	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	児童養護施設児童指導員（ソーシャルワーカー）としての経験を活かし、児童養護施設等要保護児童の家庭に対する支援についての指導を行う。スーパーバイザーの経験を活かし、学生一人ひとりの専門職としての自己覚知を促す。		

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	ガイダンス（シラバス確認）、面接の技法（1）（VTR応用編）	電話相談の技術（90分）	演習の記録と自己覚知（90分）
2	面接の技法（2）（VTR応用編）	訪問の留意点（90分）	演習の記録と自己覚知（90分）
3	面接の技法（3）（VTR応用編）	面接の技術（90分）	演習の記録と自己覚知（90分）
4	高齢者の生活支援（事例とロールプレイ）	高齢者の留意点（90分）	演習の記録と自己覚知（90分）
5	障害者の生活支援（事例とロールプレイ）	障害者の留意点（90分）	演習の記録と自己覚知（90分）
6	地域援助の生活支援（事例とロールプレイ）	地域援助の留意点（90分）	演習の記録と自己覚知（90分）
7	保育相談支援の意義、保育相談支援の基本	保育所保育指針における保育相談支援（90分）	演習の記録と自己覚知（90分）
8	保育相談支援の実際（1）保育に関する保護者に対する指導	保育相談支援の留意点（90分）	演習の記録と自己覚知（90分）
9	保育相談支援の実際（2）保護者支援の内容、方法と技術	保育相談支援の技術（90分）	演習の記録と自己覚知（90分）
10	保育相談支援の実際（3）計画、記録、評価、カンファレンス	支援のプロセスについて（90分）	演習の記録と自己覚知（90分）
11	児童福祉施設における保育相談支援（1）保育所における保育相談支援の実際	保育所の特性とは（90分）	演習の記録と自己覚知（90分）
12	児童福祉施設における保育相談支援（2）保育所における特別な対応を要する家庭への支援	家庭の変容について（90分）	レポート作成（90分）
13	児童福祉施設における保育相談支援（3）児童養護施設等要保護児童の家庭に対する支援	他機関連携について（90分）	演習の記録と自己覚知（90分）
14	児童福祉施設における保育相談支援（4）母子生活支援施設等における保育相談支援	ドメスティック・バイオレンス（DV）について（90分）	演習の記録と自己覚知（90分）
15	まとめ	相談支援の原則について（90分）	事例研究（90分）
16	課題（レポート）に対する解説を行いフィードバックする	事例研究（90分）	事例研究（90分）

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・3年		
開講時期	2Q	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	発達障害等教育総論 (科目ナンバリング：SNE122123)				
授業担当者(所属・職名)	堀川 厚志(社会福祉学科・特任教授)	研究室所在	2号館8階		
単位数	2 (単位認定責任者：堀川 厚志)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	学校教育現場及び教育行政機関に勤務経験のある教員が、特別支援教育に必要な今日的課題等について指導する。		

概要

履修目標
学習障害、注意欠陥多動性障害、高機能自閉症等の心理、病理、認知特性や行動特性等の基礎的な知識を理解するとともに、その特性等に応じた教育内容、方法等の対応に必要な基本的な知識、配慮事項等を理解する。

授業の位置づけ
社会福祉学科のDP「1(1)と(3)と(5)」、「2(1)と(4)」に対応する。

到達目標
学習障害、注意欠陥多動性障害、高機能自閉症等の心理、病理、認知特性や行動特性等の基礎的な内容がわかり、指導上の基本的な配慮事項等がわかる。

授業全体の内容と概要
学習障害、注意欠陥多動性障害、高機能自閉症等に関する定義、原因、医学的診断、状態の把握(アセスメント、心理検査)、認知特性、行動特性等について、教育的な望ましい対応の視点から説明する。

授業の方法
・プレゼン資料等の提示による講義形式を主とする。 ・内容により、グループワークやペアワークを実施する。 ・前時の内容の振り返りと本時の内容確認の小テストを実施する。 ・小テストや提出レポートに関して、その都度コメントや説明、解説によるフィードバックを行う。

アクティブラーニングの実施方法												
<table border="1"> <tr> <td>プレゼンテーション</td> <td>グループワーク</td> <td>フィールドワーク</td> <td>PBL</td> </tr> <tr> <td>模擬授業</td> <td>ロールプレイ</td> <td>調査学習</td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td>ディスカッション</td> <td>実験・実習・実技</td> <td>双方向授業</td> <td>その他(授業の方法参照)</td> </tr> </table>	プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL	模擬授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業	ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)
プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL									
模擬授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業									
ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)									

履修上の注意事項
授業内容に関するプレゼン資料の毎時間の配付や、レポート課題の出題、小テストを実施するので、欠席をしないようにすること。

資格指定科目
教職課程(特別支援)必修科目

評価方法・基準

評価前提条件												
単位認定に必要な最低出席回数は、10回以上とする。												
評価方法												
<table border="1"> <tr> <th>定期試験</th> <th>レポート</th> <th>課題・作品</th> <th>中間テスト</th> <th>平常点</th> <th>その他</th> </tr> <tr> <td>60%</td> <td>20%</td> <td>0%</td> <td>0%</td> <td>10%</td> <td>10%</td> </tr> </table>	定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他	60%	20%	0%	0%	10%	10%
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他							
60%	20%	0%	0%	10%	10%							

ルーブリック																													
<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">評価項目</th> <th colspan="5">評価基準</th> </tr> <tr> <th>履修項目を超えたレベルを達成している</th> <th>履修項目をほぼ達成している</th> <th>履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している</th> <th>到達目標を達成している</th> <th>到達目標を達成していない</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>学習障害、注意欠陥多動性障害、高機能自閉症等の心理や生理、病理、行動特性等の基本的な内容の理解</td> <td>学習障害、注意欠陥多動性障害、高機能自閉症等の心理や生理、病理、行動特性等について、十分に理解し学習した知識をさらに深化させたり、発展的な学習ができた。</td> <td>学習障害、注意欠陥多動性障害、高機能自閉症等の心理や生理、病理、行動特性等について、十分に理解できた。</td> <td>学習障害、注意欠陥多動性障害、高機能自閉症等の心理や生理、病理、行動特性等について、一定程度、理解できた。</td> <td>学習障害、注意欠陥多動性障害、高機能自閉症等の心理や生理、病理、行動特性等について、部分的に理解できた。</td> <td>学習障害、注意欠陥多動性障害、高機能自閉症等の心理や生理、病理、行動特性等について、理解できなかった。</td> </tr> <tr> <td>基本的内容及び指導上の基礎的な配慮事項等を踏まえた教育的対応に関する思考力、判断力、表現力の向上</td> <td>指導上の基礎的な配慮事項等を踏まえた教育的対応について、的確かつ発展的に整理し、思考力、判断力、表現力を十分に高めることができた。</td> <td>指導上の基礎的な配慮事項等を踏まえた教育的対応について整理し、思考力、判断力、表現力を十分に高めることができた。</td> <td>指導上の基礎的な配慮事項等を踏まえた教育的対応について整理し、思考力、判断力、表現力を高めることができた。</td> <td>指導上の基礎的な配慮事項等を踏まえた教育的対応について整理し、部分的に思考力、判断力、表現力を高めることができた。</td> <td>指導上の基礎的な配慮事項等を踏まえた教育的対応について整理し、思考力、判断力、表現力を高めることができなかった。</td> </tr> <tr> <td>授業への参加意欲や学習に向かう姿勢・態度</td> <td>授業には意欲的に参加し、自ら発言するなど、常に積極的に取り組むことができた。</td> <td>授業には意欲的に参加し、積極的に取り組むことができた。</td> <td>授業には意欲的に参加し、部分的に積極的に取り組むことができた。</td> <td>授業に参加し、ときどき積極的に取り組むことができた。</td> <td>授業に参加し、積極的に取り組むことができなかった。</td> </tr> </tbody> </table>	評価項目	評価基準					履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない	学習障害、注意欠陥多動性障害、高機能自閉症等の心理や生理、病理、行動特性等の基本的な内容の理解	学習障害、注意欠陥多動性障害、高機能自閉症等の心理や生理、病理、行動特性等について、十分に理解し学習した知識をさらに深化させたり、発展的な学習ができた。	学習障害、注意欠陥多動性障害、高機能自閉症等の心理や生理、病理、行動特性等について、十分に理解できた。	学習障害、注意欠陥多動性障害、高機能自閉症等の心理や生理、病理、行動特性等について、一定程度、理解できた。	学習障害、注意欠陥多動性障害、高機能自閉症等の心理や生理、病理、行動特性等について、部分的に理解できた。	学習障害、注意欠陥多動性障害、高機能自閉症等の心理や生理、病理、行動特性等について、理解できなかった。	基本的内容及び指導上の基礎的な配慮事項等を踏まえた教育的対応に関する思考力、判断力、表現力の向上	指導上の基礎的な配慮事項等を踏まえた教育的対応について、的確かつ発展的に整理し、思考力、判断力、表現力を十分に高めることができた。	指導上の基礎的な配慮事項等を踏まえた教育的対応について整理し、思考力、判断力、表現力を十分に高めることができた。	指導上の基礎的な配慮事項等を踏まえた教育的対応について整理し、思考力、判断力、表現力を高めることができた。	指導上の基礎的な配慮事項等を踏まえた教育的対応について整理し、部分的に思考力、判断力、表現力を高めることができた。	指導上の基礎的な配慮事項等を踏まえた教育的対応について整理し、思考力、判断力、表現力を高めることができなかった。	授業への参加意欲や学習に向かう姿勢・態度	授業には意欲的に参加し、自ら発言するなど、常に積極的に取り組むことができた。	授業には意欲的に参加し、積極的に取り組むことができた。	授業には意欲的に参加し、部分的に積極的に取り組むことができた。	授業に参加し、ときどき積極的に取り組むことができた。	授業に参加し、積極的に取り組むことができなかった。
評価項目		評価基準																											
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない																								
学習障害、注意欠陥多動性障害、高機能自閉症等の心理や生理、病理、行動特性等の基本的な内容の理解	学習障害、注意欠陥多動性障害、高機能自閉症等の心理や生理、病理、行動特性等について、十分に理解し学習した知識をさらに深化させたり、発展的な学習ができた。	学習障害、注意欠陥多動性障害、高機能自閉症等の心理や生理、病理、行動特性等について、十分に理解できた。	学習障害、注意欠陥多動性障害、高機能自閉症等の心理や生理、病理、行動特性等について、一定程度、理解できた。	学習障害、注意欠陥多動性障害、高機能自閉症等の心理や生理、病理、行動特性等について、部分的に理解できた。	学習障害、注意欠陥多動性障害、高機能自閉症等の心理や生理、病理、行動特性等について、理解できなかった。																								
基本的内容及び指導上の基礎的な配慮事項等を踏まえた教育的対応に関する思考力、判断力、表現力の向上	指導上の基礎的な配慮事項等を踏まえた教育的対応について、的確かつ発展的に整理し、思考力、判断力、表現力を十分に高めることができた。	指導上の基礎的な配慮事項等を踏まえた教育的対応について整理し、思考力、判断力、表現力を十分に高めることができた。	指導上の基礎的な配慮事項等を踏まえた教育的対応について整理し、思考力、判断力、表現力を高めることができた。	指導上の基礎的な配慮事項等を踏まえた教育的対応について整理し、部分的に思考力、判断力、表現力を高めることができた。	指導上の基礎的な配慮事項等を踏まえた教育的対応について整理し、思考力、判断力、表現力を高めることができなかった。																								
授業への参加意欲や学習に向かう姿勢・態度	授業には意欲的に参加し、自ら発言するなど、常に積極的に取り組むことができた。	授業には意欲的に参加し、積極的に取り組むことができた。	授業には意欲的に参加し、部分的に積極的に取り組むことができた。	授業に参加し、ときどき積極的に取り組むことができた。	授業に参加し、積極的に取り組むことができなかった。																								

教科書・参考文献・資料等

教科書																																										
<table border="1"> <tr> <th>No</th> <th>書籍名</th> <th>著者</th> <th>出版社</th> <th>出版年</th> <th>ISBN</th> <th>備考</th> </tr> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>4</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>5</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考	1							2							3							4							5						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考																																				
1																																										
2																																										
3																																										
4																																										
5																																										

参考文献・資料等																																										
<table border="1"> <tr> <th>No</th> <th>書籍名</th> <th>著者</th> <th>出版社</th> <th>出版年</th> <th>ISBN</th> <th>備考</th> </tr> <tr> <td>1</td> <td>『特別支援教育の基礎・基本2020』</td> <td>独立行政法人国立特別支援教育総合研究所</td> <td>ジアース教育新社</td> <td>2020</td> <td>978-4-86371-548-6</td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>『新編発達障害事典』</td> <td>原 仁</td> <td>合同出版</td> <td>2014</td> <td>978-4-7726-1382-8</td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>4</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>5</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考	1	『特別支援教育の基礎・基本2020』	独立行政法人国立特別支援教育総合研究所	ジアース教育新社	2020	978-4-86371-548-6		2	『新編発達障害事典』	原 仁	合同出版	2014	978-4-7726-1382-8		3							4							5						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考																																				
1	『特別支援教育の基礎・基本2020』	独立行政法人国立特別支援教育総合研究所	ジアース教育新社	2020	978-4-86371-548-6																																					
2	『新編発達障害事典』	原 仁	合同出版	2014	978-4-7726-1382-8																																					
3																																										
4																																										
5																																										

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・3年		
開講時期	2Q	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	発達障害等教育総論 (科目ナンバリング: SNE122123)				
授業担当者(所属・職名)	堀川 厚志(社会福祉学科・特任教授)	研究室所在	2号館8階		
単位数	2 (単位認定責任者: 堀川 厚志)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	学校教育現場及び教育行政機関に勤務経験のある教員が、特別支援教育に必要な今日的課題等について指導する。		

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	オリエンテーション(シラバスの説明等)	シラバスを読む(90分)	内容を振り返る(90分)
2	学習障害、注意欠陥多動性障害、高機能自閉症等の状態像	状態像を調べる(90分)	重要事項を整理する(90分)
3	学習障害、注意欠陥多動性障害、高機能自閉症等の定義と診断基準	定義と診断基準を調べる(90分)	重要事項を整理する(90分)
4	学習障害、注意欠陥多動性障害、高機能自閉症等の特徴と原因	特徴と原因を調べる(90分)	重要事項を整理する(90分)
5	高機能自閉症等の理解	高機能自閉症等について調べる(90分)	重要事項を整理する(90分)
6	学習障害の理解	学習障害について調べる(90分)	重要事項を整理する(90分)
7	注意欠陥多動性障害の理解	注意欠陥多動性障害について調べる(90分)	重要事項を整理する(90分)
8	知的発達に遅れがある子の理解1	知的発達の遅れについて調べる(90分)	重要事項を整理する(90分)
9	知的発達に遅れがある子の理解2	知的発達の遅れについて調べる(90分)	重要事項を整理する(90分)
10	学習障害、注意欠陥多動性障害、高機能自閉症等のある子の心理・生理	二次的な障害について調べる(90分)	重要事項を整理する(90分)
11	高機能自閉症等のある子への教育的な対応	望ましい対応について調べる(90分)	重要事項を整理する(90分)
12	学習障害のある子への教育的な対応	望ましい対応について調べる(90分)	重要事項を整理する(90分)
13	注意欠陥多動性障害のある子への教育的な対応	望ましい対応について調べる(90分)	重要事項を整理する(90分)
14	アセスメントと実態把握	アセスメントについて調べる(90分)	重要事項を整理する(90分)
15	個別の教育支援計画と個別の指導計画	個別の教育支援計画を調べる(90分)	重要事項を整理する(90分)
16	定期試験(60分間の筆記テスト、終了後20分間の解説実施)	全内容を整理する(90分)	全内容を振り返る(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・4年		
開講時期	後期集中	授業形態	実習	必修・選択	選択
科目名称	相談援助実習 (科目ナンバリング: SWS124036)				
授業担当者(所属・職名)	上原 正希(社会福祉学科・教授)	研究室所在	1号館2階		
単位数	2 (単位認定責任者: 上原 正希)	CAP制	×		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	社会福祉士・精神保健福祉士・介護支援専門員の資格を持ち、日本ソーシャルワーカー協会理事であるソーシャルワーカーとして現場経験のある教員が、自分自身のソーシャルワーク経験や体験談を踏まえ、講義を行う。		

概要

履修目標
<ol style="list-style-type: none"> 医療ソーシャルワーカーとして医療分野で働くための知識を身に付け、また医療機関での体験を通して、医療現場におけるソーシャルワークの重要性について理解する。 3年次の相談援助実習で、各分野で学んだ知識・技能を、この科目では医療の分野でケース研究などにより体験、理解する。 ソーシャルワークの基礎知識や技術を獲得し、それらを関連づけ、体系的に理解する。

授業の位置づけ
社会福祉学科のDP「1(2)と(3)と(4)と(5)と(6)と(7)」、「2(2)」に対応する。

到達目標
<ol style="list-style-type: none"> 保健医療分野において必要不可欠および特有な知識を習得する。 保健医療分野特有のニーズ把握し当該分野において必要な専門的援助関係を樹立し、技術を習得する。 利用者とその関係者のエンパワメントを考慮し、社会環境の調整を図る技術を習得する。 機関の目的・機能・利用者システム全体を理解し、関係専門職その他との連携方法を習得する。 ソーシャルワーカーの専門性・役割を論理的に述べることが出来るようになる。

授業全体の内容と概要
<ol style="list-style-type: none"> 3年次において、相談援助実習指導及び相談援助実習を修得し、更に将来、医療分野で就職を希望する学生に対して本実習を開講する。 最低12日(90時間)以上の実習を行うことになり、ジェネリック部分はすでに習得していることを前提に、スペシフィック・ソーシャルワーク実習と位置づけ授業が行われます。

授業の方法
<ol style="list-style-type: none"> 授業形態は講義・演習・実習形式です。 テキストを使用し、ポイントとするべき箇所は説明、板書を行います。 適宜質問を促し、対応します。 COVID-19の状況により、対面授業およびオンライン授業の併用やどちらかに変更になる場合もあります。

アクティブラーニングの実施方法															
<table border="1"> <tr> <td></td> <td>プレゼンテーション</td> <td>グループワーク</td> <td>フィールドワーク</td> <td>PBL</td> </tr> <tr> <td></td> <td>模擬授業</td> <td>ロールプレイ</td> <td>調査学習</td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td></td> <td>ディスカッション</td> <td>実験・実習・実技</td> <td>双方向授業</td> <td>その他(授業の方法参照)</td> </tr> </table>		プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL		模擬授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業		ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)
	プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL											
	模擬授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業											
	ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)											

履修上の注意事項
<ol style="list-style-type: none"> 必要な資料等は適宜配布します。 時間前には組み込んでいませんが、別途事前及び事後指導の時間を設定します。 3年次に相談援助実習指導および相談援助実習を履修済みであること。 4年次に開講される精神保健福祉援助実習を履修しないこと。 将来医療分野でMSWとして勤務することを強く願う、意欲のある学生に開講される。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件												
実習12日間を実施すれば、単位取得は可能なことになっているが、別途、実習に行くにあたりスペシフィックな視点が必要ことから、事前・事後学習を行う。												
評価方法												
<table border="1"> <tr> <th>定期試験</th> <th>レポート</th> <th>課題・作品</th> <th>中間テスト</th> <th>平常点</th> <th>その他</th> </tr> <tr> <td>0%</td> <td>20%</td> <td>0%</td> <td>0%</td> <td>0%</td> <td>80%</td> </tr> </table>	定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他	0%	20%	0%	0%	0%	80%
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他							
0%	20%	0%	0%	0%	80%							

ルーブリック																													
<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">評価項目</th> <th colspan="5">評価基準</th> </tr> <tr> <th>履修項目を超えたレベルを達成している</th> <th>履修項目をほぼ達成している</th> <th>履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している</th> <th>到達目標を達成している</th> <th>到達目標を達成していない</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>【知識・技術】実習前に、医療ソーシャルワークについての知識を習得できた。</td> <td>実習前に、医療ソーシャルワークについての知識を非常に習得できた。</td> <td>実習前に、医療ソーシャルワークについておおむね知識を習得できた。</td> <td>実習前に、医療ソーシャルワークについての知識を習得ができた。</td> <td>実習前に、医療ソーシャルワークについての知識の習得ができなかった。</td> <td>実習前に、医療ソーシャルワークについての知識の習得が大きくできなかった。</td> </tr> <tr> <td>【知識・技術】実習修了時、医療ソーシャルワークについての知識を習得できた。</td> <td>実習修了時、医療ソーシャルワークについての知識を非常に習得できた。</td> <td>実習修了時、医療ソーシャルワークについておおむね習得できた。</td> <td>実習修了時、医療ソーシャルワークについての知識を習得できた。</td> <td>実習修了時、医療ソーシャルワークについての知識の習得ができなかった。</td> <td>実習修了時、医療ソーシャルワークについての知識の習得が大きくできなかった。</td> </tr> <tr> <td>【知識・技術】実習修了後、医療ソーシャルワークについての技術を習得できた。</td> <td>実習修了後、医療ソーシャルワークについての技術を非常に習得できた。</td> <td>実習修了後、医療ソーシャルワークについておおむね習得できた。</td> <td>実習修了後、医療ソーシャルワークについての技術を習得できた。</td> <td>実習修了後、医療ソーシャルワークについての技術を習得できなかった。</td> <td>実習修了後、医療ソーシャルワークについての技術を大きくできなかった。</td> </tr> </tbody> </table>	評価項目	評価基準					履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない	【知識・技術】実習前に、医療ソーシャルワークについての知識を習得できた。	実習前に、医療ソーシャルワークについての知識を非常に習得できた。	実習前に、医療ソーシャルワークについておおむね知識を習得できた。	実習前に、医療ソーシャルワークについての知識を習得ができた。	実習前に、医療ソーシャルワークについての知識の習得ができなかった。	実習前に、医療ソーシャルワークについての知識の習得が大きくできなかった。	【知識・技術】実習修了時、医療ソーシャルワークについての知識を習得できた。	実習修了時、医療ソーシャルワークについての知識を非常に習得できた。	実習修了時、医療ソーシャルワークについておおむね習得できた。	実習修了時、医療ソーシャルワークについての知識を習得できた。	実習修了時、医療ソーシャルワークについての知識の習得ができなかった。	実習修了時、医療ソーシャルワークについての知識の習得が大きくできなかった。	【知識・技術】実習修了後、医療ソーシャルワークについての技術を習得できた。	実習修了後、医療ソーシャルワークについての技術を非常に習得できた。	実習修了後、医療ソーシャルワークについておおむね習得できた。	実習修了後、医療ソーシャルワークについての技術を習得できた。	実習修了後、医療ソーシャルワークについての技術を習得できなかった。	実習修了後、医療ソーシャルワークについての技術を大きくできなかった。
評価項目		評価基準																											
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない																								
【知識・技術】実習前に、医療ソーシャルワークについての知識を習得できた。	実習前に、医療ソーシャルワークについての知識を非常に習得できた。	実習前に、医療ソーシャルワークについておおむね知識を習得できた。	実習前に、医療ソーシャルワークについての知識を習得ができた。	実習前に、医療ソーシャルワークについての知識の習得ができなかった。	実習前に、医療ソーシャルワークについての知識の習得が大きくできなかった。																								
【知識・技術】実習修了時、医療ソーシャルワークについての知識を習得できた。	実習修了時、医療ソーシャルワークについての知識を非常に習得できた。	実習修了時、医療ソーシャルワークについておおむね習得できた。	実習修了時、医療ソーシャルワークについての知識を習得できた。	実習修了時、医療ソーシャルワークについての知識の習得ができなかった。	実習修了時、医療ソーシャルワークについての知識の習得が大きくできなかった。																								
【知識・技術】実習修了後、医療ソーシャルワークについての技術を習得できた。	実習修了後、医療ソーシャルワークについての技術を非常に習得できた。	実習修了後、医療ソーシャルワークについておおむね習得できた。	実習修了後、医療ソーシャルワークについての技術を習得できた。	実習修了後、医療ソーシャルワークについての技術を習得できなかった。	実習修了後、医療ソーシャルワークについての技術を大きくできなかった。																								

教科書・参考文献・資料等

教科書																																										
<table border="1"> <thead> <tr> <th>No</th> <th>書籍名</th> <th>著者</th> <th>出版社</th> <th>出版年</th> <th>ISBN</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>※別途指示します。a</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>4</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>5</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考	1	※別途指示します。a						2							3							4							5						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考																																				
1	※別途指示します。a																																									
2																																										
3																																										
4																																										
5																																										

参考文献・資料等																																										
<table border="1"> <thead> <tr> <th>No</th> <th>書籍名</th> <th>著者</th> <th>出版社</th> <th>出版年</th> <th>ISBN</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>※適宜紹介します。a</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>4</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>5</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考	1	※適宜紹介します。a						2							3							4							5						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考																																				
1	※適宜紹介します。a																																									
2																																										
3																																										
4																																										
5																																										

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・4年		
開講時期	後期集中	授業形態	実習	必修・選択	選択
科目名称	相談援助実習 (科目ナンバリング: SWS124036)				
授業担当者(所属・職名)	上原 正希(社会福祉学科・教授)	研究室所在	1号館2階		
単位数	2 (単位認定責任者: 上原 正希)	CAP制	x		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	社会福祉士・精神保健福祉士・介護支援専門員の資格を持ち、日本ソーシャルワーカー協会理事であるソーシャルワーカーとして現場経験のある教員が、自分自身のソーシャルワーク経験や体験談を踏まえ、講義を行う。		

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	実習12日間を実施すれば、単位取得は可能なことになっているが、別途、実習に行くにあたりスケジュール的な視点が必要なことから、事前・事後学習	事前課題を別途指定します。	事後課題を別途指定します。
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			ノ
14			
15			
16			

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・4年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	精神保健福祉援助実習 (科目ナンバリング: SWS123052)				
授業担当者(所属・職名)	大島 康雄(社会福祉学科・准教授)、 西野 克俊(社会福祉学科・専任講師)	研究室所在	1号館2階		
単位数	2 (単位認定責任者: 大島 康雄)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	精神保健福祉士として相談援助をしていた教員が、実習に向けた学習・体験などを通じて精神保健福祉援助実習が効果的になるように授業を行います。		

概要

履修目標	精神保健福祉士として必要な知識・技術についての基礎を理解する。																								
授業の位置づけ	社会福祉学科のDP「1(1)と(2)と(3)と(4)」、「2(1)と(4)」に対応する。																								
到達目標	精神保健福祉分野における現状や課題を認識する。精神保健福祉援助実習の目的が明確にできる。																								
授業全体の内容と概要	精神保健福祉援助実習の事前指導を行う。																								
授業の方法	教科書を使い、板書で内容の整理を行います。実習に向けての事前学習を行い、実習の目的を深めてもらう。また、接遇などを身につけられるように実際の場面を想定し、ロールプレイを行います。ロールプレイの内容に関しては細かく評価し、個別にフィードバックを行います。質問に関してはその場で対応します。																								
アクティブラーニングの実施方法	<table border="1"> <tr> <td><input type="checkbox"/></td> <td>プレゼンテーション</td> <td><input type="checkbox"/></td> <td>グループワーク</td> <td><input type="checkbox"/></td> <td>フィールドワーク</td> <td><input type="checkbox"/></td> <td>PBL</td> </tr> <tr> <td><input type="checkbox"/></td> <td>模擬授業</td> <td><input type="checkbox"/></td> <td>ロールプレイ</td> <td><input type="checkbox"/></td> <td>調査学習</td> <td><input type="checkbox"/></td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td><input type="checkbox"/></td> <td>ディスカッション</td> <td><input type="checkbox"/></td> <td>実験・実習・実技</td> <td><input type="checkbox"/></td> <td>双方向授業</td> <td><input type="checkbox"/></td> <td>その他(授業の方法参照)</td> </tr> </table>	<input type="checkbox"/>	プレゼンテーション	<input type="checkbox"/>	グループワーク	<input type="checkbox"/>	フィールドワーク	<input type="checkbox"/>	PBL	<input type="checkbox"/>	模擬授業	<input type="checkbox"/>	ロールプレイ	<input type="checkbox"/>	調査学習	<input type="checkbox"/>	反転授業	<input type="checkbox"/>	ディスカッション	<input type="checkbox"/>	実験・実習・実技	<input type="checkbox"/>	双方向授業	<input type="checkbox"/>	その他(授業の方法参照)
<input type="checkbox"/>	プレゼンテーション	<input type="checkbox"/>	グループワーク	<input type="checkbox"/>	フィールドワーク	<input type="checkbox"/>	PBL																		
<input type="checkbox"/>	模擬授業	<input type="checkbox"/>	ロールプレイ	<input type="checkbox"/>	調査学習	<input type="checkbox"/>	反転授業																		
<input type="checkbox"/>	ディスカッション	<input type="checkbox"/>	実験・実習・実技	<input type="checkbox"/>	双方向授業	<input type="checkbox"/>	その他(授業の方法参照)																		
履修上の注意事項	出席を重視します。やむを得ず遅刻や欠席をするときには、原則として事前に連絡をすること。精神保健福祉士国家試験の受験資格取得のための必須科目です。知りたい、聞きたい、理解しようという積極的な姿勢が必要であると同時に、精神保健福祉に関する事柄に対し自ら問題意識を持って履修すること。																								
資格指定科目	精神保健福祉士国家試験受験資格課程																								

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数は12回以上					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	0%	0%	0%	100%

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
授業に参加し、事前学習を進めている。	15回以上授業に参加し、事前学習の資料が整理され積極的に学習ができた。	14回授業に参加し、事前学習の資料が整理され積極的に学習ができた。	13回授業に参加し、事前学習の資料が整理され積極的に学習ができた。	12回授業に参加し、事前学習の資料が整理され積極的に学習ができた。	11回以下しか授業に参加できなかった。
実習目標、実習計画が明確になり、実習計画書、自己PRが作成できる。	自己分析が行え、実習計画、自己PRが整理され、記載できた。	実習計画、自己PRが整理され、記載できた。	実習計画か自己PRが整理され、記載できた。	実習計画か自己PRが記載できた。	実習計画、自己PRを記載できなかった。
実習として必要な接遇が行え、適切な相談援助技術を使用できる。	挨拶～アセスメントまで実習で問題ないレベルできた。	挨拶～アセスメントまでできた。	挨拶～インテークまでできた。	挨拶までできた。	挨拶やソーシャルワークができなかった。

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『精神保健福祉援助実習指導・実習』	日本精神保健福祉士養成校協会	中央法規	2012年02月	978-4-8058-5120-3	
2						
3						
4						
5						
参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・4年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	精神保健福祉援助実習 (科目ナンバリング: SWS123052)				
授業担当者(所属・職名)	大島 康雄(社会福祉学科・准教授)、 西野 克俊(社会福祉学科・専任講師)	研究室所在	1号館2階		
単位数	2 (単位認定責任者: 大島 康雄)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	精神保健福祉士として相談援助をしていた教員が、実習に向けた学習・体験などを通じて精神保健福祉援助実習が効果的になるように授業を行います。		

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	オリエンテーション: 精神保健福祉援助実習に向けて、シラバスの説明	事前学習の資料作成(90分)	事前学習の指摘事項の確認、修正(90分)
2	精神保健福祉士として必要な知識について	事前学習の資料作成(90分)	事前学習の指摘事項の確認、修正(90分)
3	精神保健福祉士として必要な技術について	事前学習の資料作成(90分)	事前学習の指摘事項の確認、修正(90分)
4	精神科病院の見学	事前学習の資料作成(90分)	事前学習の指摘事項の確認、修正(90分)
5	精神科デイケアなどの見学	精神科デイケアなどの学習(90分)	精神科デイケアなどの振り返り(90分)
6	精神科病院・デイケア見学の振り返り	実習日誌の作成(90分)	実習日誌の指摘事項の確認及び修正(90分)
7	地域活動支援センターの業務理解	事前学習の資料作成(90分)	事前学習の指摘事項の確認、修正(90分)
8	就労移行・継続支援事業所の業務理解	事前学習の資料作成(90分)	事前学習の指摘事項の確認、修正(90分)
9	精神科医療機関の業務理解	エントリーシート作成(90分)	エントリーシートの指導内容の確認及び修正(90分)
10	実習計画書作成の仕方	実習計画書の作成(90分)	実習計画書の指導内容の確認及び修正(90分)
11	実習計画書作成	実習計画書の作成(90分)	実習計画書の指導内容の確認及び修正(90分)
12	実習計画書発表	実習計画書の作成(90分)	実習計画書の指導内容の確認及び修正(90分)
13	実習日誌の書き方	事前学習の資料作成(90分)	実習計画書の指導内容の確認及び修正(90分)
14	事前訪問とマナー	実習計画書の修正(90分)	実習計画書の指導内容の確認及び修正(90分)
15	実習に向けて	実習計画書の修正(90分)	電話がけの練習(90分)
16	実習に向けたプレゼンテーション。また、プレゼンテーションの評価を行う。	プレゼンテーションの練習(90分)	プレゼンテーションの振り返り(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・4年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	精神保健福祉援助実習 (科目ナンバリング: SWS123053)				
授業担当者(所属・職名)	大島 康雄(社会福祉学科・准教授)、 西野 克俊(社会福祉学科・専任講師)	研究室所在	1号館2階		
単位数	2 (単位認定責任者: 大島 康雄)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	精神保健福祉士として相談援助をしていた教員が、実習に向けた学習・体験などを通じて精神保健福祉援助実習が効果的になるように授業を行います。		

概要

履修目標	精神保健福祉士として必要な知識・技術についての基礎を培うことをする。																								
授業の位置づけ	社会福祉学科のDP「1(1)と(2)と(3)と(4)」、「2(1)と(4)」に対応する。																								
到達目標	精神保健福祉分野における現状や課題を認識する。精神保健福祉援助実習の目的が明確にできる。																								
授業全体の内容と概要	精神保健福祉援助実習の事前指導を行う。																								
授業の方法	事前学習を行い、実習の目的を深めてもらう。また、接遇などを身につけられるように練習してもらう。教科書、板書、グループワークや具体的な場面を想定したロールプレイを行う。質問に対してはその場で対応します。また、疑問点に関しては解説を行い、知識のフィードバックを行います。																								
アクティブラーニングの実施方法	<table border="1"> <tr> <td><input type="checkbox"/></td> <td>プレゼンテーション</td> <td><input type="checkbox"/></td> <td>グループワーク</td> <td><input type="checkbox"/></td> <td>フィールドワーク</td> <td><input type="checkbox"/></td> <td>PBL</td> </tr> <tr> <td><input type="checkbox"/></td> <td>模擬授業</td> <td><input type="checkbox"/></td> <td>ロールプレイ</td> <td><input type="checkbox"/></td> <td>調査学習</td> <td><input type="checkbox"/></td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td><input type="checkbox"/></td> <td>ディスカッション</td> <td><input type="checkbox"/></td> <td>実験・実習・実技</td> <td><input type="checkbox"/></td> <td>双方向授業</td> <td><input type="checkbox"/></td> <td>その他(授業の方法参照)</td> </tr> </table>	<input type="checkbox"/>	プレゼンテーション	<input type="checkbox"/>	グループワーク	<input type="checkbox"/>	フィールドワーク	<input type="checkbox"/>	PBL	<input type="checkbox"/>	模擬授業	<input type="checkbox"/>	ロールプレイ	<input type="checkbox"/>	調査学習	<input type="checkbox"/>	反転授業	<input type="checkbox"/>	ディスカッション	<input type="checkbox"/>	実験・実習・実技	<input type="checkbox"/>	双方向授業	<input type="checkbox"/>	その他(授業の方法参照)
<input type="checkbox"/>	プレゼンテーション	<input type="checkbox"/>	グループワーク	<input type="checkbox"/>	フィールドワーク	<input type="checkbox"/>	PBL																		
<input type="checkbox"/>	模擬授業	<input type="checkbox"/>	ロールプレイ	<input type="checkbox"/>	調査学習	<input type="checkbox"/>	反転授業																		
<input type="checkbox"/>	ディスカッション	<input type="checkbox"/>	実験・実習・実技	<input type="checkbox"/>	双方向授業	<input type="checkbox"/>	その他(授業の方法参照)																		
履修上の注意事項	出席を重視します。やむを得ず遅刻や欠席をするときには、原則として事前に連絡をすること。精神保健福祉士国家試験の受験資格取得のための必須科目です。知りたい、聞きたい、理解しようという積極的な姿勢が必要であると同時に、精神保健福祉に関する事柄に対し自ら問題意識を持って履修すること。																								
資格指定科目	精神保健福祉士国家試験受験資格課程																								

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数は12回以上					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	0%	0%	0%	100%

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
授業に参加し、事前学習を進めている。	15回以上授業に参加し、事前学習の資料が整理され積極的に学習ができた。	14回以上授業に参加し、事前学習の資料が整理され積極的に学習ができた。	13回以上授業に参加し、事前学習の資料が整理され積極的に学習ができた。	12回以上授業に参加し、事前学習の資料が整理され積極的に学習ができた。	11回以下しか授業に参加できなかった。
実習目標、実習計画が明確になり、実習計画書、自己PRが作成できる。	自己分析が行え、実習計画、自己PRが整理され、記載できた。	実習計画、自己PRが整理され、記載できた。	実習計画か自己PRが整理され、記載できた。	実習計画か自己PRが記載できた。	実習計画、自己PRを記載できなかった。
実習として必要な接遇が行え、適切な相談援助技術を使用できる。	挨拶～アセスメントまで実習で問題ないレベルまでできた。	挨拶～アセスメントまでできた。	挨拶～インテークまでできた。	挨拶までできた。	挨拶やソーシャルワークができなかった。

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『精神保健福祉援助実習指導・実習』	日本精神保健福祉士養成校協会	中央法規	2012年	978-4-8058-5120-3	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・4年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	精神保健福祉援助実習 (科目ナンバリング: SWS123053)				
授業担当者(所属・職名)	大島 康雄(社会福祉学科・准教授)、 西野 克俊(社会福祉学科・専任講師)	研究室所在	1号館2階		
単位数	2 (単位認定責任者: 大島 康雄)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	精神保健福祉士として相談援助をしていた教員が、実習に向けた学習・体験などを通じて精神保健福祉援助実習が効果的になるように授業を行います。		

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	オリエンテーション: 精神保健福祉援助実習に向けて、シラバスの説明	事前学習の資料作成(90分)	事後学習の資料作成(90分)
2	精神保健福祉士として必要な知識について	事前学習の資料作成(90分)	事前学習の資料作成(90分)
3	精神保健福祉士として必要な技術について	事前学習の資料作成(90分)	事前学習の資料作成(90分)
4	精神科病院の見学	事前学習の資料作成(90分)	精神科病院の見学の振り返り(90分)
5	精神科デイケアなどの見学	精神科デイケアなどの学習(90分)	精神科デイケアなどの振り返り(90分)
6	精神科病院・デイケア見学の振り返り	実習日誌の作成(90分)	実習日誌の修正(90分)
7	地域活動支援センターの業務理解	事前学習の資料作成(90分)	事前学習の資料作成(90分)
8	就労移行・継続支援事業所の業務理解	事前学習の資料作成(90分)	事前学習の資料作成(90分)
9	精神科医療機関の業務理解	エントリーシート作成(90分)	エントリーシート作成(90分)
10	実習計画書作成の仕方	実習計画書の作成(90分)	実習計画書の作成(90分)
11	実習計画書作成	実習計画書の作成(90分)	実習計画書の作成(90分)
12	実習計画書発表	実習計画書の作成(90分)	実習計画書の作成(90分)
13	実習日誌の書き方	事前学習の資料作成(90分)	実習計画書の修正(90分)
14	事前訪問とマナー	実習計画書の修正(90分)	実習計画書の修正(90分)
15	実習に向けて	実習計画書の修正(90分)	電話がけの練習(90分)
16	実習に向けたプレゼンテーション	プレゼンテーションの練習(90分)	プレゼンテーションの振り返り(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・4年		
開講時期	後期集中	授業形態	実習	必修・選択	必修
科目名称	精神保健福祉援助実習 (科目ナンバリング：SWS123055)				
授業担当者(所属・職名)	大島 康雄(社会福祉学科・准教授)、 西野 克俊(社会福祉学科・専任講師)	研究室所在	1号館2階		
単位数	2 (単位認定責任者：大島 康雄)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	精神保健福祉士として相談援助を行っていた教員が実習指導を行い、事前学習、体験、医療・地域機関での実習を通じて、自己の課題と向き合い専門職としての在り方を意識できる。		

概要

履修目標	地域の障害福祉サービス事業所等での実習で精神障がい者の生活のしづらさを理解し、精神保健福祉士の専門的技術を実践する。							
授業の位置づけ	社会福祉学科のDP「1(1)と(2)と(3)と(4)」、「2(1)と(2)と(4)」に対応する。							
到達目標	精神保健福祉士に必要な専門的知識・技術・実践できる記録や報告書等の作成能力を高め、実践現場で通用する社会性・主体性を身につけて実践できる。福祉実践者として自己覚知を深め、対象者理解と地域での生活支援について理解できる。							
授業全体の内容と概要	精神保健福祉援助実習を通して、精神保健福祉援助並びに障害者等の相談援助に係る専門的知識と技術について具体的なかつ実践的に理解し実践的な技術等を体得する。 精神保健福祉援助実習を通して、精神障害者のおかれている現状を理解し、その生活実態や生活上の課題について把握する。 精神保健福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得する。 総合的かつ包括的な地域生活支援と関連分野の専門職との連携のあり方及びその具体的内容を実践的に理解する。							
授業の方法	実習を行い、実践場面でのソーシャルワークを学ぶ。							
アクティブラーニングの実施方法	○	プレゼンテーション	○	グループワーク	○	フィールドワーク		PBL
		模擬授業	○	ロールプレイ		調査学習		反転授業
	○	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)
履修上の注意事項	出席を重視します。やむを得ず遅刻や欠席をするときには、原則として事前に連絡をすること。 精神保健福祉士国家試験の受験資格取得のための必須科目です。知りたい、聞きたい、理解しようという積極的な姿勢が必要であると同時に、精神保健福祉に關する事柄に対し自ら問題意識を持って履修すること。							
資格指定科目	精神保健福祉士国家試験受験資格課程							

評価方法・基準

評価前提条件	地域の障害福祉サービス事業所等での実習60時間以上を修了していること。					
評価方法	定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
	0%	0%	0%	0%	0%	100%

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
実習に参加し、積極的に取り組み組んだ。	実習期間、遅刻や欠席もなく、実習態度も積極的にできた。	実習期間、遅刻や欠席もなく、実習態度も適切にできた。	実習期間、遅刻や欠席もなく、実習態度も問題は無く行うことができた。	実習期間の規定をクリアし、実習態度も問題は無く行うことができた。	実習期間の規定をクリアできなかった。
実習目標に合わせた実習が行えた。	事前学習と実習計画の連動がされ、問題意識が実習を通して解決できた。	事前学習と実習計画の連動がされ、問題意識が実習を通して学ぶことができた。	事前学習と実習計画の連動がされ、問題意識が実習を通して感じることができた。	問題意識が実習を通じて気づくことができた。	実習を通して問題意識を持つことができなかった。
実習先で適切な態度やクライアントと関わることができた。	適切な接遇が行え、積極的にクライアントと関わり、自己のコミュニケーションを高めることができた。	接遇を意識し、積極的にクライアントと関わり、自己のコミュニケーションを高めることができた。	クライアントと関わり、自己のコミュニケーションを高めることができた。	自己のコミュニケーションを高めることができた。	関わりを持つことができなかった。

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『精神保健福祉援助実習指導・実習』	日本精神保健福祉士養成校協会	中央法規	2012年	978-4-8058-5120-3	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・4年		
開講時期	後期集中	授業形態	実習	必修・選択	必修
科目名称	精神保健福祉援助実習 (科目ナンバリング: SWS123055)				
授業担当者(所属・職名)	大島 康雄(社会福祉学科・准教授)、 西野 克俊(社会福祉学科・専任講師)	研究室所在	1号館2階		
単位数	2 (単位認定責任者: 大島 康雄)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	精神保健福祉士として相談援助を行っていた教員が実習指導を行い、事前学習、体験、医療・地域機関での実習を通じて、自己の課題と向き合い専門職としての在り方を意識できる。		

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	精神科医療、精神障害者の長期入院の弊害、社会的な偏見や差別の現状を知る。 シラバスの説明	実習内容の事前学習(90分)	実習日誌の作成(90分)
2	精神科医療、精神障害者の長期入院の弊害、社会的な偏見や差別の現状を知る。	実習内容の事前学習(90分)	実習日誌の作成(90分)
3	展開される援助過程を理解し、ソーシャルワークの原則を理解する。	実習内容の事前学習(90分)	実習日誌の作成(90分)
4	ケアプラン、ケアマネジメントの実際から援助関係のあり方を学ぶ。	実習内容の事前学習(90分)	実習日誌の作成(90分)
5	地域の社会資源に関する情報収集や開発、活用について理解する。	実習内容の事前学習(90分)	実習日誌の作成(90分)
6	精神保健ボランティアや地域のサポートシステムについて学ぶ。	実習内容の事前学習(90分)	実習日誌の作成(90分)
7	実践の記録化を通じて、事例研究の意義について理解する。	実習内容の事前学習(90分)	実習日誌の作成(90分)
8	自己への気づきを深め、対人援助業務においてあるべき姿勢について理解する。	実習内容の事前学習(90分)	実習日誌の作成(90分)
9	実習日誌の提出	実習日誌の作成(90分)	実習の振り返り(90分)
10			
11			
12			
13			
14			
15			
16			

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・4年		
開講時期	後期集中	授業形態	実習	必修・選択	必修
科目名称	精神保健福祉援助実習 (科目ナンバリング: SWS124056)				
授業担当者(所属・職名)	大島 康雄(社会福祉学科・准教授)、 西野 克俊(社会福祉学科・専任講師)	研究室所在	1号館2階		
単位数	3 (単位認定責任者: 大島 康雄)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	精神保健福祉士として相談援助を行っていた教員が実習を通じた学びを整理し、アウトプットできるように支援していきます。		

概要

履修目標	地域の障害福祉サービス事業所等での実習で精神障がい者の生活のしづらさを理解し、精神保健福祉士の専門的技術を身につけ実践する。				
授業の位置づけ	社会福祉学科のDP「1(1)と(2)と(3)と(4)」、「2(1)と(2)と(4)」に対応する。				
到達目標	精神保健福祉士に必要な専門的知識・技術・実践できる。記録や報告書等の作成能力を高め、実践現場で通用する社会性・主体性を身につけ実践できる。福祉実践者として自己覚知を深め、対象者理解と地域での生活支援について理解できる。				
授業全体の内容と概要	精神保健福祉援助実習を通して、精神保健福祉援助並びに障害者等の相談援助に係る専門的知識と技術について具体的なかつ実務的に理解し実践的な技術等を体得する。 精神保健福祉援助実習を通して、精神障害者のおかれている現状を理解し、その生活実態や生活上の課題について把握する。 精神保健福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得する。 総合的かつ包括的な地域生活支援と関連分野の専門職との連携のあり及びその具体的内容を実践的に理解する。				
授業の方法	実習を行い、実践場面でのソーシャルワークを学ぶ。				
アクティブラーニングの実施方法	<input type="checkbox"/> プレゼンテーション	<input type="checkbox"/> グループワーク	<input type="checkbox"/> フィールドワーク		PBL
	<input type="checkbox"/> 模擬授業	<input type="checkbox"/> ロールプレイ	<input type="checkbox"/> 調査学習		反転授業
	<input type="checkbox"/> ディスカッション	<input type="checkbox"/> 実験・実習・実技	<input type="checkbox"/> 双方向授業		その他(授業の方法参照)
履修上の注意事項	出席を重視します。やむを得ず遅刻や欠席をするときには、原則として事前に連絡をすること。 精神保健福祉士国家試験の受験資格取得のための必須科目です。知りたい、聞きたい、理解しようという積極的な姿勢が必要であると同時に、精神保健福祉に關する事柄に対し自ら問題意識を持って履修すること。				
資格指定科目	精神保健福祉士国家試験受験資格課程				

評価方法・基準

評価前提条件					
精神科医療機関での実習90時間以上を修了していること。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	0%	0%	0%	100%

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
実習に参加し、積極的に取り組み組んだ。	実習期間、遅刻や欠席もなく、実習態度も積極的にできた。	実習期間、遅刻や欠席もなく、実習態度も適切にできた。	実習期間、遅刻や欠席もなく、実習態度も問題は無かった。	実習期間の規定をクリアしてきた。	実習期間の規定をクリアできなかった。
実習目標に合わせた実習が行えた。	事前学習と実習計画の連動がされ、問題意識が実習を通して解決できた。	事前学習と実習計画の連動がされ、問題意識が実習を通して学ぶことができた。	事前学習と実習計画の連動がされ、問題意識が実習を通して感じることができた。	問題意識が実習を通じて気づくことができた。	実習を通して問題意識を持つことができなかった。
実習先で適切な態度やクライアントと関わる事ができた。	適切な接遇が行え、積極的にクライアントと関わり、自己のコミュニケーションを高めることができた。	接遇を意識し、積極的にクライアントと関わり、自己のコミュニケーションを高めることができた。	クライアントと関わり、自己のコミュニケーションを高めることができた。	自己のコミュニケーションを高めることができた。	関わりを持つことができなかった。

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『精神保健福祉援助実習指導・実習』	日本精神保健福祉士養成校協会	中央法規	2012年	978-4-8058-5120-3	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・4年		
開講時期	後期集中	授業形態	実習	必修・選択	必修
科目名称	精神保健福祉援助実習 (科目ナンバリング: SWS124056)				
授業担当者(所属・職名)	大島 康雄(社会福祉学科・准教授)、 西野 克俊(社会福祉学科・専任講師)	研究室所在	1号館2階		
単位数	3 (単位認定責任者: 大島 康雄)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	精神保健福祉士として相談援助を行っていた教員が実習を通じた学びを整理し、アウトプットできるように支援していきます。		

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	精神科医療、精神障害者の長期入院の弊害、社会的な偏見や差別の現状を知る。 シラバスの説明	実習内容の事前学習(90分)	実習日誌の作成(90分)
2	精神科医療、精神障害者の長期入院の弊害、社会的な偏見や差別の現状を知る。	実習内容の事前学習(90分)	実習日誌の作成(90分)
3	展開される援助過程を理解し、ソーシャルワークの原則を理解する。	実習内容の事前学習(90分)	実習日誌の作成(90分)
4	ケアプラン、ケアマネジメントの実際から援助関係のあり方を学ぶ。	実習内容の事前学習(90分)	実習日誌の作成(90分)
5	地域の社会資源に関する情報収集や開発、活用について理解する。	実習内容の事前学習(90分)	実習日誌の作成(90分)
6	精神保健ボランティアや地域のサポートシステムについて学ぶ。	実習内容の事前学習(90分)	実習日誌の作成(90分)
7	実践の記録化を通じて、事例研究の意義について理解する。	実習内容の事前学習(90分)	実習日誌の作成(90分)
8	自己への気づきを深め、対人援助業務においてあるべき姿勢について理解する。	実習内容の事前学習(90分)	実習日誌の作成(90分)
9	入院時または急性期の患者及びその家族への相談援助	実習内容の事前学習(90分)	実習日誌の作成(90分)
10	退院または地域移行・地域支援に向けた、患者及びその家族への相談援助	実習内容の事前学習(90分)	実習日誌の作成(90分)
11	多職種や病院外の関係機関との連携を通じた援助	実習内容の事前学習(90分)	実習日誌の作成(90分)
12	治療中の患者及びその家族への相談援助	実習内容の事前学習(90分)	実習日誌の作成(90分)
13	日常生活や社会生活上の問題に関する、患者及びその家族への相談援助	実習内容の事前学習(90分)	実習日誌の作成(90分)
14	医療機関での精神保健福祉士のスキルと役割	実習内容の事前学習(90分)	実習日誌の作成(90分)
15	まとめ	実習内容の事前学習(90分)	実習日誌の作成(90分)
16	実習の振り返りを行い、自己の課題を見つける	報告書の作成(90分)	報告書の作成(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・4年		
開講時期	3Q	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	心理療法特論 (科目ナンバリング: CLP123075)				
授業担当者(所属・職名)	佐々木 智城(社会福祉学科・准教授)	研究室所在	1号館2階		
単位数	2 (単位認定責任者: 佐々木 智城)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	精神科病院の勤務経験のある臨床心理士が経験も交えながら指導する。		

概要

履修目標

認知行動療法、家族療法など臨床の場で使われる様々な心理療法の理論と実際を学ぶ。

授業の位置づけ

社会福祉学科のDP「1(2)と(5)と(6)と(7)」、「2(2)」対応する。

到達目標

心理療法の基本的な知識や技能を習得することができる。

授業全体の内容と概要

心理療法は個人を対象とするものもあるが、特定の疾患を抱えたグループへの集団療法や家族療法など集団を扱う療法もある。また、疾患によって用いる心理療法や技法が変わってくることや複数の療法を組み合わせることもある。本授業では、様々な療法を事例を交えながら学んでいく。

授業の方法

プリント、DVDの視聴からでの様々な心理療法を学び、実際に体験する。心理療法のワークを多く体験する(ディスカッション含む)。毎回、授業の最後に学んだことや質問をまとめて提出する。質問は次の授業で回答する。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		PBL
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業	○	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

毎回、授業の最後に学んだことをまとめて提出すること。提出によって出席とし、成績に反映する。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数は10回以上。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	70%	0%	0%	20%	10%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
心理療法についての理解	参考書や授業の内容に基づいて主要な心理療法について説明できた。	参考書や授業の内容に基づいて3つ程度の心理療法について説明できた。	参考書や授業の内容に基づいて1つの心理療法について説明できた。	参考書や授業の内容に基づいて1つの心理療法について資料を見ながら説明できた。	参考書や授業の内容の理解が乏しく、心理療法についての説明ができなかった。
心理療法の視点に基づく思考・判断力	心理療法の基本を踏まえてクライアントを見立てて、どの療法を使うかを十分考察できた。	心理療法の基本を踏まえてクライアントを見立てて、どの療法を使うかをおおむね考察できた。	心理療法の基本を踏まえてクライアントを見立てて、どの療法を使うかを一定程度考察できた。	心理療法の基本を踏まえてクライアントを見立てて、どの療法を使うかを考察できた。	心理療法の基本を踏まえてクライアントを見立てて、どの療法を使うかを考察することができなかった。
授業に主体的に取り組み態度(心理療法を踏まえて見立て療法)	心理療法の基本を踏まえてクライアントの見立てとどの療法を用いるかをわかやすく説明できた。	心理療法の基本を踏まえてクライアントの見立てとどの療法を用いるかをおおむね説明できた。	心理療法の基本を踏まえてクライアントの見立てとどの療法を用いるかを一定程度説明できた。	心理療法の基本を踏まえてクライアントの見立てとどの療法を用いるかを説明できた。	心理療法の基本を踏まえてクライアントの見立てとどの療法を用いるかを説明することができなかった。

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						教科書なし
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・4年		
開講時期	3Q	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	心理療法特論 (科目ナンバリング: CLP123075)				
授業担当者(所属・職名)	佐々木 智城 (社会福祉学科・准教授)	研究室所在	1号館2階		
単位数	2 (単位認定責任者: 佐々木 智城)		CAP制		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	精神科病院の勤務経験のある臨床心理士が経験も交えながら指導する。		

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	シラバスの説明。心理療法概論	シラバス及び参考文献を読んでおくこと(90分)	授業の内容をもとに、心理療法に関する本を読むこと(90分)
2	行動療法(1) レスポラメント条件付けに基づく技法行動療法(1)	参考文献を読んでおくこと(90分)	授業の内容をもとに、心理療法に関する本を読むこと(90分)
3	行動療法(2) オペラント条件付けに基づく技法行動療法(2)	参考文献を読んでおくこと(90分)	授業の内容をもとに、心理療法に関する本を読むこと(90分)
4	認知療法(1) 理論編	参考文献を読んでおくこと(90分)	授業の内容をもとに、心理療法に関する本を読むこと(90分)
5	認知療法(2) 実践編(抑うつ他)	参考文献を読んでおくこと(90分)	授業の内容をもとに、心理療法に関する本を読むこと(90分)
6	ストレス心理学:リラクゼーション技法など	参考文献を読んでおくこと(90分)	授業の内容をもとに、心理療法に関する本を読むこと(90分)
7	社会的スキル訓練とその応用(統合失調症のリハビリなど)	参考文献を読んでおくこと(90分)	授業の内容をもとに、心理療法に関する本を読むこと(90分)
8	家族療法	参考文献を読んでおくこと(90分)	授業の内容をもとに、心理療法に関する本を読むこと(90分)
9	交流分析	参考文献を読んでおくこと(90分)	授業の内容をもとに、心理療法に関する本を読むこと(90分)
10	アサーショントレーニング	参考文献を読んでおくこと(90分)	授業の内容をもとに、心理療法に関する本を読むこと(90分)
11	メタ認知トレーニング	参考文献を読んでおくこと(90分)	授業の内容をもとに、心理療法に関する本を読むこと(90分)
12	フォーカシング	参考文献を読んでおくこと(90分)	授業の内容をもとに、心理療法に関する本を読むこと(90分)
13	ゲシュタルト療法	参考文献を読んでおくこと(90分)	授業の内容をもとに、心理療法に関する本を読むこと(90分)
14	自律訓練法	参考文献を読んでおくこと(90分)	授業の内容をもとに、心理療法に関する本を読むこと(90分)
15	SST (Social Skills Training)	参考文献を読んでおくこと(90分)	授業の内容をもとに、心理療法に関する本を読むこと(90分)
16	レポートについて、最終回において解説しフィードバックする。	レポート作成の準備をすること(90分)	レポートの作成(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・4年		
開講時期	1Q	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	精神疾患とその治療 (科目ナンバリング:PSS123037)				
授業担当者(所属・職名)	伊東 隆雄(社会福祉学科・非常勤講師)	研究室所在	1号館1階非常勤講師室		
単位数	2 (単位認定責任者: 伊東 隆雄(社会福祉学科・非常勤講師))	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	精神保健指定医、精神科専門医として、大学病院や総合病院精神科での豊富な臨床経験に基づいて、授業を展開する。		

概要

履修目標
精神医学の歴史や現状を理解する。脳および神経の解剖と生理を理解する。さらに、代表的な精神疾患を理解し、精神を病む人間存在を支援するための福祉の理念を論じる。

授業の位置づけ
社会福祉学科のDP「1(1)と(2)」、「2(2)」に対応する。

到達目標
1. 精神医学、精神医療の歴史を説明する。2. 脳および神経の生理・解剖の基礎を説明する。3. 代表的な精神障害について説明する。

授業全体の内容と概要
精神保健福祉士の業務に必要な精神医学の知識の理解、とくに主要な精神疾患の症状、経過、治療等についての理解を深める。

授業の方法
講義形式で各授業を進行する。教科書の概説および毎回、関連する資料を配布し説明する。適宜グループワークやディスカッションを行い理解を深める。授業の冒頭において、前回のまとめを行う。わからない部分については質問を受け付ける。

アクティブラーニングの実施方法																								
<table border="1"> <tr> <td><input type="checkbox"/></td> <td>プレゼンテーション</td> <td><input type="checkbox"/></td> <td>グループワーク</td> <td><input type="checkbox"/></td> <td>フィールドワーク</td> <td><input type="checkbox"/></td> <td>PBL</td> </tr> <tr> <td><input type="checkbox"/></td> <td>模擬授業</td> <td><input type="checkbox"/></td> <td>ロールプレイ</td> <td><input type="checkbox"/></td> <td>調査学習</td> <td><input type="checkbox"/></td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td><input type="checkbox"/></td> <td>ディスカッション</td> <td><input type="checkbox"/></td> <td>実験・実習・実技</td> <td><input type="checkbox"/></td> <td>双方向授業</td> <td><input type="checkbox"/></td> <td>その他(授業の方法参照)</td> </tr> </table>	<input type="checkbox"/>	プレゼンテーション	<input type="checkbox"/>	グループワーク	<input type="checkbox"/>	フィールドワーク	<input type="checkbox"/>	PBL	<input type="checkbox"/>	模擬授業	<input type="checkbox"/>	ロールプレイ	<input type="checkbox"/>	調査学習	<input type="checkbox"/>	反転授業	<input type="checkbox"/>	ディスカッション	<input type="checkbox"/>	実験・実習・実技	<input type="checkbox"/>	双方向授業	<input type="checkbox"/>	その他(授業の方法参照)
<input type="checkbox"/>	プレゼンテーション	<input type="checkbox"/>	グループワーク	<input type="checkbox"/>	フィールドワーク	<input type="checkbox"/>	PBL																	
<input type="checkbox"/>	模擬授業	<input type="checkbox"/>	ロールプレイ	<input type="checkbox"/>	調査学習	<input type="checkbox"/>	反転授業																	
<input type="checkbox"/>	ディスカッション	<input type="checkbox"/>	実験・実習・実技	<input type="checkbox"/>	双方向授業	<input type="checkbox"/>	その他(授業の方法参照)																	

履修上の注意事項
必ず予習をして、積極的に質問して、わからないことをその場できちんと理解してほしい。授業の冒頭で前回のまとめを行う。

資格指定科目
精神保健福祉士国家試験受験資格課程

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数は、10回以上。筆記試験で規定の成績を得たもの。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
100%	0%	0%	0%	0%	0%

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
精神医学の歴史についての理解が目標のレベルを達成しているか。	精神医学、精神医療の歴史を、批判的に考察して、支援のあり方について説明できた。	精神医学、精神医療の歴史から、支援のあり方を説明できた。	精神医学、精神医療の歴史の詳細を説明できた。	精神医学、精神医療の歴史の概要を説明できた。	精神医学、精神医療の歴史を説明できなかった。
脳や神経の解剖学と生理学の理解が目標のレベルを達成しているか。	脳の解剖学と生理学について理解し、精神症状との関連を説明できた。	脳の解剖学と生理学について理解し、精神疾患の病態を説明できた。	脳の解剖学と生理学についての基本的な知識について説明できた。	脳の解剖学についての基礎的な知識を説明できた。	脳の解剖学について説明できなかった。
代表的な精神疾患についての理解が目標のレベルを達成しているか。	代表的な精神疾患の原因、診断、治療および福祉的支援のあり方について説明できた。	代表的な精神疾患の原因、診断、治療の詳細について説明できた。	代表的な精神疾患の診断と治療の概要について説明できた。	代表的な精神疾患の概要について説明できた。	代表的な精神疾患について説明できなかった。

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『新精神保健福祉士養成講座 第1巻 精神疾患とその治療 第2版』	日本精神保健福祉士養成校協会 編集	中央法規出版	2016年	978-4-8058-5312-2	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・4年		
開講時期	1Q	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	精神疾患とその治療 (科目ナンバリング:PSS123037)				
授業担当者(所属・職名)	伊東 隆雄(社会福祉学科・非常勤講師)	研究室所在	1号館1階非常勤講師室		
単位数	2 (単位認定責任者: 伊東 隆雄(社会福祉学科・非常勤講師))	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	精神保健指定医、精神科専門医として、大学病院や総合病院精神科での豊富な臨床経験に基づいて、授業を展開する。		

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	オリエンテーション シラバスの説明	シラバスを読んでおくこと(90分)	講義内容の理解を深め、教科書・ノートをまとめておくこと(90分)
2	精神医学, 精神医療の歴史	教科書において学習内容に該当する箇所を読んでおくこと(90分)	講義内容の理解を深め、教科書・ノートをまとめておくこと(90分)
3	脳および神経の生理・解剖	教科書において学習内容に該当する箇所を読んでおくこと(90分)	講義内容の理解を深め、教科書・ノートをまとめておくこと(90分)
4	精神医学の概念	教科書において学習内容に該当する箇所を読んでおくこと(90分)	講義内容の理解を深め、教科書・ノートをまとめておくこと(90分)
5	精神障害の成因と分類	教科書において学習内容に該当する箇所を読んでおくこと(90分)	講義内容の理解を深め、教科書・ノートをまとめておくこと(90分)
6	診断法 診断の手順と方法	教科書において学習内容に該当する箇所を読んでおくこと(90分)	講義内容の理解を深め、教科書・ノートをまとめておくこと(90分)
7	診断法 精神症状と状態像	教科書において学習内容に該当する箇所を読んでおくこと(90分)	講義内容の理解を深め、教科書・ノートをまとめておくこと(90分)
8	診断法 心理検査と身体的検査	教科書において学習内容に該当する箇所を読んでおくこと(90分)	講義内容の理解を深め、教科書・ノートをまとめておくこと(90分)
9	代表的な精神障害 (老人性認知症を含む)	教科書において学習内容に該当する箇所を読んでおくこと(90分)	講義内容の理解を深め、教科書・ノートをまとめておくこと(90分)
10	代表的な精神障害 精神作用物質使用による精神および行動の障害	教科書において学習内容に該当する箇所を読んでおくこと(90分)	講義内容の理解を深め、教科書・ノートをまとめておくこと(90分)
11	代表的な精神障害 および妄想性障害	教科書において学習内容に該当する箇所を読んでおくこと(90分)	講義内容の理解を深め、教科書・ノートをまとめておくこと(90分)
12	代表的な精神障害 気分(感情)障害	教科書において学習内容に該当する箇所を読んでおくこと(90分)	講義内容の理解を深め、教科書・ノートをまとめておくこと(90分)
13	代表的な精神障害 神経症性障害, ストレス関連障害および身体表現性障害	教科書において学習内容に該当する箇所を読んでおくこと(90分)	講義内容の理解を深め、教科書・ノートをまとめておくこと(90分)
14	代表的な精神障害 生理的障害および身体的要因に関連した行動症候群	教科書において学習内容に該当する箇所を読んでおくこと(90分)	講義内容の理解を深め、教科書・ノートをまとめておくこと(90分)
15	まとめ	講義全体でわからないことがあれば質問をまとめておくこと(90分)	講義内容の理解を深め、教科書・ノートをまとめておくこと(90分)
16	定期試験 60分の試験終了後, 残りの30分で解説	試験に備えて講義全体のふりかえりを行うこと(90分)	試験および解説を受けて講義全体をふりかえり理解を深めること(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・4年		
開講時期	3Q	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	精神疾患とその治療 (科目ナンバリング: PSS123038)				
授業担当者(所属・職名)	伊東 隆雄(社会福祉学科・非常勤講師)	研究室所在	1号館1階非常勤講師室		
単位数	2 (単位認定責任者: 伊東 隆雄(社会福祉学科・非常勤講師))	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	精神保健指定医、精神科専門医として、大学病院や総合病院精神科での豊富な臨床経験に基づいて、授業を展開する。		

概要

履修目標																								
精神医学の歴史や現状を理解する。脳および神経の解剖と生理を理解する。さらに、代表的な精神疾患を理解し、精神を病む人間存在を支援するための福祉の理念を論じる。																								
授業の位置づけ																								
社会福祉学科のDP「1(1)と(2)」、「2(2)」に対応する。																								
到達目標																								
1. 精神医学、精神医療の歴史を説明する。2. 脳および神経の生理・解剖の基礎を説明する。3. 代表的な精神障害について説明する。																								
授業全体の内容と概要																								
精神保健福祉士の業務に必要な精神医学の知識の理解、とくに主要な精神疾患の症状、経過、治療等についての理解を深める。																								
授業の方法																								
講義形式で各授業を進行する。教科書の概説および毎回、関連する資料を配布し説明する。適宜グループワークやディスカッションを行い理解を深める。授業の冒頭において、前回のまとめを行う。わからない部分については質問を受けつける。																								
アクティブラーニングの実施方法																								
<table border="1"> <tr> <td><input type="checkbox"/></td> <td>プレゼンテーション</td> <td><input type="checkbox"/></td> <td>グループワーク</td> <td><input type="checkbox"/></td> <td>フィールドワーク</td> <td><input type="checkbox"/></td> <td>PBL</td> </tr> <tr> <td><input type="checkbox"/></td> <td>模擬授業</td> <td><input type="checkbox"/></td> <td>ロールプレイ</td> <td><input type="checkbox"/></td> <td>調査学習</td> <td><input type="checkbox"/></td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td><input type="checkbox"/></td> <td>ディスカッション</td> <td><input type="checkbox"/></td> <td>実験・実習・実技</td> <td><input type="checkbox"/></td> <td>双方向授業</td> <td><input type="checkbox"/></td> <td>その他(授業の方法参照)</td> </tr> </table>	<input type="checkbox"/>	プレゼンテーション	<input type="checkbox"/>	グループワーク	<input type="checkbox"/>	フィールドワーク	<input type="checkbox"/>	PBL	<input type="checkbox"/>	模擬授業	<input type="checkbox"/>	ロールプレイ	<input type="checkbox"/>	調査学習	<input type="checkbox"/>	反転授業	<input type="checkbox"/>	ディスカッション	<input type="checkbox"/>	実験・実習・実技	<input type="checkbox"/>	双方向授業	<input type="checkbox"/>	その他(授業の方法参照)
<input type="checkbox"/>	プレゼンテーション	<input type="checkbox"/>	グループワーク	<input type="checkbox"/>	フィールドワーク	<input type="checkbox"/>	PBL																	
<input type="checkbox"/>	模擬授業	<input type="checkbox"/>	ロールプレイ	<input type="checkbox"/>	調査学習	<input type="checkbox"/>	反転授業																	
<input type="checkbox"/>	ディスカッション	<input type="checkbox"/>	実験・実習・実技	<input type="checkbox"/>	双方向授業	<input type="checkbox"/>	その他(授業の方法参照)																	
履修上の注意事項																								
必ず予習をして、積極的に質問して、わからないことをその場できちんと理解してほしい。授業の冒頭で前回のまとめを行う。																								
資格指定科目																								
精神保健福祉士国家試験受験資格課程																								

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数は、10回以上。筆記試験で規定の成績を得たもの。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
100%	0%	0%	0%	0%	0%

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
精神医学の歴史についての理解が目標のレベルを達成しているか。	精神医学、精神医療の歴史を、批判的に考察して、支援のあり方について説明できた。	精神医学、精神医療の歴史から、支援のあり方を説明できた。	精神医学、精神医療の歴史の詳細を説明できた。	精神医学、精神医療の歴史の概要を説明できた。	精神医学、精神医療の歴史を説明できなかった。
脳や神経の解剖学と生理学の理解が目標のレベルを達成しているか。	脳の解剖学と生理学について理解し、精神症状との関連を説明できた。	脳の解剖学と生理学について理解し、精神疾患の病態を説明できた。	脳の解剖学と生理学についての基本的な知識について説明できた。	脳の解剖学についての基礎的な知識を説明できた。	脳の解剖学について説明できなかった。
代表的な精神疾患についての理解が目標のレベルを達成しているか。	代表的な精神疾患の原因、診断、治療および福祉的支援のあり方について説明できた。	代表的な精神疾患の原因、診断、治療の詳細について説明できた。	代表的な精神疾患の診断と治療の概要について説明できた。	代表的な精神疾患の概要について説明できた。	代表的な精神疾患について説明できなかった。

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『新精神保健福祉士養成講座 第1巻 精神疾患とその治療 第2版』	日本精神保健福祉士養成校協会 編集	中央法規出版	2016年	978-4-8058-5312-2	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・4年		
開講時期	3Q	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	精神疾患とその治療 (科目ナンバリング: PSS123038)				
授業担当者(所属・職名)	伊東 隆雄(社会福祉学科・非常勤講師)	研究室所在	1号館1階非常勤講師室		
単位数	2 (単位認定責任者: 伊東 隆雄(社会福祉学科・非常勤講師))	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容 精神保健指定医、精神科専門医として、大学病院や総合病院精神科での豊富な臨床経験に基づいて、授業を展開する。			

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	オリエンテーション シラバスの説明	シラバスを読んでおくこと(90分)	講義内容の理解を深め、教科書・ノートをまとめること(90分)
2	代表的な精神障害 成人の人格および行動の障害	教科書において学習内容に該当する箇所を読んでおくこと(90分)	講義内容の理解を深め、教科書・ノートをまとめること(90分)
3	代表的な精神障害 精神遅滞	教科書において学習内容に該当する箇所を読んでおくこと(90分)	講義内容の理解を深め、教科書・ノートをまとめること(90分)
4	代表的な精神障害 心理的発達障害	教科書において学習内容に該当する箇所を読んでおくこと(90分)	講義内容の理解を深め、教科書・ノートをまとめること(90分)
5	代表的な精神障害 小児期および青年期に通常発症する行動および情緒の障害および特定不能の精神障害	教科書において学習内容に該当する箇所を読んでおくこと(90分)	講義内容の理解を深め、教科書・ノートをまとめること(90分)
6	代表的な精神障害 神経系の疾患(てんかんを含む)	教科書において学習内容に該当する箇所を読んでおくこと(90分)	講義内容の理解を深め、教科書・ノートをまとめること(90分)
7	治療法 身体的療法 薬物療法とその副作用	教科書において学習内容に該当する箇所を読んでおくこと(90分)	講義内容の理解を深め、教科書・ノートをまとめること(90分)
8	治療法 身体的療法 電気ショック療法	教科書において学習内容に該当する箇所を読んでおくこと(90分)	講義内容の理解を深め、教科書・ノートをまとめること(90分)
9	治療法 精神療法	教科書において学習内容に該当する箇所を読んでおくこと(90分)	講義内容の理解を深め、教科書・ノートをまとめること(90分)
10	治療法 環境・社会療法	教科書において学習内容に該当する箇所を読んでおくこと(90分)	講義内容の理解を深め、教科書・ノートをまとめること(90分)
11	治療法 精神科リハビリテーション	教科書において学習内容に該当する箇所を読んでおくこと(90分)	講義内容の理解を深め、教科書・ノートをまとめること(90分)
12	病院精神医療(身体合併症医療、インフォームドコンセントを含む)	教科書において学習内容に該当する箇所を読んでおくこと(90分)	講義内容の理解を深め、教科書・ノートをまとめること(90分)
13	精神科救急医療(インフォームドコンセントを含む)	教科書において学習内容に該当する箇所を読んでおくこと(90分)	講義内容の理解を深め、教科書・ノートをまとめること(90分)
14	地域精神医学	教科書において学習内容に該当する箇所を読んでおくこと(90分)	講義内容の理解を深め、教科書・ノートをまとめること(90分)
15	まとめ	教科書において学習内容に該当する箇所を読んでおくこと(90分)	講義内容の理解を深め、教科書・ノートをまとめること(90分)
16	定期試験 60分の試験終了後、残りの30分で解説	試験に備えて講義全体のふりかえりを行うこと(90分)	試験および解説を受けて講義全体をふりかえり理解を深めること(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・4年		
開講時期	後期集中	授業形態	実習	必修・選択	選択
科目名称	保育実習 (科目ナンバリング: CHS124109)				
授業担当者(所属・職名)	吉江 幸子(社会福祉学科・准教授)	研究室所在	1号館2階		
単位数	2 (単位認定責任者: 吉江 幸子)	CAP制	x		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	保育現場における実習生受入経験を活かし、保育実習の総合的な学びに対する指導、助言を行う。		

概要

<p>履修目標</p> <p>この科目は、以下を授業の目的とする。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 保育実習の意義と目的を理解し、保育について総合的に学ぶ。 2. 実習や就労の教科の内容やその関連性を踏まえ、保育実践力を培う。 3. 保育の観察、記録及び自己評価等を踏まえた保育の改善について実践や事例を通して学ぶ。 4. 保育士の専門性と職業倫理について理解する。 5. 実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、保育に対する課題や認識を明確にする。 												
<p>授業の位置づけ</p> <p>社会福祉学科のDP「1(1)と(3)と(4)と(5)と(6)と(7)」、「2(2)」に対応する。</p>												
<p>到達目標</p> <p>保育実習による総合的な学び、保育実践力の育成、計画と観察、記録、自己評価、保育士の専門性と職業倫理について理解と実践ができる。</p>												
<p>授業全体の内容と概要</p> <p>保育実習(保育所)の履修者に対して指導を行う。保育実習による総合的な学び、保育実践力の育成、計画と観察、記録、自己評価、保育士の専門性と職業倫理について学修する。</p>												
<p>授業の方法</p> <p>保育実習先施設に出勤し、保育実習指導担当保育士の指示のもと、日々の目標にそって実習を行う。実習期間中、担当教員による訪問指導を行い、課題の明確化や相談の時間を設定し、実習指導者との面談内容等のフィードバックを行う。</p>												
<p>アクティブラーニングの実施方法</p> <table border="1"> <tr> <td>プレゼンテーション</td> <td>グループワーク</td> <td>フィールドワーク</td> <td>PBL</td> </tr> <tr> <td>模擬授業</td> <td>ロールプレイ</td> <td>調査学習</td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td>ディスカッション</td> <td>実験・実習・実技</td> <td>双方向授業</td> <td>その他(授業の方法参照)</td> </tr> </table>	プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL	模擬授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業	ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)
プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL									
模擬授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業									
ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)									
<p>履修上の注意事項</p> <p>保育実習手引きに記載している実習生心構えを基本として、保育実習に積極的に取り組むこと。</p>												
<p>資格指定科目</p> <p>保育士養成課程</p>												

評価方法・基準

評価前提条件					
10日間以上の実習を行うこと。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	10%	10%	0%	80%	0%

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
保育の専門的知識・技能(何を知っているか、何ができるか)	保育の専門的知識の活用について十分に理解した。	保育の専門的知識の活用についておおむね理解した。	保育の専門的知識の活用について理解した。	保育の専門的知識の活用について多少は理解した。	保育の専門的知識の活用について理解することができなかった。
保育技術獲得に向けた思考力・判断力・表現力等(知っていること、できることをどう使うか)	保育の基本を踏まえた保育技術の展開について十分に考察できた。	保育の基本を踏まえた保育技術の展開についておおむね考察できた。	保育の基本を踏まえた保育技術の展開について考察できた。	保育の基本を踏まえた保育技術の展開について多少は考察できた。	保育の基本を踏まえた保育技術の展開について考察することができなかった。
主体的に取り組む態度(どのように関わるか)	保育実習による総合的な学びを、記録を通して積極的に表すことができた。	保育実習による総合的な学びを、記録を通しておおむね表すことができた。	保育実習による総合的な学びを、記録で表すことができた。	保育実習による総合的な学びを、記録を通して多少は表すことができた。	保育実習による総合的な学びを、記録を通して表すことができなかった。
パフォーマンス(知識、スキルを使いこなし活用、応用)	保育実習による自己評価と課題の明確化に積極的に取り組むことができた。	保育実習による自己評価と課題の明確化におおむね取り組むことができた。	保育実習による自己評価と課題の明確化に取り組むことができた。	保育実習による自己評価と課題の明確化に多少は取り組むことができた。	保育実習による自己評価と課題の明確化に取り組むことができなかった。

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『保育実習の手引き』					学内テキスト
2	『新訂知りたいときにすぐわかる幼稚園・保育所・児童福祉施設等実習ガイド』	石橋裕子・林幸範	同文書院	2020	9784810314755	
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『保育所保育指針<平成29年告示>』	厚生労働省	フレーベル館	2017	9784577814239	
2						
3						
4						
5						

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・4年		
開講時期	後期集中	授業形態	実習	必修・選択	選択
科目名称	保育実習 (科目ナンバリング: CHS124109)				
授業担当者(所属・職名)	吉江 幸子(社会福祉学科・准教授)	研究室所在	1号館2階		
単位数	2 (単位認定責任者: 吉江 幸子)	CAP制	x		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容 保育現場における実習生受入経験を活かし、保育実習の総合的な学びに対する指導、助言を行う。			

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	シラバスの説明 保育所の保育内容の各領域とその全体を實踐に照らし理解を深める。	座学で学んだ知識をブラッシュアップし実習に備える(45分)。	実習を終えてから振り返り1日の日誌を完成させる(45分)。
2	保育士倫理要綱に照らし合わせた実践を理解する。	座学で学んだ知識をブラッシュアップし実習に備える(45分)。	実習を終えてから振り返り1日の日誌を完成させる(45分)。
3	実践における指導技術を身につける。	座学で学んだ知識をブラッシュアップし実習に備える(45分)。	実習を終えてから振り返り1日の日誌を完成させる(45分)。
4	保育計画、年間・月間・週間及び1日の指導計画の体系と立案の方法を實踐に即し理解する。	座学で学んだ知識をブラッシュアップし実習に備える(45分)。	実習を終えてから振り返り1日の日誌を完成させる(45分)。
5	保育士の指導のもと乳幼児の保育を担当し、保育実践を総合的に学ぶ。	座学で学んだ知識をブラッシュアップし実習に備える(45分)。	実習を終えてから振り返り1日の日誌を完成させる(45分)。
6	乳幼児の集団を全体的にとらえる視点と、個別の発達方向付けを具体的に学習する。	座学で学んだ知識をブラッシュアップし実習に備える(45分)。	実習を終えてから振り返り1日の日誌を完成させる(45分)。
7	子どもの発達の課題や保育所の生活に慣れにくい状態などへの具体的な対応方法を学ぶ。	座学で学んだ知識をブラッシュアップし実習に備える(45分)。	実習を終えてから振り返り1日の日誌を完成させる(45分)。
8	家族とのコミュニケーションの方法、子育て支援の実践を学ぶ。	実習の総括と課題の明確化を行い、反省会の準備をする(45分)。	日誌を全日程完成させ提出する(45分)。
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
16			

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・4年		
開講時期	後期集中	授業形態	実習	必修・選択	選択
科目名称	保育実習 (科目ナンバリング: CHS124110)				
授業担当者(所属・職名)	湯浅 頼佳(社会福祉学科・専任講師)	研究室所在	1号館3階		
単位数	2 (単位認定責任者: 湯浅 頼佳)	CAP制	×		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

概要

履修目標

既習の今日科目や保育実習の経験を踏まえ児童福祉施設における保育を実践し、保育士としての必要な資質、能力、技術を習得し深めるとともに、家庭と地域の生活実態にふれて、子ども家庭福祉ニーズに対する理解力、判断力を養うとともに、子育て支援するために必要な能力を養う。

授業の位置づけ

社会福祉学科のDP「1(2)と(5)」、「2(2)」に対応する。

到達目標

保育士としての職業倫理を理解し、児童福祉施設等において保育士に求められる資質、能力、技術に照らし合わせて、自己の課題を明確化する。

授業全体の内容と概要

児童福祉施設等において10日間以上の実習を行う。保育全般に参加し、子どもの個人差について理解し、対応方法を習得する。特に発達の違いや生活環境にともなう子どものニーズを理解し、その対応について学ぶ。指導計画を立案し、実際に実践し、家庭とのコミュニケーションの方法を具体的に習得する。学内において、実習の事前・事後指導を行う。

授業の方法

「各授業回数における学習内容」に記載の「準備学習」「事後学習」を参照する事。「保育実習」が「保育実習」のいずれかを必ず選択すること。正当な理由なき遅刻、欠席は実習をとりやめとする。保育者の資質に欠ける者は、実習をとりやめとする。実習終了後の書類提出の期日を守らない場合は評価(単位認定)しない。保育実習実施後、発表の場を設け原稿用紙(400字)約3枚程度のレポート提出を1回課す。発表会終了後、実習全体のまとめとしての原稿用紙(400字)約4枚程度のレポート提出を1回課す。なお、詳細(レポート課題・提出方法等)は授業時間に指示する。実習期間中は訪問指導を行い、質問等には随時対応する。

アクティブラーニングの実施方法

<input type="checkbox"/>	プレゼンテーション	<input type="checkbox"/>	グループワーク	<input type="checkbox"/>	フィールドワーク	<input type="checkbox"/>	PBL
<input type="checkbox"/>	模擬授業	<input type="checkbox"/>	ロールプレイ	<input type="checkbox"/>	調査学習	<input type="checkbox"/>	反転授業
<input type="checkbox"/>	ディスカッション	<input type="checkbox"/>	実験・実習・実技	<input type="checkbox"/>	双方向授業	<input type="checkbox"/>	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

レポート、課題、その他(実習先の評価、実習日誌、事前・事後学習における態度、書類の提出状況、実習報告書等)を上記の基準で評価する。「保育実習」は保育士資格を取得するための必修科目である。「保育実習」が「保育実習」のいずれかを必ず選択すること。

資格指定科目

保育士養成課程

評価方法・基準

評価前提条件					
レポート、課題、その他(実習先の評価、実習日誌、事前・事後学習における態度、書類の提出状況、実習報告書等)を下記の基準で評価する。実習は10日以上とする。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	5%	5%	0%	10%	80%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・技能(何を知っているか、何ができるか)	児童福祉施設等における保育の専門知識の活用について十分に理解できた。	児童福祉施設等における保育の専門知識の活用について概ね理解できた。	児童福祉施設等における保育の専門知識の活用について理解できた。	児童福祉施設等における保育の専門知識の活用について多少は理解できた。	児童福祉施設等における保育の専門知識の活用について理解できなかった。
思考力・判断力・表現力等(知っていること、できることをどう使うか)	児童福祉施設等における保育技術の展開について十分に考察できた。	児童福祉施設等における保育技術の展開について概ね考察できた。	児童福祉施設等における保育技術の展開について考察できた。	児童福祉施設等における保育技術の展開について多少は考察できた。	児童福祉施設等における保育技術の展開について考察できなかった。
主体的に取り組む態度(どのように関わるか)	施設実習による総合的な学びを、記録で十分に表すことができた。	施設実習による総合的な学びを、記録で概ね表すことができた。	施設実習による総合的な学びを、記録で表すことができた。	施設実習による総合的な学びを、記録で多少表すことができた。	施設実習による総合的な学びを、記録で表すことができなかった。
パフォーマンス(知識、スキルを使いこなす活用、応用)	施設実習において自己評価と課題の明確化に積極的に取り組むことができた。	施設実習において自己評価と課題の明確化に概ね取り組むことができた。	施設実習において自己評価と課題の明確化に取り組むことができた。	施設実習において自己評価と課題の明確化に多少は取り組むことができた。	施設実習において自己評価と課題の明確化に積極的に取り組むことができなかった。

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『新訂 知りたいときにすぐわかる幼稚園・保育所・児童福祉施設等実習ガイド 第二版』	石橋裕子・林幸範	同文書院	2018	9784810314755	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『実習の手引き』					
2	『学内テキスト』					
3						
4						
5						

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・4年		
開講時期	後期集中	授業形態	実習	必修・選択	選択
科目名称	保育実習 (科目ナンバリング: CHS124110)				
授業担当者(所属・職名)	湯浅 頼佳(社会福祉学科・専任講師)	研究室所在	1号館3階		
単位数	2 (単位認定責任者: 湯浅 頼佳)	CAP制	x		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	シラバスの説明及び児童福祉施設等における援助プログラムを理解する	座学で学んだ知識をブラッシュアップし実習に備える(45分)	実習を終えてから振り返り1日の日誌を完成させる(45分)
2	児童福祉施設等における援助プログラムの立案をする	座学で学んだ知識をブラッシュアップし実習に備える(45分)	実習を終えてから振り返り1日の日誌を完成させる(45分)
3	児童福祉施設等における援助プログラムにもとづく援助実践を行う	座学で学んだ知識をブラッシュアップし実習に備える(45分)	実習を終えてから振り返り1日の日誌を完成させる(45分)
4	児童福祉施設等における保育士の職務と技術を習得する	座学で学んだ知識をブラッシュアップし実習に備える(45分)	実習を終えてから振り返り1日の日誌を完成させる(45分)
5	児童福祉施設等における保育士と他職種との連携を理解する	座学で学んだ知識をブラッシュアップし実習に備える(45分)	実習を終えてから振り返り1日の日誌を完成させる(45分)
6	児童福祉施設等における利用児・者の権利擁護をすすめる取り組みについて、具体的な対応方法を学ぶ	座学で学んだ知識をブラッシュアップし実習に備える(45分)	実習を終えてから振り返り1日の日誌を完成させる(45分)
7	児童福祉施設等における種別ごとの特徴と種別を越えて共通する課題が存在することを実践を通して学習する	座学で学んだ知識をブラッシュアップし実習に備える(45分)	実習を終えてから振り返り1日の日誌を完成させる(45分)
8	児童福祉施設等における権利擁護と守秘義務を理解する	座学で学んだ知識をブラッシュアップし実習に備える(45分)	実習を終えてから振り返り1日の日誌を完成させる(45分)
9	実習の計画と記録(1)実習における計画	座学で学んだ知識をブラッシュアップし実習に備える(45分)	実習を終えてから振り返り1日の日誌を完成させる(45分)
10	実習の計画と記録(2)実習における実践	座学で学んだ知識をブラッシュアップし実習に備える(45分)	実習を終えてから振り返り1日の日誌を完成させる(45分)
11	実習の計画と記録(3)実習における観察	座学で学んだ知識をブラッシュアップし実習に備える(45分)	実習を終えてから振り返り1日の日誌を完成させる(45分)
12	実習の計画と記録(4)実習における記録	座学で学んだ知識をブラッシュアップし実習に備える(45分)	実習を終えてから振り返り1日の日誌を完成させる(45分)
13	実習の計画と記録(5)実習における評価	座学で学んだ知識をブラッシュアップし実習に備える(45分)	実習を終えてから振り返り1日の日誌を完成させる(45分)
14	実習の総括と自己評価	座学で学んだ知識をブラッシュアップし実習に備える(45分)	実習を終えてから振り返り1日の日誌を完成させる(45分)
15	実習の総括と課題の明確化	座学で学んだ知識をブラッシュアップし実習に備える(45分)	実習を終えてから振り返り1日の日誌を完成させる(45分)
16	実習の総括とふりかえり	実習の総括とふりかえりを行い、反省会の準備をする(45分)	日誌を全日程完成させ提出する(45分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・4年		
開講時期	通年	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	保育実習指導 (科目ナンバリング: CHS123106)				
授業担当者(所属・職名)	吉江 幸子(社会福祉学科・准教授)	研究室所在	1号館2階		
単位数	1 (単位認定責任者: 吉江 幸子)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	保育現場における実習指導の経験を活かし、実習の事前事後指導を行う。		

概要

<p>履修目標</p> <p>この科目は、以下の5つを授業の目的とする。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 保育実習の意義と目的を理解し、保育について総合的に学ぶ。 2. 実習や就労の教科の内容やその関連性を踏まえ、保育実践力を培う。 3. 保育の観察・記録及び自己評価等を踏まえた保育の改善について実践や事例を通して学ぶ。 4. 保育士の専門性と職業倫理について理解する。 5. 実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、保育に対する課題や認識を明確にする。 												
<p>授業の位置づけ</p> <p>社会福祉学科のDP「1(1)と(3)と(4)と(5)と(6)と(7)」、「2(2)」に対応する。</p>												
<p>到達目標</p> <p>保育実習による総合的な学び、保育実践力の育成、計画と観察、記録、自己評価、保育士の専門性と職業倫理について理解し、具体的に述べる。</p>												
<p>授業全体の内容と概要</p> <p>保育実習（保育所実習）の履修者に対して指導を行う。保育実習による総合的な学び、保育実践力の育成、計画と観察、記録、自己評価、保育士の専門性と職業倫理について学修する。</p>												
<p>授業の方法</p> <p>授業は、板書とパワーポイント、グループ学習を取り入れ、意見を出し合う場を多く設定する。また、模擬保育を取り入れ、お互いを評価しあう時間を設定する。提出されたレポートにはコメントをつけてフィードバックする。</p>												
<p>アクティブラーニングの実施方法</p> <table border="1"> <tr> <td>プレゼンテーション</td> <td>グループワーク</td> <td>フィールドワーク</td> <td>PBL</td> </tr> <tr> <td>模擬授業</td> <td>ロールプレイ</td> <td>調査学習</td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td>ディスカッション</td> <td>実験・実習・実技</td> <td>双方向授業</td> <td>その他(授業の方法参照)</td> </tr> </table>	プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL	模擬授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業	ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)
プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL									
模擬授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業									
ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)									
<p>履修上の注意事項</p> <p>正当な理由なき遅刻、欠席は実習をとりやめにする。保育者の資質に欠ける者は、実習をとりやめとする。実習終了後の書類提出の期日を守らない場合は評価(単位認定)しない。その他実習全体のまとめと今後の課題を明確にするためレポート提出を1回課す。なお、詳細(レポート課題・提出方法等)は授業時間に指示する。保育実習を選択した場合は、必ず保育実習指導を選択すること。</p>												
<p>資格指定科目</p> <p>保育士養成課程</p>												

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要となる最低出席回数は11回以上。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	20%	20%	0%	60%	0%

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
実習に関する知識・技能(何を知っているか、何ができるか)	保育実習の総合的な学びの意義について深く理解できた。	保育実習の総合的な学びの意義についておおむね理解できた。	保育実習の総合的な学びの意義について理解できた。	保育実習の総合的な学びの意義について多少理解できた。	保育実習の総合的な学びの意義について理解することができなかった。
保育実習に向けた思考力・判断力・表現力等(知っていること、できることをどう使うか)	保育実習の総合的な学びと実践力について十分に考察できた。	保育実習の総合的な学びと実践力についておおむね考察できた。	保育実習の総合的な学びと実践力について考察できた。	保育実習の総合的な学びと実践力について多少考察できた。	保育実習の総合的な学びと実践力について考察することができなかった。
主体的に取り組み態度(どのように関わるか)	保育実習の意義や実践力を身につけることの重要性をわかりやすく説明できた。	保育実習の意義や実践力を身につけることの重要性をおおむね説明できた。	保育実習の意義や実践力を身につけることの重要性を説明できた。	保育実習の意義や実践力を身につけることの重要性を多少説明できた。	保育実習の意義や実践力を身につけることの重要性を説明することができなかった。
パフォーマンス(知識、スキルを使いこなす活用、応用)	自己を向上させるために学修した内容をまとめ、プレゼンテーションによって具体的に報告できた。	自己を向上させるために学修した内容をまとめ、プレゼンテーションによっておおむね報告できた。	自己を向上させるために学修した内容をまとめ、プレゼンテーションによって報告できた。	自己を向上させるために学修した内容をまとめ、プレゼンテーションによって多少報告できた。	自己を向上させるために学修した内容をまとめ、プレゼンテーション報告することができなかった。

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『実習の手引き』					学内テキスト
2	『新訂しりたしきにくわかる幼稚園・保育所・児童福祉施設等実習ガイド』	石橋裕子・林幸範	同文書院	2020	9784810314755	
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『保育所保育指針<平成29年告示>』	厚生労働省	フレーベル館	2017	9784577814239	
2						
3						
4						
5						

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・4年		
開講時期	通年	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	保育実習指導 (科目ナンバリング: CHS123106)				
授業担当者(所属・職名)	吉江 幸子(社会福祉学科・准教授)	研究室所在	1号館2階		
単位数	1 (単位認定責任者: 吉江 幸子)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容 保育現場における実習指導の経験を活かし、実習の事前事後指導を行う。			

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	シラバスの説明 オリエンテーション	指定した教科書を事前に読むこと(45分)。	1回目の授業で理解した点を整理する(45分)。
2	事前指導 保育実習 のふりかえり	保育実習 の記録を読み返しておく(45分)。	2回目の授業で理解した点を整理する(45分)。
3	事前指導 保育実習 の目的・内容・方法	実習の手引きについて事前学習しておく(45分)。	3回目の授業で理解した点を整理する(45分)。
4	事前指導 実習課題の設定	保育実習 の課題を省察する(45分)。	授業終了時に示す課題を作成する(45分)。
5	事前指導 指導計画の立案について	2年次履修「保育課程論」を読み返しておく(45分)。	5回目の授業で理解した点を整理する(45分)。
6	保育実習による総合的な学び(1)子どもの最善の利益を考慮した保育の具体的理解	教科書の「実習の準備」を事前学習しておく(45分)。	6回目の授業で理解した点を整理する(45分)。
7	保育実習による総合的な学び(2)子どもの保育と保護者支援	教科書の「保育実技」を事前学習しておく(45分)。	7回目の授業で理解した点を整理する(45分)。
8	保育実践力の育成(1)子どもの状態に応じた適切ななかかわり	教科書の「保育実技」を事前学習しておく(45分)。	8回目の授業で理解した点を整理する(45分)。
9	保育実践力の育成(2)保育の表現技術を生かした保育実践	教科書の「保育実技」を事前学習する(45分)。	9回目の授業で理解した点を整理する(45分)。
10	保育実践力の育成(3)未満児・以上児における指導案の作成と事前準備	乳児及び未満児対応について事前学習する(45分)。	10回目の授業で理解した点を整理する(45分)。
11	計画と観察、記録、自己評価(1)保育の全体計画に基づく具体的な計画と実践	教科書の「記録」を事前学習しておく(45分)。	11回目の授業で理解した点を整理する(45分)。
12	計画と観察、記録、自己評価(2)保育の観察、記録、自己評価に基づく保育の改善	実習記録用紙書式をよく確認しておく(45分)。	12回目の授業で理解した点を整理する(45分)。
13	事後指導 保育園における保育士の職務	実習のまとめ・報告準備を進める(45分)。	13回目の授業で理解した点を整理する(45分)。
14	事後指導 実習報告会の実施	報告会の準備、練習をしておく(45分)。	報告会の自己評価をする(45分)。
15	事後指導 実習の総括と今後への課題	実習で学んだ事、課題を整理しておく(45分)。	授業の目的の達成度を自己評価する(45分)。
16	提出レポート、課題の解説とフィードバック	実習内容を振り返り課題抽出(45分)。	課題の解説に基づき復習し整理する(45分)。

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・4年		
開講時期	通年	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	保育実習指導 (科目ナンバリング: CHS123107)				
授業担当者(所属・職名)	湯浅 頼佳 (社会福祉学科・専任講師)	研究室所在	1号館3階		
単位数	1 (単位認定責任者: 湯浅 頼佳)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

概要

履修目標	<p>1. 保育実習の意義と目的を理解し、保育について総合的に学ぶ。</p> <p>2. 実習や既習の教科の内容やその関連性を踏まえ、保育実践力を培う。</p> <p>3. 保育の観察、記録及び自己評価等を踏まえた保育の改善について実践や事例を通して学ぶ。</p> <p>4. 保育士の専門性と職業倫理について理解する。</p> <p>5. 実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、保育に対する課題や認識を明確にする。</p>																								
授業の位置づけ	社会福祉学科のDP「1(2)と(5)」、「2(2)」に対応する。																								
到達目標	保育実習による総合的な学び、保育実践力の育成、計画と観察、記録、自己評価、保育士の専門性と職業倫理について理解する。																								
授業全体の内容と概要	保育実習（施設実習）の履修者に対して指導を行う。保育実習による総合的な学び、保育実践力の育成、計画と観察、記録、自己評価、保育士の専門性と職業倫理について学修する。																								
授業の方法	授業はパワーポイントや視聴覚教材(DVD・ブルーレイ)も取り入れながら演習形式で行う。実習の事前指導及び事後指導も含まれるので必要に応じてグループワークやグループ学習も実施し、その都度発生した疑問・質問などにはフィードバックとして解説を行い、実習終了後は報告会を実施する。																								
アクティブラーニングの実施方法	<table border="1"> <tr> <td>○</td> <td>プレゼンテーション</td> <td>○</td> <td>グループワーク</td> <td></td> <td>フィールドワーク</td> <td></td> <td>PBL</td> </tr> <tr> <td></td> <td>模擬授業</td> <td>○</td> <td>ロールプレイ</td> <td></td> <td>調査学習</td> <td></td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td></td> <td>ディスカッション</td> <td>○</td> <td>実験・実習・実技</td> <td></td> <td>双方向授業</td> <td></td> <td>その他(授業の方法参照)</td> </tr> </table>	○	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		PBL		模擬授業	○	ロールプレイ		調査学習		反転授業		ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)
○	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		PBL																		
	模擬授業	○	ロールプレイ		調査学習		反転授業																		
	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)																		
履修上の注意事項	「各授業回数における学習内容」に記載の「準備学習」「事後学習」を参照する事。10回以上の出席がなければ、成績評価の対象としない。正当な理由なき遅刻・欠席は実習をとりやめにする。保育者の資質に欠ける者は、実習をとりやめとする。実習終了後の書類提出の期日を守らない場合は評価(単位認定)しない。保育実習実施後、原稿用紙(400字)約3枚程度のレポート提出を1回課す。その他実習全体のまとめと今後の課題を明確にするため原稿用紙(400字)約4枚程度のレポート提出を1回課す。なお、詳細(レポート課題・提出方法等)は授業時間に指示する。「保育実習指導」は、保育士資格を取得するための必修科目である。「保育実習指導」が「保育実習指導」のいずれかを必ず選択すること。																								
資格指定科目	保育士養成課程																								

評価方法・基準

評価前提条件					
授業回数の3分の2(11回)以上の出席がなければ、成績評価の対象としない。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	20%	10%	0%	10%	60%

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・技能(何を知っているか、何ができるか)	児童福祉施設等における保育の専門知識の活用について十分に理解できた。	児童福祉施設等における保育の専門知識の活用について概ね理解できた。	児童福祉施設等における保育の専門知識の活用について理解できた。	児童福祉施設等における保育の専門知識の活用について多少は理解できた。	児童福祉施設等における保育の専門知識の活用について理解できなかった。
思考力・判断力・表現力等(知っていること、できることをどう使うか)	児童福祉施設等における保育技術の展開について十分に考察できた。	児童福祉施設等における保育技術の展開について概ね考察できた。	児童福祉施設等における保育技術の展開について考察できた。	児童福祉施設等における保育技術の展開について多少は考察できた。	児童福祉施設等における保育技術の展開について考察できなかった。
主体的に取り組む態度(どのように関わるか)	施設実習による総合的な学びを、記録で十分に表すことができた。	施設実習による総合的な学びを、記録で概ね表すことができた。	施設実習による総合的な学びを、記録で表すことができた。	施設実習による総合的な学びを、記録で多少表すことができた。	施設実習による総合的な学びを、記録で表すことができなかった。
パフォーマンス(知識、スキルを使いこなす活用、応用)	施設実習において自己評価と課題の明確化に積極的に取り組むことができた。	施設実習において自己評価と課題の明確化に概ね取り組むことができた。	施設実習において自己評価と課題の明確化に取り組むことができた。	施設実習において自己評価と課題の明確化に多少は取り組むことができた。	施設実習において自己評価と課題の明確化に積極的に取り組むことができなかった。

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『新訂 知りたいときにすぐわかる幼稚園・保育所・児童福祉施設等実習ガイド 第二版』	石橋裕子・林幸範	同文書院	2018	9784810314755	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『実習の手引き』					
2	『学内テキスト』					
3						
4						
5						

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・4年		
開講時期	通年	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	保育実習指導 (科目ナンバリング: CHS123107)				
授業担当者(所属・職名)	湯浅 頼佳 (社会福祉学科・専任講師)		研究室所在	1号館3階	
単位数	1	(単位認定責任者: 湯浅 頼佳)	CAP制		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	オリエンテーション及びシラバスの説明	「保育実習」の報告書や日誌などを再読する(45分)	シラバスの確認をする。「保育実習」での課題を明確にする(45分)
2	事前指導 保育実習 のふりかえり	前回の授業で出された課題について予習する(45分)	課題についての復習を含め授業ノートを作成しまとめる(45分)
3	事前指導 保育実習 の目的・内容・方法	前回の授業で出された課題について予習する(45分)	課題についての復習を含め授業ノートを作成しまとめる(45分)
4	事前指導 実習課題の設定	前回の授業で出された課題について予習する(45分)	課題についての復習を含め授業ノートを作成しまとめる(45分)
5	事前指導 援助計画の立案について	前回の授業で出された課題について予習する(45分)	課題についての復習を含め授業ノートを作成しまとめる(45分)
6	保育実習による総合的な学び(1)子どもの最善の利益を考慮した保育の具体的な理解	前回の授業で出された課題について予習する(45分)	課題についての復習を含め授業ノートを作成しまとめる(45分)
7	保育実習による総合的な学び(2)子どもの保育と保護者支援	前回の授業で出された課題について予習する(45分)	課題についての復習を含め授業ノートを作成しまとめる(45分)
8	保育実践力の育成(1)子どもの状態に応じた適切なかわり	前回の授業で出された課題について予習する(45分)	課題についての復習を含め授業ノートを作成しまとめる(45分)
9	保育実践力の育成(2)保育の表現技術を生かした保育実践	前回の授業で出された課題について予習する(45分)	課題についての復習を含め授業ノートを作成しまとめる(45分)
10	計画と観察、記録、自己評価(1)保育の全体計画に基づく具体的な計画と実践	前回の授業で出された課題について予習する(45分)	課題についての復習を含め授業ノートを作成しまとめる(45分)
11	計画と観察、記録、自己評価(2)保育の観察、記録、自己評価に基づく保育の改善	前回の授業で出された課題について予習する(45分)	課題についての復習を含め授業ノートを作成しまとめる(45分)
12	事後指導 児童福祉施設等における保育士の職務	前回の授業で出された課題について予習する(45分)	課題についての復習を含め報告会の資料を作成する(45分)
13	事後指導 実習報告会の実施	報告会のシミュレーションをしておく(45分)	報告会について考察する(45分)
14	事後指導 実習評価と自己覚知	自己評価表を作成する(45分)	実習評価と自己評価について考察する(45分)
15	事後指導 実習の総括	「保育実習」のまとめを行う(45分)	「保育実習」について考察する(45分)
16	保育実習のまとめとふりかえり	「保育実習」をまとめる(45分)	「保育実習」についてふりかえりをする(45分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・4年		
開講時期	2Q	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	社会思想史(S) (科目ナンバリング: SOC122132, SOC422058)				
授業担当者(所属・職名)	金子 敏也 (社会福祉学科・特任准教授)	研究室所在	2号館7階		
単位数	2 (単位認定責任者: 金子 敏也)	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

概要

履修目標	速読法の取得する。テーマと論点を明記するレジメの作成能力の構築する。社会思想が生まれてきた背景を学ぶ。
------	---

授業の位置づけ	社会福祉学科のDP「1(2)と(3)」、「2(1)と(4)」に対応する。
---------	--------------------------------------

到達目標	各時代における社会の成り立ち、その中で思想が育まれていったことを理解できる。
------	--

授業全体の内容と概要	社会思想はそれぞれの政治システム、文化などを背景にして生まれてきたものだが、一部の思想は時代精神となり、全世界に波及にいたる思想的な潮流となる。キリスト教、イスラム教の伝播から、西洋の合理主義精神と近代主義が世界に広がっていった歴史的な経緯を考える。
------------	---

授業の方法	講義の前半の60分弱を通常の講義にあて、残りの30分は各学生が講義内容について何が理解でき、何がわからなかったかを論述してもらいます。3週ないし4週に一度、書き出したメモ書きの提出を求めます。毎回出席して、メモ書きさえ出せば、単位習得可能な講義とします。わからなかったことについて黒板に書き出すことを求めます。それを前提として、事象について議論します。学生の数人に対して、次週の章について、テーマ、論点を整理したレジメの作成を求めます。質問は随時受け付け、フィードバックします。
-------	---

アクティブラーニングの実施方法						
○	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク	PBL
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習	反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項	出席を重視します。12回以上出席すれば、最低限の成績ではありますが、単位は取得可能と考えてください。(最低出席数は10回とします。)講義の過程で、自主的なレポートをする機会を設けます。その発表ひとつひとつが加点の機会だと考えてください。7回以上欠席した場合、特段の事由がない限り、不可とします。
----------	---

資格指定科目	
--------	--

評価方法・基準

評価前提条件	単位認定に必要となる最低出席回数は10回以上。授業開始後20分以降の出席は受講回数から除外する(公共交通機関などの遅延の場合は例外とする)。テキストを購入しない学生は、無条件で不可とします。(ただし、各講義にその時間のコピーなどを持参したの学生は例外とします。)					
評価方法	定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
	0%	50%	0%	0%	50%	0%

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
速読法の理解	各章のレジメ作成を2時間以内にできた。	各章のレジメ作成を3時間以内にできた。	レジメの作成の仕方が理解できた。	レジメの意義を理解できた。	レジメの意義を理解できなかった。
論点の把握	テーマ、論点を適切に提示できた。	テーマ、論点を適切に提示できた。	テーマの把握、論点の整理が一応できた。	テーマと論点がわかった。	テーマと論点が理解できなかった。
知識の習得	適切な知識を身に着けた。	適切な知識を身に着けた。	最重要課題についての知識を身に着けた。	必要最低限の知識はあった。	必要最低限の知識の習得ができなかった。
自主性	発表回数多数回以上を達成した学生。	発表回数3回以上を達成した学生。	発表回数2回以上を達成した学生。	発表回数1回以上を達成した学生。	発表できなかった学生。

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『ヨーロッパ思想入門』	岩田 靖夫	岩波書店			
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・4年		
開講時期	2Q	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	社会思想史(S) (科目ナンバリング: SOC122132, SOC422058)				
授業担当者(所属・職名)	金子 敏也 (社会福祉学科・特任准教授)		研究室所在	2号館7階	
単位数	2 (単位認定責任者: 金子 敏也)	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	シラバスの説明	シラバスを読んでおくこと(90分)	レジメの作り方の確認(90分)
2	ホメロスの描くギリシヤの英雄たち	テキストに何が書かれているか目を通す(90分)	復習(90分)
3	ギリシヤ三大悲劇とアテナイの民主制	テキストに何が書かれているか目を通す(90分)	復習(90分)
4	ソクラテス	テキストに何が書かれているか目を通す(90分)	復習(90分)
5	ペリクレスとプラトン	テキストに何が書かれているか目を通す(90分)	復習(90分)
6	アリストテレスとアレキサンダー大王	テキストに何が書かれているか目を通す(90分)	復習(90分)
7	旧約聖書の世界	テキストに何が書かれているか目を通す(90分)	復習(90分)
8	キリスト教とローマ帝国	テキストに何が書かれているか目を通す(90分)	復習(90分)
9	ゲルマン諸国家	テキストに何が書かれているか目を通す(90分)	復習(90分)
10	ルネッサンス	テキストに何が書かれているか目を通す(90分)	復習(90分)
11	宗教改革	テキストに何が書かれているか目を通す(90分)	復習(90分)
12	市民革命	テキストに何が書かれているか目を通す(90分)	復習(90分)
13	ルソーの社会契約説	テキストに何が書かれているか目を通す(90分)	復習(90分)
14	アダム・スミスと資本主義の芽生え	テキストに何が書かれているか目を通す(90分)	復習(90分)
15	ヘーゲル	テキストに何が書かれているか目を通す(90分)	復習(90分)
16	まとめ(レポートの解説、フィードバック)	テキストに何が書かれているか目を通す(90分)	復習(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・4年		
開講時期	2Q	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	日本文化史(S) (科目ナンバリング: HIS122133, HIS422057)				
授業担当者(所属・職名)	牧之内 友(社会福祉学科・非常勤講師)	研究室所在	1号館1階非常勤講師室		
単位数	2 (単位認定責任者: 牧之内 友)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

概要

履修目標
<p>ますますグローバル化が進む中で、諸地域の文化を学ぶことはより重要になっている。本授業では日本文化の一端である古典を読みながら、その基本知識を学んで日本文化の歴史を振り返るとともに、その特徴について考察できるようにする。</p>

授業の位置づけ
<p>社会福祉学科のDP「1(2)と(4)」、「2(2)」に対応する。</p>

到達目標
<ol style="list-style-type: none"> それぞれの古典の歴史的背景を理解する。 それぞれの古典の内容を理解する。 それぞれの古典について、適切に説明、紹介できる。

授業全体の内容と概要
<ol style="list-style-type: none"> 古典についてそれぞれテキスト読解を行う。 古典についての歴史的背景や評価の歴史の変遷をたどる。 現代における古典の理解について考察する。

授業の方法
<p>毎回、テキストとそれに伴う資料等をあらかじめ配布する。それに基づきテキスト読解を行う。受講者はそれぞれテキスト読解を担当し、発表を行う。提出されたレポートにはコメントするなどのフィードバックを行う。</p>

アクティブラーニングの実施方法						
	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク	PBL
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習	反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業	○ その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項
<p>毎回、テキスト読解を担当してもらい、それについて質疑応答を行う。また小文提出をもって出席に代える。私語厳禁。</p>

資格指定科目
<p>教職課程(社会・地理歴史)選択科目</p>

評価方法・基準

評価前提条件					
<p>単位認定に必要な出席回数は10回以上。</p>					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	50%	0%	0%	50%	0%

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
古典についての知識	古典についての関係性を含めた多様な知識を持つとともに、その評価の歴史的背景の変遷についての知識を持つことができた。	古典の基本知識や歴史的背景の知識を持ち、複数の古典について、その関係性を指摘できた。	古典の時代、作者などの基本知識に加え、その歴史的背景の知識を持つことができた。	古典の時代、作者などの基本知識を持つことができた。	古典の時代、作者などの基本知識を持つことができなかった。
テキスト読解	授業内において、テキスト読解において、適切に現代語訳でき、そのテキストについて説明し、それに対する評価を行うことができた。	授業内において、テキスト読解において、適切に現代語訳でき、かつそのテキストについての説明ができた。	授業内において、テキスト読解において、現代語訳し、適切に表現できた。	授業内において、テキスト読解において、現代語訳(速語訳)することができた。	授業内において、テキスト読解が行うことができなかった。
テキストについての考察	レポートにおいて、取り上げた3つ以上のテキストについて、現代語訳を行い、その意味について考察がなされているとともに、その関係性を分析できていた。	レポートにおいて、取り上げた複数のテキストについて、現代語訳を行い、その意味について考察がなされているとともに、その関係性を分析できていた。	レポートにおいて、取り上げた複数のテキストについて、現代語訳を行い、その意味について考察がなされていないかった。	レポートにおいて、取り上げたテキストの現代語訳を行い、その意味について考察がなされていないかった。	レポートにおいて、取り上げたテキストの現代語訳を行えず、その意味についての考察がなされていないかった。

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・4年		
開講時期	2Q	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	日本文化史(S) (科目ナンバリング: HIS122133, HIS422057)				
授業担当者(所属・職名)	牧之内 友(社会福祉学科・非常勤講師)		研究室所在	1号館1階非常勤講師室	
単位数	2 (単位認定責任者: 牧之内 友)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	シラバスの説明 オリエンテーション	シラバスを熟読し、本講義について理解する(90分)	説明内容を確認しまとめる(90分)
2	日本文化史概観 特に文化観について	学習内容に関連する事柄について調べる(90分)	資料およびノートをまとめる(90分)
3	古典を読む1 『古事記』 『日本書紀』	学習内容に関連する事柄について調べる(90分)	資料およびノートをまとめる(90分)
4	古典を読む2 『風土記』	学習内容に関連する事柄について調べる(90分)	資料およびノートをまとめる(90分)
5	古典を読む3 『竹取物語』	学習内容に関連する事柄について調べる(90分)	資料およびノートをまとめる(90分)
6	古典を読む4 『日本書紀』	学習内容に関連する事柄について調べる(90分)	資料およびノートをまとめる(90分)
7	古典を読む5 『今昔物語』	学習内容に関連する事柄について調べる(90分)	資料およびノートをまとめる(90分)
8	古典を読む6 『古今著聞集』	学習内容に関連する事柄について調べる(90分)	資料およびノートをまとめる(90分)
9	古典を読む7 『方丈記』	学習内容に関連する事柄について調べる(90分)	資料およびノートをまとめる(90分)
10	古典を読む8 『徒然草』	学習内容に関連する事柄について調べる(90分)	資料およびノートをまとめる(90分)
11	古典を読む9 御伽草子 その1	学習内容に関連する事柄について調べる(90分)	資料およびノートをまとめる(90分)
12	古典を読む10 御伽草子 その2	学習内容に関連する事柄について調べる(90分)	資料およびノートをまとめる(90分)
13	古典を読む11 『愚管抄』	学習内容に関連する事柄について調べる(90分)	資料およびノートをまとめる(90分)
14	古典を読む12 『神皇正統記』	学習内容に関連する事柄について調べる(90分)	資料およびノートをまとめる(90分)
15	古典を読む13 『談史余論』	学習内容に関連する事柄について調べる(90分)	資料およびノートをまとめる(90分)
16	まとめ	学習内容に関連する事柄について調べる(90分)	資料およびノートをまとめる(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・4年		
開講時期	3Q	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	日本政治史(S) (科目ナンバリング: POL122131, POL422059)				
授業担当者(所属・職名)	金子 敏也 (社会福祉学科・特任准教授)	研究室所在	2号館7階		
単位数	2 (単位認定責任者: 金子 敏也)	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

概要

履修目標	速読法の取得する。テーマと論点を明記するレジメの作成能力の構築する。
------	------------------------------------

授業の位置づけ	社会福祉学科のDP 「1(2)」、「2(1)」に対応する。
---------	-------------------------------

到達目標	明治以降の近代日本の政治制度の特色を理解し、戦後の政治体制との類似性と相違性を理解できる。
------	---

授業全体の内容と概要	北岡伸一著『日本政治史』を読むことで、明治維新から第二次世界大戦直前までの日本政治の特色と問題点の解明を目指します。各時代の政治的な課題を的確に把握し、漠然とした歴史像ではなく、象徴的な問題点と関連させて歴史を見る目を養ってもらいたい。
------------	--

授業の方法	講義の前半の60分弱を通常の講義にあて、残りの30分は各学生が講義内容について何が理解でき、何がわからなかったかを論述してもらいます。3週ないし4週に一度、書き出したメモ書きの提出を求めます。毎回出席して、メモ書きさえ出せば、単位習得可能な講義とします。わからなかったことについて黒板に書き出すことを求めます。それを前提として、事象について議論します。学生の数人に対して、次週の章について、テーマ、論点を整理したレジメの作成を求めます。わからなかったことについての積極的な調査と発表を歓迎します。学生の数人に対して、次週の章について、テーマ、論点を整理したレジメの作成を求めるともします。質問は随時受け付け、フィードバックします。
-------	---

アクティブラーニングの実施方法						
○	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク	PBL
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習	反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項	出席を重視します。12回以上出席すれば、最低限の成績ではありますが、単位は取得可能と考えてください。(最低出席数は10回とします。)講義の過程で、自主的なレポートをする機会を設けます。その発表ひとつひとつが加点の機会だと考えてください。7回以上欠席した場合、特段の事由がない限り、不可とします。
----------	---

資格指定科目	
--------	--

評価方法・基準

評価前提条件	単位認定に必要となる最低出席回数は10回以上。授業開始後2.0分以降の出席は受講回数から除外する(公共交通機関などの遅延の場合は例外とする)。テキストを購入しない学生は、無条件で不可とします。(ただし、各講義にその時間のコピーなどを持参した学生は例外とします。)					
評価方法	定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
	0%	50%	0%	0%	50%	0%

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
速読法の理解	各章のレジメ作成を2時間以内にてきた。	各章のレジメ作成3時間以内にてきた。	レジメの作成の仕方が理解できた。	レジメの意義を理解できた。	レジメの意義を理解できなかった。
論点の把握	テーマ、論点を適切に提示できた。	テーマ、論点を適切に提示できた。	テーマの把握、論点の整理が一応できた。	テーマと論点がわかった。	テーマと論点の理解が得られなかった。
知識の習得	適切な知識を身に着けた。	適切な知識を身に着けた。	最重要課題についての知識を身に着けた。	必要最低限の知識はあった。	必要最低限の知識の習得ができなかった。
自主性	発表回数多数回以上を達成した学生。	発表回数3回以上を達成した学生。	発表回数2回以上を達成した学生。	発表回数1回以上を達成した学生。	発表できなかった学生。

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『日本政治史』	北岡 伸一	有斐閣	2011年		
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・4年		
開講時期	3Q	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	日本政治史(S) (科目ナンバリング: POL122131, POL422059)				
授業担当者(所属・職名)	金子 敏也 (社会福祉学科・特任准教授)		研究室所在	2号館7階	
単位数	2 (単位認定責任者: 金子 敏也)	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	シラバスの説明	シラバスを読んでおくこと(90分)	レジメの作り方の確認(90分)
2	幕藩体制の政治的特質	テキストに何が書かれているか目を通す(90分)	復習(90分)
3	西洋の衝撃への対応	テキストに何が書かれているか目を通す(90分)	復習(90分)
4	明治国家の建設	テキストに何が書かれているか目を通す(90分)	復習(90分)
5	政治批判の噴出	テキストに何が書かれているか目を通す(90分)	復習(90分)
6	明治憲法体制の成立	テキストに何が書かれているか目を通す(90分)	復習(90分)
7	議会政治の定着	テキストに何が書かれているか目を通す(90分)	復習(90分)
8	日清・日露戦争	テキストに何が書かれているか目を通す(90分)	復習(90分)
9	帝国の膨張	テキストに何が書かれているか目を通す(90分)	復習(90分)
10	政党政治の発展	テキストに何が書かれているか目を通す(90分)	復習(90分)
11	国際協調と政党内閣	テキストに何が書かれているか目を通す(90分)	復習(90分)
12	軍部の台頭	テキストに何が書かれているか目を通す(90分)	復習(90分)
13	最帝国の崩壊	テキストに何が書かれているか目を通す(90分)	復習(90分)
14	敗戦・占領・講和	テキストに何が書かれているか目を通す(90分)	復習(90分)
15	植民地とその後	テキストに何が書かれているか目を通す(90分)	復習(90分)
16	まとめ (レポートの解説、フィードバック)	テキストに何が書かれているか目を通す(90分)	復習(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・4年		
開講時期	4Q	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	国際法(S) (科目ナンバリング: LAW122144, LAW423055)				
授業担当者(所属・職名)	岡島 徳昭(経営学科・特任教授)	研究室所在	1号館3階		
単位数	2 (単位認定責任者: 岡島 徳昭)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

概要

履修目標
国際社会のルールが国際法である。国際法は国際社会を構成する各々国家が遵守すべき法である。国際社会の秩序維持に欠かすことのできない国際法についての関心を深め、国際社会のルールについて学ぶ。

授業の位置づけ
社会福祉学科のDP「1(2)」、「2(2)」に対応する。

到達目標
「国際社会の平和と安全」を維持するための国際法について理解を深め、更に高度な知識を得るための基礎をつくる。

授業全体の内容と概要
国際法の存在意義について考え、国際法に関する基礎知識の習得を目指す。

授業の方法
板書、パワーポイントを用い講義形式・学生参加型授業を行う。中間テスト、定期試験の解説等のフィードバックを実施する。

アクティブラーニングの実施方法						
	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク	PBL
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習	反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項
出席重視, テキスト持参

資格指定科目
教職課程(社会)選択科目、教職課程(公民)必修科目

評価方法・基準

評価前提条件					
成績評価には10回以上の出席必要。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
40%	0%	0%	40%	20%	0%

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
参加型授業への取り組み姿勢	大いに意欲・関心・興味を持って授業に参加していた。クラスでの発表も多く積極的だった。	意欲・関心・興味を持って授業に参加していた。クラスでの発表に努め積極的だった。	ある程度意欲・関心・興味を持って授業に参加していた。やや積極的だった。	あまり意欲・関心・興味を感じられなかった。無難に授業を消化していた。やや積極性に欠けていた。	全く意欲・関心・興味を感じられなかった。遅刻・欠席が目立った。積極性に欠けていた。
知識	試験の成績9割以上。用語・理論共によく理解していた。	試験の成績8割以上。用語・理論を理解していた。	試験の成績7割以上。用語・理論をある程度理解していた。	試験の成績6割以上。用語・理論の理解が浅かった。	試験の成績6割以下。用語・理論の理解ができていなかった。
思考力・表現力	思考力に長けている。表現方法も豊かで自分の考えを正確に伝えることができている。	思考力・表現能力共に良。自分の考えを適切に伝えることができている。	思考力・表現力共に普通。自分の考えを伝えることができている。	思考力・表現力共に若干弱かった。自分の考えを伝えることに苦勞していた。	思考力・表現力共に弱かった。自分の考えを正確に伝えることができなかった。

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『はじめの国際法 第2版』	尾崎 哲夫	自由国民社	2016	978-4-426	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・4年		
開講時期	4Q	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	国際法(S) (科目ナンバリング: LAW122144, LAW423055)				
授業担当者(所属・職名)	岡島 徳昭(経営学科・特任教授)		研究室所在	1号館3階	
単位数	2 (単位認定責任者: 岡島 徳昭)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

授業計画

各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間			
回	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	授業の進め方、採点に関すること、その他授業に関するガイダンス。(シラバスの説明) 国際法とは何か	シラバスを読むこと。(90分)	授業中に学んだことを復習。(90分)
2	国際私法と国際公法について	指定されたページを読み予習する。(90分)	授業中に学んだことを復習。(90分)
3	国際公法とは何か 国際法主体・国際法の法源	指定されたページを読み予習する。(90分)	授業中に学んだことを復習。(90分)
4	国際法の歴史・現代国際法制度	指定されたページを読み予習する。(90分)	授業中に学んだことを復習。(90分)
5	条約、条約の改定・修正	指定されたページを読み予習する。(90分)	授業中に学んだことを復習。(90分)
6	国家とは 国家は国際法の主体	指定されたページを読み予習する。(90分)	授業中に学んだことを復習。(90分)
7	国家の承認 政府の承認	指定されたページを読み予習する。(90分)	授業中に学んだことを復習。(90分)
8	中間テスト 国家の権利・義務・権能	指定されたページを読み予習する。(90分)	授業中に学んだことを復習。(90分)
9	国家領域 「陸」「海」「空」	指定されたページを読み予習する。(90分)	授業中に学んだことを復習。(90分)
10	海の区分 内水・領海・	指定されたページを読み予習する。(90分)	授業中に学んだことを復習。(90分)
11	海の区分 接続水域・排他的経済水域・公海	指定されたページを読み予習する。(90分)	授業中に学んだことを復習。(90分)
12	領空と国際空域	指定されたページを読み予習する。(90分)	授業中に学んだことを復習。(90分)
13	宇宙空間	指定されたページを読み予習する。(90分)	授業中に学んだことを復習。(90分)
14	国際紛争・領土問題	指定されたページを読み予習する。(90分)	授業中に学んだことを復習。(90分)
15	国際紛争・領土問題	指定されたページを読み予習する。(90分)	授業中に学んだことを復習。(90分)
16	総合評価 定期試験60分、解説30分	指定されたページを読み予習する。(90分)	授業中に学んだことを復習。(90分)

授業計画			
回	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・4年		
開講時期	後期	授業形態	実習	必修・選択	選択
科目名称	特別支援教育実習（事（科目ナンバリング：SNE123126））				
授業担当者（所属・職名）	荒木 広式（社会福祉学科・特任教授） 、坂上 俊樹（社会福祉学科・特任	研究室所在	2号館8階		
単位数	1（単位認定責任者：荒木 広式）	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり 左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	学校現場や教育行政の経験のある教員がその経験を活かして、特別支援教育に係る実践的・今日的課題への対応を指導する。			

概要

履修目標
<p>特殊教育から特別支援教育に転換した趣旨を的確に把握し、特別支援学校教育実習の意義を認識するとともに、常に教育実習を見据えて、特別支援学校における教師の役割について理解する。</p>

授業の位置づけ
<p>社会福祉学科のDP「1（2）と（3）と（5）」、「2（2）」に対応する。</p>

到達目標
<p>特別支援学校の教育の概要について理解し、障害のある子どもの教育指導の在り方について基礎的な知識・技能・態度を身に付けることができる。</p>

授業全体の内容と概要
<p>特別支援学校の教育の概要及び授業の実際について理解できるようにするとともに、学校の教育活動全般についても具体的な理解をはかるようにする。また、テーマに関する事項に関して思考・考察、意見交換、討論、発表等の一連の活動を行う。</p>

授業の方法
<p>授業は、パワーポイント及び配布資料で実施し、資料にて説明した後、グループワークにてグループ発表、レポート提出（15回）を行う。なお、レポートは評価並びにコメントを記入し、フィードバックする。</p>

アクティブラーニングの実施方法																								
<table border="1"> <tr> <td><input type="checkbox"/></td> <td>プレゼンテーション</td> <td><input type="checkbox"/></td> <td>グループワーク</td> <td><input type="checkbox"/></td> <td>フィールドワーク</td> <td><input type="checkbox"/></td> <td>PBL</td> </tr> <tr> <td><input type="checkbox"/></td> <td>模擬授業</td> <td><input type="checkbox"/></td> <td>ロールプレイ</td> <td><input type="checkbox"/></td> <td>調査学習</td> <td><input type="checkbox"/></td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td><input type="checkbox"/></td> <td>ディスカッション</td> <td><input type="checkbox"/></td> <td>実験・実習・実技</td> <td><input type="checkbox"/></td> <td>双方向授業</td> <td><input type="checkbox"/></td> <td>その他（授業の方法参照）</td> </tr> </table>	<input type="checkbox"/>	プレゼンテーション	<input type="checkbox"/>	グループワーク	<input type="checkbox"/>	フィールドワーク	<input type="checkbox"/>	PBL	<input type="checkbox"/>	模擬授業	<input type="checkbox"/>	ロールプレイ	<input type="checkbox"/>	調査学習	<input type="checkbox"/>	反転授業	<input type="checkbox"/>	ディスカッション	<input type="checkbox"/>	実験・実習・実技	<input type="checkbox"/>	双方向授業	<input type="checkbox"/>	その他（授業の方法参照）
<input type="checkbox"/>	プレゼンテーション	<input type="checkbox"/>	グループワーク	<input type="checkbox"/>	フィールドワーク	<input type="checkbox"/>	PBL																	
<input type="checkbox"/>	模擬授業	<input type="checkbox"/>	ロールプレイ	<input type="checkbox"/>	調査学習	<input type="checkbox"/>	反転授業																	
<input type="checkbox"/>	ディスカッション	<input type="checkbox"/>	実験・実習・実技	<input type="checkbox"/>	双方向授業	<input type="checkbox"/>	その他（授業の方法参照）																	

履修上の注意事項
<p>特別支援教育実習（事前指導、4年）を併せた2単位の取得が必要である。教職科目（特別支援教育）であることから、遅刻や欠席をしないように努めること。</p>

資格指定科目
<p>教職課程（特別支援）必修科目</p>

評価方法・基準

評価前提条件												
<p>単位認定に必要な最低出席回数は、10回以上。</p>												
評価方法												
<table border="1"> <tr> <th>定期試験</th> <th>レポート</th> <th>課題・作品</th> <th>中間テスト</th> <th>平常点</th> <th>その他</th> </tr> <tr> <td>0%</td> <td>60%</td> <td>20%</td> <td>0%</td> <td>0%</td> <td>20%</td> </tr> </table>	定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他	0%	60%	20%	0%	0%	20%
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他							
0%	60%	20%	0%	0%	20%							

ルーブリック																													
<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">評価項目</th> <th colspan="5">評価基準</th> </tr> <tr> <th>履修項目を超えたレベルを達成している</th> <th>履修項目をほぼ達成している</th> <th>履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している</th> <th>到達目標を達成している</th> <th>到達目標を達成していない</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>特別支援学校の教育の概要及び障害のある子どもの教育指導の在り方</td> <td>特別支援教育に係る知識・技能を積極的に習得し、ニーズに対応した教育指導が的確に実施できた。</td> <td>特別支援教育に係る知識・技能を習得し、ニーズに対応した教育指導が実施できた。</td> <td>特別支援教育に係る知識・技能を習得し、ニーズに対応した教育指導がほぼ実施できた。</td> <td>特別支援教育に係る基本的な知識・技能を習得し、ニーズに対応した教育指導がほぼ実施できた。</td> <td>特別支援教育に係る基本的な知識・技能を習得し、ニーズに対応した教育指導がほぼ実施できなかった。</td> </tr> <tr> <td>授業テーマに関するレポートの記述</td> <td>テーマに基づき、的確な思考力・判断力のもと、論理的な内容で、時間内に記述できた。</td> <td>テーマに基づき、思考力・判断力を活かした内容で、時間内に記述できた。</td> <td>テーマに基づき、資料を参考にして、思考力・判断力のもと、時間内に記述できた。</td> <td>テーマに基づき、資料を参考にして、自分なりの考えで、ほぼ時間内に記述できた。</td> <td>テーマに基づき、資料を参考にして、自分なりの考えで、時間内に記述できなかった。</td> </tr> <tr> <td>授業への参加態度・姿勢</td> <td>授業に主体的・積極的に参加することができた。</td> <td>授業に積極的に参加することができた。</td> <td>授業に関心を持って参加することができた。</td> <td>授業にほぼ関心を持って参加することができた。</td> <td>授業に関心を持って参加することができなかった。</td> </tr> </tbody> </table>	評価項目	評価基準					履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない	特別支援学校の教育の概要及び障害のある子どもの教育指導の在り方	特別支援教育に係る知識・技能を積極的に習得し、ニーズに対応した教育指導が的確に実施できた。	特別支援教育に係る知識・技能を習得し、ニーズに対応した教育指導が実施できた。	特別支援教育に係る知識・技能を習得し、ニーズに対応した教育指導がほぼ実施できた。	特別支援教育に係る基本的な知識・技能を習得し、ニーズに対応した教育指導がほぼ実施できた。	特別支援教育に係る基本的な知識・技能を習得し、ニーズに対応した教育指導がほぼ実施できなかった。	授業テーマに関するレポートの記述	テーマに基づき、的確な思考力・判断力のもと、論理的な内容で、時間内に記述できた。	テーマに基づき、思考力・判断力を活かした内容で、時間内に記述できた。	テーマに基づき、資料を参考にして、思考力・判断力のもと、時間内に記述できた。	テーマに基づき、資料を参考にして、自分なりの考えで、ほぼ時間内に記述できた。	テーマに基づき、資料を参考にして、自分なりの考えで、時間内に記述できなかった。	授業への参加態度・姿勢	授業に主体的・積極的に参加することができた。	授業に積極的に参加することができた。	授業に関心を持って参加することができた。	授業にほぼ関心を持って参加することができた。	授業に関心を持って参加することができなかった。
評価項目		評価基準																											
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない																								
特別支援学校の教育の概要及び障害のある子どもの教育指導の在り方	特別支援教育に係る知識・技能を積極的に習得し、ニーズに対応した教育指導が的確に実施できた。	特別支援教育に係る知識・技能を習得し、ニーズに対応した教育指導が実施できた。	特別支援教育に係る知識・技能を習得し、ニーズに対応した教育指導がほぼ実施できた。	特別支援教育に係る基本的な知識・技能を習得し、ニーズに対応した教育指導がほぼ実施できた。	特別支援教育に係る基本的な知識・技能を習得し、ニーズに対応した教育指導がほぼ実施できなかった。																								
授業テーマに関するレポートの記述	テーマに基づき、的確な思考力・判断力のもと、論理的な内容で、時間内に記述できた。	テーマに基づき、思考力・判断力を活かした内容で、時間内に記述できた。	テーマに基づき、資料を参考にして、思考力・判断力のもと、時間内に記述できた。	テーマに基づき、資料を参考にして、自分なりの考えで、ほぼ時間内に記述できた。	テーマに基づき、資料を参考にして、自分なりの考えで、時間内に記述できなかった。																								
授業への参加態度・姿勢	授業に主体的・積極的に参加することができた。	授業に積極的に参加することができた。	授業に関心を持って参加することができた。	授業にほぼ関心を持って参加することができた。	授業に関心を持って参加することができなかった。																								

教科書・参考文献・資料等

教科書																																										
<table border="1"> <thead> <tr> <th>No</th> <th>書籍名</th> <th>著者</th> <th>出版社</th> <th>出版年</th> <th>ISBN</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>『使用しない』</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>4</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>5</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考	1	『使用しない』						2							3							4							5						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考																																				
1	『使用しない』																																									
2																																										
3																																										
4																																										
5																																										

参考文献・資料等																																										
<table border="1"> <thead> <tr> <th>No</th> <th>書籍名</th> <th>著者</th> <th>出版社</th> <th>出版年</th> <th>ISBN</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>『特別支援教育の基礎・基本 改訂版』</td> <td>国立特別支援教育総合研究所</td> <td>ジアース教育新社</td> <td>2015</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>4</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>5</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考	1	『特別支援教育の基礎・基本 改訂版』	国立特別支援教育総合研究所	ジアース教育新社	2015			2							3							4							5						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考																																				
1	『特別支援教育の基礎・基本 改訂版』	国立特別支援教育総合研究所	ジアース教育新社	2015																																						
2																																										
3																																										
4																																										
5																																										

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・4年		
開講時期	後期	授業形態	実習	必修・選択	選択
科目名称	特別支援教育実習（事（科目ナンバリング：SNE123126））				
授業担当者（所属・職名）	荒木 広式（社会福祉学科・特任教授）、 坂上 俊樹（社会福祉学科・特任		研究室所在	2号館 8階	
単位数	1	（単位認定責任者：荒木 広式）	CAP制		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	学校現場や教育行政の経験のある教員がその経験を活かして、特別支援教育に係る実践的・今日的課題への対応を指導する。		

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明、オリエンテーション	関連する資料の収集に努めること。（90分）	講義資料、授業レポートをファイル化し、復習しておくこと。（90分）
2	児童生徒の障害の状態・特性の理解	次回授業範囲を予習し、関連する資料の収集に努めること。（90分）	講義資料、授業レポートをファイル化し、復習しておくこと。（90分）
3	教室・寄宿舎等における生活の理解	次回授業範囲を予習し、関連する資料の収集に努めること。（90分）	講義資料、授業レポートをファイル化し、復習しておくこと。（90分）
4	学校環境（組織、学級編制等）の理解	次回授業範囲を予習し、関連する資料の収集に努めること。（90分）	講義資料、授業レポートをファイル化し、復習しておくこと。（90分）
5	教育課程の研究	次回授業範囲を予習し、関連する資料の収集に努めること。（90分）	講義資料、授業レポートをファイル化し、復習しておくこと。（90分）
6	学習指導方法の研究（1）	次回授業範囲を予習し、関連する資料の収集に努めること。（90分）	講義資料、授業レポートをファイル化し、復習しておくこと。（90分）
7	自作教材の工夫に関する研究	次回授業範囲を予習し、関連する資料の収集に努めること。（90分）	講義資料、授業レポートをファイル化し、復習しておくこと。（90分）
8	学習指導方法の研究（2）	次回授業範囲を予習し、関連する資料の収集に努めること。（90分）	講義資料、授業レポートをファイル化し、復習しておくこと。（90分）
9	特別活動の研究	次回授業範囲を予習し、関連する資料の収集に努めること。（90分）	講義資料、授業レポートをファイル化し、復習しておくこと。（90分）
10	学校行事の研究	次回授業範囲を予習し、関連する資料の収集に努めること。（90分）	講義資料、授業レポートをファイル化し、復習しておくこと。（90分）
11	週時程表の研究	次回授業範囲を予習し、関連する資料の収集に努めること。（90分）	講義資料、授業レポートをファイル化し、復習しておくこと。（90分）
12	生徒指導の研究・教育相談の研究	次回授業範囲を予習し、関連する資料の収集に努めること。（90分）	講義資料、授業レポートをファイル化し、復習しておくこと。（90分）
13	特別支援教育実習報告会（実習直後に）	教育実習記録を整理し実習報告の準備に努めること。（90分）	講義資料、授業レポートをファイル化し、復習しておくこと。（90分）
14	教職の適性・進路希望	次回授業範囲を予習し、関連する資料の収集に努めること。（90分）	講義資料、授業レポートをファイル化し、復習しておくこと。（90分）
15	教師の服務の理解	次回授業範囲を予習し、関連する資料の収集に努めること。（90分）	講義資料、授業レポートをファイル化し、復習しておくこと。（90分）
16	レポート（最終回において解説し、フィードバックする。）	講義資料等で講義内容を整理する。（90分）	講義資料を見直す。（90分）

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・4年		
開講時期	後期集中	授業形態	実習	必修・選択	選択
科目名称	特別支援教育実習 (科目ナンバリング：SNE124124)				
授業担当者(所属・職名)	荒木 広式(社会福祉学科・特任教授)、 坂上 俊樹(社会福祉学科・特任)	研究室所在	2号館8階		
単位数	2 (単位認定責任者：荒木 広式)	CAP制	×		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	学校現場や教育行政の経験のある教員がその経験を活かして、特別支援教育に係る実践的・今日的課題への対応を指導する。		

概要

履修目標
特別支援学校教諭を希望する学生が、講義等をおして得た教育内容・方法の理論や技術を教育現場で体験的に理解するとともに、教職に対する新たな課題の発見をとおして自己認識を高める。

授業の位置づけ
社会福祉学科のDP「1(2)と(3)と(5)」、「2(2)」に対応する。

到達目標
教育実習をおして、教育実習校の組織・教員間の協働意識・児童生徒の安全指導・保護者との連携等を理解することができる。

授業全体の内容と概要
教育実習校の教育活動・教育課程・学級経営・生徒指導・進路指導・教育相談の理解 教育実習校における授業参観、参観をおした生徒理解と実習授業の実践 学習指導案の作成と研究授業における指導 教職にたいする使命感・責任感と自己の理解

授業の方法
特別支援学校において教育実習を行う。

アクティブラーニングの実施方法						
	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク	PBL
○	模擬授業		ロールプレイ		調査学習	反転授業
	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項
教育実習生としての心得を守るとともに、教育実習校の指示に従うこと。

資格指定科目
教職課程(特別支援)必修科目

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な出席回数は、20回以上。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	0%	0%	0%	100%

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
教育実習校の教育活動の理解	教育実習校の組織・教育活動等に係る知識・技能を積極的に習得し、主体的な実習が実施できた。	教育実習校の組織・教育活動等に係る知識・技能を積極的に習得し、実習が実施できた。	教育実習校の組織・教育活動等に係る知識・技能を習得し、実習が実施できた。	教育実習校の組織・教育活動等に係る知識・技能をほぼ習得し、実習が実施できた。	教育実習校の組織・教育活動等に係る知識・技能を習得した実習が実施できなかった。
教育実習校での実習授業	授業参観等をおして児童生徒理解を積極的図り、確かな思考力・判断力のもと学習指導案に基づいた授業が展開できた。	授業参観等をおして児童生徒理解を図り、思考力・判断力のもと学習指導案に基づいた授業が展開できた。	授業参観等をおして児童生徒理解を図るようこころがけ、思考力・判断力を大切に学習指導案に基づいた授業が展開できた。	授業参観等をおしての児童生徒理解は十分ではなかったが、学習指導案に基づいた授業が展開できた。	授業参観等をおして児童生徒理解を図ることができず、学習指導案に基づいた授業が展開できなかった。
教職に対する自己認識	教職に対する使命感・責任感を持って、新たな課題を発見するなど、自己認識を高めることができた。	教職に対する使命感・責任感を持って、課題発見に取り組みなど、自己認識を高めることができた。	教職に対する使命感・責任感を持って取り組むなど、自己認識を高めることができた。	教職に対する責任感を持って取り組むなどの姿勢ができた。	教職に対する責任感を持って取り組むことができなかった。

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『使用しない』					
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『特別支援教育の基礎・基本 改訂版』	国立特別支援教育総合研究所	ジアース教育新社	2015		
2						
3						
4						
5						

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・4年		
開講時期	後期集中	授業形態	実習	必修・選択	選択
科目名称	特別支援教育実習 (科目ナンバリング: SNE124124)				
授業担当者(所属・職名)	荒木 広式(社会福祉学科・特任教授) 、坂上 俊樹(社会福祉学科・特任)		研究室所在	2号館8階	
単位数	2	(単位認定責任者: 荒木 広式)	CAP制	x	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容 学校現場や教育行政の経験のある教員がその経験を活かして、特別支援教育に係る実践的・今日的課題への対応を指導する。			

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	1~32回 ・講話受講(校長・教頭・教務主任・生徒指導主事・寮務主任等)	教育実習に係る諸事項についての計画的、継続的な準備(各45分)	教育実習に係る諸事項についての計画的、継続的な整理(各45分)
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
16			

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・4年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	社会福祉特講 (科目ナンバリング：SWS122151)				
授業担当者(所属・職名)	小早川 俊哉(社会福祉学科・教授)、 上原 正希(社会福祉学科・教授) 杉本	研究室所在	1号館2階		
単位数	1 (単位認定責任者：大島 康雄)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	実際に受験を行った教員が過去問をベースに指導を行う。		

概要

履修目標	社会福祉士・精神保健福祉士の国家試験に合格できる力を身に着けるため受験対策をする。
------	---

授業の位置づけ	社会福祉学科のDP「1(1)と(2)と(3)と(4)」、「2(1)と(2)と(4)」に対応する。
---------	--

到達目標	過去3年間の過去問の正答率が8割程度であり、問題の内容、解答を説明できる。
------	---------------------------------------

授業全体の内容と概要	科目ごとに過去問を行い、解答の解説を行います。また、問題毎に説明ができるまで、取り組んでもらう。
------------	--

授業の方法	過去問を回答してもらい、頻出分野を解説します。板書や資料などを用いて学習を進めていきます。質問や疑問点などは解説を行い、そのつど対応します。
-------	--

アクティブラーニングの実施方法							
	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項	受験科目になるため、基本的には毎回出席をしてもらう必要があります。
----------	-----------------------------------

資格指定科目	社会福祉士国家試験受験資格課程 、精神保健福祉士国家試験受験資格課程
--------	---------------------------------------

評価方法・基準

評価前提条件	単位認定に必要な最低出席回数は12回以上					
評価方法	定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
	0%	0%	25%	25%	50%	0%

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
授業に出席し、科目ごとに問題を解説することができる。	15回以上出席し、共通科目の問題を5科目以上解説することができた。	15回以上出席し、共通科目の問題を4科目解説することができた。	14回出席し、共通科目の問題を3科目解説することができた。	13回出席し、共通科目の問題を2科目解説することができた。	12回以下の出席しかできなかった。
社会福祉士・精神保健福祉士国家試験の第30回の共通科目を8割以上の点数で回答できる。	第31、32回の共通科目の点数が8割以上できた。	第31、32回の共通科目の点数が7割できた。	第31、32回の共通科目の点数が6割できた。	第31、32回の共通科目の点数が5割できた。	第31、32回の共通科目の点数が4割以下しかできなかった。
30回の共通科目の解説が行える。	11科目の解説を行うことができた。	9-10科目の解説を行うことができた。	7-8目の解説を行うことができた。	5-6科目の解説が行うことができた。	解説を行うことができなかった。

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・4年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	社会福祉特講 (科目ナンバリング: SWS122151)				
授業担当者(所属・職名)	小早川 俊哉(社会福祉学科・教授)、 上原 正希(社会福祉学科・教授)杉本		研究室所在	1号館2階	
単位数	1	(単位認定責任者: 大島 康雄)	CAP制		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容 実際に受験を行った教員が過去問をベースに指導を行う。			

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	オリエンテーション、シラバスの説明	過去問の学習(90分)	過去問の振り返り、解説(90分)
2	過去問の学習方法	過去問の学習(90分)	過去問の振り返り、解説(90分)
3	人体の構想と機能及び疾病	過去問の学習(90分)	過去問の振り返り、解説(90分)
4	心理学理論と心理的支援	過去問の学習(90分)	過去問の振り返り、解説(90分)
5	社会理論と社会システム	過去問の学習(90分)	過去問の振り返り、解説(90分)
6	現代社会と福祉	過去問の学習(90分)	過去問の振り返り、解説(90分)
7	地域福祉の理論と方法	過去問の学習(90分)	過去問の振り返り、解説(90分)
8	福祉行政と福祉計画	過去問の学習(90分)	過去問の振り返り、解説(90分)
9	社会保障	過去問の学習(90分)	過去問の振り返り、解説(90分)
10	中間テスト	中間テストに向けた学習(90分)	過去問の振り返り、解説(90分)
11	障害者に対する支援と障害者自立支援制度	過去問の学習(90分)	過去問の振り返り、解説(90分)
12	低所得者に対する支援と生活保護制度	過去問の学習(90分)	過去問の振り返り、解説(90分)
13	保健医療サービス	過去問の学習(90分)	過去問の振り返り、解説(90分)
14	権利擁護と成年後見制度	過去問の学習(90分)	過去問の振り返り、解説(90分)
15	第30回共通科目のテスト	第30回の予習(30分)	過去問の振り返り、解説(90分)
16	各科目の解説	解説のロールプレイ(90分)	過去問の振り返り、解説(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・4年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	社会福祉特講 (科目ナンバリング: SWS122152)				
授業担当者(所属・職名)	小早川 俊哉(社会福祉学科・教授)、 上原 正希(社会福祉学科・教授) 杉本		研究室所在	1号館2階	
単位数	1	(単位認定責任者: 大島 康雄)	CAP制		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	実際に受験を行った教員が過去問をベースに指導を行う。		

概要

履修目標																					
社会福祉士・精神保健福祉士の国家試験に合格できる力を身に着けため受験対策をする。																					
授業の位置づけ																					
社会福祉学科のDP「1(1)と(2)と(3)と(4)」、「2(1)と(2)と(4)」に対応する。																					
到達目標																					
過去3年間の過去問の正答率が8割程度であり、問題の内容、解答を説明できる。																					
授業全体の内容と概要																					
科目ごとに過去問を行い、解答の解説を行います。また、問題毎に説明ができるまで、取り組んでもらう。																					
授業の方法																					
過去問を回答してもらい、頻出分野を解説します。板書や資料などを用いて学習を進めていきます。質問や疑問点などは解説を行い、そのつど対応します。																					
アクティブラーニングの実施方法																					
<table border="1"> <tr> <td>プレゼンテーション</td> <td></td> <td>グループワーク</td> <td></td> <td>フィールドワーク</td> <td></td> <td>PBL</td> </tr> <tr> <td>模擬授業</td> <td></td> <td>ロールプレイ</td> <td></td> <td>調査学習</td> <td>○</td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td>ディスカッション</td> <td></td> <td>実験・実習・実技</td> <td></td> <td>双方向授業</td> <td></td> <td>その他(授業の方法参照)</td> </tr> </table>	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL	模擬授業		ロールプレイ		調査学習	○	反転授業	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)
プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL															
模擬授業		ロールプレイ		調査学習	○	反転授業															
ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)															
履修上の注意事項																					
受験科目になるため、基本的には毎回出席をしてもらう必要があります。																					
資格指定科目																					
社会福祉士国家試験受験資格課程 、精神保健福祉士国家試験受験資格課程																					

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数は12回以上					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	25%	25%	50%	0%

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
授業に出席し、科目ごとに問題を解説することができる。	15回以上出席し、共通科目の問題を5科目以上解説することができた。	15回以上出席し、共通科目の問題を4科目解説することができた。	14回出席し、共通科目の問題を3科目解説することができた。	13回出席し、共通科目の問題を2科目解説することができた。	12回以下の出席しかできなかった。
社会福祉士・精神保健福祉士国家試験の第3回の共通科目を9割以上の点数で回答できる。	第33回の共通科目の点数が9割以上できた。	第33回の共通科目の点数が8割できた。	第33回の共通科目の点数が6-7割できた。	第33回の共通科目の点数が5割できた。	第33回の共通科目の点数が4割以下しかできなかった。
31回の共通科目の解説が行える。	11科目の解説ができた。	9-10科目の解説ができた。	7-8科目の解説ができた。	5-6科目の解説ができた。	解説を行うことができた。

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・4年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	社会福祉特講 (科目ナンバリング: SWS122152)				
授業担当者(所属・職名)	小早川 俊哉(社会福祉学科・教授)、 上原 正希(社会福祉学科・教授)杉本		研究室所在	1号館2階	
単位数	1	(単位認定責任者: 大島 康雄)	CAP制		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容 実際に受験を行った教員が過去問をベースに指導を行う。			

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	オリエンテーション、シラバスの説明	過去問の学習(90分)	過去問の振り返り、解説(90分)
2	過去問の学習方法	過去問の学習(90分)	過去問の振り返り、解説(90分)
3	人体の構想と機能及び疾病	過去問の学習(90分)	過去問の振り返り、解説(90分)
4	心理学理論と心理的支援	過去問の学習(90分)	過去問の振り返り、解説(90分)
5	社会理論と社会システム	過去問の学習(90分)	過去問の振り返り、解説(90分)
6	現代社会と福祉	過去問の学習(90分)	過去問の振り返り、解説(90分)
7	地域福祉の理論と方法	過去問の学習(90分)	過去問の振り返り、解説(90分)
8	福祉行政と福祉計画	過去問の学習(90分)	過去問の振り返り、解説(90分)
9	社会保障	過去問の学習(90分)	過去問の振り返り、解説(90分)
10	中間テスト	中間テストに向けた学習(90分)	過去問の振り返り、解説(90分)
11	障害者に対する支援と障害者自立支援制度	過去問の学習(90分)	過去問の振り返り、解説(90分)
12	低所得者に対する支援と生活保護制度	過去問の学習(90分)	過去問の振り返り、解説(90分)
13	保健医療サービス	過去問の学習(90分)	過去問の振り返り、解説(90分)
14	権利擁護と成年後見制度	過去問の学習(90分)	過去問の振り返り、解説(90分)
15	第31回共通科目のテスト	第31回の予習(90分)	過去問の振り返り、解説(90分)
16	各科目の解説	解説のロールプレイ(90分)	過去問の振り返り、解説(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・2年		
開講時期	4Q	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	スクールソーシャルワーク論 (科目ナンバリング: SWS122057)				
授業担当者(所属・職名)	上原 正希(社会福祉学科・教授)	研究室所在	1号館2階		
単位数	2 (単位認定責任者: 上原 正希)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	社会福祉士・精神保健福祉士・介護支援専門員の資格を持ち、日本ソーシャルワーカー協会理事であるソーシャルワーカーとして現場経験のある教員が、自分自身のソーシャルワーク経験や体験談を踏まえ、講義を行う。		

概要

<p>履修目標</p> <p>学校教育現場にスクール(学校)ソーシャルワーカーを導入する意義、スクールソーシャルワーカーの役割、スクールソーシャルワークなど、広範な専門性について理解する。</p>

<p>授業の位置づけ</p> <p>社会福祉学科のDP「1(2)と(3)と(4)と(5)と(6)と(7)」、「2(2)」に対応する。</p>

<p>到達目標</p> <p>1. 今日の学校教育現場にスクールソーシャルワーカーを導入する意義とその必要性を理解・説明できる。 2. 発展過程と具体的にスクールソーシャルワーカーの役割について理解・説明できる。 3. ソーシャルワークについてジェネリックおよびスペシフィックな視点での広範な知識・技術、支援方法について理解・説明できる。</p>
--

<p>授業全体の内容と概要</p> <p>1. 日本における、スクールソーシャルワーカーの役割、必要性やスクールソーシャルワークについて学びます。 2. 海外における、スクールソーシャルワーカーの役割、必要性やスクールソーシャルワークについて学びます。</p>
--

<p>授業の方法</p> <p>1. 授業形態は講義形式です。 2. テキストを使用し、ポイントとするべき箇所は説明、板書を行います。 3. 適宜質問を促し、質問に対応します。 4. COVID-19の状況により、対面授業およびオンライン授業の併用やどちらかに変更になる場合もあります。</p>

アクティブラーニングの実施方法							
	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)

<p>履修上の注意事項</p> <p>1. 15回目の授業時にノートの確認を行います。 2. 板書した内容をしっかり写し、毎回の授業後にノートの整理をするように心がけてください。 3. 適宜質問に対応します。</p>

<p>資格指定科目</p> <p>スクール(学校)ソーシャルワーカー資格課程 社会福祉士国家試験受験資格課程</p>
--

評価方法・基準

評価前提条件					
<p>1. 教科書は必ず持参すること。 2. 必要な資料等は適宜配布します。 3. 15回目の授業時にノートの確認を行います。 4. 出席回数は最低10回なければ試験を受験することはできません。 5. その他については、出席状況15%・ノート確認15%の評価です。 6. 成績評価分布の目標について「S」は履修者の10%以内とし、「A」と「S」を含めて履修者の40%以内とする。 但し、履修者が10人未満の授業科目は、授業形態等を考慮し、成績評価の割合の対象外とします(絶対評価と相対評価を併用する)。</p>					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
70%	0%	0%	0%	0%	30%

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
【知識】今日の学校教育現場にスクールソーシャルワーカーを導入された意義とその必要性、発展過程について理解できた。	今日の学校教育現場にスクールソーシャルワーカーを導入された意義とその必要性、発展過程について非常に理解できた。	今日の学校教育現場にスクールソーシャルワーカーを導入された意義とその必要性、発展過程についておおむね理解できた。	今日の学校教育現場にスクールソーシャルワーカーを導入された意義とその必要性、発展過程について理解できた。	今日の学校教育現場にスクールソーシャルワーカーを導入された意義とその必要性、発展過程について一部理解ができなかった。	今日の学校教育現場にスクールソーシャルワーカーを導入された意義とその必要性、発展過程について理解できなかった。
【知識】今日の学校教育現場にスクールソーシャルワーカーを導入された意義「スペシフィック」な視点での広範な支援について理解できた。	今日の学校教育現場にスクールソーシャルワーカーを導入された意義「スペシフィック」な視点での広範な支援について非常に理解できた。	今日の学校教育現場にスクールソーシャルワーカーを導入された意義「スペシフィック」な視点での広範な支援についておおむね理解できた。	今日の学校教育現場にスクールソーシャルワーカーを導入された意義「スペシフィック」な視点での広範な支援について理解できた。	今日の学校教育現場にスクールソーシャルワーカーを導入された意義「スペシフィック」な視点での広範な支援について一部理解ができなかった。	今日の学校教育現場にスクールソーシャルワーカーを導入された意義「スペシフィック」な視点での広範な支援について理解できなかった。
【知識】今日の学校教育現場にスクールソーシャルワーカーを導入された意義「ジェネリック」な視点での広範な支援について理解できた。	今日の学校教育現場にスクールソーシャルワーカーを導入された意義「ジェネリック」な視点での広範な支援について非常に理解できた。	今日の学校教育現場にスクールソーシャルワーカーを導入された意義「ジェネリック」な視点での広範な支援についておおむね理解できた。	今日の学校教育現場にスクールソーシャルワーカーを導入された意義「ジェネリック」な視点での広範な支援について理解できた。	今日の学校教育現場にスクールソーシャルワーカーを導入された意義「ジェネリック」な視点での広範な支援について一部理解ができなかった。	今日の学校教育現場にスクールソーシャルワーカーを導入された意義「ジェネリック」な視点での広範な支援について理解できなかった。

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『よくわかるスクールソーシャルワーク』	山野剛子など	ミネルヴァ書房	2016年	978-4-6230-7834-9	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『適宜紹介する。』					
2						
3						
4						
5						

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・2年		
開講時期	4Q	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	スクールソーシャルワーク論 (科目ナンバリング: SWS122057)				
授業担当者(所属・職名)	上原 正希(社会福祉学科・教授)	研究室所在	1号館2階		
単位数	2 (単位認定責任者: 上原 正希)		CAP制		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	社会福祉士・精神保健福祉士・介護支援専門員の資格を持ち、日本ソーシャルワーカー協会理事であるソーシャルワーカーとして現場経験のある教員が、自分自身のソーシャルワーク経験や体験談を踏まえ、講義を行う。		

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	シラバスの説明 児童生徒を取り巻く学校・家庭・地域について - 学校からみる問題行動・家族の状況	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	ノート整理を行うこと(90分)
2	児童生徒を取り巻く学校・家庭・地域について - 子どもの貧困・発達・マノリテイ	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	ノート整理を行うこと(90分)
3	児童生徒を取り巻く学校・家庭・地域について - 教員の実態、地域の機関	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	ノート整理を行うこと(90分)
4	スクールソーシャルワークの価値・倫理について - スクールソーシャルワークとは	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	ノート整理を行うこと(90分)
5	スクールソーシャルワークの価値・倫理について - 人権と社会正義	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	ノート整理を行うこと(90分)
6	スクールソーシャルワークの発展過程について - 日本・アメリカ	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	ノート整理を行うこと(90分)
7	スクールソーシャルワーカーの役割と活動について	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	ノート整理を行うこと(90分)
8	スクールソーシャルワークにおけるソーシャルワークについて	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	ノート整理を行うこと(90分)
9	スクールソーシャルワークの支援方法について - 個別・集団支援(ミクロレベル)の実践より	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	ノート整理を行うこと(90分)
10	スクールソーシャルワークの支援方法について - 個別・集団支援(ミクロレベル)の実践より	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	ノート整理を行うこと(90分)
11	スクールソーシャルワークの支援方法について - 学校・家庭・地域(メゾレベル)の実践より	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	ノート整理を行うこと(90分)
12	スクールソーシャルワークの支援方法について - 学校・家庭・地域(メゾレベル)の実践より	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	ノート整理を行うこと(90分)
13	スクールソーシャルワークの支援方法について - 制度・政策(マクロレベル)の実践より	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	ノート整理を行うこと(90分)
14	スクールソーシャルワークの支援方法について - 制度・政策(マクロレベル)の実践より	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	ノート整理を行うこと(90分)
15	スクールソーシャルワークにおけるスーパービジョンについて	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	ノート整理を行うこと(90分)
16	【定期試験】60分の試験終了後、残りの30分で解説	テスト勉強をしておくこと(90分)	テストの振り返りを行うこと(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・2年		
開講時期	4Q	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	スクールソーシャルワーク論（2年）（科目ナンバリング：）				
授業担当者（所属・職名）	上原 正希（社会福祉学科・教授）	研究室所在	1号館2階		
単位数	2（単位認定責任者：上原 正希）	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり 左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	社会福祉士・精神保健福祉士・介護支援専門員の資格を持ち、日本ソーシャルワーカー協会理事であるソーシャルワーカーとして現場経験のある教員が、自分自身のソーシャルワーク経験や体験談を踏まえ、講義を行う。			

概要

<p>履修目標</p> <p>学校教育現場にスクール（学校）ソーシャルワーカーを導入する意義、スクールソーシャルワーカーの役割、スクールソーシャルワークなど、広範な専門性について理解する。</p>

<p>授業の位置づけ</p> <p>社会福祉学科のDP「1（2）と（3）と（4）と（5）と（6）と（7）」、「2（2）」に対応する。</p>

<p>到達目標</p> <p>1. 今日の学校教育現場にスクールソーシャルワーカーを導入する意義とその必要性に理解・説明できる。 2. 発展過程と具体的にスクールソーシャルワーカーの役割について理解・説明できる。 3. ソーシャルワークについてジェネリックおよびスペシフィックな視点での広範な知識・技術、支援方法について理解・説明できる。</p>
--

<p>授業全体の内容と概要</p> <p>1. 日本における、スクールソーシャルワーカーの役割、必要性やスクールソーシャルワークについて学びます。 2. 海外における、スクールソーシャルワーカーの役割、必要性やスクールソーシャルワークについて学びます。</p>

<p>授業の方法</p> <p>1. 授業形態は講義形式です。 2. テキストを使用し、ポイントとするべき箇所は説明、板書を行います。 3. 適宜質問を促し、質問に対応します。</p>

アクティブラーニングの実施方法							
	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

<p>履修上の注意事項</p> <p>1. 1.5回目の授業時にノートの確認を行います。 2. 板書した内容をしっかり写し、毎回の授業後にノートの整理をするように心がけてください。 3. 適宜質問に対応します。 4. COVID-19の状況により、対面授業およびオンライン授業の併用やどちらかに変更になる場合もあります。</p>

<p>資格指定科目</p> <p>スクール（学校）ソーシャルワーカー資格課程 社会福祉士国家試験受験資格課程</p>

評価方法・基準

評価前提条件					
<p>1. 教科書は必ず持参すること。 2. 必要な資料等は適宜配布します。 3. 1.5回目の授業時にノートの確認を行います。 4. 出席回数は最低10回なければ試験を受験することはできません。 5. その他については、出席状況15%・ノート確認15%の評価です。 6. 成績評価分布の目標について「S」は履修者の10%以内とし、「A」と「S」を含めて履修者の40%以内とする。但し、履修者が10人未満の授業科目は、授業形態等を考慮し、成績評価の割合の対象外とします（絶対評価と相対評価を併用する）。</p>					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
70%	0%	0%	0%	0%	30%

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
【知識】今日の学校教育現場にスクールソーシャルワーカーを導入された意義とその必要性、発展過程について理解できた。	今日の学校教育現場にスクールソーシャルワーカーを導入された意義とその必要性、発展過程について非常に理解できた。	今日の学校教育現場にスクールソーシャルワーカーを導入された意義とその必要性、発展過程についておおむね理解できた。	今日の学校教育現場にスクールソーシャルワーカーを導入された意義とその必要性、発展過程について理解できた。	今日の学校教育現場にスクールソーシャルワーカーを導入された意義とその必要性、発展過程について一部理解ができなかった。	今日の学校教育現場にスクールソーシャルワーカーを導入された意義とその必要性、発展過程について理解ができなかった。
【知識】今日の学校教育現場にスクールソーシャルワーカーを導入された意義「スペシフィック」な視点での広範な支援について理解できた。	今日の学校教育現場にスクールソーシャルワーカーを導入された意義「スペシフィック」な視点での広範な支援について非常に理解できた。	今日の学校教育現場にスクールソーシャルワーカーを導入された意義「スペシフィック」な視点での広範な支援についておおむね理解できた。	今日の学校教育現場にスクールソーシャルワーカーを導入された意義「スペシフィック」な視点での広範な支援について理解できた。	今日の学校教育現場にスクールソーシャルワーカーを導入された意義「スペシフィック」な視点での広範な支援について一部理解ができなかった。	今日の学校教育現場にスクールソーシャルワーカーを導入された意義「スペシフィック」な視点での広範な支援について理解ができなかった。
【知識】今日の学校教育現場にスクールソーシャルワーカーを導入された意義「ジェネリック」な視点での広範な支援について理解できた。	今日の学校教育現場にスクールソーシャルワーカーを導入された意義「ジェネリック」な視点での広範な支援について非常に理解できた。	今日の学校教育現場にスクールソーシャルワーカーを導入された意義「ジェネリック」な視点での広範な支援についておおむね理解できた。	今日の学校教育現場にスクールソーシャルワーカーを導入された意義「ジェネリック」な視点での広範な支援について理解できた。	今日の学校教育現場にスクールソーシャルワーカーを導入された意義「ジェネリック」な視点での広範な支援について一部理解ができなかった。	今日の学校教育現場にスクールソーシャルワーカーを導入された意義「ジェネリック」な視点での広範な支援について理解ができなかった。

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『よくわかるスクールソーシャルワーク』	山野剛子など	ミネルヴァ書房	2016年	978-4-6230-7834-9	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『適宜紹介する。』					
2						
3						
4						
5						

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・2年		
開講時期	4Q	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	スクールソーシャルワーク論(2年) (科目ナンバリング:)				
授業担当者(所属・職名)	上原 正希(社会福祉学科・教授)	研究室所在	1号館2階		
単位数	2 (単位認定責任者: 上原 正希)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	社会福祉士・精神保健福祉士・介護支援専門員の資格を持ち、日本ソーシャルワーカー協会理事であるソーシャルワーカーとして現場経験のある教員が、自分自身のソーシャルワーク経験や体験談を踏まえ、講義を行う。		

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	シラバスの説明 児童生徒を取り巻く学校・家庭・地域について - 学校からみる問題行動・家族の状況	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	ノート整理を行うこと(90分)
2	児童生徒を取り巻く学校・家庭・地域について - 子どもの貧困・発達・マノリテイ	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	ノート整理を行うこと(90分)
3	児童生徒を取り巻く学校・家庭・地域について - 教員の実態、地域の機関	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	ノート整理を行うこと(90分)
4	スクールソーシャルワークの価値・倫理について - スクールソーシャルワークとは	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	ノート整理を行うこと(90分)
5	スクールソーシャルワークの価値・倫理について - 人権と社会正義	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	ノート整理を行うこと(90分)
6	スクールソーシャルワークの発展過程について - 日本・アメリカ	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	ノート整理を行うこと(90分)
7	スクールソーシャルワーカーの役割と活動について	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	ノート整理を行うこと(90分)
8	スクールソーシャルワークにおけるソーシャルワークについて	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	ノート整理を行うこと(90分)
9	スクールソーシャルワークの支援方法について - 個別・集団支援(ミクロレベル)の実践より	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	ノート整理を行うこと(90分)
10	スクールソーシャルワークの支援方法について - 個別・集団支援(ミクロレベル)の実践より	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	ノート整理を行うこと(90分)
11	スクールソーシャルワークの支援方法について - 学校・家庭・地域(メゾレベル)の実践より	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	ノート整理を行うこと(90分)
12	スクールソーシャルワークの支援方法について - 学校・家庭・地域(メゾレベル)の実践より	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	ノート整理を行うこと(90分)
13	スクールソーシャルワークの支援方法について - 制度・政策(マクロレベル)の実践より	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	ノート整理を行うこと(90分)
14	スクールソーシャルワークの支援方法について - 制度・政策(マクロレベル)の実践より	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	ノート整理を行うこと(90分)
15	スクールソーシャルワークにおけるスーパービジョンについて	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	ノート整理を行うこと(90分)
16	【定期試験】60分の試験終了後、残りの30分で解説	テストの勉強をしておくこと(90分)	テストの振り返りを行うこと(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・2年		
開講時期	4Q	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	スクールソーシャルワーク論（3年（科目ナンバリング：））				
授業担当者（所属・職名）	上原 正希（社会福祉学科・教授）	研究室所在	1号館2階		
単位数	2（単位認定責任者：上原 正希）	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり 左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	社会福祉士・精神保健福祉士・介護支援専門員の資格を持ち、日本ソーシャルワーカー協会理事であるソーシャルワーカーとして現場経験のある教員が、自分自身のソーシャルワーク経験や体験談を踏まえ、講義を行う。			

概要

<p>履修目標</p> <p>学校教育現場にスクール（学校）ソーシャルワーカーを導入する意義、スクールソーシャルワーカーの役割、スクールソーシャルワークなど、広範な専門性について理解する。</p>

<p>授業の位置づけ</p> <p>社会福祉学科のDP「1（2）と（3）と（4）と（5）と（6）と（7）」、「2（2）」に対応する。</p>

<p>到達目標</p> <p>1. 今日の学校教育現場にスクールソーシャルワーカーを導入する意義とその必要性に理解・説明できる。 2. 発展過程と具体的にスクールソーシャルワーカーの役割について理解・説明できる。 3. ソーシャルワークについてジェネリックおよびスペシフィックな視点での広範な知識・技術・支援方法について理解・説明できる。</p>
--

<p>授業全体の内容と概要</p> <p>1. 日本における、スクールソーシャルワーカーの役割、必要性やスクールソーシャルワークについて学びます。 2. 海外における、スクールソーシャルワーカーの役割、必要性やスクールソーシャルワークについて学びます。</p>

<p>授業の方法</p> <p>1. 授業形態は講義形式です。 2. テキストを使用し、ポイントとするべき箇所は説明、板書を行います。 3. 適宜質問を促し、質問に対応します。</p>

アクティブラーニングの実施方法						
	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク	PBL
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習	反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業	その他（授業の方法参照）

<p>履修上の注意事項</p> <p>1. 1.5回目の授業時にノートの確認を行います。 2. 板書した内容をしっかり写し、毎回の授業後にノートの整理をするように心がけてください。 3. 適宜質問に対応します。 4. COVID-19の状況により、対面授業およびオンライン授業の併用やどちらかに変更になる場合もあります。</p>

<p>資格指定科目</p> <p>スクール（学校）ソーシャルワーカー資格課程 社会福祉士国家試験受験資格課程</p>

評価方法・基準

評価前提条件					
<p>1. 教科書は必ず持参すること。 2. 必要な資料等は適宜配布します。 3. 1.5回目の授業時にノートの確認を行います。 4. 出席回は最低10回なければ試験を受験することはできません。 5. その他については、出席状況15%・ノート確認15%の評価です。 6. 成績評価分布の目標について「S」は履修者の10%以内とし、「A」と「S」を含めて履修者の40%以内とする。但し、履修者が10人未満の授業科目は、授業形態等を考慮し、成績評価の割合の対象外とします（絶対評価と相対評価を併用する）。</p>					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
70%	0%	0%	0%	0%	30%

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
【知識】今日の学校教育現場にスクールソーシャルワーカーを導入された意義とその必要性、発展過程について理解できた。	今日の学校教育現場にスクールソーシャルワーカーを導入された意義とその必要性、発展過程について非常に理解できた。	今日の学校教育現場にスクールソーシャルワーカーを導入された意義とその必要性、発展過程についておおむね理解できた。	今日の学校教育現場にスクールソーシャルワーカーを導入された意義とその必要性、発展過程について理解できた。	今日の学校教育現場にスクールソーシャルワーカーを導入された意義とその必要性、発展過程について一部理解ができなかった。	今日の学校教育現場にスクールソーシャルワーカーを導入された意義とその必要性、発展過程について理解ができなかった。
【知識】今日の学校教育現場にスクールソーシャルワーカーを導入された意義「スペシフィック」な視点での広範な支援について理解できた。	今日の学校教育現場にスクールソーシャルワーカーを導入された意義「スペシフィック」な視点での広範な支援について非常に理解できた。	今日の学校教育現場にスクールソーシャルワーカーを導入された意義「スペシフィック」な視点での広範な支援についておおむね理解できた。	今日の学校教育現場にスクールソーシャルワーカーを導入された意義「スペシフィック」な視点での広範な支援について理解できた。	今日の学校教育現場にスクールソーシャルワーカーを導入された意義「スペシフィック」な視点での広範な支援について一部理解ができなかった。	今日の学校教育現場にスクールソーシャルワーカーを導入された意義「スペシフィック」な視点での広範な支援について理解ができなかった。
【知識】今日の学校教育現場にスクールソーシャルワーカーを導入された意義「ジェネリック」な視点での広範な支援について理解できた。	今日の学校教育現場にスクールソーシャルワーカーを導入された意義「ジェネリック」な視点での広範な支援について非常に理解できた。	今日の学校教育現場にスクールソーシャルワーカーを導入された意義「ジェネリック」な視点での広範な支援についておおむね理解できた。	今日の学校教育現場にスクールソーシャルワーカーを導入された意義「ジェネリック」な視点での広範な支援について理解できた。	今日の学校教育現場にスクールソーシャルワーカーを導入された意義「ジェネリック」な視点での広範な支援について一部理解ができなかった。	今日の学校教育現場にスクールソーシャルワーカーを導入された意義「ジェネリック」な視点での広範な支援について理解ができなかった。

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『よくわかるスクールソーシャルワーク』	山野剛子など	ミネルヴァ書房	2016年	978-4-6230-7834-9	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『適宜紹介する。』					
2						
3						
4						
5						

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・2年		
開講時期	4Q	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	スクールソーシャルワーク論(3年) (科目ナンバリング:)				
授業担当者(所属・職名)	上原 正希(社会福祉学科・教授)	研究室所在	1号館2階		
単位数	2 (単位認定責任者: 上原 正希)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	社会福祉士・精神保健福祉士・介護支援専門員の資格を持ち、日本ソーシャルワーカー協会理事であるソーシャルワーカーとして現場経験のある教員が、自分自身のソーシャルワーク経験や体験談を踏まえ、講義を行う。		

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	シラバスの説明 児童生徒を取り巻く学校・家庭・地域について - 学校からみる問題行動・家族の状況	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	ノート整理を行うこと(90分)
2	児童生徒を取り巻く学校・家庭・地域について - 子どもの貧困・発達・マノリテイ	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	ノート整理を行うこと(90分)
3	児童生徒を取り巻く学校・家庭・地域について - 教員の実態、地域の機関	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	ノート整理を行うこと(90分)
4	スクールソーシャルワークの価値・倫理について - スクールソーシャルワークとは	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	ノート整理を行うこと(90分)
5	スクールソーシャルワークの価値・倫理について - 人権と社会正義	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	ノート整理を行うこと(90分)
6	スクールソーシャルワークの発展過程について - 日本・アメリカ	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	ノート整理を行うこと(90分)
7	スクールソーシャルワーカーの役割と活動について	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	ノート整理を行うこと(90分)
8	スクールソーシャルワークにおけるソーシャルワークについて	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	ノート整理を行うこと(90分)
9	スクールソーシャルワークの支援方法について - 個別・集団支援(ミクロレベル)の実践より	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	ノート整理を行うこと(90分)
10	スクールソーシャルワークの支援方法について - 個別・集団支援(ミクロレベル)の実践より	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	ノート整理を行うこと(90分)
11	スクールソーシャルワークの支援方法について - 学校・家庭・地域(メゾレベル)の実践より	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	ノート整理を行うこと(90分)
12	スクールソーシャルワークの支援方法について - 学校・家庭・地域(メゾレベル)の実践より	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	ノート整理を行うこと(90分)
13	スクールソーシャルワークの支援方法について - 制度・政策(マクロレベル)の実践より	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	ノート整理を行うこと(90分)
14	スクールソーシャルワークの支援方法について - 制度・政策(マクロレベル)の実践より	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	ノート整理を行うこと(90分)
15	スクールソーシャルワークにおけるスーパービジョンについて	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	ノート整理を行うこと(90分)
16	【定期試験】60分の試験終了後、残りの30分で解説	テスト勉強をしておくこと(90分)	テストの振り返りを行うこと(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分		対象学科・配当			
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	
科目名称	専門演習 A (科目ナンバリング: SEM133155, SEM433093, SEM533104)				
授業担当者(所属・職名)		研究室所在			
単位数	1 (単位認定責任者:)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			

概要

履修目標																								
授業の位置づけ																								
到達目標																								
授業全体の内容と概要																								
授業の方法																								
アクティブラーニングの実施方法																								
<table border="1"> <tr> <td></td> <td>プレゼンテーション</td> <td></td> <td>グループワーク</td> <td></td> <td>フィールドワーク</td> <td></td> <td>P B L</td> </tr> <tr> <td></td> <td>模擬授業</td> <td></td> <td>ロールプレイ</td> <td></td> <td>調査学習</td> <td></td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td></td> <td>ディスカッション</td> <td></td> <td>実験・実習・実技</td> <td></td> <td>双方向授業</td> <td></td> <td>その他(授業の方法参照)</td> </tr> </table>		プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		P B L		模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業		ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)
	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		P B L																	
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業																	
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)																	
履修上の注意事項																								
資格指定科目																								

評価方法・基準

評価前提条件					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

基本情報

科目分類区分		対象学科・配当	
開講時期	前期	授業形態	演習 必修・選択
科目名称	専門演習 A (科目ナンバリング: SEM133155, SEM433093, SEM533104)		
授業担当者(所属・職名)		研究室所在	
単位数	1 (単位認定責任者:)	CAP制	
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容		

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1			
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
16			

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分		対象学科・配当			
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	
科目名称	専門演習 A (科目ナンバリング: SEM133155, SEM433093, SEM533104)				
授業担当者(所属・職名)			研究室所在		
単位数	1 (単位認定責任者:)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

概要

履修目標						
授業の位置づけ						
到達目標						
授業全体の内容と概要						
授業の方法						
アクティブラーニングの実施方法	プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL		
	模擬授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業		
	ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)		
履修上の注意事項						
資格指定科目						

評価方法・基準

評価前提条件					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

基本情報

科目分類区分		対象学科・配当	
開講時期	前期	授業形態	演習 必修・選択
科目名称	専門演習 A (科目ナンバリング: SEM133155, SEM433093, SEM533104)		
授業担当者(所属・職名)		研究室所在	
単位数	1 (単位認定責任者:)	CAP制	
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容		

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1			
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
16			

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分		対象学科・配当			
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	
科目名称	専門演習 A (科目ナンバリング: SEM133155, SEM433093, SEM533104)				
授業担当者(所属・職名)		研究室所在			
単位数	1 (単位認定責任者:)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			

概要

履修目標																								
授業の位置づけ																								
到達目標																								
授業全体の内容と概要																								
授業の方法																								
アクティブラーニングの実施方法																								
<table border="1"> <tr> <td></td> <td>プレゼンテーション</td> <td></td> <td>グループワーク</td> <td></td> <td>フィールドワーク</td> <td></td> <td>P B L</td> </tr> <tr> <td></td> <td>模擬授業</td> <td></td> <td>ロールプレイ</td> <td></td> <td>調査学習</td> <td></td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td></td> <td>ディスカッション</td> <td></td> <td>実験・実習・実技</td> <td></td> <td>双方向授業</td> <td></td> <td>その他(授業の方法参照)</td> </tr> </table>		プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		P B L		模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業		ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)
	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		P B L																	
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業																	
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)																	
履修上の注意事項																								
資格指定科目																								

評価方法・基準

評価前提条件												
評価方法												
<table border="1"> <tr> <td>定期試験</td> <td>レポート</td> <td>課題・作品</td> <td>中間テスト</td> <td>平常点</td> <td>その他</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他						
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他							

ルーブリック																																															
<table border="1"> <tr> <th rowspan="2">評価項目</th> <th colspan="5">評価基準</th> </tr> <tr> <th>履修項目を超えたレベルを達成している</th> <th>履修項目をほぼ達成している</th> <th>履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している</th> <th>到達目標を達成している</th> <th>到達目標を達成していない</th> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	評価項目	評価基準					履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない																																				
評価項目		評価基準																																													
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない																																										

教科書・参考文献・資料等

教科書																																										
<table border="1"> <tr> <th>No</th> <th>書籍名</th> <th>著者</th> <th>出版社</th> <th>出版年</th> <th>I S B N</th> <th>備考</th> </tr> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>4</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>5</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考	1							2							3							4							5						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考																																				
1																																										
2																																										
3																																										
4																																										
5																																										

参考文献・資料等																																										
<table border="1"> <tr> <th>No</th> <th>書籍名</th> <th>著者</th> <th>出版社</th> <th>出版年</th> <th>I S B N</th> <th>備考</th> </tr> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>4</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>5</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考	1							2							3							4							5						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考																																				
1																																										
2																																										
3																																										
4																																										
5																																										

基本情報

科目分類区分		対象学科・配当	
開講時期	前期	授業形態	演習 必修・選択
科目名称	専門演習 A (科目ナンバリング: SEM133155, SEM433093, SEM533104)		
授業担当者(所属・職名)		研究室所在	
単位数	1 (単位認定責任者:)	CAP制	
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容		

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1			
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
16			

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分		対象学科・配当			
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	
科目名称	専門演習 A (科目ナンバリング: SEM133155, SEM433093, SEM533104)				
授業担当者(所属・職名)			研究室所在		
単位数	1 (単位認定責任者:)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

概要

履修目標																								
授業の位置づけ																								
到達目標																								
授業全体の内容と概要																								
授業の方法																								
アクティブラーニングの実施方法																								
<table border="1"> <tr> <td></td> <td>プレゼンテーション</td> <td></td> <td>グループワーク</td> <td></td> <td>フィールドワーク</td> <td></td> <td>P B L</td> </tr> <tr> <td></td> <td>模擬授業</td> <td></td> <td>ロールプレイ</td> <td></td> <td>調査学習</td> <td></td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td></td> <td>ディスカッション</td> <td></td> <td>実験・実習・実技</td> <td></td> <td>双方向授業</td> <td></td> <td>その他(授業の方法参照)</td> </tr> </table>		プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		P B L		模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業		ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)
	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		P B L																	
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業																	
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)																	
履修上の注意事項																								
資格指定科目																								

評価方法・基準

評価前提条件												
評価方法												
<table border="1"> <tr> <td>定期試験</td> <td>レポート</td> <td>課題・作品</td> <td>中間テスト</td> <td>平常点</td> <td>その他</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他						
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他							

ルーブリック																																															
<table border="1"> <tr> <th rowspan="2">評価項目</th> <th colspan="5">評価基準</th> </tr> <tr> <th>履修項目を超えたレベルを達成している</th> <th>履修項目をほぼ達成している</th> <th>履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している</th> <th>到達目標を達成している</th> <th>到達目標を達成していない</th> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	評価項目	評価基準					履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない																																				
評価項目		評価基準																																													
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない																																										

教科書・参考文献・資料等

教科書																																										
<table border="1"> <tr> <th>No</th> <th>書籍名</th> <th>著者</th> <th>出版社</th> <th>出版年</th> <th>I S B N</th> <th>備考</th> </tr> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>4</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>5</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考	1							2							3							4							5						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考																																				
1																																										
2																																										
3																																										
4																																										
5																																										

参考文献・資料等																																										
<table border="1"> <tr> <th>No</th> <th>書籍名</th> <th>著者</th> <th>出版社</th> <th>出版年</th> <th>I S B N</th> <th>備考</th> </tr> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>4</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>5</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考	1							2							3							4							5						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考																																				
1																																										
2																																										
3																																										
4																																										
5																																										

基本情報

科目分類区分		対象学科・配当	
開講時期	前期	授業形態	演習 必修・選択
科目名称	専門演習 A (科目ナンバリング: SEM133155, SEM433093, SEM533104)		
授業担当者(所属・職名)		研究室所在	
単位数	1 (単位認定責任者:)	CAP制	
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容		

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1			
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
16			

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分		対象学科・配当			
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	
科目名称	専門演習 A (科目ナンバリング: SEM133155, SEM433093, SEM533104)				
授業担当者(所属・職名)		研究室所在			
単位数	1 (単位認定責任者:)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			

概要

履修目標																								
授業の位置づけ																								
到達目標																								
授業全体の内容と概要																								
授業の方法																								
アクティブラーニングの実施方法																								
<table border="1"> <tr> <td></td> <td>プレゼンテーション</td> <td></td> <td>グループワーク</td> <td></td> <td>フィールドワーク</td> <td></td> <td>P B L</td> </tr> <tr> <td></td> <td>模擬授業</td> <td></td> <td>ロールプレイ</td> <td></td> <td>調査学習</td> <td></td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td></td> <td>ディスカッション</td> <td></td> <td>実験・実習・実技</td> <td></td> <td>双方向授業</td> <td></td> <td>その他(授業の方法参照)</td> </tr> </table>		プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		P B L		模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業		ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)
	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		P B L																	
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業																	
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)																	
履修上の注意事項																								
資格指定科目																								

評価方法・基準

評価前提条件					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

基本情報

科目分類区分		対象学科・配当	
開講時期	前期	授業形態	演習 必修・選択
科目名称	専門演習 A (科目ナンバリング: SEM133155, SEM433093, SEM533104)		
授業担当者(所属・職名)		研究室所在	
単位数	1 (単位認定責任者:)	CAP制	
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容		

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1			
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
16			

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・3年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	専門演習 A (科目ナンバリング：SEM133155, SEM433093, SEM533104)				
授業担当者(所属・職名)	社会福祉学科各教員		研究室所在	各教員研修室	
単位数	1 (単位認定責任者：各教員)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	各教員がそれぞれの専門分野の資格、実務経験をもとに課題発見や研究テーマ構築の指導を行う。		

概要

履修目標	専門演習担当各教員の専門分野を中心に、社会福祉学をはじめとする社会科学の方法論を、文献研究、フィールドワーク、ディスカッションなどの教授方法を使用し獲得する。												
授業の位置づけ	社会福祉学科のDP「1」「2」と(3)と(4)と(5)と(6)と(7)、「2(2)」に対応する。												
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 自分の方向性を見つけ、自ら学び考えて解決できる能力を身につけることができる。 個々の学生がそれぞれの「勉学のテーマ」の糸口をつかむことができる。 上記研究テーマを構築するために必要な文献・資料・データを活用するスキルを身につけることができる。 研究テーマに沿った論文執筆に必要なスキルを身につけることができる。 自分の研究テーマをプレゼン形式で発表するスキルと学友の発表を傾聴し、的確な質問をするスキルを身につけることができる。 												
授業全体の内容と概要	それぞれのゼミナル担当教員が学生諸君に提示する「専門テーマ」に沿った形で進められる。												
授業の方法	各教員の指導方針のもとに行われるので、講義・ゼミナル・実験・製作・見学・調査等様々な授業形態がとられる。したがって、大学生として真摯に学ぶ姿勢と自覚が求められる。質問は随時対応し、レポートの場合はコメント等によりフィードバックを行う。												
アクティブラーニングの実施方法	<table border="1"> <tr> <td>プレゼンテーション</td> <td>グループワーク</td> <td>フィールドワーク</td> <td>PBL</td> </tr> <tr> <td>模擬授業</td> <td>ロールプレイ</td> <td>調査学習</td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td>ディスカッション</td> <td>実験・実習・実技</td> <td>双方向授業</td> <td>その他(授業の方法参照)</td> </tr> </table>	プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL	模擬授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業	ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)
プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL										
模擬授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業										
ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)										
履修上の注意事項	オリエンテーション時に配布される担当教員のゼミナル紹介を熟読の上、自分の所属を決定すること。「専門演習 A」に所属した教員が後期の「専門演習 B」を担当する。												
資格指定科目													

評価方法・基準

評価前提条件	単位認定に必要な最低出席回数10回以上をクリアすること。					
評価方法	定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
	0%	0%	0%	0%	0%	100%

ルーブリック	評価基準				
評価項目	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
担当教員が提示した課題についての情報獲得ツールを駆使できる	ネット、文献検索などのツールを使いこなし、提示された課題についての資料を具体的に提示でき、まとめることができ、さらに、自分の学習課題として昇華できた。	ネット、文献検索などのツールを使いこなし、提示された課題についての資料を具体的に提示でき、まとめることができた。	ネット、文献検索などのツールを使いこなし、提示された課題についての資料を具体的に提示できた。	提示された課題についてネット検索を行い、資料を具体的に検索できた。	左記の内容が何一つできていなかった。
論文・レポート執筆のためのスキルを獲得する。	論文・レポート執筆のスキルを獲得し、その方法に沿って、レポートを執筆でき、そこから、さらに研究課題を発見でき、それを論文に構成できるスキルを獲得できた。	論文・レポート執筆のスキルを獲得し、その方法に沿って、レポートを執筆でき、そこから、さらに研究課題を発見できた。	論文・レポート執筆のスキルを獲得し、その方法に沿って、レポートを執筆できた。	具体的なレポート執筆できた。	左記の内容が何一つできなかった。
自分の研究テーマを明確に発表でき、他者の研究を尊重できる。	自分の研究テーマについてプレゼンを行い、他の学生に納得させることができ、それについてディスカッションができ、且つ、他者の意見と研究を尊重しながら、双方向の向上ができるような議論ができた。	自分の研究テーマについてプレゼンを行い、他の学生に納得させることができ、それについてディスカッションができた。	自分の研究テーマについてプレゼンを行い、他の学生に納得させることができた。	自分の研究テーマを明確に説明できた。	左記の内容が何一つできなかった。

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・3年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	専門演習 A (科目ナンバリング: SEM133155, SEM433093, SEM533104)				
授業担当者(所属・職名)	社会福祉学科各教員		研究室所在	各教員研修室	
単位数	1 (単位認定責任者: 各教員)		CAP制		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	各教員がそれぞれの専門分野の資格、実務経験をもとに課題発見や研究テーマ構築の指導を行う。		

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	シラバスの説明 担当教員によるガイダンス	所属研究室選択資料の確認(45分)	配布資料の確認(45分)
2	担当教員による授業1	予習課題(45分)	配布資料の確認(45分)
3	担当教員による授業2	予習課題(45分)	配布資料の確認(45分)
4	担当教員による授業3	予習課題(45分)	配布資料の確認(45分)
5	担当教員による授業4	予習課題(45分)	配布資料の確認(45分)
6	担当教員による授業5	予習課題(45分)	配布資料の確認(45分)
7	担当教員による授業6	予習課題(45分)	配布資料の確認(45分)
8	担当教員による授業7	予習課題(45分)	配布資料の確認(45分)
9	担当教員による授業8	予習課題(45分)	配布資料の確認(45分)
10	担当教員による授業9	予習課題(45分)	配布資料の確認(45分)
11	担当教員による授業10	予習課題(45分)	配布資料の確認(45分)
12	担当教員による授業11	予習課題(45分)	配布資料の確認(45分)
13	担当教員による授業12	予習課題(45分)	配布資料の確認(45分)
14	担当教員による授業13	予習課題(45分)	配布資料の確認(45分)
15	担当教員による授業14	予習課題(45分)	配布資料の確認(45分)
16	総括	予習課題(45分)	全体振り返り(4545)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分		対象学科・配当			
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	
科目名称	専門演習 A (科目ナンバリング: SEM133155, SEM433093, SEM533104)				
授業担当者(所属・職名)			研究室所在		
単位数	1 (単位認定責任者:)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

概要

履修目標																								
授業の位置づけ																								
到達目標																								
授業全体の内容と概要																								
授業の方法																								
アクティブラーニングの実施方法																								
<table border="1"> <tr> <td></td> <td>プレゼンテーション</td> <td></td> <td>グループワーク</td> <td></td> <td>フィールドワーク</td> <td></td> <td>PBL</td> </tr> <tr> <td></td> <td>模擬授業</td> <td></td> <td>ロールプレイ</td> <td></td> <td>調査学習</td> <td></td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td></td> <td>ディスカッション</td> <td></td> <td>実験・実習・実技</td> <td></td> <td>双方向授業</td> <td></td> <td>その他(授業の方法参照)</td> </tr> </table>		プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL		模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業		ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)
	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL																	
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業																	
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)																	
履修上の注意事項																								
資格指定科目																								

評価方法・基準

評価前提条件					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

基本情報

科目分類区分		対象学科・配当	
開講時期	前期	授業形態	演習 必修・選択
科目名称	専門演習 A (科目ナンバリング: SEM133155, SEM433093, SEM533104)		
授業担当者(所属・職名)		研究室所在	
単位数	1 (単位認定責任者:)	CAP制	
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容		

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1			
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
16			

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分		対象学科・配当			
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	
科目名称	専門演習 A (科目ナンバリング: SEM133155, SEM433093, SEM533104)				
授業担当者(所属・職名)			研究室所在		
単位数	1 (単位認定責任者:)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

概要

履修目標																								
授業の位置づけ																								
到達目標																								
授業全体の内容と概要																								
授業の方法																								
アクティブラーニングの実施方法																								
<table border="1"> <tr> <td></td> <td>プレゼンテーション</td> <td></td> <td>グループワーク</td> <td></td> <td>フィールドワーク</td> <td></td> <td>P B L</td> </tr> <tr> <td></td> <td>模擬授業</td> <td></td> <td>ロールプレイ</td> <td></td> <td>調査学習</td> <td></td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td></td> <td>ディスカッション</td> <td></td> <td>実験・実習・実技</td> <td></td> <td>双方向授業</td> <td></td> <td>その他(授業の方法参照)</td> </tr> </table>		プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		P B L		模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業		ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)
	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		P B L																	
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業																	
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)																	
履修上の注意事項																								
資格指定科目																								

評価方法・基準

評価前提条件					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

基本情報

科目分類区分		対象学科・配当	
開講時期	前期	授業形態	演習 必修・選択
科目名称	専門演習 A (科目ナンバリング: SEM133155, SEM433093, SEM533104)		
授業担当者(所属・職名)		研究室所在	
単位数	1 (単位認定責任者:)	CAP制	
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容		

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1			
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
16			

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分		対象学科・配当			
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	
科目名称	専門演習 A (科目ナンバリング: SEM133155, SEM433093, SEM533104)				
授業担当者(所属・職名)			研究室所在		
単位数	1 (単位認定責任者:)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			

概要

履修目標						
授業の位置づけ						
到達目標						
授業全体の内容と概要						
授業の方法						
アクティブラーニングの実施方法	プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL		
	模擬授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業		
	ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)		
履修上の注意事項						
資格指定科目						

評価方法・基準

評価前提条件					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
%	%	%	%	%	%

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

基本情報

科目分類区分		対象学科・配当	
開講時期	前期	授業形態	演習 必修・選択
科目名称	専門演習 A (科目ナンバリング: SEM133155, SEM433093, SEM533104)		
授業担当者(所属・職名)		研究室所在	
単位数	1 (単位認定責任者:)	CAP制	
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容		

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1			
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
16			

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分		対象学科・配当			
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	
科目名称	専門演習 A (科目ナンバリング: SEM133155, SEM433093, SEM533104)				
授業担当者(所属・職名)			研究室所在		
単位数	1 (単位認定責任者:)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

概要

履修目標					
授業の位置づけ					
到達目標					
授業全体の内容と概要					
授業の方法					
アクティブラーニングの実施方法	プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL	
	模擬授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業	
	ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)	
履修上の注意事項					
資格指定科目					

評価方法・基準

評価前提条件					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

基本情報

科目分類区分		対象学科・配当	
開講時期	前期	授業形態	演習 必修・選択
科目名称	専門演習 A (科目ナンバリング: SEM133155, SEM433093, SEM533104)		
授業担当者(所属・職名)		研究室所在	
単位数	1 (単位認定責任者:)	CAP制	
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容		

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1			
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
16			

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分		対象学科・配当			
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	
科目名称	専門演習 A (科目ナンバリング: SEM133155, SEM433093, SEM533104)				
授業担当者(所属・職名)			研究室所在		
単位数	1 (単位認定責任者:)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			

概要

履修目標																								
授業の位置づけ																								
到達目標																								
授業全体の内容と概要																								
授業の方法																								
アクティブラーニングの実施方法																								
<table border="1"> <tr> <td></td> <td>プレゼンテーション</td> <td></td> <td>グループワーク</td> <td></td> <td>フィールドワーク</td> <td></td> <td>PBL</td> </tr> <tr> <td></td> <td>模擬授業</td> <td></td> <td>ロールプレイ</td> <td></td> <td>調査学習</td> <td></td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td></td> <td>ディスカッション</td> <td></td> <td>実験・実習・実技</td> <td></td> <td>双方向授業</td> <td></td> <td>その他(授業の方法参照)</td> </tr> </table>		プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL		模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業		ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)
	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL																	
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業																	
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)																	
履修上の注意事項																								
資格指定科目																								

評価方法・基準

評価前提条件					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

基本情報

科目分類区分		対象学科・配当	
開講時期	前期	授業形態	演習 必修・選択
科目名称	専門演習 A (科目ナンバリング: SEM133155, SEM433093, SEM533104)		
授業担当者(所属・職名)		研究室所在	
単位数	1 (単位認定責任者:)	CAP制	
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容		

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1			
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
16			

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・3年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	
科目名称	専門演習 A (科目ナンバリング: SEM133155, SEM433093, SEM533104)				
授業担当者(所属・職名)	社会福祉学科・准教授		研究室所在	1号館2階	
単位数	1	(単位認定責任者: 佐々木 智城)	CAP制		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	精神科病院、スクールカウンセラー、教育委員会勤務経験のある公認心理師、臨床心理士が心理に関わるテーマを扱う。		

概要

履修目標	知的トレーニングの積み上げのために、関心のある書籍や論文を読み、研究テーマを決めて、					
授業の位置づけ						
到達目標						
授業全体の内容と概要						
授業の方法						
アクティブラーニングの実施方法	プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL		
	模擬授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業		
	ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)		
履修上の注意事項						
資格指定科目						

評価方法・基準

評価前提条件					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
%	%	%	%	%	%

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・3年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	
科目名称	専門演習 A (科目ナンバリング: SEM133155, SEM433093, SEM533104)				
授業担当者(所属・職名)	社会福祉学科・准教授		研究室所在	1号館2階	
単位数	1 (単位認定責任者: 佐々木 智城)		CAP制		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	精神科病院、スクールカウンセラー、教育委員会勤務経験のある公認心理師、臨床心理士が心理に関わるテーマを扱う。		

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1			
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
16			

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分		対象学科・配当			
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	
科目名称	専門演習 B (科目ナンバリング: SEM133156, SEM433094, SEM533105)				
授業担当者(所属・職名)		研究室所在			
単位数	1 (単位認定責任者:)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			

概要

履修目標																								
授業の位置づけ																								
到達目標																								
授業全体の内容と概要																								
授業の方法																								
アクティブラーニングの実施方法																								
<table border="1"> <tr> <td></td> <td>プレゼンテーション</td> <td></td> <td>グループワーク</td> <td></td> <td>フィールドワーク</td> <td></td> <td>PBL</td> </tr> <tr> <td></td> <td>模擬授業</td> <td></td> <td>ロールプレイ</td> <td></td> <td>調査学習</td> <td></td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td></td> <td>ディスカッション</td> <td></td> <td>実験・実習・実技</td> <td></td> <td>双方向授業</td> <td></td> <td>その他(授業の方法参照)</td> </tr> </table>		プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL		模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業		ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)
	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL																	
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業																	
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)																	
履修上の注意事項																								
資格指定科目																								

評価方法・基準

評価前提条件												
評価方法												
<table border="1"> <tr> <td>定期試験</td> <td>レポート</td> <td>課題・作品</td> <td>中間テスト</td> <td>平常点</td> <td>その他</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他						
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他							

ルーブリック																																															
<table border="1"> <tr> <th rowspan="2">評価項目</th> <th colspan="5">評価基準</th> </tr> <tr> <th>履修項目を超えたレベルを達成している</th> <th>履修項目をほぼ達成している</th> <th>履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している</th> <th>到達目標を達成している</th> <th>到達目標を達成していない</th> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	評価項目	評価基準					履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない																																				
評価項目		評価基準																																													
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない																																										

教科書・参考文献・資料等

教科書																																										
<table border="1"> <tr> <th>No</th> <th>書籍名</th> <th>著者</th> <th>出版社</th> <th>出版年</th> <th>ISBN</th> <th>備考</th> </tr> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>4</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>5</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考	1							2							3							4							5						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考																																				
1																																										
2																																										
3																																										
4																																										
5																																										

参考文献・資料等																																										
<table border="1"> <tr> <th>No</th> <th>書籍名</th> <th>著者</th> <th>出版社</th> <th>出版年</th> <th>ISBN</th> <th>備考</th> </tr> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>4</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>5</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考	1							2							3							4							5						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考																																				
1																																										
2																																										
3																																										
4																																										
5																																										

基本情報

科目分類区分		対象学科・配当	
開講時期	後期	授業形態	演習 必修・選択
科目名称	専門演習 B (科目ナンバリング: SEM133156, SEM433094, SEM533105)		
授業担当者(所属・職名)		研究室所在	
単位数	1 (単位認定責任者:)	CAP制	
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容		

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1			
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
16			

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分		対象学科・配当			
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	
科目名称	専門演習 B (科目ナンバリング: SEM133156, SEM433094, SEM533105)				
授業担当者(所属・職名)		研究室所在			
単位数	1 (単位認定責任者:)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			

概要

履修目標																								
授業の位置づけ																								
到達目標																								
授業全体の内容と概要																								
授業の方法																								
アクティブラーニングの実施方法																								
<table border="1"> <tr> <td></td> <td>プレゼンテーション</td> <td></td> <td>グループワーク</td> <td></td> <td>フィールドワーク</td> <td></td> <td>PBL</td> </tr> <tr> <td></td> <td>模擬授業</td> <td></td> <td>ロールプレイ</td> <td></td> <td>調査学習</td> <td></td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td></td> <td>ディスカッション</td> <td></td> <td>実験・実習・実技</td> <td></td> <td>双方向授業</td> <td></td> <td>その他(授業の方法参照)</td> </tr> </table>		プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL		模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業		ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)
	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL																	
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業																	
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)																	
履修上の注意事項																								
資格指定科目																								

評価方法・基準

評価前提条件					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

基本情報

科目分類区分		対象学科・配当	
開講時期	後期	授業形態	演習 必修・選択
科目名称	専門演習 B (科目ナンバリング: SEM133156, SEM433094, SEM533105)		
授業担当者(所属・職名)		研究室所在	
単位数	1 (単位認定責任者:)	CAP制	
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容		

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1			
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
16			

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分		対象学科・配当			
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	
科目名称	専門演習 B (科目ナンバリング: SEM133156, SEM433094, SEM533105)				
授業担当者(所属・職名)		研究室所在			
単位数	1 (単位認定責任者:)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			

概要

履修目標																								
授業の位置づけ																								
到達目標																								
授業全体の内容と概要																								
授業の方法																								
アクティブラーニングの実施方法																								
<table border="1"> <tr> <td></td> <td>プレゼンテーション</td> <td></td> <td>グループワーク</td> <td></td> <td>フィールドワーク</td> <td></td> <td>PBL</td> </tr> <tr> <td></td> <td>模擬授業</td> <td></td> <td>ロールプレイ</td> <td></td> <td>調査学習</td> <td></td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td></td> <td>ディスカッション</td> <td></td> <td>実験・実習・実技</td> <td></td> <td>双方向授業</td> <td></td> <td>その他(授業の方法参照)</td> </tr> </table>		プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL		模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業		ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)
	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL																	
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業																	
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)																	
履修上の注意事項																								
資格指定科目																								

評価方法・基準

評価前提条件					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

基本情報

科目分類区分		対象学科・配当		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択
科目名称	専門演習 B (科目ナンバリング: SEM133156, SEM433094, SEM533105)			
授業担当者(所属・職名)		研究室所在		
単位数	1 (単位認定責任者:)	CAP制		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1			
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
16			

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分		対象学科・配当			
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	
科目名称	専門演習 B (科目ナンバリング: SEM133156, SEM433094, SEM533105)				
授業担当者(所属・職名)		研究室所在			
単位数	1 (単位認定責任者:)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			

概要

履修目標																								
授業の位置づけ																								
到達目標																								
授業全体の内容と概要																								
授業の方法																								
アクティブラーニングの実施方法																								
<table border="1"> <tr> <td></td> <td>プレゼンテーション</td> <td></td> <td>グループワーク</td> <td></td> <td>フィールドワーク</td> <td></td> <td>P B L</td> </tr> <tr> <td></td> <td>模擬授業</td> <td></td> <td>ロールプレイ</td> <td></td> <td>調査学習</td> <td></td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td></td> <td>ディスカッション</td> <td></td> <td>実験・実習・実技</td> <td></td> <td>双方向授業</td> <td></td> <td>その他(授業の方法参照)</td> </tr> </table>		プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		P B L		模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業		ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)
	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		P B L																	
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業																	
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)																	
履修上の注意事項																								
資格指定科目																								

評価方法・基準

評価前提条件												
評価方法												
<table border="1"> <tr> <td>定期試験</td> <td>レポート</td> <td>課題・作品</td> <td>中間テスト</td> <td>平常点</td> <td>その他</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他						
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他							

ルーブリック																																															
<table border="1"> <tr> <th rowspan="2">評価項目</th> <th colspan="5">評価基準</th> </tr> <tr> <th>履修項目を超えたレベルを達成している</th> <th>履修項目をほぼ達成している</th> <th>履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している</th> <th>到達目標を達成している</th> <th>到達目標を達成していない</th> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	評価項目	評価基準					履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない																																				
評価項目		評価基準																																													
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない																																										

教科書・参考文献・資料等

教科書																																										
<table border="1"> <tr> <th>No</th> <th>書籍名</th> <th>著者</th> <th>出版社</th> <th>出版年</th> <th>I S B N</th> <th>備考</th> </tr> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>4</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>5</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考	1							2							3							4							5						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考																																				
1																																										
2																																										
3																																										
4																																										
5																																										

参考文献・資料等																																										
<table border="1"> <tr> <th>No</th> <th>書籍名</th> <th>著者</th> <th>出版社</th> <th>出版年</th> <th>I S B N</th> <th>備考</th> </tr> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>4</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>5</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考	1							2							3							4							5						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考																																				
1																																										
2																																										
3																																										
4																																										
5																																										

基本情報

科目分類区分		対象学科・配当	
開講時期	後期	授業形態	演習 必修・選択
科目名称	専門演習 B (科目ナンバリング: SEM133156, SEM433094, SEM533105)		
授業担当者(所属・職名)		研究室所在	
単位数	1 (単位認定責任者:)	CAP制	
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容		

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1			
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
16			

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分		対象学科・配当			
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	
科目名称	専門演習 B (科目ナンバリング: SEM133156, SEM433094, SEM533105)				
授業担当者(所属・職名)		研究室所在			
単位数	1 (単位認定責任者:)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			

概要

履修目標																								
授業の位置づけ																								
到達目標																								
授業全体の内容と概要																								
授業の方法																								
アクティブラーニングの実施方法																								
<table border="1"> <tr> <td></td> <td>プレゼンテーション</td> <td></td> <td>グループワーク</td> <td></td> <td>フィールドワーク</td> <td></td> <td>PBL</td> </tr> <tr> <td></td> <td>模擬授業</td> <td></td> <td>ロールプレイ</td> <td></td> <td>調査学習</td> <td></td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td></td> <td>ディスカッション</td> <td></td> <td>実験・実習・実技</td> <td></td> <td>双方向授業</td> <td></td> <td>その他(授業の方法参照)</td> </tr> </table>		プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL		模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業		ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)
	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL																	
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業																	
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)																	
履修上の注意事項																								
資格指定科目																								

評価方法・基準

評価前提条件					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

基本情報

科目分類区分		対象学科・配当	
開講時期	後期	授業形態	演習 必修・選択
科目名称	専門演習 B (科目ナンバリング: SEM133156, SEM433094, SEM533105)		
授業担当者(所属・職名)		研究室所在	
単位数	1 (単位認定責任者:)	CAP制	
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容		

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1			
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
16			

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・3年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	専門演習 B (科目ナンバリング: SEM133156, SEM433094, SEM533105)				
授業担当者(所属・職名)	社会福祉学科各教員		研究室所在	各教員研究室	
単位数	1 (単位認定責任者: 各教員)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	各教員がそれぞれの専門分野の資格、実務経験をもとに課題発見や研究テーマ構築の指導を行う。		

概要

履修目標
「専門演習 B」の目的は、知的トレーニングを積み重ねていくことにある。それまでの様々な講義から習得した知識を基礎とし、さらにゼミナール担当教員の指導やゼミナール学生とのディスカッションを通して、学生個々の独創性を磨き、独自の研究テーマを設定する視点と、それを論文として形にするための基本スキルとツールの活用法を取得する。さらに「勉強・研究テーマ」を探索する。

授業の位置づけ
社会福祉学科のDP「1」「2」と(3)と(4)と(5)と(6)と(7)、「2(2)」に対応する。

到達目標
<ul style="list-style-type: none"> 自分の課題を見つけ、自らが学び考えて解釈できる能力を身につけることができる。 個々の学生が、それぞれの「勉強テーマ」の糸口をつかむことができる。 上記研究テーマを構築するために必要な文献・資料・データを活用するスキルを身につけることができる。 研究テーマに沿った論文執筆の基本的スキルを身につけることができる。 自分の研究テーマをプレゼン形式で発表するスキルと学友の発表を傾聴し、的確な質問をするスキルが取得できる。

授業全体の内容と概要
それぞれのゼミナール担当教員が学生諸君に提示している「専門テーマ」に沿って進められる。

授業の方法
各教員の指導方針のもとに行われるので、講義・ゼミナール・実験・製作・見学・調査など、様々な授業形態がとられる。従って、大学生として真摯に学ぶ姿勢と自覚が求められる。質問は随時対応し、レポートの場合はコメント等によりフィードバックを行う。

アクティブラーニングの実施方法												
<table border="1"> <tr> <td>プレゼンテーション</td> <td>グループワーク</td> <td>フィールドワーク</td> <td>PBL</td> </tr> <tr> <td>模擬授業</td> <td>ロールプレイ</td> <td>調査学習</td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td>ディスカッション</td> <td>実験・実習・実技</td> <td>双方向授業</td> <td>その他(授業の方法参照)</td> </tr> </table>	プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL	模擬授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業	ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)
プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL									
模擬授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業									
ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)									

履修上の注意事項
前期に履修した「専門演習 A」の教員が継続して担当する。4年次の「専門演習 AB」についても、原則としてこの科目の教員が継続して担当する。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件												
単位取得の最低条件である10回以上の出席をクリアすること。												
評価方法												
<table border="1"> <tr> <th>定期試験</th> <th>レポート</th> <th>課題・作品</th> <th>中間テスト</th> <th>平常点</th> <th>その他</th> </tr> <tr> <td>0%</td> <td>0%</td> <td>0%</td> <td>0%</td> <td>0%</td> <td>100%</td> </tr> </table>	定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他	0%	0%	0%	0%	0%	100%
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他							
0%	0%	0%	0%	0%	100%							

ルーブリック																													
<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">評価項目</th> <th colspan="5">評価基準</th> </tr> <tr> <th>履修項目を超えたレベルを達成している</th> <th>履修項目をほぼ達成している</th> <th>履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している</th> <th>到達目標を達成している</th> <th>到達目標を達成していない</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>4年次における研究テーマの端緒を見つけ、それを研究テーマに昇華できる。</td> <td>自分の研究テーマを発見するに至ったプロセスを、ネット資料、参考文献を提示しながら説明でき、且つ、今後のプロセスについて指針を持つことができた。</td> <td>研究テーマの端緒を掴むため、今現在自分が行っている活動(ネット、文献検索等)を説明できた。</td> <td>自分の研究テーマを発見するに至ったプロセスを、ネット資料、参考文献を提示しながら説明できた。</td> <td>自分の研究テーマが明確になっており、そこに至ったプロセスを明確に説明できた。</td> <td>左記の内容が何一つできなかった。</td> </tr> <tr> <td>論文・レポート執筆のスキルを身に付けている。</td> <td>研究テーマについて、論証するための執筆スキルを身に付けており、それを起承転結に構成した文章で表すことができた。</td> <td>研究テーマについて、論証するための執筆スキルを身に付けており、そのための確立ができた。</td> <td>研究テーマについて、論証するための執筆スキルを身に付けている。</td> <td>論文・レポート執筆のための基本スキルを身に付けることができた。</td> <td>左記の内容が何一つできなかった。</td> </tr> <tr> <td>研究テーマについてのディスカッションを行うことができる。</td> <td>研究テーマについてのディスカッションの中で、自分のテーマを明確に発表でき、周囲を納得させることができ、尚且つ他者の発表を尊重し、双方向の発表の中で他者の意見をヒントを得て、他者にヒントを与えることができた。</td> <td>研究テーマについてのディスカッションの中で、自分のテーマを明確に発表でき、他者の家knを尊重することができた。</td> <td>研究テーマについてのディスカッションの中で、自分のテーマを明確に発表でき、周囲を納得させることができた。</td> <td>自分の研究テーマを明確に発表できた。</td> <td>左記の内容が何一つできなかった。</td> </tr> </tbody> </table>	評価項目	評価基準					履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない	4年次における研究テーマの端緒を見つけ、それを研究テーマに昇華できる。	自分の研究テーマを発見するに至ったプロセスを、ネット資料、参考文献を提示しながら説明でき、且つ、今後のプロセスについて指針を持つことができた。	研究テーマの端緒を掴むため、今現在自分が行っている活動(ネット、文献検索等)を説明できた。	自分の研究テーマを発見するに至ったプロセスを、ネット資料、参考文献を提示しながら説明できた。	自分の研究テーマが明確になっており、そこに至ったプロセスを明確に説明できた。	左記の内容が何一つできなかった。	論文・レポート執筆のスキルを身に付けている。	研究テーマについて、論証するための執筆スキルを身に付けており、それを起承転結に構成した文章で表すことができた。	研究テーマについて、論証するための執筆スキルを身に付けており、そのための確立ができた。	研究テーマについて、論証するための執筆スキルを身に付けている。	論文・レポート執筆のための基本スキルを身に付けることができた。	左記の内容が何一つできなかった。	研究テーマについてのディスカッションを行うことができる。	研究テーマについてのディスカッションの中で、自分のテーマを明確に発表でき、周囲を納得させることができ、尚且つ他者の発表を尊重し、双方向の発表の中で他者の意見をヒントを得て、他者にヒントを与えることができた。	研究テーマについてのディスカッションの中で、自分のテーマを明確に発表でき、他者の家knを尊重することができた。	研究テーマについてのディスカッションの中で、自分のテーマを明確に発表でき、周囲を納得させることができた。	自分の研究テーマを明確に発表できた。	左記の内容が何一つできなかった。
評価項目		評価基準																											
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない																								
4年次における研究テーマの端緒を見つけ、それを研究テーマに昇華できる。	自分の研究テーマを発見するに至ったプロセスを、ネット資料、参考文献を提示しながら説明でき、且つ、今後のプロセスについて指針を持つことができた。	研究テーマの端緒を掴むため、今現在自分が行っている活動(ネット、文献検索等)を説明できた。	自分の研究テーマを発見するに至ったプロセスを、ネット資料、参考文献を提示しながら説明できた。	自分の研究テーマが明確になっており、そこに至ったプロセスを明確に説明できた。	左記の内容が何一つできなかった。																								
論文・レポート執筆のスキルを身に付けている。	研究テーマについて、論証するための執筆スキルを身に付けており、それを起承転結に構成した文章で表すことができた。	研究テーマについて、論証するための執筆スキルを身に付けており、そのための確立ができた。	研究テーマについて、論証するための執筆スキルを身に付けている。	論文・レポート執筆のための基本スキルを身に付けることができた。	左記の内容が何一つできなかった。																								
研究テーマについてのディスカッションを行うことができる。	研究テーマについてのディスカッションの中で、自分のテーマを明確に発表でき、周囲を納得させることができ、尚且つ他者の発表を尊重し、双方向の発表の中で他者の意見をヒントを得て、他者にヒントを与えることができた。	研究テーマについてのディスカッションの中で、自分のテーマを明確に発表でき、他者の家knを尊重することができた。	研究テーマについてのディスカッションの中で、自分のテーマを明確に発表でき、周囲を納得させることができた。	自分の研究テーマを明確に発表できた。	左記の内容が何一つできなかった。																								

教科書・参考文献・資料等

教科書																																										
<table border="1"> <thead> <tr> <th>No</th> <th>書籍名</th> <th>著者</th> <th>出版社</th> <th>出版年</th> <th>ISBN</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>4</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>5</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>	No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考	1							2							3							4							5						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考																																				
1																																										
2																																										
3																																										
4																																										
5																																										

参考文献・資料等																																										
<table border="1"> <thead> <tr> <th>No</th> <th>書籍名</th> <th>著者</th> <th>出版社</th> <th>出版年</th> <th>ISBN</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>4</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>5</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>	No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考	1							2							3							4							5						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考																																				
1																																										
2																																										
3																																										
4																																										
5																																										

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・3年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	専門演習 B (科目ナンバリング: SEM133156, SEM433094, SEM533105)				
授業担当者(所属・職名)	社会福祉学科各教員		研究室所在	各教員研究室	
単位数	1 (単位認定責任者: 各教員)		CAP制		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	各教員がそれぞれの専門分野の資格、実務経験をもとに課題発見や研究テーマ構築の指導を行う。		

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	シラバスの説明 担当教員によるガイダンス	所属研究室選択資料の確認(45分)	配布資料の確認(45分)
2	担当教員による授業1	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
3	担当教員による授業2	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
4	担当教員による授業3	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
5	担当教員による授業4	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
6	担当教員による授業5	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
7	担当教員による授業6	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
8	担当教員による授業7	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
9	担当教員による授業8	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
10	担当教員による授業9	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
11	担当教員による授業10	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
12	担当教員による授業11	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
13	担当教員による授業12	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
14	担当教員による授業13	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
15	担当教員による授業14	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
16	総括	予習課題(45分)	全体振り返り(45分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分		対象学科・配当			
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	
科目名称	専門演習 B (科目ナンバリング: SEM133156, SEM433094, SEM533105)				
授業担当者(所属・職名)		研究室所在			
単位数	1 (単位認定責任者:)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			

概要

履修目標			
授業の位置づけ			
到達目標			
授業全体の内容と概要			
授業の方法			
アクティブラーニングの実施方法			
プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL
模擬授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業
ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)
履修上の注意事項			
資格指定科目			

評価方法・基準

評価前提条件					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

基本情報

科目分類区分		対象学科・配当	
開講時期	後期	授業形態	演習 必修・選択
科目名称	専門演習 B (科目ナンバリング: SEM133156, SEM433094, SEM533105)		
授業担当者(所属・職名)		研究室所在	
単位数	1 (単位認定責任者:)	CAP制	
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容		

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1			
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
16			

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分		対象学科・配当			
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	
科目名称	専門演習 B (科目ナンバリング: SEM133156, SEM433094, SEM533105)				
授業担当者(所属・職名)		研究室所在			
単位数	1 (単位認定責任者:)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			

概要

履修目標																								
授業の位置づけ																								
到達目標																								
授業全体の内容と概要																								
授業の方法																								
アクティブラーニングの実施方法																								
<table border="1"> <tr> <td></td> <td>プレゼンテーション</td> <td></td> <td>グループワーク</td> <td></td> <td>フィールドワーク</td> <td></td> <td>P B L</td> </tr> <tr> <td></td> <td>模擬授業</td> <td></td> <td>ロールプレイ</td> <td></td> <td>調査学習</td> <td></td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td></td> <td>ディスカッション</td> <td></td> <td>実験・実習・実技</td> <td></td> <td>双方向授業</td> <td></td> <td>その他(授業の方法参照)</td> </tr> </table>		プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		P B L		模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業		ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)
	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		P B L																	
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業																	
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)																	
履修上の注意事項																								
資格指定科目																								

評価方法・基準

評価前提条件												
評価方法												
<table border="1"> <tr> <td>定期試験</td> <td>レポート</td> <td>課題・作品</td> <td>中間テスト</td> <td>平常点</td> <td>その他</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他						
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他							

ルーブリック																																															
<table border="1"> <tr> <th rowspan="2">評価項目</th> <th colspan="5">評価基準</th> </tr> <tr> <th>履修項目を超えたレベルを達成している</th> <th>履修項目をほぼ達成している</th> <th>履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している</th> <th>到達目標を達成している</th> <th>到達目標を達成していない</th> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	評価項目	評価基準					履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない																																				
評価項目		評価基準																																													
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない																																										

教科書・参考文献・資料等

教科書																																										
<table border="1"> <tr> <th>No</th> <th>書籍名</th> <th>著者</th> <th>出版社</th> <th>出版年</th> <th>I S B N</th> <th>備考</th> </tr> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>4</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>5</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考	1							2							3							4							5						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考																																				
1																																										
2																																										
3																																										
4																																										
5																																										

参考文献・資料等																																										
<table border="1"> <tr> <th>No</th> <th>書籍名</th> <th>著者</th> <th>出版社</th> <th>出版年</th> <th>I S B N</th> <th>備考</th> </tr> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>4</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>5</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考	1							2							3							4							5						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考																																				
1																																										
2																																										
3																																										
4																																										
5																																										

基本情報

科目分類区分		対象学科・配当	
開講時期	後期	授業形態	演習 必修・選択
科目名称	専門演習 B (科目ナンバリング: SEM133156, SEM433094, SEM533105)		
授業担当者(所属・職名)		研究室所在	
単位数	1 (単位認定責任者:)	CAP制	
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容		

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1			
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
16			

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分		対象学科・配当			
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	
科目名称	専門演習 B (科目ナンバリング: SEM133156, SEM433094, SEM533105)				
授業担当者(所属・職名)		研究室所在			
単位数	1 (単位認定責任者:)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			

概要

履修目標																								
授業の位置づけ																								
到達目標																								
授業全体の内容と概要																								
授業の方法																								
アクティブラーニングの実施方法																								
<table border="1"> <tr> <td></td> <td>プレゼンテーション</td> <td></td> <td>グループワーク</td> <td></td> <td>フィールドワーク</td> <td></td> <td>PBL</td> </tr> <tr> <td></td> <td>模擬授業</td> <td></td> <td>ロールプレイ</td> <td></td> <td>調査学習</td> <td></td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td></td> <td>ディスカッション</td> <td></td> <td>実験・実習・実技</td> <td></td> <td>双方向授業</td> <td></td> <td>その他(授業の方法参照)</td> </tr> </table>		プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL		模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業		ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)
	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL																	
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業																	
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)																	
履修上の注意事項																								
資格指定科目																								

評価方法・基準

評価前提条件					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

基本情報

科目分類区分		対象学科・配当	
開講時期	後期	授業形態	演習 必修・選択
科目名称	専門演習 B (科目ナンバリング: SEM133156, SEM433094, SEM533105)		
授業担当者(所属・職名)		研究室所在	
単位数	1 (単位認定責任者:)	CAP制	
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容		

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1			
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
16			

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分		対象学科・配当			
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	
科目名称	専門演習 B (科目ナンバリング: SEM133156, SEM433094, SEM533105)				
授業担当者(所属・職名)		研究室所在			
単位数	1 (単位認定責任者:)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			

概要

履修目標																								
授業の位置づけ																								
到達目標																								
授業全体の内容と概要																								
授業の方法																								
アクティブラーニングの実施方法																								
<table border="1"> <tr> <td></td> <td>プレゼンテーション</td> <td></td> <td>グループワーク</td> <td></td> <td>フィールドワーク</td> <td></td> <td>PBL</td> </tr> <tr> <td></td> <td>模擬授業</td> <td></td> <td>ロールプレイ</td> <td></td> <td>調査学習</td> <td></td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td></td> <td>ディスカッション</td> <td></td> <td>実験・実習・実技</td> <td></td> <td>双方向授業</td> <td></td> <td>その他(授業の方法参照)</td> </tr> </table>		プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL		模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業		ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)
	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL																	
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業																	
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)																	
履修上の注意事項																								
資格指定科目																								

評価方法・基準

評価前提条件												
評価方法												
<table border="1"> <tr> <td>定期試験</td> <td>レポート</td> <td>課題・作品</td> <td>中間テスト</td> <td>平常点</td> <td>その他</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他						
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他							

ルーブリック																																															
<table border="1"> <tr> <th rowspan="2">評価項目</th> <th colspan="5">評価基準</th> </tr> <tr> <th>履修項目を超えたレベルを達成している</th> <th>履修項目をほぼ達成している</th> <th>履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している</th> <th>到達目標を達成している</th> <th>到達目標を達成していない</th> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	評価項目	評価基準					履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない																																				
評価項目		評価基準																																													
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない																																										

教科書・参考文献・資料等

教科書																																										
<table border="1"> <tr> <th>No</th> <th>書籍名</th> <th>著者</th> <th>出版社</th> <th>出版年</th> <th>ISBN</th> <th>備考</th> </tr> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>4</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>5</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考	1							2							3							4							5						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考																																				
1																																										
2																																										
3																																										
4																																										
5																																										

参考文献・資料等																																										
<table border="1"> <tr> <th>No</th> <th>書籍名</th> <th>著者</th> <th>出版社</th> <th>出版年</th> <th>ISBN</th> <th>備考</th> </tr> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>4</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>5</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考	1							2							3							4							5						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考																																				
1																																										
2																																										
3																																										
4																																										
5																																										

基本情報

科目分類区分		対象学科・配当	
開講時期	後期	授業形態	演習 必修・選択
科目名称	専門演習 B (科目ナンバリング: SEM133156, SEM433094, SEM533105)		
授業担当者(所属・職名)		研究室所在	
単位数	1 (単位認定責任者:)	CAP制	
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容		

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1			
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
16			

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分		対象学科・配当			
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	
科目名称	専門演習 B (科目ナンバリング: SEM133156, SEM433094, SEM533105)				
授業担当者(所属・職名)			研究室所在		
単位数	1 (単位認定責任者:)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

概要

履修目標																								
授業の位置づけ																								
到達目標																								
授業全体の内容と概要																								
授業の方法																								
アクティブラーニングの実施方法																								
<table border="1"> <tr> <td></td> <td>プレゼンテーション</td> <td></td> <td>グループワーク</td> <td></td> <td>フィールドワーク</td> <td></td> <td>PBL</td> </tr> <tr> <td></td> <td>模擬授業</td> <td></td> <td>ロールプレイ</td> <td></td> <td>調査学習</td> <td></td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td></td> <td>ディスカッション</td> <td></td> <td>実験・実習・実技</td> <td></td> <td>双方向授業</td> <td></td> <td>その他(授業の方法参照)</td> </tr> </table>		プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL		模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業		ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)
	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL																	
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業																	
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)																	
履修上の注意事項																								
資格指定科目																								

評価方法・基準

評価前提条件					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

基本情報

科目分類区分		対象学科・配当	
開講時期	後期	授業形態	演習 必修・選択
科目名称	専門演習 B (科目ナンバリング: SEM133156, SEM433094, SEM533105)		
授業担当者(所属・職名)		研究室所在	
単位数	1 (単位認定責任者:)	CAP制	
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容		

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1			
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
16			

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分		対象学科・配当			
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	
科目名称	専門演習 B (科目ナンバリング: SEM133156, SEM433094, SEM533105)				
授業担当者(所属・職名)		研究室所在			
単位数	1 (単位認定責任者:)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			

概要

履修目標																								
授業の位置づけ																								
到達目標																								
授業全体の内容と概要																								
授業の方法																								
アクティブラーニングの実施方法																								
<table border="1"> <tr> <td></td> <td>プレゼンテーション</td> <td></td> <td>グループワーク</td> <td></td> <td>フィールドワーク</td> <td></td> <td>PBL</td> </tr> <tr> <td></td> <td>模擬授業</td> <td></td> <td>ロールプレイ</td> <td></td> <td>調査学習</td> <td></td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td></td> <td>ディスカッション</td> <td></td> <td>実験・実習・実技</td> <td></td> <td>双方向授業</td> <td></td> <td>その他(授業の方法参照)</td> </tr> </table>		プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL		模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業		ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)
	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL																	
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業																	
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)																	
履修上の注意事項																								
資格指定科目																								

評価方法・基準

評価前提条件												
評価方法												
<table border="1"> <tr> <td>定期試験</td> <td>レポート</td> <td>課題・作品</td> <td>中間テスト</td> <td>平常点</td> <td>その他</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他						
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他							

ルーブリック																																															
<table border="1"> <tr> <th rowspan="2">評価項目</th> <th colspan="5">評価基準</th> </tr> <tr> <th>履修項目を超えたレベルを達成している</th> <th>履修項目をほぼ達成している</th> <th>履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している</th> <th>到達目標を達成している</th> <th>到達目標を達成していない</th> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	評価項目	評価基準					履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない																																				
評価項目		評価基準																																													
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない																																										

教科書・参考文献・資料等

教科書																																										
<table border="1"> <tr> <th>No</th> <th>書籍名</th> <th>著者</th> <th>出版社</th> <th>出版年</th> <th>ISBN</th> <th>備考</th> </tr> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>4</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>5</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考	1							2							3							4							5						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考																																				
1																																										
2																																										
3																																										
4																																										
5																																										

参考文献・資料等																																										
<table border="1"> <tr> <th>No</th> <th>書籍名</th> <th>著者</th> <th>出版社</th> <th>出版年</th> <th>ISBN</th> <th>備考</th> </tr> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>4</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>5</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考	1							2							3							4							5						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考																																				
1																																										
2																																										
3																																										
4																																										
5																																										

基本情報

科目分類区分		対象学科・配当	
開講時期	後期	授業形態	演習 必修・選択
科目名称	専門演習 B (科目ナンバリング: SEM133156, SEM433094, SEM533105)		
授業担当者(所属・職名)		研究室所在	
単位数	1 (単位認定責任者:)	CAP制	
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容		

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1			
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
16			

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分		対象学科・配当			
開講時期	前期集中	授業形態	演習	必修・選択	
科目名称	専門演習 A (科目ナンバリング: SEM134157, SEM434095, SEM534106)				
授業担当者(所属・職名)			研究室所在		
単位数	1 (単位認定責任者:)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

概要

履修目標																								
授業の位置づけ																								
到達目標																								
授業全体の内容と概要																								
授業の方法																								
アクティブラーニングの実施方法																								
<table border="1"> <tr> <td></td> <td>プレゼンテーション</td> <td></td> <td>グループワーク</td> <td></td> <td>フィールドワーク</td> <td></td> <td>PBL</td> </tr> <tr> <td></td> <td>模擬授業</td> <td></td> <td>ロールプレイ</td> <td></td> <td>調査学習</td> <td></td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td></td> <td>ディスカッション</td> <td></td> <td>実験・実習・実技</td> <td></td> <td>双方向授業</td> <td></td> <td>その他(授業の方法参照)</td> </tr> </table>		プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL		模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業		ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)
	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL																	
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業																	
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)																	
履修上の注意事項																								
資格指定科目																								

評価方法・基準

評価前提条件					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

基本情報

科目分類区分		対象学科・配当	
開講時期	前期集中	授業形態	演習 必修・選択
科目名称	専門演習 A (科目ナンバリング: SEM134157, SEM434095, SEM534106)		
授業担当者(所属・職名)		研究室所在	
単位数	1 (単位認定責任者:)	CAP制	
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容		

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1			
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
16			

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分		対象学科・配当			
開講時期	前期集中	授業形態	演習	必修・選択	
科目名称	専門演習 A (科目ナンバリング: SEM134157, SEM434095, SEM534106)				
授業担当者(所属・職名)			研究室所在		
単位数	1 (単位認定責任者:)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

概要

履修目標																								
授業の位置づけ																								
到達目標																								
授業全体の内容と概要																								
授業の方法																								
アクティブラーニングの実施方法																								
<table border="1"> <tr> <td></td> <td>プレゼンテーション</td> <td></td> <td>グループワーク</td> <td></td> <td>フィールドワーク</td> <td></td> <td>PBL</td> </tr> <tr> <td></td> <td>模擬授業</td> <td></td> <td>ロールプレイ</td> <td></td> <td>調査学習</td> <td></td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td></td> <td>ディスカッション</td> <td></td> <td>実験・実習・実技</td> <td></td> <td>双方向授業</td> <td></td> <td>その他(授業の方法参照)</td> </tr> </table>		プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL		模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業		ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)
	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL																	
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業																	
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)																	
履修上の注意事項																								
資格指定科目																								

評価方法・基準

評価前提条件					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

基本情報

科目分類区分		対象学科・配当	
開講時期	前期集中	授業形態	演習 必修・選択
科目名称	専門演習 A (科目ナンバリング: SEM134157, SEM434095, SEM534106)		
授業担当者(所属・職名)		研究室所在	
単位数	1 (単位認定責任者:)	CAP制	
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容		

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1			
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
16			

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分		対象学科・配当			
開講時期	前期集中	授業形態	演習	必修・選択	
科目名称	専門演習 A (科目ナンバリング: SEM134157, SEM434095, SEM534106)				
授業担当者(所属・職名)			研究室所在		
単位数	1 (単位認定責任者:)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

概要

履修目標																								
授業の位置づけ																								
到達目標																								
授業全体の内容と概要																								
授業の方法																								
アクティブラーニングの実施方法																								
<table border="1"> <tr> <td></td> <td>プレゼンテーション</td> <td></td> <td>グループワーク</td> <td></td> <td>フィールドワーク</td> <td></td> <td>PBL</td> </tr> <tr> <td></td> <td>模擬授業</td> <td></td> <td>ロールプレイ</td> <td></td> <td>調査学習</td> <td></td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td></td> <td>ディスカッション</td> <td></td> <td>実験・実習・実技</td> <td></td> <td>双方向授業</td> <td></td> <td>その他(授業の方法参照)</td> </tr> </table>		プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL		模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業		ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)
	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL																	
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業																	
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)																	
履修上の注意事項																								
資格指定科目																								

評価方法・基準

評価前提条件					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

基本情報

科目分類区分		対象学科・配当	
開講時期	前期集中	授業形態	演習 必修・選択
科目名称	専門演習 A (科目ナンバリング: SEM134157, SEM434095, SEM534106)		
授業担当者(所属・職名)		研究室所在	
単位数	1 (単位認定責任者:)	CAP制	
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容		

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1			
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
16			

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分		対象学科・配当			
開講時期	前期集中	授業形態	演習	必修・選択	
科目名称	専門演習 A (科目ナンバリング: SEM134157, SEM434095, SEM534106)				
授業担当者(所属・職名)			研究室所在		
単位数	1 (単位認定責任者:)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

概要

履修目標																								
授業の位置づけ																								
到達目標																								
授業全体の内容と概要																								
授業の方法																								
アクティブラーニングの実施方法																								
<table border="1"> <tr> <td></td> <td>プレゼンテーション</td> <td></td> <td>グループワーク</td> <td></td> <td>フィールドワーク</td> <td></td> <td>PBL</td> </tr> <tr> <td></td> <td>模擬授業</td> <td></td> <td>ロールプレイ</td> <td></td> <td>調査学習</td> <td></td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td></td> <td>ディスカッション</td> <td></td> <td>実験・実習・実技</td> <td></td> <td>双方向授業</td> <td></td> <td>その他(授業の方法参照)</td> </tr> </table>		プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL		模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業		ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)
	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL																	
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業																	
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)																	
履修上の注意事項																								
資格指定科目																								

評価方法・基準

評価前提条件					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

基本情報

科目分類区分		対象学科・配当	
開講時期	前期集中	授業形態	演習 必修・選択
科目名称	専門演習 A (科目ナンバリング: SEM134157, SEM434095, SEM534106)		
授業担当者(所属・職名)		研究室所在	
単位数	1 (単位認定責任者:)	CAP制	
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容		

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1			
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
16			

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分		対象学科・配当			
開講時期	前期集中	授業形態	演習	必修・選択	
科目名称	専門演習 A (科目ナンバリング: SEM134157, SEM434095, SEM534106)				
授業担当者(所属・職名)			研究室所在		
単位数	1 (単位認定責任者:)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

概要

履修目標																								
授業の位置づけ																								
到達目標																								
授業全体の内容と概要																								
授業の方法																								
アクティブラーニングの実施方法																								
<table border="1"> <tr> <td></td> <td>プレゼンテーション</td> <td></td> <td>グループワーク</td> <td></td> <td>フィールドワーク</td> <td></td> <td>PBL</td> </tr> <tr> <td></td> <td>模擬授業</td> <td></td> <td>ロールプレイ</td> <td></td> <td>調査学習</td> <td></td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td></td> <td>ディスカッション</td> <td></td> <td>実験・実習・実技</td> <td></td> <td>双方向授業</td> <td></td> <td>その他(授業の方法参照)</td> </tr> </table>		プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL		模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業		ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)
	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL																	
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業																	
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)																	
履修上の注意事項																								
資格指定科目																								

評価方法・基準

評価前提条件					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

基本情報

科目分類区分		対象学科・配当	
開講時期	前期集中	授業形態	演習 必修・選択
科目名称	専門演習 A (科目ナンバリング: SEM134157, SEM434095, SEM534106)		
授業担当者(所属・職名)		研究室所在	
単位数	1 (単位認定責任者:)	CAP制	
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容		

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1			
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
16			

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・4年		
開講時期	前期集中	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	専門演習 A (科目ナンバリング: SEM134157, SEM434095, SEM534106)				
授業担当者(所属・職名)	社会福祉学科各教員		研究室所在	各教員研究室	
単位数	1 (単位認定責任者: 各教員)		CAP制		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

概要

履修目標
卒業論文執筆を通して、社会福祉学研究に必要なスキルを習得する。具体的には、社会福祉に関する様々な事象のうち、自分が関心を持つ事象を探究するためのスキル(問題発見・分析能力の養成・情報文献収集・調査等)を身に付ける。また、ゼミナールごとにキャリア支援教育が組まれており、身に着けたスキルを将来に生かす方法を探求する。

授業の位置づけ
社会福祉学科のDP「1」「(2)と(3)と(4)と(5)と(6)と(7)」、「2(2)」に対応する。

到達目標
ソーシャルスキル、グループ方式による作業方法、データの収集や分析・解釈、プレゼン能力の向上、論文作成など、一連の方法を身に付けることが基本となるが、さらに、下記のことについて達成できる。 ・各自の関心に基づく社会福祉関連の研究テーマを見つけることができる。 ・関連資料の収集・整理を共同作業で行うことができる。 ・研究報告及び研究成果のまとめを行うことができる。

授業全体の内容と概要
それぞれのゼミナール担当教員が学生に提示する「専門テーマ」に沿った形で進められる。

授業の方法
各教員の指導方針のもとに行われるので、講義・ゼミナール・実験・製作・見学・調査など、様々な授業形態がとられる。資料等の提示については、板書、資料配布、プレゼンテーションソフトウェア等により行われる。課題等に関するフィードバックはコメントにてフィードバックされる。

アクティブラーニングの実施方法						
	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク	PBL
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習	反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項
各担当教員の指示に従い、主体的・積極的な参加に務めること。 大学生として真摯に学ぶ姿勢と自覚が求められる。 後期の「専門演習 B」も、この演習の担当教員が継続して担当する。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件					
単位取得の最低出席条件10回以上をクリアすること。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	0%	0%	0%	100%

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
卒業論文執筆のテーマが明確になっている。	卒業論文執筆のテーマが明確になっており、そのテーマに至るまでの文献・ネット検索のプロセスを説明できた。	卒業論文執筆のテーマが明確になっており、そのテーマの今後の執筆予定を説明できた。	卒業論文執筆のテーマに沿って章立てができ、執筆を開始できた。	卒業論文執筆のテーマが明確になった。	左記の内容が何一つできなかった。
研究テーマに関するディスカッションができる。	ディスカッションにおいて、自分の執筆テーマの意義と展望、現在の進捗状況を報告でき、尚且つ、他者の発表に的確な助言ができた。	ディスカッションにおいて、自分の執筆テーマの意義と展望、現在の進捗状況を報告できた。	ディスカッションにおいて、自分の執筆テーマの意義と展望を報告できた。	ディスカッションにおいて、自分の研究テーマを報告できた。	左記の内容が何一つできなかった。
自分の研究テーマについてのプレゼンテーションができる。	自分の研究テーマについてのプレゼンにおいて、明確な参考資料を提示でき、報告でき、且つ、周囲を納得させることができ、さらに、他者のプレゼンに対して的確な助言ができた。	自分の研究テーマについてのプレゼンにおいて、明確な参考資料を提示でき、報告でき、且つ、周囲を納得させることができた。	自分の研究テーマについてのプレゼンにおいて、明確な参考資料を提示でき、報告できた。	自分の研究テーマのプレゼンテーションが一応できた。	左記の内容が何一つできなかった。

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・4年		
開講時期	前期集中	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	専門演習 A (科目ナンバリング: SEM134157, SEM434095, SEM534106)				
授業担当者(所属・職名)	社会福祉学科各教員		研究室所在	各教員研究室	
単位数	1 (単位認定責任者: 各教員)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	担当教員によるガイダンス(シラバスの説明を含む)	所属研究室選択資料の確認(45分)	配布資料の確認(45分)
2	担当教員による授業2	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
3	担当教員による授業3	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
4	担当教員による授業1	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
5	担当教員による授業4	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
6	担当教員による授業5	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
7	担当教員による授業6	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
8	担当教員による授業7	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
9	担当教員による授業8	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
10	担当教員による授業9	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
11	担当教員による授業10	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
12	担当教員による授業11	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
13	担当教員による授業12	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
14	担当教員による授業13	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
15	担当教員による授業14	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
16	総括	予習課題(45分)	全体振り返り(45分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分		対象学科・配当			
開講時期	前期集中	授業形態	演習	必修・選択	
科目名称	専門演習 A (科目ナンバリング: SEM134157, SEM434095, SEM534106)				
授業担当者(所属・職名)			研究室所在		
単位数	1 (単位認定責任者:)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

概要

履修目標																								
授業の位置づけ																								
到達目標																								
授業全体の内容と概要																								
授業の方法																								
アクティブラーニングの実施方法																								
<table border="1"> <tr> <td></td> <td>プレゼンテーション</td> <td></td> <td>グループワーク</td> <td></td> <td>フィールドワーク</td> <td></td> <td>PBL</td> </tr> <tr> <td></td> <td>模擬授業</td> <td></td> <td>ロールプレイ</td> <td></td> <td>調査学習</td> <td></td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td></td> <td>ディスカッション</td> <td></td> <td>実験・実習・実技</td> <td></td> <td>双方向授業</td> <td></td> <td>その他(授業の方法参照)</td> </tr> </table>		プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL		模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業		ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)
	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL																	
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業																	
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)																	
履修上の注意事項																								
資格指定科目																								

評価方法・基準

評価前提条件					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

基本情報

科目分類区分		対象学科・配当	
開講時期	前期集中	授業形態	演習 必修・選択
科目名称	専門演習 A (科目ナンバリング: SEM134157, SEM434095, SEM534106)		
授業担当者(所属・職名)		研究室所在	
単位数	1 (単位認定責任者:)	CAP制	
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容		

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1			
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
16			

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分		対象学科・配当			
開講時期	前期集中	授業形態	演習	必修・選択	
科目名称	専門演習 A (科目ナンバリング: SEM134157, SEM434095, SEM534106)				
授業担当者(所属・職名)			研究室所在		
単位数	1 (単位認定責任者:)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

概要

履修目標												
授業の位置づけ												
到達目標												
授業全体の内容と概要												
授業の方法												
アクティブラーニングの実施方法												
<table border="1"> <tr> <td>プレゼンテーション</td> <td>グループワーク</td> <td>フィールドワーク</td> <td>PBL</td> </tr> <tr> <td>模擬授業</td> <td>ロールプレイ</td> <td>調査学習</td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td>ディスカッション</td> <td>実験・実習・実技</td> <td>双方向授業</td> <td>その他(授業の方法参照)</td> </tr> </table>	プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL	模擬授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業	ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)
プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL									
模擬授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業									
ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)									
履修上の注意事項												
資格指定科目												

評価方法・基準

評価前提条件					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

基本情報

科目分類区分		対象学科・配当	
開講時期	前期集中	授業形態	演習 必修・選択
科目名称	専門演習 A (科目ナンバリング: SEM134157, SEM434095, SEM534106)		
授業担当者(所属・職名)		研究室所在	
単位数	1 (単位認定責任者:)	CAP制	
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容		

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1			
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
16			

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分		対象学科・配当	
開講時期	前期集中	授業形態	演習 必修・選択
科目名称	専門演習 A (科目ナンバリング: SEM134157, SEM434095, SEM534106)		
授業担当者(所属・職名)		研究室所在	
単位数	1 (単位認定責任者:)	CAP制	
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容		

概要

履修目標																								
授業の位置づけ																								
到達目標																								
授業全体の内容と概要																								
授業の方法																								
アクティブラーニングの実施方法																								
<table border="1"> <tr> <td></td> <td>プレゼンテーション</td> <td></td> <td>グループワーク</td> <td></td> <td>フィールドワーク</td> <td></td> <td>PBL</td> </tr> <tr> <td></td> <td>模擬授業</td> <td></td> <td>ロールプレイ</td> <td></td> <td>調査学習</td> <td></td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td></td> <td>ディスカッション</td> <td></td> <td>実験・実習・実技</td> <td></td> <td>双方向授業</td> <td></td> <td>その他(授業の方法参照)</td> </tr> </table>		プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL		模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業		ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)
	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL																	
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業																	
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)																	
履修上の注意事項																								
資格指定科目																								

評価方法・基準

評価前提条件					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

基本情報

科目分類区分		対象学科・配当	
開講時期	前期集中	授業形態	演習 必修・選択
科目名称	専門演習 A (科目ナンバリング: SEM134157, SEM434095, SEM534106)		
授業担当者(所属・職名)		研究室所在	
単位数	1 (単位認定責任者:)	CAP制	
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容		

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1			
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
16			

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分		対象学科・配当			
開講時期	前期集中	授業形態	演習	必修・選択	
科目名称	専門演習 A (科目ナンバリング: SEM134157, SEM434095, SEM534106)				
授業担当者(所属・職名)			研究室所在		
単位数	1 (単位認定責任者:)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

概要

履修目標																								
授業の位置づけ																								
到達目標																								
授業全体の内容と概要																								
授業の方法																								
アクティブラーニングの実施方法																								
<table border="1"> <tr> <td></td> <td>プレゼンテーション</td> <td></td> <td>グループワーク</td> <td></td> <td>フィールドワーク</td> <td></td> <td>PBL</td> </tr> <tr> <td></td> <td>模擬授業</td> <td></td> <td>ロールプレイ</td> <td></td> <td>調査学習</td> <td></td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td></td> <td>ディスカッション</td> <td></td> <td>実験・実習・実技</td> <td></td> <td>双方向授業</td> <td></td> <td>その他(授業の方法参照)</td> </tr> </table>		プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL		模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業		ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)
	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL																	
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業																	
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)																	
履修上の注意事項																								
資格指定科目																								

評価方法・基準

評価前提条件					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

基本情報

科目分類区分		対象学科・配当	
開講時期	前期集中	授業形態	演習 必修・選択
科目名称	専門演習 A (科目ナンバリング: SEM134157, SEM434095, SEM534106)		
授業担当者(所属・職名)		研究室所在	
単位数	1 (単位認定責任者:)	CAP制	
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容		

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1			
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
16			

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分		対象学科・配当			
開講時期	前期集中	授業形態	演習	必修・選択	
科目名称	専門演習 A (科目ナンバリング: SEM134157, SEM434095, SEM534106)				
授業担当者(所属・職名)			研究室所在		
単位数	1 (単位認定責任者:)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

概要

履修目標																								
授業の位置づけ																								
到達目標																								
授業全体の内容と概要																								
授業の方法																								
アクティブラーニングの実施方法																								
<table border="1"> <tr> <td></td> <td>プレゼンテーション</td> <td></td> <td>グループワーク</td> <td></td> <td>フィールドワーク</td> <td></td> <td>PBL</td> </tr> <tr> <td></td> <td>模擬授業</td> <td></td> <td>ロールプレイ</td> <td></td> <td>調査学習</td> <td></td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td></td> <td>ディスカッション</td> <td></td> <td>実験・実習・実技</td> <td></td> <td>双方向授業</td> <td></td> <td>その他(授業の方法参照)</td> </tr> </table>		プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL		模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業		ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)
	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL																	
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業																	
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)																	
履修上の注意事項																								
資格指定科目																								

評価方法・基準

評価前提条件					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

基本情報

科目分類区分		対象学科・配当	
開講時期	前期集中	授業形態	演習 必修・選択
科目名称	専門演習 A (科目ナンバリング: SEM134157, SEM434095, SEM534106)		
授業担当者(所属・職名)		研究室所在	
単位数	1 (単位認定責任者:)	CAP制	
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容		

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1			
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
16			

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分		対象学科・配当			
開講時期	前期集中	授業形態	演習	必修・選択	
科目名称	専門演習 A (科目ナンバリング: SEM134157, SEM434095, SEM534106)				
授業担当者(所属・職名)			研究室所在		
単位数	1	(単位認定責任者:)	CAP制		
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			

概要

履修目標																								
授業の位置づけ																								
到達目標																								
授業全体の内容と概要																								
授業の方法																								
アクティブラーニングの実施方法																								
<table border="1"> <tr> <td></td> <td>プレゼンテーション</td> <td></td> <td>グループワーク</td> <td></td> <td>フィールドワーク</td> <td></td> <td>P B L</td> </tr> <tr> <td></td> <td>模擬授業</td> <td></td> <td>ロールプレイ</td> <td></td> <td>調査学習</td> <td></td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td></td> <td>ディスカッション</td> <td></td> <td>実験・実習・実技</td> <td></td> <td>双方向授業</td> <td></td> <td>その他(授業の方法参照)</td> </tr> </table>		プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		P B L		模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業		ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)
	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		P B L																	
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業																	
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)																	
履修上の注意事項																								
資格指定科目																								

評価方法・基準

評価前提条件					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

基本情報

科目分類区分		対象学科・配当	
開講時期	前期集中	授業形態	演習 必修・選択
科目名称	専門演習 A (科目ナンバリング: SEM134157, SEM434095, SEM534106)		
授業担当者(所属・職名)		研究室所在	
単位数	1 (単位認定責任者:)	CAP制	
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容		

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1			
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
16			

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分		対象学科・配当			
開講時期	後期集中	授業形態	演習	必修・選択	
科目名称	専門演習 B (科目ナンバリング: SEM134158, SEM434096, SEM534107)				
授業担当者(所属・職名)		研究室所在			
単位数	1 (単位認定責任者:)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			

概要

履修目標																								
授業の位置づけ																								
到達目標																								
授業全体の内容と概要																								
授業の方法																								
アクティブラーニングの実施方法																								
<table border="1"> <tr> <td></td> <td>プレゼンテーション</td> <td></td> <td>グループワーク</td> <td></td> <td>フィールドワーク</td> <td></td> <td>PBL</td> </tr> <tr> <td></td> <td>模擬授業</td> <td></td> <td>ロールプレイ</td> <td></td> <td>調査学習</td> <td></td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td></td> <td>ディスカッション</td> <td></td> <td>実験・実習・実技</td> <td></td> <td>双方向授業</td> <td></td> <td>その他(授業の方法参照)</td> </tr> </table>		プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL		模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業		ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)
	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL																	
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業																	
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)																	
履修上の注意事項																								
資格指定科目																								

評価方法・基準

評価前提条件					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

基本情報

科目分類区分		対象学科・配当	
開講時期	後期集中	授業形態	演習 必修・選択
科目名称	専門演習 B (科目ナンバリング: SEM134158, SEM434096, SEM534107)		
授業担当者(所属・職名)		研究室所在	
単位数	1 (単位認定責任者:)	CAP制	
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容		

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1			
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
16			

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分		対象学科・配当			
開講時期	後期集中	授業形態	演習	必修・選択	
科目名称	専門演習 B (科目ナンバリング: SEM134158, SEM434096, SEM534107)				
授業担当者(所属・職名)		研究室所在			
単位数	1 (単位認定責任者:)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			

概要

履修目標																								
授業の位置づけ																								
到達目標																								
授業全体の内容と概要																								
授業の方法																								
アクティブラーニングの実施方法																								
<table border="1"> <tr> <td></td> <td>プレゼンテーション</td> <td></td> <td>グループワーク</td> <td></td> <td>フィールドワーク</td> <td></td> <td>P B L</td> </tr> <tr> <td></td> <td>模擬授業</td> <td></td> <td>ロールプレイ</td> <td></td> <td>調査学習</td> <td></td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td></td> <td>ディスカッション</td> <td></td> <td>実験・実習・実技</td> <td></td> <td>双方向授業</td> <td></td> <td>その他(授業の方法参照)</td> </tr> </table>		プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		P B L		模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業		ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)
	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		P B L																	
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業																	
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)																	
履修上の注意事項																								
資格指定科目																								

評価方法・基準

評価前提条件												
評価方法												
<table border="1"> <tr> <td>定期試験</td> <td>レポート</td> <td>課題・作品</td> <td>中間テスト</td> <td>平常点</td> <td>その他</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他						
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他							

ルーブリック																																															
<table border="1"> <tr> <td rowspan="2">評価項目</td> <td colspan="5">評価基準</td> </tr> <tr> <td>履修項目を超えたレベルを達成している</td> <td>履修項目をほぼ達成している</td> <td>履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している</td> <td>到達目標を達成している</td> <td>到達目標を達成していない</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	評価項目	評価基準					履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない																																				
評価項目		評価基準																																													
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない																																										

教科書・参考文献・資料等

教科書																																										
<table border="1"> <tr> <th>No</th> <th>書籍名</th> <th>著者</th> <th>出版社</th> <th>出版年</th> <th>I S B N</th> <th>備考</th> </tr> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>4</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>5</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考	1							2							3							4							5						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考																																				
1																																										
2																																										
3																																										
4																																										
5																																										

参考文献・資料等																																										
<table border="1"> <tr> <th>No</th> <th>書籍名</th> <th>著者</th> <th>出版社</th> <th>出版年</th> <th>I S B N</th> <th>備考</th> </tr> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>4</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>5</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考	1							2							3							4							5						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考																																				
1																																										
2																																										
3																																										
4																																										
5																																										

基本情報

科目分類区分		対象学科・配当	
開講時期	後期集中	授業形態	演習 必修・選択
科目名称	専門演習 B (科目ナンバリング: SEM134158, SEM434096, SEM534107)		
授業担当者(所属・職名)		研究室所在	
単位数	1 (単位認定責任者:)	CAP制	
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容		

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1			
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
16			

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分		対象学科・配当			
開講時期	後期集中	授業形態	演習	必修・選択	
科目名称	専門演習 B (科目ナンバリング: SEM134158, SEM434096, SEM534107)				
授業担当者(所属・職名)		研究室所在			
単位数	1 (単位認定責任者:)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			

概要

履修目標																								
授業の位置づけ																								
到達目標																								
授業全体の内容と概要																								
授業の方法																								
アクティブラーニングの実施方法																								
<table border="1"> <tr> <td></td> <td>プレゼンテーション</td> <td></td> <td>グループワーク</td> <td></td> <td>フィールドワーク</td> <td></td> <td>P B L</td> </tr> <tr> <td></td> <td>模擬授業</td> <td></td> <td>ロールプレイ</td> <td></td> <td>調査学習</td> <td></td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td></td> <td>ディスカッション</td> <td></td> <td>実験・実習・実技</td> <td></td> <td>双方向授業</td> <td></td> <td>その他(授業の方法参照)</td> </tr> </table>		プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		P B L		模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業		ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)
	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		P B L																	
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業																	
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)																	
履修上の注意事項																								
資格指定科目																								

評価方法・基準

評価前提条件												
評価方法												
<table border="1"> <tr> <td>定期試験</td> <td>レポート</td> <td>課題・作品</td> <td>中間テスト</td> <td>平常点</td> <td>その他</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他						
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他							

ルーブリック																																															
<table border="1"> <tr> <th rowspan="2">評価項目</th> <th colspan="5">評価基準</th> </tr> <tr> <th>履修項目を超えたレベルを達成している</th> <th>履修項目をほぼ達成している</th> <th>履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している</th> <th>到達目標を達成している</th> <th>到達目標を達成していない</th> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	評価項目	評価基準					履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない																																				
評価項目		評価基準																																													
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない																																										

教科書・参考文献・資料等

教科書																																										
<table border="1"> <tr> <th>No</th> <th>書籍名</th> <th>著者</th> <th>出版社</th> <th>出版年</th> <th>I S B N</th> <th>備考</th> </tr> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>4</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>5</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考	1							2							3							4							5						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考																																				
1																																										
2																																										
3																																										
4																																										
5																																										

参考文献・資料等																																										
<table border="1"> <tr> <th>No</th> <th>書籍名</th> <th>著者</th> <th>出版社</th> <th>出版年</th> <th>I S B N</th> <th>備考</th> </tr> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>4</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>5</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考	1							2							3							4							5						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考																																				
1																																										
2																																										
3																																										
4																																										
5																																										

基本情報

科目分類区分		対象学科・配当	
開講時期	後期集中	授業形態	演習 必修・選択
科目名称	専門演習 B (科目ナンバリング: SEM134158, SEM434096, SEM534107)		
授業担当者(所属・職名)		研究室所在	
単位数	1 (単位認定責任者:)	CAP制	
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容		

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1			
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
16			

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分		対象学科・配当			
開講時期	後期集中	授業形態	演習	必修・選択	
科目名称	専門演習 B (科目ナンバリング: SEM134158, SEM434096, SEM534107)				
授業担当者(所属・職名)		研究室所在			
単位数	1 (単位認定責任者:)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			

概要

履修目標																								
授業の位置づけ																								
到達目標																								
授業全体の内容と概要																								
授業の方法																								
アクティブラーニングの実施方法																								
<table border="1"> <tr> <td></td> <td>プレゼンテーション</td> <td></td> <td>グループワーク</td> <td></td> <td>フィールドワーク</td> <td></td> <td>PBL</td> </tr> <tr> <td></td> <td>模擬授業</td> <td></td> <td>ロールプレイ</td> <td></td> <td>調査学習</td> <td></td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td></td> <td>ディスカッション</td> <td></td> <td>実験・実習・実技</td> <td></td> <td>双方向授業</td> <td></td> <td>その他(授業の方法参照)</td> </tr> </table>		プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL		模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業		ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)
	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL																	
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業																	
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)																	
履修上の注意事項																								
資格指定科目																								

評価方法・基準

評価前提条件					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

基本情報

科目分類区分		対象学科・配当	
開講時期	後期集中	授業形態	演習 必修・選択
科目名称	専門演習 B (科目ナンバリング: SEM134158, SEM434096, SEM534107)		
授業担当者(所属・職名)		研究室所在	
単位数	1 (単位認定責任者:)	CAP制	
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容		

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1			
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
16			

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分		対象学科・配当			
開講時期	後期集中	授業形態	演習	必修・選択	
科目名称	専門演習 B (科目ナンバリング: SEM134158, SEM434096, SEM534107)				
授業担当者(所属・職名)		研究室所在			
単位数	1 (単位認定責任者:)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			

概要

履修目標																								
授業の位置づけ																								
到達目標																								
授業全体の内容と概要																								
授業の方法																								
アクティブラーニングの実施方法																								
<table border="1"> <tr> <td></td> <td>プレゼンテーション</td> <td></td> <td>グループワーク</td> <td></td> <td>フィールドワーク</td> <td></td> <td>PBL</td> </tr> <tr> <td></td> <td>模擬授業</td> <td></td> <td>ロールプレイ</td> <td></td> <td>調査学習</td> <td></td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td></td> <td>ディスカッション</td> <td></td> <td>実験・実習・実技</td> <td></td> <td>双方向授業</td> <td></td> <td>その他(授業の方法参照)</td> </tr> </table>		プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL		模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業		ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)
	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL																	
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業																	
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)																	
履修上の注意事項																								
資格指定科目																								

評価方法・基準

評価前提条件					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

基本情報

科目分類区分		対象学科・配当	
開講時期	後期集中	授業形態	演習 必修・選択
科目名称	専門演習 B (科目ナンバリング: SEM134158, SEM434096, SEM534107)		
授業担当者(所属・職名)		研究室所在	
単位数	1 (単位認定責任者:)	CAP制	
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容		

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1			
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
16			

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・4年		
開講時期	後期集中	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	専門演習 B (科目ナンバリング: SEM134158, SEM434096, SEM534107)				
授業担当者(所属・職名)	社会福祉学科各教員		研究室所在	各教員研究室	
単位数	1 (単位認定責任者: 各教員)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	各教員がそれぞれの専門分野の資格、実務経験をもとに課題発見や研究テーマ構築の指導を行う。		

概要

<p>履修目標</p> <p>卒業論文執筆を通して、社会福祉学研究に必要なスキルを獲得していく。具体的には、社会福祉に関係する様々な事象のうち、自分が関心を持つ事象を探求するためのスキル(問題発見・分析能力の養成・情報文献収集・調査等)を学ぶ。また、ゼミナールごとにキャリア支援教育が組まれており、身に着けたスキルを将来に生かす方法を探求する。</p>												
<p>授業の位置づけ</p> <p>社会福祉学科のDP「1」「2」と(3)と(4)と(5)と(6)と(7)、「2(2)」に対応する。</p>												
<p>到達目標</p> <p>ソーシャルスキル、グループ方式による作業方法、データの収集や分析・解釈、プレゼン能力の向上、論文作成など、一連の方法を身に着けることが基本となるが、さらに、下記のことについて達成できる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各自の関心に基づく社会福祉関連の研究テーマを見つけることができる。 ・関連資料の収集・整理を共同作業で行うことができる。 ・研究報告及び研究成果のまとめを行うことができる。 												
<p>授業全体の内容と概要</p> <p>それぞれのゼミナール担当教員が学生諸君に提示している「専門テーマ」に沿った形で進められる。</p>												
<p>授業の方法</p> <p>各教員の指導方針のもとに行われるので、講義・ゼミナール・実験・製作・見学・調査など、様々な授業形態がとられる。したがって、大学生として真摯に学ぶ姿勢と自覚が求められる。</p> <p>質問は各教員が随時対応し、レポートの場合はコメント等によりフィードバックを行う。</p>												
<p>アクティブラーニングの実施方法</p> <table border="1"> <tr> <td>プレゼンテーション</td> <td>グループワーク</td> <td>フィールドワーク</td> <td>PBL</td> </tr> <tr> <td>模擬授業</td> <td>ロールプレイ</td> <td>調査学習</td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td>ディスカッション</td> <td>実験・実習・実技</td> <td>双方向授業</td> <td>その他(授業の方法参照)</td> </tr> </table>	プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL	模擬授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業	ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)
プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL									
模擬授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業									
ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)									
<p>履修上の注意事項</p> <p>各担当教員の指示に従い、主体的・積極的に参加に務めること。後期の「専門演習 B」も、この演習の担当教員が継続して担当する。</p>												
<p>資格指定科目</p>												

評価方法・基準

評価前提条件					
単位取得の最低出席条件10回以上をクリアすること。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	0%	0%	0%	100%

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
卒業論文執筆をスムーズに進捗できる。	卒業論文が完成してきた。	卒業論文執筆の具体的な計画を立てそれに沿って執筆が進んでいた。	卒業論文執筆の計画を立てることができた。	卒業論文執筆の計画どおり執筆が進められており、修正箇所を的確に修正できた。	左記の内容が何一つできなかった。
研究テーマについてのディスカッションにおいて、積極的に発表できる。	研究テーマに関するディスカッションにおいて、自分の研究テーマについて、参考資料を明示しながら発表でき、且つ、他者の発表に対して、的確な指摘と意見を言うことができた。	研究テーマに関するディスカッションにおいて、自分の研究テーマを発表できる。同時に、他者の発表を尊重できた。	研究テーマに関するディスカッションにおいて、自分の研究テーマを発表できた。	研究テーマに関するディスカッションにおいて、自分の研究テーマを発表できた。	左記の内容が何一つできなかった。
卒業論文発表会において的確な発表ができる。	卒業論文発表会において、自分の卒論について、テーマ、執筆動機、展望を明確な資料と同時に発表できた。尚且つ、他者の発表に対して的確な意見と指摘ができた。	卒業論文発表会において、自分の卒論について、テーマ、執筆動機、展望を明確な資料と同時に発表できた。	卒業論文発表会において、自分の卒論について、参考資料を挙げながら発表できた。	卒業論文発表会において、自分の卒論についての発表ができた。	左記の内容が何一つできなかった。

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・4年		
開講時期	後期集中	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	専門演習 B (科目ナンバリング: SEM134158, SEM434096, SEM534107)				
授業担当者(所属・職名)	社会福祉学科各教員		研究室所在	各教員研究室	
単位数	1 (単位認定責任者: 各教員)		CAP制		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	各教員がそれぞれの専門分野の資格、実務経験をもとに課題発見や研究テーマ構築の指導を行う。		

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	シラバスの説明 担当教員によるガイダンス	所属研究室選択資料の確認(45分)	配布資料の確認(45分)
2	担当教員による授業1	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
3	担当教員による授業2	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
4	担当教員による授業3	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
5	担当教員による授業4	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
6	担当教員による授業5	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
7	担当教員による授業6	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
8	担当教員による授業7	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
9	担当教員による授業8	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
10	担当教員による授業9	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
11	担当教員による授業10	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
12	担当教員による授業11	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
13	担当教員による授業12	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
14	担当教員による授業13	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
15	担当教員による授業14	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
16	卒業論文発表会	予習課題(45分)	卒業論文全体の振り返り(1時間)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分		対象学科・配当			
開講時期	後期集中	授業形態	演習	必修・選択	
科目名称	専門演習 B (科目ナンバリング: SEM134158, SEM434096, SEM534107)				
授業担当者(所属・職名)		研究室所在			
単位数	1 (単位認定責任者:)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			

概要

履修目標																								
授業の位置づけ																								
到達目標																								
授業全体の内容と概要																								
授業の方法																								
アクティブラーニングの実施方法																								
<table border="1"> <tr> <td></td> <td>プレゼンテーション</td> <td></td> <td>グループワーク</td> <td></td> <td>フィールドワーク</td> <td></td> <td>PBL</td> </tr> <tr> <td></td> <td>模擬授業</td> <td></td> <td>ロールプレイ</td> <td></td> <td>調査学習</td> <td></td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td></td> <td>ディスカッション</td> <td></td> <td>実験・実習・実技</td> <td></td> <td>双方向授業</td> <td></td> <td>その他(授業の方法参照)</td> </tr> </table>		プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL		模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業		ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)
	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL																	
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業																	
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)																	
履修上の注意事項																								
資格指定科目																								

評価方法・基準

評価前提条件												
評価方法												
<table border="1"> <tr> <td>定期試験</td> <td>レポート</td> <td>課題・作品</td> <td>中間テスト</td> <td>平常点</td> <td>その他</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他						
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他							

ルーブリック																																															
<table border="1"> <tr> <th rowspan="2">評価項目</th> <th colspan="5">評価基準</th> </tr> <tr> <th>履修項目を超えたレベルを達成している</th> <th>履修項目をほぼ達成している</th> <th>履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している</th> <th>到達目標を達成している</th> <th>到達目標を達成していない</th> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	評価項目	評価基準					履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない																																				
評価項目		評価基準																																													
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない																																										

教科書・参考文献・資料等

教科書																																										
<table border="1"> <tr> <th>No</th> <th>書籍名</th> <th>著者</th> <th>出版社</th> <th>出版年</th> <th>ISBN</th> <th>備考</th> </tr> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>4</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>5</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考	1							2							3							4							5						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考																																				
1																																										
2																																										
3																																										
4																																										
5																																										

参考文献・資料等																																										
<table border="1"> <tr> <th>No</th> <th>書籍名</th> <th>著者</th> <th>出版社</th> <th>出版年</th> <th>ISBN</th> <th>備考</th> </tr> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>4</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>5</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考	1							2							3							4							5						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考																																				
1																																										
2																																										
3																																										
4																																										
5																																										

基本情報

科目分類区分		対象学科・配当	
開講時期	後期集中	授業形態	演習 必修・選択
科目名称	専門演習 B (科目ナンバリング: SEM134158, SEM434096, SEM534107)		
授業担当者(所属・職名)		研究室所在	
単位数	1 (単位認定責任者:)	CAP制	
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容		

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1			
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
16			

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分		対象学科・配当			
開講時期	後期集中	授業形態	演習	必修・選択	
科目名称	専門演習 B (科目ナンバリング: SEM134158, SEM434096, SEM534107)				
授業担当者(所属・職名)		研究室所在			
単位数	1 (単位認定責任者:)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			

概要

履修目標																								
授業の位置づけ																								
到達目標																								
授業全体の内容と概要																								
授業の方法																								
アクティブラーニングの実施方法																								
<table border="1"> <tr> <td></td> <td>プレゼンテーション</td> <td></td> <td>グループワーク</td> <td></td> <td>フィールドワーク</td> <td></td> <td>PBL</td> </tr> <tr> <td></td> <td>模擬授業</td> <td></td> <td>ロールプレイ</td> <td></td> <td>調査学習</td> <td></td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td></td> <td>ディスカッション</td> <td></td> <td>実験・実習・実技</td> <td></td> <td>双方向授業</td> <td></td> <td>その他(授業の方法参照)</td> </tr> </table>		プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL		模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業		ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)
	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL																	
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業																	
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)																	
履修上の注意事項																								
資格指定科目																								

評価方法・基準

評価前提条件					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

基本情報

科目分類区分		対象学科・配当	
開講時期	後期集中	授業形態	演習 必修・選択
科目名称	専門演習 B (科目ナンバリング: SEM134158, SEM434096, SEM534107)		
授業担当者(所属・職名)		研究室所在	
単位数	1 (単位認定責任者:)	CAP制	
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容		

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1			
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
16			

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分		対象学科・配当			
開講時期	後期集中	授業形態	演習	必修・選択	
科目名称	専門演習 B (科目ナンバリング: SEM134158, SEM434096, SEM534107)				
授業担当者(所属・職名)		研究室所在			
単位数	1 (単位認定責任者:)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			

概要

履修目標																								
授業の位置づけ																								
到達目標																								
授業全体の内容と概要																								
授業の方法																								
アクティブラーニングの実施方法																								
<table border="1"> <tr> <td></td> <td>プレゼンテーション</td> <td></td> <td>グループワーク</td> <td></td> <td>フィールドワーク</td> <td></td> <td>P B L</td> </tr> <tr> <td></td> <td>模擬授業</td> <td></td> <td>ロールプレイ</td> <td></td> <td>調査学習</td> <td></td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td></td> <td>ディスカッション</td> <td></td> <td>実験・実習・実技</td> <td></td> <td>双方向授業</td> <td></td> <td>その他(授業の方法参照)</td> </tr> </table>		プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		P B L		模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業		ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)
	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		P B L																	
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業																	
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)																	
履修上の注意事項																								
資格指定科目																								

評価方法・基準

評価前提条件					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

基本情報

科目分類区分		対象学科・配当	
開講時期	後期集中	授業形態	演習 必修・選択
科目名称	専門演習 B (科目ナンバリング: SEM134158, SEM434096, SEM534107)		
授業担当者(所属・職名)		研究室所在	
単位数	1 (単位認定責任者:)	CAP制	
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容		

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1			
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
16			

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分		対象学科・配当			
開講時期	後期集中	授業形態	演習	必修・選択	
科目名称	専門演習 B (科目ナンバリング: SEM134158, SEM434096, SEM534107)				
授業担当者(所属・職名)		研究室所在			
単位数	1 (単位認定責任者:)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			

概要

履修目標																								
授業の位置づけ																								
到達目標																								
授業全体の内容と概要																								
授業の方法																								
アクティブラーニングの実施方法																								
<table border="1"> <tr> <td></td> <td>プレゼンテーション</td> <td></td> <td>グループワーク</td> <td></td> <td>フィールドワーク</td> <td></td> <td>PBL</td> </tr> <tr> <td></td> <td>模擬授業</td> <td></td> <td>ロールプレイ</td> <td></td> <td>調査学習</td> <td></td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td></td> <td>ディスカッション</td> <td></td> <td>実験・実習・実技</td> <td></td> <td>双方向授業</td> <td></td> <td>その他(授業の方法参照)</td> </tr> </table>		プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL		模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業		ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)
	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL																	
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業																	
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)																	
履修上の注意事項																								
資格指定科目																								

評価方法・基準

評価前提条件					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

基本情報

科目分類区分		対象学科・配当	
開講時期	後期集中	授業形態	演習 必修・選択
科目名称	専門演習 B (科目ナンバリング: SEM134158, SEM434096, SEM534107)		
授業担当者(所属・職名)		研究室所在	
単位数	1 (単位認定責任者:)	CAP制	
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容		

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1			
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
16			

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分		対象学科・配当			
開講時期	後期集中	授業形態	演習	必修・選択	
科目名称	専門演習 B (科目ナンバリング: SEM134158, SEM434096, SEM534107)				
授業担当者(所属・職名)			研究室所在		
単位数	1 (単位認定責任者:)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

概要

履修目標																								
授業の位置づけ																								
到達目標																								
授業全体の内容と概要																								
授業の方法																								
アクティブラーニングの実施方法																								
<table border="1"> <tr> <td></td> <td>プレゼンテーション</td> <td></td> <td>グループワーク</td> <td></td> <td>フィールドワーク</td> <td></td> <td>PBL</td> </tr> <tr> <td></td> <td>模擬授業</td> <td></td> <td>ロールプレイ</td> <td></td> <td>調査学習</td> <td></td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td></td> <td>ディスカッション</td> <td></td> <td>実験・実習・実技</td> <td></td> <td>双方向授業</td> <td></td> <td>その他(授業の方法参照)</td> </tr> </table>		プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL		模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業		ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)
	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL																	
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業																	
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)																	
履修上の注意事項																								
資格指定科目																								

評価方法・基準

評価前提条件					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

基本情報

科目分類区分		対象学科・配当	
開講時期	後期集中	授業形態	演習 必修・選択
科目名称	専門演習 B (科目ナンバリング: SEM134158, SEM434096, SEM534107)		
授業担当者(所属・職名)		研究室所在	
単位数	1 (単位認定責任者:)	CAP制	
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容		

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1			
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
16			

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分		対象学科・配当			
開講時期	後期集中	授業形態	演習	必修・選択	
科目名称	専門演習 B (科目ナンバリング: SEM134158, SEM434096, SEM534107)				
授業担当者(所属・職名)			研究室所在		
単位数	1 (単位認定責任者:)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

概要

履修目標					
授業の位置づけ					
到達目標					
授業全体の内容と概要					
授業の方法					
アクティブラーニングの実施方法					
	プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL	
	模擬授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業	
	ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)	
履修上の注意事項					
資格指定科目					

評価方法・基準

評価前提条件					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

基本情報

科目分類区分		対象学科・配当	
開講時期	後期集中	授業形態	演習 必修・選択
科目名称	専門演習 B (科目ナンバリング: SEM134158, SEM434096, SEM534107)		
授業担当者(所属・職名)		研究室所在	
単位数	1 (単位認定責任者:)	CAP制	
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容		

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1			
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
16			

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分		対象学科・配当			
開講時期	後期集中	授業形態	演習	必修・選択	
科目名称	卒業論文 (科目ナンバリング: THE134159, THE434101, THE534112)				
授業担当者(所属・職名)			研究室所在		
単位数	4 (単位認定責任者:)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

概要

履修目標																								
授業の位置づけ																								
到達目標																								
授業全体の内容と概要																								
授業の方法																								
アクティブラーニングの実施方法																								
<table border="1"> <tr> <td></td> <td>プレゼンテーション</td> <td></td> <td>グループワーク</td> <td></td> <td>フィールドワーク</td> <td></td> <td>P B L</td> </tr> <tr> <td></td> <td>模擬授業</td> <td></td> <td>ロールプレイ</td> <td></td> <td>調査学習</td> <td></td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td></td> <td>ディスカッション</td> <td></td> <td>実験・実習・実技</td> <td></td> <td>双方向授業</td> <td></td> <td>その他(授業の方法参照)</td> </tr> </table>		プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		P B L		模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業		ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)
	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		P B L																	
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業																	
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)																	
履修上の注意事項																								
資格指定科目																								

評価方法・基準

評価前提条件					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

基本情報

科目分類区分		対象学科・配当	
開講時期	後期集中	授業形態	演習 必修・選択
科目名称	卒業論文 (科目ナンバリング: THE134159, THE434101, THE534112)		
授業担当者(所属・職名)		研究室所在	
単位数	4 (単位認定責任者:)	CAP制	
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容		

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1			
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
16			

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分		対象学科・配当			
開講時期	後期集中	授業形態	演習	必修・選択	
科目名称	卒業論文 (科目ナンバリング: THE134159, THE434101, THE534112)				
授業担当者(所属・職名)			研究室所在		
単位数	4 (単位認定責任者:)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

概要

履修目標																								
授業の位置づけ																								
到達目標																								
授業全体の内容と概要																								
授業の方法																								
アクティブラーニングの実施方法																								
<table border="1"> <tr> <td></td> <td>プレゼンテーション</td> <td></td> <td>グループワーク</td> <td></td> <td>フィールドワーク</td> <td></td> <td>PBL</td> </tr> <tr> <td></td> <td>模擬授業</td> <td></td> <td>ロールプレイ</td> <td></td> <td>調査学習</td> <td></td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td></td> <td>ディスカッション</td> <td></td> <td>実験・実習・実技</td> <td></td> <td>双方向授業</td> <td></td> <td>その他(授業の方法参照)</td> </tr> </table>		プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL		模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業		ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)
	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL																	
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業																	
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)																	
履修上の注意事項																								
資格指定科目																								

評価方法・基準

評価前提条件					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

基本情報

科目分類区分		対象学科・配当	
開講時期	後期集中	授業形態	演習 必修・選択
科目名称	卒業論文 (科目ナンバリング: THE134159, THE434101, THE534112)		
授業担当者(所属・職名)		研究室所在	
単位数	4 (単位認定責任者:)	CAP制	
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容		

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1			
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
16			

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分		対象学科・配当			
開講時期	後期集中	授業形態	演習	必修・選択	
科目名称	卒業論文 (科目ナンバリング: THE134159, THE434101, THE534112)				
授業担当者(所属・職名)			研究室所在		
単位数	4 (単位認定責任者:)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

概要

履修目標					
授業の位置づけ					
到達目標					
授業全体の内容と概要					
授業の方法					
アクティブラーニングの実施方法					
	プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL	
	模擬授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業	
	ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)	
履修上の注意事項					
資格指定科目					

評価方法・基準

評価前提条件					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

基本情報

科目分類区分		対象学科・配当	
開講時期	後期集中	授業形態	演習 必修・選択
科目名称	卒業論文 (科目ナンバリング: THE134159, THE434101, THE534112)		
授業担当者(所属・職名)		研究室所在	
単位数	4 (単位認定責任者:)	CAP制	
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容		

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1			
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
16			

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分		対象学科・配当	
開講時期	後期集中	授業形態	演習 必修・選択
科目名称	卒業論文 (科目ナンバリング: THE134159, THE434101, THE534112)		
授業担当者(所属・職名)		研究室所在	
単位数	4 (単位認定責任者:)	CAP制	
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容		

概要

履修目標																								
授業の位置づけ																								
到達目標																								
授業全体の内容と概要																								
授業の方法																								
アクティブラーニングの実施方法																								
<table border="1"> <tr> <td></td> <td>プレゼンテーション</td> <td></td> <td>グループワーク</td> <td></td> <td>フィールドワーク</td> <td></td> <td>PBL</td> </tr> <tr> <td></td> <td>模擬授業</td> <td></td> <td>ロールプレイ</td> <td></td> <td>調査学習</td> <td></td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td></td> <td>ディスカッション</td> <td></td> <td>実験・実習・実技</td> <td></td> <td>双方向授業</td> <td></td> <td>その他(授業の方法参照)</td> </tr> </table>		プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL		模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業		ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)
	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL																	
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業																	
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)																	
履修上の注意事項																								
資格指定科目																								

評価方法・基準

評価前提条件												
評価方法												
<table border="1"> <tr> <td>定期試験</td> <td>レポート</td> <td>課題・作品</td> <td>中間テスト</td> <td>平常点</td> <td>その他</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他						
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他							

ルーブリック																																															
<table border="1"> <tr> <th rowspan="2">評価項目</th> <th colspan="5">評価基準</th> </tr> <tr> <th>履修項目を超えたレベルを達成している</th> <th>履修項目をほぼ達成している</th> <th>履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している</th> <th>到達目標を達成している</th> <th>到達目標を達成していない</th> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	評価項目	評価基準					履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない																																				
評価項目		評価基準																																													
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない																																										

教科書・参考文献・資料等

教科書																																										
<table border="1"> <tr> <th>No</th> <th>書籍名</th> <th>著者</th> <th>出版社</th> <th>出版年</th> <th>ISBN</th> <th>備考</th> </tr> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>4</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>5</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考	1							2							3							4							5						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考																																				
1																																										
2																																										
3																																										
4																																										
5																																										

参考文献・資料等																																										
<table border="1"> <tr> <th>No</th> <th>書籍名</th> <th>著者</th> <th>出版社</th> <th>出版年</th> <th>ISBN</th> <th>備考</th> </tr> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>4</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>5</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考	1							2							3							4							5						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考																																				
1																																										
2																																										
3																																										
4																																										
5																																										

基本情報

科目分類区分		対象学科・配当	
開講時期	後期集中	授業形態	演習 必修・選択
科目名称	卒業論文 (科目ナンバリング: THE134159, THE434101, THE534112)		
授業担当者(所属・職名)		研究室所在	
単位数	4 (単位認定責任者:)	CAP制	
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容		

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1			
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
16			

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分		対象学科・配当			
開講時期	後期集中	授業形態	演習	必修・選択	
科目名称	卒業論文 (科目ナンバリング: THE134159, THE434101, THE534112)				
授業担当者(所属・職名)			研究室所在		
単位数	4 (単位認定責任者:)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

概要

履修目標																								
授業の位置づけ																								
到達目標																								
授業全体の内容と概要																								
授業の方法																								
アクティブラーニングの実施方法																								
<table border="1"> <tr> <td></td> <td>プレゼンテーション</td> <td></td> <td>グループワーク</td> <td></td> <td>フィールドワーク</td> <td></td> <td>PBL</td> </tr> <tr> <td></td> <td>模擬授業</td> <td></td> <td>ロールプレイ</td> <td></td> <td>調査学習</td> <td></td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td></td> <td>ディスカッション</td> <td></td> <td>実験・実習・実技</td> <td></td> <td>双方向授業</td> <td></td> <td>その他(授業の方法参照)</td> </tr> </table>		プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL		模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業		ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)
	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL																	
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業																	
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)																	
履修上の注意事項																								
資格指定科目																								

評価方法・基準

評価前提条件					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

基本情報

科目分類区分		対象学科・配当	
開講時期	後期集中	授業形態	演習 必修・選択
科目名称	卒業論文 (科目ナンバリング: THE134159, THE434101, THE534112)		
授業担当者(所属・職名)		研究室所在	
単位数	4 (単位認定責任者:)	CAP制	
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容		

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1			
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
16			

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・4年		
開講時期	後期集中	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	卒業論文 (科目ナンバリング: THE134159, THE434101, THE534112)				
授業担当者(所属・職名)	専門演習 AB担当教員(社会福祉学科・教授・准教授・専任講師)	研究室所在	1号館2階 2号館8階		
単位数	4 (単位認定責任者: 専門演習 AB担当教員)	CAP制	x		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

概要

履修目標
社会福祉学科が定める卒業論文の規定に沿って執筆し、その過程で資料の熟読、エビデンスの発見と使用、参考文献の引用の方法を学び、卒業後の実務にも生かせるクリティカルシンキングを身に付ける。

授業の位置づけ
社会福祉学科のDP「1」「(2)と(3)と(4)と(5)と(6)と(7)」、「2(2)」に対応する。

到達目標
卒業論文を完成させ、また、自分が執筆した論文の内容をプレゼンすることができる。

授業全体の内容と概要
各指導教員の指導方法に従うこと。

授業の方法
基本的に、指導教員とのマンツウマンの指導で行うが、担当教員によって独自の指導方法を課す場合がある。

アクティブラーニングの実施方法						
<input type="checkbox"/>	プレゼンテーション	<input type="checkbox"/>	グループワーク	<input type="checkbox"/>	フィールドワーク	PBL
<input type="checkbox"/>	模擬授業		ロールプレイ	<input type="checkbox"/>	調査学習	反転授業
<input type="checkbox"/>	ディスカッション		実験・実習・実技	<input type="checkbox"/>	双方向授業	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項
各指導教員によって異なる

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件					
各指導教員によって異なる。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
%	%	%	%	%	100%

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
卒業論文のペーパー完成	指導教員による	指導教員による	指導教員による	指導教員による	指導教員による
データ提出	指導教員による	指導教員による	指導教員による	指導教員による	指導教員による
プレゼン	指導教員による	指導教員による	指導教員による	指導教員による	指導教員による

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・4年		
開講時期	後期集中	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	卒業論文 (科目ナンバリング: THE134159, THE434101, THE534112)				
授業担当者(所属・職名)	専門演習 AB担当教員(社会福祉学科・教授・准教授・専任講師)	研究室所在	1号館2階 2号館8階		
単位数	4 (単位認定責任者: 専門演習 AB担当教員)	CAP制	x		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	指導教員による	指導教員による	指導教員による
2	指導教員による	指導教員による	指導教員による
3	指導教員による	指導教員による	指導教員による
4	指導教員による	指導教員による	指導教員による
5	指導教員による	指導教員による	指導教員による
6	指導教員による	指導教員による	指導教員による
7	指導教員による	指導教員による	指導教員による
8	指導教員による	指導教員による	指導教員による
9	指導教員による	指導教員による	指導教員による
10	指導教員による	指導教員による	指導教員による
11	指導教員による	指導教員による	指導教員による
12	指導教員による	指導教員による	指導教員による
13	指導教員による	指導教員による	指導教員による
14	指導教員による	指導教員による	指導教員による
15	指導教員による	指導教員による	指導教員による
16	指導教員による	指導教員による	指導教員による

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17	指導教員による	指導教員による	指導教員による
18	指導教員による	指導教員による	指導教員による
19	指導教員による	指導教員による	指導教員による
20	指導教員による	指導教員による	指導教員による
21	指導教員による	指導教員による	指導教員による
22	指導教員による	指導教員による	指導教員による
23	指導教員による	指導教員による	指導教員による
24	指導教員による	指導教員による	指導教員による
25	指導教員による	指導教員による	指導教員による
26	指導教員による	指導教員による	指導教員による
27	指導教員による	指導教員による	指導教員による
28	指導教員による	指導教員による	指導教員による
29	指導教員による	指導教員による	指導教員による
30	指導教員による	指導教員による	指導教員による
31	指導教員による	指導教員による	指導教員による
32	指導教員による	指導教員による	指導教員による

基本情報

科目分類区分		対象学科・配当			
開講時期	後期集中	授業形態	演習	必修・選択	
科目名称	卒業論文 (科目ナンバリング: THE134159, THE434101, THE534112)				
授業担当者(所属・職名)		研究室所在			
単位数	4 (単位認定責任者:)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			

概要

履修目標																								
授業の位置づけ																								
到達目標																								
授業全体の内容と概要																								
授業の方法																								
アクティブラーニングの実施方法																								
<table border="1"> <tr> <td></td> <td>プレゼンテーション</td> <td></td> <td>グループワーク</td> <td></td> <td>フィールドワーク</td> <td></td> <td>PBL</td> </tr> <tr> <td></td> <td>模擬授業</td> <td></td> <td>ロールプレイ</td> <td></td> <td>調査学習</td> <td></td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td></td> <td>ディスカッション</td> <td></td> <td>実験・実習・実技</td> <td></td> <td>双方向授業</td> <td></td> <td>その他(授業の方法参照)</td> </tr> </table>		プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL		模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業		ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)
	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL																	
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業																	
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)																	
履修上の注意事項																								
資格指定科目																								

評価方法・基準

評価前提条件												
評価方法												
<table border="1"> <tr> <td>定期試験</td> <td>レポート</td> <td>課題・作品</td> <td>中間テスト</td> <td>平常点</td> <td>その他</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他						
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他							

ルーブリック																																															
<table border="1"> <tr> <th rowspan="2">評価項目</th> <th colspan="5">評価基準</th> </tr> <tr> <th>履修項目を超えたレベルを達成している</th> <th>履修項目をほぼ達成している</th> <th>履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している</th> <th>到達目標を達成している</th> <th>到達目標を達成していない</th> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	評価項目	評価基準					履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない																																				
評価項目		評価基準																																													
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない																																										

教科書・参考文献・資料等

教科書																																										
<table border="1"> <tr> <th>No</th> <th>書籍名</th> <th>著者</th> <th>出版社</th> <th>出版年</th> <th>ISBN</th> <th>備考</th> </tr> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>4</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>5</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考	1							2							3							4							5						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考																																				
1																																										
2																																										
3																																										
4																																										
5																																										

参考文献・資料等																																										
<table border="1"> <tr> <th>No</th> <th>書籍名</th> <th>著者</th> <th>出版社</th> <th>出版年</th> <th>ISBN</th> <th>備考</th> </tr> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>4</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>5</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考	1							2							3							4							5						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考																																				
1																																										
2																																										
3																																										
4																																										
5																																										

基本情報

科目分類区分		対象学科・配当	
開講時期	後期集中	授業形態	演習 必修・選択
科目名称	卒業論文 (科目ナンバリング: THE134159, THE434101, THE534112)		
授業担当者(所属・職名)		研究室所在	
単位数	4 (単位認定責任者:)	CAP制	
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容		

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1			
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
16			

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分		対象学科・配当			
開講時期	後期集中	授業形態	演習	必修・選択	
科目名称	卒業論文 (科目ナンバリング: THE134159, THE434101, THE534112)				
授業担当者(所属・職名)			研究室所在		
単位数	4 (単位認定責任者:)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

概要

履修目標																								
授業の位置づけ																								
到達目標																								
授業全体の内容と概要																								
授業の方法																								
アクティブラーニングの実施方法																								
<table border="1"> <tr> <td></td> <td>プレゼンテーション</td> <td></td> <td>グループワーク</td> <td></td> <td>フィールドワーク</td> <td></td> <td>PBL</td> </tr> <tr> <td></td> <td>模擬授業</td> <td></td> <td>ロールプレイ</td> <td></td> <td>調査学習</td> <td></td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td></td> <td>ディスカッション</td> <td></td> <td>実験・実習・実技</td> <td></td> <td>双方向授業</td> <td></td> <td>その他(授業の方法参照)</td> </tr> </table>		プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL		模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業		ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)
	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL																	
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業																	
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)																	
履修上の注意事項																								
資格指定科目																								

評価方法・基準

評価前提条件					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

基本情報

科目分類区分		対象学科・配当	
開講時期	後期集中	授業形態	演習 必修・選択
科目名称	卒業論文 (科目ナンバリング: THE134159, THE434101, THE534112)		
授業担当者(所属・職名)		研究室所在	
単位数	4 (単位認定責任者:)	CAP制	
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容		

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1			
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
16			

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分		対象学科・配当	
開講時期	後期集中	授業形態	演習 必修・選択
科目名称	卒業論文 (科目ナンバリング: THE134159, THE434101, THE534112)		
授業担当者(所属・職名)		研究室所在	
単位数	4 (単位認定責任者:)	CAP制	
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容		

概要

履修目標																								
授業の位置づけ																								
到達目標																								
授業全体の内容と概要																								
授業の方法																								
アクティブラーニングの実施方法																								
<table border="1"> <tr> <td></td> <td>プレゼンテーション</td> <td></td> <td>グループワーク</td> <td></td> <td>フィールドワーク</td> <td></td> <td>PBL</td> </tr> <tr> <td></td> <td>模擬授業</td> <td></td> <td>ロールプレイ</td> <td></td> <td>調査学習</td> <td></td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td></td> <td>ディスカッション</td> <td></td> <td>実験・実習・実技</td> <td></td> <td>双方向授業</td> <td></td> <td>その他(授業の方法参照)</td> </tr> </table>		プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL		模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業		ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)
	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL																	
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業																	
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)																	
履修上の注意事項																								
資格指定科目																								

評価方法・基準

評価前提条件					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

基本情報

科目分類区分		対象学科・配当	
開講時期	後期集中	授業形態	演習 必修・選択
科目名称	卒業論文 (科目ナンバリング: THE134159, THE434101, THE534112)		
授業担当者(所属・職名)		研究室所在	
単位数	4 (単位認定責任者:)	CAP制	
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容		

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1			
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
16			

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分		対象学科・配当			
開講時期	後期集中	授業形態	演習	必修・選択	
科目名称	卒業論文 (科目ナンバリング: THE134159, THE434101, THE534112)				
授業担当者(所属・職名)			研究室所在		
単位数	4 (単位認定責任者:)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

概要

履修目標					
授業の位置づけ					
到達目標					
授業全体の内容と概要					
授業の方法					
アクティブラーニングの実施方法					
	プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL	
	模擬授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業	
	ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)	
履修上の注意事項					
資格指定科目					

評価方法・基準

評価前提条件					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

基本情報

科目分類区分		対象学科・配当	
開講時期	後期集中	授業形態	演習 必修・選択
科目名称	卒業論文 (科目ナンバリング: THE134159, THE434101, THE534112)		
授業担当者(所属・職名)		研究室所在	
単位数	4 (単位認定責任者:)	CAP制	
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容		

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1			
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
16			

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分		対象学科・配当			
開講時期	後期集中	授業形態	演習	必修・選択	
科目名称	卒業論文 (科目ナンバリング: THE134159, THE434101, THE534112)				
授業担当者(所属・職名)		研究室所在			
単位数	4 (単位認定責任者:)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			

概要

履修目標																								
授業の位置づけ																								
到達目標																								
授業全体の内容と概要																								
授業の方法																								
アクティブラーニングの実施方法																								
<table border="1"> <tr> <td></td> <td>プレゼンテーション</td> <td></td> <td>グループワーク</td> <td></td> <td>フィールドワーク</td> <td></td> <td>PBL</td> </tr> <tr> <td></td> <td>模擬授業</td> <td></td> <td>ロールプレイ</td> <td></td> <td>調査学習</td> <td></td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td></td> <td>ディスカッション</td> <td></td> <td>実験・実習・実技</td> <td></td> <td>双方向授業</td> <td></td> <td>その他(授業の方法参照)</td> </tr> </table>		プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL		模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業		ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)
	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL																	
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業																	
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)																	
履修上の注意事項																								
資格指定科目																								

評価方法・基準

評価前提条件					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

基本情報

科目分類区分		対象学科・配当	
開講時期	後期集中	授業形態	演習 必修・選択
科目名称	卒業論文 (科目ナンバリング: THE134159, THE434101, THE534112)		
授業担当者(所属・職名)		研究室所在	
単位数	4 (単位認定責任者:)	CAP制	
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容		

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1			
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
16			

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・2年		
開講時期	3Q	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	子ども家庭支援論 (科目ナンバリング: CHS122079)				
授業担当者(所属・職名)	杉本 大輔 (社会福祉学科・准教授)	研究室所在	1号館2階		
単位数	2 (単位認定責任者: 杉本 大輔)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

概要

履修目標																					
現代家族が抱える諸課題、個々の機能、家族と社会の関係性の形成、家族政策を理解したうえで、効果的な子育て支援方法とは何か、を理解する。																					
授業の位置づけ																					
社会福祉学科のDP「1(2)」、「2(2)」に対応する																					
到達目標																					
家族支援の意義と役割、家庭生活を取り巻く社会的状況、子育て家庭への支援体制、家族形態の多様化と、それに対応した支援方法を学習し、学生各自の身近な地域社会における家庭支援の方法を模索し、現状に即した支援方法を考察し、構築できる。																					
授業全体の内容と概要																					
家族についての概念、家族変動、現代家族の課題など、家族社会学の基本的概念を学習したうえで、子育て支援ネットワークの事例及び家族システム理論について講義を行う。																					
授業の方法																					
各時間ごとに、教員が講義プリントを配布し、それに基づいて講義を行う。配布プリントの内容を教員が説明し、重要事項は黒板に板書する。課題等は特に設定しないが、乳児保育の復習をしておくことが望ましい。学生の要望には可能な限り対応するが、教育上好ましくないとと思われる要望には応えられない。																					
アクティブラーニングの実施方法																					
<table border="1"> <tr> <td>プレゼンテーション</td> <td></td> <td>グループワーク</td> <td></td> <td>フィールドワーク</td> <td></td> <td>PBL</td> </tr> <tr> <td>模擬授業</td> <td></td> <td>ロールプレイ</td> <td></td> <td>調査学習</td> <td></td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td>ディスカッション</td> <td></td> <td>実験・実習・実技</td> <td></td> <td>双方向授業</td> <td></td> <td>その他(授業の方法参照)</td> </tr> </table>	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)
プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL															
模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業															
ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)															
履修上の注意事項																					
主体的・積極的な参加を望む。																					
資格指定科目																					
保育士養成課程																					

評価方法・基準

評価前提条件					
単位取得の最低出席回数10回をクリアすること。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
80%	0%	0%	0%	0%	20%

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
明治時代以降の、家族の構造・機能変動について理解する。	明治時代からの家族の構造機能変動について、事例と家族社会学の諸理論を用いて説明できた。	明治時代からの家族の構造機能変動について、概略を説明できた。	明治時代からの家族の構造機能変動について、事例を用いて説明できた。	明治時代からの家族の構造変動についての概略を説明できた。	左記の内容が何一つできなかった。
現代日本における子育てで家族が抱える課題について理解する。	子育てで家族が抱える諸課題と児童虐待発生との関係性を、関係法規と家族社会学理論及びシステム理論を用いて説明できた。	子育てで家族が抱える諸課題と児童虐待発生との関係性を、関係法規を交えて説明できた。	子育てで家族が抱える諸課題、特に児童虐待発生との関係について説明できた。	子育てで家族が抱える諸課題の概略を説明できた。	左記の内容が何一つできなかった。
子育ての課題を抱えた家族の支援方法について理解する。	地域ネットワーク構築の方法論を、ネットワーク構築理論を用いて説明でき、且つ事例を用いて説明できた。さらに事例に用いられた支援方法の課題を説明できた。	地域ネットワーク構築の方法論を、ネットワーク構築理論を用いて説明でき、且つ、事例を用いて解説できた。	地域ネットワーク構築の方法論を、ネットワーク構築理論を用いて説明できた。	地域ネットワーク構築の方法論の概略を説明できた。	左記の内容が何一つできなかった。

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・2年		
開講時期	3Q	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	子ども家庭支援論 (科目ナンバリング: CHS122079)				
授業担当者(所属・職名)	杉本 大輔(社会福祉学科・准教授)	研究室所在	1号館2階		
単位数	2 (単位認定責任者: 杉本 大輔)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	ガイダンス シラバスの説明	乳児保育復習(90分)	配布プリントの読み込み(90分)
2	家族支援の意義と役割1 家族の意義と機能	前回プリントの読み込み(90分)	配布プリントの読み込み(90分)
3	家族支援の意義と役割2 家族支援の必要性	前回プリントの読み込み(90分)	配布プリントの読み込み(90分)
4	家族支援の意義と役割3 保育士が行う家族支援の原理	前回プリントの読み込み(90分)	配布プリントの読み込み(90分)
5	家族生活を取り巻く社会的状況1 現代社会における人間関係の変化	前回プリントの読み込み(90分)	配布プリントの読み込み(90分)
6	家族生活を取り巻く社会的状況2 地域社会の変容と家族支援	前回プリントの読み込み(90分)	配布プリントの読み込み(90分)
7	家族生活を取り巻く社会的状況3 男女共同参画社会とワークライフバランス	前回プリントの読み込み(90分)	配布プリントの読み込み(90分)
8	子育て家族への支援体制1 子育て家族の福祉を図るための社会資源	前回プリントの読み込み(90分)	配布プリントの読み込み(90分)
9	子育て家族への支援体制2 子育て支援施設・次世代育成支援施設の推進	前回プリントの読み込み(90分)	配布プリントの読み込み(90分)
10	多様な支援の展開と関係機関との連携1 子育て支援サービスの概要	前回プリントの読み込み(90分)	配布プリントの読み込み(90分)
11	多様な支援の展開と関係機関との連携2 保育所入所児童の家庭への支援	前回プリントの読み込み(90分)	配布プリントの読み込み(90分)
12	多様な支援の展開と関係機関との連携3 地域の子育て家族への支援	前回プリントの読み込み(90分)	配布プリントの読み込み(90分)
13	多様な支援の展開と関係機関との連携4 要保護児童及びその家族に関する支援	前回プリントの読み込み(90分)	配布プリントの読み込み(90分)
14	多様な支援の展開と関係機関との連携5 子育て支援における関係機関との連携	前回プリントの読み込み(90分)	配布プリントの読み込み(90分)
15	多様な支援の展開と関係機関との連携6 子育て支援サービスの課題	前回プリントの読み込み(90分)	講義全体の総復習(2時間)
16	定期試験(60分の試験終了後、残りの30分で解説を行います)	講義全体の総復習(2時間)	自己総括(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・3年		
開講時期	1Q	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	社会的養護 (科目ナンバリング: CHS122080)				
授業担当者(所属・職名)	飯浜 浩幸(社会福祉学科・教授)	研究室所在	1号館2階		
単位数	2 (単位認定責任者: 飯浜 浩幸)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	児童養護施設児童指導員としての経験を活かし、施設養護の実際について講義を行う。		

概要

履修目標
以下について理解することで、児童福祉施設における援助者としての保育士の役割や援助のあり方について必要なことは何かを考える。 現代社会における社会的養護の意義と歴史の変遷について理解する。 子どもの人権擁護を踏まえた社会的養護の基本について理解する。 社会的養護の制度や実施体系等について理解する。 社会的養護の対象や形態、関係する専門職等について理解する。 社会的養護の現状と課題について理解する。

授業の位置づけ
社会福祉学科のDP「1(1)と(7)」、「2(2)」に対応する。

到達目標
現代社会における社会的養護の意義と歴史の変遷について理解することができる。 子どもの人権擁護を踏まえた社会的養護の基本について理解することができる。 社会的養護の制度や実施体系等について理解することができる。 社会的養護の対象や形態、関係する専門職等について理解することができる。 社会的養護の現状と課題について理解することができる。

授業全体の内容と概要
現代社会における社会的養護の意義と歴史の変遷について学ぶ。 子どもの人権擁護を踏まえた社会的養護の基本について学ぶ。 社会的養護の制度や実施体系等について学ぶ。 社会的養護の対象や形態、関係する専門職等について学ぶ。 社会的養護の現状と課題について学ぶ。

授業の方法
授業は、スライドや板書、テキスト、配布資料を活用しながら説明を行う。講義中、テーマを提示し思考・考察、小グループによる意見交換・討論、発表の場面を設定する。毎回、講義開始時に前回の講義に関する質問事項や理解不足に対する点に対してフィードバックを行う。レポートについても解説によるフィードバックを行う。

アクティブラーニングの実施方法															
<table border="1"> <tr> <td></td> <td>プレゼンテーション</td> <td>グループワーク</td> <td>フィールドワーク</td> <td>PBL</td> </tr> <tr> <td></td> <td>模擬授業</td> <td>ロールプレイ</td> <td>調査学習</td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td></td> <td>ディスカッション</td> <td>実験・実習・実技</td> <td>双方向授業</td> <td>その他(授業の方法参照)</td> </tr> </table>		プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL		模擬授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業		ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)
	プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL											
	模擬授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業											
	ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)											

履修上の注意事項
次回の講義でフィードバックを行うので、受講カードにその日の講義の理解についての記述を求める。子どもの健やかな成長とより良い育ちを支援する保育士に必要な事柄を理解するとともに、自らの将来のあるべき保育士像を構築しながら受講することを求める。

資格指定科目
保育士養成課程

評価方法・基準

評価前提条件												
単位認定に必要な最低出席回数は、10回以上。												
評価方法												
<table border="1"> <tr> <th>定期試験</th> <th>レポート</th> <th>課題・作品</th> <th>中間テスト</th> <th>平常点</th> <th>その他</th> </tr> <tr> <td>0%</td> <td>70%</td> <td>0%</td> <td>0%</td> <td>30%</td> <td>0%</td> </tr> </table>	定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他	0%	70%	0%	0%	30%	0%
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他							
0%	70%	0%	0%	30%	0%							

ルーブリック																																									
<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">評価項目</th> <th colspan="5">評価基準</th> </tr> <tr> <th>履修項目を超えたレベルを達成している</th> <th>履修項目をほぼ達成している</th> <th>履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している</th> <th>到達目標を達成している</th> <th>到達目標を達成していない</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>現代社会における社会的養護の意義と歴史の変遷について</td> <td>現代社会における社会的養護の意義と歴史の変遷について、理解を深めた。</td> <td>現代社会における社会的養護の意義と歴史の変遷について、ほぼ理解を深めた。</td> <td>現代社会における社会的養護の意義と歴史の変遷について、やや理解を深めた。</td> <td>現代社会における社会的養護の意義と歴史の変遷について、理解することができた。</td> <td>現代社会における社会的養護の意義と歴史の変遷について、理解することができなかった。</td> </tr> <tr> <td>子どもの人権擁護を踏まえた社会的養護の基本について</td> <td>子どもの人権擁護を踏まえた社会的養護の基本について、理解を深めた。</td> <td>子どもの人権擁護を踏まえた社会的養護の基本について、ほぼ理解を深めた。</td> <td>子どもの人権擁護を踏まえた社会的養護の基本について、やや理解を深めた。</td> <td>子どもの人権擁護を踏まえた社会的養護の基本について、理解することができた。</td> <td>子どもの人権擁護を踏まえた社会的養護の基本について、理解することができなかった。</td> </tr> <tr> <td>社会的養護の制度や実施体系等について</td> <td>社会的養護の制度や実施体系等について、理解を深めた。</td> <td>社会的養護の制度や実施体系等について、ほぼ理解を深めた。</td> <td>社会的養護の制度や実施体系等について、やや理解を深めた。</td> <td>社会的養護の制度や実施体系等について、理解することができた。</td> <td>社会的養護の制度や実施体系等について、理解することができなかった。</td> </tr> <tr> <td>社会的養護の対象や形態、関係する専門職等について</td> <td>社会的養護の対象や形態、関係する専門職等について、理解を深めた。</td> <td>社会的養護の対象や形態、関係する専門職等について、ほぼ理解を深めた。</td> <td>社会的養護の対象や形態、関係する専門職等について、やや理解を深めた。</td> <td>社会的養護の対象や形態、関係する専門職等について、理解することができた。</td> <td>社会的養護の対象や形態、関係する専門職等について、理解することができなかった。</td> </tr> <tr> <td>社会的養護の現状と課題について</td> <td>社会的養護の現状と課題について、理解を深めた。</td> <td>社会的養護の現状と課題について、ほぼ理解を深めた。</td> <td>社会的養護の現状と課題について、やや理解を深めた。</td> <td>社会的養護の現状と課題について、理解することができた。</td> <td>社会的養護の現状と課題について、理解することができなかった。</td> </tr> </tbody> </table>	評価項目	評価基準					履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない	現代社会における社会的養護の意義と歴史の変遷について	現代社会における社会的養護の意義と歴史の変遷について、理解を深めた。	現代社会における社会的養護の意義と歴史の変遷について、ほぼ理解を深めた。	現代社会における社会的養護の意義と歴史の変遷について、やや理解を深めた。	現代社会における社会的養護の意義と歴史の変遷について、理解することができた。	現代社会における社会的養護の意義と歴史の変遷について、理解することができなかった。	子どもの人権擁護を踏まえた社会的養護の基本について	子どもの人権擁護を踏まえた社会的養護の基本について、理解を深めた。	子どもの人権擁護を踏まえた社会的養護の基本について、ほぼ理解を深めた。	子どもの人権擁護を踏まえた社会的養護の基本について、やや理解を深めた。	子どもの人権擁護を踏まえた社会的養護の基本について、理解することができた。	子どもの人権擁護を踏まえた社会的養護の基本について、理解することができなかった。	社会的養護の制度や実施体系等について	社会的養護の制度や実施体系等について、理解を深めた。	社会的養護の制度や実施体系等について、ほぼ理解を深めた。	社会的養護の制度や実施体系等について、やや理解を深めた。	社会的養護の制度や実施体系等について、理解することができた。	社会的養護の制度や実施体系等について、理解することができなかった。	社会的養護の対象や形態、関係する専門職等について	社会的養護の対象や形態、関係する専門職等について、理解を深めた。	社会的養護の対象や形態、関係する専門職等について、ほぼ理解を深めた。	社会的養護の対象や形態、関係する専門職等について、やや理解を深めた。	社会的養護の対象や形態、関係する専門職等について、理解することができた。	社会的養護の対象や形態、関係する専門職等について、理解することができなかった。	社会的養護の現状と課題について	社会的養護の現状と課題について、理解を深めた。	社会的養護の現状と課題について、ほぼ理解を深めた。	社会的養護の現状と課題について、やや理解を深めた。	社会的養護の現状と課題について、理解することができた。	社会的養護の現状と課題について、理解することができなかった。
評価項目		評価基準																																							
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない																																				
現代社会における社会的養護の意義と歴史の変遷について	現代社会における社会的養護の意義と歴史の変遷について、理解を深めた。	現代社会における社会的養護の意義と歴史の変遷について、ほぼ理解を深めた。	現代社会における社会的養護の意義と歴史の変遷について、やや理解を深めた。	現代社会における社会的養護の意義と歴史の変遷について、理解することができた。	現代社会における社会的養護の意義と歴史の変遷について、理解することができなかった。																																				
子どもの人権擁護を踏まえた社会的養護の基本について	子どもの人権擁護を踏まえた社会的養護の基本について、理解を深めた。	子どもの人権擁護を踏まえた社会的養護の基本について、ほぼ理解を深めた。	子どもの人権擁護を踏まえた社会的養護の基本について、やや理解を深めた。	子どもの人権擁護を踏まえた社会的養護の基本について、理解することができた。	子どもの人権擁護を踏まえた社会的養護の基本について、理解することができなかった。																																				
社会的養護の制度や実施体系等について	社会的養護の制度や実施体系等について、理解を深めた。	社会的養護の制度や実施体系等について、ほぼ理解を深めた。	社会的養護の制度や実施体系等について、やや理解を深めた。	社会的養護の制度や実施体系等について、理解することができた。	社会的養護の制度や実施体系等について、理解することができなかった。																																				
社会的養護の対象や形態、関係する専門職等について	社会的養護の対象や形態、関係する専門職等について、理解を深めた。	社会的養護の対象や形態、関係する専門職等について、ほぼ理解を深めた。	社会的養護の対象や形態、関係する専門職等について、やや理解を深めた。	社会的養護の対象や形態、関係する専門職等について、理解することができた。	社会的養護の対象や形態、関係する専門職等について、理解することができなかった。																																				
社会的養護の現状と課題について	社会的養護の現状と課題について、理解を深めた。	社会的養護の現状と課題について、ほぼ理解を深めた。	社会的養護の現状と課題について、やや理解を深めた。	社会的養護の現状と課題について、理解することができた。	社会的養護の現状と課題について、理解することができなかった。																																				

教科書・参考文献・資料等

教科書																																										
<table border="1"> <thead> <tr> <th>No</th> <th>書籍名</th> <th>著者</th> <th>出版社</th> <th>出版年</th> <th>ISBN</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>『ソーシャルワーカーのための養護原理研究探訪 - 脱クアワークと児童養護施設実践の新たな展開</td> <td>北川 清一</td> <td>相川書房</td> <td>2020年</td> <td>9784623089260</td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>4</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>5</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考	1	『ソーシャルワーカーのための養護原理研究探訪 - 脱クアワークと児童養護施設実践の新たな展開	北川 清一	相川書房	2020年	9784623089260		2							3							4							5						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考																																				
1	『ソーシャルワーカーのための養護原理研究探訪 - 脱クアワークと児童養護施設実践の新たな展開	北川 清一	相川書房	2020年	9784623089260																																					
2																																										
3																																										
4																																										
5																																										

参考文献・資料等																																										
<table border="1"> <thead> <tr> <th>No</th> <th>書籍名</th> <th>著者</th> <th>出版社</th> <th>出版年</th> <th>ISBN</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>『新・基本保育シリーズ 「社会的養護」』</td> <td>公益財団法人児童育成協会監修</td> <td>中央法規出版</td> <td>2019年</td> <td>9784805857861</td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>4</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>5</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考	1	『新・基本保育シリーズ 「社会的養護」』	公益財団法人児童育成協会監修	中央法規出版	2019年	9784805857861		2							3							4							5						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考																																				
1	『新・基本保育シリーズ 「社会的養護」』	公益財団法人児童育成協会監修	中央法規出版	2019年	9784805857861																																					
2																																										
3																																										
4																																										
5																																										

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・3年		
開講時期	1Q	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	社会的養護 (科目ナンバリング: CHS122080)				
授業担当者(所属・職名)	飯浜 浩幸(社会福祉学科・教授)	研究室所在	1号館2階		
単位数	2 (単位認定責任者: 飯浜 浩幸)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容 児童養護施設児童指導員としての経験を活かし、施設養護の実際について講義を行う。			

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	ガイダンス(シラバス確認を含む)、現代社会における社会的養護の意義(社会的養護の理念と概念)	社会的養護とは(90分)	ノート整理、疑問点の解消(90分)
2	社会的養護の歴史の変遷	社会的養護の歴史の変遷(90分)	ノート整理、疑問点の解消(90分)
3	社会的養護の基本 子どもの人権擁護と社会的養護	子どもの権利擁護(90分)	ノート整理、疑問点の解消(90分)
4	社会的養護の基本 社会的養護の基本原則	社会的養護の基本原則(90分)	ノート整理、疑問点の解消(90分)
5	社会的養護の基本 社会的養護における保育士等の倫理と責務	保育士等の倫理と責務(90分)	ノート整理、疑問点の解消(90分)
6	社会的養護の制度と法体系	社会的養護の法体系(90分)	ノート整理、疑問点の解消(90分)
7	社会的養護の仕組みと実施体系	社会的養護の実施体系(90分)	ノート整理、疑問点の解消(90分)
8	社会的養護の対象	社会的養護の対象(90分)	ノート整理、疑問点の解消(90分)
9	家庭養護と施設養護	家庭養護と施設養護(90分)	ノート整理、疑問点の解消(90分)
10	社会的養護に関わる専門職	社会的養護に関わる専門職(90分)	ノート整理、疑問点の解消(90分)
11	社会的養護の現状と課題 社会的養護に関する社会的状況	社会的養護に関する社会的状況(90分)	ノート整理、疑問点の解消、レポート作成(90分)
12	社会的養護の現状と課題 施設等の運営管理	施設等の運営管理(90分)	ノート整理、疑問点の解消、レポート作成(90分)
13	社会的養護の現状と課題 被措置児童等の虐待防止	被措置児童等の虐待防止(90分)	ノート整理、疑問点の解消(90分)
14	社会的養護の現状と課題 社会的養護と地域福祉	地域福祉とは(90分)	ノート整理、疑問点の解消(90分)
15	まとめ(事例研究)	文献学習(90分)	ノート整理、疑問点の解消(90分)
16	課題(レポート)に対する解説を行いフィードバックする	文献学習(90分)	文献学習(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・1年		
開講時期	4Q	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	子どもの理解と援助 (科目ナンバリング: CHS122082)				
授業担当者(所属・職名)	吉江 幸子(社会福祉学科・准教授)	研究室所在	1号館2階		
単位数	1 (単位認定責任者: 吉江 幸子)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	保育現場における保育経験を活かし、発達課題と子どもを理解する視点との関連を指導する。		

概要

履修目標	この科目は、以下の3つを授業の目的とする。 1. 保育実践において、実態に応じた子ども個々の心身の発達や学びを把握することの意義を理解する。 2. 子どもの体験や学びの過程において、子どもを理解する上での基本的な考え方を学修し、子ども理解のための具体的な方法を理解する。 3. 子どもの理解に基づく保育士の援助や態度の基本について理解する。												
授業の位置づけ	社会福祉学科のDP「1(1)と(4)」、「2(2)」に対応する。												
到達目標	1. 子どもを理解する視点について説明する。 2. 子どもを理解する上での基本的な考え方について説明する。												
授業全体の内容と概要	子どもの実態に応じた発達を理解する視点及び理解する方法について学修する。さらに、発達課題に応じた援助と関わりについて理解を深める。												
授業の方法	授業は、板書とパワーポイントを活用し、授業の理解度を深めるためのグループ学習も取り入れる。特に各回でテーマを設定し、思考・考察、意見交換、討論、発表等一連の活動を行う。 提出されたレポート及び質問等は、コメントを記入してフィードバックを行う。												
アクティブラーニングの実施方法	<table border="1"> <tr> <td>プレゼンテーション</td> <td>グループワーク</td> <td>フィールドワーク</td> <td>PBL</td> </tr> <tr> <td>模擬授業</td> <td>ロールプレイ</td> <td>調査学習</td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td>ディスカッション</td> <td>実験・実習・実技</td> <td>双方向授業</td> <td>その他(授業の方法参照)</td> </tr> </table>	プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL	模擬授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業	ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)
プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL										
模擬授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業										
ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)										
履修上の注意事項	課題の内容・提出方法及び課題・平常点の評価は加点方式とし、授業時間に説明する。遅刻の場合は、入室可能だが欠席扱いとみなすので注意すること。												
資格指定科目	保育士養成課程												

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数は11回以上。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	70%	0%	0%	30%	0%

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
子ども理解の視点に対する知識・技能(何を知っているか、何ができるか)	子ども理解の視点についての知識を深く理解できた。	子ども理解の視点についての知識をおおむね理解できた。	子ども理解の視点についての知識を理解できた。	子ども理解の視点についての知識を多少理解できた。	子ども理解の視点についての知識を理解することができなかった。
発達課題に関する思考力・判断力・表現力等(知っていること、できることをどう使うか)	発達課題に応じた援助について十分に考察できた。	発達課題に応じた援助についておおむね考察できた。	発達課題に応じた援助について考察できた。	発達課題に応じた援助について多少考察できた。	発達課題に応じた援助について考察することができなかった。
主体的に取り組む態度(どのように関わるか)	子ども理解の方法について理解したことをわかりやすく説明できた。	子ども理解の方法について理解したことをおおむね説明できた。	子ども理解の方法について理解したことを説明できた。	子ども理解の方法について理解したことを多少説明できた。	子ども理解の方法について理解したことを説明することができなかった。

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『改訂 子ども理解と保育実践』	塚本美知子	萌文書林	2018	9784893473066	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『保育所保育指針<平成29年告示>』	厚生労働省	フレーベル館	2017	9784577814239	
2						
3						
4						
5						

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・1年		
開講時期	4Q	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	子どもの理解と援助 (科目ナンバリング: CHS122082)				
授業担当者(所属・職名)	吉江 幸子(社会福祉学科・准教授)	研究室所在	1号館2階		
単位数	1 (単位認定責任者: 吉江 幸子)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務。保育現場における保育経験を活かし、発達課題と子どもを理解する視点との関連を指導する経験と授業関連内容。			

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	シラバスの説明 保育における子どもの理解の意義	指定した教科書を事前に読むこと(90分)。	1回目の授業で理解した点を整理する(90分)。
2	子どもの理解に基づく養護及び教育の一体的展開	教科書の専門用語の意味を理解しておく(90分)。	2回目の授業で理解した点を整理する(90分)。
3	子どもに対する共感的理解と子どもとの関わり	教科書の専門用語の意味を理解しておく(90分)。	3回目の授業で理解した点を整理する(90分)。
4	子どもを理解する視点 子どもの生活や遊び	教科書の専門用語の意味を理解しておく(90分)。	4回目の授業で理解した点を整理する(90分)。
5	子どもを理解する視点 保育の人的環境としての保育者と子どもの発達	保育計画の意味を理解しておく(90分)。	5回目の授業で理解した点を整理する(90分)。
6	子どもを理解する視点 子ども相互のかかわりと関係づくり	保育計画と指針、要領との関連を理解しておく(90分)。	授業終了時に示す1回目の課題を作成する(90分)。
7	子どもを理解する視点 集団における経験と育ち、葛藤、つまずき	教科書の専門用語の意味を理解しておく(90分)。	7回目の授業で理解した点を整理する(90分)。
8	子どもを理解する視点 保育の環境の理解と構成、環境の変化・移行	発達心理等発達過程を理解しておく(90分)。	授業終了時に示す2回目の課題を作成する(90分)。
9	子どもを理解する方法 観察・記録	教科書の専門用語の意味を理解しておく(90分)。	9回目の授業で理解した点を整理する(90分)。
10	子どもを理解する方法 省察・評価	計画作成の方法をよく読んでおく(90分)。	授業終了時に示す3回目の課題を作成する(90分)。
11	子どもを理解する方法 職員間の対話、保護者との情報の共有	対象年齢と計画の運動性を理解しておく(90分)。	11回目の授業で理解した点を整理する(90分)。
12	発達の課題に応じた援助と関わり	教科書の専門用語の意味を理解しておく(90分)。	12回目の授業で理解した点を整理する(90分)。
13	特別な配慮を要する子どもの理解と援助	教科書の評価頁を事前に読んでおく(90分)。	13回目の授業で理解した点を整理する(90分)。
14	発達の連続性と就学への支援	教科書の専門用語の意味を理解しておく(90分)。	授業終了時に示す4回目の課題を作成する(90分)。
15	子どもの理解に基づく発達援助・まとめ	保育の計画で学んだ事を整理しておく(90分)。	授業の目的の達成度を自己評価する(90分)。
16	提出されたレポートの総合評価をフィードバック	15回の講義内容を振り返り復習する(90分)。	試験、課題の解説に基づき復習し整理する(90分)。

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・3年		
開講時期	2Q	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	スクールソーシャルワーク演習 (科目ナンバリング: SWS122058)				
授業担当者(所属・職名)	上原 正希(社会福祉学科・教授)	研究室所在	1号館2階		
単位数	1 (単位認定責任者: 上原 正希)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	社会福祉士・精神保健福祉士・介護支援専門員の資格を持ち、日本ソーシャルワーカー協会理事であるソーシャルワーカーとして現場経験のある教員が、自分自身のソーシャルワーク経験や体験談を踏まえ、講義を行う。		

概要

履修目標	学校教育現場にスクール(学校)ソーシャルワーカーが存在する意義・役割、スクールソーシャルワークの広範な専門性について理解する。																								
授業の位置づけ	社会福祉学科のDP「1(2)と(3)と(4)と(5)と(6)と(7)」、「2(2)」に対応する。																								
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 今日の学校教育現場にスクールソーシャルワーカーを導入する意義とその必要性を理解・説明できる。 発展過程と具体的にスクールソーシャルワークの役割について理解・説明できる。 スクールソーシャルワークについてジェネリックおよびスペシフィックな視点での広範な知識・技術、支援方法について理解・説明できる。 																								
授業全体の内容と概要	学校教育現場にスクール(学校)ソーシャルワーカーが存在する意義・役割について、いじめ・不登校・学習保障・保護者対応・児童虐待への対応など、具体的な事例に基づいて、演習形式でスクールソーシャルワークの広範な専門性について理解する。																								
授業の方法	<ol style="list-style-type: none"> 授業形態は演習形式です。 テキストを使用し、ポイントとするべき箇所は説明、板書を行います。 適宜質問を促し、質問に対応します。 COVID-19の状況により、対面授業およびオンライン授業の併用やどちらかに変更になる場合もあります。 																								
アクティブラーニングの実施方法	<table border="1"> <tr> <td></td> <td>プレゼンテーション</td> <td></td> <td>グループワーク</td> <td></td> <td>フィールドワーク</td> <td></td> <td>PBL</td> </tr> <tr> <td></td> <td>模擬授業</td> <td>○</td> <td>ロールプレイ</td> <td></td> <td>調査学習</td> <td></td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td></td> <td>ディスカッション</td> <td></td> <td>実験・実習・実技</td> <td></td> <td>双方向授業</td> <td></td> <td>その他(授業の方法参照)</td> </tr> </table>		プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL		模擬授業	○	ロールプレイ		調査学習		反転授業		ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)
	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL																		
	模擬授業	○	ロールプレイ		調査学習		反転授業																		
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)																		
履修上の注意事項	<ol style="list-style-type: none"> 教員や学生が板書した内容や演習で話し合った内容、フィードバックなどもある授業であるので、しっかりとノートに写し、毎回の授業後にノートの整理をするように心がけてください。 適宜質問に対応します。 																								
資格指定科目	スクール(学校)ソーシャルワーカー資格課程 社会福祉士国家試験受験資格課程																								

評価方法・基準

評価前提条件	<ol style="list-style-type: none"> 教科書は必ず持参すること。 必要な資料等は適宜配布します。 9回目の授業時にノートの確認を行います。 出席回数は最低7回なければ試験を受験することはできません。 その他については、出席状況30%、演習における話し合いの態度や発言するなどの取り組みを70%で評価します。 					
評価方法	定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
	0%	0%	0%	0%	0%	100%

ルーブリック	<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">評価項目</th> <th colspan="5">評価基準</th> </tr> <tr> <th>履修項目を超えたレベルを達成している</th> <th>履修項目をほぼ達成している</th> <th>履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している</th> <th>到達目標を達成している</th> <th>到達目標を達成していない</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>【知識】今日の学校教育現場にスクールソーシャルワーカーを導入する意義とその必要性を理解できる。</td> <td>今日の学校教育現場にスクールソーシャルワーカーを導入する意義とその必要性について非常に理解できた。</td> <td>今日の学校教育現場にスクールソーシャルワーカーを導入する意義とその必要性についておおむね理解できた。</td> <td>今日の学校教育現場にスクールソーシャルワーカーを導入する意義とその必要性について理解できた。</td> <td>今日の学校教育現場にスクールソーシャルワーカーを導入する意義とその必要性について一部理解ができた。</td> <td>今日の学校教育現場にスクールソーシャルワーカーを導入する意義とその必要性について理解ができなかった。</td> </tr> <tr> <td>【知識】発展過程と具体的にスクールソーシャルワークの役割について理解できる。</td> <td>発展過程と具体的にスクールソーシャルワークの役割について非常に理解できた。</td> <td>発展過程と具体的にスクールソーシャルワークの役割についておおむね理解できた。</td> <td>発展過程と具体的にスクールソーシャルワークの役割について理解できた。</td> <td>発展過程と具体的にスクールソーシャルワークの役割について一部理解ができた。</td> <td>発展過程と具体的にスクールソーシャルワークの役割について理解ができなかった。</td> </tr> <tr> <td>【知識】スクールソーシャルワークについてジェネリックおよびスペシフィックな視点での広範な知識・技術、支援方法について理解できる。</td> <td>発展過程と具体的にスクールソーシャルワークの役割について非常に理解できた。</td> <td>発展過程と具体的にスクールソーシャルワークの役割についておおむね理解できた。</td> <td>発展過程と具体的にスクールソーシャルワークの役割について理解できた。</td> <td>発展過程と具体的にスクールソーシャルワークの役割について一部理解ができた。</td> <td>発展過程と具体的にスクールソーシャルワークの役割について理解ができなかった。</td> </tr> </tbody> </table>						評価項目	評価基準					履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない	【知識】今日の学校教育現場にスクールソーシャルワーカーを導入する意義とその必要性を理解できる。	今日の学校教育現場にスクールソーシャルワーカーを導入する意義とその必要性について非常に理解できた。	今日の学校教育現場にスクールソーシャルワーカーを導入する意義とその必要性についておおむね理解できた。	今日の学校教育現場にスクールソーシャルワーカーを導入する意義とその必要性について理解できた。	今日の学校教育現場にスクールソーシャルワーカーを導入する意義とその必要性について一部理解ができた。	今日の学校教育現場にスクールソーシャルワーカーを導入する意義とその必要性について理解ができなかった。	【知識】発展過程と具体的にスクールソーシャルワークの役割について理解できる。	発展過程と具体的にスクールソーシャルワークの役割について非常に理解できた。	発展過程と具体的にスクールソーシャルワークの役割についておおむね理解できた。	発展過程と具体的にスクールソーシャルワークの役割について理解できた。	発展過程と具体的にスクールソーシャルワークの役割について一部理解ができた。	発展過程と具体的にスクールソーシャルワークの役割について理解ができなかった。	【知識】スクールソーシャルワークについてジェネリックおよびスペシフィックな視点での広範な知識・技術、支援方法について理解できる。	発展過程と具体的にスクールソーシャルワークの役割について非常に理解できた。	発展過程と具体的にスクールソーシャルワークの役割についておおむね理解できた。	発展過程と具体的にスクールソーシャルワークの役割について理解できた。	発展過程と具体的にスクールソーシャルワークの役割について一部理解ができた。	発展過程と具体的にスクールソーシャルワークの役割について理解ができなかった。
評価項目	評価基準																																		
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない																														
【知識】今日の学校教育現場にスクールソーシャルワーカーを導入する意義とその必要性を理解できる。	今日の学校教育現場にスクールソーシャルワーカーを導入する意義とその必要性について非常に理解できた。	今日の学校教育現場にスクールソーシャルワーカーを導入する意義とその必要性についておおむね理解できた。	今日の学校教育現場にスクールソーシャルワーカーを導入する意義とその必要性について理解できた。	今日の学校教育現場にスクールソーシャルワーカーを導入する意義とその必要性について一部理解ができた。	今日の学校教育現場にスクールソーシャルワーカーを導入する意義とその必要性について理解ができなかった。																														
【知識】発展過程と具体的にスクールソーシャルワークの役割について理解できる。	発展過程と具体的にスクールソーシャルワークの役割について非常に理解できた。	発展過程と具体的にスクールソーシャルワークの役割についておおむね理解できた。	発展過程と具体的にスクールソーシャルワークの役割について理解できた。	発展過程と具体的にスクールソーシャルワークの役割について一部理解ができた。	発展過程と具体的にスクールソーシャルワークの役割について理解ができなかった。																														
【知識】スクールソーシャルワークについてジェネリックおよびスペシフィックな視点での広範な知識・技術、支援方法について理解できる。	発展過程と具体的にスクールソーシャルワークの役割について非常に理解できた。	発展過程と具体的にスクールソーシャルワークの役割についておおむね理解できた。	発展過程と具体的にスクールソーシャルワークの役割について理解できた。	発展過程と具体的にスクールソーシャルワークの役割について一部理解ができた。	発展過程と具体的にスクールソーシャルワークの役割について理解ができなかった。																														

教科書・参考文献・資料等

教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>No</th> <th>書籍名</th> <th>著者</th> <th>出版社</th> <th>出版年</th> <th>ISBN</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>『よくわかるスクールソーシャルワーク』</td> <td>山野剛子など</td> <td>ミネルヴァ書房</td> <td>2016年</td> <td>978-4-6230-7834-9</td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>『スクールソーシャルワーカー実務テキスト』</td> <td>金澤ますみなど</td> <td>学事出版</td> <td>2019年</td> <td>978-4-7619-2540-6</td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>4</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>5</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>						No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考	1	『よくわかるスクールソーシャルワーク』	山野剛子など	ミネルヴァ書房	2016年	978-4-6230-7834-9		2	『スクールソーシャルワーカー実務テキスト』	金澤ますみなど	学事出版	2019年	978-4-7619-2540-6		3							4							5						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考																																										
1	『よくわかるスクールソーシャルワーク』	山野剛子など	ミネルヴァ書房	2016年	978-4-6230-7834-9																																											
2	『スクールソーシャルワーカー実務テキスト』	金澤ますみなど	学事出版	2019年	978-4-7619-2540-6																																											
3																																																
4																																																
5																																																
参考文献・資料等	<table border="1"> <thead> <tr> <th>No</th> <th>書籍名</th> <th>著者</th> <th>出版社</th> <th>出版年</th> <th>ISBN</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>『適宜紹介する。』</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>4</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>5</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>						No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考	1	『適宜紹介する。』						2							3							4							5						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考																																										
1	『適宜紹介する。』																																															
2																																																
3																																																
4																																																
5																																																

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・3年		
開講時期	2Q	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	スクールソーシャルワーク演習 (科目ナンバリング: SWS122058)				
授業担当者(所属・職名)	上原 正希(社会福祉学科・教授)	研究室所在	1号館2階		
単位数	1 (単位認定責任者: 上原 正希)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	社会福祉士・精神保健福祉士・介護支援専門員の資格を持ち、日本ソーシャルワーカー協会理事であるソーシャルワーカーとして現場経験のある教員が、自分自身のソーシャルワーク経験や体験談を踏まえ、講義を行う。		

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	学校教育現場にスクール(学校)ソーシャルワーカーが存在する意義・役割について、演習に取り組むための事前エッセンス・シラバスの説明を含む	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	ノート整理を行うこと(90分)
2	スクールソーシャルワークと『いじめ・不登校・非行』への対応	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	ノート整理を行うこと(90分)
3	スクールソーシャルワークと『自殺防止』への対応	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	ノート整理を行うこと(90分)
4	スクールソーシャルワークと『発達障害・精神疾患』への対応	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	ノート整理を行うこと(90分)
5	スクールソーシャルワークと『児童虐待』への対応	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	ノート整理を行うこと(90分)
6	スクールソーシャルワークと『性的マイノリティ』への対応	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	ノート整理を行うこと(90分)
7	スクールソーシャルワークと『保護者対応-いじめ・不登校・非行・発達障害・貧困など』への対応	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	ノート整理を行うこと(90分)
8	スクールソーシャルワークと『災害に備えた学校づくり』への対応	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	ノート整理を行うこと(90分)
9	スクールソーシャルワークと『新たに求められていること』への対応-演習に取り組んできた事後エッセンス-	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	ノート整理を行うこと(90分)
10			
11			
12			
13			
14			
15			
16			

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・1年		
開講時期	2Q	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	身体表現 (科目ナンバリング: CHS122092)				
授業担当者(所属・職名)	尾西 則昭(社会福祉学科・特任教授)	研究室所在	1号館2階		
単位数	1 (単位認定責任者: 尾西 則昭)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	大学及び専門学校において、身体表現の授業を担当した経験を活かし指導する。		

概要

履修目標	自身のダンスの技術の分析をし、自身で課題の克服をする。 ダンスの振り付けを分析し、評価する。 ダンス特有の面白さを理解する。																					
授業の位置づけ	社会福祉学科のDP「1(5)と(6)と(7)」、「2(2)と(4)」に対応する。																					
到達目標	ダンスの特性について理解することができる。 ダンスの基礎技術、指導法、発表技法について理解することができる。 主体かつ積極的に課題に取り組むことができる。 仲間と協力して課題に取り組むことができる。 リズムの特徴やイメージをとらえて、即興的かつ自由な身体表現ができる。 課題に即した作品づくり・発表ができる。																					
授業全体の内容と概要	表現運動・ダンス領域は、社会におけるダンスの広がりに対応し、創作ダンス現代的なリズムのダンスフォークダンスから構成され保育園・幼稚園において発達段階に対応した内容で構成されている。																					
授業の方法	授業は板書及び配布物資料で実施し、資料にて説明した後、グループワークにてグループ発表 グループ発表(全2回)レポートにはコメントにてフィードバックする。																					
アクティブラーニングの実施方法	<table border="1"> <tr> <td>プレゼンテーション</td> <td></td> <td>グループワーク</td> <td></td> <td>フィールドワーク</td> <td></td> <td>PBL</td> </tr> <tr> <td>模擬授業</td> <td></td> <td>ロールプレイ</td> <td></td> <td>調査学習</td> <td></td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td>ディスカッション</td> <td></td> <td>実験・実習・実技</td> <td>○</td> <td>双方向授業</td> <td></td> <td>その他(授業の方法参照)</td> </tr> </table>	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他(授業の方法参照)
プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL																
模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業																
ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他(授業の方法参照)																
履修上の注意事項	得意・不得意等あると思いますが、積極的に取り組むことを期待します。また学習にはグループワークもあるので、お互い声を掛け合い、協力して実施すること。自分の健康は自分で管理すること。実技参加の際には、体調を整えて参加してください。																					
資格指定科目	保育士養成課程																					

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数11回以上					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	10%	50%	0%	30%	10%

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
表現活動の基礎技能	基本ステップをおこなうことができ、意欲的にダンステクニックを発揮でき、パートナーとできた。	基本ステップができ、意欲的に取り組み、パートナーとおおむねできた。	基本ステップができ、普通に取り組み、パートナーとそれなりにできた。	基本ステップができ、普通に取り組みパートナーとできた。	基本ステップを行わない。意欲もなくパートナーとできなかった。
創作ダンスの技術の向上	各種ダンスの技術向上への姿勢は優れ、充分できた。	各種ダンスの技術向上への姿勢は7割ほどできた。	各種ダンスの技術向上への姿勢は5割ほどできた。	各種ダンスの技術向上への姿勢は3割ほどできた。	各種ダンスの技術向上への姿勢はできなかった。
作品創作の発表	ダンス創作作品のグループ作りの作品発表についてしっかりとできた。	ダンス創作作品のグループ作りの作品発表について取り組みができた。	ダンス創作作品のグループ作りの作品発表についてできた。	ダンス創作作品のグループ作りの作品発表について何となくできた。	ダンス創作作品のグループ作りの作品発表についてできなかった。

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『資料配布』					
2	『身体表現を楽しむあそび作品集』	新リズム表現研究会	かもがわ出版	2018年	978-4-7803-0948-5	
3						
4						
5						

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・1年		
開講時期	2Q	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	身体表現 (科目ナンバリング: CHS122092)				
授業担当者(所属・職名)	尾西 則昭(社会福祉学科・特任教授)	研究室所在	1号館2階		
単位数	1 (単位認定責任者: 尾西 則昭)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容 大学及び専門学校において、身体表現の授業を担当した経験を活かし指導する。			

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	ガイダンス (シラバスの説明)	事前にシラバスを読んで確認する(90分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する。(90分)
2	身体表現 (ダンスの映像鑑賞)	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。(90分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する。(90分)
3	身体表現 (ダンスの導入)	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。(90分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する。(90分)
4	身体表現 (外国フォークダンス・日本の民謡)	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。(90分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する。(90分)
5	身体表現 (指導案)	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。(90分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する。(90分)
6	創作ダンス (映像鑑賞)	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。(90分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する。(90分)
7	創作ダンス (動き)	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。(90分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する。(90分)
8	創作ダンス (スポーツ動作から)	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。(90分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する。(90分)
9	創作ダンス (対極の動きの連続)	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。(90分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する。(90分)
10	創作ダンス (個人の作品づくり)	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。(90分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する。(90分)
11	作品創作 (個人の作品づくり発表)	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。(90分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する。(90分)
12	作品創作 (グループの作品づくり)	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。(90分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する。(90分)
13	作品創作 (グループの作品づくり)	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。(90分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する。(90分)
14	作品創作 (グループ・個人の作品づくり)	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。(90分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する。(90分)
15	作品創作 (グループの作品づくり)	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。(90分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する。(90分)
16	創作ダンス (グループ作品発表)	ノートに記載された内容を再度確認し、理解する。(90分)	解説の内容を確認する。(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・1年		
開講時期	3Q	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	音楽表現 (科目ナンバリング: CHS122093)				
授業担当者(所属・職名)	小黒 万里子(社会福祉学科・非常勤講師)	研究室所在	1号館1階非常勤講師室		
単位数	1 (単位認定責任者: 小黒 万里子)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

概要

履修目標 子どもの心身の発達や子どもを取り巻く環境等と保育所保育指針に示される保育の内容を理解した上で、子どもの生活と遊びを豊かに展開するために必要な知識や技術を実践的に習得する。保育における教材等の活用及び作成と、身近な自然やものの音や音色、人の声や音楽等に親しむための保育の環境構成及び展開のための技術を実践的に習得する。

授業の位置づけ 社会福祉学科のDP「1(1)と(2)」、「2(2)」に対応する。
--

到達目標 保育の内容を理解し、子どもの遊びを豊かに展開するために必要な知識、技術である音楽表現ができる。身近な自然やものの音や音色、人の声や音楽等に親しむための保育の環境づくりを実践することができる。
--

授業全体の内容と概要 保育の内容を理解し、子どもの遊びを豊かに展開するために必要な音楽表現の知識、技術を習得する。身近な自然やものの音や音色、人の声や音楽等に親しむための保育の環境について実践的に習得する。

授業の方法 教科書や板書を用いて説明を行い、実技を通して保育における教材等の活用及び作成と、身近な自然やものの音や音色、人の声や音楽等に親しむための保育の環境構成及び展開のための技術を実践的に習得する。質問や相談に対して随時応答する。

アクティブラーニングの実施方法							
	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項 準備学習において、しっかりしたイメージをもって授業に臨むよう準備すること。限られた授業時間なので、事後学習として各個人でトレーニングを行うこと。

資格指定科目 保育士養成課程

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数は、10回以上。実技による試験。毎回の課題に対する取り組みの態度。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
60%	0%	0%	30%	10%	0%

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
福祉・保育における関心、意欲及び授業態度	子どもの遊びを豊かにする音楽表現の必要性を深く理解できた。	子どもの遊びを豊かにする音楽表現の必要性をおおむね理解できた。	子どもの遊びを豊かにする音楽表現の必要性を理解できた。	子どもの遊びを豊かにする音楽表現の必要性を多少理解できた。	子どもの遊びを豊かにする音楽表現の必要性を理解することが難しいかった。
音楽の基礎知識と理解	音楽の基礎的な知識を十分に理解できた。	音楽の基礎的な知識をおおむね理解できた。	音楽の基礎的な知識を理解できた。	音楽の基礎的な知識を多少理解できた。	音楽の基礎的な知識を理解することが難しくかった。
音楽表現における技術と演習	保育の環境構成を展開するための音楽的技術を十分に修得していた。	保育の環境構成を展開するための音楽的技術をおおむね修得していた。	保育の環境構成を展開するための音楽的技術を修得していた。	保育の環境構成を展開するための音楽的技術を多少修得していた。	保育の環境構成を展開するための音楽的技術を修得することが難しくかった。

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『改訂 ユニバーサルデザインの音楽表現』	星山麻木	萌文書林	2018年	978-4893472854	
2	『保育者のためのピアノ基礎』	井口太 / 筒井かほる	朝日出版社			
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・1年		
開講時期	3Q	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	音楽表現 (科目ナンバリング: CHS122093)				
授業担当者(所属・職名)	小黑 万里子(社会福祉学科・非常勤講師)	研究室所在	1号館1階非常勤講師室		
単位数	1 (単位認定責任者: 小黑 万里子)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	シラバスの説明 保育の内容「表現」の中の音楽表現について	シラバスを確認すること(45分)	講義内容についてまとめ、ふりかえりをしておくこと(45分)
2	音・動き・リズム・ことばの音楽表現 (歌と楽器)	教科書を読み学習しておくこと(45分)	講義内容についてまとめ、ふりかえりをしておくこと(45分)
3	音・動き・リズム・ことばの音楽表現 (歌と楽器)	教科書を読み学習しておくこと(45分)	講義内容についてまとめ、ふりかえりをしておくこと(45分)
4	音・動き・リズム・ことばの音楽表現 (歌と楽器)	教科書を読み学習しておくこと(45分)	講義内容についてまとめ、ふりかえりをしておくこと(45分)
5	音・動き・リズム・ことばの音楽表現 (歌と楽器)	教科書を読み学習しておくこと(45分)	講義内容についてまとめ、ふりかえりをしておくこと(45分)
6	音・動き・リズム・ことばの音楽表現 (歌と楽器)	教科書を読み学習しておくこと(45分)	講義内容についてまとめ、ふりかえりをしておくこと(45分)
7	音・動き・リズム・ことばの音楽表現 (歌と楽器)	教科書を読み学習しておくこと(45分)	講義内容についてまとめ、ふりかえりをしておくこと(45分)
8	音・動き・リズム・ことばの音楽表現 (歌と楽器)	教科書を読み学習しておくこと(45分)	講義内容についてまとめ、ふりかえりをしておくこと(45分)
9	音・動き・リズム・ことばの音楽表現 (歌と楽器)	教科書を読み学習しておくこと(45分)	講義内容についてまとめ、ふりかえりをしておくこと(45分)
10	音・動き・リズム・ことばの音楽表現 (歌と楽器)	教科書を読み学習しておくこと(45分)	講義内容についてまとめ、ふりかえりをしておくこと(45分)
11	音・動き・リズム・ことばの音楽表現 (歌と楽器)	教科書を読み学習しておくこと(45分)	講義内容についてまとめ、ふりかえりをしておくこと(45分)
12	てあそび歌, わらべ歌	教科書を読み学習しておくこと(45分)	講義内容についてまとめ、ふりかえりをしておくこと(45分)
13	てあそび歌, わらべ歌	教科書を読み学習しておくこと(45分)	講義内容についてまとめ、ふりかえりをしておくこと(45分)
14	てあそび歌, わらべ歌	教科書を読み学習しておくこと(45分)	講義内容についてまとめ、ふりかえりをしておくこと(45分)
15	音楽表現のまとめ	教科書を読み学習しておくこと(90分)	講義内容についてまとめ、ふりかえりをしておくこと(90分)
16	定期試験 60分の試験終了後、残りの30分で解説を行います。	教科書を読み学習しておくこと(45分)	解説を受けて、講義全体のふりかえりを行うこと(45分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・2年		
開講時期	2Q	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	音楽表現 (科目ナンバリング: CHS123094)				
授業担当者(所属・職名)	小黒 万里子(社会福祉学科・非常勤講師)	研究室所在	1号館1階非常勤講師室		
単位数	1 (単位認定責任者: 小黒 万里子)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

概要

履修目標	保育士として弾き歌い、伴奏付、ピアノ奏法等「音楽表現」の学習を更に深める。
------	---------------------------------------

授業の位置づけ	社会福祉学科のDP「1(1)と(2)」、「2(2)」に対応する。
---------	----------------------------------

到達目標	子どもの生活と遊びを豊かに展開するために必要な知識、技術を実践的に習得することができる。
------	--

授業全体の内容と概要	個人のレベルを重視して、現場で役立つ力を身につけられるようピアノ、歌、弾き歌い、手遊び等の実技をレッスンする。
------------	---

授業の方法	ピアノ、歌唱等実技課題の確認評価を適宜行い、実技課題の学習確認と合わせてレッスンする。教科書や板書を用いて説明し、実技を通じた実践形式で行う。質問や相談等は随時対応する。
-------	---

アクティブラーニングの実施方法						
	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク	PBL
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習	反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項	ピアノ、歌唱等実技課題の確認評価を適宜行い、実技課題の学習確認と合わせて採点する。
----------	---

資格指定科目	保育士養成課程
--------	---------

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数は、10以上。実技による試験。毎回の課題に対する取り組みの態度。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
60%	0%	0%	30%	10%	0%

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
福祉・保育における関心、意欲及び授業態度	子どもの遊びを豊かにする音楽表現の必要性を深く理解できた。	子どもの遊びを豊かにする音楽表現の必要性をおおむね理解できた。	子どもの遊びを豊かにする音楽表現の必要性を理解できた。	子どもの遊びを豊かにする音楽表現の必要性を多少理解できた。	子どもの遊びを豊かにする音楽表現の必要性を理解することができた。
音楽の基礎知識と理解	音楽の基礎的な知識を十分に理解できた。	音楽の基礎的な知識をおおむね理解できた。	音楽の基礎的な知識を理解できた。	音楽の基礎的な知識を多少理解できた。	音楽の基礎的な知識を理解することができた。
音楽表現における技術と演習	保育の環境構成を展開するための音楽的技術を十分に修得できた。	保育の環境構成を展開するための音楽的技術をおおむね修得できた。	保育の環境構成を展開するための音楽的技術を修得できた。	保育の環境構成を展開するための音楽的技術を多少修得できた。	保育の環境構成を展開するための音楽的技術を修得することができなかった。

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『保護者のためのピアノ基礎』	井口太/笹井かほる	朝日出版社			
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・2年		
開講時期	2Q	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	音楽表現 (科目ナンバリング: CHS123094)				
授業担当者(所属・職名)	小黑 万里子(社会福祉学科・非常勤講師)	研究室所在	1号館1階非常勤講師室		
単位数	1 (単位認定責任者: 小黑 万里子)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	シラバスの説明 長音階の構成と運指	シラバスを確認すること(45分)	教科書を読んでおくこと(45分)
2	メジャーコード	メジャーコードを調べる(45分)	視唱力を充実させる(45分)
3	初見視唱力をより充実させる	メジャーコードを調べる(45分)	視唱力を充実させる(45分)
4	短音階の構成と運指	表現方法をイメージする(45分)	曲と表現を研究する(45分)
5	個々に応じた曲を与え、よい表現をめざす	表現方法をイメージする(45分)	曲と表現を研究する(45分)
6	マイナーコード	マイナーコードを調べる(45分)	視唱力を高めること(45分)
7	マイナーコードとマイナーセブンスコード	マイナーセブンスコードを理解すること(45分)	アンサンブルの練習(45分)
8	前時の学習を深める	和音を調べること(45分)	和音アレンジについて調べること(45分)
9	片手練習からアレンジ	民謡や子守歌を調べておく(45分)	民謡や子守歌を調べておく(45分)
10	各国の民謡、子守歌を歌う	民謡や子守歌を調べておく(45分)	民謡や子守歌を調べておく(45分)
11	両手練習(メロディーと伴奏)	伊独の歌曲を聞いておく(45分)	伊独の歌曲を聞いておく(45分)
12	伴奏付けと簡単なアレンジの基本	アレンジの基本を理解しておくこと(45分)	日本の歌曲の詩を理解する(45分)
13	各拍子の理解と実践	各拍子を調べておくこと(45分)	初見視唱ができるように工夫すること(45分)
14	初見視唱で、いろいろな子供の歌	各拍子を調べておくこと(45分)	初見視唱ができるように工夫すること(45分)
15	弾き歌いのレパートリーを増やす	弾き歌いできる曲を練習しておくこと(45分)	弾き歌いによる表現力を高めること(45分)
16	定期試験(実技)を実施後、解説を行う。	実技試験の準備をしておくこと(45分)	解説・フィードバックを受けて講義全体をふりかえること(45分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	全学科・1年		
開講時期	4Q	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	造形表現 (科目ナンバリング: CHS122095)				
授業担当者(所属・職名)	松岡 龍介(デザイン学科・准教授)	研究室所在	2号館7階		
単位数	1 (単位認定責任者: 松岡 龍介)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

概要

履修目標
<p>学生が保育の内容を理解し、子どもの遊びを豊かに展開するために必要な造形表現の知識、技術を習得する。身近な自然やものの色や形、感触やイメージ等に親しむための保育の環境について実践的に習得する。</p>

授業の位置づけ
<p>社会福祉学科のDP「1(2)と(3)と(4)と(6)」、「2(2)」に対応する。</p>

到達目標
<p>学生が保育環境の中での造形表現がどのような特徴を持っているのかを理解し、具体的な表現を自ら製作してその(最低限の)基本を身につけることができる。</p>

授業全体の内容と概要
<p>保育の内容を理解し、子どもの遊びを豊かに展開するために必要な造形表現の知識、技術を習得する。身近な自然やものの色や形、感触やイメージ等に親しむための保育の環境について実践的に学修する。</p>

授業の方法
<p>板書と配付資料で授業を実施し、講義形式で各回のテーマに沿った解説を行う。各テーマについて、グループワーク的な方法やディスカッションによる問題解決等のプレゼンテーションを行う。プレゼンテーションは口頭発表等。また、実験・実習・実技的な課題については各自が毎回、課題を制作する。課題のフィードバックとして各自が制作した課題の確認・評価を双方向的授業としておこなう。</p>

アクティブラーニングの実施方法												
<table border="1"> <tr> <td>プレゼンテーション</td> <td>グループワーク</td> <td>フィールドワーク</td> <td>PBL</td> </tr> <tr> <td>模擬授業</td> <td>ロールプレイ</td> <td>調査学習</td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td>ディスカッション</td> <td>実験・実習・実技</td> <td>双方向授業</td> <td>その他(授業の方法参照)</td> </tr> </table>	プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL	模擬授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業	ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)
プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL									
模擬授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業									
ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)									

履修上の注意事項
<p>指定した用具・用品等、自筆ノート、配布した参考資料、各自が準備した材料・材材等を持ってくること。出席を取り終わった後は欠席とする。</p>

資格指定科目
<p>保育士養成課程</p>

評価方法・基準

評価前提条件												
<p>単位認定に必要な最低出席回数(1回目から15回目まで)は、10回以上。</p>												
評価方法												
<table border="1"> <tr> <td>定期試験</td> <td>レポート</td> <td>課題・作品</td> <td>中間テスト</td> <td>平常点</td> <td>その他</td> </tr> <tr> <td>0%</td> <td>0%</td> <td>60%</td> <td>0%</td> <td>40%</td> <td>0%</td> </tr> </table>	定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他	0%	0%	60%	0%	40%	0%
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他							
0%	0%	60%	0%	40%	0%							

ルーブリック																																									
<table border="1"> <tr> <th rowspan="2">評価項目</th> <th colspan="5">評価基準</th> </tr> <tr> <th>履修項目を超えたレベルを達成している</th> <th>履修項目をほぼ達成している</th> <th>履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している</th> <th>到達目標を達成している</th> <th>到達目標を達成していない</th> </tr> <tr> <td>保育における造形表現について将来、保育士として十分に子供たちに指導できる。</td> <td>十分に目標に達成していた</td> <td>概ね出来ていた</td> <td>不十分ではあるが出来ていた</td> <td>最低限出来ていた</td> <td>全く出来ていなかった</td> </tr> <tr> <td>造形表現が持っている可能性について、自ら考えて具体的な作品作り等に展開することができる。</td> <td>十分に目標に達成していた</td> <td>概ね出来ていた</td> <td>不十分ではあるが出来ていた</td> <td>最低限出来ていた</td> <td>全く出来ていなかった</td> </tr> <tr> <td>発達に合わせた保育における造形表現や保育の環境について理解し実践できる。</td> <td>十分に目標に達成していた</td> <td>概ね出来ていた</td> <td>不十分ではあるが出来ていた</td> <td>最低限出来ていた</td> <td>全く出来ていなかった</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	評価項目	評価基準					履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない	保育における造形表現について将来、保育士として十分に子供たちに指導できる。	十分に目標に達成していた	概ね出来ていた	不十分ではあるが出来ていた	最低限出来ていた	全く出来ていなかった	造形表現が持っている可能性について、自ら考えて具体的な作品作り等に展開することができる。	十分に目標に達成していた	概ね出来ていた	不十分ではあるが出来ていた	最低限出来ていた	全く出来ていなかった	発達に合わせた保育における造形表現や保育の環境について理解し実践できる。	十分に目標に達成していた	概ね出来ていた	不十分ではあるが出来ていた	最低限出来ていた	全く出来ていなかった												
評価項目		評価基準																																							
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない																																				
保育における造形表現について将来、保育士として十分に子供たちに指導できる。	十分に目標に達成していた	概ね出来ていた	不十分ではあるが出来ていた	最低限出来ていた	全く出来ていなかった																																				
造形表現が持っている可能性について、自ら考えて具体的な作品作り等に展開することができる。	十分に目標に達成していた	概ね出来ていた	不十分ではあるが出来ていた	最低限出来ていた	全く出来ていなかった																																				
発達に合わせた保育における造形表現や保育の環境について理解し実践できる。	十分に目標に達成していた	概ね出来ていた	不十分ではあるが出来ていた	最低限出来ていた	全く出来ていなかった																																				

教科書・参考文献・資料等

教科書																																										
<table border="1"> <tr> <th>No</th> <th>書籍名</th> <th>著者</th> <th>出版社</th> <th>出版年</th> <th>ISBN</th> <th>備考</th> </tr> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>4</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>5</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考	1							2							3							4							5						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考																																				
1																																										
2																																										
3																																										
4																																										
5																																										

参考文献・資料等																																										
<table border="1"> <tr> <th>No</th> <th>書籍名</th> <th>著者</th> <th>出版社</th> <th>出版年</th> <th>ISBN</th> <th>備考</th> </tr> <tr> <td>1</td> <td>『U-CANの製作・造形なんでも大百科』</td> <td>くまがいゆか</td> <td>自由国民社</td> <td>2012</td> <td>9784426603434</td> <td>保育の現場で必ず役に立つものであり。</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>4</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>5</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考	1	『U-CANの製作・造形なんでも大百科』	くまがいゆか	自由国民社	2012	9784426603434	保育の現場で必ず役に立つものであり。	2							3							4							5						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考																																				
1	『U-CANの製作・造形なんでも大百科』	くまがいゆか	自由国民社	2012	9784426603434	保育の現場で必ず役に立つものであり。																																				
2																																										
3																																										
4																																										
5																																										

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	全学科・1年		
開講時期	4Q	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	造形表現 (科目ナンバリング: CHS122095)				
授業担当者(所属・職名)	松岡 龍介(デザイン学科・准教授)	研究室所在	2号館7階		
単位数	1 (単位認定責任者: 松岡 龍介)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	ガイダンス シラバスの説明 保育の内容における造形表現とは	シラバスの確認(45分)	ガイダンス 保育の内容における造形表現とは(45分)
2	3歳未満児と造形表現	3歳未満児と造形表現(45分)	3歳以上児と造形表現(45分)
3	3歳以上児と造形表現	3歳以上児と造形表現(45分)	造形表現のための基本技法 はじき絵(45分)
4	造形表現のための基本技法 はじき絵	造形表現のための基本技法 はじき絵(45分)	造形表現のための基本技法 スクラッチ(45分)
5	造形表現のための基本技法 スクラッチ	造形表現のための基本技法 スクラッチ(45分)	造形表現のための基本技法 スタンピング(45分)
6	造形表現のための基本技法 スタンピング	造形表現のための基本技法 スタンピング(45分)	造形表現のための基本技法 ステンシル(45分)
7	造形表現のための基本技法 ステンシル	造形表現のための基本技法 ステンシル(45分)	造形表現のための基本技法 スパッタリング(45分)
8	造形表現のための基本技法 スパッタリング	造形表現のための基本技法 スパッタリング(45分)	造形表現のための応用技法 フィンガーペインティング(45分)
9	造形表現のための応用技法 フィンガーペインティング	造形表現のための応用技法 フィンガーペインティング(45分)	造形表現のための応用技法 草、木、花等自然物の素材(45分)
10	造形表現のための応用技法 草、木、花等自然物の素材	造形表現のための応用技法 草、木、花等自然物の素材(45分)	造形表現のための応用技法 空き箱、新聞紙等の素材(45分)
11	造形表現のための応用技法 空き箱、新聞紙等の素材	造形表現のための応用技法 空き箱、新聞紙等の素材(45分)	造形表現のための応用技法 寒天、小麦粉等食品の素材(45分)
12	造形表現のための応用技法 寒天、小麦粉等食品の素材	造形表現のための応用技法 寒天、小麦粉等食品の素材(45分)	造形表現のための応用技法 洗濯ばさみ等日用品の素材(45分)
13	造形表現のための応用技法 洗濯ばさみ等日用品の素材	造形表現のための応用技法 洗濯ばさみ等日用品の素材(45分)	さまざまな造形表現と保育の環境1(45分)
14	さまざまな造形表現と保育の環境1	さまざまな造形表現と保育の環境1(45分)	さまざまな造形表現と保育の環境2(45分)
15	さまざまな造形表現と保育の環境2	さまざまな造形表現と保育の環境2(45分)	全課題のまとめ(45分)
16	講評 課題返却	全15回に対する振り返り(45分)	返却課題に対する振り返り(45分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・2年		
開講時期	4Q	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	造形表現 (科目ナンバリング: CHS123096)				
授業担当者(所属・職名)	松岡 龍介(デザイン学科・准教授)	研究室所在	2号館7階		
単位数	1 (単位認定責任者: 松岡 龍介)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

概要

履修目標	<p>学生が「感じる・考える・工夫する」造形活動を支えるための素材を活用した造形表現の知識、技術を得得する。身近な自然やものの色や形、感触やイメージ等に親しむための保育の環境について実践的に習得する。</p>												
授業の位置づけ	<p>社会福祉学科のDP「1(2)と(3)と(4)と(6)」、「2(2)」に対応する。</p>												
到達目標	<p>学生が、造形表現の内容に関してより興味を持ち保育の実践の中で具体的な応用を考えることを身につける(最低限の)機会となること出来る。</p>												
授業全体の内容と概要	<p>「感じる・考える・工夫する」造形活動を支えるための素材を活用した造形表現を学修する。身近な自然やものの色や形、感触やイメージ等に親しむための保育の環境について実践的に学修する。進度に応じて漸次、課題を更新しながら進めてゆく。</p>												
授業の方法	<p>板書と配付資料で授業を実施し、講義形式で各回のテーマに沿った解説を行う。各テーマについて、グループワーク的な方法やディスカッションによる問題解決等のプレゼンテーションを行う。プレゼンテーションは口頭発表等。また、実験・実習・実技的な課題として各自が課題を制作する。各自が制作した課題の確認・評価を双方向的授業としておこなう。</p>												
アクティブラーニングの実施方法	<table border="1"> <tr> <td>プレゼンテーション</td> <td>グループワーク</td> <td>フィールドワーク</td> <td>PBL</td> </tr> <tr> <td>模擬授業</td> <td>ロールプレイ</td> <td>調査学習</td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td>ディスカッション</td> <td>実験・実習・実技</td> <td>双方向授業</td> <td>その他(授業の方法参照)</td> </tr> </table>	プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL	模擬授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業	ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)
プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL										
模擬授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業										
ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)										
履修上の注意事項	<p>指定した用具・用品等、自筆ノート、配布した参考資料、各自が準備した材料・用材等を持ってくること。出席を取り終わったあとは欠席とする。</p>												
資格指定科目	<p>保育士養成課程</p>												

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数(1回日から15回目まで)は、10回以上。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	60%	0%	40%	0%

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
保育士として十分に子供たちに造形表現の楽しさや体感させ理解させることが出来る。	十分に目標出来に達成している	概ね出来ている	不十分ではあるが出来ている	最低限出来ている	全く出来ていない
造形表現が持っている可能性について、自ら積極的に考えて具体的な作品作り等においてより高次元に展開することができる。	十分に目標出来に達成している	概ね出来ている	不十分ではあるが出来ている	最低限出来ている	全く出来ていない
発達に合わせた保育における造形表現や保育の環境について理解し十分に実践できる。	十分に目標出来に達成している	概ね出来ている	不十分ではあるが出来ている	最低限出来ている	全く出来ていない

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・2年		
開講時期	4Q	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	造形表現 (科目ナンバリング: CHS123096)				
授業担当者(所属・職名)	松岡 龍介(デザイン学科・准教授)	研究室所在	2号館7階		
単位数	1 (単位認定責任者: 松岡 龍介)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	ガイダンス 課題説明 シラバスの説明	シラバスの確認(45分)	ガイダンス 課題説明(45分)
2	新聞紙で折り紙を作る	新聞紙で折り紙を作る(45分)	横造紙を貼り合わせて大きな折り紙を作る テーマの決定(45分)
3	横造紙を貼り合わせて大きな折り紙を作る テーマの決定(45分)	横造紙を貼り合わせて大きな折り紙を作る テーマの決定(45分)	横造紙を貼り合わせて大きな折り紙を作る 横造紙を貼り合わせる(45分)
4	横造紙を貼り合わせて大きな折り紙を作る 横造紙を貼り合わせる	横造紙を貼り合わせて大きな折り紙を作る 横造紙を貼り合わせる(45分)	横造紙を貼り合わせて大きな折り紙を作る 横造紙を貼り合わせる(45分)
5	横造紙を貼り合わせて大きな折り紙を作る 作品完成	横造紙を貼り合わせて大きな折り紙を作る 横造紙を貼り合わせる(45分)	モールドアート 基本の作品の制作(45分)
6	モールドアート 基本の作品の制作	モールドアート 基本の作品の制作(45分)	モールドアート 複雑な形の作品の制作(45分)
7	モールドアート 複雑な形の作品の制作	モールドアート 複雑な形の作品の制作(45分)	モールドアートからバルーンアートを考える(45分)
8	モールドアートからバルーンアートを考える	モールドアートからバルーンアートを考える(45分)	バルーンアート 基本の作品の制作(45分)
9	バルーンアート 基本の作品の制作	バルーンアート 基本の作品の制作(45分)	アルミホイルを使った造形 エスキース(下絵)(45分)
10	アルミホイルを使った造形 エスキース(下絵)	アルミホイルを使った造形 エスキース(下絵)(45分)	アルミホイルを使った造形 作品の完成(45分)
11	アルミホイルを使った造形 作品の完成	アルミホイルを使った造形 作品の完成(45分)	紙粘土で作る造形 エスキース(下絵)(45分)
12	紙粘土で作る造形 エスキース(下絵)	紙粘土で作る造形 エスキース(下絵)(45分)	紙粘土で作る造形 制作 完成(45分)
13	紙粘土で作る造形 制作 完成	紙粘土で作る造形 制作 完成(45分)	紙粘土で作る造形 フロッタージュする(45分)
14	紙粘土で作る造形 フロッタージュする	紙粘土で作る造形 フロッタージュする(45分)	紙粘土で作る造形 彩色と紙に転写(45分)
15	紙粘土で作る造形 彩色と紙に転写	紙粘土で作る造形 彩色と紙に転写(45分)	全課題のまとめ(45分)
16	講評 課題返却	全15回に対する総括(45分)	全15回に対する総括(45分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・2年		
開講時期	3Q	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	言語表現 (科目ナンバリング: CHS122097)				
授業担当者(所属・職名)	吉江 幸子(社会福祉学科・准教授)	研究室所在	1号館2階		
単位数	1 (単位認定責任者: 吉江 幸子)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	保育現場における実践経験を活かし、子どもの表現活動と児童文化財を結びつける遊びの展開を実践的に指導する。		

概要

履修目標	この科目は、以下の3つを授業の目的とする。 1. 子どもの発達と絵本、紙芝居、人形劇、ストーリーテリング等に関する知識と技術を習得する。 2. 子ども自身が児童文化財等に親しむ経験と保育の環境を構成する知識と技術を習得する。 3. 子どもの経験や様々な表現活動と児童文化財等とを結びつける遊びの展開を習得する。																								
授業の位置づけ	社会福祉学科のDP「1(1)と(5)と(6)」、「2(2)」に対応する。																								
到達目標	子どもの発達と絵本、紙芝居、人形劇、ストーリーテリング等に関する知識と技術、子ども自身が児童文化財等に親しむ経験と保育の環境を構成する知識と技術、子どもの経験や様々な表現活動と児童文化財等とを結びつける遊びの展開について理解し、実演する。																								
授業全体の内容と概要	子どもの発達と絵本、紙芝居、ストーリーテリング等に関する知識と技術、子ども自身が児童文化財等に親しむ経験と保育の環境を構成する知識と技術、子どもの経験や様々な表現活動と児童文化財等とを結びつける遊びの展開について実践を通して学修する。																								
授業の方法	授業は、板書とパワーポイント、グループ学習を取り入れ、意見を出し合う場を多く設定する。児童文化財(パネルシアター)制作を行い発表してお互いを評価しあう時間も設定する。課題や作品、レポート及び中間試験レポートはコメントをつけてフィードバックする。																								
アクティブラーニングの実施方法	<table border="1"> <tr> <td></td> <td>プレゼンテーション</td> <td></td> <td>グループワーク</td> <td></td> <td>フィールドワーク</td> <td></td> <td>PBL</td> </tr> <tr> <td></td> <td>模擬授業</td> <td></td> <td>ロールプレイ</td> <td></td> <td>調査学習</td> <td></td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td></td> <td>ディスカッション</td> <td></td> <td>実験・実習・実技</td> <td></td> <td>双方向授業</td> <td></td> <td>その他(授業の方法参照)</td> </tr> </table>		プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL		模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業		ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)
	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL																		
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業																		
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)																		
履修上の注意事項	課題の内容及と提出方法及び課題・平常点の評価は加点方式とし、授業時間に説明する。児童文化財制作(パネルシアター)のため、各自でクレヨン、マジック、絵具等教材の用意が必要。																								
資格指定科目	保育士養成課程																								

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数は11回以上。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	20%	20%	20%	40%	0%

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
児童文化財に関する知識・技能(何を知っているか、何ができるか)	児童文化財について基礎的な知識を深く理解できた。	児童文化財について基礎的な知識をおおむね理解できた。	児童文化財について基礎的な知識を理解できた。	児童文化財について基礎的な知識を多少理解できた。	児童文化財について基礎的な知識を理解できなかった。
思考力・判断力・表現力等(知っていること、できることをどう使うか)	子どもの発達と児童文化財の関連について十分に考察できた。	子どもの発達と児童文化財の関連についておおむね考察できた。	子どもの発達と児童文化財の関連について考察できた。	子どもの発達と児童文化財の関連について多少考察できた。	子どもの発達と児童文化財の関連について考察できなかった。
主体的に取り組む態度(どのように関わるか)	子どもの表現活動と児童文化財の関わりについて理解したことをわかりやすく説明できた。	子どもの表現活動と児童文化財の関わりについて理解したことをわかあおむね説明できた。	子どもの表現活動と児童文化財の関わりについて理解したことを説明できた。	子どもの表現活動と児童文化財の関わりについて理解したことを多少説明できた。	子どもの表現活動と児童文化財の関わりについて理解したことを説明できなかった。

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『保育に役立つ言語表現教材第2版』	松本和美	株式会社みらい	2018	9784860154615	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・2年		
開講時期	3Q	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	言語表現 (科目ナンバリング: CHS122097)				
授業担当者(所属・職名)	吉江 幸子(社会福祉学科・准教授)	研究室所在	1号館2階		
単位数	1 (単位認定責任者: 吉江 幸子)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	保育現場における実践経験を活かし、子どもの表現活動と児童文化財を結びつける遊びの展開を実践的に指導する。		

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	シラバスの説明	指定した教科書を事前に読むこと(45分)。	1回目の授業で理解した点を整理する(45分)。
2	子どもの発達と絵本、紙芝居、劇、パネルシアター ₁	児童文化財の種類を理解しておく(45分)。	2回目の授業で理解した点を整理する(45分)。
3	子どもの発達と絵本、紙芝居、劇、パネルシアター ₂	児童文化財の種類を理解しておく(45分)。	3回目の授業で理解した点を整理する(45分)。
4	子どもの発達と絵本、紙芝居、劇、パネルシアター ₃	児童文化財の種類を理解しておく(45分)。	4回目の授業で理解した点を整理する(45分)。
5	子どもの発達と絵本、紙芝居、劇、ストーリーテリング ₁	素話の意味を理解しておく(45分)。	5回目の授業で理解した点を整理する(45分)。
6	子どもの発達と絵本、紙芝居、劇、ストーリーテリング ₂	素話の実演方法を理解しておく(45分)。	授業終了時に示す課題を作成する(45分)。
7	子どもの発達と絵本、紙芝居、劇、ストーリーテリング ₃	昼間テストに向け発表練習をしておく(45分)。	7回目の授業で理解した点を整理する(45分)。
8	子ども自らが児童文化財等に親しむ経験と保育の環境 ₁ 中間テスト(制作発表)	昼間テスト(発表)の準備をしておく(45分)。	8回目の授業で理解した点を整理する(45分)。
9	子ども自らが児童文化財等に親しむ経験と保育の環境 ₂ 中間テストの評価解説	望ましい保育環境について事前学習する(45分)。	9回目の授業で理解した点を整理する(45分)。
10	子ども自らが児童文化財等に親しむ経験と保育の環境 ₃	望ましい保育環境について事前学習する(45分)。	10回目の授業で理解した点を整理する(45分)。
11	子どもの経験や様々な表現活動と児童文化財等とを結びつける遊びの展開 ₁	児童文化財と遊びの関係を事前学習する(45分)。	11回目の授業で理解した点を整理する(45分)。
12	子どもの経験や様々な表現活動と児童文化財等とを結びつける遊びの展開 ₂	児童文化財と遊びの関係を事前学習する(45分)。	12回目の授業で理解した点を整理する(45分)。
13	子どもの経験や様々な表現活動と児童文化財等とを結びつける遊びの展開 ₃	児童文化財と遊びの関係を事前学習する(45分)。	13回目の授業で理解した点を整理する(45分)。
14	学生による言語表現の展開 ₁	言語発表の準備、練習をしておく(45分)。	授業終了時に示す課題を作成する(45分)。
15	学生による言語表現の展開 ₂ ・まとめ・レポート提出	授業を通して学んだ事を整理しておく(45分)。	授業の目的の達成度を自己評価する(45分)。
16	提出されたレポート、課題の総合評価をフィードバック	15回の内容を振り返り復習する(45分)。	試験、課題の解説に基づき復習し整理する(45分)。

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・2年		
開講時期		授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	乳児保育 (科目ナンバリング:)				
授業担当者(所属・職名)	吉江 幸子(社会福祉学科・准教授)	研究室所在	1号館2階		
単位数	(単位認定責任者: 吉江 幸子)		CAP制		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	保育現場での実務経験のある教員が、実際の保育現場の事例等を通じて、3歳未満児の心身諸機能の発達など乳児保育について講義を行う。		

概要

履修目標	乳児(3歳未満児)期は人間形成の基礎づくりの時期であることを知り、乳児保育の大切さを理解する。																								
授業の位置づけ	社会福祉学科のDP「1(1)と(3)」、「2(2)」に対応する。																								
到達目標	3歳未満児の心身諸機能の発達など、乳児保育の知識が身につく。																								
授業全体の内容と概要	3歳未満児の保育について、心身の発達にそって諸機能の発達と健康と安全の基本を理解する。																								
授業の方法	講義を中心とした授業を行っていく中で、実際の保育現場の事例をあげ、子どもや保護者、保育者の様子をイメージしながら、一人ひとり学生の考える場となるように授業を進めていく。質問については随時対応する。レポートは解説し、フィードバックする。																								
アクティブラーニングの実施方法	<table border="1"> <tr> <td><input type="checkbox"/></td> <td>プレゼンテーション</td> <td><input type="checkbox"/></td> <td>グループワーク</td> <td><input type="checkbox"/></td> <td>フィールドワーク</td> <td><input type="checkbox"/></td> <td>PBL</td> </tr> <tr> <td><input type="checkbox"/></td> <td>模擬授業</td> <td><input type="checkbox"/></td> <td>ロールプレイ</td> <td><input type="checkbox"/></td> <td>調査学習</td> <td><input type="checkbox"/></td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td><input type="checkbox"/></td> <td>ディスカッション</td> <td><input type="checkbox"/></td> <td>実験・実習・実技</td> <td><input type="checkbox"/></td> <td>双方向授業</td> <td><input type="checkbox"/></td> <td>その他(授業の方法参照)</td> </tr> </table>	<input type="checkbox"/>	プレゼンテーション	<input type="checkbox"/>	グループワーク	<input type="checkbox"/>	フィールドワーク	<input type="checkbox"/>	PBL	<input type="checkbox"/>	模擬授業	<input type="checkbox"/>	ロールプレイ	<input type="checkbox"/>	調査学習	<input type="checkbox"/>	反転授業	<input type="checkbox"/>	ディスカッション	<input type="checkbox"/>	実験・実習・実技	<input type="checkbox"/>	双方向授業	<input type="checkbox"/>	その他(授業の方法参照)
<input type="checkbox"/>	プレゼンテーション	<input type="checkbox"/>	グループワーク	<input type="checkbox"/>	フィールドワーク	<input type="checkbox"/>	PBL																		
<input type="checkbox"/>	模擬授業	<input type="checkbox"/>	ロールプレイ	<input type="checkbox"/>	調査学習	<input type="checkbox"/>	反転授業																		
<input type="checkbox"/>	ディスカッション	<input type="checkbox"/>	実験・実習・実技	<input type="checkbox"/>	双方向授業	<input type="checkbox"/>	その他(授業の方法参照)																		
履修上の注意事項	出席とレポート提出を重要視する。レポート、課題の内容及び提出方法は、授業時間に指示する。																								
資格指定科目	保育士養成課程																								

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数は、11回以上。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
80%	0%	0%	0%	20%	0%

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
乳児保育の基礎的知識・技能(何を知っているか、何が出来るか)	乳児保育について基礎的な知識を深く理解できた。	乳児保育について基礎的な知識をおおむね理解できた。	乳児保育について基礎的な知識を理解できた。	乳児保育について基礎的な知識を多少理解できた。	乳児保育について基礎的な知識を理解できなかった。
思考力・判断力・表現力等(知っていること、できることをどう使うか)	乳児保育の基本を踏まえた保育内容の展開について十分に考察できた。	乳児保育の基本を踏まえた保育内容の展開についておおむね考察できた。	乳児保育の基本を踏まえた保育内容の展開について考察できた。	乳児保育の基本を踏まえた保育内容の展開について多少考察できた。	乳児保育の基本を踏まえた保育内容の展開について考察できなかった。
主体的に取り組む態度(どのように関わるか)	3歳未満児保育の多様な展開について理解したことをわかりやすく説明できた。	3歳未満児保育の多様な展開について理解したことをおおむね説明できた。	3歳未満児保育の多様な展開について理解したことを説明できた。	3歳未満児保育の多様な展開について理解したことを多少説明できた。	3歳未満児保育の多様な展開について理解したことを説明できなかった。

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『はじめて学ぶ乳児保育』	志村聡子	同文書院	2019	9784810314731	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						授業内で適宜紹介
2						
3						
4						
5						

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・2年		
開講時期		授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	乳児保育 (科目ナンバリング:)				
授業担当者(所属・職名)	吉江 幸子(社会福祉学科・准教授)	研究室所在	1号館2階		
単位数	(単位認定責任者: 吉江 幸子)		CAP制		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	保育現場での実務経験のある教員が、実際の保育現場の事例等を通じて、3歳未満児の心身諸機能の発達など乳児保育について講義を行う。		

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	シラバスの説明 乳児保育の意義・目的と歴史の変遷	シラバスを読んでおくこと(90分)	講義内容の理解を深め、復習しておくこと(90分)
2	乳児保育の役割と機能	教科書を読み、学習しておくこと(90分)	講義内容の理解を深め、復習しておくこと(90分)
3	乳児保育における養護及び教育	教科書を読み、学習しておくこと(90分)	講義内容の理解を深め、復習しておくこと(90分)
4	乳児保育及び子育て家庭に対する支援をめぐる社会的状況と課題	教科書を読み、学習しておくこと(90分)	講義内容の理解を深め、復習しておくこと(90分)
5	保育所における乳児保育	教科書を読み、学習しておくこと(90分)	講義内容の理解を深め、復習しておくこと(90分)
6	保育所以外の児童福祉施設(乳児院等)における乳児保育	教科書を読み、学習しておくこと(90分)	講義内容の理解を深め、復習しておくこと(90分)
7	家庭的保育等における乳児保育	教科書を読み、学習しておくこと(90分)	講義内容の理解を深め、復習しておくこと(90分)
8	3歳未満児とその過程を取り巻く環境と子育て支援の場	教科書を読み、学習しておくこと(90分)	講義内容の理解を深め、復習しておくこと(90分)
9	3歳未満児の生活と環境	教科書を読み、学習しておくこと(90分)	講義内容の理解を深め、復習しておくこと(90分)
10	3歳未満児の遊びと環境	教科書を読み、学習しておくこと(90分)	講義内容の理解を深め、復習しておくこと(90分)
11	3歳以上児の保育に移行する時期の保育	教科書を読み、学習しておくこと(90分)	講義内容の理解を深め、復習しておくこと(90分)
12	3歳未満児の発育・発達を踏まえた保育士等による援助や関わり	教科書を読み、学習しておくこと(90分)	講義内容の理解を深め、復習しておくこと(90分)
13	3歳未満児の発育・発達を踏まえた保育における配慮	教科書を読み、学習しておくこと(90分)	講義内容の理解を深め、復習しておくこと(90分)
14	乳児保育における計画・記録・評価とその意義	教科書を読み、学習しておくこと(90分)	講義内容の理解を深め、復習しておくこと(90分)
15	乳児保育における職員間及び保護者や自治体等関係機関との連携・協働、まとめ	教科書を読み、学習しておくこと(90分)	講義内容の理解を深め、復習しておくこと(90分)
16	定期試験 解説およびフィードバック	講義全体をおとして質問など整理しておく(90分)	解説を受け、講義全体をふりかえること(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・2年		
開講時期	2Q	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	乳児保育 (科目ナンバリング: CHS123099)				
授業担当者(所属・職名)	吉江 幸子(社会福祉学科・准教授)	研究室所在	1号館2階		
単位数	1 (単位認定責任者: 吉江 幸子)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	保育現場での実務経験のある教員が、実際の保育現場の事例等を通じて、3歳未満児の新備書機能の発達など乳児保育について講義を行う。		

概要

履修目標	乳児(3歳未満児)期は人間形成の基礎づくりの時期であることを知り、乳児保育の大切さを理解する。																								
授業の位置づけ	社会福祉学科のDP「1(1)と(3)」、「2(2)」に対応する。																								
到達目標	3歳未満児の心身諸機能の発達など、乳児保育の知識が身につく。																								
授業全体の内容と概要	3歳未満児の保育について、心身の発達にそって諸機能の発達と健康と安全の基本を理解する。																								
授業の方法	講義・演習を中心とした授業を行っていく中で、実際の保育現場の事例をあげ、子どもや保護者、保育者の様子をイメージしながら、一人ひとり学生の考える場となるように授業を進めていく。質問については随時対応する。レポートは解説し、フィードバックする。																								
アクティブラーニングの実施方法	<table border="1"> <tr> <td>○</td> <td>プレゼンテーション</td> <td></td> <td>グループワーク</td> <td></td> <td>フィールドワーク</td> <td></td> <td>PBL</td> </tr> <tr> <td></td> <td>模擬授業</td> <td></td> <td>ロールプレイ</td> <td></td> <td>調査学習</td> <td></td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td></td> <td>ディスカッション</td> <td></td> <td>実験・実習・実技</td> <td></td> <td>双方向授業</td> <td></td> <td>その他(授業の方法参照)</td> </tr> </table>	○	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL		模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業		ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)
○	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL																		
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業																		
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)																		
履修上の注意事項	出席とレポート提出、発表・発言を重要視する。レポート、課題の内容及び提出方法は、授業時間に指示する。																								
資格指定科目	保育士養成課程																								

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数は、11回以上。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	60%	10%	0%	30%	0%

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
乳児保育の基礎的知識・技能(何を知っているか、何が出来るか)	乳児保育について基礎的な知識を深く理解できた。	乳児保育について基礎的な知識をおおむね理解できた。	乳児保育について基礎的な知識を理解できた。	乳児保育について基礎的な知識を多少理解できた。	乳児保育について基礎的な知識を理解することができなかった。
思考力・判断力・表現力等(知っていること、できることをどう使うか)	乳児保育の基本を踏まえた保育内容の展開について十分に考察できた。	乳児保育の基本を踏まえた保育内容の展開についておおむね考察できた。	乳児保育の基本を踏まえた保育内容の展開について考察できた。	乳児保育の基本を踏まえた保育内容の展開について多少考察できた。	乳児保育の基本を踏まえた保育内容の展開について考察することができなかった。
主体的に取り組む態度(どのように関わるか)	3歳未満児保育の多様な展開について理解したことをわかりやすく説明できた。	3歳未満児保育の多様な展開について理解したことをおおむね説明できた。	3歳未満児保育の多様な展開について理解したことを説明できた。	3歳未満児保育の多様な展開について理解したことを多少説明できた。	3歳未満児保育の多様な展開について理解したことを説明することができなかった。

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『はじめて学ぶ乳児保育』	志村聡子	同文書院	2019	9784810314731	乳児保育で使用できる教科書と同じです
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・2年		
開講時期	2Q	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	乳児保育 (科目ナンバリング: CHS123099)				
授業担当者(所属・職名)	吉江 幸子(社会福祉学科・准教授)	研究室所在	1号館2階		
単位数	1 (単位認定責任者: 吉江 幸子)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	保育現場での実務経験のある教員が、実際の保育現場の事例等を通じて、3歳未満児の新信頼機能の発達など乳児保育について講義を行う。		

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	シラバスの説明 オリエンテーション 子どもと保育士等との関係の重要性	シラバスを読んでおくこと(45分)	講義内容の理解を深め、復習しておくこと(45分)
2	個々の子どもに応じた援助や受容的・応答的な関わり	教科書を読み、学習しておくこと(45分)	講義内容の理解を深め、復習しておくこと(45分)
3	子どもの主体性の尊重と自己の育ち	教科書を読み、学習しておくこと(45分)	講義内容の理解を深め、復習しておくこと(45分)
4	子どもの体験と学びの芽生え	教科書を読み、学習しておくこと(45分)	講義内容の理解を深め、復習しておくこと(45分)
5	子どもの1日の生活の流れと保育の環境	教科書を読み、学習しておくこと(45分)	講義内容の理解を深め、復習しておくこと(45分)
6	子どもの生活や遊びを支える環境の構成	教科書を読み、学習しておくこと(45分)	講義内容の理解を深め、復習しておくこと(45分)
7	3歳未満児の発育・発達を踏まえた生活と援助の実際	教科書を読み、学習しておくこと(45分)	講義内容の理解を深め、復習しておくこと(45分)
8	3歳未満児の発育・発達を踏まえた遊びと援助の実際	教科書を読み、学習しておくこと(45分)	講義内容の理解を深め、復習しておくこと(45分)
9	子ども同士の関わりとその援助の実際	教科書を読み、学習しておくこと(45分)	講義内容の理解を深め、復習しておくこと(45分)
10	子どもの心身の健康・安全と情緒の安定を図るための配慮	教科書を読み、学習しておくこと(45分)	講義内容の理解を深め、復習しておくこと(45分)
11	集団での生活における配慮	教科書を読み、学習しておくこと(45分)	講義内容の理解を深め、復習しておくこと(45分)
12	環境の変化や移行に対する配慮	教科書を読み、学習しておくこと(45分)	講義内容の理解を深め、復習しておくこと(45分)
13	長期的な指導計画と短期的な指導計画	教科書を読み、学習しておくこと(45分)	講義内容の理解を深め、復習しておくこと(45分)
14	個別的な指導計画と集団の指導計画	教科書を読み、学習しておくこと(45分)	講義内容の理解を深め、復習しておくこと(45分)
15	計画実践発表とまとめ	教科書を読み、学修しておくこと(45分)	講義内容の理解を深め、復習しておくこと(45分)
16	レポートに関する解説及びフィードバック	講義全体をおして質問など整理しておくこと(45分)	解説を受け、講義全体をふりかえること(45分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・2年		
開講時期	4Q	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	子どもの健康と安全 (科目ナンバリング：SOM123100)				
授業担当者(所属・職名)	中村 則子(社会福祉学科・特任准教授)	研究室所在	1号館4階		
単位数	1 (単位認定責任者：中村 則子)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	看護実践、看護教育の実務経験あり。子どもの発達状態や健康状態の把握の方法について演習する。また、子どもが育つ環境づくりや子ども自身で心身健康で安全な生活をつくりだせるような支援方法を考える。		

概要

履修目標
保育における保健の観点から保育環境や支援のあり方について学ぶ。子どもを取り巻く社会状況・指針をふまえた衛生・安全管理やその対策を学び、体制づくり、活動計画・評価等の一連について理解を深める。また、子どもの保健の基本をふまえ、心身の状態や発達に即した適切な対応について学ぶ。

授業の位置づけ
社会福祉学科のDP「1(1)と(2)と(3)と(7)」、「2(1)と(2)と(4)」に対応する。

到達目標
子どもを取り巻く社会状況を把握し、安全管理の実際について討議・発表できる。 子どもの健康状態の把握の方法を理解し計測できる。 子どもの保健の基本をふまえ、心身の状態や発達に即した適切な対応について説明できる。

授業全体の内容と概要
子ども保健の基本的な考え方を理解し、子どもの健康と安全な生活のための支援方法を学ぶ。 子どもを取り巻く社会状況・指針をふまえた衛生・安全管理やその対策、体制づくりの活動計画・評価の一連等の理解を深めるとともに、心身の状態や発達に即した適切な対応についての保健活動を具体的に学習する。

授業の方法
講義と実習形式。参考図書や配布資料を活用。実施前に基本学習事項、事前課題への取り組み方を提示する。 テーマについて説明後、グループワークや課題解決学習の発表・実施、その後レポート提出(2回)を行う。その都度、コメントを返す。

アクティブラーニングの実施方法							
	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		PBL
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業	○	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項
なし

資格指定科目
保育士養成課程

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数は6回以上					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	40%	40%	0%	10%	10%

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
子どもを取り巻く社会状況の把握と衛生・安全管理	体験した安全管理の活動を振り返り、子どもを取り巻く社会状況と関連させて活発に討議し非常に良い発表ができた。	体験した安全管理のための活動を振り返り、子どもを取り巻く社会状況と関連させて概ね討議・発表ができた。	安全管理のための活動と子どもを取り巻く社会状況について部分的に討議・発表ができた。	安全管理のための活動と子どもを取り巻く社会状況を助言により討議・発表ができた。	助言しても討議・発表ができなかった。
子どもの健康状態の把握	子どもの健康状態の把握の方法を詳しく調べ、正しく計測できた。	子どもの健康状態の把握の方法を調べ、概ね計測できた。	子どもの健康状態の把握の方法を調べ、部分的に計測できた。	子どもの健康状態の把握の方法について、助言により計測できた。	助言しても計測できなかった。
子どもの体調や心身の状態把握の方法	子どもの発達状況に即した体調や心身の状態把握、その対応方法について詳しく説明できた。	子どもの発達状況に即した体調や心身の状態把握、その対応方法について概ね説明できた。	子どもの発達と、体調や心身の状態把握、その対応方法について部分的に説明できた。	子どもの体調や心身の状態把握、その対応方法について助言により説明できた。	助言しても説明できなかった。

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『子どもの健康と安全』	大西文字編集	中山書店	2019	978-4521747774	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『授業の中で随時案内する』					
2						
3						
4						
5						

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・2年		
開講時期	4Q	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	子どもの健康と安全 (科目ナンバリング: SOM123100)				
授業担当者(所属・職名)	中村 則子(社会福祉学科・特任准教授)		研究室所在	1号館4階	
単位数	1 (単位認定責任者: 中村 則子)		CAP制		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	看護実践、看護教育の実務経験あり。子どもの発達状態や健康状態の把握の方法について演習する。また、子どもが育つ環境づくりや子ども自身で心身健康で安全な生活をつくりだせるような支援方法を考える。		

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	ガイダンス、シラバス説明 子どもを取り巻く社会状況と子ども保健	履修を終えている「子どもの保健」の概要を理解しておく(90分)	当日の授業で行ったことをノートにまとめておく(90分)
2	事故防止及び健康安全管理1 保育環境と衛生・安全対策	指定した参考図書・配布資料を読んでおく(90分)	当日授業や討議で行った課題について調べ、レポート作成する(90分)
3	事故防止及び健康安全管理2 子どもの事故、危機回避と体づくり	討議・発表準備のため十分に予習して授業に臨む(90分)	返されたコメントや他の評価を参考に自己課題を見直し追加修正しておく(90分)
4	子どもの健康に関する適切な対応1 保健的対応・対策	指定した参考図書・配布資料を読んでおく(90分)	当日の授業で行ったことをノートにまとめ、出された課題を調べておく(90分)
5	子どもの健康に関する適切な対応2 健康状態の把握 計測・測定	発表・実施準備のため十分に予習して授業に臨む(90分)	返されたコメントや他の評価を参考に自己課題を見直し整理しておく(90分)
6	子どもの健康に関する適切な対応3 病児の状態把握の方法と対応	指定した参考図書・配布資料を読んでおく(90分)	当日授業や討議で行った課題について調べ、レポート作成する(90分)
7	子どもの健康・安全にかかわる実施体制	指定した参考図書・配布資料を読んでおく(90分)	返されたコメントや他の評価を参考に自己課題を見直し追加修正しておく(90分)
8	提出レポート・課題について解説、フィードバックし総括します。	これまで授業で行ったことを振り返り準備しておく(90分)	子どもの保健の課題に今後も取り組んでいく(90分)
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
16			

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・3年		
開講時期	3Q	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	社会的養護 (科目ナンバリング: CHS123103)				
授業担当者(所属・職名)	飯浜 浩幸(社会福祉学科・教授)	研究室所在	1号館2階		
単位数	1 (単位認定責任者: 飯浜 浩幸)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	児童養護施設・児童指導員としての経験を活かし、支援の計画と内容及び事例分析、ソーシャルワーク実践についての指導を行う。また、保育士や実習生に対するスーパーバイズの経験を活かし、学生一人ひとりの専門職としての自己覚知を促す。		

概要

履修目標
以下について理解し、事例研究やロールプレイ等を通して自己覚知を行う。 子どもの理解を踏まえた社会的養護の基礎的な内容について理解する。 施設養護及び家庭養護の実践について理解する。 社会的養護における計画・記録・自己評価の実践について理解する。 社会的養護に関わる相談援助の方法・技術について理解する。 社会的養護における子ども虐待の防止と家庭支援について理解する。

授業の位置づけ
社会福祉学科のDP「1(1)と(4)と(6)と(7)」、「2(2)」に対応する。

到達目標
子どもの理解を踏まえた社会的養護の基礎的な内容について理解することができる。 施設養護及び家庭養護の実践について理解することができる。 社会的養護における計画・記録・自己評価の実践について理解することができる。 社会的養護に関わる相談援助の方法・技術について理解することができる。 社会的養護における子ども虐待の防止と家庭支援について理解することができる。

授業全体の内容と概要
子どもの理解を踏まえた社会的養護の基礎的な内容について具体的に学ぶ。 施設養護及び家庭養護の実践について学ぶ。 社会的養護における計画・記録・自己評価の実践について学ぶ。 社会的養護に関わる相談援助の方法・技術について学ぶ。 社会的養護における子ども虐待の防止と家庭支援について学ぶ。

授業の方法
授業は、演習テーマに基づき思考・考察・意見交換・討論・発表等の一連の活動を行う。小グループでの話し合い、事例分析・ロールプレイング等を行い、それに基づく各自の感想、意見、振り返りを毎回述べてもらう。グループ発表、個人発表等に対してコメントを述べフィードバックを行う。レポートについても解説によるフィードバックを行う。

アクティブラーニングの実施方法						
	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク	PBL
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習	反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項
保育士を目指す者として積極的に参加し、専門職としての自己を成長させるための時間として活用して欲しい。演習テーマに基づき小グループでの話し合い、ロールプレイング等を行うので主体的に参加して欲しい。そのために「準備学習」については、示したテーマに係るこれまでの学びを踏まえて整理すること。「事後学習」については、その日取り組んだ演習内容を記録し保育士を目指す者としての自己覚知を重視すること。

資格指定科目
保育士養成課程

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数は、10回以上。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	60%	0%	0%	40%	0%

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
子どもの理解を踏まえた社会的養護の基礎的な内容について	子どもの理解を踏まえた社会的養護の基礎的な内容について、理解を深めた。	子どもの理解を踏まえた社会的養護の基礎的な内容について、ほぼ理解を深めた。	子どもの理解を踏まえた社会的養護の基礎的な内容について、やや理解を深めた。	子どもの理解を踏まえた社会的養護の基礎的な内容について、理解することができた。	子どもの理解を踏まえた社会的養護の基礎的な内容について、理解することができなかった。
施設養護及び家庭養護の実践について	施設養護及び家庭養護の実践について、理解を深めた。	施設養護及び家庭養護の実践について、ほぼ理解を深めた。	施設養護及び家庭養護の実践について、やや理解を深めた。	施設養護及び家庭養護の実践について、理解することができた。	施設養護及び家庭養護の実践について、理解することができなかった。
社会的養護における計画・記録・自己評価の実践について	社会的養護における計画・記録・自己評価の実践について、理解を深めた。	社会的養護における計画・記録・自己評価の実践について、ほぼ理解を深めた。	社会的養護における計画・記録・自己評価の実践について、やや理解を深めた。	社会的養護における計画・記録・自己評価の実践について、理解することができた。	社会的養護における計画・記録・自己評価の実践について、理解することができなかった。
社会的養護に関わる相談援助の方法・技術について	社会的養護に関わる相談援助の方法・技術について、理解を深めた。	社会的養護に関わる相談援助の方法・技術について、ほぼ理解を深めた。	社会的養護に関わる相談援助の方法・技術について、やや理解を深めた。	社会的養護に関わる相談援助の方法・技術について、理解することができた。	社会的養護に関わる相談援助の方法・技術について、理解することができなかった。
社会的養護における子ども虐待の防止と家庭支援について	社会的養護における子ども虐待の防止と家庭支援について、理解を深めた。	社会的養護における子ども虐待の防止と家庭支援について、ほぼ理解を深めた。	社会的養護における子ども虐待の防止と家庭支援について、やや理解を深めた。	社会的養護における子ども虐待の防止と家庭支援について、理解することができた。	社会的養護における子ども虐待の防止と家庭支援について、理解することができなかった。

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『新・基本保育シリーズ 社会的養護』	公益財団法人児童育成協会監修	中央法規出版	2019年	9784805857984	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『ソ・シャルワ・カ・のための養護原理 小規模化・家庭的養育をどう捉えるか』	北川清一	ミネルヴァ書房	2020年	9784623089260	
2						
3						
4						
5						

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・3年		
開講時期	3Q	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	社会的養護 (科目ナンバリング: CHS123103)				
授業担当者(所属・職名)	飯浜 浩幸(社会福祉学科・教授)	研究室所在	1号館2階		
単位数	1 (単位認定責任者: 飯浜 浩幸)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容 児童養護施設・児童指導員としての経験を活かし、支援の計画と内容及び事例分析、ソーシャルワーク実践についての指導を行う。また、保育士や実習生に対するスーパーバイズの経験を活かし、学生一人ひとりの専門職としての自己覚知を促す。			

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	ガイダンス(シラバス確認)、社会的養護における子どもの理解	社会的養護とは(90分)	演習の記録と自己覚知(90分)
2	社会的養護の内容 日常生活支援	日常生活とは(90分)	演習の記録と自己覚知(90分)
3	社会的養護の内容 治療的支援	治療とは(90分)	演習の記録と自己覚知(90分)
4	社会的養護の内容 自立支援	自立とは(90分)	演習の記録と自己覚知(90分)
5	社会的養護の実態 施設養護の生活特性及び実態	施設養護の生活特性とは(90分)	演習の記録と自己覚知(90分)
6	社会的養護の実態 家庭養護の生活特性及び実態	家庭養護の生活特性とは(90分)	演習の記録と自己覚知(90分)
7	アセスメントと個別支援計画の作成	アセスメントとは(90分)	演習の記録と自己覚知(90分)
8	記録及び自己評価	記録のあり方について(90分)	演習の記録と自己覚知(90分)
9	保育の専門性に関わる知識・技術とその実践	保育の専門性とは(90分)	演習の記録と自己覚知(90分)
10	社会的養護に関わる相談援助の知識・技術とその実践	相談援助の知識・技術について(90分)	演習の記録と自己覚知(90分)
11	社会的養護における家庭支援	家庭支援について(90分)	レポート作成(90分)
12	社会的養護の課題と展望	社会的養護の課題と展望について(90分)	レポート作成(90分)
13	社会的養護に関わる事例研究	事例研究(90分)	演習の記録と自己覚知(90分)
14	社会的養護に関わる事例に基づくロールプレイ	ロールプレイの準備(90分)	演習の記録と自己覚知(90分)
15	まとめ	文献学習(90分)	文献学習(90分)
16	フィードバックとしてレポートに対する解説を行う	文献学習(90分)	文献学習(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・3年		
開講時期	2Q	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	子育て支援 (科目ナンバリング: CHS122104)				
授業担当者(所属・職名)	飯浜 浩幸(社会福祉学科・教授)	研究室所在	1号館2階		
単位数	1 (単位認定責任者: 飯浜 浩幸)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	児童養護施設児童指導員(ソーシャルワーカー)としての経験を活かし、児童養護施設等要保護児童の家庭に対する支援についての指導を行う。スーパーバイザーの経験を活かし、学生一人ひとりの専門職としての自己覚知を促す。		

概要

履修目標
以下について理解し、事例研究やロールプレイ等を通して自己覚知を行う。保育士の行う保育の専門性を背景とした保護者に対する相談、助言、情報提供、行動見本の提示等の支援(保育相談支援)について、その特性と展開について理解する。保育士の行う子育て支援について、様々な場や対象に即した支援の内容及び方法及び技術について理解する。

授業の位置づけ
社会福祉学科のDP「1(1)と(3)と(4)と(7)」、「2(2)」に対応する。

到達目標
保育士の行う保育の専門性を背景とした保護者に対する相談、助言、情報提供、行動見本の提示等の支援(保育相談支援)について、その特性と展開について理解することができる。保育士の行う子育て支援について、様々な場や対象に即した支援の内容及び方法及び技術について理解することができる。

授業全体の内容及び概要
保育士の行う保育の専門性を背景とした保護者に対する相談、助言、情報提供、行動見本の提示等の支援(保育相談支援)について、その特性と展開を具体的に学ぶ。保育士の行う子育て支援について、様々な場や対象に即した支援の内容及び方法及び技術、実践事例等を通して具体的に学ぶ。

授業の方法
授業は、演習テーマに基づき思考・考察・意見交換・討論・発表等の一連の活動を行う。小グループでの話し合い、事例分析・ロールプレイング等に基づき各自の感想、意見、振り返りを毎回述べてもらう。グループ発表、個人発表等に対してコメントを述べフィードバックを行う。レポートについても解説によるフィードバックを行う。

アクティブラーニングの実施方法						
	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク	PBL
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習	反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項
演習テーマに基づき小グループでの話し合い、ロールプレイング等を行うので主体的に参加して欲しい。専門職としての自己を成長させるための時間として活用して欲しい。そのために「準備学習」については、示したテーマに係るこれまでの学びを踏まえて整理すること。「事後学習」については、その日取り組んだ演習内容を記録し専門職を目指す者としての自己覚知を重視すること。

資格指定科目
保育士養成課程科目

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数は、10回以上。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	30%	0%	0%	70%	0%

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
保育相談支援の特性について	保育相談支援の特性について、理解を深めた。	保育相談支援の特性について、ほぼ理解を深めた。	保育相談支援の特性について、やや理解を深めた。	保育相談支援の特性について、理解することができた。	保育相談支援の特性について、理解することができなかった。
保育相談支援の展開について	保育相談支援の展開について、理解を深めた。	保育相談支援の展開について、ほぼ理解を深めた。	保育相談支援の展開について、やや理解を深めた。	保育相談支援の展開について、理解することができた。	保育相談支援の展開について、理解することができなかった。
保育士の行う子育て支援の内容及び方法について	保育士の行う子育て支援の内容及び方法について、理解を深めた。	保育士の行う子育て支援の内容及び方法について、ほぼ理解を深めた。	保育士の行う子育て支援の内容及び方法について、やや理解を深めた。	保育士の行う子育て支援の内容及び方法について、理解することができた。	保育士の行う子育て支援の内容及び方法について、理解することができなかった。
保育士の行う子育て支援の方法及び技術について	保育士の行う子育て支援の方法及び技術について、理解を深めた。	保育士の行う子育て支援の方法及び技術について、ほぼ理解を深めた。	保育士の行う子育て支援の方法及び技術について、やや理解を深めた。	保育士の行う子育て支援の方法及び技術について、理解することができた。	保育士の行う子育て支援の方法及び技術について、理解することができなかった。

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『新・基本保育シリーズ 子育て支援』	公益財団法人児童育成協会監修	中央法規出版	2019年	9784805867991	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・3年		
開講時期	2Q	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	子育て支援 (科目ナンバリング: CHS122104)				
授業担当者(所属・職名)	飯浜 浩幸(社会福祉学科・教授)	研究室所在	1号館2階		
単位数	1 (単位認定責任者: 飯浜 浩幸)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	児童養護施設児童指導員(ソーシャルワーカー)としての経験を活かし、児童養護施設等要保護児童の家庭に対する支援についての指導を行う。スーパーバイザーの経験を活かし、学生一人ひとりの専門職としての自己覚知を促す。		

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	ガイダンス(シラバス確認を含む)、子育て支援の特性 子どもの保育とともに行う保護者の支援	保護者の支援について(90分)	演習の記録と自己覚知(90分)
2	子育て支援の特性 日常的・継続的な関わりを通じた保護者との相互理解と信頼関係の形成	信頼関係の形成について(90分)	演習の記録と自己覚知(90分)
3	子育て支援の特性 保護者や家庭の抱える支援の二重への気づきと多面的な理解	多面的な理解について(90分)	演習の記録と自己覚知(90分)
4	子育て支援の特性 子ども・保護者が多様な他者と関わる機会や場の提供	多様な機会や場の提供について(90分)	演習の記録と自己覚知(90分)
5	子育て支援の展開 子ども及び保護者の状況・状態の把握	クライアントの状況・状態の把握について(90分)	演習の記録と自己覚知(90分)
6	子育て支援の展開 支援計画と環境の構成	支援計画について(90分)	演習の記録と自己覚知(90分)
7	子育て支援の展開 支援の実践・記録・評価・カンファレンス及び職員間の連携・協働	職員間の連携・協働について(90分)	演習の記録と自己覚知(90分)
8	子育て支援の展開 社会資源の活用と自治体・関係機関や専門職との連携・協働	社会資源の活用について(90分)	演習の記録と自己覚知(90分)
9	子育て支援とその実際(内容・方法・技術) 保育所等における支援	保育所等における支援(90分)	演習の記録と自己覚知(90分)
10	子育て支援とその実際(内容・方法・技術) 地域の子育て家庭に対する支援	地域の子育て家庭に対する支援(90分)	演習の記録と自己覚知(90分)
11	子育て支援とその実際(内容・方法・技術) 障害のある子ども及びその家庭に対する支援	障害のある子ども及びその家庭に対する支援(90分)	レポート作成(90分)
12	子育て支援とその実際(内容・方法・技術) 特別な配慮を要する子ども及びその家庭に対する支援	特別な配慮を要する子ども及びその家庭に対する支援(90分)	レポート作成(90分)
13	子育て支援とその実際(内容・方法・技術) 子ども虐待の予防と対応	子ども虐待の予防と対応(90分)	演習の記録と自己覚知(90分)
14	子育て支援とその実際(内容・方法・技術) 要保護児童等の家庭に対する支援	要保護児童等の家庭に対する支援(90分)	演習の記録と自己覚知(90分)
15	子育て支援とその実際(内容・方法・技術) 多様な支援ニーズを抱える子育て家庭	多様な支援ニーズを抱える子育て家庭(90分)	事例研究(90分)
16	課題(レポート)に対する解説を行いフィードバックする	事例研究(90分)	事例研究(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・2年		
開講時期	1Q	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	子どもの保健 (科目ナンバリング：SOM122083)				
授業担当者(所属・職名)	中村 則子(社会福祉学科・特任准教授)		研究室所在	1号館4階	
単位数	2	(単位認定責任者：中村 則子)	CAP制		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	看護実践、看護教育の実務経験あり。人の生命誕生から成長過程を学び、社会の構成員としての子どもを健全に育む意義・保育の役割を説明する。		

概要

履修目標
子どもの心身の健康増進を図る保健活動の意義を理解し、子どもの身体発育や生理機能及び運動機能並びに精神機能の発達と保健について学ぶ。また、子どもに多い疾病とその予防法及び適切な対応について理解を深める。

授業の位置づけ
社会福祉学科のDP「1(1)と(2)と(4)と(7)」、「2(1)と(2)と(4)」に対応する。

到達目標
子どもの健康と保健の意義を理解し、子どもの発育・発達及び子どもの疾病と保育について説明できる。

授業全体の内容と概要
子どもの保健の意義、子どもの健康と心身機能、発育・発達と保健及び子どもに多い疾病と予防について学習する。

授業の方法
講義形式。板書やテキストを活用し、子どもを取り巻く社会問題や背景と関連付けて解説を行う。また、まとめや確認のために小試験やレポート(2回)を課題とし、検索後返却し、解答・解説を行いフィードバックする。

アクティブラーニングの実施方法						
	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク	PBL
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習	反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業	○ その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項
なし

資格指定科目
保育士養成課程

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数は10回以上					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
60%	10%	0%	20%	10%	0%

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
子どもの保健の意義	子どもの特徴や健康と生命の安全、心身の健やかな育ちを関連させ非常によく理解できた。	子どもの特徴や健康と生命の安全、心身の健やかな育ちを関連させ概ね理解できた。	子どもの特徴や健康、生命の安全や心身の健やかな育ちについて部分的に理解できた。	子どもの特徴や健康、生命の安全、心身の健やかな育ちについて助言により理解できた。	助言しても理解できなかった。
子どもの発育・発達	子どもの発育・発達の原則を列挙し、心身機能、生理・運動機能、社会性の発達過程を詳しく説明できた。	子どもの発育・発達の原則を列挙し、心身機能、生理・運動機能、社会性の発達過程を概ね説明できた。	子どもの発育・発達の原則を列挙し、心身機能、生理・運動機能、社会性について部分的に説明できた。	子どもの発育・発達の原則を列挙し、心身機能、生理・運動機能、社会性について助言により説明できた。	助言しても説明できなかった。
子どもに多い疾病	子どもの健康状態の把握方法を学び、子どもに多い病気を列挙。その病気の特徴や症状・対応について詳しく説明できた。	子どもの健康状態の把握方法を学び、子どもに多い病気を列挙。その病気の特徴や症状・対応について概ね説明できた。	子どもの健康状態の把握方法を学び、子どもに多い病気を列挙。その病気の特徴や症状・対応について部分的に説明できた。	子どもの健康、子どもに多い病気について助言により説明できた。	助言しても説明できなかった。

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『子どもの保健』	編集：遠藤郁夫、三宅捷太	学建書院	2019	978-4762408892	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『子どもの健康と安全』	編集：大西文子	中山書店	2019	978-4521747774	
2						
3						
4						
5						

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・2年		
開講時期	1Q	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	子どもの保健 (科目ナンバリング: SOM122083)				
授業担当者(所属・職名)	中村 則子(社会福祉学科・特任准教授)	研究室所在	1号館4階		
単位数	2 (単位認定責任者: 中村 則子)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	看護実践、看護教育の実務経験あり。人の生命誕生から成長過程を学び、社会の構成員としての子どもを健全に育む意義・保育の役割を説明する。		

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	シラバスの説明、ガイダンス 子どもの健康と保健の意義(1) 保健活動の意義と目的	事前に教科書全体に目をとおしておく(90分)	当日の授業で行ったことをまとめておく(90分)
2	子どもの健康と保健の意義(2) 健康の概念と健康指標	教科書の「子どもの健康の意義」について事前に読んでおくこと(90分)	当日の授業で行ったことをまとめておく(90分)
3	子どもの健康と保健の意義(3) 子どもの健康に関する現状と課題	教科書の「子どもの健康の意義」について事前に読んでおくこと(90分)	当日の授業で行ったことをまとめておく(90分)
4	子どもの健康と保健の意義(4) 地域における保健活動と児童虐待防止	教科書の「子どもの健康の意義」について事前に読んでおくこと(90分)	授業終了時に出す課題についてレポート作成すること(90分)
5	子どもの発育・発達と保健(1) ヒトの成り立ちと身体発育	教科書の「子どもの発育・発達」について事前に読んでおくこと(90分)	返却レポートを見直し子どもの健康の意義を再確認する(90分)
6	子どもの発育・発達と保健(2) 生理機能の発達と保健	教科書の「子どもの発育・発達」について事前に読んでおくこと(90分)	当日の授業で行ったことを復習しておくこと(90分)
7	子どもの発育・発達と保健(3) 子どもの運動機能の発達と保健	教科書の「子どもの発育・発達」について事前に読んでおくこと(90分)	小テストを行うので前半の授業の復習を欠かさぬこと(90分)
8	前半の総括と学習到達度の確認テスト	前半の授業・ノートを見直しテストに臨むこと(90分)	確認テスト問題を見直し自己採点しておく(90分)
9	子どもの精神機能の発達と保健	教科書の「子どもの精神機能の発達」について事前に読んでおくこと(90分)	当日の授業で行ったことを復習しておくこと(90分)
10	子どもの健康状態の把握(1) 健康観察と健康状態把握	教科書の「子どもの健康状態の把握」について事前に読んでおくこと(90分)	当日の授業で行ったことを復習しておくこと(90分)
11	子どもの健康状態の把握(2) 発育・発達の把握と保護者	教科書の「子どもの健康状態の把握」について事前に読んでおくこと(90分)	当日の授業で行ったことを復習しておくこと(90分)
12	子どもの疾病と保育(1) 子どもの疾病の特徴	教科書の「子どもの疾病と保育」について事前に読んでおくこと(90分)	当日の授業で行ったことを復習しておくこと(90分)
13	子どもの疾病と保育(2) 子どもの発達と疾病	教科書の「子どもの疾病と保育」について事前に読んでおくこと(90分)	授業終了時に出す課題について復習すること(90分)
14	子どもの疾病と保育(3) 子どもの疾病の予防と適切な対応	教科書の「子どもの疾病の予防と対応」について事前に読んでおくこと(90分)	授業終了時に出す課題についてレポート作成すること(90分)
15	総括と後期に向けて	これまで授業で行ったことを振り返り準備しておくこと(90分)	返却レポート結果を見直し子どもの健康の課題に今後も取り組んでいくこと(90分)
16	定期試験60分の終了後残りの時間で解説します。	定期試験の準備をすること(90分)	試験の振り返りを行うこと(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・2年		
開講時期	4Q	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	保育の計画と評価 (科目ナンバリング: CHS123085)				
授業担当者(所属・職名)	吉江 幸子(社会福祉学科・准教授)	研究室所在	1号館2階		
単位数	2 (単位認定責任者: 吉江 幸子)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	保育現場における計画立案の経験を活かし、保育所における計画作成と保育内容の関連を講義する。		

概要

履修目標 この科目は、以下の3つを授業の目的とする。 1. 保育内容の充実と質の向上に資する保育の計画と評価について理解する。 2. 保育の全体計画の編成と指導計画の作成について具体的に理解する。 3. 計画、実践、省察・評価、改善の過程についてその全体構造を動的にとらえ、理解する。																								
授業の位置づけ 社会福祉学科のDP「1(1)と(4)」、「2(2)」に対応する。																								
到達目標 保育の計画と評価の基本、保育所における保育の計画、保育の計画の作成と展開、保育所における保育の評価について理解し、保育の内容を具体的に説明する。																								
授業全体の内容と概要 保育の計画と評価の基本、保育所における保育の計画、保育の計画の作成と展開、保育所における保育の評価など保育の内容について学修する。保育の計画と作成では、思考・考察、他者との意見交換、討論、発表等一連の活動を行う。																								
授業の方法 授業は、板書とパワーポイントを活用しながら講義形式で行う。授業の理解度を深めるためのグループ学習も取り入れ、質疑応答の時間を設定する。提出された課題・作品はコメントをつけてフィードバックする。																								
アクティブラーニングの実施方法 <table border="1"> <tr> <td></td> <td>プレゼンテーション</td> <td></td> <td>グループワーク</td> <td></td> <td>フィールドワーク</td> <td></td> <td>PBL</td> </tr> <tr> <td></td> <td>模擬授業</td> <td></td> <td>ロールプレイ</td> <td></td> <td>調査学習</td> <td></td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td></td> <td>ディスカッション</td> <td></td> <td>実験・実習・実技</td> <td></td> <td>双方向授業</td> <td></td> <td>その他(授業の方法参照)</td> </tr> </table>		プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL		模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業		ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)
	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL																	
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業																	
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)																	
履修上の注意事項 課題の内容・提出方法及び課題・平常点の評価は加点方式とし、授業時間に説明する。遅刻した場合、入室は可能だが欠席扱いとするので注意すること。																								
資格指定科目 保育士養成課程																								

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数は11回以上。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
40%	0%	30%	0%	30%	0%

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
保育計画の知識・技能(何を知っているか、何ができるか)	保育の計画について基礎的な知識を深く理解できた。	保育の計画について基礎的な知識をおおむね理解できた。	保育の計画について基礎的な知識を理解できた。	保育の計画について基礎的な知識を多少理解できた。	保育の計画について基礎的な知識を理解することができなかった。
計画を立案するための思考力・判断力・表現力等(知っていること、できることをどう使うか)	保育の内容を踏まえた計画作成について十分に考察できた。	保育の内容を踏まえた計画作成についておおむねに考察できた。	保育の内容を踏まえた計画作成について考察できた。	保育の内容を踏まえた計画作成について多少考察できた。	保育の内容を踏まえた計画作成について考察することができなかった。
主体的に取り組む態度(どのように関わるか)	保育の計画作成と評価について理解したことをわかりやすく説明できた。	保育の計画作成と評価について理解したことをおおむね説明できた。	保育の計画作成と評価について理解したことを説明できた。	保育の計画作成と評価について理解したことを多少説明できた。	保育の計画作成と評価について理解したことを説明することができなかった。

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『フォトラングージで学ぶ子どもの育ちと実習日誌・指導計画第2版』	神永直美	萌文書林	2018	9784893472397	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『保育所保育指針<平成29年告示>』	厚生労働省	フレーベル館	2017	9784577814239	
2						
3						
4						
5						

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・2年		
開講時期	4Q	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	保育の計画と評価 (科目ナンバリング: CHS123085)				
授業担当者(所属・職名)	吉江 幸子(社会福祉学科・准教授)	研究室所在	1号館2階		
単位数	2 (単位認定責任者: 吉江 幸子)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	保育現場における計画立案の経験を活かし、保育所における計画作成と保育内容の関連を講義する。		

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	シラバスの説明	指定した教科書を事前に読むこと(90分)。	1回目の授業で理解した点を整理する(90分)。
2	保育の計画と評価の基本(1)カリキュラムの基礎理論	教科書の専門用語の意味を理解しておく(90分)。	2回目の授業で理解した点を整理する(90分)。
3	保育の計画と評価の基本(2)保育所における保育の計画と評価の意義	教科書の専門用語の意味を理解しておく(90分)。	3回目の授業で理解した点を整理する(90分)。
4	保育の計画と評価の基本(3)保育所以外の児童福祉施設における計画と評価の意義	教科書の専門用語の意味を理解しておく(90分)。	4回目の授業で理解した点を整理する(90分)。
5	保育の計画と評価の基本(4)計画、実践、省察・評価、改善の過程の循環による保育の質の向上	保育計画の意味を理解しておく(90分)。	5回目の授業で理解した点を整理する(90分)。
6	保育所における保育の計画(1)保育所保育指針と幼稚園教育要領	保育計画と指針、要領との関連を理解しておく(90分)。	授業終了時に示す1回目の課題を作成する(90分)。
7	保育所における保育の計画(2)保育の全体的な計画と指導計画	教科書の専門用語の意味を理解しておく(90分)。	7回目の授業で理解した点を整理する(90分)。
8	保育所における保育の計画(3)全体的な計画の編成	発達心理等発達過程を理解しておく(90分)。	授業終了時に示す2回目の課題を作成する(90分)。
9	保育所における保育の計画(4)指導計画(長期的・短期的)の作成と作成上の留意事項	教科書の専門用語の意味を理解しておく(90分)。	9回目の授業で理解した点を整理する(90分)。
10	育の計画の作成と展開(1)保育の全体的な計画の編成と展開	計画作成の方法をよく読んでおく(90分)。	授業終了時に示す3回目の課題を作成する(90分)。
11	保育の計画の作成と展開(2)指導計画の実際の作成と展開	対象年齢と計画の運動性を理解しておく(90分)。	11回目の授業で理解した点を整理する(90分)。
12	保育所における保育の評価(1)保育の省察及び記録	教科書の専門用語の意味を理解しておく(90分)。	12回目の授業で理解した点を整理する(90分)。
13	保育所における保育の評価(2)保育士及び保育所の自己評価	教科書の評価頁を事前に読んでおく(90分)。	13回目の授業で理解した点を整理する(90分)。
14	保育所における保育の評価(3)保育の計画の再編成	教科書の専門用語の意味を理解しておく(90分)。	授業終了時に示す4回目の課題を作成する(90分)。
15	保育所における保育の評価(4)生活と発達の連続性を踏まえた保育所児童保育要録	保育の計画で学んだ事を整理しておく(90分)	授業の目的の達成度を自己評価する(90分)。
16	定期試験60分。試験終了後に解説を行う提出された課題の総合評価をフィードバック	15回の講義内容を振り返り復習する(90分)	試験、課題の解説に基づき復習し整理する(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・2年		
開講時期	2Q	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	保育内容演習（健）（科目ナンバリング：CHS122087）				
授業担当者（所属・職名）	中村 則子（社会福祉学科・特任准教授）	研究室所在	1号館4階		
単位数	1（単位認定責任者：中村 則子）	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	看護実践、看護教育の実務経験あり。子どもの観察を行い、健やかな子どもについて理解を深め、健康を考えた生活習慣と活動（遊び）について演習する。		

概要

履修目標	看護と教育にかかわる保育内容が、それぞれに関連性を持つことを理解し、総合的に保育を展開していくための知識、技術、判断力を養う。また、子どもの発達を保育内容の領域を通して捉え、子ども理解を深めながら「健康」について具体的に学ぶ。
------	---

授業の位置づけ	社会福祉学科のDP「1（1）と（3）と（7）」、「2（1）と（2）と（4）」に対応する。
---------	--

到達目標	健康な子どもを捉える視点を学び子どもの観察を行い、健康を考えた生活・生活習慣について説明できる。領域「健康」のねらいにつながる具体的な活動（健康につながる遊び）を提案できる。
------	---

授業全体の内容と概要	保育内容の各領域を関連させて学ぶことにより、子どもの発達促進、健康生活・活動、安全な生活のための支援方法など健康について具体的に学ぶ。また、子どもの健康と健康を守る力を育むことの必要性を総合的に検討し理解を深める。
------------	---

授業の方法	講義と実習形式。参考図書や配布資料を活用。実施前に基本学習事項、事前課題への取り組み方を提示する。テーマについて説明後、グループワークや課題解決学習の発表・実施、その後レポート提出（2回）を行う。その都度、コメントを返す。
-------	---

アクティブラーニングの実施方法						
	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク	PBL
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習	反転授業
	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業	○ その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項	なし
----------	----

資格指定科目	保育士養成課程
--------	---------

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数は6回以上					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	40%	40%	0%	10%	10%

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
健康な子どもを捉える視点	子どもの健康把握の視点を学び、生活の中の子どもを観察。その観察結果を非常によくまとめた発表ができた。	子どもの健康把握の視点を学び、生活の中の子どもを観察。その観察結果を概ねまとめた発表ができた。	子どもの健康把握の視点が子どもの観察を行い部分的にまとめることができた。	子どもの健康把握の視点で子どもの観察を行い助言によりまとめることができた。	助言してもまとめることができなかった。
子どもの健康を考えた生活・生活習慣	子どもの健康的な生活と生活習慣獲得過程を項目別に整理し詳しく説明することができた。	子どもの健康的な生活と生活習慣獲得過程を項目別に整理し概ね説明することができた。	子どもの健康的な生活と生活習慣について部分的に整理し説明することができた。	子どもの健康的な生活と生活習慣について、部分的に説明することができた。	助言しても説明できなかった。
領域「健康」のねらいにつながる具体的な活動	領域「健康」のねらいにつながる具体的な活動を話し、非常に良い提案・発表ができた。	領域「健康」のねらいにつながる具体的な活動を話し、提案・発表ができた。	領域「健康」のねらいにつながる具体的な活動を話し、一部を提案・発表できた。	領域「健康」のねらいにつながる具体的な活動を助言により提案できた。	助言しても提案できなかった。

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『指定はしないが授業の中で随時案内する。』					
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『保育内容「健康」、「子どもの保健」など。』					
2						
3						
4						
5						

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・2年		
開講時期	2Q	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	保育内容演習（健）（科目ナンバリング：CHS122087）				
授業担当者（所属・職名）	中村 則子（社会福祉学科・特任准教授）	研究室所在	1号館4階		
単位数	1（単位認定責任者：中村 則子）	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	看護実践、看護教育の実務経験あり。子どもの観察を行い、健やかな子どもについて理解を深め、健康を考えた生活習慣と活動（遊び）について演習する。		

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	ガイダンス、シラバス説明 健康の概念と健やかな子ども、子どもの成長・発達・特徴	履修を終えている「保育内容」の概要を理解しておく（90分）	授業で行った課題について調べておく（90分）
2	健康の概念と健やかな子ども 子どもの成長・発達・特徴（子どもの観察）	調べた課題の討議・発表の準備をしておく（90分）	授業で出された課題について要領に沿って調べ、レポート作成する（90分）
3	子どもの健康生活と習慣（生理的欲求と習慣）	討議・発表準備のため十分に予習して授業に臨む（90分）	返されたコメントや他の評価を参考に自己課題を見直し追加修正しておく（90分）
4	子どもの健康生活と習慣（基本的生活習慣の形成）	指定した参考図書と配布資料を読んでおく（90分）	当日の授業で行った課題について調べ、ノートにまとめておく（90分）
5	健康的な活動と環境構成（健康的な遊びの計画）	指定した参考図書・配布資料を読んでおく（90分）	授業で出された課題について要領に沿って調べ、レポート作成する（90分）
6	健康的な活動と環境構成（健康的な遊びの指導）	発表・実施準備のため十分に予習して授業に臨む（90分）	返されたコメントや他の評価を参考に自己課題を見直し整理しておく（90分）
7	事故防止と安全指導	指定した参考図書・配布資料を読んでおく（90分）	授業で行った課題について調べておく（90分）
8	提出レポート・課題について解説、フィードバックし総括します。	これまで授業で行ったことを振り返り、準備しておく（90分）	子どもの健康問題や保育課題に今後も取り組んでいく（90分）
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
16			

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・2年		
開講時期	4Q	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	保育内容演習（人間（科目ナンバリング：CHS122088））				
授業担当者（所属・職名）	松下 守邦（社会福祉学科・教授）	研究室所在	1号館2階		
単位数	1（単位認定責任者：松下 守邦）	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

概要

<p>履修目標</p> <p>授業の目的は、保育実践の内容理解です。具体的内容は、保育者の専門性として、養護と教育にかかわる保育の内容を展開するための知識、技術、判断力を修得すること、保育の内容5領域、「健康」「人間関係」「環境」「言葉」「表現」を総合的にとらえ、人は社会と関わり生活していくための「人間関係」の重要性について、子どもの理解を深めることである。</p>

<p>授業の位置づけ</p> <p>社会福祉学科のDP「1(4)と(5)と(6)」、「2(2)」に対応する。</p>

<p>到達目標</p> <p>領域「人間関係」について、子どもの適切な理解を深めながら保育内容を実践することができる。テキスト課題「考えてみよう」を具体的に識別して列挙することができる。</p>
--

<p>授業全体の内容と概要</p> <p>授業の概要は、幼児教育の基本・乳幼児期の発達、子どもと保育者、遊びと人間関係・家庭生活と子ども、幼児教育と課題となる。授業内容の取扱いには、保育の実践に必要な知識、理論、保育現場でおこり得る事例、事例を考える際の問題点、事例の対応方法、の4観点から構成される。</p>
--

<p>授業の方法</p> <p>テキストのワークシート「事例 考えてみよう」（66例）を利用し、ケース学習をすすめる。「保育の現場で実際に起こり得る事例」について、ケース学習（下記、アクティブ・ラーニングの実施方法、その他）、グループワークをおこない、授業展開する。授業では視聴覚教材を利用する。課題レポートのコメントはフィードバックされる機会がある。</p>

アクティブラーニングの実施方法						
	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク	PBL
	模範授業		ロールプレイ		調査学習	反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業	○ その他（授業の方法参照）

<p>履修上の注意事項</p> <p>「保育内容演習（人間関係）」は、保育の内容（5領域）から「人間関係」を抽出する科目である。保育の内容を統合して理解する視点が必要となる。第8回授業では、「レポート」作成について説明を受ける。配布資料はファイリングし、授業内容、資料の欠落することのないように留意する。授業は学生のみならず担当教員による協同学習となるので、主体的に参加、授業に貢献がもたらされる。大学から交付される学生メールアドレスを使い、マイクロソフト社Teams科目チャネル、Formsを学習利用する。パソコンスキル（レポート作成、準備学習の確認、教員への授業外連絡など、情報通信機器利用マナー）を高めていく。</p>

<p>資格指定科目</p> <p>保育士養成課程</p>

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定のための出席要件は、授業第1回から第8回までに計6回以上の出席が必要になる。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	50%	40%	0%	0%	10%

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
保育の内容の統合的視点をふまえながら、領域「人間関係」について、知識・技能を修得する。（知識・技能）	領域（人間関係）について、深く理解ができた。	領域（人間関係）について、おおむね理解ができた。	領域（人間関係）について、基本的な知識の理解ができた。	領域（人間関係）について、基本的な知識の理解ができた。	領域（人間関係）について、基本的な知識を著しく欠けており、理解することが難しかった。
保育内容の統合的視点をふまえながら、領域「人間関係」について、展開することができる。（思考力・判断力・表現力）	領域（人間関係）について、十分に思考をして、表現することができた。	領域（人間関係）について、おおむね思考して、表現することができた。	領域（人間関係）について、基本的な思考をして、表現することができた。	領域（人間関係）について、改善の余地はあるが、思考をして、表現することができた。	領域（人間関係）について、思考をして、表現することが難しかった。
保育者として、保育内容の理解に関心と意欲を持ち、積極的に参加することができる。（関心・意欲・態度）	領域（人間関係）について、保育者の役割と責任を自覚し、積極的に行動することができた。	領域（人間関係）について、保育者の役割をおおむね理解して、自ら行動することができた。	領域（人間関係）について、保育者の役割について、基本的な行動をすることができた。	領域（人間関係）について、改善の余地はあるが、自分の役割を考えながら、行動することができた。	領域（人間関係）について、自分の役割を理解して、行動することが難しかった。

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『事例と図解で学ぶ保育実践 子どもの心の育ちと人間関係 第2版』	寺見陽子	教育情報出版	2016	9784938795771	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『子育ての知恵：幼児のための心理学』	高橋恵子	岩波書店	2019	9784004317609	
2	『保育を支えるネットワーク：支援と連携 保育学講座5』	日本保育学会	東京大学出版会	2016	9784130522052	
3	『保育所保育指針解説 平成30年』	厚生労働省	フレーベル館	2018	9784577814482	
4	『札幌市・帯広市・江別市 公立保育士 採用試験対策シリーズ』	協同教育研究会	協同出版	2020	9784319334483	
5						

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・2年		
開講時期	4Q	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	保育内容演習（人間（科目ナンバリング：CHS122088））				
授業担当者（所属・職名）	松下 守邦（社会福祉学科・教授）	研究室所在	1号館2階		
単位数	1（単位認定責任者：松下 守邦）	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明 幼児教育の基本・乳幼児期の発達（心理学的接近と教育的接近）	シラバスを熟読する。（45分）	今回の学習内容を復習する。（45分）
2	幼児教育の基本・乳幼児期の発達（視聴覚教材の視聴）	テキスト、章と演習課題を熟読する。（45分）	今回の学習テキスト、視聴覚教材を復習する。（45分）
3	子どもと保育者（社会学的接近）	テキスト学習範囲を熟読する。（45分）	今回の学習テキスト、視聴覚教材を復習する。（45分）
4	子どもと保育者（保育学的接近）	テキスト学習範囲を熟読する。（45分）	今回の学習テキスト、視聴覚教材を復習する。（45分）
5	遊びと人間関係・家庭生活と子ども（社会学的接近と社会心理学的接近）	テキスト、章と演習課題を熟読する。（45分）	今回の学習テキスト、視聴覚教材を復習する。（45分）
6	遊びと人間関係・家庭生活と子ども（視聴覚教材の視聴）	テキスト学習範囲を熟読する。（45分）	今回の学習テキスト、視聴覚教材を復習する。（45分）
7	幼児教育と課題 まとめ（エピソード記述法）	テキスト学習範囲を熟読する。（45分）	今回の学習テキスト、視聴覚教材を復習する。（45分）
8	幼児教育と課題 まとめ（保育学）	これまでのテキスト、資料、視覚教材の学習内容を整理する。（45分）	全授業を振り返り、学習内容の内省的レポートを期日までに提出する。（45分）
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
16			

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・2年		
開講時期	2Q	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	保育内容演習（環）（科目ナンバリング：CHS122089）				
授業担当者（所属・職名）	佐藤 慶知（社会福祉学科・非常勤講師）	研究室所在	1号館1階非常勤講師控室		
単位数	1（単位認定責任者：佐藤 慶知）	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	保育現場における実践経験を活かし、保育内容の各領域の関連を講義する。		

概要

履修目標	この科目は、以下の2つを授業の目的とする。 1. 看護と教育にかかわる保育の内容が、それぞれに関連性を持ち、総合的に保育を展開していくための知識、技術、判断力を習得する。 2. 子どもの発達を「環境」の領域の観点から捉え、子ども理解を深めながら保育内容について具体的に学ぶ。																								
授業の位置づけ	社会福祉学科のDP「1（1）と（3）」、「2（2）」に対応する。																								
到達目標	1. 保育を展開していくための方法や技術、援助、関わりについて具体的に理解する。 2. 保育所保育指針に示す乳児保育の3つの視点や保育における領域「環境」について理解する。																								
授業全体の内容と概要	保育における子どもの生活や遊びを総合的に捉え、保育を展開していくための方法や技術、援助の関わりについて具体的に学修する。保育所保育指針に示す乳児保育の3つの視点や保育における領域「環境」について学修する。																								
授業の方法	授業は、板書とグループ学習を取り入れ、質疑応答の時間を設定する。課題やレポートには必ずコメントを記入し、フィードバックする。																								
アクティブラーニングの実施方法	<table border="1"> <tr> <td></td> <td>プレゼンテーション</td> <td></td> <td>グループワーク</td> <td></td> <td>フィールドワーク</td> <td></td> <td>PBL</td> </tr> <tr> <td></td> <td>模擬授業</td> <td></td> <td>ロールプレイ</td> <td></td> <td>調査学習</td> <td></td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td></td> <td>ディスカッション</td> <td></td> <td>実験・実習・実技</td> <td></td> <td>双方向授業</td> <td></td> <td>その他（授業の方法参照）</td> </tr> </table>		プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL		模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業		ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）
	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL																		
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業																		
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）																		
履修上の注意事項	課題の内容及と提出方法及び課題・平常点の評価方法は、授業時間に説明する。																								
資格指定科目	保育士養成課程																								

評価方法・基準

評価前提条件	単位認定に必要な最低出席回数は6回以上。					
評価方法	定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
	0%	30%	20%	0%	50%	0%

ルーブリック	評価基準					
評価項目	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない	
領域「環境」に対する知識・技能（何を知っているか、何ができるか）	領域「環境」について基礎的な知識を深く理解できた。	領域「環境」について基礎的な知識をおおむね理解できた。	領域「環境」について基礎的な知識を理解できた。	領域「環境」について基礎的な知識を多少理解できた。	領域「環境」について基礎的な知識を深理解することができなかった。	
思考力・判断力・表現力等（知っていること、できることをどう使うか）	保育の基本を踏まえた保育内容「環境」の展開について十分に考察できた。	保育の基本を踏まえた保育内容「環境」の展開についておおむね考察できた。	保育の基本を踏まえた保育内容「環境」の展開について考察できた。	保育の基本を踏まえた保育内容「環境」の展開について多少考察できた。	保育の基本を踏まえた保育内容「環境」の展開について考察することができなかった。	
主体的に取り組む態度（どのように関わるか）	環境を通じた保育について理解したことをわかりやすく説明できた。	環境を通じた保育について理解したことをおおむね説明できた。	環境を通じた保育について理解したことを説明できた。	環境を通じた保育について理解したことを多少説明できた。	環境を通じた保育について理解したことを説明することができなかった。	

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『保育所保育指針<平成29年告示>』	厚生労働省	フレール館	2017	9784577814239	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・2年		
開講時期	2Q	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	保育内容演習（環（科目ナンバリング：CHS122089））				
授業担当者（所属・職名）	佐藤 慶知（社会福祉学科・非常勤講師）		研究室所在	1号館1階非常勤講師控室	
単位数	1（単位認定責任者：佐藤 慶知）		CAP制		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容 保育現場における実践経験を活かし、保育内容の各領域の関連を講義する。			

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明 保育指針における養護と教育のねらいと内容の理解 五領域の各領域と「環境」の関連について	保育指針の第一章を事前に読むこと（90分）。	1回目の授業で理解した点を整理する（90分）。
2	保育指針における環境の領域のねらいと内容、保育者の関わりについて	保育指針の「環境」の領域を事前に読むこと（90分）。	2回目の授業で理解した点を整理する（90分）。
3	環境教育の重要性と留意点、環境設定する際のポイント	自信が考える環境の重要性についてメモにまとめておくこと（90分）	3回目の授業で理解した点を整理する（90分）。 回目の課題を作成する（90分）。
4	環境教育における保育者の役割と重要性について	保育指針における第二章 乳児保育を事前読むこと（90分）。	4回目の授業で理解した点を整理する（90分）。
5	乳児保育における環境の重要性、安全衛生管理について	保育指針における乳児保育及び衛生安全管理を事前読むこと（90分）	5回目の授業で理解した点を整理する（90分）。
6	理想の保育環境を考える 物的環境	保育における物的環境について事前学習しておくこと（90分）。	6回目の授業で理解した点を整理する（90分）。
7	理想の保育環境を考える 人的環境	保育における人的環境について事前に学習しておくこと（90分）。	7回目の授業で理解した点を整理する（90分）。
8	まとめ 環境を通した保育とは レポートの作成	これまでの授業内容を確認しておく（90分）。	授業の目的の達成度を自己評価する（90分）。
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
16			

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・3年		
開講時期	2Q	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	保育内容演習（言（科目ナンバリング：CHS122090））				
授業担当者（所属・職名）	吉江 幸子（社会福祉学科・准教授）	研究室所在	1号館2階		
単位数	1（単位認定責任者：吉江 幸子）	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	保育現場における実践経験を活かし、領域「言葉」と保育内容の関連を指導する。		

概要

履修目標																								
この科目は、以下の2つを授業の目的とする。 1. 看護と教育にかかわる保育の内容が、それぞれに関連性を持ち、総合的に保育を展開していくための知識技術、判断力を習得する。 2. 子どもの発達を「言葉」の領域から捉え、子ども理解を深めながら保育内容について具体的に学ぶ。																								
授業の位置づけ																								
社会福祉学科のDP「1(1)と(3)と(4)と(5)」、「2(2)」に対応する。																								
到達目標																								
「言葉」の領域を学ぶことにより、子ども理解を深めながら保育内容を理解し、具体的に述べる。																								
授業全体の内容と概要																								
保育における領域「言葉」を学修する。																								
授業の方法																								
授業は、板書とパワーポイント、グループ学習を取り入れ、意見を出し合う場を多く設定する。最後に「言葉」「表現」に関するまとめとして発表を行い、お互いに評価しあう。なお、レポートや課題・作品提出の際にはコメントをつけてフィードバックする。																								
アクティブラーニングの実施方法																								
<table border="1"> <tr> <td></td> <td>プレゼンテーション</td> <td></td> <td>グループワーク</td> <td></td> <td>フィールドワーク</td> <td></td> <td>PBL</td> </tr> <tr> <td></td> <td>模擬授業</td> <td></td> <td>ロールプレイ</td> <td></td> <td>調査学習</td> <td></td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td></td> <td>ディスカッション</td> <td></td> <td>実験・実習・実技</td> <td></td> <td>双方向授業</td> <td></td> <td>その他（授業の方法参照）</td> </tr> </table>		プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL		模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業		ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）
	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL																	
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業																	
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）																	
履修上の注意事項																								
課題の内容及と提出方法及び課題・平常点の評価は加点方式とし、授業時間に説明する。																								
資格指定科目																								
保育士養成課程																								

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数は6回以上。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	20%	50%	0%	30%	0%

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
領域「言葉」に関する知識・技能（何を知っているか、何ができるか）	領域「言葉」の側面から具体的な援助技術を深く理解できた。	領域「言葉」の側面から具体的な援助技術をおおむね理解できた。	領域「言葉」の側面から具体的な援助技術を理解できた。	領域「言葉」の側面から具体的な援助技術をやや理解できた。	領域「言葉」の側面から具体的な援助技術を理解できなかった。
領域を意識した「言葉」に関する思考力・判断力・表現力等（知っていること、できることをどう使うか）	総合的な保育内容の展開について十分に考察できた。	総合的な保育内容の展開についておおむね考察できた。	総合的な保育内容の展開について考察できた。	総合的な保育内容の展開についてやや考察できた。	総合的な保育内容の展開について考察できなかった。
主体的に取り組む態度（どのように関わるか）	総合的な保育内容の展開について学修したことをわかりやすく説明できた。	総合的な保育内容の展開について学修したことをおおむね説明できた。	総合的な保育内容の展開について学修したことを説明できた。	総合的な保育内容の展開について学修したことをやや説明できた。	総合的な保育内容の展開について学修したことを説明することができなかった。

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『保育に役立つ言語表現教材第2版』	松本和美	株式会社みらい	2018	978480154615	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・3年		
開講時期	2Q	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	保育内容演習（言（科目ナンバリング：CHS122090））				
授業担当者（所属・職名）	吉江 幸子（社会福祉学科・准教授）	研究室所在	1号館2階		
単位数	1（単位認定責任者：吉江 幸子）	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	保育現場における実践経験を活かし、領域「言葉」と保育内容の関連を指導する。		

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明 子どもの言葉と育ち	指定した教科書を事前に読むこと（90分）。	1回目の授業で理解した点を整理する（90分）。
2	保育所保育指針における「言葉」の理解 乳幼児期の言葉の発達	指針「言葉」を事前学習しておく（90分）。	2回目の授業で理解した点を整理する（90分）。
3	子どものことばと保育者-どう捉え、どう関わるか-	環境保育について事前学習しておく（90分）。	3回目の授業で理解した点を整理する（90分）。
4	うたや触れ合いを楽しむ（わらべうた、うた遊び）	言葉について事前学習しておく（90分）。	4回目の授業で理解した点を整理する（90分）。
5	絵や劇、物語とことばの豊かな世界を楽しむ（児童文化財）	発達過程を理解しておく（90分）。	5回目の授業で理解した点を整理する（90分）。
6	絵や劇、物語とことばの豊かな世界を楽しむ（児童文化財）	発達過程について事前学習しておく（90分）。	授業終了時に示す課題を作成する（90分）。
7	絵や劇、物語とことばの豊かな世界を楽しむ（児童文化財）	ここまで学んだことを整理しておく（90分）。	7回目の授業で理解した点を整理する（90分）。
8	特別な配慮が必要な子どもの関わり 提出されたレポートの評価と解説をフィードバック	「言葉」の意義を事前学習しておく（90分）。	これまでの授業で理解した点を整理する（90分）。
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
16			

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・3年		
開講時期	4Q	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	保育内容演習（表（科目ナンバリング：CHS122091））				
授業担当者（所属・職名）	吉江 幸子（社会福祉学科・准教授）	研究室所在	1号館2階		
単位数	1（単位認定責任者：吉江 幸子）	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	保育現場における実践経験を活かし、領域「表現」と保育内容の関連を指導する。		

概要

履修目標
この科目は、以下の2つを授業の目的とする。 1. 看護と教育にかかわる保育の内容が、それぞれに関連性を持ち、総合的に保育を展開していくための知識技術、判断力を習得する。 2. 子どもの発達を「表現」の領域から捉え、子ども理解を深めながら保育内容について具体的に学ぶ。

授業の位置づけ
社会福祉学科のDP「1(1)と(3)と(5)と(6)」、「2(2)」に対応する。

到達目標
「表現」の領域を学ぶことにより、子ども理解を深めながら保育内容を理解し、具体的に述べる。
主体的に取り組む態度（どのように関わるか）

授業全体の内容と概要
保育における領域「表現」を学修する。

授業の方法
授業は、板書とパワーポイント、グループ学習を取り入れ、意見を出し合う場を多く設定する。最後に「表現」に関するまとめとして発表を行い、お互いに評価しあう。なお、レポートや課題・作品提出の際にはコメントをつけてフィードバックする。

アクティブラーニングの実施方法						
	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク	PBL
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習	反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業	その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項
課題の内容及と提出方法及び課題・平常点の評価は加点方式とし、授業時間に説明する。

資格指定科目
保育士養成課程

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数は6回以上。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	20%	50%	0%	30%	0%

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を越えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
領域「表現」に関する知識・技能（何を知っているか、何ができるか）	領域「表現」の側面から具体的な援助技術を深く理解できた。	領域「表現」の側面から具体的な援助技術をおおむね理解できた。	領域「表現」の側面から具体的な援助技術を理解できた。	領域「表現」の側面から具体的な援助技術をやや理解できた。	領域「表現」の側面から具体的な援助技術を理解できなかった。
思考力判断力表現力等（知っていること、できることをどう使うか）	総合的な保育内容の展開について十分に考察できた。	総合的な保育内容の展開についておおむね考察できた。	総合的な保育内容の展開について考察できた。	総合的な保育内容の展開についてやや考察できた。	総合的な保育内容の展開について考察することができなかった。
主体的に取り組む態度（どのように関わるか）	総合的な保育内容の展開について学修したことをわかりやすく説明できた。	総合的な保育内容の展開について学修したことをおおむね説明できた。	総合的な保育内容の展開について学修したことを説明できた。	総合的な保育内容の展開について学修したことをやや説明できた。	総合的な保育内容の展開について学修したことを説明することができなかった。

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『保育に役立つ言語表現教材第2版』	松本和美	株式会社みらい	2018	9784860154615	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・3年		
開講時期	4Q	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	保育内容演習（表（科目ナンバリング：CHS122091））				
授業担当者（所属・職名）	吉江 幸子（社会福祉学科・准教授）	研究室所在	1号館2階		
単位数	1（単位認定責任者：吉江 幸子）	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	保育現場における実践経験を活かし、領域「表現」と保育内容の関連を指導する。		

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明 乳幼児の表現の発達	指定した教科書を事前に読むこと（90分）。	1回目の授業で理解した点を整理する（90分）。
2	保育における領域「表現」	指針「表現」を事前学習しておく（90分）。	2回目の授業で理解した点を整理する（90分）。
3	子どもの表現が生まれる源泉	環境保育について事前学習しておく（90分）。	3回目の授業で理解した点を整理する（90分）。
4	表現の基礎としてのところとからだ	表現の基礎について事前学習しておく（90分）。	4回目の授業で理解した点を整理する（90分）。
5	遊びにおける子どもの多様な表現	発達過程を理解しておく（90分）。	5回目の授業で理解した点を整理する（90分）。
6	表現された子どもの世界	保育の阻害環境について事前学習しておく（90分）。	授業終了時に示す課題を作成する（90分）。
7	子どもの表現と保育者の援助	ここまで学んだことを整理しておく（90分）。	7回目の授業で理解した点を整理する（90分）。
8	子どもの表現が育つ環境 提出されたレポートの評価と解説をフィードバック	「表現」の意義を事前学習しておく（90分）。	8回目の授業で理解した点を整理する（90分）。
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
16			

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・2年		
開講時期	1Q	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	経済学概論(S) (科目ナンバリング: ECT122148, ECT422031, ECT522035)				
授業担当者(所属・職名)	河野 善文(経営学科・教授)	研究室所在	1号館2階		
単位数	2 (単位認定責任者: 河野 善文)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

概要

履修目標
講義をつうじて受講者は、経済のニュースや記事を理解するために必要な基礎的知識を身につける。また、経済学の基本的な考え方を学ぶことで、経済事象について考察する基礎力を身につける。

授業の位置づけ
社会福祉学科のDP「1(4)」、「2(2)」に対応する。

到達目標
経済のニュースや記事の概要を理解できる。また、経済事象の簡単な分析・解釈ができる。

授業全体の内容と概要
経済学をはじめて学ぶことを前提として、経済学の基礎知識とその考え方を説明する。実際の経済ニュースを紹介しながら、国内所得や成長率などの経済学の知識・考え方について演習問題もまじえて学ぶ。

授業の方法
各回の計画にそって、板書やスライドによる講義と演習問題とを組み合わせた授業をおこなう。また、授業中に随時、受講生の理解の確認や受講生自身に考えさせることを目的とした問いかけ(質問・対話)と演習問題をおこなう。

アクティブラーニングの実施方法						
	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク	PBL
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習	反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項
演習への取り組みを評価するため、履修人数によっては座席を指定する場合がある。また、質問や演習問題の回答・解答を書くために必ずノートが必要である。平常点はこの演習課題への取り組みを評価する。このため、欠席・遅刻することなく授業に参加して演習に取り組むことが重要である。

資格指定科目
教職課程(社会・公民)必修科目

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数は10回以上					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
80%	0%	0%	0%	20%	0%

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
経済用語の理解	授業で取り上げた経済用語について、事例をあげて的確に説明できた。	授業で取り上げた経済用語について、事例をあげて説明できた。	授業で取り上げた経済用語について、事例をあげてある程度説明できた。	授業で取り上げた経済用語について、ある程度説明できた。	授業で取り上げた経済用語を説明できなかった。
経済学の考え方の理解	経済学の考え方をを用いて身近な経済事象を説明できた。	経済学の考え方をを用いて身近な経済事象をある程度説明できた。	経済学の考え方を図や式を用いて説明できた。	経済学の考え方をある程度説明できた。	経済学の考え方を説明できなかった。
演習問題への取り組み	ほぼすべての演習問題に取り組み、適切な解答を書くことができた。	ほぼすべての演習問題に取り組み、そのいくつかで適切な解答を書くことができた。	ある程度の演習問題に取り組み、そのいくつかで適切な解答を書くことができた。	評価前提基準回数程度の演習問題に取り組めた。	演習問題に取り組みなかった。

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『マンキュー入門経済学(第3版)』	N・グレゴリー・マンキュー	東洋経済新報社	2019	4492315217	
2						
3						
4						
5						

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・2年		
開講時期	1Q	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	経済学概論(S) (科目ナンバリング: ECT122148, ECT422031, ECT522035)				
授業担当者(所属・職名)	河野 善文(経営学科・教授)	研究室所在	1号館2階		
単位数	2 (単位認定責任者: 河野 善文)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	経済学とは: この授業で学ぶこと・授業計画(シラバス)の説明	経済学とは何かを考える(90分)	経済学とは何かノートにまとめる(90分)
2	日本の景気について: 景気を知る方法・景気と大学生の生活	景気ウォッチャー調査とは何か調べる(90分)	景気を調べる方法についてノートにまとめる(90分)
3	国内総生産からみた世界経済: 国内総生産(GDP)とは・世界の国内総生産(GDP)による世界地域比較	国内総生産について調べる(90分)	地域比較で気付いたことをノートにまとめる(90分)
4	希少な資源と生産活動: 生産活動と資源・富裕国と最貧国との比較	生産要素について調べる(90分)	生産要素と生産活動についてノートにまとめる(90分)
5	経済成長とは: 経済成長率の計算	経済成長率について調べる(90分)	経済成長率の計算式と意味をノートにまとめる(90分)
6	経済成長と国民所得: 生産要素と経済成長・途上国の経済成長率の例	成長著しい国の成長率を調べる(90分)	生産要素と成長についてノートにまとめる(90分)
7	経済と幸福の問題: 幸福の要因	幸福の要因について考える(90分)	幸福と経済的豊かさのまとめ(90分)
8	所得と限界効用逓減: 限界効用逓減の法則	所得の伸びとゆたかさの実感のまとめ(90分)	所得の伸びと豊かさの実感についてノートにまとめる(90分)
9	実質値と名目値: 値上げのニュース・物価とインフレ, 実質値	実質値と名目値の違いを調べる(90分)	実質値と名目値の違いをノートにまとめる(90分)
10	市場経済と価格: 市場というしくみについて・供給の変動と市場価格への影響	市場のしくみについて調べる(90分)	供給の市場価格への影響をノートにまとめる(90分)
11	通貨と中央銀行: 通貨の機能・中央銀行と通貨	通貨・中央銀行の機能を調べる(90分)	中央銀行と通貨についてノートにまとめる(90分)
12	日銀の資金供給と金利: 金利とは・日銀と資金供給	金利について調べる(90分)	日銀の政策と金利についてノートにまとめる(90分)
13	通貨供給量と信用創造: 通貨供給量とは・信用創造とは	通貨供給量について調べる(90分)	信用創造と通貨供給量についてノートにまとめる(90分)
14	日銀と金融政策: 金融政策にかんするニュース・金融政策の影響	金融政策の現状を調べる(90分)	日銀の金融政策をノートにまとめる(90分)
15	経済政策とこれまでの授業のまとめ	ノート見直しと不明点の確認(90分)	ノートの整理(90分)
16	定期試験(60分)と試験の説明	各回の演習問題に再挑戦(90分)	わからなかった試験問題の復習(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・4年		
開講時期	2Q	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	日本経済史(S) (科目ナンバリング: ECH122134, ECH422037)				
授業担当者(所属・職名)	小林 大州介(経営学科・非常勤講師)	研究室所在	1号館1階非常勤講師室		
単位数	2 (単位認定責任者: 小林 大州介)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

概要

履修目標												
近世から現代にかけての日本経済の歴史的發展を多角的に学び、日本がどのように「資本主義」の国家として経済發展を遂げてきたのかを理解する。												
授業の位置づけ												
社会福祉学部のDP「1(2)」、「2(2)」に対応する。												
到達目標												
日本経済の歴史の全体像を把握し、何処に転換点があったのかを理解する。												
授業全体の内容と概要												
鎖国下の江戸時代という特殊な条件から、いかにして資本主義体制を形成していったのかを、歴史的事件や経済制度の観点から考察する。												
授業の方法												
PDFを利用した講義形式で行う。												
アクティブラーニングの実施方法												
<table border="1"> <tr> <td>プレゼンテーション</td> <td>グループワーク</td> <td>フィールドワーク</td> <td>PBL</td> </tr> <tr> <td>模範授業</td> <td>ロールプレイ</td> <td>調査学習</td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td>ディスカッション</td> <td>実験・実習・実技</td> <td>双方向授業</td> <td>その他(授業の方法参照)</td> </tr> </table>	プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL	模範授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業	ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)
プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL									
模範授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業									
ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)									
履修上の注意事項												
講義中は内容の把握に努め、重要な点はしっかりとノートに取る。												
資格指定科目												
教職課程(社会・地理歴史)選択科目												

評価方法・基準

評価前提条件					
最低出席回数は10回以上とする。 単位認定は、定期試験80%と平常点(小テストなど)20%の合計100%のうち、60%以上とする。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
80%	0%	0%	0%	20%	0%

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
近世から現代へ：封建社会から資本主義経済への移行	明治維新以前と以後の日本経済において、どのような制度上の変化が生じたのかを深く理解し、どのような条件が日本経済の発展に寄与したかを示すことが出来るようになった。	明治維新以前と以後の日本経済において、どのような制度上の変化が生じたのかを深く理解できた。	明治維新以前と以後の日本経済において、どのような制度上の変化が生じたのかを理解し、説明できるようになった。	明治維新以前と以後の日本経済において、どのような変化が生じたのかを説明できるようになった。	明治維新以前と以後の日本経済において、どのような変化が生じたのかについて、理解が見られなかった。
明治～昭和へ：日本経済における変化	明治期以降の日本の資本主義發展のプロセスを理解しており、何が經濟發展の要因になったのかを、具体的な事例と伴に説明することが出来るようになった。	明治期以降の日本の資本主義發展のプロセスを理解しており、具体的な歴史的事件を示すことが出来るようになった。	明治期以降の日本の資本主義發展のプロセスを理解出来るようになった。	明治期以降の日本の資本主義發展のプロセスを説明できるようになった。	明治期以降の日本の資本主義發展について、理解が見られなかった。
敗戦から經濟成長へ：經濟的成功と挫折	日本經濟が敗戦からどのように復興し、經濟發展を遂げたのかを深く理解し、今日日本が直面する諸問題も説明することが出来るようになった。	日本經濟が敗戦からどのように復興し、經濟發展を遂げたのかを理解し、今日日本が直面する諸問題も挙げることが出来るようになった。	日本經濟が敗戦からどのように復興し、經濟發展を遂げたのかを理解できるようになった。	戦後の日本經濟がたどった経緯を説明することが出来るようになった。	戦後の日本經濟がたどった経緯について、理解が見られなかった。

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・4年		
開講時期	2Q	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	日本経済史(S) (科目ナンバリング: ECH122134, ECH422037)				
授業担当者(所属・職名)	小林 大州介(経営学科・非常勤講師)	研究室所在	1号館1階非常勤講師室		
単位数	2 (単位認定責任者: 小林 大州介)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	初回オリエンテーション: シラバスの説明、日本の経済発展とその歴史的前提	日本経済史に関する所説を、新書やネットを使って調べておくこと(90分)	講義中にとったノートを基に、よく復習しておくこと(90分)
2	「近世経済」の成立と展開1 - 農村社会の発展	江戸時代の日本経済に関心を持ち、関連する問題を新書やネットを使って調べておくこと(90分)	講義中にとったノートを基に、よく復習しておくこと(90分)
3	「近世経済」の成立と展開2 - 武士階級及び都市経済の発展	江戸時代の日本経済に関心を持ち、関連する問題を新書やネットを使って調べておくこと(90分)	講義中にとったノートを基に、よく復習しておくこと(90分)
4	移行期の日本経済1 - 維新前夜の日本経済	江戸時代の日本経済に関心を持ち、関連する問題を新書やネットを使って調べておくこと(90分)	講義中にとったノートを基に、よく復習しておくこと(90分)
5	移行期の日本経済2 - 維新政府の諸改革	幕末から明治維新にかけての日本経済に関心を持ち、関連する問題を新書やネットを使って調べておくこと(90分)	講義中にとったノートを基に、よく復習しておくこと(90分)
6	移行期の日本経済3 - 資本主義の導入へ	幕末から明治維新にかけての日本経済に関心を持ち、関連する問題を新書やネットを使って調べておくこと(90分)	講義中にとったノートを基に、よく復習しておくこと(90分)
7	明治 - 大正時代の日本経済1 - 生産組織や技術導入による経済成長	明治 - 大正にかけての日本経済に関心を持ち、関連する問題を新書やネットを使って調べておくこと(90分)	講義中にとったノートを基に、よく復習しておくこと(90分)
8	明治 - 大正時代の日本経済2 - 資本と労働	明治 - 大正にかけての日本経済に関心を持ち、関連する問題を新書やネットを使って調べておくこと(90分)	講義中にとったノートを基に、よく復習しておくこと(90分)
9	明治 - 大正時代の日本経済3 - 戦間期の日本経済	明治 - 大正にかけての日本経済に関心を持ち、関連する問題を新書やネットを使って調べておくこと(90分)	講義中にとったノートを基に、よく復習しておくこと(90分)
10	明治 - 大正時代の日本経済4 - 変貌する都市と農村	明治 - 大正にかけての日本経済に関心を持ち、関連する問題を新書やネットを使って調べておくこと(90分)	講義中にとったノートを基に、よく復習しておくこと(90分)
11	昭和初期 - 第二次世界大戦期の日本経済	第2次世界大戦までの道のりを、新書やネットを使って調べておくこと(90分)	講義中にとったノートを基に、よく復習しておくこと(90分)
12	敗戦と経済復興1 - 統制・計画経済から市場経済へ	敗戦以降、日本はどのように高度経済成長を達成したのかに関して、新書やネットを使って調べておくこと(90分)	講義中にとったノートを基に、よく復習しておくこと(90分)
13	敗戦と経済復興2 - 高度経済成長と産業構造の変化	敗戦以降、日本はどのように高度経済成長を達成したのかに関して、新書やネットを使って調べておくこと(90分)	講義中にとったノートを基に、よく復習しておくこと(90分)
14	経済低迷とバブル経済	現代の日本経済の問題について、新書やネットを使い、良く調べておくこと(90分)	講義中にとったノートを基に、よく復習しておくこと(90分)
15	今日の日本経済の課題	現代の日本経済の問題について、新書やネットを使い、良く調べておくこと(90分)	講義中にとったノートを基に、よく復習しておくこと(90分)
16	定期試験(60分)と試験の解説	これまでの総復習を行うこと(90分)	講義の全体を良く振り返っておくこと(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	1		
開講時期	1 Q	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	西洋経済史 (S) (科目ナンバリング: ECH122135, ECH422036)				
授業担当者 (所属・職名)	松本 哲人 (経営学科・非常勤講師)	研究室所在	1号館1階非常勤講師室		
単位数	2 (単位認定責任者: 松本 哲人)	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

概要

<p>履修目標</p> <p>現代の世界経済はヨーロッパ経済が世界に拡大する形で形成されたものであり、日本やアジア諸国の経済成長はその経済システムの中で達成されたものである。西洋経済史を学ぶことによって、歴史に学ぶだけでなく、現代の経済を理解するための素養を身につける。</p> <p>とりわけ以下の2点に着目する。</p> <p>資本主義（資本制）の成立と展開、農業中心の社会経済構造から工業化へ。特に産業革命を中心に、その前提として必要なものは何であったか、また産業革命によってどのような社会経済構造がもたらされたのか。</p> <p>市場経済化、需給関係に基づき最適な形で価格が調整される範囲の拡大。ヨーロッパにおける商業の発達と市場経済の形成の関連、歴史的存在としての市場の構造・役割、その変容を知る。</p>
--

<p>授業の位置づけ</p> <p>社会福祉学部のDP「1(4)」、「2(2)」に対応する。</p>

<p>到達目標</p> <p>資本制の成立と展開がいかにして行われたのかを理解し、資本制の本質を理解する。</p> <p>市場経済化の進展が歴史上、どのようになされたのかを理解し、市場経済とは何かを説明することができる。</p>

<p>授業全体の内容と概要</p> <p>Intro. 古代から中世へ</p> <p>1. 近世（初期近代）</p> <p>2. 近代</p> <p>3. 現代</p>

<p>授業の方法</p> <p>教科書に沿った板書を中心とした講義および受講者間のディスカッション等のアクティブラーニング</p>
--

アクティブラーニングの実施方法						
	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク	PBL
	模範授業		ロールプレイ		調査学習	反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業	その他（授業の方法参照）

<p>履修上の注意事項</p> <p>教科書を必ず持参すること</p>
--

<p>資格指定科目</p> <p>教職課程（社会・地理歴史）選択科目</p>

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数は全授業回数の3分の2以上。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
60%	0%	0%	0%	40%	0%

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
中世ヨーロッパ経済の発達を市場経済の発達と関連させて理解できた	教科書を超える内容について詳しく理解できた	中世の経済について教科書の内容を理解できていた	農業および商業の特徴ないし発展について教科書の内容を理解できていた	農業ないし商業の特徴ないし発展について教科書の内容を理解できていた	教科書の内容をあまり理解できていなかった
近代における資本制の発生と展開について理解できた	教科書を超える内容について詳しく理解できた	近代のヨーロッパ経済について教科書の内容を理解できていた	近代ヨーロッパの様々な国家の工業化の発展について教科書の内容を理解できていた	近代ヨーロッパのある国家の工業化の発展について教科書の内容を理解できていた	教科書の内容をあまり理解できていなかった
世界大戦とその後のヨーロッパ経済について理解できた	教科書を超える内容について詳しく理解できた	現代のヨーロッパ経済について教科書の内容を理解できていた	大戦の発生及びその戦後処理からEUの誕生とその発展に至るまで教科書の内容を理解できていた	EUの誕生とその発展について教科書の内容を理解できていた	教科書の内容をあまり理解できていなかった

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『西洋経済史』	奥西孝至	有斐閣	2010年	9784641124042	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『スタートアップ経済学シリーズ 経済学史』	小峯敦	ミネルヴァ書房	2021	9784623090839	
2						
3						
4						
5						

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	1		
開講時期	1Q	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	西洋経済史(S) (科目ナンバリング: ECH122135, ECH422036)				
授業担当者(所属・職名)	松本 哲人(経営学科・非常勤講師)	研究室所在	1号館1階非常勤講師室		
単位数	2 (単位認定責任者: 松本 哲人)	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	シラバスの説明 ヨーロッパの拡大と国際競争の開始	該当箇所の教科書の読解(90分)	授業ノートの作成(90分)
2	17-18世紀の「経済危機」と国家の形成(オランダ&イギリス)	該当箇所の教科書の読解(90分)	授業ノートの作成(90分)
3	17-18世紀の「経済危機」と国家の形成(フランス&中・東欧)	該当箇所の教科書の読解(90分)	授業ノートの作成(90分)
4	ヨーロッパの工業化をどうとらえるか	該当箇所の教科書の読解(90分)	授業ノートの作成(90分)
5	「産業革命」とは何だったのか	該当箇所の教科書の読解(90分)	授業ノートの作成(90分)
6	ヨーロッパにおける工業化の始動	該当箇所の教科書の読解(90分)	授業ノートの作成(90分)
7	様々な工業化	該当箇所の教科書の読解(90分)	授業ノートの作成(90分)
8	「第二次産業革命」の時代	該当箇所の教科書の読解(90分)	授業ノートの作成(90分)
9	工業国と社会政策	該当箇所の教科書の読解(90分)	授業ノートの作成(90分)
10	北アメリカの台頭とビッグビジネス	該当箇所の教科書の読解(90分)	授業ノートの作成(90分)
11	第一次世界大戦とヨーロッパ経済	該当箇所の教科書の読解(90分)	授業ノートの作成(90分)
12	第二次世界大戦とヨーロッパ経済	該当箇所の教科書の読解(90分)	授業ノートの作成(90分)
13	第二次大戦後のヨーロッパ経済	該当箇所の教科書の読解(90分)	授業ノートの作成(90分)
14	EUへの道	該当箇所の教科書の読解(90分)	授業ノートの作成(90分)
15	まとめ	授業ノートの見直し(90分)	期末試験勉強(90分)
16	定期試験(60分)と試験の解説(30分)	授業全体の復習(90分)	試験問題・解説の復習(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・3年		
開講時期	3Q	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	国際経済論（S）（科目ナンバリング：ECP123146, ECP422035, ECP522039）				
授業担当者（所属・職名）	小早川俊哉（社会福祉学科・教授）	研究室所在	1号館2階		
単位数	2（単位認定責任者：小早川俊哉）	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

概要

履修目標
経済・国際経済の基礎となる理論を学び、日本経済・国際経済の動き（特に要因）を把握し、政治動向やその他の状況変化等を考慮することにより、将来の日本社会及び国際情勢を展望できるようにする。日本経済の他国への影響、他国経済の日本社会への影響を考えつつ、グローバル化した経済が我々の日々の生活に大きく関わっていることを理解できるようになる。

授業の位置づけ
社会福祉学部のDP「1（2）と（4）と（5）」、「2（2）と（3）」に対応する。

到達目標
国際経済の修学基礎として、需要と供給、財政政策、金融政策を理解する。国際経済の中心となる代表的な貿易理論、外国為替理論を理解する。地域の経済統合に関するFTA・EPAの理解と共に、EUの経済統合の大切を理解する。

授業全体の内容と概要
グローバル化の進展と瞬時に変化する国際情勢を念頭に、講義前半は経済学の基礎・基本理論の理解を深めることに集中する。講義後半では、貿易、外国為替、国際経済システム、経済統合（EU・ユーロ圏）の課題を考察すると共に、時事問題を通して世界経済の課題と解決策を探っていく。

授業の方法
授業のポイントを記したレジュメ（プリント）を配布する。開始5～10分は、前回の復習を口頭試問形式で行う。その後は、配布済みレジュメに従い空き行間に重要事項をメモする形の講義形式をとるが、理解度の確認のため随時問いかけをさせてもらう。質問には随時対応する。復習を兼ねて、授業中のメモをテキストなどを参考にノートにまとめることを推奨する。中間試験（論述）を採点后返す際、解答の仕方など個別に指導する。

アクティブラーニングの実施方法						
	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク	PBL
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習	反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業	○ その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項
授業中の積極性は、授業終了時に名前を呼んでの出席確認を行うことで判定する。遅刻3回で欠席1回とみなす。

資格指定科目
中学校教諭一種免許状（社会）、高等学校教諭一種免許状（地理歴史・公民）

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要となる最低出席回数は10回以上。積極的な授業参加（質問する、発言する、回答する、メモを取る、など）を平常点とする。論述の中間試験と定期試験、平常点の総計で単位認定を行う。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
50%	0%	0%	25%	25%	0%

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
経済政策の基礎	どの国の経済政策が、どの国に、日本経済に影響を及ぼすのか、その要因を説明することが出来た。	どの国の経済政策が国際経済、特に日本経済に影響を及ぼすのかを説明することが出来た。	主要国の財政政策および金融政策が国際経済に影響を及ぼすことを理解することが出来た。	財政政策、金融政策の主体と方法を理解することが出来た。	財政政策、金融政策の主体と方法を理解することが出来なかった。
貿易と外国為替	主要国の経済政策と貿易・外国為替との因果関係をその要因から説明することが出来た。	経済政策と貿易・外国為替との関係を説明することが出来た。	貿易と外国為替の因果関係を説明することが出来た。	貿易および外国為替の仕組みを理解することが出来た。	貿易および外国為替の仕組みを理解することが出来なかった。
地域の経済統合	EUの経済統合のメリットとデメリットを説明することが出来た。	経済統合の深化として、通関統合のメリットとデメリットを説明することが出来た。	貿易を主とした経済統合のメリットとデメリットを説明することが出来た。	自由貿易の考えから地域の経済統合を説明することが出来た。	自由貿易の考えから地域の経済統合を説明することが出来なかった。

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・3年		
開講時期	3Q	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	国際経済論(S) (科目ナンバリング: ECP123146, ECP422035, ECP522039)				
授業担当者(所属・職名)	小早川俊哉(社会福祉学科・教授)	研究室所在	1号館2階		
単位数	2 (単位認定責任者: 小早川俊哉)	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	オリエンテーション(シラバスの説明を含む)と市場メカニズムについて	オリエンテーション(シラバスの説明を含む)と市場メカニズムについて(90分)	用語の整理とメモ等をノートにまとめる(90分)
2	総需要と総供給(GDP, GNI, など)及び景気	参考となる経済入門書を読み本授業のイメージを持てるようにする(90分)	用語の整理とメモ等をノートにまとめる(90分)
3	経済活動と物価(インフレーションとデフレーション)	参考となる経済入門書を読み本授業のイメージを持てるようにする(90分)	用語の整理とメモ等をノートにまとめる(90分)
4	財政政策(政府の役割を含む)	参考となる経済入門書を読み本授業のイメージを持てるようにする(90分)	用語の整理とメモ等をノートにまとめる(90分)
5	金融政策(中央銀行の役割・機能をj含む)	参考となる経済入門書を読み本授業のイメージを持てるようにする(90分)	用語の整理とメモ等をノートにまとめる(90分)
6	ポリシー・ミックス(財政政策と金融政策)	参考となる経済入門書を読み本授業のイメージを持てるようにする(90分)	今回のノートをまとめるとともに中間試験のため直しを行う(90分)
7	経済学の基本的考え方についての復習と中間テスト(小試験)	中間試験の準備をする(90分)	自身の解答を振り返る(90分)
8	貿易理論(比較優位など)	参考となる経済入門書を読み本授業のイメージを持てるようにする(90分)	今回のノートをまとめるとともに自身の課題克服の方法を考える(90分)
9	外国為替理論(中央銀行のスタンスなど)	参考となる経済入門書を読み本授業のイメージを持てるようにする(90分)	用語の整理とメモ等をノートにまとめる(90分)
10	貿易と外国為替(為替リスク, 多国籍企業の行動)	参考となる経済入門書を読み本授業のイメージを持てるようにする(90分)	用語の整理とメモ等をノートにまとめる(90分)
11	ブレトンウッズ体制(IMF, 世界銀行, GATT, WTO, 変動相場制など)	参考となる経済入門書を読み本授業のイメージを持てるようにする(90分)	用語の整理とメモ等をノートにまとめる(90分)
12	経済統合(FTA, EPA, TPP, APEC, EU, ASEAN など概要)	参考となる経済入門書を読み本授業のイメージを持てるようにする(90分)	用語の整理とメモ等をノートにまとめる(90分)
13	経済統合(統合の深化およびメリットとデメリット)	参考となる経済入門書を読み本授業のイメージを持てるようにする(90分)	用語の整理とメモ等をノートにまとめる(90分)
14	欧州通貨統合とユーロの課題	参考となる経済入門書を読み本授業のイメージを持てるようにする(90分)	用語の整理とメモ等をノートにまとめる(90分)
15	まとめとして経済統合とポリシー・ミックス	ポリシー・ミックスを復習してくる(90分)	定期試験に向け自身のノートの最終チェックを行う(90分)
16	定期試験(60分の試験終了後、試験のポイントを解説)	定期試験の準備をする(90分)	試験の振り返り(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・3年		
開講時期	3Q	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	国際政治論(S) (科目ナンバリング: POL123145, POL422054)				
授業担当者(所属・職名)	金子 敏也 (社会福祉学科・特任准教授)	研究室所在	2号館7階		
単位数	2 (単位認定責任者: 金子 敏也)	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

概要

履修目標	速読法の取得する。テーマと論点を明記するレジメの作成能力の構築する。
------	------------------------------------

授業の位置づけ	社会福祉学科のDP 「1(2)と(3)」、「2(1)」に対応する。
---------	-----------------------------------

到達目標	正しい読書法を身に着ければ、知識は自然とついてくることを実感できる。講義を通して、国際政治の成り立ち、今後の行方を展望できるようになる。
------	--

授業全体の内容と概要	佐古丞著、『変容する国際政治』を使い、現在の国際政治の体系の成立の歴史的な推移を学びます。理解に必要なのは集中力と論点の整理がうまくできるか否かです。時間をかければよいというものではありません。効率よく学んでください。
------------	---

授業の方法	講義の前半の60分弱を通常の講義にあて、残りの30分は各学生が講義内容について何が理解でき、何がわからなかったかを論述してもらいます。3週間ないし4週間に一度、書き出したメモ書きの提出を求めます。毎回出席して、メモ書きさえ出せば、単位習得可能な講義とします。わからなかったことについて黒板に書き出すことを求めます。それを前提として、事象について議論します。学生の数人に対して、次週の章について、テーマ、論点を整理したレジメの作成を求めます。質問は随時受け付け、フィードバックします。
-------	---

アクティブラーニングの実施方法						
○	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク	PBL
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習	反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項	出席を重視します。12回以上出席すれば、最低限の成績ではありますが、単位は取得可能と考えてください。(最低出席数は10回とします。)講義の過程で、自主的なレポートをする機会を設けます。その発表ひとつひとつが加点の機会だと考えてください。7回以上欠席した場合、特段の事由がない限り、不可とします。
----------	---

資格指定科目	
--------	--

評価方法・基準

評価前提条件	単位認定に必要となる最低出席回数は10回以上。授業開始後20分以降の出席は受講回数から除外する(公共交通機関などの遅延の場合は例外とする)。テキストを購入しない学生は、無条件で不可とします。(ただし、各講義にその時間のコピーなどを持参したものは例外とします。)					
評価方法	定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
	0%	50%	0%	0%	50%	0%

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
速読法の理解	各章のレジメ作成を2時間以内にできた。	各章のレジメ作成3時間以内にできた。	レジメの作成の仕方が理解できた。	レジメの意義を理解できた。	レジメの意義を理解できなかった。
論点の把握	テーマ、論点を適切に提示できた。	テーマ、論点を適切に提示できた。	テーマの把握、論点の整理が一応できた。	テーマと論点がわかった。	テーマと論点が理解できなかった。
知識の習得	適切な知識を身に着けた。	適切な知識を身に着けた。	最重要課題についての知識を身に着けた。	必要最低限の知識はあった。	必要最低限の知識が修得できなかった。
自主性	発表回数多数回以上を達成した学生。	発表回数3回以上を達成した学生。	発表回数2回以上を達成した学生。	発表回数1回以上を達成した学生。	発表できなかった学生。

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『変容する国際政治』	佐古 丞	晃洋書房	2003年		
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・3年		
開講時期	3Q	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	国際政治論(S) (科目ナンバリング: POL123145, POL422054)				
授業担当者(所属・職名)	金子 敏也 (社会福祉学科・特任准教授)	研究室所在	2号館7階		
単位数	2 (単位認定責任者: 金子 敏也)	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	シラバスの説明	シラバスを読んでおくこと(90分)	シラバスの確認(90分)
2	並存した複数の国際体系	テキストに何が書かれているか目を通す(90分)	復習(90分)
3	並存した複数の国際体系	テキストに何が書かれているか目を通す(90分)	復習(90分)
4	ヨーロッパ国際体系の世界的拡大	テキストに何が書かれているか目を通す(90分)	復習(90分)
5	ヨーロッパ国際体系の世界的拡大	テキストに何が書かれているか目を通す(90分)	復習(90分)
6	ヨーロッパ国際体系の世界的拡大	テキストに何が書かれているか目を通す(90分)	復習(90分)
7	第一次世界大戦と第二次世界大戦の衝撃	テキストに何が書かれているか目を通す(90分)	復習(90分)
8	第一次世界大戦と第二次世界大戦の衝撃	テキストに何が書かれているか目を通す(90分)	復習(90分)
9	第一次世界大戦と第二次世界大戦の衝撃	テキストに何が書かれているか目を通す(90分)	復習(90分)
10	変革期としての現代	テキストに何が書かれているか目を通す(90分)	復習(90分)
11	変革期としての現代	テキストに何が書かれているか目を通す(90分)	復習(90分)
12	変革期としての現代	テキストに何が書かれているか目を通す(90分)	復習(90分)
13	日本と世界	テキストに何が書かれているか目を通す(90分)	復習(90分)
14	日本と世界	テキストに何が書かれているか目を通す(90分)	復習(90分)
15	日本と世界	テキストに何が書かれているか目を通す(90分)	復習(90分)
16	まとめ(レポートの解説、フィードバック)	テキストに何が書かれているか目を通す(90分)	復習(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・4年		
開講時期	2Q	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	北海道産業史(S) (科目ナンバリング:)				
授業担当者(所属・職名)	石山 玄幸(経営学科・准教授)	研究室所在	1号館2階		
単位数	(単位認定責任者: 石山 玄幸)		CAP制		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

概要

履修目標
本講義は、学生が北海道における産業の歴史の変遷について学ぶことを目的としている。北海道は明治政府によって計画的に開拓された土地であり、開拓者の苦勞や各産業の発展過程、各産業の特徴について理解することをねらいとしている。

授業の位置づけ
社会福祉学科のDP「1(2)」、「2(2)」に対応する。

到達目標
本講義終了時の達成目標は以下の通り、北海道の産業における歴史の変遷の概要を自分の言葉で述べる事ができる。北海道における各産業の特徴を自分の言葉で述べる事ができる。北海道における各産業の課題を自分の言葉で述べる事ができる。

授業全体の内容と概要
本講義は、原則1回の講義で1つの産業の歴史、特徴、課題等を網羅的に学ぶが、1次産業(農業、酪農業、漁業、林業)については、政府による保護政策や農協という特有の組織があることから、詳しく解説する。また、講義回数を重ねて行く中で、他産業と比較分析を交えながら、各産業の特徴をより深く理解する。

授業の方法
本講義は、パワーポイント及び配布物資料で進める。1枚のパワーポイントを掲示して、一連の解説が終了した後、一定の時間、学生がノートを書く時間を取る。ノートが書ききれない場合は、スマホでの写真撮影を認める。講義の最後に本日のフィードバックとして、講義レポートを実施し、レポートを提出した学生を出席扱いとする。また、本講義ではアクティブラーニングを活用して、グループワークやディスカッションを行う。

アクティブラーニングの実施方法							
	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項
本講義は4年生を対象としていることから、受講マナーを守れる学生のみ受講を認める。マナーの守れない学生は履修中止を勧告する場合がある。

資格指定科目
教職課程(地歴公民)必修科目

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数は、11回以上					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
85%	0%	0%	0%	0%	15%

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
北海道産業史に係るレポート・試験に対応した文章表現力	講義で学んだ内容を自分の言葉で要約ができ、かつ自分の意見もある。	講義で学んだ内容を自分の言葉で要約できている。	講義で学んだ内容が書かれている。	最低限、読み手に内容が伝わる。	読み手に内容が伝わらない。
北海道における産業別の歴史と特徴について	講義で学んだ北海道における産業別の歴史と特徴をそれぞれ自分の言葉で3つ以上述べる事ができる。	講義で学んだ北海道における産業別の歴史と特徴をそれぞれ3つ以上述べる事ができる。	講義で学んだ北海道における産業別の歴史と特徴を述べる事ができる。	最低限、講義で学んだ北海道全体の歴史を理解している。	北海道の歴史を全く理解していない。
課題解決策の提案力	北海道産業史の課題を3つ以上述べる事ができ、かつその課題に対して具体的に精度の高い解決策を提案できる。	北海道産業史の課題を3つ以上述べる事ができ、かつその課題に対して解決策を提案できる。	北海道産業史の課題を3つ以上述べる事ができる。	北海道産業史の課題を最低1つ述べる事ができる。	そもそも北海道産業史の課題を見つけない。

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『北海道産業史』	大沼盛男	北海道大学図書刊行会	2002年	978-4832963313	絶版のため中古でしか購入できない
2						
3						
4						
5						

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・4年		
開講時期	2Q	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	北海道産業史(S) (科目ナンバリング:)				
授業担当者(所属・職名)	石山 玄幸(経営学科・准教授)		研究室所在	1号館2階	
単位数	(単位認定責任者: 石山 玄幸)		CAP制		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	「北海道産業史」ガイダンス 講義の進め方, 評価方法などを説明	必ずシラバスを読んでから, 初回ガイダンスを受講すること。(90分)	講義終了時に提示する課題についてレポートを作成すること。(90分)
2	北海道産業と北海道開拓のはじまり	北海道の歴史に関する新聞記事やインターネットの記事を読むこと。(90分)	講義終了時に提示する課題についてレポートを作成すること。(90分)
3	北海道産業の歴史的区分	北海道の歴史に関する新聞記事やインターネットの記事を読むこと。(90分)	講義終了時に提示する課題についてレポートを作成すること。(90分)
4	北海道における農業と酪農の歴史の変遷	北海道の歴史に関する新聞記事やインターネットの記事を読むこと。(90分)	講義終了時に提示する課題についてレポートを作成すること。(90分)
5	北海道における林業と漁業の歴史の変遷	北海道の歴史に関する新聞記事やインターネットの記事を読むこと。(90分)	講義終了時に提示する課題についてレポートを作成すること。(90分)
6	北海道における食品工業の歴史の変遷	北海道の歴史に関する新聞記事やインターネットの記事を読むこと。(90分)	講義終了時に提示する課題についてレポートを作成すること。(90分)
7	北海道における石炭業の歴史の変遷	北海道の歴史に関する新聞記事やインターネットの記事を読むこと。(90分)	講義終了時に提示する課題についてレポートを作成すること。(90分)
8	北海道における製造業の歴史の変遷	北海道の歴史に関する新聞記事やインターネットの記事を読むこと。(90分)	講義終了時に提示する課題についてレポートを作成すること。(90分)
9	北海道における製造業の歴史の変遷	北海道の歴史に関する新聞記事やインターネットの記事を読むこと。(90分)	講義終了時に提示する課題についてレポートを作成すること。(90分)
10	北海道における建設業の歴史の変遷	北海道の歴史に関する新聞記事やインターネットの記事を読むこと。(90分)	講義終了時に提示する課題についてレポートを作成すること。(90分)
11	北海道における交通・運輸業の歴史の変遷	北海道の歴史に関する新聞記事やインターネットの記事を読むこと。(90分)	講義終了時に提示する課題についてレポートを作成すること。(90分)
12	北海道における卸・小売業の歴史の変遷	北海道の歴史に関する新聞記事やインターネットの記事を読むこと。(90分)	講義終了時に提示する課題についてレポートを作成すること。(90分)
13	北海道における観光・ホテル業の歴史の変遷	北海道の歴史に関する新聞記事やインターネットの記事を読むこと。(90分)	講義終了時に提示する課題についてレポートを作成すること。(90分)
14	北海道におけるIT産業の歴史の変遷	北海道の歴史に関する新聞記事やインターネットの記事を読むこと。(90分)	講義終了時に提示する課題についてレポートを作成すること。(90分)
15	まとめ 試験対策	定期試験に向けて, これまでの講義レポートを見返し準備すること。(90分)	講義終了時に提示する課題についてレポートを作成すること。(90分)
16	定期試験とフィードバック	定期試験に向けた対策をしてくること。(90分)	フィードバックを受けて, 北海道産業史を総括すること。(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・3年		
開講時期	4Q	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	コミュニティ心理学 (S) (科目ナンバリング: CLP123072, CLP423049, CLP523045)				
授業担当者(所属・職名)	吉澤 英里 (社会福祉学科・准教授)	研究室所在	1号館3階		
単位数	2 (単位認定責任者: 吉澤 英里)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

概要

履修目標
<p>学生が、コミュニティ心理学の理念と目標を理解し、コミュニティ心理学の介入方法について理解する。さらに、学生が、いくつかのコミュニティ活動の事例について見聞きしながら、実際のコミュニティにおける問題解決への心理学的アプローチの可能性について考察する。</p>

授業の位置づけ
<p>社会福祉学科のDP「1(4)」, 「2(2)」に対応する。</p>

到達目標
<p>コミュニティ心理学で扱われる理論や専門用語の内容を理解する。 実際のコミュニティ活動を通じた問題解決の事例を、心理学の知見を援用しながら説明する。 コミュニティ心理学に関するテーマについて、調べ、整理し、スライド資料を用いて紹介する。</p>

授業全体の内容と概要
<p>コミュニティ心理学の理念・目的に基づき、人が環境に適応するための援助だけでなく、個人を取り巻く環境改善への介入・援助の方法について学ぶ。さらに、従来の臨床心理学的なアプローチに加え、社会心理学的アプローチの可能性についても考察する。</p>

授業の方法
<p>前半は板書とパワーポイント、配布印刷物を活用しながら、講義形式で行う。前半の最後に授業内課題を実施し、知識の定着を図る。後半は履修生によるプレゼンテーションを実施する。質問には随時対応し、課題にはコメントをしてフィードバックをする。</p>

アクティブラーニングの実施方法																								
<table border="1"> <tr> <td>○</td> <td>プレゼンテーション</td> <td></td> <td>グループワーク</td> <td></td> <td>フィールドワーク</td> <td></td> <td>PBL</td> </tr> <tr> <td></td> <td>模擬授業</td> <td></td> <td>ロールプレイ</td> <td>○</td> <td>調査学習</td> <td></td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td>○</td> <td>ディスカッション</td> <td></td> <td>実験・実習・実技</td> <td></td> <td>双方向授業</td> <td></td> <td>その他(授業の方法参照)</td> </tr> </table>	○	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL		模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業	○	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)
○	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL																	
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業																	
○	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)																	

履修上の注意事項
<p>授業の運営・進行を著しく妨害するような行為(私語、大学で認められたもの以外の飲食、携帯電話・スマートフォンの使用、代返等)が認められた場合、総合評価から大幅に減点することがある。</p>

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件												
<p>単位認定に必要な最低出席回数は星橋道都大学学生便覧に準じる。</p>												
評価方法												
<table border="1"> <tr> <th>定期試験</th> <th>レポート</th> <th>課題・作品</th> <th>中間テスト</th> <th>平常点</th> <th>その他</th> </tr> <tr> <td>0%</td> <td>0%</td> <td>100%</td> <td>0%</td> <td>0%</td> <td>0%</td> </tr> </table>	定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他	0%	0%	100%	0%	0%	0%
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他							
0%	0%	100%	0%	0%	0%							

ルーブリック																													
<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">評価項目</th> <th colspan="5">評価基準</th> </tr> <tr> <th>履修項目を超えたレベルを達成している</th> <th>履修項目をほぼ達成している</th> <th>履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している</th> <th>到達目標を達成している</th> <th>到達目標を達成していない</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>専門知識の理解</td> <td>専門知識について、9割以上理解できた。</td> <td>専門知識について、8割程度理解できた。</td> <td>専門知識について、7割以上理解できた。</td> <td>専門知識について、6割以上理解できた。</td> <td>専門知識について理解できなかった。</td> </tr> <tr> <td>専門知識の応用</td> <td>提示された社会問題の原因や解決策を挙げる事ができ、その理由を詳しく説明できる。さらに、コミュニティ心理学の知識の枠組みを元に、自ら社会問題の原因や優れた解決策を提示することができた。</td> <td>提示された社会問題の原因や解決策を挙げる事ができ、その理由を説明できる。さらに、コミュニティ心理学の知識の枠組みを元に、自ら社会問題の原因や解決策を提示することができた。</td> <td>提示された社会問題の原因や解決策を挙げる事ができ、その理由を説明できた。</td> <td>提示された社会問題の原因や解決策を挙げる事ができた。</td> <td>提示された社会問題の原因や解決策を挙げる事ができなかった。</td> </tr> <tr> <td>プレゼンテーション</td> <td>プレゼンテーションの事前説明時に示された評価の観点を9割以上できた。</td> <td>プレゼンテーションの事前説明時に示された評価の観点を8割程度できた。</td> <td>プレゼンテーションの事前説明時に示された評価の観点を7割程度できた。</td> <td>プレゼンテーションの事前説明時に示された評価の観点を6割程度できた。</td> <td>プレゼンテーションの事前説明時に示された評価の観点を満たすことができなかった。</td> </tr> </tbody> </table>	評価項目	評価基準					履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない	専門知識の理解	専門知識について、9割以上理解できた。	専門知識について、8割程度理解できた。	専門知識について、7割以上理解できた。	専門知識について、6割以上理解できた。	専門知識について理解できなかった。	専門知識の応用	提示された社会問題の原因や解決策を挙げる事ができ、その理由を詳しく説明できる。さらに、コミュニティ心理学の知識の枠組みを元に、自ら社会問題の原因や優れた解決策を提示することができた。	提示された社会問題の原因や解決策を挙げる事ができ、その理由を説明できる。さらに、コミュニティ心理学の知識の枠組みを元に、自ら社会問題の原因や解決策を提示することができた。	提示された社会問題の原因や解決策を挙げる事ができ、その理由を説明できた。	提示された社会問題の原因や解決策を挙げる事ができた。	提示された社会問題の原因や解決策を挙げる事ができなかった。	プレゼンテーション	プレゼンテーションの事前説明時に示された評価の観点を9割以上できた。	プレゼンテーションの事前説明時に示された評価の観点を8割程度できた。	プレゼンテーションの事前説明時に示された評価の観点を7割程度できた。	プレゼンテーションの事前説明時に示された評価の観点を6割程度できた。	プレゼンテーションの事前説明時に示された評価の観点を満たすことができなかった。
評価項目		評価基準																											
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない																								
専門知識の理解	専門知識について、9割以上理解できた。	専門知識について、8割程度理解できた。	専門知識について、7割以上理解できた。	専門知識について、6割以上理解できた。	専門知識について理解できなかった。																								
専門知識の応用	提示された社会問題の原因や解決策を挙げる事ができ、その理由を詳しく説明できる。さらに、コミュニティ心理学の知識の枠組みを元に、自ら社会問題の原因や優れた解決策を提示することができた。	提示された社会問題の原因や解決策を挙げる事ができ、その理由を説明できる。さらに、コミュニティ心理学の知識の枠組みを元に、自ら社会問題の原因や解決策を提示することができた。	提示された社会問題の原因や解決策を挙げる事ができ、その理由を説明できた。	提示された社会問題の原因や解決策を挙げる事ができた。	提示された社会問題の原因や解決策を挙げる事ができなかった。																								
プレゼンテーション	プレゼンテーションの事前説明時に示された評価の観点を9割以上できた。	プレゼンテーションの事前説明時に示された評価の観点を8割程度できた。	プレゼンテーションの事前説明時に示された評価の観点を7割程度できた。	プレゼンテーションの事前説明時に示された評価の観点を6割程度できた。	プレゼンテーションの事前説明時に示された評価の観点を満たすことができなかった。																								

教科書・参考文献・資料等

教科書																																										
<table border="1"> <thead> <tr> <th>No</th> <th>書籍名</th> <th>著者</th> <th>出版社</th> <th>出版年</th> <th>ISBN</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>4</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>5</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考	1							2							3							4							5						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考																																				
1																																										
2																																										
3																																										
4																																										
5																																										

参考文献・資料等																																										
<table border="1"> <thead> <tr> <th>No</th> <th>書籍名</th> <th>著者</th> <th>出版社</th> <th>出版年</th> <th>ISBN</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>『コミュニティ心理学：実践研究のための方法論』</td> <td>日本コミュニティ心理学研究委員会</td> <td>新曜社</td> <td>2019</td> <td>978-4-7885-</td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>『コミュニティ心理学入門』</td> <td>植村勝彦</td> <td>ナカニシヤ出版</td> <td>2007</td> <td>978-4-7795-</td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>4</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>5</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考	1	『コミュニティ心理学：実践研究のための方法論』	日本コミュニティ心理学研究委員会	新曜社	2019	978-4-7885-		2	『コミュニティ心理学入門』	植村勝彦	ナカニシヤ出版	2007	978-4-7795-		3							4							5						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考																																				
1	『コミュニティ心理学：実践研究のための方法論』	日本コミュニティ心理学研究委員会	新曜社	2019	978-4-7885-																																					
2	『コミュニティ心理学入門』	植村勝彦	ナカニシヤ出版	2007	978-4-7795-																																					
3																																										
4																																										
5																																										

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・3年		
開講時期	4Q	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	コミュニティ心理学(S) (科目ナンバリング: CLP123072, CLP423049, CLP523045)				
授業担当者(所属・職名)	吉澤 英里(社会福祉学科・准教授)	研究室所在	1号館3階		
単位数	2 (単位認定責任者: 吉澤 英里)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	オリエンテーション(シラバスの説明, コミュニティとは?)	コミュニティについて調べる(90分)	本授業で扱うテーマを確認する(90分)
2	コミュニティ心理学の歴史と特徴	関連する文献を読む(90分)	授業内容を振り返る(90分)
3	コミュニティ心理学の理念と心理学者の役割	関連する文献を読む(90分)	授業内容を振り返る(90分)
4	コミュニティ心理学の理論とモデル	関連する文献を読む(90分)	授業内容を振り返る(90分)
5	予防プログラム	関連する文献を読む(90分)	授業内容を振り返る(90分)
6	危機介入とコンサルテーション	関連する文献を読む(90分)	授業内容を振り返る(90分)
7	ソーシャルサポートとセルフヘルプ	関連する文献を読む(90分)	授業内容を振り返る(90分)
8	コミュニティ感覚と市民参加	関連する文献を読む(90分)	授業内容を振り返る(90分)
9	これまでの振り返り	これまでの内容を振り返る(90分)	疑問点をまとめる(90分)
10	プレゼンテーション (テーマ, 発表順の決定, 準備)	関連する文献を読む(90分)	発表テーマに関する資料を収集する(90分)
11	プレゼンテーション (準備, ディスカッション)	発表テーマに関する資料を収集する(90分)	スライド資料をまとめる(90分)
12	プレゼンテーション発表とディスカッション (第1グループ)	プレゼンテーションの準備をする(90分)	発表された内容を振り返る(90分)
13	プレゼンテーション発表とディスカッション (第2グループ)	プレゼンテーションの準備をする(90分)	発表された内容を振り返る(90分)
14	プレゼンテーション発表とディスカッション (第3グループ)	プレゼンテーションの準備をする(90分)	発表された内容を振り返る(90分)
15	総合的まとめ	これまでの内容を振り返る(90分)	疑問点をまとめる(90分)
16	これまでの解説とフィードバック	これまでの内容を振り返る(90分)	疑問点をまとめる(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・3年		
開講時期	3Q	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	産業心理学(S) (科目ナンバリング: SOP123073, SOP423048, SOP523044)				
授業担当者(所属・職名)	吉澤 英里(社会福祉学科・准教授)	研究室所在	1号館3階		
単位数	2 (単位認定責任者: 吉澤 英里)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

概要

履修目標
産業・組織について、心理学の領域ではどのような研究がなされているのかを理解する。さらに、そのような心理学的知見が社会(産業・福祉)の中でどのように活用されているのかを考える。

授業の位置づけ
社会福祉学科のDP「1(2)」、「2(2)」に対応する。

到達目標
産業心理学領域で扱われる理論や専門用語の内容を説明する。 産業心理学領域で扱われる理論や専門用語が、社会活動の中でどのように活かされているのかを指摘する。 学んだ知識の枠組みを手掛かりとして、現在の産業分野の社会問題の原因や解決方法を考察する。

授業全体の内容と概要
スライドや板書、配布資料を活用しながら、講義形式で行う。また、授業中に振り返り課題を実施し、知識の定着を図る。

授業の方法
スライドや板書、配布資料を提示しながら講義形式を中心に進行する。途中にディスカッションを取り入れることがある。質問には随時対応し、振り返り課題にはコメントをしてフィードバックをする。

アクティブラーニングの実施方法						
	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク	PBL
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習	反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項
授業の運営・進行を著しく妨害するような行為(私語、大学で認められたもの以外の飲食、携帯電話・スマートフォンの使用、代返等)が認められた場合、総合評価から大幅に減点することがある。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件					
再試験は実施しない。単位認定に必要な最低出席回数は星城道都大学学生便覧に準じる。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
70%	0%	30%	0%	0%	0%

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
専門知識の理解	専門知識について、9割以上理解できた。	専門知識について、8割程度理解できた。	専門知識について、7割以上理解できた。	専門知識について、6割以上理解できた。	専門知識について理解できなかった。
専門知識の活用	提示された専門知識が活かされるような社会的(産業・福祉)活動を3つ以上挙げ、その理由についても説明できた。	提示された専門知識が活かされるような社会的(産業・福祉)活動を2つ以上挙げ、その理由についても説明できた。	提示された専門知識が活かされるような社会的(産業・福祉)活動を1つ以上挙げ、その理由についても説明できた。	提示された専門知識が活かされるような社会的(産業・福祉)活動を1つ以上挙げることができた。	提示された専門知識が活かされるような社会的(産業・福祉)活動を挙げることでできなかった。
専門知識の応用	提示された社会問題の原因や解決策を1つ挙げることができ、その理由を説明できた。さらに、産業心理学の知識の枠組みを元に、自ら社会問題の原因や解決策を2つ提示することができた。	提示された社会問題の原因や解決策を1つ挙げることができ、その理由を説明できた。さらに、産業心理学の知識の枠組みを元に、自ら社会問題の原因や解決策を1つ提示することができた。	提示された社会問題の原因や解決策を1つ挙げることができ、その理由を説明できた。	提示された社会問題の原因や解決策を1つ挙げることができた。	提示された社会問題の原因や解決策を挙げることでできなかった。

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『産業・組織心理学への招待』	白根三四郎	有斐閣	2009	978-4-641-	
2	『入門!産業社会心理学』	杉山崇	北樹出版	2015	978-4-7793-	
3						
4						
5						

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・3年		
開講時期	3Q	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	産業心理学(S) (科目ナンバリング: SOP123073, SOP423048, SOP523044)				
授業担当者(所属・職名)	吉澤 英里(社会福祉学科・准教授)	研究室所在	1号館3階		
単位数	2 (単位認定責任者: 吉澤 英里)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	オリエンテーション(シラバスの説明, 産業心理学の歴史と研究領域)	産業心理学とはどのような学問領域かを調べる(90分)	産業心理学で扱う内容について確認する(90分)
2	動機づけ(モチベーションの理論の基礎)	関連する文献を読む(90分)	授業内容を振り返る(90分)
3	動機づけ(モチベーションの理論の発展)	関連する文献を読む(90分)	授業内容を振り返る(90分)
4	職場ストレスとカウンセリング(ストレスモデル)	関連する文献を読む(90分)	授業内容を振り返る(90分)
5	職場ストレスとカウンセリング(産業カウンセリング)	関連する文献を読む(90分)	授業内容を振り返る(90分)
6	まとめ(動機づけと職場ストレス, カウンセリング)	2回から5回までの内容を振り返る(90分)	これまでの内容について, 疑問点を整理する(90分)
7	集団と組織(集団の意思決定)	関連する文献を読む(90分)	授業内容を振り返る(90分)
8	集団と組織(集団状況でのパフォーマンス)	関連する文献を読む(90分)	授業内容を振り返る(90分)
9	集団と組織(多様性と共同社会)	関連する文献を読む(90分)	授業内容を振り返る(90分)
10	リーダーシップの諸理論	関連する文献を読む(90分)	授業内容を振り返る(90分)
11	まとめ(集団・組織とリーダーシップ)	7回から10回までの内容を振り返る(90分)	これまでの内容について, 疑問点を整理する(90分)
12	消費者行動(消費行動を規定する心理要因)	関連する文献を読む(90分)	授業内容を振り返る(90分)
13	消費者行動(消費者をとりまく心理要因)	関連する文献を読む(90分)	授業内容を振り返る(90分)
14	人事アセスメント	関連する文献を読む(90分)	授業内容を振り返る(90分)
15	まとめ	12回から14回までの内容を振り返る(90分)	これまでの内容について, 疑問点を整理する(90分)
16	60分の試験終了後, 残りの30分で解説を行う。	資料を確認し, 自分の言葉で授業内容を説明できるように準備する(90分)	試験でわからなかったことを再確認する(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・2年		
開講時期	1Q	授業形態	講義	必修・選択	選択（教職課）
科目名称	教育原理（S）（科目ナンバリング：EDU121078，EDU241088，EDU341087，EDU441103，EDU541114）				
授業担当者（所属・職名）	西崎 毅（社会福祉学科・特任教授）		研究室所在	2号館6階	
単位数	2（単位認定責任者：西崎 毅）		CAP制		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	高等学校や教育行政における勤務経験を活かして総合的な学習の時間の指導法に関連する諸事項を講義する。		

概要

履修目標
教職に必要な知識や技能のうち、教育の基本概念をはじめ、教育を成り立たせている要素と相互関係、教育及び学校の変遷、学校教育の諸分野に関する基礎的事項を身に付ける。教職に必要な思考力・判断力・表現力等の能力及び主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度を身に付ける。

授業の位置づけ
社会福祉学科のDP「1（2）と（3）と（4）と（5）と（6）と（7）」、「2（2）」に対応する。

到達目標
授業のテーマについて考え、根拠を示しながら自分の意見をまとめ、他者と意見交換をしたり発表したりすることができる。

授業全体の内容と概要
各回のテーマに基づき必要な事項を講義するとともに、主体的・対話的で深い学びを実現するため、テーマに関連する事項に関して思考・考察、意見交換、発表等の一連の活動を行う。教育に関する内容は複数のテーマにかかわることが多いため、シラバスに示した学修内容を再構成し15回の授業全体を通して学修を完了する形となる場合がある。このため、各授業の冒頭において、当該の授業内容とシラバス上の授業テーマとの関連を明示する。

授業の方法
各回のテーマに関してプレゼンテーションソフトウェア及びプリント等を使用して説明を行う。各回のテーマに基づき必要な事項を講義するとともに、主体的・対話的で深い学びを実現するため、テーマに関連する事項に関して、グループワークを中心として思考・考察、意見交換、発表等の一連の活動を行う。課題については、観点別の評価とコメントによりフィードバックを行う。要望については口頭及びメール等で対応する。

アクティブラーニングの実施方法												
<table border="1"> <tr> <td>プレゼンテーション</td> <td>グループワーク</td> <td>フィールドワーク</td> <td>PBL</td> </tr> <tr> <td>模擬授業</td> <td>ロールプレイ</td> <td>調査学習</td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td>ディスカッション</td> <td>実験・実習・実技</td> <td>双方向授業</td> <td>その他（授業の方法参照）</td> </tr> </table>	プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL	模擬授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業	ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他（授業の方法参照）
プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL									
模擬授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業									
ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他（授業の方法参照）									

履修上の注意事項
<p>思考・考察、討論・発表等の活動を行うので、積極的に参加すること。</p> <p>○講義の前に行う学修課題を課しますので真剣に取り組むこと。</p> <p>プリント類は、ファイル等に綴って適切に管理し、学修に役立てること。</p> <p>欠席した場合は、Microsoft Teamsからプリント等を入力すること。</p> <p>講義中の私語・居眠り等は厳に禁むこと。</p> <p>講義中は特に指示がない場合にはスマートフォンをカバン等の中に格納すること。</p> <p>講義では演習を行うため、座席を指定する。</p> <p>講義開始時間までに用便を済ませておくこと。</p> <p>30分以上の「遅刻」は、「欠席」扱いとする。</p> <p>学修に向かう姿勢及び課題はすべて点数化・集積し評価点とする。</p>

資格指定科目
教職課程（全教科）必修科目

評価方法・基準

評価前提条件												
単位認定に必要な出席回数は13回。												
評価方法												
<table border="1"> <tr> <th>定期試験</th> <th>レポート</th> <th>課題・作品</th> <th>中間テスト</th> <th>平常点</th> <th>その他</th> </tr> <tr> <td>60%</td> <td>0%</td> <td>0%</td> <td>0%</td> <td>40%</td> <td>0%</td> </tr> </table>	定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他	60%	0%	0%	0%	40%	0%
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他							
60%	0%	0%	0%	40%	0%							

ルーブリック																																									
<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">評価項目</th> <th colspan="5">評価基準</th> </tr> <tr> <th>履修項目を超えたレベルを達成している</th> <th>履修項目をほぼ達成している</th> <th>履修目標と到達目標の間にあたるレベルに達成している</th> <th>到達目標を達成している</th> <th>到達目標を達成していない</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>知識・技能</td> <td>定期テストで9割以上の得点を上げた。</td> <td>定期テストで8割以上の得点を上げた。</td> <td>定期テストで7割以上の得点を上げた。</td> <td>定期テストで6割以上の得点を上げた。</td> <td>定期テストの得点が6割未満であった。</td> </tr> <tr> <td>思考の深さ</td> <td>右の記述を高いレベルで実現した。</td> <td>与えられた思考テーマについて、既に学修した知識や自らの経験等と関連させながら深く多面的に考え、根拠を明らかにしながら、論理的に自分の意見をまとめることができた。</td> <td>与えられた思考テーマについて、多面的に考え、根拠を示しながら論理的に自分の意見をまとめることができた。</td> <td>与えられた思考テーマについて考え、自分の意見をまとめてはいるが、根拠の記述や論理性に課題があった。</td> <td>与えられた思考テーマについて考え、自分の意見をまとめてはいるが、思考の記述や論理性が著しく欠けており、期待される最低限の基準に到達することができなかった。</td> </tr> <tr> <td>判断の的確性</td> <td>右の記述を高いレベルで実現した。</td> <td>与えられた思考テーマの意味を的確にとらえ、期待されるすべての論点に言及し、各論点について論理を明確にしながら自分の意見をまとめることができた。</td> <td>与えられた思考テーマの意味をとらえているが、期待されるすべての論点には言及できなかった。言及した論点については論理を明確にししながら自分の意見をまとめることができた。</td> <td>与えられた思考テーマについて自分の意見をまとめてはいるが、期待される論点に十分には言及できなかった。</td> <td>与えられた思考テーマについて記述しているが、思考の意味をとらえが不十分であり、期待される最低限の基準に到達することができなかった。</td> </tr> <tr> <td>表現の適切性</td> <td>右の記述を高いレベルで実現した。</td> <td>他の成員の意見の趣旨を的確にとらえ、簡潔にまとめて記述した。誤字脱字が少なく、丁寧に書くことができた。各欄の記述の分量が期待される分量の9割を超えた。</td> <td>他の成員の意見の趣旨を簡潔にとらえて記述することができた。誤字脱字が少なく、各欄の記述の分量が期待される分量の7割程度であった。</td> <td>他の成員の意見を記述しているが、その趣旨を十分にまとめ切れなかった。誤字脱字が散見された。各欄の記述の分量が期待される分量の5割程度であった。</td> <td>他の成員の意見を記述しているが、内容が極めて不十分であった。誤字脱字が多くみられた。各欄の記述の分量が期待される分量の3割程度であるなど、期待される最低限の基準に到達することができなかった。</td> </tr> <tr> <td>主体性・協働性</td> <td>右の記述を高いレベルで実現した。</td> <td>他の成員と積極的に意見交換を行った。他の成員の意見を十分に理解し、自分の感想等を記述することができた。自分の意見と異なる他の成員の意見に対して疑問点や反論等を記述数Rすることができた。</td> <td>他の成員と意見交換しているが、特段積極性は見られなかった。他の成員の意見を十分に理解し、自分の感想等を記述することができたが、自他の成員の意見に対して疑問点や反論等を記述する見られなかった。</td> <td>他の成員と意見交換しているが、消極的であった。他の成員の意見の理解に不十分な面があった。自分の感想等を記述してはいるが、表面的なものにとどまった。</td> <td>他の成員との意見交換に消極的であった。他の成員の意見の理解が極めて不十分であった。自分の感想等を記述しているが、論点をずれているなど、期待される最低限の基準に到達することができなかった。</td> </tr> </tbody> </table>	評価項目	評価基準					履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあたるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない	知識・技能	定期テストで9割以上の得点を上げた。	定期テストで8割以上の得点を上げた。	定期テストで7割以上の得点を上げた。	定期テストで6割以上の得点を上げた。	定期テストの得点が6割未満であった。	思考の深さ	右の記述を高いレベルで実現した。	与えられた思考テーマについて、既に学修した知識や自らの経験等と関連させながら深く多面的に考え、根拠を明らかにしながら、論理的に自分の意見をまとめることができた。	与えられた思考テーマについて、多面的に考え、根拠を示しながら論理的に自分の意見をまとめることができた。	与えられた思考テーマについて考え、自分の意見をまとめてはいるが、根拠の記述や論理性に課題があった。	与えられた思考テーマについて考え、自分の意見をまとめてはいるが、思考の記述や論理性が著しく欠けており、期待される最低限の基準に到達することができなかった。	判断の的確性	右の記述を高いレベルで実現した。	与えられた思考テーマの意味を的確にとらえ、期待されるすべての論点に言及し、各論点について論理を明確にしながら自分の意見をまとめることができた。	与えられた思考テーマの意味をとらえているが、期待されるすべての論点には言及できなかった。言及した論点については論理を明確にししながら自分の意見をまとめることができた。	与えられた思考テーマについて自分の意見をまとめてはいるが、期待される論点に十分には言及できなかった。	与えられた思考テーマについて記述しているが、思考の意味をとらえが不十分であり、期待される最低限の基準に到達することができなかった。	表現の適切性	右の記述を高いレベルで実現した。	他の成員の意見の趣旨を的確にとらえ、簡潔にまとめて記述した。誤字脱字が少なく、丁寧に書くことができた。各欄の記述の分量が期待される分量の9割を超えた。	他の成員の意見の趣旨を簡潔にとらえて記述することができた。誤字脱字が少なく、各欄の記述の分量が期待される分量の7割程度であった。	他の成員の意見を記述しているが、その趣旨を十分にまとめ切れなかった。誤字脱字が散見された。各欄の記述の分量が期待される分量の5割程度であった。	他の成員の意見を記述しているが、内容が極めて不十分であった。誤字脱字が多くみられた。各欄の記述の分量が期待される分量の3割程度であるなど、期待される最低限の基準に到達することができなかった。	主体性・協働性	右の記述を高いレベルで実現した。	他の成員と積極的に意見交換を行った。他の成員の意見を十分に理解し、自分の感想等を記述することができた。自分の意見と異なる他の成員の意見に対して疑問点や反論等を記述数Rすることができた。	他の成員と意見交換しているが、特段積極性は見られなかった。他の成員の意見を十分に理解し、自分の感想等を記述することができたが、自他の成員の意見に対して疑問点や反論等を記述する見られなかった。	他の成員と意見交換しているが、消極的であった。他の成員の意見の理解に不十分な面があった。自分の感想等を記述してはいるが、表面的なものにとどまった。	他の成員との意見交換に消極的であった。他の成員の意見の理解が極めて不十分であった。自分の感想等を記述しているが、論点をずれているなど、期待される最低限の基準に到達することができなかった。
評価項目		評価基準																																							
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあたるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない																																				
知識・技能	定期テストで9割以上の得点を上げた。	定期テストで8割以上の得点を上げた。	定期テストで7割以上の得点を上げた。	定期テストで6割以上の得点を上げた。	定期テストの得点が6割未満であった。																																				
思考の深さ	右の記述を高いレベルで実現した。	与えられた思考テーマについて、既に学修した知識や自らの経験等と関連させながら深く多面的に考え、根拠を明らかにしながら、論理的に自分の意見をまとめることができた。	与えられた思考テーマについて、多面的に考え、根拠を示しながら論理的に自分の意見をまとめることができた。	与えられた思考テーマについて考え、自分の意見をまとめてはいるが、根拠の記述や論理性に課題があった。	与えられた思考テーマについて考え、自分の意見をまとめてはいるが、思考の記述や論理性が著しく欠けており、期待される最低限の基準に到達することができなかった。																																				
判断の的確性	右の記述を高いレベルで実現した。	与えられた思考テーマの意味を的確にとらえ、期待されるすべての論点に言及し、各論点について論理を明確にしながら自分の意見をまとめることができた。	与えられた思考テーマの意味をとらえているが、期待されるすべての論点には言及できなかった。言及した論点については論理を明確にししながら自分の意見をまとめることができた。	与えられた思考テーマについて自分の意見をまとめてはいるが、期待される論点に十分には言及できなかった。	与えられた思考テーマについて記述しているが、思考の意味をとらえが不十分であり、期待される最低限の基準に到達することができなかった。																																				
表現の適切性	右の記述を高いレベルで実現した。	他の成員の意見の趣旨を的確にとらえ、簡潔にまとめて記述した。誤字脱字が少なく、丁寧に書くことができた。各欄の記述の分量が期待される分量の9割を超えた。	他の成員の意見の趣旨を簡潔にとらえて記述することができた。誤字脱字が少なく、各欄の記述の分量が期待される分量の7割程度であった。	他の成員の意見を記述しているが、その趣旨を十分にまとめ切れなかった。誤字脱字が散見された。各欄の記述の分量が期待される分量の5割程度であった。	他の成員の意見を記述しているが、内容が極めて不十分であった。誤字脱字が多くみられた。各欄の記述の分量が期待される分量の3割程度であるなど、期待される最低限の基準に到達することができなかった。																																				
主体性・協働性	右の記述を高いレベルで実現した。	他の成員と積極的に意見交換を行った。他の成員の意見を十分に理解し、自分の感想等を記述することができた。自分の意見と異なる他の成員の意見に対して疑問点や反論等を記述数Rすることができた。	他の成員と意見交換しているが、特段積極性は見られなかった。他の成員の意見を十分に理解し、自分の感想等を記述することができたが、自他の成員の意見に対して疑問点や反論等を記述する見られなかった。	他の成員と意見交換しているが、消極的であった。他の成員の意見の理解に不十分な面があった。自分の感想等を記述してはいるが、表面的なものにとどまった。	他の成員との意見交換に消極的であった。他の成員の意見の理解が極めて不十分であった。自分の感想等を記述しているが、論点をずれているなど、期待される最低限の基準に到達することができなかった。																																				

教科書・参考文献・資料等

教科書																																										
<table border="1"> <thead> <tr> <th>No</th> <th>書籍名</th> <th>著者</th> <th>出版社</th> <th>出版年</th> <th>ISBN</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>『最新教育原理 改訂2版』</td> <td>安彦忠彦ほか</td> <td>勁草書房</td> <td>2020</td> <td>9784326251421</td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>4</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>5</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考	1	『最新教育原理 改訂2版』	安彦忠彦ほか	勁草書房	2020	9784326251421		2							3							4							5						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考																																				
1	『最新教育原理 改訂2版』	安彦忠彦ほか	勁草書房	2020	9784326251421																																					
2																																										
3																																										
4																																										
5																																										

参考文献・資料等																																										
<table border="1"> <thead> <tr> <th>No</th> <th>書籍名</th> <th>著者</th> <th>出版社</th> <th>出版年</th> <th>ISBN</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>4</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>5</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考	1							2							3							4							5						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考																																				
1																																										
2																																										
3																																										
4																																										
5																																										

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・2年		
開講時期	1Q	授業形態	講義	必修・選択	選択（教職課）
科目名称	教育原理（S） （科目ナンバリング：EDU121078，EDU241088，EDU341087，EDU441103，EDU541114）				
授業担当者（所属・職名）	西崎 毅（社会福祉学科・特任教授）	研究室所在	2号館6階		
単位数	2（単位認定責任者：西崎 毅）		CAP制		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	高等学校や教育行政における勤務経験を活かして総合的な学習の時間の指導法に関連する諸事項を講義する。		

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	オリエンテーション（シラバスの説明含む） 教育の目的と本質について	シラバスを確認して学修の心構えを持つこと。 （90分）	本時に課された事後課題を行い、次時に提出すること。 （90分）
2	教育と人間の成長・発達について	前時に課された事前課題を行い提出すること。 （90分）	本時に課された事後課題を行い、次時に提出すること。 （90分）
3	社会の変動と教育について	前時に課された事前課題を行い提出すること。 （90分）	本時に課された事後課題を行い、次時に提出すること。 （90分）
4	日本の教育（歴史と展開）について	前時に課された事前課題を行い提出すること。 （90分）	本時に課された事後課題を行い、次時に提出すること。 （90分）
5	世界の教育（歴史と展開）について	前時に課された事前課題を行い提出すること。 （90分）	本時に課された事後課題を行い、次時に提出すること。 （90分）
6	日本の教育制度と行政について	前時に課された事前課題を行い提出すること。 （90分）	本時に課された事後課題を行い、次時に提出すること。 （90分）
7	主要国の学校制度と教育改革について	前時に課された事前課題を行い提出すること。 （90分）	本時に課された事後課題を行い、次時に提出すること。 （90分）
8	学校と教師について	前時に課された事前課題を行い提出すること。 （90分）	本時に課された事後課題を行い、次時に提出すること。 （90分）
9	教育の内容及び教育課程について	前時に課された事前課題を行い提出すること。 （90分）	本時に課された事後課題を行い、次時に提出すること。 （90分）
10	教育の方法と技術について	前時に課された事前課題を行い提出すること。 （90分）	本時に課された事後課題を行い、次時に提出すること。 （90分）
11	道徳教育、特別活動の原理と方法について	前時に課された事前課題を行い提出すること。 （90分）	本時に課された事後課題を行い、次時に提出すること。 （90分）
12	総合的な学習の時間の原理と方法について	前時に課された事前課題を行い提出すること。 （90分）	本時に課された事後課題を行い、次時に提出すること。 （90分）
13	外国語活動の原理と方法について	前時に課された事前課題を行い提出すること。 （90分）	本時に課された事後課題を行い、次時に提出すること。 （90分）
14	生徒指導と教育相談・キャリア教育と進路指導について	前時に課された事前課題を行い提出すること。 （90分）	本時に課された事後課題を行い、次時に提出すること。 （90分）
15	特別支援教育の原理と方法について	前時に課された事前課題を行い提出すること。（90分）	前15回の学修内容を復習すること。（90分）
16	70分の試験終了後、残りの20分で解説を行う。	前15回の学修内容を復習すること。（90分）	試験を振り返り、自分の学修姿勢を評価すること。 （90分）

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・1年		
開講時期	4Q	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	教育心理学 (S) (科目ナンバリング: EDP122061, EDP242090, EDP342089, E D442105, EDP542116)				
授業担当者 (所属・職名)	吉澤 英里 (社会福祉学科・准教授)	研究室所在	1号館3階		
単位数	2 (単位認定責任者: 吉澤 英里)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

概要

履修目標
学生が、教育心理学領域で扱われる理論や専門用語を理解し、それらの知識的枠組みが日常で行われている教育活動の中でどのようにいかされているのかを理解する。

授業の位置づけ
社会福祉学科のDP「1(2)と(4)」、「2(2)」に対応する。

到達目標
教育心理学領域で扱われる理論や専門用語の内容を説明する。 教育心理学領域で扱われる理論や専門用語が、日常の教育活動の中でどのように活かされているのかを指摘する。 学んだ知識的枠組みを手掛かりとして、現在の教育問題の原因や解決方法を考える。

授業全体の内容と概要
教育心理学で扱われるテーマのうち、学習、評価、発達(発達障害を含む)、パーソナリティ、臨床心理について講義を行う。それぞれのテーマについて、代表的な理論や専門用語を解説し、それらが日常生活でどのように活用されるのかを考察する。授業では、スライド、板書、配布資料等を活用しながら講義を進める。

授業の方法
各回の最後に次回のキーワードを示す。各自、予習としてキーワードの内容を調べたうえで授業に臨むこと。授業では、スライド、板書、配布資料等を適宜活用しながら解説をする。質問には随時対応する。

アクティブラーニングの実施方法							
	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項
授業の運営・進行を著しく妨害するような行為(私語、大学で認められたもの以外の飲食、携帯電話・スマートフォンの使用、代返 等)が認められた場合、総合評価から大幅に減点することがある。

資格指定科目
教職課程(全教科)必修科目

評価方法・基準

評価前提条件					
再試験は実施しない。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
60%	0%	40%	0%	0%	0%

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
専門知識の理解	専門知識について、9割以上理解できた。	専門知識について、8割程度理解できた。	専門知識について、7割以上理解できた。	専門知識について、6割以上理解できた。	専門知識について理解できなかった。
専門知識の活用	提示された専門知識が活かされるような教育活動を3つ以上挙げ、その理由についても説明できた。	提示された専門知識が活かされるような教育活動を2つ以上挙げ、その理由についても説明できた。	提示された専門知識が活かされるような教育活動を1つ以上挙げ、その理由についても説明できた。	提示された専門知識が活かされるような教育活動を1つ以上挙げることができた。	提示された専門知識が活かされるような教育活動を挙げることができなかった。
専門知識の応用	提示された教育問題の原因や解決策を1つ挙げることができ、その理由を説明できた。さらに、教育心理学の知識的枠組みを元に、自ら教育問題の原因や解決策を2つ提示することができた。	提示された教育問題の原因や解決策を1つ挙げることができ、その理由を説明できた。さらに、教育心理学の知識的枠組みを元に、自ら教育問題の原因や解決策を1つ提示することができた。	提示された教育問題の原因や解決策を1つ挙げることができ、その理由を説明できた。	提示された教育問題の原因や解決策を1つ挙げることができた。	提示された教育問題の原因や解決策を挙げることができなかった。

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『教育心理学エッセンシャルズ[第2版]』	西村純一・井森澄江	ナカニシヤ出版	2010	978-4-7795-	
2	『基礎から学ぶ教育心理学』	工藤俊郎・高井直美・上田恵津子・菅原康二	八千代出版	2004	978-4-8429-	
3	『よくわかる!教職エクササイズ 教育心理学』	田爪宏二	ミネルヴァ書房	2018	978-4-623-	
4						
5						

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・1年		
開講時期	4Q	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	教育心理学 (S) (科目ナンバリング: EDP122061, EDP242090, EDP342089, E D442105, EDP542116)				
授業担当者(所属・職名)	吉澤 英里 (社会福祉学科・准教授)	研究室所在	1号館3階		
単位数	2 (単位認定責任者: 吉澤 英里)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
1	オリエンテーション (シラバスの説明, 授業の進め方, 教育心理学とは)	教育心理学で扱う領域について調べる (90分)	教育心理学で扱う内容を振り返る (90分)
2	学習の理論1 (古典的条件づけ 等)	提示されたキーワードについて, 内容を調べ, まとめる (90分)	今回の内容をまとめ, 疑問点を整理する (90分)
3	学習の理論2 (サイン・ゲシュタルト説 等)	提示されたキーワードについて, 内容を調べ, まとめる (90分)	今回の内容をまとめ, 疑問点を整理する (90分)
4	学習の諸現象 (動機づけ 等) と評価 (絶対評価, 相対評価, 形成的評価 等)	提示されたキーワードについて, 内容を調べ, まとめる (90分)	今回の内容をまとめ, 疑問点を整理する (90分)
5	学習の過程 (発見学習, 題解決学習 等)	提示されたキーワードについて, 内容を調べ, まとめる (90分)	今回の内容をまとめ, 疑問点を整理する (90分)
6	集団と評価の歪み (ピグマリオン効果, ハロー効果 等)	提示されたキーワードについて, 内容を調べ, まとめる (90分)	今回の内容をまとめ, 疑問点を整理する (90分)
7	記憶 (短期記憶, 長期記憶, 忘却曲線 等)	提示されたキーワードについて, 内容を調べ, まとめる (90分)	これまでの学習内容について振り返る (90分)
8	これまでのまとめ (学習, 記憶の理論を振り返る)	これまでの学習内容について振り返る (90分)	授業内ワークで理解できなかった箇所を復習する (90分)
9	発達的基础 (遺伝説, 環境説, 相互作用説 等)	提示されたキーワードについて, 内容を調べ, まとめる (90分)	今回の内容をまとめ, 疑問点を整理する (90分)
10	発達の諸理論 (認知的発達理論)	提示されたキーワードについて, 内容を調べ, まとめる (90分)	今回の内容をまとめ, 疑問点を整理する (90分)
11	発達の諸理論 (エリクソンのライフサイクル論)	提示されたキーワードについて, 内容を調べ, まとめる (90分)	今回の内容をまとめ, 疑問点を整理する (90分)
12	精神分析と防衛機制	提示されたキーワードについて, 内容を調べ, まとめる (90分)	今回の内容をまとめ, 疑問点を整理する (90分)
13	パーソナリティ理論 (類型論と特性論) と代表的なパーソナリティ検査	提示されたキーワードについて, 内容を調べ, まとめる (90分)	今回の内容をまとめ, 疑問点を整理する (90分)
14	配慮を要する子どもの理解と支援	提示されたキーワードについて, 内容を調べ, まとめる (90分)	これまでの学習内容について振り返る (90分)
15	これまでのまとめ (発達, パーソナリティ, 心理的支援を振り返る)	これまでの学習内容について振り返る (90分)	提示されたキーワードについて, 説明できるように復習する (90分)
16	60分の試験終了後, 残りの30分で解説を行う。	提示されたキーワードについて, 説明できるように準備する (90分)	試験でできなかった問題を振り返る (90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	自由科目	対象学科・配当	社会福祉学科・2年、建築学科・2年、デザイ		
開講時期	2Q	授業形態	講義	必修・選択	課程必修
科目名称	教育方法論 (S・D・A) (科目ナンバリング: EDU122128, EDU242099, EDU342096)				
授業担当者(所属・職名)	坂上 俊樹 (社会福祉学科・特任教授)		研究室所在	1号館2階	
単位数	2 (単位認定責任者: 坂上 俊樹)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	学校現場における教員経験がある教員がその経験を活かして、今日的な教育課題(教育方法論)について指導する。		

概要

履修目標

教師がもつべき専門的教養の中核となる教育の方法と技術について、現実的な課題を整理しながら、実践的技術を解明するための知識を習得する。

授業の位置づけ

社会福祉学科のDP「1(2)と(3)と(5)」、「2(2)」に対応する。
建築学科のDP「1(1)と(2)」、「2(2)」に対応する。
デザイン学科のDP「1(1)と(2)」、「2(2)」に対応する。

到達目標

児童生徒に正しい効果的な学び方を指導し、自ら学ぶ力をつけさせる方法論を会得し、具体的に述べる。

授業全体の内容と概要

各回のテーマに基づき必要な事項を講義するとともに、主体的・対話的で深い学びを実現するため、テーマに関連する事項に関して思考・考察、意見交換発表等の一連の活動を行う。内容は、教育論、児童生徒理解、カリキュラム、授業づくり、学力と教育評価等について扱う。

授業の方法

教科書を輪読し、パワーポイント及び配布物資料で教科書の内容を確認するとともに、テーマに関する事項について、思考・考察、意見交換、討議、発表等の一連の活動を行うなどして、総合的に教育の方法を習得させる。グループワークにて発表及びレポート提出も行う。なお、グループワーク発表、レポートにはコメントにてフィードバックする。

アクティブラーニングの実施方法

<input type="checkbox"/>	プレゼンテーション	<input type="checkbox"/>	グループワーク	<input type="checkbox"/>	フィールドワーク	<input type="checkbox"/>	PBL
<input type="checkbox"/>	模擬授業	<input type="checkbox"/>	ロールプレイ	<input type="checkbox"/>	調査学習	<input type="checkbox"/>	反転授業
<input type="checkbox"/>	ディスカッション	<input type="checkbox"/>	実験・実習・実技	<input type="checkbox"/>	双方向授業	<input type="checkbox"/>	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

教職を目指す学生としてふさわしい受講態度で履修すること。

資格指定科目

教職課程(全教科)必修科目

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数は10回以上。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
60%	20%	0%	0%	0%	20%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
教育方法論の理解	教育方法論について学修した知識・技能を基盤に、さらに学修を深めようとする事ができた。	教育方法論について意欲的に学び、必要な知識・技能を理解することができた。	教育方法論についての知識・技能を理解できた。	教育方法論について、知識・技能を一定程度理解できた。	教育方法論について、理解ができなかった。
教育技術の思考・判断・表現	教育技術について積極的に思考・判断し、自ら表現を工夫して活動することができた。	教育技術について思考・判断し、自ら表現することができた。	教育技術について、思考活動に取り組み、表現することができた。	教育技術について、一定程度思考活動に取り組み、表現できた。	教育技術について、思考・判断・表現について必要な取組ができなかった。
授業への参加態度・姿勢	授業にとっても積極的に参加することができた。	授業に積極的に参加することができた。	授業に関心をもって参加することができた。	授業への一定程度の関心をもちつことができた。	授業へ積極的に参加することができなかった。

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『教育の方法と技術 第三版』	柴田義松・山崎準二編	学文社	2019	978-4-7620-2869-4	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『中学校学習指導要領(平成29年3月告示)』	文部科学省	東山書房	2018	978-4827815580	
2	『高等学校学習指導要領(平成30年3月告示)』	文部科学省	東山書房	2018	978-4827815672	
3						
4						
5						

基本情報

科目分類区分	自由科目	対象学科・配当	社会福祉学科・2年、建築学科・2年、デザイ		
開講時期	2Q	授業形態	講義	必修・選択	課程必修
科目名称	教育方法論 (S・D・A) (科目ナンバリング: EDU122128, EDU242099, EDU342096)				
授業担当者(所属・職名)	坂上 俊樹 (社会福祉学科・特任教授)	研究室所在	1号館2階		
単位数	2 (単位認定責任者: 坂上 俊樹)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	学校現場における教員経験がある教員がその経験を活かして、今日的な教育課題(教育方法論)について指導する。		

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	オリエンテーション - シラバスの説明、教育方法論の概要 -	シラバスを確認しておくこと。(90分)	配布資料に基づき「教育方法論」について概念を確認すること。(90分)
2	教育方法論の歴史 ・ソクラテス法、コメニウスの教授法の特徴、ルソウの教育方法史上の位置ほか	指定した教科書の「問題1-5」を事前に読んでおくこと。(90分)	配布資料に基づき復習しておくこと。(90分)
3	教育方法論の歴史 ・20世紀初頭の新教育運動、集団主義教育と総合技術教育の思想ほか	指定した教科書の「問題6-9」を事前に読んでおくこと。(90分)	配布資料に基づき復習しておくこと。(90分)
4	現代社会と教育	指定した教科書の「問題10-12」を事前に読んでおくこと。(90分)	配布資料に基づき復習しておくこと。(90分)
5	学校の現在と学校論	指定した教科書の「13-14」を事前に読んでおくこと。(90分)	配布資料に基づき復習しておくこと。(90分)
6	教育改革の内容	指定した教科書の「問題15-16」を事前に読んでおくこと。(90分)	配布資料に基づき復習しておくこと。(90分)
7	カリキュラム ・児童中心カリキュラム、学問中心カリキュラムほか	指定した教科書の「問題17-18」を事前に読んでおくこと。(90分)	配布資料に基づき復習しておくこと。(90分)
8	カリキュラム ・子どもの発達段階と教育との関係、「総合的な学習の時間」の意義と課題ほか	指定した教科書の「問題19-23」を事前に読んでおくこと。(90分)	配布資料に基づき復習しておくこと。(90分)
9	カリキュラム ・「教科書を教える」と「教科書で教える」、プログラム学習ほか	指定した教科書の「問題24-29」を事前に読んでおくこと。(90分)	配布資料に基づき復習しておくこと。(90分)
10	授業論(授業の構造、学習指導案、発問等)	指定した教科書の「問題30-35」を事前に読んでおくこと。(90分)	配布資料に基づき復習しておくこと。(90分)
11	授業改善と情報機器の活用	指定した教科書の「問題36-39」を事前に読んでおくこと。(90分)	配布資料に基づき復習しておくこと。(90分)
12	授業改善と視聴覚教材の活用	指定した教科書の「問題40-48」を事前に読んでおくこと。(90分)	配布資料に基づき復習しておくこと。(90分)
13	模擬授業(学習指導案、板書とノート指導、机間巡視)	指定した教科書の「問題49-54」を事前に読んでおくこと。(90分)	配布資料に基づき復習しておくこと。(90分)
14	学力と教育評価 ・相互評価と絶対評価、自己評価、「到達目標と方向目標」	指定した教科書の「問題55-60」を事前に読んでおくこと。(90分)	配布資料に基づき復習しておくこと。(90分)
15	学力と教育評価 ・指導要録、障害のある児童・生徒の教育LD(学習障害)・ADHD(注意欠陥多動性障害)ほか	指定した教科書の「問題61」と配布資料を事前に読んでおくこと。(90分)	配布資料に基づき復習しておくこと。(90分)
16	定期試験(60分の試験終了後、残りの30分で解説)	指定した教科書や講義内容について整理しておくこと。(90分)	試験の結果を見直す。(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・4年		
開講時期	2Q	授業形態	講義	必修・選択	選択（教職課）
科目名称	教育相談（カウンセリング）（科目ナンバリング：EDP124076）				
授業担当者（所属・職名）	佐々木 智城（社会福祉学科・准教授）	研究室所在	1号館2階		
単位数	2（単位認定責任者：佐々木 智城）	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	スクールカウンセラー、教育委員会勤務経験のある臨床心理士が不登校やいじめなど児童生徒への対応を指導する。		

概要

履修目標
学校という集団に不適応な児童生徒が増えている。また、非行、暴力、いじめ、登校拒否、心身症などの問題行動への教師の対応の仕方として、カウンセリング・マインドによる指導や援助が必要となっている。学校における教育相談の進め方についての考え方や基礎知識を身につけ、教育活動に活かせる援助的な指導方法の能力を身につける。

授業の位置づけ
社会福祉学科のDP「1（1）と（2）と（4）と（5）と（6）と（7）」、「2（2）」に対応する。

到達目標
不適応行動や問題行動の児童生徒を正しく理解し、適切な対応をするための教師としてのカウンセリング・マインドの態度や方法について基本的な知識・能力を身につける。

授業全体の内容と概要
学校教育における教育相談の意義と役割およびカウンセリングの理論と技法の基礎を理解し、教育活動での実際の活かし方を、ケース・スタディをととして、講義のほか、受講生の発表や討議によって内容を深める。

授業の方法
パワーポイント、板書、プリント、DVDを使用しながら講義形式で行う（グループワーク含む）。授業の最後に授業で学んだことや質問をまとめて提出することで出席とする。提出物は全て成績に反映される。質問は随時受付、回答する。

アクティブラーニングの実施方法							
	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		PBL
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業	○	その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項
「教育」に関する新聞記事を常に読んでおくこと。授業では、常に「教師」としての視点で考えることを心がけること。出席と授業中の姿勢や態度を重視する。課題レポート等による総合評価。

資格指定科目
教職課程（全教科）必修科目

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数は10回以上。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	70%	0%	0%	20%	10%

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
教育相談についての理解	授業で扱った学校内での問題点について、資料やDVD等の内容にも触れ自分の考えを含めながら詳細に感想文に、まとめていた。	授業で扱った学校内での問題点について、自分の考えも含めて大枠で感想文に、まとめていた。	授業で扱った学校内での問題点について、大枠で感想文に、まとめていた。	授業で扱った学校内での問題点について、一部を感想文に、まとめていた。	授業で扱った学校内での問題点について、感想文にまとめることができなかった。
教育相談の視点に基づく思考・判断力	教育相談の基本を踏まえて生徒や保護者への対応に加えて十分に考察を行うことができた。	教育相談の基本を踏まえて生徒や保護者への対応に加えておおむね考察を行うことができた。	教育相談の基本を踏まえて生徒や保護者への対応に加えて一定程度考察を行うことができた。	教育相談の基本を踏まえて生徒や保護者への対応に加えて考察を行うことができた。	教育相談の基本を踏まえて生徒や保護者への対応に加えて考察を行うことができなかった。
授業に主体的に取り組む態度（生徒や保護者への対応の見立て）	教育相談の基本を踏まえて生徒や保護者への対応の見立てをわかりやすく説明できた。	教育相談の基本を踏まえて生徒や保護者への対応の見立てをおおむね説明できた。	教育相談の基本を踏まえて生徒や保護者への対応の見立てを一定程度説明できた。	教育相談の基本を踏まえて生徒や保護者への対応の見立てを説明できた。	教育相談の基本を踏まえて生徒や保護者への対応の見立てを説明することができなかった。

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						教科書なし
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『教師のための初等教育相談』	西本綱子	萌文書林	2015	978-4-89347-211-3	
2						
3						
4						
5						

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・4年		
開講時期	2Q	授業形態	講義	必修・選択	選択（教職課）
科目名称	教育相談（ カネリク を（科目ナンバリング：EDP124076））				
授業担当者（所属・職名）	佐々木 智城（社会福祉学科・准教授）	研究室所在	1号館2階		
単位数	2（単位認定責任者：佐々木 智城）		CAP制		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり 左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	スクールカウンセラー、教育委員会勤務経験のある臨床心理士が不登校やいじめなど児童生徒への対応を指導する。			

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明。 ～オリエンテーション～教育相談の意義と役割	教育相談に関する文献を読むこと（90分）	授業の内容をノートにまとめて復習すること。（90分）
2	教育相談の組織と運営～校内体制および他機関等との連携	教育相談に関する文献を読むこと（90分）	授業の内容をノートにまとめて復習すること。（90分）
3	児童生徒理解と教育相談（1）相談の対象と問題発見・心理テストの活用	教育相談に関する文献を読むこと（90分）	授業の内容をノートにまとめて復習すること。（90分）
4	児童生徒理解と教育相談（2）問題行動のメカニズム	教育相談に関する文献を読むこと（90分）	授業の内容をノートにまとめて復習すること。（90分）
5	不登校、いじめへの対応	教育相談に関する文献を読むこと（90分）	授業の内容をノートにまとめて復習すること。（90分）
6	カウンセリングの理論と技法（カウンセリングの実習体験も含む）（1）	教育相談に関する文献を読むこと（90分）	授業の内容をノートにまとめて復習すること。（90分）
7	カウンセリングの理論と技法（カウンセリングの実習体験も含む）（2）	教育相談に関する文献を読むこと（90分）	授業の内容をノートにまとめて復習すること。（90分）
8	学級担任の行う教育相談（1）教育相談を活かす学級経営	教育相談に関する文献を読むこと（90分）	授業の内容をノートにまとめて復習すること。（90分）
9	学級担任の行う教育相談（2）学級内の問題生徒の指導	教育相談に関する文献を読むこと（90分）	授業の内容をノートにまとめて復習すること。（90分）
10	学習指導と教育相談	教育相談に関する文献を読むこと（90分）	授業の内容をノートにまとめて復習すること。（90分）
11	生徒指導と教育相談	教育相談に関する文献を読むこと（90分）	授業の内容をノートにまとめて復習すること。（90分）
12	教育相談の実際；事例検討（1）	教育相談に関する文献を読むこと（90分）	授業の内容をノートにまとめて復習すること。（90分）
13	教育相談の実際；事例検討（2）	教育相談に関する文献を読むこと（90分）	授業の内容をノートにまとめて復習すること。（90分）
14	教育相談の実際；事例検討（3）	教育相談に関する文献を読むこと（90分）	授業の内容をノートにまとめて復習すること。（90分）
15	学校カウンセリング：学校カウンセラーと教育相談	教育相談に関する文献を読むこと（90分）	授業の内容をノートにまとめて復習すること。（90分）
16	レポートについて、最終回において解説しフィードバックする。	レポート作成の準備をすること（90分）	レポートの作成（90分）

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			